

# 針田遺跡・東坪之内遺跡 田中浦遺跡

2001

財團法人 岐阜県文化財保護センター

はり　た  
針田遺跡・東坪之内遺跡  
た　なか　うら  
田中浦遺跡

2001

財團法人 岐阜県文化財保護センター



1. 針田遺跡A区全景



2. 針田遺跡B区全景



3. SB42遺物出土状況



4. SB48カマド



5. SB48遺物出土状況



1. SB42出土遺物



2. SB48出土遺物

## 序

木曽川と飛騨川が合流する地に開けた美濃加茂市は、古くから木曽川水運の港町として、また中山道など主要街道の宿場町として栄えてきました。現代も、岐阜・名古屋・東濃を結ぶ要として、鉄道や国道などの幹線交通路が集まる要衝で、この度の東海環状自動車道の建設により、さらにその役割は重要なものになると考えられます。

今回の針田遺跡・東坪之内遺跡・田中浦遺跡の発掘調査も、この東海環状自動車道（関～美濃加茂）の建設に伴うものです。遺跡の所在する美濃加茂市下米田地区は、木曽川と飛騨川に挟まれ、豊かな自然にめぐまれた場所で、縄文時代から現代にいたるまで人々の生活が連続と営まれ、多くの遺跡となって残されています。

今回の調査では、針田遺跡からは古墳時代の住居跡2軒、古代の住居跡48軒を初め、数多くの遺構がみつかりました。縄文時代から近世におよぶ遺物の中で、特に古墳時代の土師器の「特殊器台」は、県内でも類例の少ない貴重な遺物であり、住居跡を中心に数多く出土した製塩土器は、海をもたない岐阜県と他の地域との交流を示す資料として注目されます。また、東坪之内遺跡・田中浦遺跡からも、先人の生活を物語る遺物が確認され、今後、周辺の遺跡との関わりが解明されることが期待されます。

本報告書が埋蔵文化財に対する認識を深めるとともに、当地の歴史研究の一助となれば幸いです。

最後になりましたが、発掘調査から報告書刊行に至るまで、多大な御指導と御協力をいただいた関係諸機関、並びに関係者各位に深く感謝申し上げます。

平成13年12月

財団法人 岐阜県文化財保護センター  
理事長 服 部 卓 郎

## 例　　言

- 1 本書は、岐阜県美濃加茂市下米田西脇地内に所在する針田遺跡(岐阜県遺跡番号21211-08785)、東坪之内遺跡(岐阜県遺跡番号21211-08816)、田中浦遺跡(岐阜県遺跡番号21211-08817)の発掘調査報告書である。
- 2 本調査は、東海環状自動車道(関～美濃加茂)建設工事に伴う本発掘調査で、建設省中部地方建設局(現国土交通省中部地方整備局)から岐阜県が委託を受けた。発掘調査は財團法人岐阜県文化財保護センターが実施した。
- 3 針田遺跡の発掘調査は、宇野隆夫国際日本文化研究センター教授の指導のもと、平成10年度発掘調査を堀英男、小塩康真、長谷川幸志、平成11年度整理作業を小塩康真、平成12年度整理作業を堀正人が担当した。
- 4 東坪之内遺跡、田中浦遺跡の発掘調査は、宇野隆夫国際日本文化研究センター教授の指導のもと、平成10年度発掘調査を堀英男、平成11年度整理作業を小塩康真、平成12年度整理作業を堀正人が担当した。
- 5 本書の執筆は、以下のように行った。また編集は堀正人が行った。

第1・2章	小塩康真
第3～6章・第8章	堀正人
- 6 遺物の写真撮影は、アートフォト右文に委託して行った。
- 7 地形測量及び航空測量は、国際航業株式会社に委託して行った。
- 8 自然科学分析は株式会社パレオ・ラボに委託して行った。その結果は第7章に掲載した。
- 9 発掘調査及び報告書の作成にあたって次の方々や諸機関から御指導・御協力をいただいた。記して感謝の意を表す次第である。(敬称略・五十音順)  
池谷勝典、角張淳一、可見光生、鈴木正貴、長屋幸二、藤村俊、国府町教育委員会、美濃加茂市教育委員会
- 10 本文中の方位は、国土座標第VII系の座標北を示している。
- 11 土及び土器類の色調は、小山正忠・竹原秀雄 1996『新版 標準土色帖』(日本色研事業株式会社)に掲った。
- 12 遺構・出土遺物の実測図の縮尺は、図中にスケールで示したが、原則として土器は1/3、1/4のいずれか、石器は2/3、1/3、1/6のいずれかで作成した。
- 13 本文中で用いた遺構の略号は以下の通りである。

柱列………	S A	竪穴住居跡………	S B	溝状遺構………	S D
土坑………	S K	柱穴・小穴………	Pit	自然流路………	N R
性格不明の遺構…	S X				
- 14 遺構番号は、原則として発掘調査時の番号を用いている。
- 15 調査記録及び出土品は、財團法人岐阜県文化財保護センターで保管している。

## 目 次

### 序

#### 例言

第1章 調査の経過.....	1
第1節 調査に至る経緯.....	1
第2節 調査の経過と方法.....	2
第2章 遺跡の環境.....	5
第1節 地理的環境.....	5
第2節 歴史的環境.....	6
第3章 基本層序.....	8
第4章 針田遺跡の調査.....	9
第1節 遺構概要.....	9
第2節 遺物概要.....	9
第3節 壁穴住居跡と出土遺物.....	15
第4節 その他の遺構と出土遺物.....	106
第5節 包含層出土遺物.....	142
第5章 東坪之内遺跡の調査.....	161
第1節 遺構概要.....	161
第2節 遺物概要.....	161
第3節 遺構と遺構出土遺物.....	161
第4節 包含層出土遺物.....	169
第6章 田中浦遺跡の調査.....	171
第1節 遺構概要.....	171
第2節 遺物概要.....	171
第3節 遺構と遺構出土遺物および包含層出土遺物.....	171
第7章 自然科学的分析.....	177
第1節 製塙土器・S字口縁台付甕の胎土材料.....	177
第2節 放射性炭素年代測定.....	191
第8章 考察・まとめ.....	193
註.....	210
引用・参考文献.....	211

## 挿図目次

第1図 針田遺跡・東坪之内道路・ 田中浦遺跡位置図 ······	1	第45図 S B33実測図及び出土遺物 ······	67
第2図 針田遺跡・東坪之内道路・田中浦遺跡 グリッド設定図 ······	3	第46図 S B34実測図 ······	69
第3図 周辺の遺跡分布図 ······	7	第47図 S B34出土遺物 ······	70
第4図 針田遺跡・東坪之内道路・ 田中浦道路基本層序 ······	8	第48図 S B35実測図 ······	72
第5図 針田道路A区構造分布図 ······	11・12	第49図 S B35出土遺物 ······	73
第6図 針田遺跡B区構造分布図 ······	13	第50図 S B36実測図及び出土遺物 ······	74
第7図 針田道路堅穴住居分布図 ······	14	第51図 S B38実測図及び出土遺物 ······	76
第8図 針田道路S A分布図 ······	14	第52図 S B39・S B51実測図 ······	78
第9図 S B 1 実測図及び出土遺物 ······	15	第53図 S B39出土遺物 ······	79
第10図 S B 2 実測図及び出土遺物 ······	16	第54図 S B51出土遺物 ······	80
第11図 S B 3・S B 5 実測図 ······	18	第55図 S B40実測図 ······	82
第12図 S B 3・S B 5 出土遺物 ······	19	第56図 S B40出土遺物 ······	83
第13図 S B 4 実測図及び出土遺物 ······	20	第57図 S B41実測図及び出土遺物 ······	84
第14図 S B 6 実測図及び出土遺物 ······	21	第58図 S B42実測図 ······	86
第15図 S B 7 実測図及び出土遺物 ······	22	第59図 S B42出土遺物 (1) ······	87
第16図 S B 8 実測図及び出土遺物 ······	24	第60図 S B42出土遺物 (2) ······	88
第17図 S B 9 実測図 ······	26	第61図 S B43実測図及び出土遺物 ······	90
第18図 S B 9 出土遺物 ······	27	第62図 S B44実測図及び出土遺物 ······	92
第19図 S B 10 実測図及び出土遺物 ······	28	第63図 S B45実測図 ······	94
第20図 S B 11 実測図及び出土遺物 ······	30	第64図 S B45出土遺物 ······	95
第21図 S B 12 実測図及び出土遺物 ······	31	第65図 S B46・S B52実測図 ······	97
第22図 S B 13 実測図及び出土遺物 ······	32	第66図 S B46実測図 ······	98
第23図 S B 14 実測図及び出土遺物 ······	34	第67図 S B48実測図 ······	100
第24図 S B 15・S B 16 実測図及びS B 16 出土遺物 ······	36	第68図 S B48出土遺物 (1) ······	102
第25図 S B 15 出土遺物 ······	37	第69図 S B48出土遺物 (2) ······	103
第26図 S B 17 実測図及び出土遺物 ······	38	第70図 S B49実測図及び出土遺物 ······	104
第27図 S B 18 実測図及び出土遺物 ······	40	第71図 S B50実測図及び出土遺物 ······	105
第28図 S B 19 実測図及び出土遺物 ······	41	第72図 堅穴状構築1 実測図及び出土遺物 ······	106
第29図 S B 20 実測図及び出土遺物 ······	42	第73図 針田道路グリッド別山頭破片数 ······	107
第30図 S B 21 実測図及び出土遺物 ······	43	第74図 S A 1・2 実測図 ······	108
第31図 S B 22 実測図及び出土遺物 (1) ······	45	第75図 S A 3・4 実測図 ······	109
第32図 S B 22 出土遺物 (2) ······	46	第76図 S A 5・6 実測図 ······	110
第33図 S B 23 実測図及び出土遺物 ······	47	第77図 S A 7・8 実測図 ······	111
第34図 S B 24 実測図及び出土遺物 ······	49	第78図 S A 9・10・11 実測図 ······	112
第35図 S B 25 実測図及び出土遺物 ······	50	第79図 S A 12・13 実測図 ······	113
第36図 S B 26・S B 27 実測図及び出土遺物 ······	52	第80図 S A 14・15・16 実測図 ······	114
第37図 S B 28 実測図 ······	55	第81図 S A 17・18・19・20 実測図 ······	115
第38図 S B 28 出土遺物 ······	56	第82図 S A 21・22・23・24 実測図 ······	116
第39図 S B 29 実測図 ······	58	第83図 S A 25・26・27 実測図 ······	117
第40図 S B 29 出土遺物 ······	59	第84図 S A 28・29・30・31 実測図 ······	118
第41図 S B 30 実測図及び出土遺物 ······	61	第85図 S A 32・33・34・35 実測図 ······	119
第42図 S B 31 実測図及び出土遺物 ······	63	第86図 針田道路S D 出土土器(破片数)統計グラフ ······	120
第43図 S B 32 実測図 ······	65	第87図 針田道路A・B区S D断面図 ······	122
第44図 S B 32 出土遺物 ······	66	第88図 針田道路A区S D 出土遺物 (1) ······	124
		第89図 針田道路A区S D 出土遺物 (2) ······	125
		第90図 針田道路B区S D 出土遺物 ······	126
		第91図 針田道路A区S K 実測図 (1) ······	128

第92図	針田遺跡A区SK実測図(2) .....	129
第93図	針田遺跡A区SK実測図(3) .....	130
第94図	針田遺跡B区SK実測図 .....	131
第95図	針田遺跡A区Pit実測図(1) .....	132
第96図	針田遺跡A区Pit実測図(2) .....	133
第97図	針田遺跡A区Pit実測図(3) .....	134
第98図	針田遺跡B区Pit実測図 .....	135
第99図	針田遺跡A区SK出土遺物 .....	137
第100図	針田遺跡A・B区SK・A区Pit出土遺物 .....	138
第101図	針田遺跡A・B区Pit出土遺物 .....	139
第102図	針田遺跡A・B区SX出土遺物 .....	141
第103図	今遺跡出土製塙土器・蓋実測図 .....	143
第104図	針田遺跡出土繩文土器拓影 .....	149
第105図	針田遺跡包含層出土遺物(1) .....	150
第106図	針田遺跡包含層出土遺物(2) .....	151
第107図	針田遺跡包含層出土遺物(3) .....	152
第108図	針田遺跡包含層出土遺物(4) .....	153
第109図	針田遺跡包含層出土遺物(5) .....	154
第110図	針田遺跡包含層出土遺物(6) .....	155
第111図	針田遺跡包含層出土遺物(7) .....	156
第112図	針田遺跡包含層出土遺物(8) .....	157
第113図	針田遺跡包含層出土遺物(9) .....	158
第114図	針田遺跡・東坪之内遺跡・田中浦遺跡 出土石器実測図(1) .....	159
第115図	針田遺跡・東坪之内遺跡・田中浦遺跡 出土石器実測図(2) .....	160
第116図	東坪之内遺跡A区遺構分布図 .....	162
第117図	東坪之内遺跡B区遺構分布図 .....	163・164
第118図	東坪之内遺跡C区遺構分布図 .....	165・166
第119図	東坪之内遺跡SK・NR1実測図 .....	167
第120図	東坪之内遺跡出土遺物 .....	170
第121図	田中浦遺跡A区遺構分布図 .....	172
第122図	田中浦遺跡B区遺構分布図 .....	173
第123図	田中浦遺跡SK・Pit・SD3実測図 .....	175
第124図	田中浦遺跡SA1実測図 .....	176
第125図	田中浦遺跡出土遺物 .....	176
第126図	製塙土器・S字状口縁台付壺胎土中の粒子組成図 (全分類群を基底とした百分率で表示) .....	188
第127図	伊勢一三河消居辺の地層分布図 .....	190
第128図	針田遺跡堅穴住居統計図表 .....	194
第129図	針田遺跡堅穴住居軸方位 .....	195
第130図	打製石斧統計図表 .....	197
第131図	他遺跡出土のC類に類似する石器の実測図 .....	198
第132図	「特殊器台」に関する分類 .....	199
第133図	東海地方出土「特殊器台」実測図(1) .....	202
第134図	東海地方出土「特殊器台」実測図(2) .....	203
第135図	「特殊器台」出土遺跡分布図 .....	203
第136図	製塙土器統計図表 .....	208

## 表目次

第1表	製塙土器・比較製塙土器・S字状口縁台付壺 の特徴 .....	186
第2表	製塙土器・S字状口縁台付壺胎土中の 計数粒子 .....	187
第3表	土器胎土中の砂粒分類 .....	189
第4表	製塙土器・S字状口縁台付壺 胎土および砂粒の特徴 .....	189
第5表	胎土材料の粘土と岩石組合せの関係 .....	189
第6表	放射性炭素年代測定結果 .....	192
第7表	「特殊器台」出土地名表 .....	201
第8表	製塙土器出土地名表 .....	206
第9表	針田遺跡SA一覧表(1) .....	213
第10表	針田遺跡SA一覧表(2) .....	214
第11表	針田遺跡SA一覧表(3) .....	215
第12表	針田遺跡SA一覧表(4) .....	216
第13表	針田遺跡SA一覧表(5) .....	217
第14表	針田遺跡SA一覧表(6) .....	218
第15表	針田遺跡SA一覧表(7) .....	219
第16表	針田遺跡SA一覧表(8) .....	220
第17表	針田遺跡A区SD1一覧表 .....	220
第18表	針田遺跡B区SD1一覧表 .....	220
第19表	針田遺跡A区SK一覧表(1) .....	221
第20表	針田遺跡A区SK一覧表(2) .....	222
第21表	針田遺跡A区SK一覧表(3) .....	223
第22表	針田遺跡B区SK一覧表(1) .....	223
第23表	針田遺跡A区Pit一覧表(1) .....	224
第24表	針田遺跡A区Pit一覧表(2) .....	225
第25表	針田遺跡A区Pit一覧表(3) .....	226
第26表	針田遺跡A区Pit一覧表(4) .....	227
第27表	針田遺跡A区Pit一覧表(5) .....	228
第28表	針田遺跡A区Pit一覧表(6) .....	229
第29表	針田遺跡A区Pit一覧表(7) .....	230
第30表	針田遺跡A区Pit一覧表(8) .....	231
第31表	針田遺跡A区Pit一覧表(9) .....	232
第32表	針田遺跡A区Pit一覧表(10) .....	233
第33表	針田遺跡A区Pit一覧表(11) .....	234
第34表	針田遺跡A区Pit一覧表(12) .....	235
第35表	針田遺跡A区Pit一覧表(13) .....	236
第36表	針田遺跡A区Pit一覧表(14) .....	237
第37表	針田遺跡A区Pit一覧表(15) .....	238
第38表	針田遺跡A区Pit一覧表(16) .....	239
第39表	針田遺跡A区Pit一覧表(17) .....	240

第40表	針田遺跡A区Pit一覧表(18) ······	241	第67表	針田遺跡遺物觀察表(15) ······	264
第41表	針田遺跡B区Pit一覧表(1) ······	241	第68表	針田遺跡遺物觀察表(16) ······	265
第42表	針田遺跡B区Pit一覧表(2) ······	242	第69表	針田遺跡遺物觀察表(17) ······	266
第43表	針田遺跡B区Pit一覧表(3) ······	243	第70表	針田遺跡遺物觀察表(18) ······	267
第44表	針田遺跡B区Pit一覧表(4) ······	244	第71表	針田遺跡遺物觀察表(19) ······	268
第45表	針田遺跡B区Pit一覧表(5) ······	245	第72表	針田遺跡遺物觀察表(20) ······	269
第46表	針田遺跡B区Pit一覧表(6) ······	246	第73表	針田遺跡遺物觀察表(21) ······	270
第47表	東坪之内遺跡SD一覧表 ······	247	第74表	針田遺跡遺物觀察表(22) ······	271
第48表	東坪之内遺跡SK一覧表 ······	247	第75表	針田遺跡遺物觀察表(23) ······	272
第49表	東坪之内遺跡Pit一覧表 ······	248	第76表	針田遺跡遺物觀察表(24) ······	273
第50表	田中浦遺跡SD一覧表 ······	249	第77表	針田遺跡遺物觀察表(25) ······	274
第51表	田中浦遺跡SK一覧表 ······	249	第78表	針田遺跡遺物觀察表(26) ······	275
第52表	田中浦遺跡Pit一覧表 ······	249	第79表	針田遺跡遺物觀察表(27) ······	276
第53表	針田遺跡遺物觀察表(1) ······	250	第80表	針田遺跡遺物觀察表(28) ······	277
第54表	針田遺跡遺物觀察表(2) ······	251	第81表	針田遺跡遺物觀察表(29) ······	278
第55表	針田遺跡遺物觀察表(3) ······	252	第82表	針田遺跡遺物觀察表(30) ······	279
第56表	針田遺跡遺物觀察表(4) ······	253	第83表	針田遺跡遺物觀察表(31) ······	280
第57表	針田遺跡遺物觀察表(5) ······	254	第84表	針田遺跡遺物觀察表(32) ······	281
第58表	針田遺跡遺物觀察表(6) ······	255	第85表	針田遺跡遺物觀察表(33) ······	282
第59表	針田遺跡遺物觀察表(7) ······	256	第86表	針田遺跡遺物觀察表(34) ······	283
第60表	針田遺跡遺物觀察表(8) ······	257	第87表	針田遺跡遺物觀察表(35) ······	284
第61表	針田遺跡遺物觀察表(9) ······	258	第88表	針田遺跡・東坪之内遺跡・田中浦遺跡 石器觀察表 ······	284
第62表	針田遺跡遺物觀察表(10) ······	259	第89表	東坪之内遺跡遺物觀察表(1) ······	285
第63表	針田遺跡遺物觀察表(11) ······	260	第90表	東坪之内遺跡遺物觀察表(2) ······	286
第64表	針田遺跡遺物觀察表(12) ······	261	第91表	田中浦遺跡遺物觀察表(1) ······	287
第65表	針田遺跡遺物觀察表(13) ······	262	第92表	田中浦遺跡遺物觀察表(2) ······	288
第66表	針田遺跡遺物觀察表(14) ······	263			

## 写真図版

### 卷頭図版(1)

### 卷頭図版(2)

図版1	針田遺跡遺構図版(1)
図版2	針田遺跡遺構図版(2)
図版3	針田遺跡遺構図版(3)
図版4	針田遺跡遺構図版(4)
図版5	針田遺跡遺構図版(5)
図版6	東坪之内遺跡・田中浦遺跡遺構図版
図版7	針田遺跡出土遺物(1)
図版8	針田遺跡出土遺物(2)
図版9	針田遺跡出土遺物(3)
図版10	針田遺跡出土遺物(4)
図版11	針田遺跡出土遺物(5)

図版12	針田遺跡出土遺物(6)
図版13	針田遺跡出土遺物(7)
図版14	針田遺跡出土遺物(8)
図版15	針田遺跡出土遺物(9)
図版16	針田遺跡出土遺物(10)
図版17	針田遺跡出土遺物(11)
図版18	針田遺跡出土遺物(12)
図版19	針田遺跡出土遺物(13)・田中浦遺跡出土遺物
図版20	東坪之内遺跡出土遺物
図版21	針田遺跡・東坪之内遺跡・田中浦遺跡出土石器
図版22	自然科學分析図版

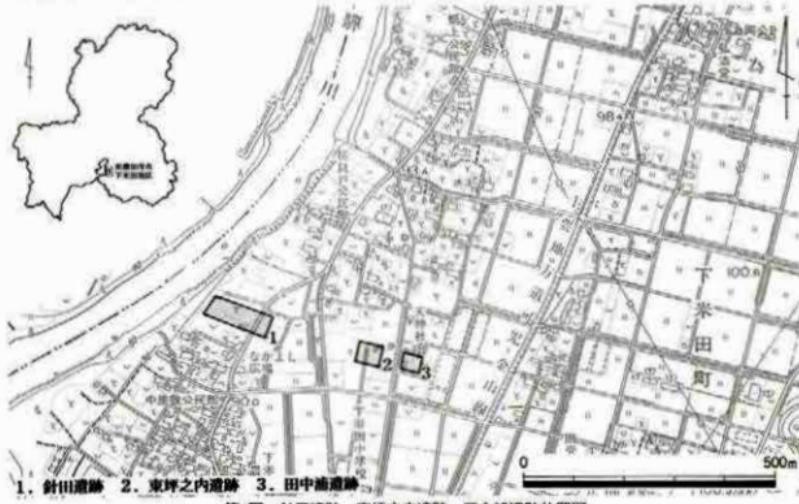
## 第1章 調査の経緯

### 第1節 調査に至る経緯

東海環状自動車道は、名古屋の都市機能及び周辺都市の機能分担を効果的に進めるとともに、都市部の交通混雑を解消し、都市全域の道路機能の回復を期すため計画された路線である。本調査は建設工事に伴い、建設省中部地方建設局（現国土交通省中部地方整備局）から岐阜県が委託を受け、財団法人岐阜県文化財保護センターが実施したものである。これまでに実施した本発掘調査には、1992年度（平成4）に諸洞遺跡（美濃加茂市蜂屋地内）、1996年度（同8）に西原敷遺跡（関市池尻地内）、1997年度（同9）に額戸南遺跡（可児郡御嵩町額戸地内）、1998年度（同10）に大坪遺跡（美濃加茂市蜂屋地内）、佐口遺跡（同市山ノ上地内）、針田遺跡（同市下米田地内）、東坪内之遺跡（同）、田中浦遺跡（同）の発掘調査が挙げられる。

針田遺跡は、1997年（平成9）1月13日から同年3月18日までの、800m<sup>2</sup>の試掘確認調査を経て、1998年（平成10）に本発掘調査を実施した。試掘確認調査ではまとまった遺物量とその残存状況から、集落跡などに関わる遺構が存在すると考えられたため、市道深渡・追上線（08-1-005）の両側、合計4,200m<sup>2</sup>を本発掘調査の範囲とした。本発掘調査は、1998年（平成10）5月から1999年（同11）3月まで実施した。

同じく東海環状自動車道の建設予定地である針田遺跡の東側に位置する東坪之内遺跡、田中浦遺跡においても、同地内にて1997年（平成9）7月22日から同年10月31日までの、600m<sup>2</sup>の試掘確認調査を経て、1998年（平成10）10月から本発掘調査を実施した。



第1図 針田遺跡・東坪之内遺跡・田中浦遺跡位置図

## 第2節 調査の経過と方法

### 針田遺跡

調査区は自動車道建設に関わる用地であることから、北西方向から南東方向に長く、南北は50mと短い。市道深渡・追上線（08-1-005）が調査区を分断しているため、道路の西側をA区、東側をB区と呼称し、調査を実施した。

調査区内は水捌けが良好であることや湧水の問題が生じないため、直接調査に支障をきたさないと判断し、試掘トレーナーをそのまま排水溝として利用した。また、集落路であることから5mグリッドを設定した。グリッドは南北方向に北からA～Sとアルファベットの大文字を、東西方向に1～24とアラビア数字をそれぞれに付した。区分の基準は国土座標X=-59,360、Y=-95,800をもとにした。

調査は1998年（平成10）5月18日より開始し、1999年（同11）3月28日をもって終了した。バックホウによる50～70cmの表土除去後、5月25日から人力による精査をA区にて開始した。翌年1月11日からB区の精査を開始し、3月5日にはB区の空中写真撮影、同17日にはA区の空中写真撮影を終了した。3月5日には後片付けを終え、3月28日には現場事務所を撤去し、併せて調査区の埋め戻しも完了した。

遺物取り上げは表土除去後、Ⅱ層上・中面からの場合、グリッド毎に一括して取り上げ、それより下層の遺物については遺構確定後、トータル・ステーションにより1点ずつ取り上げた。遺物総点数は約15,000点を数え、時代は縄文時代から近世までと広範囲に及んでいる。

遺構検出に際しては、上面からの削平や時代を跨がって複合したことによって、時代の確定には苦慮した。また遺構の切り合いが著しいため、遺構の確定には困難を極めた。

なお、最終的な調査面積は4,200m<sup>2</sup>である。発掘調査体制は以下に示す。

調査部長 山元敏治（10・11年度）、高橋幸仁（12年度）

調査部次長 高橋幸仁（10・11年度）、武藤貞昭（12年度）

担当調査課長 片桐隆彦（10年度）、飯沼暢康（11・12年度）

担当調査員 堀英男（10年度）、小塙康真（10・11年度）、長谷川幸志（10年度）、

堀正人（12年度）

発掘作業従事者 田中志穂（補助調査員）

飯田美代子	岡本剛	小川鶴	小川みどり	尾間悦子	加木屋澄子
-------	-----	-----	-------	------	-------

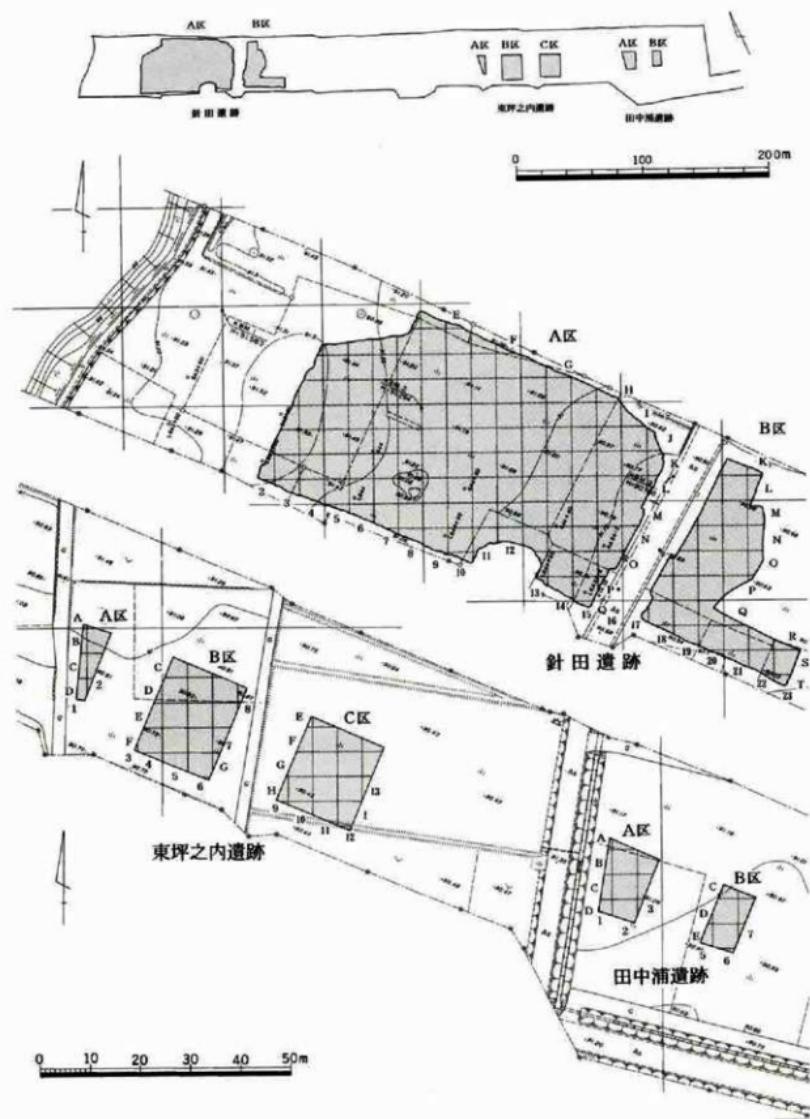
春見幸枝	加藤恵子	川合津加惠	川合伸子	川上さだ子	木下昭平
------	------	-------	------	-------	------

黒田由紀子	五木田かち子	酒向清美	佐合久孝	佐藤千寿子	佐野慈
-------	--------	------	------	-------	-----

坂本和恵	長谷川照美	日江井敬子	安田ヒサ子	渡辺秋子	
------	-------	-------	-------	------	--

整理作業従事者 加藤久枝	加納加代子	川崎文子	坂本美保子	林浩美	三輪典子
--------------	-------	------	-------	-----	------

宗方亜由美	山下恭子	山田弘子			
-------	------	------	--	--	--



第2図 針田遺跡・東坪之内遺跡・田中浦遺跡グリッド設定図

### 東坪之内遺跡・田中浦遺跡

調査区は自動車道建設に関わる用地内の南側橋脚部のみであることから、各遺跡西方からアルファベットを付し、東坪之内遺跡A区、B区、C区、田中浦遺跡A区、B区と呼称し調査を実施した。

調査区内は水捌けが悪く湧水が生じ調査に影響をきたすものと考えられたので、一部の調査区においては周囲に溝を巡らした。グリッドの設定は針田遺跡と同様5mグリッドを設定した。東坪之内遺跡のグリッドは南北方向にA～Jとアルファベットの大文字を付し、東西方向には1～13とアラビア数字を付した。田中浦遺跡も同様に南北方向へA～F、東西方向に1～7とした。区分の基準は東坪之内遺跡は国土座標のX = -59.490、Y = -93.200を、田中浦遺跡は国土座標のX = -59.540、Y = -92.100をもとにした。

調査は1998年（平成10）10月28日より開始し、翌1999年（同11）2月1日をもって調査を終了した。バックホウによる70～100cmの表土除去後、精査を開始した。1998年（平成10）12月22日には田中浦遺跡の空中写真撮影を実施し、1999年（平成11）1月26日東坪之内遺跡の空中写真撮影を終了し、すべての調査を完了した。2月10日には後片付けを終え、3月28日には現場事務所を撤去し、併せて調査区の埋め戻しも完了した。

遺物取り上げは表土除去後、Ⅱ層上・中面からの場合、グリッド一括で取り上げ、遺構から出土した遺物は細片のため、遺構内で一括して取り上げた。遺物総数は東坪之内遺跡約500点、田中浦遺跡約300点を数える。時代は縄文から近世まで広範囲に及ぶが、遺構の時代が確定できる資料には恵まれなかった。遺構検出に際しては、上面からの搅乱によって時代の確定には苦慮した。

最終的な調査面積は試掘確認調査に基づき、自動車道南側橋脚部のみが調査対象区である東坪之内遺跡が810m<sup>2</sup>、田中浦遺跡190m<sup>2</sup>、合計1,000m<sup>2</sup>である。調査体制は以下に示す。

調査部長 山元敏治（10～11年度）、高橋幸仁（12年度）

調査部次長 高橋幸仁（10～11年度）、武藤貞昭（12年度）

担当調査課長 片桐隆彦（10年度）、飯沼暢康（11・12年度）

担当調査員 堀英男（10年度）、小庭康真（10・11年度）、堀正人（12年度）

発掘作業従事者 田中志他（補助調査員）

飯田美代子	岡本剛	小川鈴	尾間悦子	加木屋澄子	春見幸枝
-------	-----	-----	------	-------	------

加藤敬子	川合津加惠	木下昭平	薗田由紀子	坂本和恵	日江井敬子
------	-------	------	-------	------	-------

安田ヒサ子

整理作業従事者 加藤久枝	加納加代子	川崎文子	坂本美保子	林浩美	三輪典子
--------------	-------	------	-------	-----	------

宗方亜由美	山下恭子	山田弘子
-------	------	------

## 第2章 遺跡の環境

### 第1節 地理的環境

針田、東坪之内、田中浦の三遺跡は美濃加茂市下米田町西脇字針田、字東坪之内、字田中浦（位置関係は東海環状自動車道建設予定地内西側から東側へ順に並列する）にあり、同市北東部に位置する。下米田町の北は加茂郡川辺町、南は木曾川を隔てて可児市に接し、西は飛騨川を隔てて同市山手、東は可児郡八百津町を境とする。飛騨川は川辺町より南流し同地区西側を通り、同市牧野、小山で木曾川に合流し、西流する。東側には県道為岡・可児線が南北に走り、北は川辺町へ、南は川合大橋を経て可児市へ至る。1997年（平成8）には新たに青柳大橋が敷設され、国道41号線を横切り美濃加茂市山手町に通じる。

現在の下米田町（西脇、為岡、小山、則光、山本、東橋井）における世帯数は、2001年（平成13）3月1日現在、1,746世帯、人口5,712人である。なお、西脇地区の寺社には、臨済宗妙心寺派光徳寺、白山神社、神明神社、熊野神社、事比羅神社、秋葉神社が存在する。現在の同地区における土地利用状況は、大部分を水田が占めており、わずかな畠地を数える。1950年（昭和25）には飛騨川から揚水し、同地域を灌漑する米田用水の建設と圃場整備事業（下米田、為岡地区では一部を除き、ほぼ全域で1971～74年（昭和46～49）まで圃場整備が実施）が行われる。両者によって水の供給は確保され、為岡、山本、西脇東端も水田化され、現在の景観にいたる。

針田遺跡は、第四紀更新世以降の飛騨川の堆積、浸食活動によって形成された河岸段丘群の低位段丘上（A区の標高：西側91.20～91.58m、中央部91.20～91.43m、東側90.77～90.97m・B区90.53～90.76m）にあたり、最下層の礫層上には飛騨川からの堆積層（水磨された円礫：径25～50cm）が確認できる。この層の上には黒はくで腐食層を多く有した黒色の粘質土が堆積しており、水捌けが良いことから水田には適さず畠地等の農作物の栽培に適した土壤と言える。従って、古代から現代に至るまで水田耕作はわずかで畠地及び集落地は相当数占めていたものと考えられる。天保年間（1830～44）の絵図からもその土地利用状況がうかがわれる。また、本遺跡が位置する字針田における旧道（市道深渡・追上線08-1-005）の西側では圃場整備が行われておらず、明治期から現在にいたるまでは桑畠として利用されていた。現在はハウス栽培が盛んである中、一部桑畠等を見ることができる。

付近には、飛騨川によって形成された河岸段丘上に、為岡・則光・深戸・今遺跡などが存在し、美濃加茂市の中でも屈指の遺跡集中地域である。道路建設予定地範囲のすぐ北には、この近辺の中心的存在である西脇稲荷塚古墳が、墳丘を多く削り取られた状態で見ることができる。また、周辺には、滅失した古墳も数基存在していたことが知られており、調査区内外で須恵器をはじめ山茶碗等の遺物が表土から採集されるのも頗ける。

東坪之内遺跡（標高90.77～90.91m）、田中浦遺跡（標高90.95～91.09m）が位置する字東坪之内、字田中浦は、圃場整備後、水田化され現在に至っている。明治初年の字絵図でも、土地利用は水田が大半を占めている。

## 第2節 歴史的環境

本遺跡が位置する美濃加茂市下米田町は、飛騨川・木曾川によって形成された河岸段丘上にあり、牧野地区も含めた一帯は、何時の時代も、様々な文化を共有する「まとまり」として、ある種の文化圏を形成してきたものと考えられる。このような視点に立てば、美濃加茂市全域及び可見市、八百津町等、周辺地域の歴史文化圏との関わりをも含めて考察する必要があるが、本稿では、下米田町西脇地区周辺における問題点を中心に触れておくこととする。本遺跡との関わり上、中世までを述べる。

縄文時代においては、5ヶ所の遺跡が知られている。時代の相違、変遷、文化の伝播の過程などを考慮する必要があるが、いずれの遺跡も木曾川・飛騨川の河岸段丘上の、ほぼ同レベルの段丘面にその存在が確認されており、一つの、あるいは複数の集落群から文化圏が構成されていたものと考えられる。

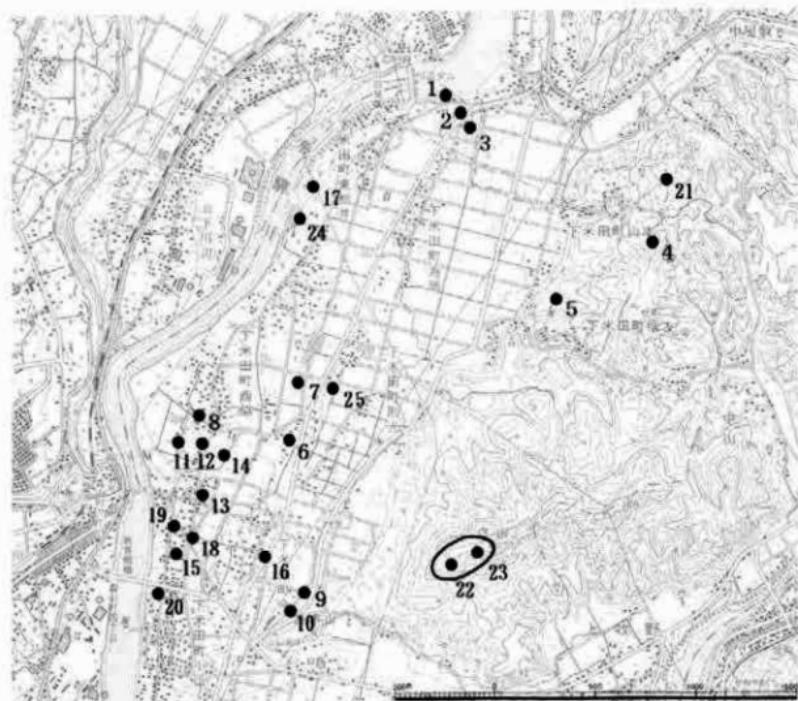
弥生時代においては、代表的な遺跡として今遺跡・為岡遺跡が知られる。土地の生産性を考えると、これらの遺跡がこの地区の中心であったものと推測される。地理的環境からみても、山本・今・信友地区には溜池が数ヶ所存在し（当時造成されていたかは不明）、水田經營を行う上で、この地域の重要性が注目される。従って、この遺跡を中心とした文化圏が形成されていたものと想定できよう。

古墳時代においては、滅失したものも含めて数基の古墳の存在が知られる。その中で田中浦遺跡の北側に存在する西脇稻荷塚古墳は、同地区における中核的存在であると考えられており、この地区を基盤とした豪族の存在が推測される。中央との関わりを今後検討していく必要がある。

奈良時代においては文献史料から同地区の歴史をほとんど知り得ないが、『和名抄』によると、加茂郡には「美和、生部、井門、小山、日理、志摩、米田」の各郷名が記載されている。記載順等の矛盾から疑義も生じているが、おおよそ米田郷、小山郷を下米田、牧野小山に比定されている。また、天平宝字2年（750）4月の美濃国司解に、加茂郡小山郷の益羽らの奴婢を東大寺に差し出した記事が見られることに注目したい。すなわち、奈良朝の小山地区における集落群の存在と、中央との関わりを断片的にうかがうことができるからである。それと同時に大宝2年（703）の同郡半布里戸籍で知られる半布里遺跡では1,200人の人口が想定されている。この規模に及ばないとしても、それに近い集落群を米田郷に想定しても大過ないであろう。また、為岡・今地区には条里制が施行されており、式内社である中山神社が山本の諏訪神社に比定されていることから、当地域が古代において先進的な地域であり、中央との関わりも想定できる。

平安期においては、「信友」、「則光」等の地名から、名体制が想定される。承徳元年（1097）には西芳寺領「米田莊」とあり、当地域に比定されている。さらに在地における状況は明確に把握できないが、室町期にも莊名が確認できる。また、『土岐累代記』には当地域に「西脇氏」が住していることが知られる。中世寺院には修驗道場として安知寺（安養寺）の存在が寛文6年（1666）の鐘銘によって知ることができる。いずれにしても文献史料が乏しい中、今後、遺跡の分布や発掘調査の成果等から、下米田町の歴史を多角的に考察していく必要がある。

なお、同地区的遺跡の分布状況は第3図を参照されたい。また、美濃加茂市の歴史については同市教育委員会発行の報告書を併せて参照されたい。



1. 追上遺跡（散布地：弥生）  
 2. 天満宮遺跡（散布地：弥生）  
 3. 為岡遺跡（集落跡他：縄文～中世）  
 4. 伝若名御前宝院塔（古墓：中世）  
 5. 須後五輪塔（古墓：中世）  
 6. 则光遺跡（集落跡：縄文・弥生）  
 7. 稲荷塚古墳（古墳：古墳）  
 8. 中屋敷古墳（古墳：古墳）  
 9. 坂下1号墳（古墳：古墳）  
 10. 坂下2号墳（古墳：古墳）  
 11. 深渡A地点遺跡（集落跡：縄文・弥生）  
 12. 深渡B地点遺跡（集落跡：弥生）  
 13. 深渡C地点遺跡（集落跡：弥生）  
 14. 深渡D地点遺跡（集落跡：弥生）  
 15. 長福古墳（古墳：古墳）  
 16. 今遺跡（集落跡：弥生・奈良）  
 17. 光徳寺遺跡（集落跡：弥生）  
 18. 長福寺遺跡（散布地：弥生）  
 19. 長福北遺跡（古墳：古墳）  
 20. 小山般音北遺跡（散布地：弥生）  
 21. 白山山頂1号古墳（古墳：古墳）  
 22. 白山山頂2号古墳（古墳：古墳）  
 23. 光徳寺古墳（古墳：古墳）  
 24. 富田清友遺跡（集落跡他：縄文～中世）  
 25. 山本遺跡（散布地：縄文）

第3図 周辺の遺跡分布図

## 第3章 基本層序

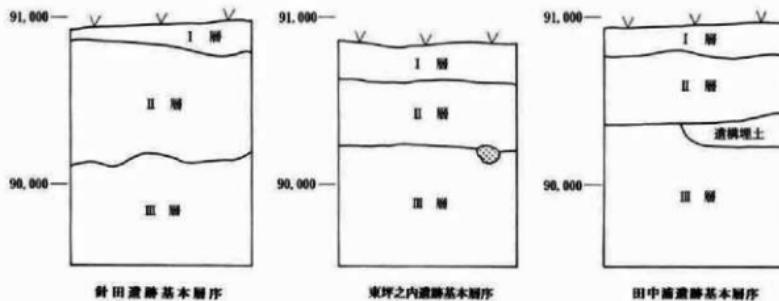
発掘調査を行なった3つの遺跡は、いずれも飛騨川が形成する河岸段丘上に位置し、洪水の影響や後世の搅乱の跡も見られるが、層序は比較的安定して堆積している。特に東坪之内遺跡・田中浦遺跡は位置的にも近く、基本層序はほぼ同様であるが、以前に圃場整備が行われており、搅乱や削平が著しかった。基本的に3層に分層し、I層を表土（耕作土）、II層を縄文時代～近世の遺物包含層、III層を地山と解釈した。なお、調査に入るまでは、針田遺跡は畑地として、東坪之内遺跡・田中浦遺跡は水田として利用されていた。以下にその状況を概述したい。

### 【針田遺跡基本層序】

- I 層 現代の畑の耕作土。調査区の全面に15～30cm程堆積する。暗褐色シルトを基調とし、所々に黒褐色粘質土が混じる。やや粘性はあるがしまりに欠ける。礫はほとんど含まれない。特に川側を中心に植物の根が入る。
- II 層 調査区の全面に20～40cm程堆積する。黒色粘質土を基調とし、所々に黒褐色粘質土が混じる。やや粘性があり、ブロック状のかたまりになっている部分もあるが、全体的にややしまりに欠け、径3～25cm程の礫を含む部分もある。縄文時代～近世までの遺物を含む。
- III 層 調査区の全面に20cm以上堆積する。黄褐色砂質土を基調とし、やや粘性を持ちよくする。遺物の出土も確認できず、地山と考えられる。

### 【東坪之内遺跡・田中浦遺跡基本層序】

- I 層 現代の水田の耕作土。調査区の全面に30～50cm程堆積する。黒褐色粘質土を基調とし、粘性がやや強く、比較的よくする。
- II 層 調査区の全面に40～50cm程堆積する。黒色粘質土を基調とし、所々に黒褐色粘質土やにぶい黄褐色粘質土が混じる。縄文～近世までの遺物を含む。
- III 層 調査区の全面に20cm以上堆積する。黄褐色砂質土を基調とし、土質なども針田遺跡のIII層に似る。遺物の出土も確認できず、地山と考えられる。



第4図 針田遺跡・東坪之内遺跡・田中浦遺跡基本層序

## 第4章 針田遺跡の調査

### 第1節 遺構概要

今回の調査で確認した遺構は、A・B区ともに1面で、検出した遺構はいずれもⅢ層上面から掘り込まれている。従って、古墳時代から近世まで、各時期の遺構が存在していると考えられるが、層位的に区別することが困難であるため、時期判定については、出土遺物や遺構の切り合い関係を考慮して行った。そのため、帰属時期の不明な遺構も多数存在する。遺構の略称については例言に記した通りであるが、遺構番号については調査時における検出順に付けているため、必ずしも時期や地区ごとに順序立てられているとは限らない。また、S A・S B以外の遺構については、A区とB区の各々に1番から遺構番号を付したため、それぞれの前に地区名を冠して区別することとする。

A区で検出した主な遺構は、古墳時代の竪穴住居1基、古代の竪穴住居39基、溝状遺構9条、古代から近世の杭(柱)列27基、土坑126基、ビット864基である。また、B区で検出した主な遺構は、古墳時代の竪穴住居1基、古代の竪穴住居9基、竪坑状遺構1基、溝状遺構3条、古代から近世の杭(柱)列8基、土坑16基、ビット227基である。竪穴住居(S B)と杭(柱)列(S A)については、その位置・関係を第7・8図に示したが、特に竪穴住居の平面形や切り合い関係については、遺構検出時にプランの識別が困難であったため、方形に近い形状であったという前提のもとに、主に完掘後の実測図及び出土遺物を考慮して判定した。また、出土遺物についても、取り上げ時に帰属する遺構の認定に多少の混乱があろうことも断っておかなければならない。杭(柱)列については、A・B区合わせて1,091基のビットを確認したが、いずれも柱痕などの柱が立っていた確証が得られなかったため、主に平面的な分布から、掘立て柱建物が立ちそなうな比較的規則的に並んでいるビット群を一括して扱った。竪穴住居内から検出した土坑やビットについても、埋土の状況が住居跡の埋土と極めて類似していたため、遺構の検出時に切り合いを把握するのが困難であったとの発掘担当者の所見を得ている。出土遺物や位置関係から明らかに後世の遺構と考えられるものについては各実測図から削除し、一覧表などに記したが、本来は後世の遺構であるものも相当数含まれていると考えられる。なお、一覧表などに記した年代観は、概ね下記の通りである。

古代：6世紀中頃～12世紀末

中世：13世紀初頭～15世紀後半

中・近世：16世紀初頭～

### 第2節 遺物概要

今回の調査で出土した遺物は、約15,000点である。その大半が細かく破碎された小片であるが、土器類は、縄文中期後半の深鉢から、古墳時代から古代の土師器、須恵器、灰釉陶器、中世の山茶碗、古瀬戸・大窯・連房式登窯などの中・近世陶器と広範な時期に及ぶ。その他に縄文時代の打製石斧や少數ではあるが弥生時代以降の石鎚や砥石などの石器類が出土している。数量的には、古代の土師器

および須恵器、山茶碗の多さが目を引くが、特に前者は堅穴住居から出土したものに残存率の良好な遺物が多い。また包含層出土として取り上げた遺物の中にも残存率の良好な遺物が散見され、本来はいずれかの住居跡に伴うものであった可能性も考えられる。また、縄文土器が約数十点出土しており、縄文時代に帰属すると考えられる石器類も約100点出土している。何らかの遺構に伴う例も見られるが、いずれもより新しい時期の遺物と一緒に出土しており、後世の混入と考えざるを得ない状況であった。なお、各遺物の分類、名称、年代観などは基本的に既存の報告・研究結果に依拠しており、以下にその概要を記す。

**縄文土器** 「戸入村平遺跡」(武藤貞昭他1994)、「山手宮前遺跡」(小谷和彦他1997)、「塚遺跡」(増子誠他1998)、「上原遺跡Ⅰ」(近藤大典他1998)などを参考とした。

**古墳時代土師器** 「廻間遺跡」(赤坂次郎他1990)、「松河戸遺跡」(赤坂次郎他1994)、「淡尾平野低地部における古墳時代の壺」(赤坂次郎1996)の各報告書にある分類、名称を参考とした。

**古代土師器** 「川合遺跡群」(吉田正人他1994)、「牧野小山遺跡C地点発掘調査報告書」(佐野康雄他1998)、「美濃における古代土師器煮沸具の様相」(内堀信雄・井川祥子1996)を参考とした。

**須恵器** 「美濃須衛古窯跡群資料調査報告書」(渡辺博人1984)、「須恵器集成図録 第3巻 東日本編」(斎藤孝正編1995)を参考とした。

**灰釉陶器** 「東海地方の施釉陶器生産－猿投窯を中心にして－」(斎藤孝正編1994)、「須恵器集成図録 第3巻 東日本編」(斎藤孝正編1995)を参考とした。

**山茶碗** 「山茶碗研究の現状と課題」(藤沢良祐1994)を参考にした。

**土師器Ⅲ** 「下巾上遺跡」(小野木学他1995)を参考に、下記のように分類したが、前掲書のように、胎土による時期判定は困難であった。

胎土分類 I類……胎土中にチャート、長石、石英、雲母類を含む。

II類……胎土中にチャート、長石、石英、雲母類を含まない。

法量分類 a類……口径7.5cm以下

b類……口径7.6~10.0cm

c類……口径10.1cm以上

口縁部分類 1類……底部に比べ口縁部が肥厚する。端部は丸いものが多い。

2類……底部と口縁部の厚さがほぼ同じである。

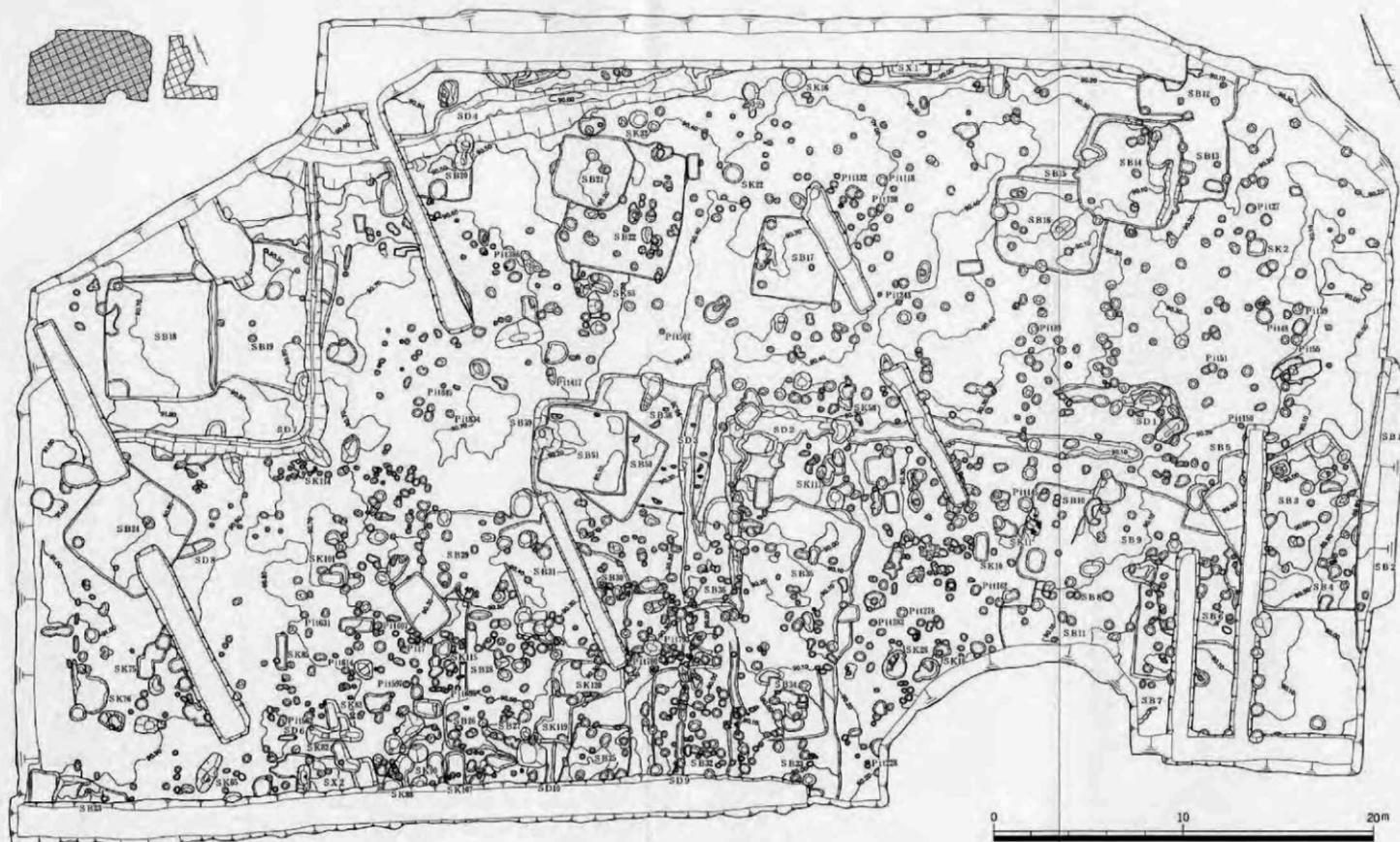
3類……端部が開き気味である。

**中・近世陶器** 古瀬戸製品については、「瀬戸古窯群Ⅱ－古瀬戸後期様式の編年－」(藤沢良祐1991)を、大窯製品については、「瀬戸大窯発掘調査報告」(藤沢良祐1986)、連房式登窯製品については、「尾呂」(柄崎彰一他1990)、「本業焼きの研究（1）～（2）」(藤沢良祐1987~89)を参考とした。また常滑製品については、「常滑焼－中世窯の様相－」(赤羽一郎1984)を参考とした。

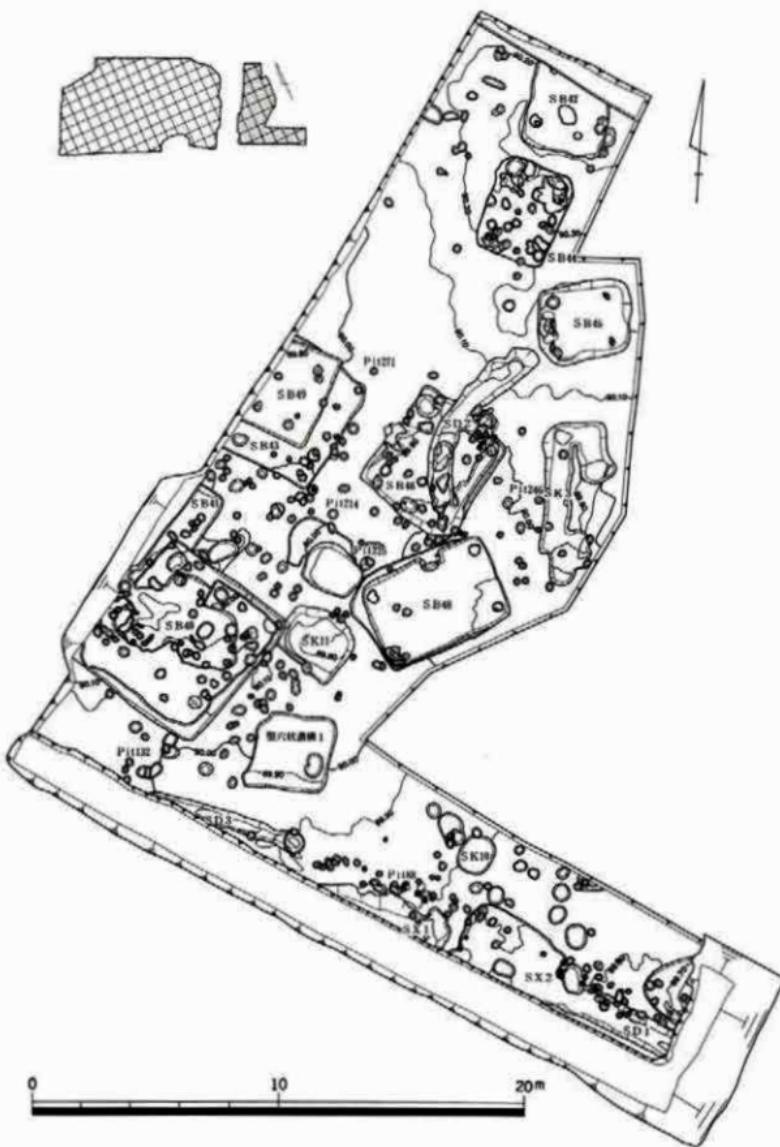
**その他** 製塩土器については、「東海地方における消費地出土の製塩土器」(森泰通1997)、「松崎遺跡」(福岡晃彦他1991)を参考とした。

石器の分類・年代観については、角張淳一・池谷勝典両氏の観察・教示に従った。

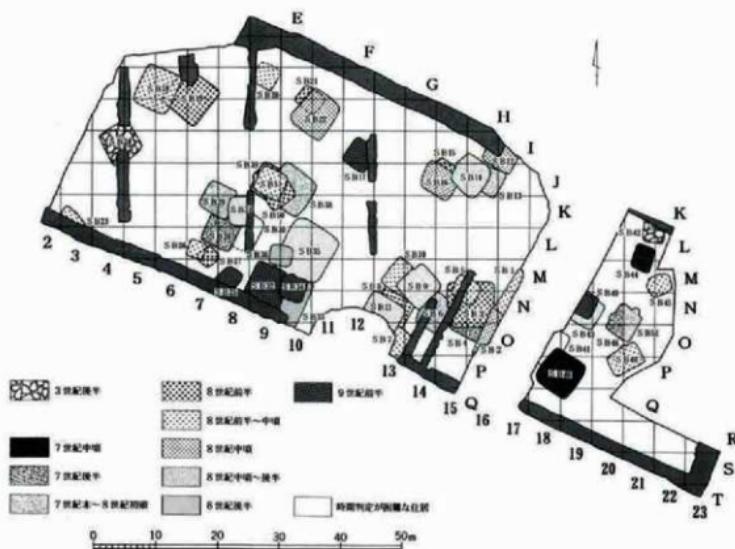
さらに、伊勢型鍋、羽釜、奈良火鉢など、特筆すべき遺物も出土しているが、いずれも少數であるため、参考・引用文献については各遺物の説明の項で触れることとした。



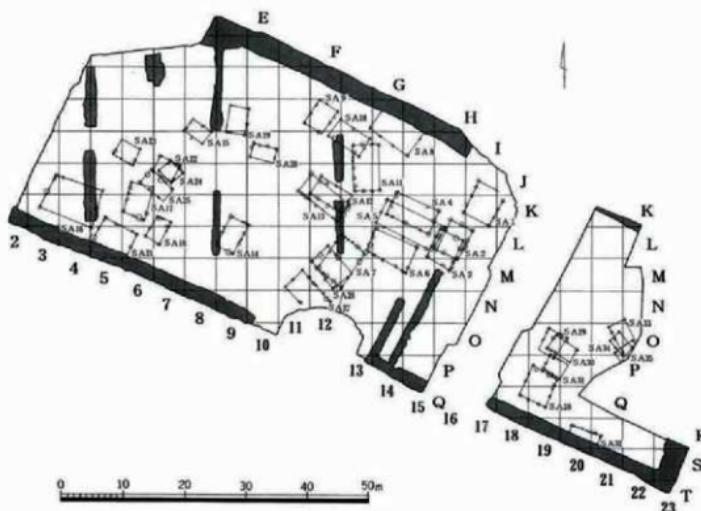
第5図 針田遺跡A区遺構分布図



第6図 針田遺跡B区遺構分布図



第7図 針田遺跡 豊穴住居分布図



第8図 針田遺跡 SA分布図

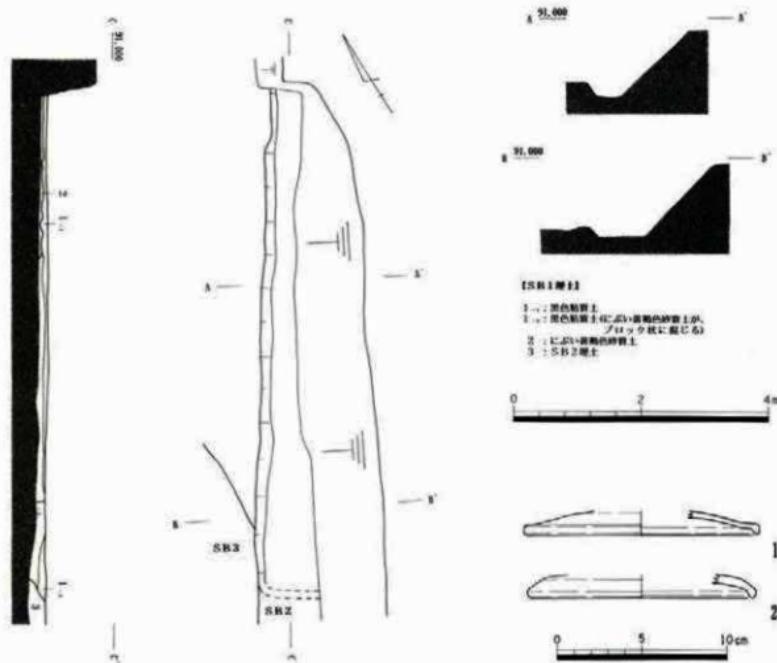
## 第3節 墓穴住居跡と出土遺物

## SB1

住居跡 番号	出土グリッド	幅 横(m)		床面の 絶対高	面 横	残存率	主軸方位	カマド	壁 有無	切り合ひ関係	時 期
		長軸	短軸								
SB1	17M.16-17N	7.67	8.95	0.20	49.77	4.00	1/10	N-35°-E	不明	-	>SB3, <SB2 8世紀中期

SB1はA区の東南の17M、16・17Nグリッドから検出し、近隣にはSB2・3などがある。遺構の大半が調査区外にあり、確認できたのは全体の1/10程度と推測されるが、一辺7.67m以上の大型の住居跡と考えられる。カマド、柱穴、壁溝などは確認できなかった。

SB1からは遺物が13点出土している。内訳は土師器7点、須恵器5点、山茶碗1点で、質・量とともに貧弱な内容である。図示した遺物は2点で、小片ではあるが口縁端部を内側に折り返す坏蓋（1・2）が出土していることと、他の住居跡との切り合い関係を考慮して8世紀前半から中頃に帰属すると推定した。



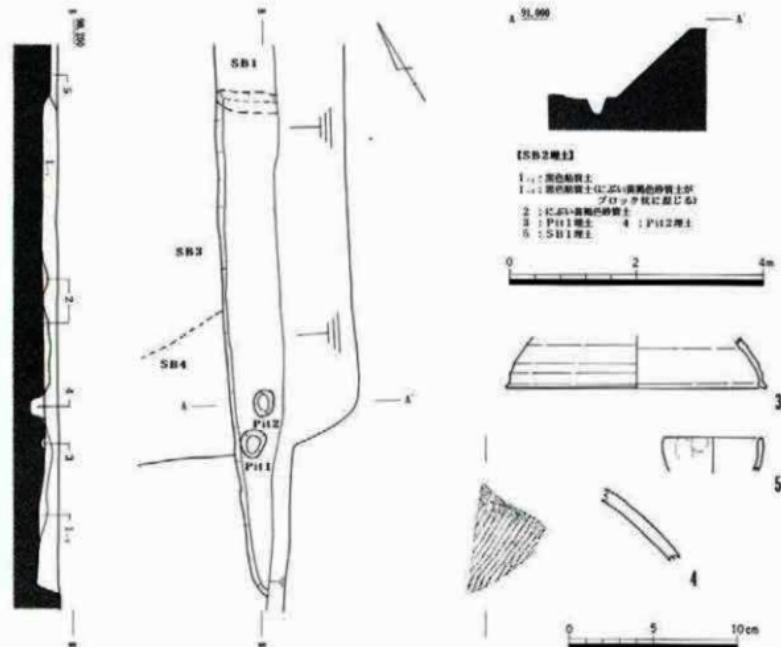
第9図 SB1実測図及び出土遺物

## SB 2

住跡番号	出土グリッド	面積(m)		底面の絶対高	面積	残存率	主軸方位	カマド	壁	切り合ひ關係 (>切る、<切られる)	時期
		長軸	短軸								
SB 2	16N・O・P	8.00	0.99	0.19	85.71	5.98	1/10	N-23°-E	不明	-	無 >SB 1・3・4
Pit 1	8.45	0.36	0.14	地表	0.40	1.00	<切る、<切られる				8世紀中期
Pit 2	8.26	0.30	0.16	地表							

SB 2はA区の16N・O・Pグリッドから検出し、SB 1の南に位置する。近隣にはSB 1の他にSB 3・4があるが、切り合ひ関係は最も新しいと判定した。SB 1と同様に遺構の大半が調査区外にあり、確認できたのは全体の1/10程度と推測されるが、一辺8.00m程の大型の住居跡と考えられる。住居内からピットを2基確認しているが、主柱穴と考えるには位置的に東壁に寄りすぎている。カマドや壁溝は確認できなかった。

SB 2からは遺物が25点が出土している。内訳は土師器17点、須恵器5点、山茶碗1点、土師器皿



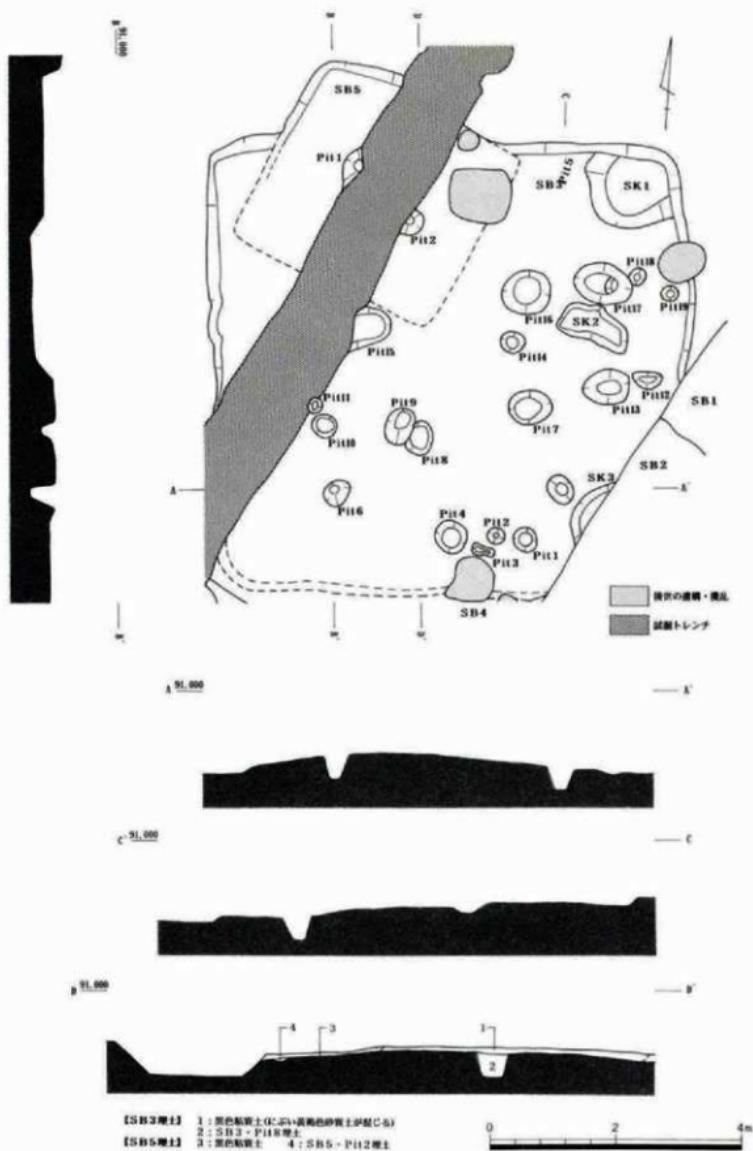
第10図 SB実測図及び出土遺物

1点で、他に製塙土器が1点出土している。いずれも小片で、図示できたものは製塙土器を含めて3点である。住居跡の年代を推定するに足る遺物に乏しく、帰属する時期の判定は主にSB1との切り合い関係を考慮して8世紀中頃と推定した。3の須恵器・壺蓋は、口縁端部に返りや折り返しをもたない形の壺蓋で、美濃須衛編年のⅢ期頃の所産と思われるが、住居跡の切り合い関係と矛盾することとなり、後世の混入であると考えたい。

### SB3・5

住居跡 番号	出土グリッド	規 模(m)			床面の 絶対高	面 積	残存率	主 軸 方 位	カマド 有無	壁 構 造	切 り 合 い 関 係 (>切る、<切られる)	時 期	
		長 軸	短 軸	深 さ									
SB3	ISM-N-O, 16M-N-O	7.81	7.28	0.15	90.00	54.89	9/10	N-6°-W	無	-	無	>SB4. <SB1・2・5	8世紀前半
SB5	規 模(m)	平 面 形			切 り 合 い 関 係 (>切る、<切られる)			出 土 遺 物 (破 片 数)			備 考		
Pit1	0.50	0.10	0.21	楕円形									
SK1	1.09	0.52	0.09	不定形									
SK2	1.09	0.52	0.09	不定形									
SK3	0.98	0.58	0.22	判別不能	<SB2								
Pit1	0.32	0.31	0.21	正円形									
Pit2	0.19	0.18	0.14	正円形									
Pit3	0.32	0.16	0.12	不定形									
Pit4	0.48	0.45	0.22	椭円形									
Pit5	0.38	0.32	0.28	椭丸方形									主軸穴
Pit6	0.44	0.36	0.29	椭円形									主軸穴
Pit7	0.60	0.53	0.31	椭円形									
Pit8	0.49	0.40	0.21	正円形	<Pit9								
Pit9	0.58	0.42	0.29	椭円形	>Pit8								
Pit10	0.48	0.36	0.38	椭円形									
Pit11	0.23	0.20	0.10	椭円形									
Pit12	0.43	0.23	0.31	椭丸三角形									
Pit13	0.71	0.52	0.14	椭円形									
Pit14	0.28	0.26	0.37	正円形									
Pit15	0.47	0.50	0.16	椭円形									
Pit16	0.79	0.71	0.23	椭円形									主軸穴
Pit17	0.84	0.63	0.24	椭円形	>Pit18								
Pit18	0.22	0.21	0.06	正円形	<Pit17								
Pit19	0.23	0.22	0.08	正円形									
住居跡 番号	出土グリッド	規 模(m)			床面の 絶対高	面 積	残存率	主 軸 方 位	カマド 有無	壁 構 造	切 り 合 い 関 係 (>切る、<切られる)	時 期	
		長 軸	短 軸	深 さ									
SB5	15・16M, 15・16N	3.60	1.48	0.29	89.82	12.01	10/10	N-25°-E	無	-	無	>SB3	8世紀～9世紀
SB5	規 模(m)	平 面 形			切 り 合 い 関 係 (>切る、<切られる)			出 土 遺 物 (破 片 数)			備 考		
Pit1	(0.10)	0.30	0.36	不定形									
Pit2	(0.20)	0.30	0.11	椭円形									

SB3・SB5はA区の15・16M～Oグリッドから検出し、SB1・2の東に位置する。近隣にはSB1・2・4・6があり、SB3を中心にして6軒が切り合っている。切り合いの順番は、SB4<SB6<SB3<SB1・5<SB2と判定した。SB3は南東の隅をSB1・2によって切られており、南西の隅および南壁（SB4との境目）も不明瞭であるが、方形に近いプランであるとの前提のもとに平面形を推定した。7.28×7.81m程の大型の住居跡であったと考えられる。住居内から土



第11図 SB3・SB5実測図

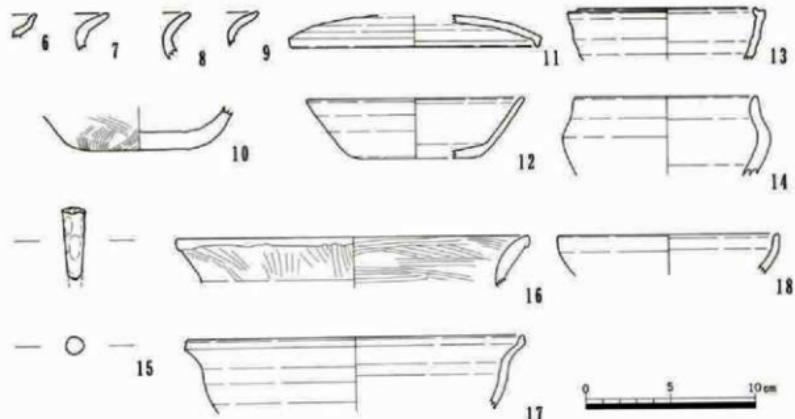
坑3基、ピット19基を検出しているが、中には後世の造構も何基か含まれると思われる。位置的に見て、Pit 5、Pit 6、Pit 16もしくはPit 17が主柱穴であったと思われ、北西の主柱穴は試掘トレンチによって失われている。カマドや壁溝は確認できなかった。

S B 5 の平面形は方形で、3.48×3.60mの小型の住居跡である。住居内からピットを2基確認しているが、どちらも住居跡のはば中央に位置するため、柱穴と考えるには無理がありそうである。カマドや壁溝は確認できなかった。

S B 3 からは住居内の造構から出土した遺物も含めて249点が出土している。内訳は土師器180点、須恵器40点、灰釉陶器2点、山茶碗2点、土師器皿6点で、製塙土器が19点出土している。比較的遺物量には恵まれているが、残存率の低い遺物が多く、結果的に図示できたのは10点である。住居の帰属時期については、他の住居跡との切り合い関係を考慮した上で、11の口縁端部を折り返した坏蓋（美濃須衛編年のIV期－第1小期）や14の短頸壺（猿投編年の第III期－第3～4小期）を時期判定の根拠に、8世紀前半と推定した。これは、図示した土師器壺の口縁部（7～9）の年代観とも矛盾しないと考えられる。なお、S字型C類の口縁部の小片が1点出土しているが、後世の混入と考えたい。製塙土器では、知多式4類系の脚部（15）が出土している。

S B 5 からは遺物が15点出土している。内訳は土師器5点、須恵器4点、灰釉陶器1点、山茶碗4点、土師器皿1点で、質・量ともに貧弱な内容である。図示した3点のうち、17の須恵器・鉢は、口縁部が外反し、端部が上方につまみ上げられる形状で、美濃須衛編年のIV期－第1小期頃の所産と考えられる。また18の須恵器・鉢は、口縁部がわずかに内脣し、端部に面取りがなされる形状で、猿投編年の第IV期－第1小期頃の所産と考えられ、これらの遺物を根拠に、8世紀前半～中頃という帰属時期を推定した。

A区SB3(6～15)・SB5(16～18)



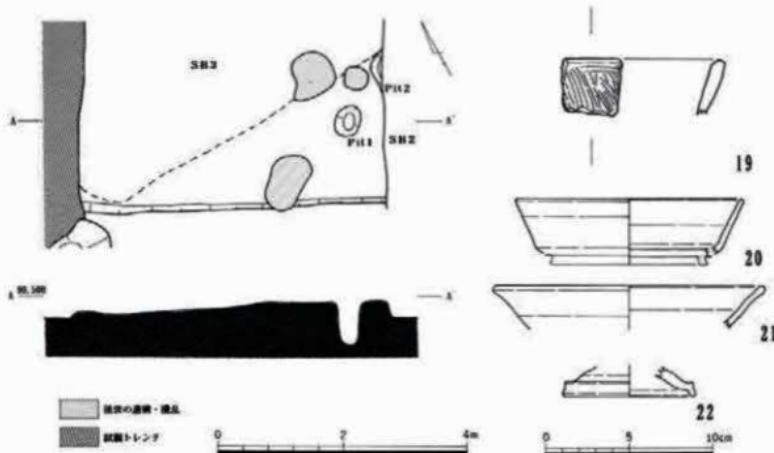
第12図 SB3・SB5出土遺物

## SB 4

住居跡 番号	西土グリッド	面積(m <sup>2</sup> )		床面の 長軸	短軸	高さ	馬鹿塚	主柱方位	カマド 有無	壁 厚	切り合ひ関係 (>切ら、<切られる)	時 期
		長軸	短軸									
SB 4	H-160	4.99	0.19	0.17	0.02	5.61	3/10	N-16°-E	不明	—	<SB 2・3	7世紀後半
Pit 1	6.19	0.34	0.54	横内張	—	—	—	—	—	—	—	—
Pit 2	8.00	0.06	—	判別不能	<SB 2	—	—	—	—	—	—	—

SB 4はA区の15・160グリッドから検出し、SBの南に位置する。北側の大半をSB 3に、東側をSB 1・2に、西側を試掘トレンチによってそれぞれ切られており、結果的に南壁の一部が検出できただけである。上記表中の規模に関する数値は、検出できた範囲での数値で、少なくとも小型の住居跡ではなさそうではあるが、遺構の規模などを明らかにすることはできなかった。住居跡内からピット2基を検出しているが、住居の平面形が明確でない以上、主柱穴の推定は差し控えておきたい。カマドや壁溝は確認できなかった。

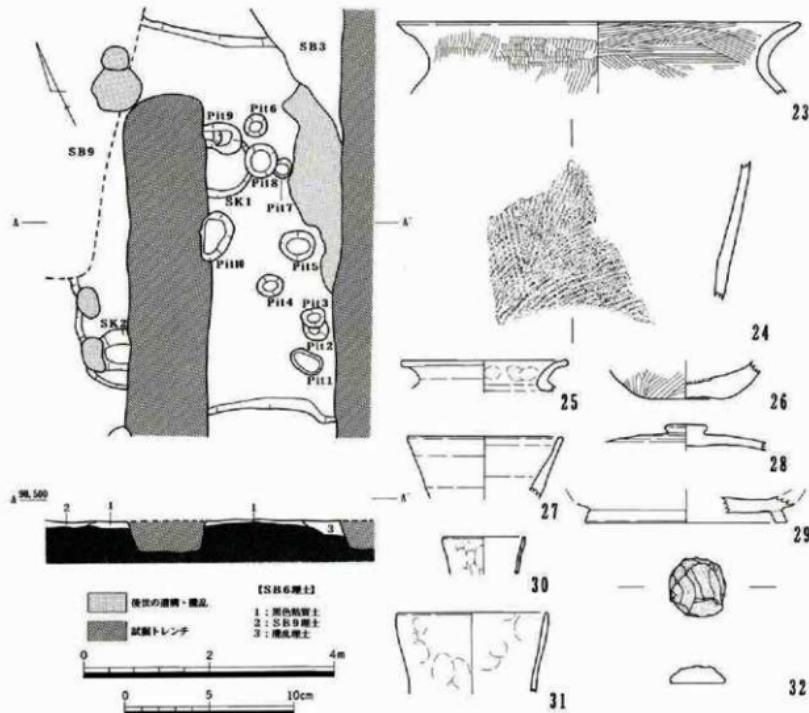
SB 4からは遺物が69点出土している。内訳は土師器52点、須恵器6点、灰釉陶器1点、山茶碗2点、中・近世陶器2点、製塙土器4点で、その他の遺物として打製石斧が2点出土している。いずれも小片であり、図示した遺物の年代観も、20の須恵器・坏身が美濃須衛編年のIV期-第1～2小期頃、21の須恵器・碗が美濃須衛編年のV期頃、22の須恵器・高坏が美濃須衛編年のIII期後半頃と考えられ、かなりの時期差を含む結果となったが、他の住居跡との切り合い関係を考慮した上、22の須恵器・高坏を根据に、7世紀後半に帰属すると推定した。



第13図 SB4実測図及び出土遺物

## SB6

柱脚跡 番号	出土グリッド	規 模(m)		床面の 高さ 絶対高	面 積	残存率	主軸 方 位	カマド 有無	壁 有無	切り 合い 間 隙 (>切る、<切られる)	時 期
		長 脚	短 脚								
SB6	14-15N, 14-15O	6.01	4.28	0.85	90.14	21.33	8/10	N-37° -E	不明	-	<SB3・9
SB6											7世紀後半
規 模	規 模(m)										
道 構	長 脚	短 脚	深 底								
SK1	0.89	(0.70)	0.11	南 円 形	<Pit8・9						
SK2	0.69	0.45	0.31	椭 圆 形	<Pit3						
Pit1	0.45	0.32	0.10	不 定 形	>Pit2						
Pit2	0.43	0.34	0.32	椭 圆 方形							土器形(實1)
Pit3	0.39	0.25	0.20	椭 圆 形							
Pit4	0.31	0.30	0.24	正 四 角 形							土器形(實1)、酒器形(實1)
Pit5	0.49	0.46	0.40	正 四 角 形							
Pit6	0.38	0.28	0.29	正 四 角 形							
Pit7	0.29	0.27	0.14	正 四 角 形	<Pit8						
Pit8	0.44	0.43	0.54	正 四 角 形	>SK1・Pit7						
Pit9	0.75	0.46	0.27	椭 圆 形	>SK1						
Pit10	0.74	0.53	0.52	不 定 形							土器形(實1)

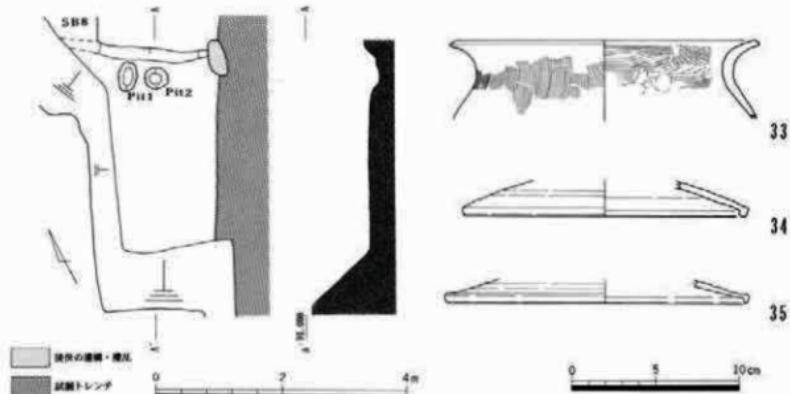


SB 6はA区14・15N、14・15Oグリッドから検出した。東側をSB 3と試掘トレンチに、北西の隣をSB 9に切られ、南西の隅および北壁と南壁の一部が確認できただけであるが、平面形は角を丸くおさめた方形で、一辺6m前後の中型の住居跡であったと推測される。住居内から土坑2基、ビット10基を検出しているが、主柱穴が在りそうな場所に試掘トレンチが入っていることもあり、位置的に見て、いずれの遺構も主柱穴としては推定するのは難しいと言わざるを得ない。カマドや壁溝は確認できなかった。

SB 6からは遺物が102点出土している。内訳は土器54点、須恵器24点、山茶碗5点で、製塙土器が18点出土している。その他の遺物として、土器器壺の底部を加工したと思われる土製円盤(32)が1点出土している。図示した10点の遺物のうち、23の土器器壺は口縁部がやや長く、外反する形状で、川合編年の後VII期頃の所産と考えられる。28の須恵器・壺蓋と29の須恵器・壺身は、どちらも全体の形状は明らかではないが、美濃須衛編年のIV期-第1~2小期頃の所産と推測される。また27の須恵器・平瓶は、口縁部がほぼ直線的に立ち上がり、内面がわずかにくぼみ、端部が丸くおさめられる形状で、猿投編年の第III期-第1~2小期頃の所産と考えられる。これらの遺物の年代観と遺構の切り合いを考慮し、SB 6の帰属する時期を7世紀末~8世紀初頭頃と推定した。

### SB 7

住居跡 番号	出土グリッド	規格(m)			床面の 傾斜	面積	既存率	主軸方位	カマド	壁溝	切り合ひ間隔 (>切る、<切られる)	時 期
		長軸	短軸	深さ								
SB7	13-14O	3.16	2.61	0.19	90.00	5.50	2.10	N-16°-E	不明	—	>SB8, <SB11	8世紀~9世紀
<b>SB8</b>												
Pit1	0.67	0.43	0.97	楕円形								
Pit2	0.31	0.26	0.10	楕丸形								



第15図 SB7実測図及び出土遺物

S B 7 は A区13・14O グリッドから検出した。東側を試掘レンチに切られ、東と南は調査区外にあたるため、確認できたのは北壁の一部で、全体の2/10程度と推測される。近隣に S B 8、S B 11 があり、切り合ひ関係は S B 8 < S B 7 < S B 11 の順と判定した。住居内からピット2基を検出しているが、主柱穴と考えるには位置的に北壁に寄りすぎている。カマドや壁溝は確認できなかった。

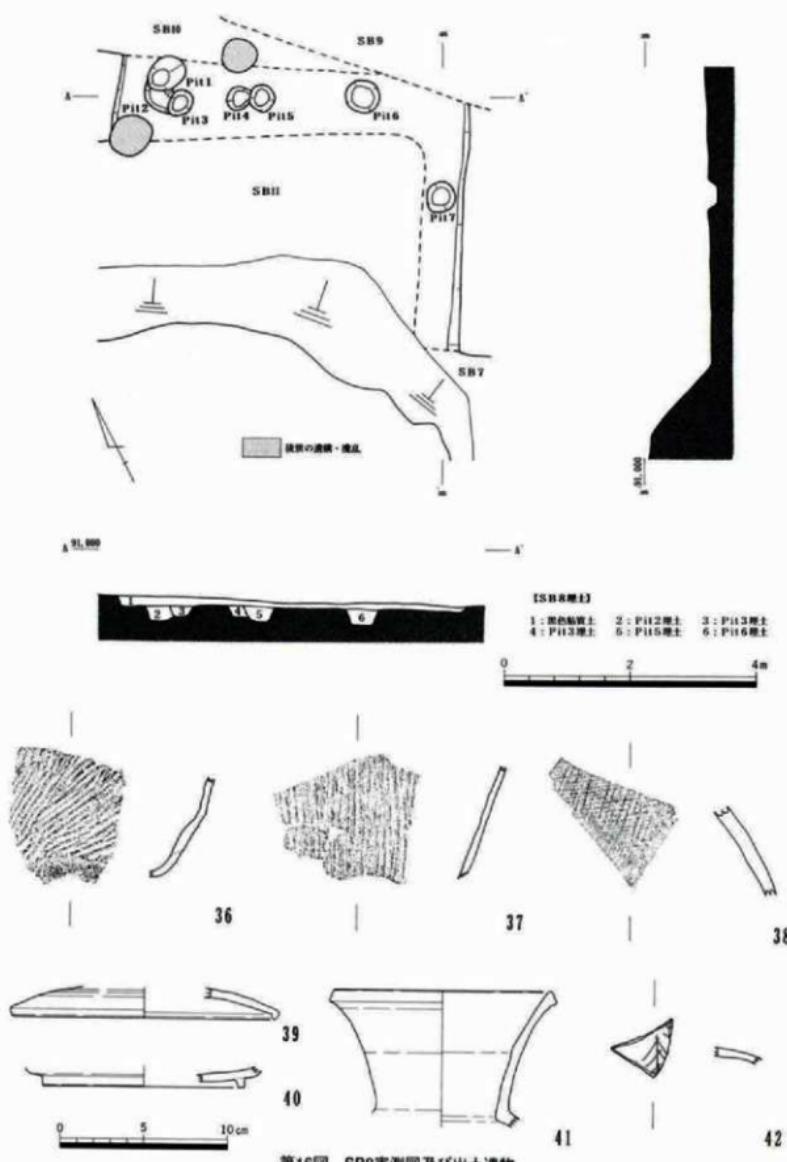
S B 7 からは遺物が118点出土している。内訳は土師器82点、須恵器15点、山茶碗5点、土師器皿15点で、その他の遺物として、縦文土器の深鉢が1点出土している。数量的には恵まれているが、いずれも小片で、図示できたのは3点であった。図示した遺物のうち、33の土師器・甕は口縁部がやや長く、外反する形状で、川合編年の後VII-VIII期頃の所産と考えられる。34・35の須恵器・壺蓋はどちらも口縁端部を折り返すもので、やや丸みを帯びた天井部から直線的に口縁部にいたる形状を示し、35は口縁端部に近い所でわずかに上反する。いずれも美濃須衛編年のIV期-第一~二小期頃の所産と考えられる。これらの遺物の年代観と遺構の切り合ひを考慮し、S B 7 の帰属する時期を8世紀前半~中頃と推定した。

### S B 8

住居跡 番号	出 土 グ リ ッ ド	規 模 (m)			床面の 高さ 絶対高	面 積	残存率	主 柱 方 位	カマド 有無	壁 溝	切り合ひ 関係 (>切る、<切られる)	時 期
		長軸	短軸	深さ								
S B 8	IJM-N-O, 14N	5.71	4.00	0.14	30.01	6.22	2/10	N-35°-E	不明	-	<SB7・9・10・11	8世紀中頃
住居跡 番号	規 模 (m)	平 面 形			切り合ひ 関係 (>切る、<切られる)							
Pt11	0.68	0.25	0.42	楕円形	>Pt12							
Pt12	0.28	0.23	0.24	椭丸三角形	<Pt11・3							
Pt13	0.22	0.18	0.16	椭円形	>Pt12							主柱穴
Pt14	0.38	0.24	0.16	椭円形	<Pt15							
Pt15	0.38	0.37	0.24	正四角形	>Pt14							
Pt16	0.56	0.61	0.24	椭円形								主柱穴
Pt17	0.47	0.42	0.14	椭円形								

S B 8 は A区13M-O, 14N グリッドから検出した。近隣には S B 7・9・10・11 があり、切り合ひの順番は、S B 8 < S B 7・10 < S B 9・11 と判定した。そのため、北側の約1/2を S B 9・10 に、南側を S B 11・7 に切られ、検出できたのは東壁と西壁の一部で、全体の2/10程度と推測されるが、一辺5.70m程の中型の住居跡と考えられる。住居跡内からピットを7基を検出している。主柱穴としては、位置的に見て Pt3, Pt6 がその候補となろうが、四隅が不明であるため、現段階では推測の域を出るものではない。カマド、壁溝は確認できなかった。

S B 8 からは遺物が124点出土している。内訳は土師器84点、須恵器26点、山茶碗7点、土師器皿5点、中・近世陶器2点で、その他の遺物として打製石斧が2点出土している。図示した7点のうち、39の須恵器・壺蓋は天井部はやや丸みを帯び、口縁端部を下方に折り曲げる形状で、美濃須衛編年のIV期-第一小期頃の所産と考えられる。また41の須恵器・長頸瓶は口頭部が外反気味に立ち上がり、口縁端部が下方に肥厚し、三角形状の断面形をなすもので、美濃須衛編年のIV期-第二小期頃の所産と考えられる。また、42の須恵器・壺蓋は、内面に綾杉状の線刻が施されている。これらの遺物の年代観と遺構の切り合ひを考慮し、S B 8 の帰属する時期を8世紀前半~中頃と推定した。



第16図 SB8実測図及び出土遺物

## SB9

住居跡 番号	出土グリッド	面積(m <sup>2</sup> )		床面の 高さ	掘削 深度	既存率	主軸方位	カマド 有無	壁 厚	切り合 い開 拓 (>切る、<切られる)	時 期
		長 軸	短 軸								
SB9	13-15M, 13-14N	5.32	5.28	0.09	0.10	28.6%	10/10	N-51°-E	有	西壁 無	>SB6・8・10 8世紀～10世紀
<b>平面形</b>											
造 形		長 軸	短 軸	深 さ	平 面 形		切 り 合 い 開 拓 (>切る、<切られる)	出 土 遺 物 (破 片 数)			備 考
SK1	1.34	0.88	0.32	0.00	椭圆形		土師器(質2)				
Pit1	0.49	0.48	0.31	0.00	正円形						
Pit2	0.55	0.41	0.46	0.00	不定形						
Pit3	0.45	0.44	0.16	0.00	正円形						
Pit4	0.34	0.32	0.09	0.00	正円形						
Pit5	0.45	0.36	0.35	0.00	椭圆形						
Pit6	0.67	0.50	0.00	0.00	椭圆三角形						
Pit7	0.51	0.39	0.26	0.00	椭圆形						
Pit8	0.36	0.28	0.25	0.00	椭圆形						
Pit9	0.50	0.31	0.53	0.00	椭圆形						
Pit10	0.49	0.37	0.35	0.00	椭圆形						
Pit11	0.32	0.30	0.46	0.00	正円形						

SB9はA区13~15M、13・14Nグリッドから検出した。近隣にはSB6・8・10があり、切り合の順番は、4基のうちで最も新しい住居跡である。南側半分の掘形は不明瞭であるが、平面形は5.32×5.28m程の方形で、中型の住居跡と考えられる。住居内から土坑1基、ピット11基を検出している。Pit2・3・5・9が比較的整った正方形に並ぶが、これらを主柱穴と推定すると住居跡の主軸方位と矛盾することになる。西壁の中央よりやや北寄りの所にカマドが造られている。壁をわずかにえぐり込むもので、「川合遺跡群」(吉田正人他 1994) の分類(以下「川合分類」と略す) のCタイプに該当すると思われる。いわゆる「粘土カマド」で、上部構造は削平のために不明である。下部構造は、燃焼部は地山を浅く掘りくぼめられるが、袖部は地山をほとんど掘り込まずに粘土や砂質土を突き固めて造られており、両袖の芯となる石や支脚石、および煙道部は検出されていない。壁溝は確認できなかった。

SB9からは遺物が115点出土している。内訳は土師器78点、須恵器26点、灰釉陶器1点、山茶碗3点で、製塙土器が7点出土している。そのうち11点を図示したが、このうちカマドから出土した遺物は45の土師器・壺である。口縁部は長く、頸部から上方へ直線的に立ち上がった後、大きく外反するもので、口縁端部には横方向のナデ調整が施されるが、頸部のかなり上方にまでハケメを残している。底部は平底で、いわゆる「相欠はぎ接合」の痕跡が観察される。牧野小山編年の第7期、川合編年の後IX期頃の所産と考えられ、43・44の土師器・壺の年代観とも大きな矛盾はないと思われる。50は須恵器・高环の壺部である。形状は浅い皿状で、口縁部はほぼ直線的に立ち上がり、端部は丸くおさめられる。外面中程には浅い沈線が1条廻らされる。美濃須衛編年のIV期-第2小期頃の所産と考えられる。48・49の須恵器・壺蓋は口縁端部を下方に短く折り返し、端部の断面形はどちらも三角形である。49は48よりもやや厚い作りであるが、どちらも美濃須衛編年のIV期-第1~2小期頃の所産と考えられる。これらの遺物の年代観と構造の切り合いを考慮し、SB9の帰属する時期を8世紀中頃~後半と推定した。なお、47の須恵器・壺蓋は口縁部に返りを持つ形状で、美濃須衛編年のIII期-後半頃の所産と考えられ、SB9の推定年代よりも古い時期のものである。

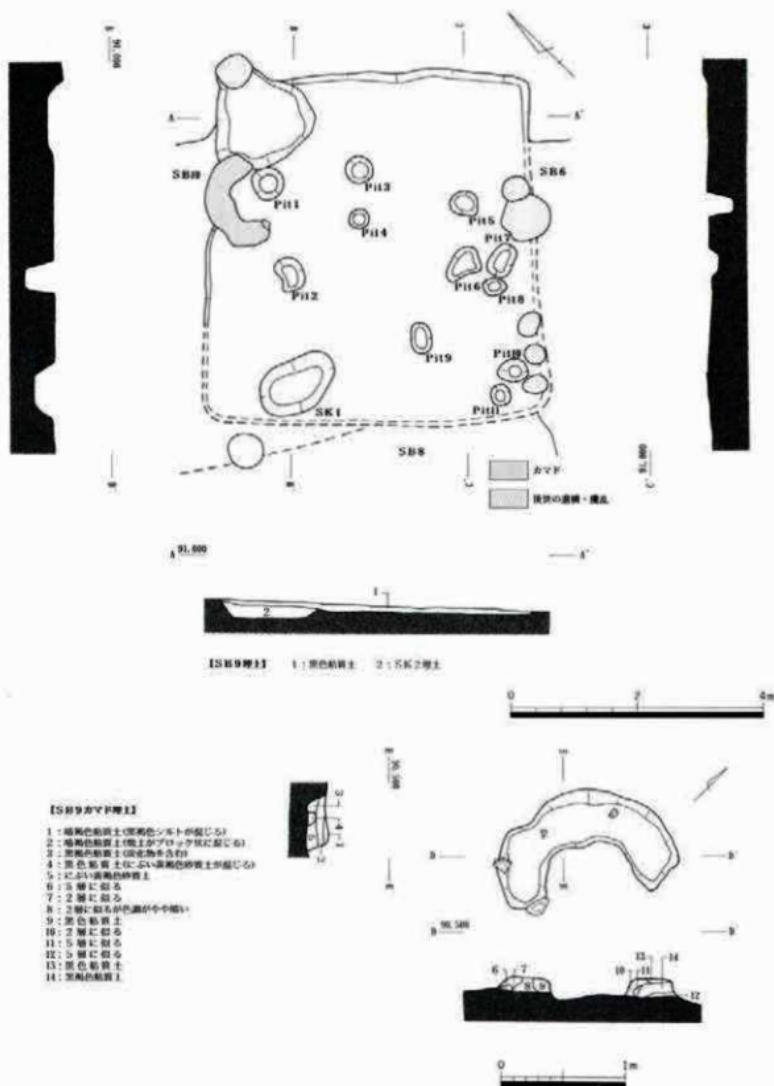
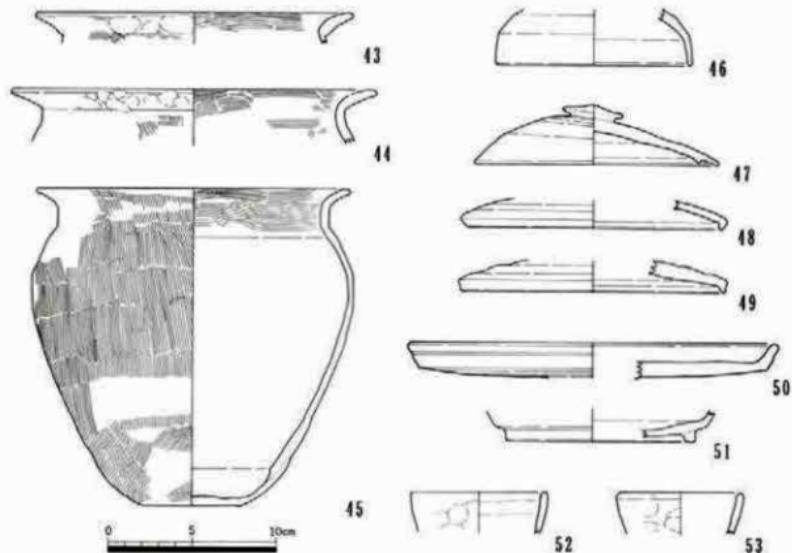


図17 SB9実測図

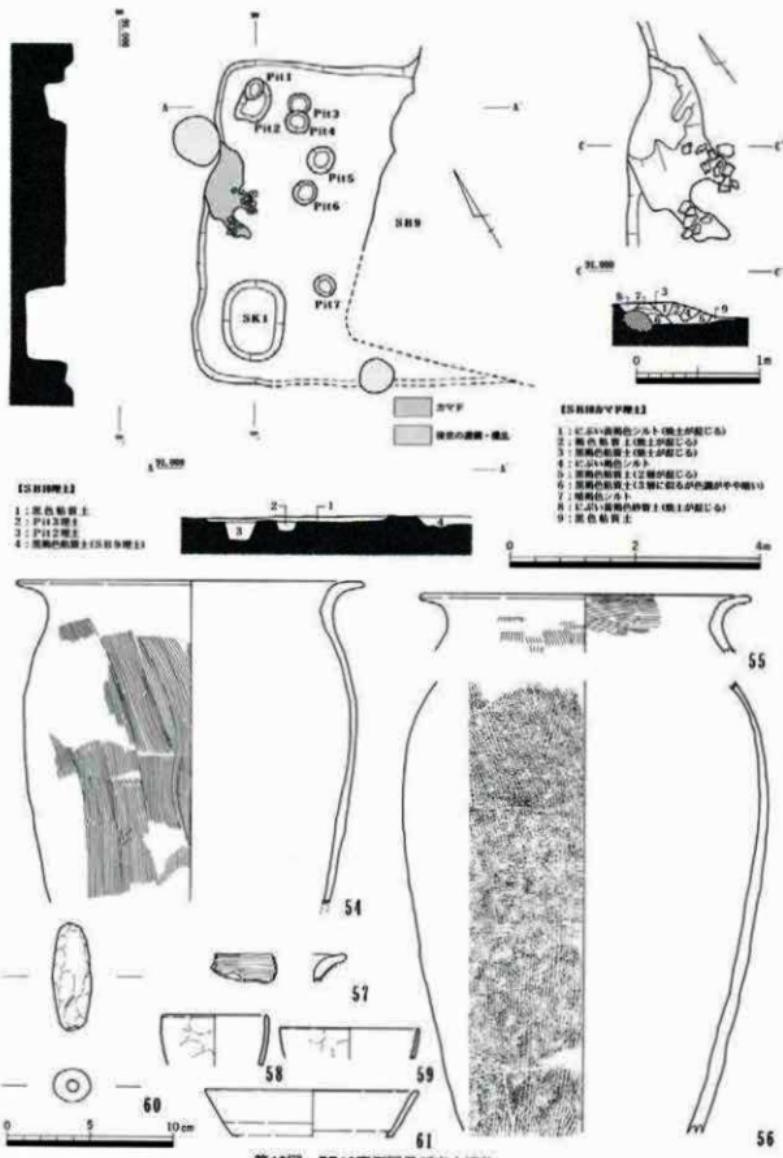


第18図 SB9出土遺物

## SB10

住居跡 番号	出土グリッド	面 積(m <sup>2</sup> )	長 軸	短 軸	深さ	床面の 絶対高	面 積	残存率	主軸方位	カマド 有無	壁 構 造	切り合 い関係 (>切る、<切られる)	時 期
SB10	13L~N, 14M~N	5.15	5.94	0.08	98.11	14.88	6/10	N-32°-E	有 内壁 無	>SB8, <SB9	8世紀~9世紀		
<b>SB10 面 積(m<sup>2</sup>)</b>													
面 積	長 軸	短 軸	深さ	平 面 形	切り合 い関 係	(>切る、<切られる)						出 土 遺 物 (破 片 数)	備 考
SK1	1.28	0.98	0.66	南北方形								土師器(甕3)、須恵器(蓋坏2・甕1)	
Pit1	0.18	0.14	0.34	椭円形	>Pit2							土師器(甕3・須恵器9)、須恵器(甕1)	
Pit2	0.65	0.44	0.27	不定形	<Pit1							土師器(陶土器2)	
Pit3	0.26	0.29	0.16	椭円形	<Pit4								
Pit4	0.42	0.39	0.25	正円形	>Pit3								主柱穴
Pit5	0.43	0.36	0.33	椭円形									
Pit6	0.26	0.32	0.09	椭円形									主柱穴
Pit7	0.35	0.34	0.59	南北三角形									

SB10はA区13L~N, 13M~Nグリッドから検出した。近隣にはSB8・9があり、切り合いの順番は、SB8 < SB10 < SB9と判定した。東側半分をSB9に切られており、SB8との境界も不明瞭であるが、北西と南西の隅が確認でき、平面形は一辺5.15m程の方形と推定した。住居内から土坑1基、ピット7基を検出している。位置的に見て、Pit5・7が主柱穴、SK1が貯蔵穴<sup>122</sup>であった可能性が考えられる。なお、SK1からは土師器の甕と須恵器の蓋坏が各3点ずつ出土している。ま



第19図 SB10実測図及び出土遺物

た、西壁の中央よりやや北寄りの所にカマドが造られている。壁に造り付けられるもので、川合分類のAタイプに該当する。SB9と同様の「粘土カマド」で、上部構造は削平のために不明である。下部構造は、燃焼部も含めて全体的に地山を浅く掘りくぼみ、粘土や砂質土を突き固めて造られており、両袖の芯となる石や支脚石、および煙道部は検出されていない。ただ燃焼部奥の壁際には、径30cm程の川原石が据え付けられており、あるいはこの石が支脚であった可能性も考えられる。壁溝は確認できなかった。

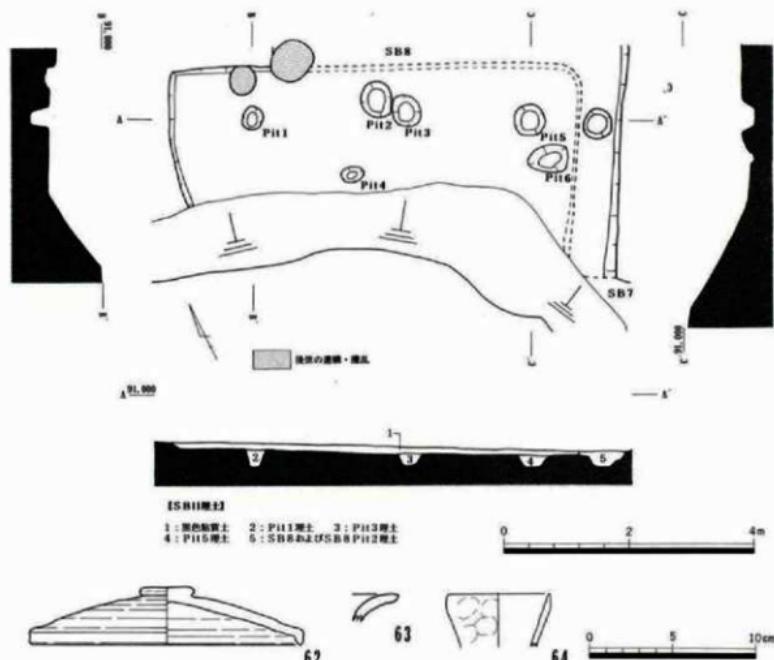
SB10からは遺物が101点出土している。内訳は土師器59点、須恵器17点、山茶碗8点、製塩土器14点で、その他の遺物として管状土錐1点、打製石斧2点が出土している。そのうち8点を図示したが、このうちカマドから出土した遺物は54・56の土師器・甕である。54の口縁部は長く、頭部から上方へ立ち上がった後、大きく外反するもので、口縁部には横方向のナデ調整が施され、口縁外面のハケメはナデ消されている。56は胴部のみで口縁部や底部の形状は不明であるが、肩部付近に最大径を持ち、底部に向けて直線的に胴部を伸ばすという、長胴甕の成熟・完成期の特徴を持つ。ともに川合編年の後VII期頃の所産と考えられ、SK1から出土した土師器・甕(55)の年代観も、これと矛盾しないと思われる。これらの遺物の年代観と造構の切り合いを考慮し、SB10の帰属する時期を8世紀前半～中頃と推定した。

### SB11

住居跡 番号	出土グリッド	幅 横(m)		底面の 面積	残存率	主軸方位	カマド 有無	便 用	切り合 い關係 (>切る、<切られる)	時 期
		長 横	短 横							
SB11	12~14N, 13O	6.54	3.03	9.06	90.10	13.00	4/10	N~N-E	不明	-
主柱穴 底面 横 幅 長 横 短 横 面 積										
Pit1	6.38	0.36	0.27	正円形						主柱穴
Pit2	6.56	0.52	0.23	正円形						
Pit3	6.58	0.42	0.37	椭円形						
Pit4	6.34	0.28	0.11	椭円形						
Pit5	6.45	0.41	0.19	正円形						主柱穴
Pit6	6.47	0.42	0.35	楕丸三角形						

SB11はA区12~14N、13Oグリッドから検出した。南側の約1/2が調査区外にあり、北西の隅が確認できただけで、SB8との境目も不明瞭であるが、住居内から検出したピット6基のうち、位置的に見て、Pit1・Pit5が主柱穴と推測されることから、平面形は一辺6.54m程の方形と推定した。カマド、壁溝は確認できなかった。

SB11からは遺物が25点出土している。内訳は土師器15点、須恵器6点、灰釉陶器1点、山茶碗1点で、製塩土器が2点出土している。そのうち3点を図示したが、質・量とともに貧弱な内容と言わざるを得ない。62の須恵器・杯蓋はやや扁平なつまみを持ち、天井部からほぼ直線的に口縁部にいたり、端部を下方に折り曲げるもので、美濃須衛編年のIV期～第2～3小期頃の所産と考えられる。また、63の土師器・甕は残存率1/12程の小片であるが、口縁部がやや短く、屈折度の強いもので、牧野小山編年の第7期頃の所産と考えられる。これらの遺物の年代観と造構の切り合いを考慮し、SB11の帰属する時期を8世紀中頃～後半と推定した。



第20図 SB11実測図及び出土遺物

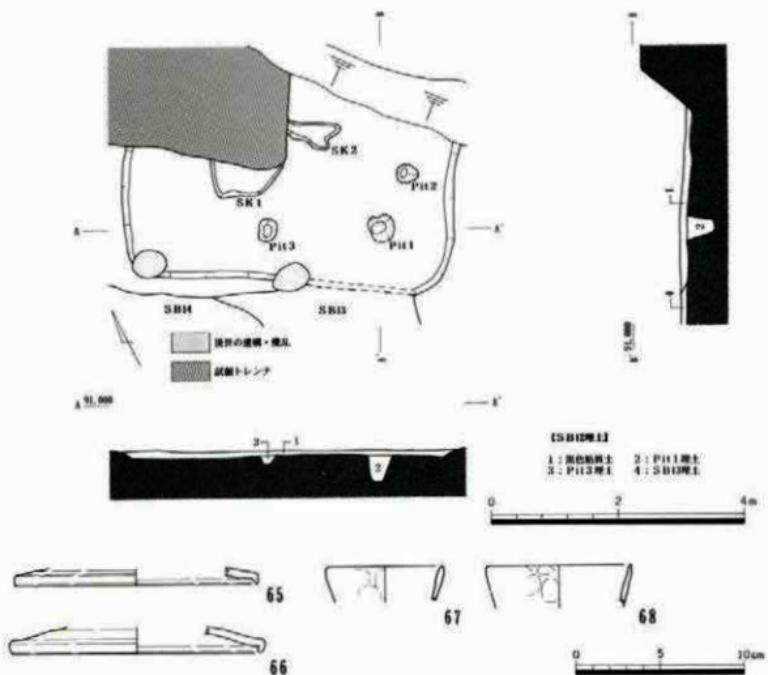
## S B12

住居跡 番号	出土グリッド	周 囲 幅(m)			床面の 長 幅 短 幅 深さ 絶対高	面 積 既存率	主 軸 方 位	カマド 有無 位置	壁 厚	切り合 い関 係 (>切る、<切られる)	時 期
		長 幅	短 幅	深 さ							
S B12	16・17J、16・17I	5.32	3.32	0.05	9.36	17.48	5/10	N-22°-E	不明	-	>SB13
S B11A	周 囲 幅(m)	平 面 形	切り合 い関 係 (>切る、<切られる)								備 考
SK1	1.14 (0.50)	0.20	不 定 形								
SK2	0.80	0.40	0.24	不 定 形							
Pit1	0.46	0.29	0.40	不 定 形							主柱穴?
Pit2	0.32	0.28	0.21	圓丸三角形							
Pit3	0.34	0.27	0.14	圓丸長方形							

S B12はA区の16・17J、16・17Iグリッドから検出した。北側の約1/3が調査区外にあり、さらに西壁の大半を試掘トレンチに切られ、検出できたのは1/2程度と推測される。南東と西南の隅が確認できたことから、平面形は隅角を丸くおさめた方形で、一辺5.32m程の中型の住居と考えられる。近隣にはS B13・14などがあり、切り合い関係はS B12がS B13の北東隅をわずかに切っている。住居内

から土坑2基、ピット3基を検出している。位置的に見てPit1が主柱穴の候補となるが、これに対応する南西隅の柱穴は確認できなかった。また検出した土坑が貯蔵穴であった可能性も皆無ではないが、カマドが確認できなかったこともあり、位置的に見てもその可能性は低いと思われる。壁溝も確認できなかった。

SB12からは遺物が65点出土している。内訳は土器54点、須恵器6点、山茶碗1点、土器皿1点で、製塙土器が3点出土している。そのうち4点を図示したが、質・量ともに貧弱な内容と言わざるを得ない。65・66の須恵器・坏蓋は口縁部の1/12程度の小片であるが、口縁端部を折り返すものである。65の天井部はやや低く、ほぼ直線的に口縁部にいたり、ほぼ真下に短く折り返されて断面形は三角形となる。66の天井部はやや高く丸みをもち、口縁端部に近い所でわずかに上反する。折り返しは65よりも急角度で、口縁端部は丸くおさめられる。いずれも美濃須衛編年のIV期－第2小期頃の所産と考えられる。これらの遺物の年代観と遺構の切り合いを考慮し、SB11の帰属する時期を8世紀中頃～後半と推定した。

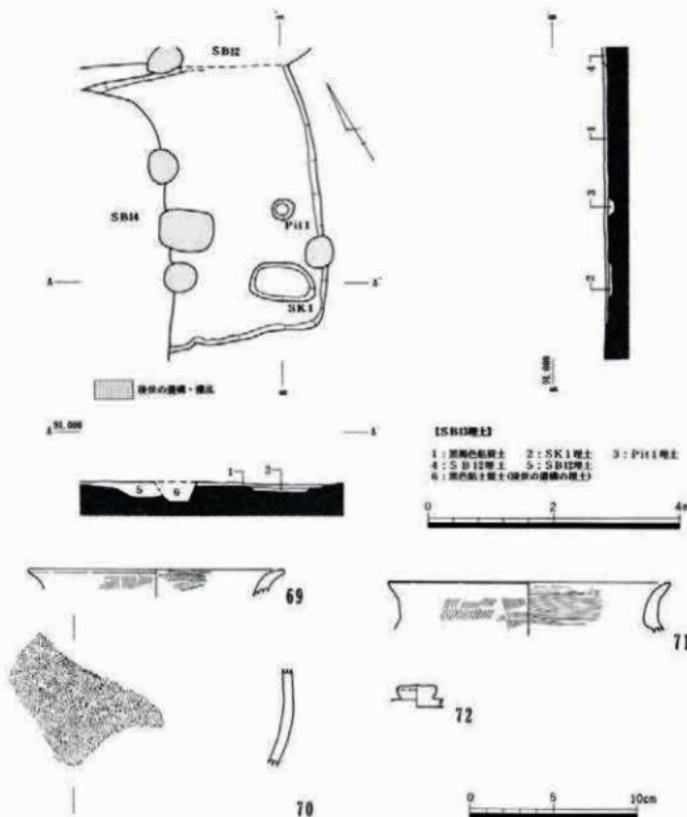


第21図 SB12実測図及び出土遺物

## SB13

目録番号	出土グリッド	規 格(m)			床面の 高さ	面積	残存率	上部力	カマド	壁 有無	切 り 合 い 関 係 (>切る、<切られる)	時 間
		長 軸	短 軸	深 さ								
SB13	16J・K、17J	4.23	2.22	0.07	90.13	10.85	5/10	N-26°-E	半壇	-	<SB12・14	THH~THH
SB13	16J・K、17J	4.23	2.22	0.07	90.13	10.85	5/10	N-26°-E	半壇	-	<SB12・14	THH~THH
SB13	16J・K、17J	4.23	2.22	0.07	90.13	10.85	5/10	N-26°-E	半壇	-	<SB12・14	THH~THH
SK1	0.96	0.56	0.07	調査長方形								
P111	0.38	0.29	0.09	標準正方形								

SB13はA区の16J・K、17Jグリッドから検出した。SB12の南に位置し、東側の約1/2をSB14に、北東の隅をSB12に切られており、検出できたのは5/10程度であるが、北壁の一部と南東の隅が



第22図 SB13実測図及び出土遺物

確認できたため、平面形は隅角をやや丸くおさめた方形で、一辺4.23m程の中型の住居跡と考えられる。住居内から土坑1基、ピット1基を検出している。どちらも壁際に寄りすぎており、SK1が主柱穴である可能性もあるが、対応する北東隅の柱穴は検出できなかった。カマドや壁溝は確認できなかった。

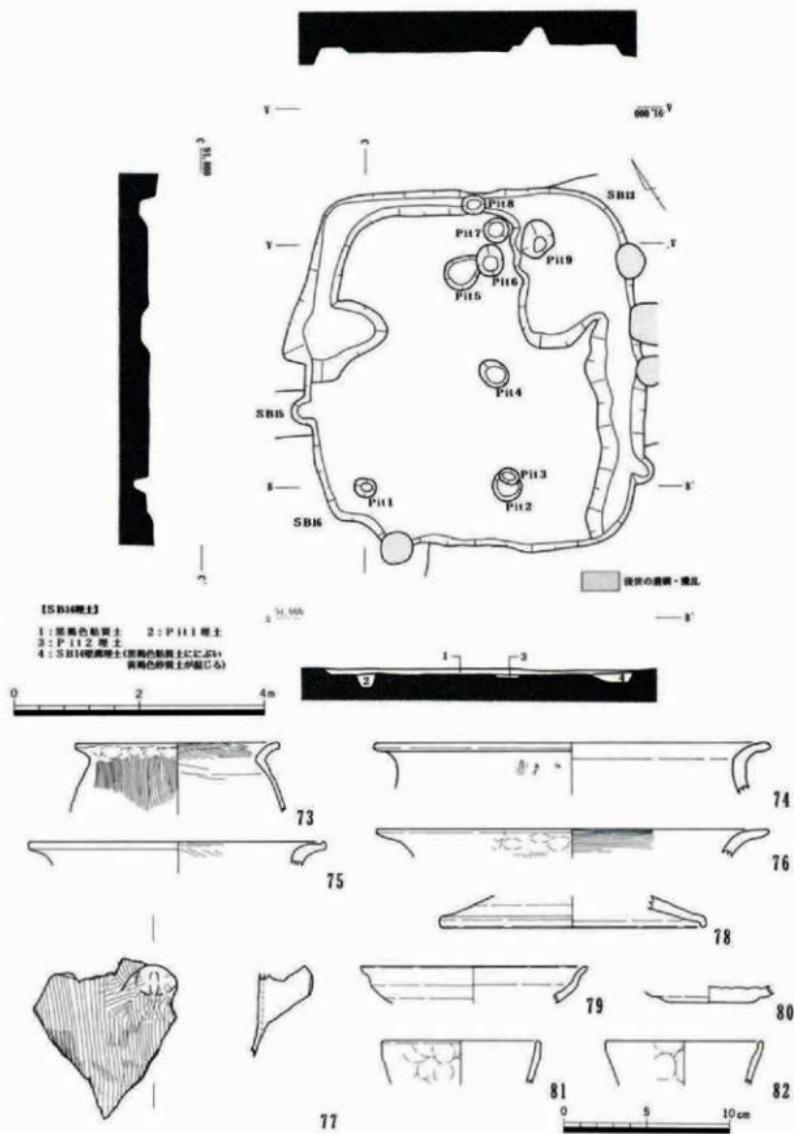
S B13からは遺物が50点出土している。内訳は土師器42点、須恵器2点、山茶碗2点、土師器皿2点で、製塙土器が2点出土している。いずれも小片であり、図示できたのは4点である。そのうち、71の土師器・壺は、口縁部がやや長く、頭部から上方へ立ち上がった後、外反するもので、口縁端部には横方向のナデ調整が施されるが、頭部のかなり上方にまでハケメを残している。川合編年の後VIII期頃の所産と考えられ、69の土師器・壺もほぼ同様の特徴を示す。これらの遺物の年代観と造構の切り合いを考慮し、S B13の帰属する時期を7世紀末～8世紀初め頃と推定した。

## SB14

目次番 号	出土グリッド 番号	規 格(m)		底面の 長 幅 厚 幅 深さ	面 積 底面高	残存率	主 柱 方 位	カマド 有無	位 置 調 査	切 り 合 い 関 係	時 期
		長 幅	幅 厚								
SB14	15 I・J、16 I～K	5.80	5.71	0.14	90.31	28.51	10/10	N-32°-E	無	一 有	>SB12・15・16 8世紀～9世
Pt1	規 格(m)	平 面 形	切 り 合 い 関 係								
Pt1	0.39	0.27	0.21	椭円形							
Pt2	0.52	0.47	0.05	正円形	<Pt1						
Pt3	0.38	0.22	0.19	椭円形	>Pt2						
Pt4	0.46	0.36	0.29	椭円形							
Pt5	0.56	0.45	0.09	椭丸三角形	<Pt6						
Pt6	0.50	0.40	0.38	椭円形	>Pt5						
Pt7	0.36	0.34	0.08	正円形							
Pt8	0.36	0.27	0.21	椭円形							
Pt9	0.37	0.42	0.26	不定形							

S B14はA区の15 I・J、16 I～Kグリッドから検出した。近隣にはSB13・15・16があり、切り合ひ関係は4軒の中で最も新しく、全周をほぼ完全に確認することができた。平面形は隅角を丸くおさめた方形で、5.80×5.71m程の中型の住居跡である。住居内からピット9基を検出しているが、いずれも主柱穴と推定するには位置的に不自然で、特にPt3・4・6などは、SB14の中央にほぼ等間隔に並び、後世の柱列（杭列）の可能性も考えられる。カマドは確認できなかったが、壁溝らしき掘り込みが東・北壁・西壁の北約1/2から検出されている。巾は50cm前後とやや広く、深さは20cm前後を計る。北東の隅で大きく内側に広がるのは、この辺りに後世の造構があったためと思われる。

S B14からは遺物が201点出土している。内訳は土師器154点、須恵器33点、山茶碗3点、中・近世器1点、製塙土器が10点で、その他の遺物として打製石斧が1点出土している。図示した10点の遺物のうち、73の土師器・壺は口縁部が比較的短く、頭部くびれ部から直接屈曲する形状で、口径が12.4cmとやや小さく、長胴壺が小型化する時期（牧野小山編年の第6～7期）のものと思われる。74の土師器・壺は口縁部が頭部からわずかに上方に立ち上がった後、直角に近い角度で外傾する形状で、76の土師器・壺は口縁部が上方に立ち上がった後、外反気味になる形状と推測される。どちらも牧野小山編年の第7期頃の所産と考えられる。78の須恵器・壺蓋はやや高い天井部から直線的に口縁部にい



第23図 SB14実測図及び出土遺物

たり、端部に近い所でわずかに上反する。口縁部は短めにゆるく折り返され、端部は丸く仕上げられる。美濃須衛編年のIV期-第2～3小期頃の所産と考えられる。79は須恵器の高杯と思われる。口縁部がS字状にゆるく屈曲する形状で、猿投編年の第Ⅲ期-第3～4小期頃の所産と思われる。77は甕あるいは瓶の把手である。いわゆる「牛角状」の太く強固な作りで、把手の上面に浅い切り込みが入れられている。これらの遺物の年代観と造構の切り合いを考慮し、SB14の帰属する時期を8世紀前半～中頃と推定した。

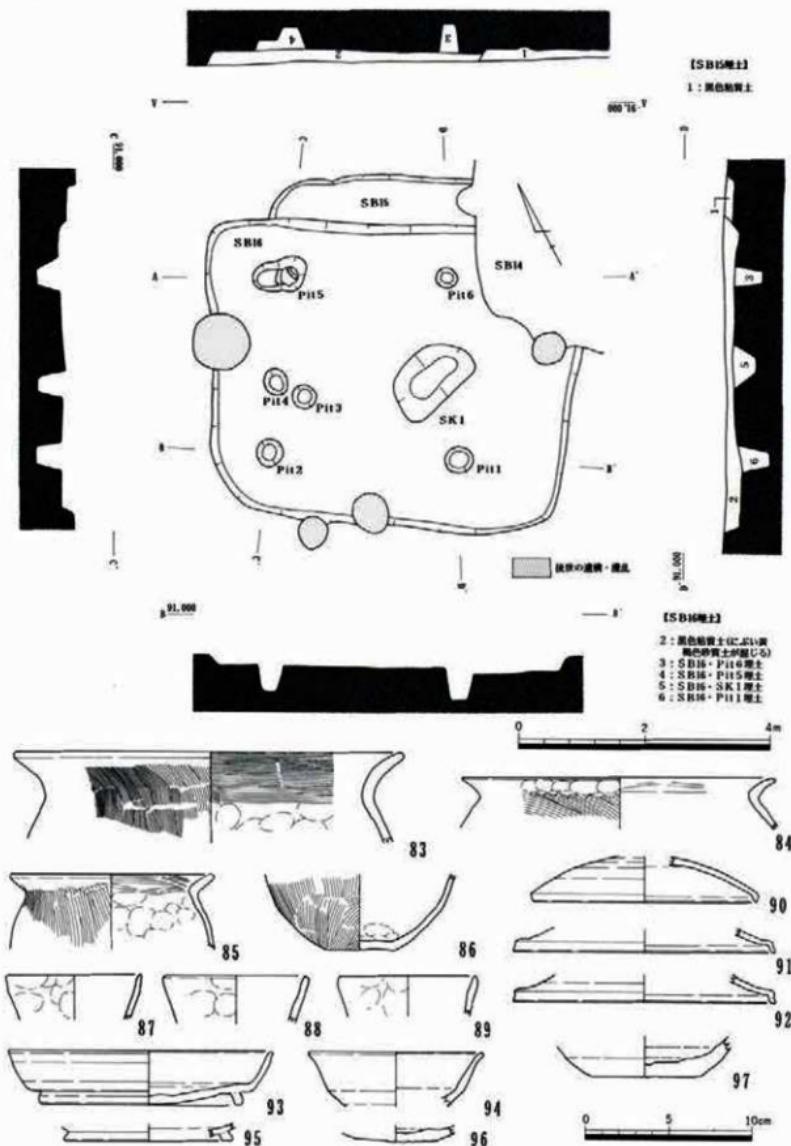
## SB15・16

住居跡 番号	出 土 グ リ ッ ド	面 積(m <sup>2</sup> )		床面の 面 積	残存率	主 構 方 位	カマド	壁 有無	位置 南	切 り 合 い 围 体 (>切る、<切られる)	時 期
		長 軸	短 軸	深さ	绝对高	有無	位置	有無	位置	南	時 期
SB15	H1. 15I・J	3.32	0.74	0.10	98.24	2.16	1/10	N-33°-E	不明	-	<SB14・16 8世紀中期
住居跡 番号	出 土 グ リ ッ ド	面 積(m <sup>2</sup> )	床面の 面 積	残存率	主 構 方 位	カマド	壁 有無	位置 南	切 り 合 い 围 体 (>切る、<切られる)	時 期	
SB16	H1-K. 15I-K	6.05	1.66	0.10	98.19	24.76	9/10	N-33°-E	無	-	>SB15. <SB14 8世紀中期
SB15	面 積(m <sup>2</sup> )	平 面 形	切 り 合 い 围 体 (>切る、<切られる)			出 土 遺 物 (破 片 等)					備 考
SB16	長 軸 短 軸 深さ	正 円 形				土師器(変1)					
SK1	1.39	0.82	0.49	楕丸長方形		土師器(変1)					
Pit1	0.44	0.38	0.52	椭円形		土師器(変1)					主柱穴
Pit2	0.41	0.38	0.39	正円形							主柱穴
Pit3	0.37	0.37	0.22	正円形							
Pit4	0.40	0.36	0.40	正円形							
Pit5	0.87	0.50	0.50	不定形							主柱穴
Pit6	0.30	0.29	0.45	正円形							主柱穴

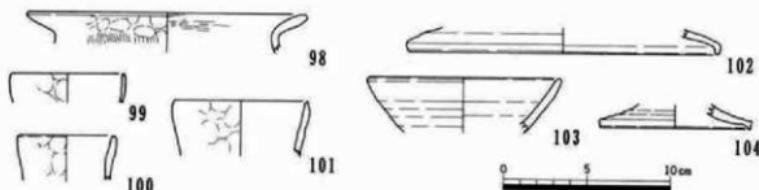
SB15・16はA区の14I～J、15I～Kグリッドから検出し、SB14の西に位置する。SB15は造構の大半をSB14・16に切られており、確認できたのは全体の1/10程度と推測される。北西の隅が残っており、平面形は隅角を丸くおさめた方形と考えられるが、規模は不明である。カマド、柱穴、壁溝などは確認できなかった。

SB16は北東の隅をSB14に切られているが、その他は比較的のプランが明確に検出されており、平面形は6.05×4.86m程の隅角をやや丸くおさめた長方形に近い方形で、中型の住居跡と考えられる。住居内から土坑1基、ピット6基を検出して、位置的に見て、Pit1・2・5・6が主柱穴と推測される。カマド、壁溝は確認できなかった。

SB16からは遺物が395点出土している。内訳は土師器311点、須恵器49点、山茶碗4点で、製塙土器が31点出土している。図示したのは15点で、そのうち83点の土師器、甕はやや長い口縁部が外反して立ち上がる形状で、口縁部には横方向のナデ調整が施されるが、頭部のかなり上方にまでハケメを残している。川合編年の後VII期頃の所産と考えられる。84の土師器、甕は比較的短い口縁部が頭部くびれ部から直接屈曲する形状で、体部外面にはやや粗いハケメが残る。85の土師器、甕の形状も84とほぼ同様であるが、口径が12.3cmと小振の作りとなる。ともに牧野小山編年の第6～7期頃の所産と考えられる。86の土師器、甕は底径が4.1cmと小さく、いわゆる「相欠はぎ接合」技法は確認できなかった。牧野小山編年の第7期、川合編年の後IX期頃の所産と考えられる。90の須恵器、壺蓋は丸みをおびた天井部から、口縁部が下方に折り返される形状で、口縁端部の断面形は三角形となる。



第24図 SB15、SB16実測図及びSB16出土遺物



第25図 SB15出土遺物

91・92の須恵器・壺蓋はやや高い天井部から直線的に口縁部にいたり、端部に近い所でわずかに上反する。折り返しは比較的長く、端部は大きく外反して丸くおさめられる。美濃須衛編年のIV期-第2～3小期頃の所産と考えられる。93の須恵器・壺身は底部が下方に垂下し、内縫気味の比較的長い高台がやや内側に付けられるため、腰部が張り出し、にぶい稜を形成する。美濃須衛編年のIV期-第2小期頃の所産と考えられる。これらの遺物の年代観と遺構の切り合いを考慮し、SB16の帰属する時期を8世紀中頃と推定した。

SB15からは遺物が74点出土している。内訳は土師器54点、須恵器9点、山茶碗2点で、製塩土器が9点出土している。図示したのは7点で、そのうち98の土師器・壺は短い口縁部が頭部くびれ部から直接屈曲する形状で、端部はわずかに肥厚する。牧野小山編年の第6期頃の所産と考えられる。102の須恵器・壺蓋は天井部に張りをもち、口縁部がゆるやかに折り返される。美濃須衛編年のIV期-第1小期頃の所産と考えられる。104の須恵器・高杯は据部が強く横に開き、端部は下方に短く折り返され、断面形は三角形となる。端部側面は凹面をなす。美濃須衛編年のIII期-後半～IV期-第1小期頃の所産と考えられる。これらの遺物の年代観と遺構の切り合いを考慮し、SB15の帰属する時期を8世紀前半頃と推定した。

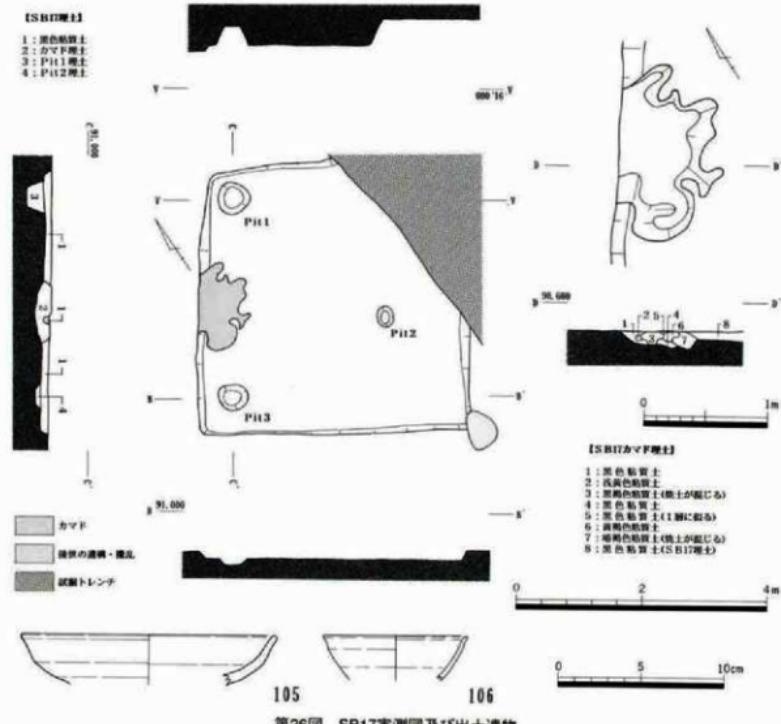
## SB17

目録番 号	出土グリット			規 格(m)		底面の 絶対高	面 積	残存率	主 柱 方 位	カマド 有無	壁 厚	切 り 合 い 関 係 (>切る、<切られる)	時 期
	長 軸	短 軸	深 さ	長 軸	短 軸								
SB17	H-12I、12J	4.45	4.40	6.12	9.24	18.41	8.10	N-	-E	有	西壁		9世紀前半
<b>II期</b>													
P111	0.49	0.45	0.22	平 面 形		切 り 合 い 関 係 (>切る、<切られる)		出 土 遺 物 (破 片 類)		備 考			
P112	0.33	0.24	0.02	楕 円 形									主柱穴
P113	0.39	0.37	0.08	椭 圆 形				土師器(不明)					主柱穴

SB17はA区の11・12I、12Jグリットから検出した。北東隅を試掘トレンチで切られており、残存率は約8/10程と推測されるが、他の住居跡との切り合い関係もなく、残りの隅も検出できることから、平面形は4.45×4.40m程の方形で、中型の住居跡と考えられる。住居内からピット3基を検出しており、Pit1・3が主柱穴の候補となるが、それに対応する南東の柱穴は検出できなかった。西壁の

ほぼ中央にカマドが造られている。焼土が不定形の小山状に盛り上がって残っていただけで、燃焼部や袖部などの形状は明確ではないが、壁に造り付けられる、川合分類のAタイプに該当すると思われる。他の住居跡のカマドと同様の「粘土カマド」で、上部構造は削平のために不明であるが、下部構造は地山を浅く掘りくぼめた後、粘土や砂質土を突き固めて造られており、両袖の芯となる石や支脚石、および煙道部は検出されていない。壁溝は確認できなかった。

S B17からは遺物が54点出土している。内訳は土師器39点、須恵器11点、土師器皿2点で、製塩土器が2点出土している。図示できたのは2点で、そのうち105の須恵器・碗は体部が内彎して立ち上がり、口縁部で外反して端部が丸くおさめられる形状で、美濃須衛編年のV期-第1小同期頃の所産と考えられる。106の須恵器・碗は口径8.9cmと小型であるが、口縁端部が外反して玉縁状に丸くおさめられ、無軸ではあるが仄軸陶器の碗に類似する形状で、美濃須衛編年のV期-第1～2小同期、猿投編年の第V期-第1～2小同期（K-14～K-90号窯式期）頃の所産と考えられる。これらの遺物の年代観を考慮し、S B16の帰属する時期を9世紀前半と推定した。

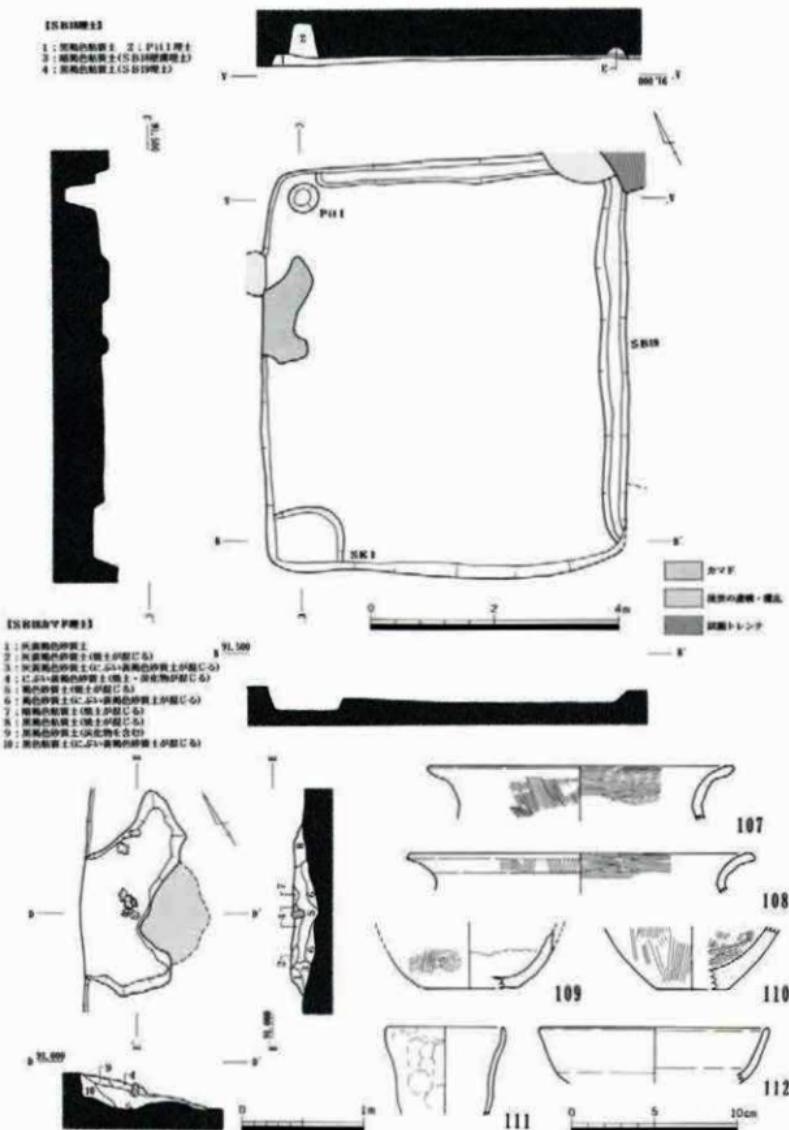


## SB18

登録番号 品目	出土グリッド	面積(m <sup>2</sup> )			床面の 面積	残存率	主軸方位	カマド 有無	壁 構造	切り合ひ 関係 (>切る、<切られる)	時間
		長軸	短軸	深さ							
SB18	5F~H, 6F~H	6.75	5.85	0.25	9.24	38.68	10/10	N-25°-E	有	西壁	有
<b>壁構造</b>											
SK1	1.15	0.45	0.15	西丸力形							
PH3	0.48	0.40	0.52	柱P1							

SB18はA区の5F~H、6F~Hグリッドから検出した。北東隅の一部を試掘トレンチと後世の遺構に切られており、東側にはSB19があるが、SB18がSB19を切っているため、最終的にはほぼ全周を検出することができた。平面形は6.75×5.85m程の長方形に近い方形で、中型の住居跡と考えられる。住居内から土坑1基とピット1基を検出しているが、どちらも主柱穴と推定するには實際に寄りすぎている。西壁の中央からやや北寄りの所にカマドが造られている。壁に造り付けられる、川合分類のAタイプに該当すると思われる。他の住居跡のカマドと同様の「粘土カマド」で、上部構造は削平のために不明であるが、下部構造は地山を浅く掘りくぼめた後、粘土や砂質土を突き固めて造られており、本遺跡における一般的なカマドの造り方を示していると思われる。燃焼部の奥、カマドのほぼ中央の辺りに長さ10cm程の川原石が縦位に立てられているのが確認されている（第27図中のD-D'、E-E'セクション中央の網掛けの部分）が、支脚となる石と考えるには小さく、カマドの埋土中に浮いた状態で地山に接していないことが障害となろう。両袖の芯となる石や煙道部は検出されていない。また、北および東壁の壁際から巾30cm前後、深さ8cm前後を計る、壁構と考えられる掘り込みが検出されている。

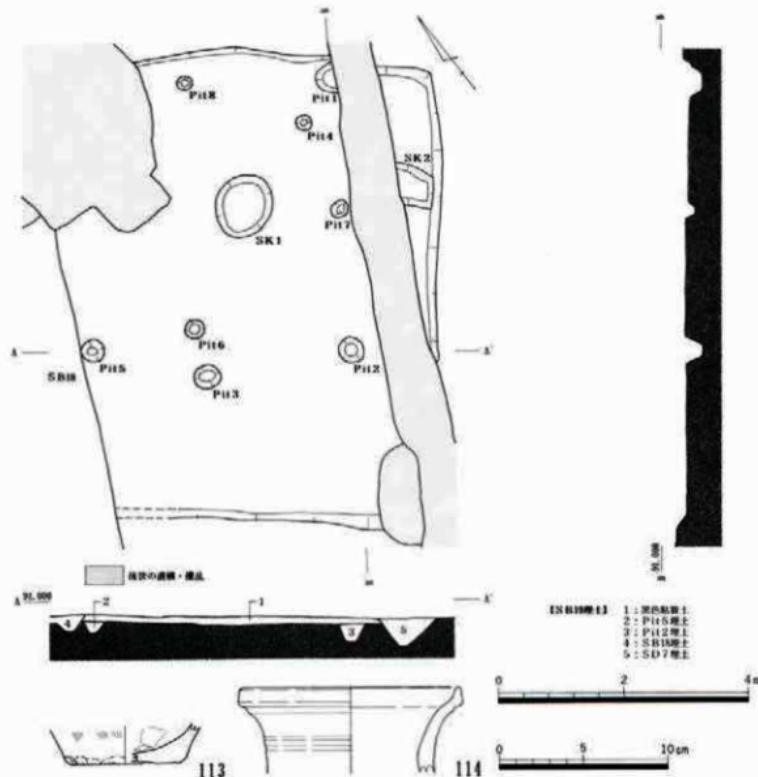
SB18からは遺物が105点出土している。内訳は土師器94点、須恵器4点、山茶碗3点で、製塙土器が4点出土している。図示できたのは6点で、そのうちカマドから出土したのは109の土師器・壺である。表面の摩滅が著しいが、外面には不定方向のハケメが残る。底径5.4cmを計り、「相欠はぎ接合」技法が見られる。牧野小山編年の第6期頃の所産と考えられる。また、107・108の土師器・壺はやや長めの口縁部が上方に立ち上がった後、外反気味になる形状で、どちらも口縁端部付近にはナデを施すが、口縁部の中程までハケメを残している。川合編年の後VIII期頃の所産と考えられ、109の年代観とも矛盾しない。110の土師器・壺は底径4.3cmと小型であるが、底部は厚手の作りで、上記の遺物よりもやや古い要素を感じさせる。112の須恵器・壺身はやや張りをもった腰部から直線的に立ち上がって口縁部にいたり、端部は丸くおさめられる。有高台の壺身と推測され、美濃須衛編年のIV期-第2小期頃の所産と考えられる。これらの遺物の年代観と遺構の切り合ひを考慮し、SB18の帰属する時期を8世紀前半～中期と推定した。



第27図 SB18実測図及び出土遺物

## SB19

目次 番号	出土地点	層			床面の 絶対高	面積	残存率	主軸方位	カマド		壁 構造	切り合ひ箇所 (>切る、<切られる)	時期
		長軸	短軸	深さ					有無	位置			
SB19	6~8G, 6~7H	7.68	6.16	0.20	96.64	32.53	7/10	N-40°→E	不明	-	無	<SB18	8世紀前半
SB19	6~8G, 6~7H	7.68	6.16	0.20	96.64	32.53	7/10	N-40°→E	不明	-	無	<SB18	8世紀前半
SK1		0.95	0.76	0.10									
SK2		0.62	(0.53)	0.10									
Pit1		(0.43)	(0.27)	0.18									
Pit2		0.40	0.36	0.26									
Pit3		0.39	0.34	0.52									
Pit4		0.21	0.18	0.14									
Pit5		0.35	0.29	0.16									
Pit6		0.28	0.26	0.17									
Pit7		0.16	0.16	0.13									
Pit8		0.24	0.20	0.44									



第28図 SB19実測図及び出土遺物

S B19はA区の6~8G、6~7Hグリッドから検出した。S B18の東にあり、西側の1/3程を切られているが、平面形は一辺7.48m程の方形で、大型の住居と考えられる。住居内から土坑2基、ピット8基を検出したが、いずれも主柱穴と推定するには不自然な位置に在る。カマド、主柱穴、壁溝などは確認できなかった。

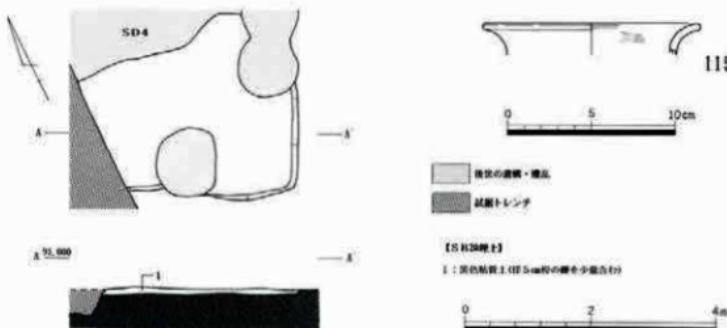
S B19からは遺物が25点出土している。内訳は土師器19点、須恵器3点、灰釉陶器1点、山茶碗1点、中・近世陶器1点で、その他の遺物として打製石斧が1点出土している。図示できたのは2点で、114の須恵器・瓶は口頭部が外反して立ち上がり、上部でさらに強く外反して口縁端部が上方に突き出す形状で、美濃須衛福年のVII期~第一小期頃の所産と考えられる。113の土師器・甕は底部の小片で、やや厚手の作りで底径6.5cmを計る。川合福年の後VII~VIII期頃の所産と思われる。これらの遺物の年代観と遺構の切り合いを考慮し、S B19の帰属する時期を8世紀前半頃と推定した。

#### S B20

目録番号	出土グリッド	面積(m <sup>2</sup> )		床面の 高さ 測定値	面積 占有率	主柱方位	カマド	壁 有無 位置 標	切り合ひ 關係 (△:切る、<:切られる)	時期		
		長軸	短軸									
S B20	9G	2.50	2.95	8.09	98.43	7.84	2/10	N-24°-E	不明	—	無	8世紀~9世紀

S B20はA区の9Gグリッドから検出した。近隣に他の住居跡は無いが、遺構の大半をSD4と試掘トレンチに切られ、南東の隅の一部が確認できただけで、全体の2/10程度と推測される。カマド、主柱穴、壁溝などは確認できなかった。

S B20からは遺物が14点出土している。内訳は土師器8点、須恵器3点、山茶碗2点で、その他の遺物として縄文時代の深鉢が1点出土している。質・量ともに貧弱な内容で、図示できたのは1点だけである。115の土師器・甕はやや長めの口縁部が上方に立ち上がった後、外反気味になる形状と推測され、横方向のナデによって口縁外面のハケメはナデ消されている。川合福年の後VII~VIII期頃の所産と考えられ、この遺物の年代観からS B20の帰属する時期を8世紀前半~中頃と推定した。



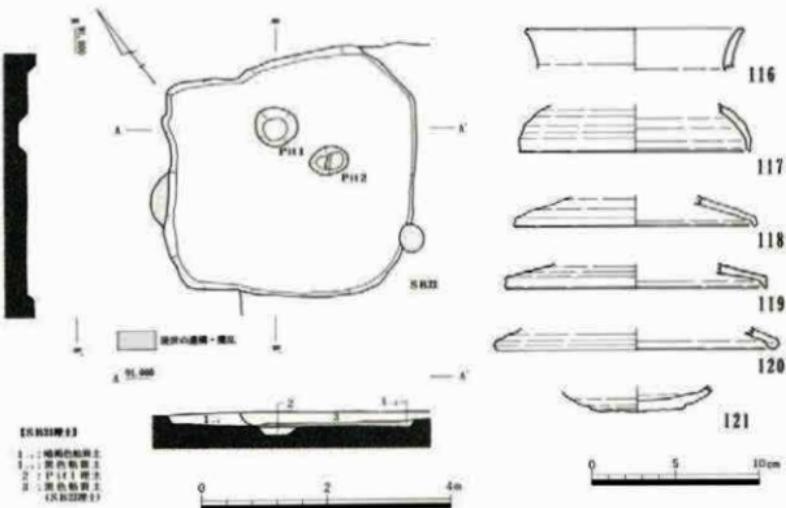
第29図 SB20実測図及び出土遺物

## SB21

目録番 号	出土グリッド 番号	面 積(m <sup>2</sup> )		床面の 高さ 地表高	面 積	残存率	主 軸 方 位	カマド 有無	壁 厚	切り合 い周 縁 (>切る、<切られる)	時 期
		長 軸	短 軸								
SB21	10-HG, 10-11H	4.10	3.99	0.21	96.28	12.01	10/10	N-42°-E	無	-	<SB22
SB22	10-HG, 10-11H	4.10	3.99	0.21	96.28	12.01	10/10	N-42°-E	無	-	<SB21
P111	正 円 形	0.68	0.62	0.12	正 円 形						
P112	椭 圆 形	0.64	0.56	0.62	椭 圆 形						

SB21はA区の10-HG、10-11Hグリッドから検出した。SB22の西に位置し、SB22に東側の約2/3を切られているが、床面がSB22よりも低いため、ほぼ全周を確認することができた。平面形は隅角を丸くおさめた方形で、4.10×3.99m程の小型の住居跡である。住居内からピット2基を検出しているが、どちらも主柱穴と推定するには不自然な位置に在る。カマド、壁溝などは確認できなかつた。

SB21からは遺物が119点出土している。内訳は土師器92点、須恵器19点、山茶碗3点、製塙土器4点で、その他の遺物として縄文時代の深鉢が1点出土している。比較的出土量には恵まれたものの、図示に耐える遺物は6点であった。図示した遺物のうち、118~120の須恵器・坏蓋はいずれもやや高い天井部から直線的に口縁部にいたり、口縁端部を下方に折り返す形状で、118・119の口縁端部の断面形は三角形となる。120の口縁部は内側に折り曲げられ丸く肥厚する。いずれも美濃須衛編年のIV



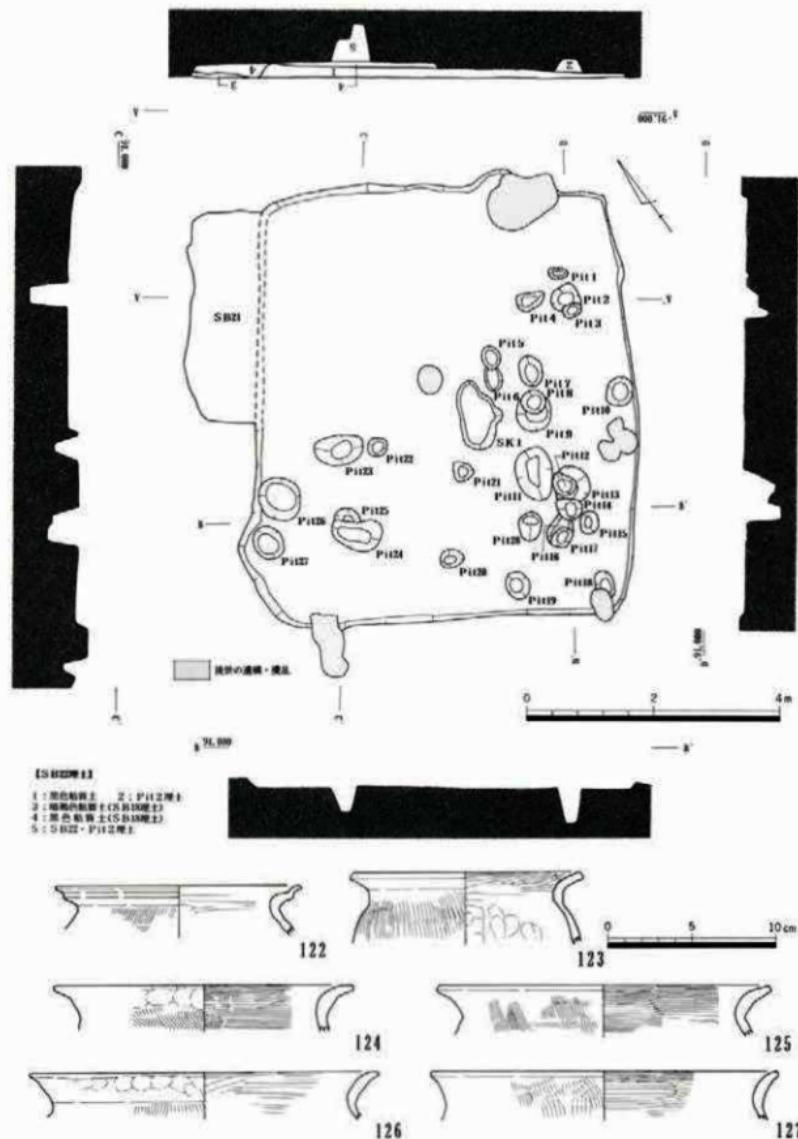
第30図 SB21実測図及び出土遺物

期-第1～2小期頃の所産と考えられる。これらの遺物の年代観と遺構の切り合いを考慮し、SB21の帰属する時期を8世紀前半頃と推定した。なお、117の須恵器・壺蓋は口縁部に返りや折り返しを持たない碗形の壺蓋で、美濃須衛編年のⅢ期-後半頃の所産と考えられ、推定したSB21の年代観よりもやや古い時期のものとなる。

## SB22

住跡番 号	出土グリッド	面 積(m)		床面の 絶対高	面 積	残存率	主 軸 方 位	カマド 有無	壁 材質 (切る、 切られる)	切り合 い関係 (切る、 切られる)	時 期
		長軸	短軸								
SB22	10G～11H・I	7.12	6.38	0.15	90.36	41.33	10/10	N-34°-E	無	-	無 <SB21
<b>主軸方位</b>											
SB22	10G	7.12	6.38	0.15	90.36	41.33	10/10	N-34°-E	無	-	無 <SB21
<b>平面形</b>											
SB22	10G	7.12	6.38	0.15	90.36	41.33	10/10	N-34°-E	無	-	無 <SB21
<b>直角形</b>											
SK1	3.12	0.70	0.38	不 定 形							
Pit1	0.32	0.18	0.09	椭 円 形							
Pit2	0.45	0.45	0.21	椭 丸 三 角 形	< Pit3						主軸六
Pit3	0.30	0.22	0.10	椭 円 形	> Pit2						
Pit4	0.48	0.32	0.64	椭 丸 三 角 形							
Pit5	0.36	0.30	0.45	椭 円 形	> Pit6						
Pit6	0.40	0.28	0.97	椭 円 形	< Pit5						
Pit7	0.50	0.36	0.18	椭 円 形							
Pit8	0.38	0.38	0.54	正 円 形	> Pit9						
Pit9	0.59	0.54	0.27	椭 円 形	< Pit8						
Pit10	0.46	0.42	0.59	正 円 形							
Pit11	0.44	0.58	0.33	椭 円 形							
Pit12	0.40	0.32	0.53	椭 丸 三 角 形	> Pit13						
Pit13	0.64	0.58	0.38	椭 円 形	< Pit12・14						
Pit14	0.42	0.32	0.57	椭 丸 三 角 形	> Pit13・16						主軸六
Pit15	0.36	0.30	0.25	椭 円 形							
Pit16	0.58	0.36	0.21	椭 円 形	< Pit14・17						
Pit17	0.34	0.30	0.55	椭 円 形	> Pit16						
Pit18	0.48	0.30	0.18	椭 円 形							
Pit19	0.42	0.38	0.41	椭 円 形							
Pit20	0.38	0.39	0.12	椭 円 形							
Pit21	0.35	0.32	0.07	椭 丸 三 角 形							
Pit22	0.36	0.28	0.11	椭 丸 方 形							
Pit23	0.78	0.46	0.70	椭 円 形							
Pit24	0.60	0.52	0.47	椭 円 形	> Pit25						
Pit25	0.44	0.34	0.40	正 円 形	< Pit24						主軸六
Pit26	0.73	0.66	0.44	正 円 形							
Pit27	0.56	0.46	0.13	椭 円 形							

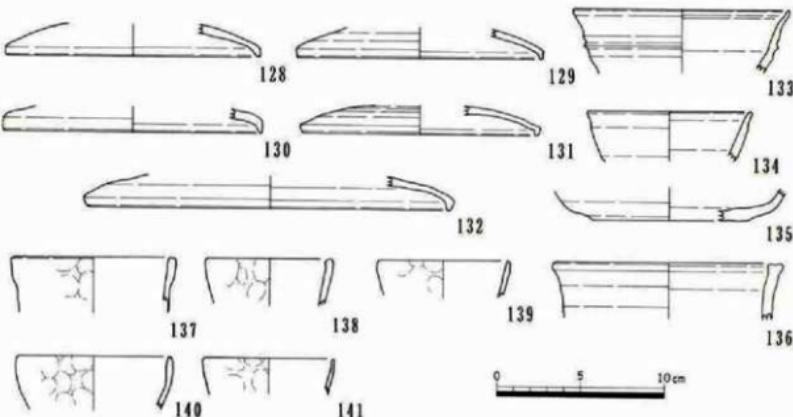
SB22はA区10G～I、11H・Iグリッドから検出し、西側にはSB21がある。SB21との境界は不明瞭であるが、SB22がSB21を切っていることから、ほぼ全周を明らかにすることができた。平面形は南西隅のみを丸くおさめた、南北方向にやや長い方形で、7.12×6.38m程の大型の住居跡と考えられる。住居跡内から土坑1基、ピット27基を検出している。第6図に見るよう、SB22の周辺には掘立柱建物が建ちそうな柱(杭)列が何基か分布しており、中には後世の遺構も多数含まれるものと思われる。特にPit4・7・8・9・11・19・28などは、ほぼ等間隔で一列に並んでおり、後世の柱(杭)列の可能性が考えられる。位置的に見て、Pit2・14・25が主柱穴の候補となろう。なおこれ



第31図 SB22実測図及び出土遺物 (1)

らに対応する北西の柱穴については、SB21のPit2が調度良い場所に位置するが、SB22の主柱穴とする確認は得られなかった。カマド、壁溝などは確認できなかった。

SB22からは遺物が809点出土している。内訳は土師器622点、須恵器87点、灰釉陶器2点、山茶碗11点、製塙土器77点で、その他の遺物として縄文時代の深鉢8点と打製石斧が2点出土している。出土量には恵まれたが、残存率の低い遺物が多く、図示したのは20点である。図示した遺物のうち、122のS字甕は残存率2/12程の小片であるが、屈曲部に横ハケを残しており、B類の範疇に入るものと考えられる。123～127は土師器・甕で、いずれも口縁部が頭部からわずかに上方に立ち上がった後、外反気味になる形状で、立ち上がった後の部分は比較的短い。124・125・127は頭部のかなり上部までハケメが残されており、124・126は口縁外面に指頭圧痕がかすかに残る。口径18.0～21.1cmを計るが、123は13.8cmと小振を作りとなる。いずれも川合編年の後VIII～IX期、牧野小山編年の第6～7期頃の所産と考えられる。128～132の須恵器・坏蓋はいずれも天井部に丸みを持ち、口縁端部を短く下方に折り返す形状で、128は折り返しがゆるく、129・130はほぼ垂直で、131・132は強く折り返される。いずれも美濃須南編年のIV期～第2～3小期頃の所産と考えられる。133の須恵器・無蓋高坏は口縁部が外反気味にやや外に開き、内面にはにぶい稜を有する。端部は丸く仕上げられるが、口唇部内面が浅くくぼめられる。口縁部外面の下には相対的な凸線が2条巡らされていたと推測されるが、上方の1条しか残っていない。猿投編年の第II期～第3小期頃の所産と考えられる。136の須恵器鉢は体部が外反気味に立ち上がって口縁部にいたり、端部が肥厚して上面にややくぼんだ面をなす形状で、猿投編年の第IV期～第1～2小期頃の所産と考えられる。これらの遺物の年代観と遺構の切り合いを考慮し、SB22の帰属する時期を8世紀中頃と推定した。従って122のS字甕は後世の混入と考えたい。

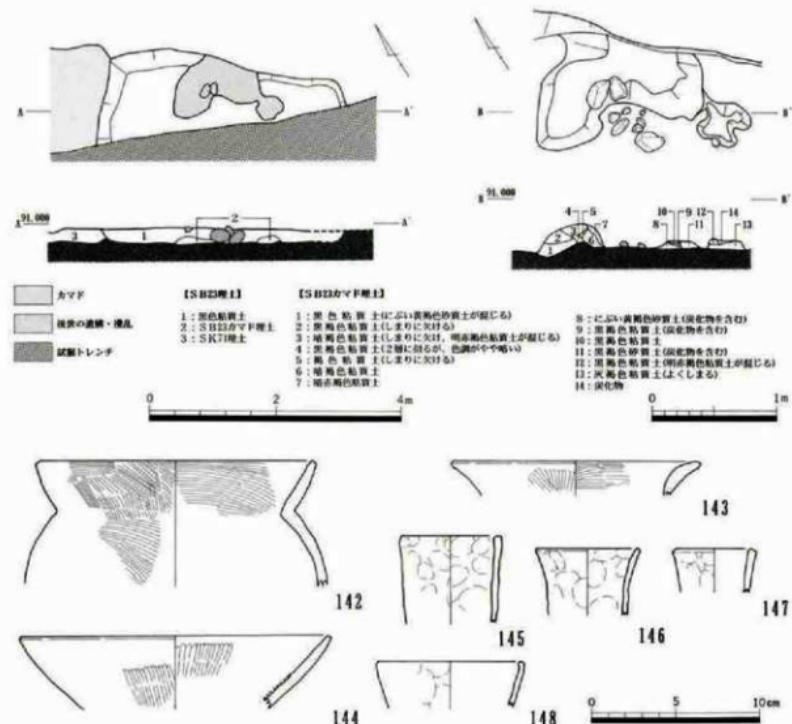


第32図 SB22出土遺物 (2)

## SB23

住居跡 番号	出土 グリッド	面 積(m <sup>2</sup> )	床面の 長 幅 深さ 绝对高	面 積	残存率	主 軸 方 位	カマド 有無	壁 厚	切 り 合 い 関 係	時 期
SB23	2・3K	4.00	1.35 0.30 99.61	1.85	3/10	N-44°-E	有	北壁	>切る。<切られる	8世紀終~9世紀初

SB23はA区2・3Kグリッドから検出した。遺構の大半が調査区外にあり、確認できたのは全体の3/10程度と推測されるが、平面形は隅角をやや丸くおさめた方形で、一辺4.00m程の小型の住居跡と考えられる。住居内からピットや壁溝は確認できなかったが、北壁のほぼ中央にカマドが造られている。壁に造り付けられるもので、川谷分類のAタイプに該当する。燃焼部も含めて、地山をほとんど掘りくぼめずに粘土や砂質土を突き固めて造られている。両袖の芯となる石や煙道部は検出されていないが、燃焼部の奥に長さ20cm程の川原石が立てられており、支脚のための石と思われる。



第33図 SB23実測図及び出土遺物

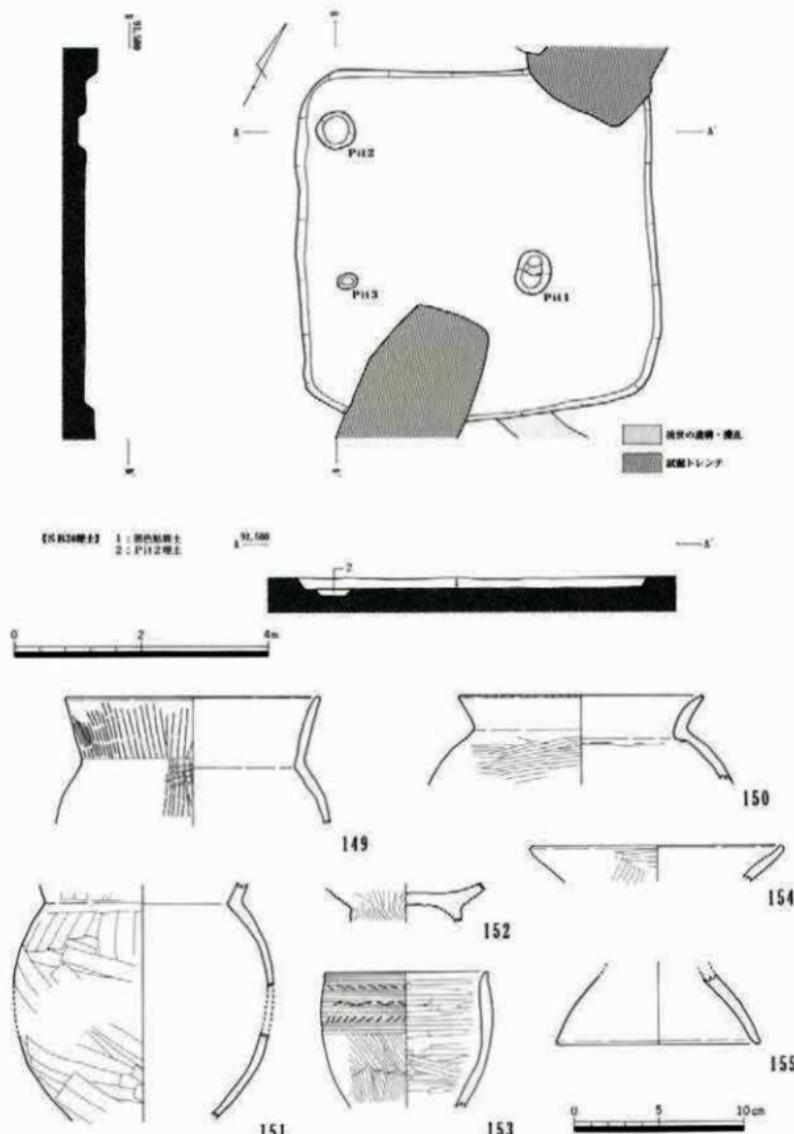
S B23からは遺物が204点出土している。内訳は土師器101点、須恵器16点、山茶碗18点、土師器皿13点、中・近世陶器1点で、製塙土器が48点と全体の1/4近くを占める点が注目される。その他の遺物として縄文時代の深鉢が6点出土している。いずれも小破片が多く、図示できたのは7点で、そのうちの4点が製塙土器である。図示した遺物のうち、カマドから出土したのは145・146の製塙土器で、住居跡の年代を推定できる資料に乏しいが、142の土師器甕は口縁部がく字状に立ち上がる形状で、口縁部外面にも横および斜方向のハケメが残される。143の土師器・甕は14.7cmとやや小振りの作りで、口縁部が頭部くびれ部からわずかに立ち上がった後、外反気味となる形状で、立ち上がった後の部分は比較的短い。142は川合編年の後VII～VIII期頃、143は川合編年の後VIII～VX期頃の所産と思われる。これらの遺物の年代観を考慮し、S B22の帰属する時期を8世紀前半～中頃と推定した。なお、144の土師器・高杯は比較的浅く大きく外傾する坏部をもつもので、体部の内・外面ともに綫方向のミガキが施される。廻間II式後半頃の所産と考えられ、後世に混入したものと考えたい。

## S B24

住居跡 番号	出 土 グ リ ッ ド	概 (m)			床面の 絶対高	面 縞	残存率	主 軸 方 位	カマド	壁 有無	切 り 合 い 間 隙 (>切る、<切られる)	時 期
		長 軸	短 軸	深さ								
S B24	4H～J、5H～I	5.68	5.62	0.17	90.80	38.27	9/10	N-64°-E	無	一	無	3世紀後半
<b>計 算</b>												
Pit 1	0.71	0.53	0.26	椭 円 形								
Pit 2	0.26	0.21	0.19	椭 円 形								
Pit 3	0.55	0.52	0.09	椭 円 形								

S B24はA区の4 H～J、5 H～Iグリッドから検出した。他の住居跡とやや離れて単独で存在する。北東の隅と南壁の一部が試掘トレンチに切られているが、ほぼ全周を確認することができた。平面形は隅角をやや丸くおさめた方形で、5.68×5.62m程の中型の住居跡である。住居内からピット3基を検出しているが、いずれも主柱穴と推定するには不自然な位置に在る。カマド、壁溝などは確認できなかった。

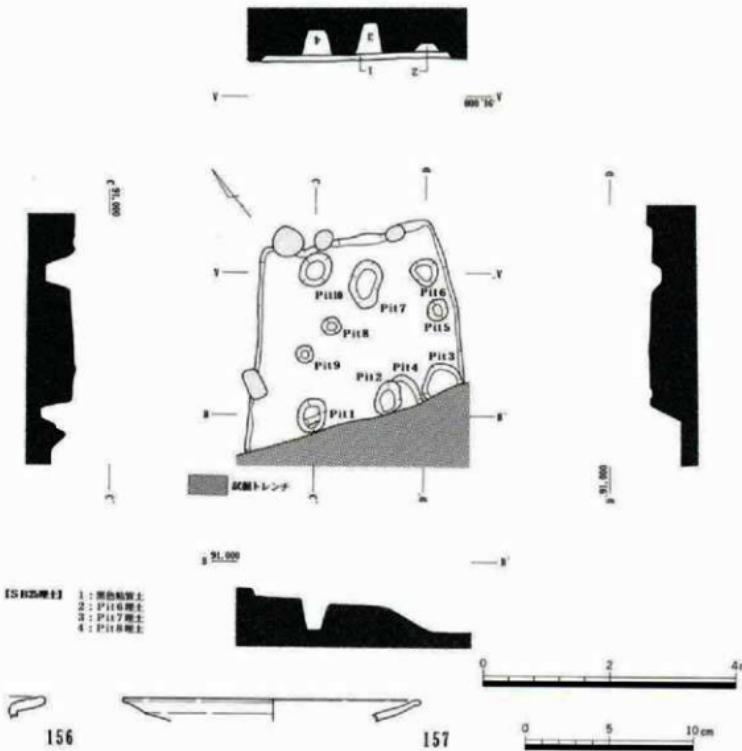
S B24からは遺物が121点出土している。内訳は古墳時代の土師器25点、古代の土師器50点、須恵器8点、山茶碗3点、土師器皿1点、製塙土器2点で、その他の遺物として縄文土器31点と打製石斧1点が出土している。図示したものは7点である。149の土師器・甕はやや長い口縁部が外傾して立ち上がり、外面には綫方向の条状のクシメがいれられたもので、いわゆる「条痕文系土器」の系譜をひく遺物である可能性もあるが、結論を出すにはさらに検討が必要であろう。152はS字甕の胸部と脚部の接合部である。153の内唇短頭甕は口縁部端部から下約1/3の部分に4段にわたって横線を20条巡らし、その間に3段に斜方向のキザミを施している。口縁部の外・内面ともに横および斜方向の丁寧なミガキで仕上げられている。廻間II式-3～4段階頃の所産と考えられる。154・155の器台も同様に廻間II式-3～4段階頃の所産と考えられる。S B24からは縄文中期、廻間II式期、8世紀代と各時期の遺物が出土しているが、廻間II式期に帰属する遺物が、セットとして比較的まとまって出土している点を重視し、S B24の帰属する時期を3世紀前半頃と考えたい。



第34図 SB24実測図及び出土遺物

## SB25

柱脚 番号	出土グリッド	規 格(m)			床面の 絶対高	面 構	残存率	主 構 方 位	カマド 置 有無	切 り 合 い 固 体 (>切る、<切られる)	時 期
		長軸	短軸	深さ							
SB25	7・BM	3.62	1.39	0.19	90.42	9.29	8/10	N-23°-E	不明	-	9世紀前半
柱脚	規 格 (m)	平面形	切り合ひ関係 (>切る、<切られる)								
Pit1	0.50	0.36	0.32	楕円形							
Pit2	0.52	0.42	0.45	楕円形	>Pit4						
Pit3	0.57	0.47	0.46	正円形							
Pit4	0.50	0.54	0.12	楕円形	<Pit2						
Pit5	0.32	0.28	0.49	楕円形							
Pit6	0.38	0.37	0.12	椭丸三角形							
Pit7	0.72	0.41	0.44	楕円形							
Pit8	0.26	0.24	0.09	正円形							
Pit9	0.23	0.21	0.21	正円形							
Pit10	0.43	0.43	0.35	正円形						土器(変1)、酒器(不明1)	



第35図 SB25実測図及び出土遺物

S B25はA区の7・8Mグリッドから検出した。近隣にはS B26やS B32などがあるが、他の住居跡との切り合い関係はなく、単独で存在する。南側が試掘トレンチに切られるため、確認できたのは全体の8/10程度と推測される。平面形は南北にやや長い方形で、一辺3.62m程の小型の住居跡と考えられる。住居内からピット10基を検出している。主柱穴としてはPit1・6・10が候補となるが、Pit1を除いて、いずれも主柱穴と推定するにはやや不自然な位置に在る。カマド、壁溝などは確認できなかった。

S B25からは遺物が26点出土している。内訳は土師器7点、須恵器8点、灰釉陶器1点、山茶碗7点、中・近世陶器3点である。質・量ともに貧弱で、図示できたものは2点である。図示した遺物のうち、156の土師器・壺は短い口縁部が頭部くびれ部から直接屈曲する形状で、屈曲する角度は鋭角で口縁部はほぼ水平に聞く。牧野小山編年の第8期頃の所産と考えられる。157の灰釉陶器・壺は口縁部の小片で灰釉の発色も不安定であるが、腰部から内骨気味に体部が立ち上がり、中央の辺りで一度ゆるく屈曲し、口縁部は外反して玉縁状に丸く仕上げられる。猿田編年の第V期-第1~2小期頃(K-14~K-90号窓式期)頃の所産と考えられる。これらの遺物の年代観を考慮し、S B25の帰属する時期を9世紀前半頃と推定した。

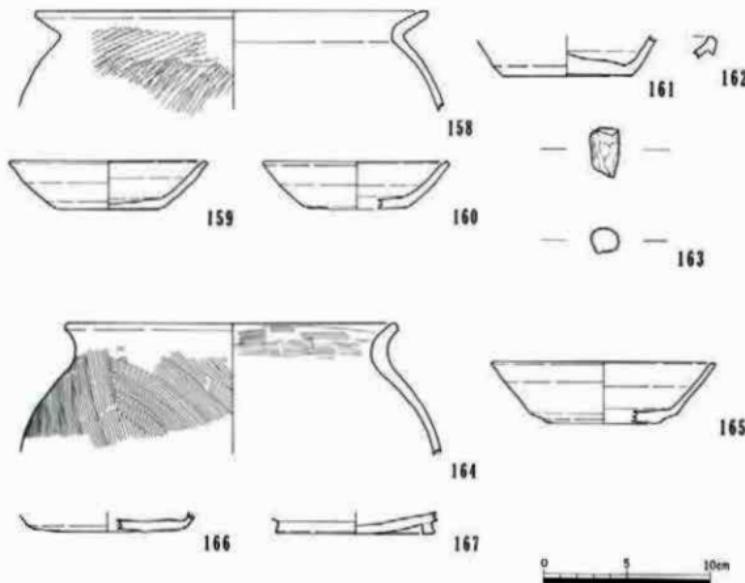
### S B26・27

遺跡 番号	出土グリッド	規格(m)		床面の 高さ	面積	残存率	主柱方位	カマド	壁	切り合ひ開溝	時 期
		長 幅	短 幅								
S B26	7L・M	3.19	2.06	0.19	90.52	8.77	10/10	N-23°-E	無	一 無	<SB27
S B26	規 格 (m)	平 面 形		切り合ひ開溝 (>切る、<切られる)		出 土 遺 物 (破 片 数)		時 期		無	
Pit1	0.29	0.19	0.12	壺 内 形							
Pit2	0.78	0.38	0.18	壺 内 形							
Pit3	0.42	0.38	0.20	壺 内 形							
Pit4	0.46	0.58	0.41	瓶 丸 方 形							
Pit5	0.45	0.38	0.14	壺 内 形							
Pit6	0.34	0.24	0.15	壺 内 形							
S B27	出土グリッド	規 格 (m)		床面の 高さ	面積	残存率	主柱方位	カマド	壁	切り合ひ開溝	時 期
S B27	7L・M, 8L・M	3.25	2.24	0.12	99.06	10.20	10/10	N-44°-E	無	一 無	>SB26
S B28	規 格 (m)	平 面 形		切り合ひ開溝 (>切る、<切られる)		出 土 遺 物 (破 片 数)		時 期		無	
Pit1	0.59	0.46	0.51	壺 内 形							
Pit2	0.82	0.60	0.35	瓶 丸 角 形							
Pit3	0.65	0.50	0.35	壺 内 形							
Pit4	0.58	0.22	0.12	壺 内 形	>Pit5						
Pit5	0.66	0.55	0.16	不定 形	>Pit10, <Pit4						
Pit6	0.42	0.35	0.12	壺 内 形							
Pit7	0.65	0.52	0.41	壺 内 形							
Pit8	0.45	0.34	0.12	瓶 丸 角 形	>Pit10, <Pit9						
Pit9	0.38	0.22	0.28	壺 内 形	>Pit8-10						
Pit10	0.38	0.48	0.14	壺 内 形	<Pit5-S-9						

S B26・S B27はA区の7L・M, 8L・Mグリッドから検出した。S B25の西側に位地し、北側にはS B28がある。さらにその北にはS B29・30・31があり、これらの住居跡で一つのグループを形



AKS B26 (158~163)・SB27 (164~167)



第36図 SB26・SB27実測図及び出土遺物

成しているかの觀がある。SB26はSB27・28との境目が不明瞭で、床面の高さもほぼ同じため、プランの復元には苦慮した。西壁および北西と南西の隅が確認されていることから、平面形は隅角を丸くおさめた方形で、一辺3.19m程の小型の住居跡と推定した。住居跡内からピットを6基検出しているが、いずれも主柱穴と推定するにはやや不自然な位置に在る。カマド、壁溝などは確認できなかつた。

SB27は南東の隅を後世の造構(SK118・119)に切られており、SB26・28との境目も不明瞭で、結果的に南壁の一部が確認できただけである。SB26と同様にプランの復元には苦慮したが、第36図のA-A'セクションに見るように、SB27がSB26を切っていることから、この辺りに西壁があつたであろうと判断し、検出できた南壁に直交するように西壁のラインを復元した。さらにSK118・119より東ではSB27の痕跡が確認できないことから、北東の隅および東壁がこのSK118・119の辺りにあったと判断し、かなり大胆な復元ではあるが、平面形は隅角をやや丸くおさめた方形で、一辺3.35m程の小型の住居跡と推定した。住居跡内からピットを10基検出している。特に南側にあるPit4・5・8・9・10は切り合いが激しいが、位置的に見て、Pit1・Pit4・Pit8あるいは9が主柱穴の候補となろう。なお、これらに対応する南西の柱穴は検出できなかつた。カマド、壁溝などは確認できなかつた。

SB26からは遺物が66点出土している。内訳は土師器39点、須恵器23点、山茶碗1点、中・近世陶器2点で、製塙土器が1点出土している。図示できたものは6点で、図示した遺物のうち、158の土師器・甕は短い口縁部が頸部くびれ部から直接屈曲する形状で、屈曲する角度はほぼ直角に近い。体部外面には斜方向のハケメが残り、口縁部外・内面のハケメは横方向のナデによってナデ消されていいる。川合編年の後VIII期、牧野小山編年の第6期頃の所産と考えられる。159・160の須恵器・坏身は無高台の碗形の坏身で、底部外面にはヘラ切りによる渦巻き状の痕跡が残る。体部は内壁気味に外に開き、口縁部に行くにしたがってわずかに厚さを減じ、端部は丸く仕上げられる。いずれも美濃須衛編年のIV期-第一小期頃の所産と考えられる。162は須恵器の瓶類と思われる。口縁端部は上方に肥厚し、下方に断面三角形形状に垂下して棱を形成する。口端面は凸面をなす。163の製塙土器は知多式4類系の脚部である。これらの遺物の年代観と造構の切り合いを考慮し、SB26の帰属する時期を8世紀前半頃と推定した。

SB27からは遺物が65点出土している。内訳は土師器36点、須恵器23点、山茶碗5点で、製塙土器が1点出土している。図示できたものは4点で、図示した遺物のうち、164の土師器・甕は口縁部が短く外反するもので、口縁部外面のハケメは横方向のナデによってナデ消されているが、内面には横方向のハケメが残る。川合編年の後VIII期、牧野小山編年の第6期頃の所産と考えられる。165の須恵器・坏身は無高台で、ほぼ平らな底部から直線的に体部が立ち上がり、口縁部はかすかに外反して端部は丸く仕上げられる。美濃須衛編年のIV期-第一~2小期頃の所産と考えられる。167の須恵器・坏身は有高台で、底部は下方に垂下し、高台は貼り付けにより端部が外側に突きだす。底部外面には回転ヘラ削りを行い、内面中央部は指頭のよるナデによって浅くくぼむ。美濃須衛編年のIV期-第一~2小期頃の所産と考えられる。これらの遺物の年代観と造構の切り合いを考慮し、SB27の帰属する時期を8世紀前半~中頃と推定した。

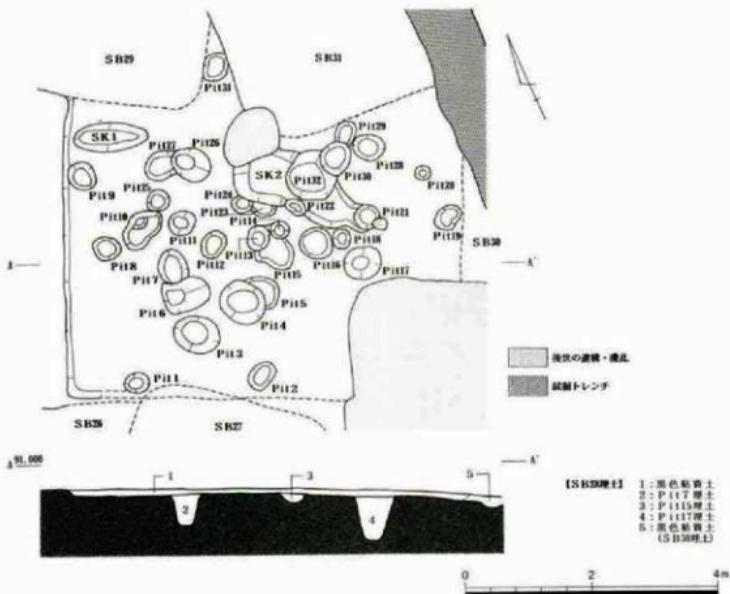
## SB28

住居跡番号	出土グリッド	面積(m)			床面の絶対高	面積(m <sup>2</sup> )	既存率	土地方位	カマド	壁	切り合ひ關係	跡	
		長軸	短軸	深さ									
SB28	7L・K、8L・K	6.44	6.05	0.08	96.92	29.46	7/10	N+24°-E	不明	-	無	>SB30、<SB29・31	丁世紀後半
SB30	規格	(m)											
	長軸	短軸	深さ		平面形	切り合ひ關係							
						(>切る、<切られる)							
SK1	1.18	0.46	0.46		椭円形								
SK2	2.46	0.94	0.49		不定形	>Pit23・24、<Pit21・22・32							
Pit1	0.40	0.32	0.14		椭円形								
Pit2	0.50	0.38	0.13		椭丸長方形								
Pit3	0.78	0.54	0.35		椭円形								
Pit4	0.77	0.65	0.66		椭円形	>Pit5							
Pit5	0.30	0.25	0.29		椭円形	<Pit4							
Pit6	0.74	0.54	0.58		椭丸長方形	>Pit7							
Pit7	0.50	0.46	0.48		椭円形	<Pit6							主柱穴?
Pit8	0.40	0.40	0.11		椭丸方形								
Pit9	0.50	0.42	0.23		椭円形								
Pit10	0.74	0.46	0.22		不定形								
Pit11	0.40	0.40	0.24		正円形								後世の遺構
Pit12	0.45	0.35	0.17		椭円形								
Pit13	0.38	0.37	0.37		正円形	>Pit15							後世の遺構
Pit14	0.28	0.27	0.40		正円形	>Pit15							後世の遺構
Pit15	0.78	0.60	0.11		不定形	<Pit13・14							後世の遺構
Pit16	0.55	0.59	0.14		正円形								
Pit17	0.60	0.52	0.09		椭円形								主柱穴?
Pit18	0.30	0.28	0.23		正円形								
Pit19	0.46	0.38	0.18		不定形								
Pit20	0.26	0.24	0.38		正円形								
Pit21	0.40	0.40	0.51		正円形	>SK2							
Pit22	0.34	0.24	0.28		椭円形	>SK2							
Pit23	0.45	0.32	0.14		椭円形	<SK2・Pit24							
Pit24	0.28	0.28	0.19		椭丸方形	>Pit24、<SK2							
Pit25	0.34	0.34	0.14		正円形								
Pit26	0.65	0.52	0.67		椭円形	>Pit27							後世の遺構
Pit27	0.45	0.45	0.11		椭円形	<Pit26							後世の遺構
Pit28	0.52	0.42	0.23		椭円形								
Pit29	0.45	0.32	0.05		椭円形	<Pit28							
Pit30	0.55	0.50	0.15		椭円形	>Pit29・32							
Pit31	0.42	0.38	0.15		椭丸長方形								
Pit32	0.62	0.76	0.55		正円形	>SK2、<Pit30							

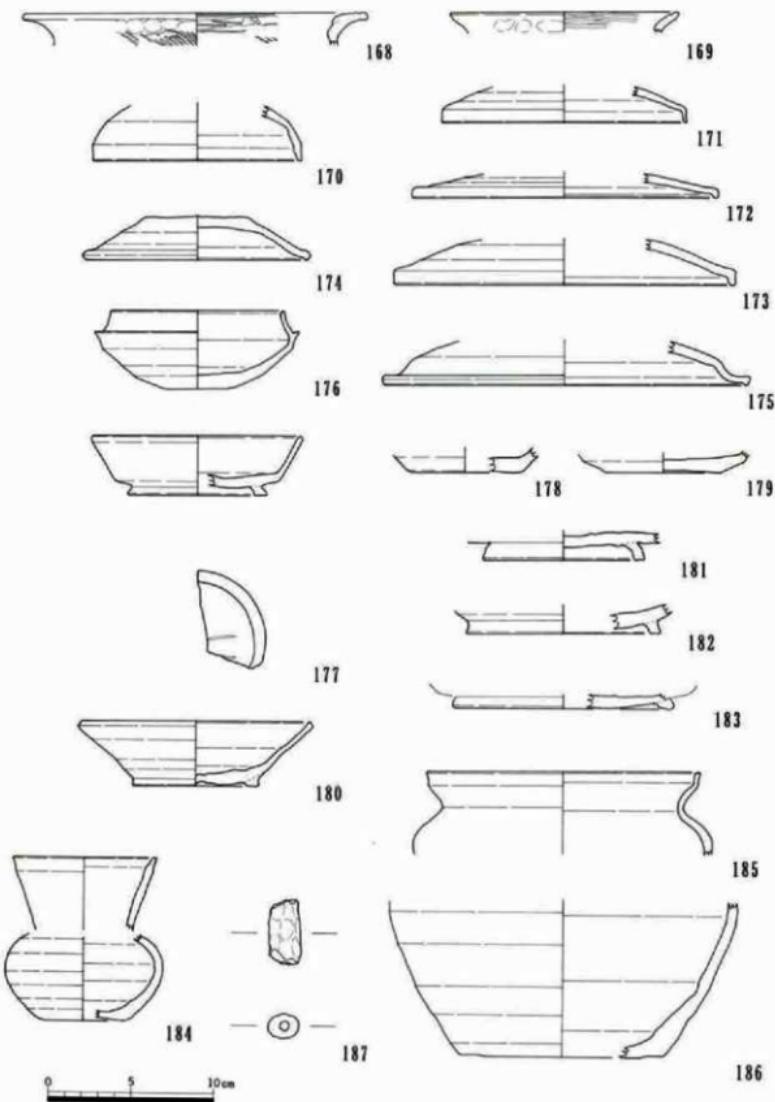
SB28はA区の7K・L、8K・Lグリッドから検出した。近隣にはSB26・27・29・30・31があり、切り合ひの順番はSB30<SB28<SB29<SB27<SB26<SB31と推定した。北側をSB29・31および試掘トレンチ切られ、南側はSB26・27および後世の遺構に切られ。結果的に南西の隅と西壁の一部が確認できただけで、SB30との境界も不明瞭である。プランの推定にはかなり大胆な復元を行なったが、平面形は方形で、一辻6.44m前後の中型の住居跡と推定した。住居跡内から土坑2基、ピット32基と多くの遺構が検出されているが、中には後世の遺構も相当数含まれており、出土遺物や切り合ひ関係から、後世の遺構と推定されるものについては上記表の備考欄に記した。その数

は8基を数え、実際はさらに多いと予測される。主柱穴については、位置的に見てPit7、Pit17がその候補となるが、推定する確証に欠ける。カマド、廻溝などは確認できなかった。

S B28からは遺物が523点出土している。内訳は土師器147点、須恵器130点、灰釉陶器2点、山茶碗28点、土師器皿3点、中・近世陶器11点、製塙土器53点で、その他の遺物として管状土錐と縄文時代の深鉢が1点ずつ出土している。量的には惠まれ最終的に20点を図示したが、8世紀代を中心にかなりの時代幅を持つ結果となった。以下に主な遺物について時代順に説明を加えておきたい。図示した遺物の中で、最も古い時期に位置づけられるのは176の須恵器・坏身である。内傾気味にやや長くのびた立ち上がりと蓋受けを持ち、底部に面をなす形状で、猿投編年の第Ⅱ期-第3小期頃の所産と考えられる。170の須恵器・坏蓋は口縁部に返りを持たない碗形の蓋で、やや低い天井部から丸みを見せつつ口縁部にいたる形状で、美濃須衛編年のⅢ期-後半頃の所産と考えられる。さらに7世紀代の遺物として184の長頸壺が挙げられる。8世紀代（美濃須衛編年のⅣ期-第2小期前後）の須恵器として、172・173の坏蓋や175の碗蓋、177の有高台坏身、185の鉢などが挙げられる。178~183は須恵器・坏身底部の破片で、いずれも8世紀代に遺物と考えて大過無いと思われる。なお、177の坏身の底部外面には「二」字状の窯記号が線刻されている。9世紀代（美濃須衛編年のⅤ期-第1小期前後）の須恵器として、174の坏蓋、180の鉢が挙げられる。168の土師器・壺は体部に粗く掘りの深い



第37図 SB28実測図



第38図 SB28出土遺物

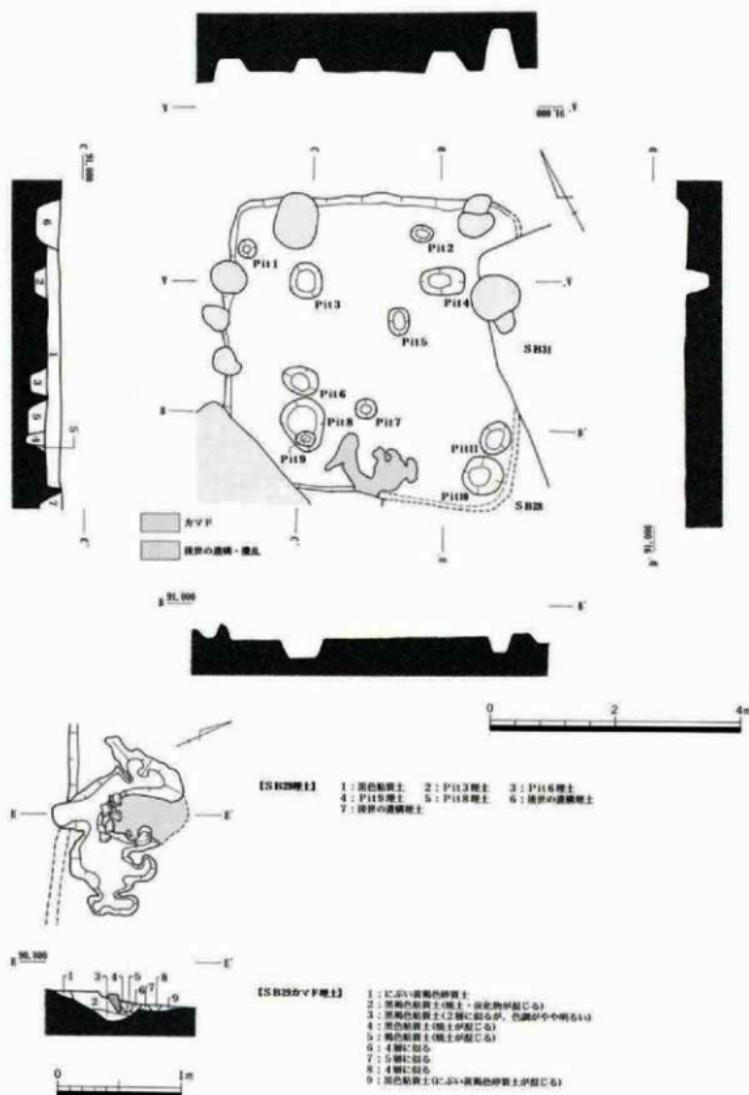
ハケメを持ち、短い口縁部が頭部くびれ部から直接屈曲してほぼ水平に開く形状で、牧野小山編年の第8期頃の所産と考えられる。169の土師器・甕もほぼ同時期のものと思われる。以上のような遺物の年代観を考慮すると、SB28の帰属する時期は8世紀代に求めることが妥当と思われるが、住居跡の切り合い関係と矛盾することとなる。SB28は複雑な住居跡の切り合い関係の中心的な位置にあり、遺物の取り上げに混乱が生じている可能性も高く、敢えて遺構の切り合い関係を重視して7世紀後半に帰属すると推定したが、問題を多く含むことを自己批判しておかなければならない。

## SB29

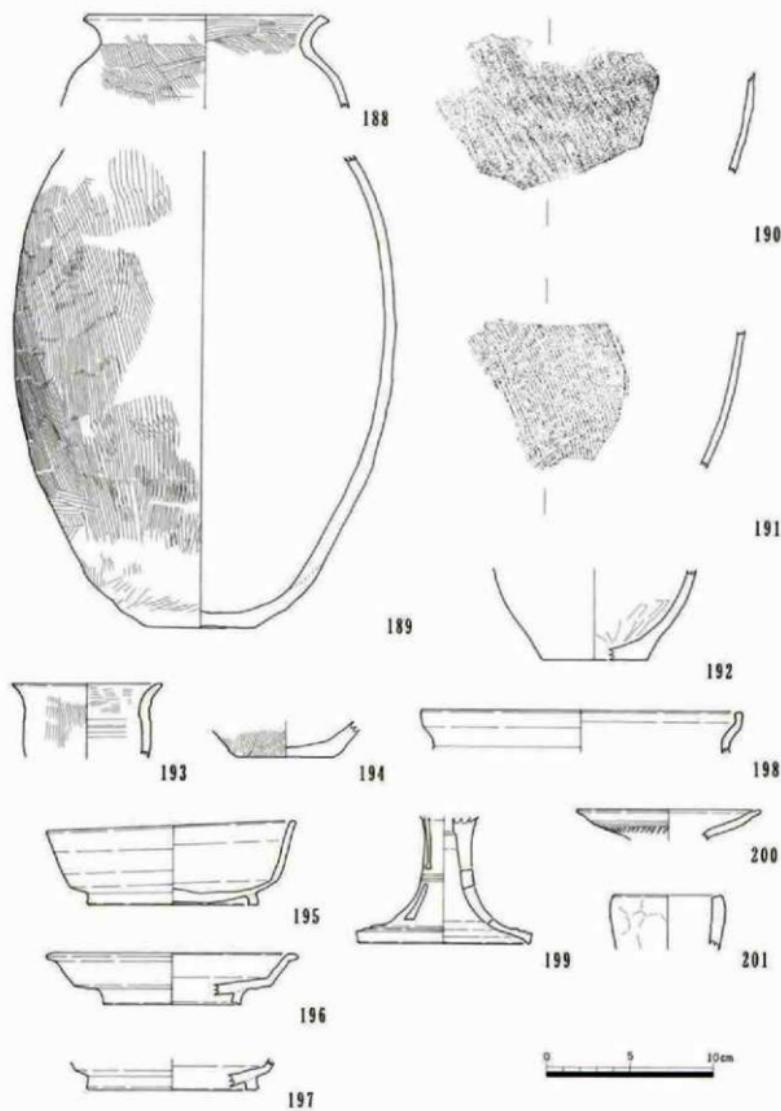
住居跡 番号	出 土 グ リ ッ ド	面 積(m)			床面の 絶対高	高 度	残存率	主 横 方 位	カ マ ド	壁 構造	切 り 合 い 関 係 (>切る、<切られる)	時 期
		長 軸	短 軸	深 底								
SB29	7J・K、8J・K	4.95	4.79	0.10	99.44	21.26	9/10	N-27°-E	有	角壁	>SB28, <SB31	7世紀-8世紀
SB28	面 積(m)	平 底	切 り 合 い 関 係	出 土 遺 物 (破 片 数)			備 考					
Pit1	0.26	0.24	0.12	正 円 形								
Pit2	0.29	0.26	0.09	椭 圆 形								
Pit3	0.49	0.46	0.23	正 円 形								主柱穴
Pit4	0.69	0.35	0.26	椭 圆 形								主柱穴
Pit5	0.46	0.33	0.26	椭 圆 形								
Pit6	0.55	0.49	0.26	椭 圆 形								
Pit7	0.28	0.25	0.23	正 円 形								
Pit8	0.82	0.70	0.28	南北三角形	<Pit9							主柱穴
Pit9	0.33	0.25	0.36	椭 圆 形	>Pit8							後世の遺構
Pit10	0.62	0.56	0.24	椭 圆 形								
Pit11	0.46	0.34	0.61	椭 圆 形								主柱穴?

SB29はA区の7J・K、8J・Kグリッドから検出した。近隣にはSB28・31があり、切り合い関係はSB28<SB29<SB31と推定した。東壁の一部をSB31に、南西の隅を後世の遺構に切られしており、SB28との境界も不明瞭であるが、南壁の一部が確認できたことから、平面形は方形で、一辺4.95m程の中型の住居跡と考えられる。住居内からピットを11基検出している。位置的に見て、Pit3・Pit4・Pit8・Pit11が主柱穴の候補となる。この4基の中でPit11が壁際に寄りすぎている点が気にかかるが、推定復元した南東の隅が、実際はもっと東にあった可能性もあり、この4基が主柱穴として最もふさわしい場所に位置すると見えよう。南壁のほぼ中央にカマドが造られている。カマドの本体は壁際からわずかに離れ、短い煙道が壁をえぐり込んで造られており、厳密に言うと前述の川合分類にはあてはまらないが、大局的にはA類の範疇にはいるものと考えられる。他の住居跡のカマドと同様の「粘土カマド」で、上部構造は削平のため不明であるが、燃焼部も含めて地山を浅く掘りくぼめ、粘土や砂質土を突き固めて造られる下部構造は、他の住居跡のそれと共に通する点である。両袖の芯となる石は検出されていないが、燃焼部の奥に長さ20cm程の川原石が縦位に立てられており、これが支脚の石であったと推測される。壁溝は確認できなかった。

SB29からは遺物が186点出土している。内訳は土師器116点、須恵器45点、山茶碗14点、中・近世陶器5点、製塙土器4点で、その他の遺物として縄文時代の深鉢が2点出土している。このうち14点を図示したが、図示した遺物のうちカマドから出土したのは189-192の土師器・甕である。189は肩部から上を欠いたため口縁部の形状は不明であるが、胸部の長胴化が進むものの形状はやや丸みを帯び、



第39図 SB29実測図



第40図 SB29出土遺物

胴部最大径が中央の辺りにあり、川合編年の後VII期までは下がらない時期のものと思われる。192は底径6.4cmを計る平底の壺で、やや厚手の作りで底部全体がやや下方に突出する。川合編年の後VI～VII期頃の所産と考えられる。193の土師器・壺は住居跡内のPit 1から出土したもので、くびれのある頭部からほぼ上方に立ち上がった口縁部が端部手前で外反する形状を示す。川合編年の後VI～VII期頃の所産と考えられる。199の須恵器・高环は細身の脚が据部に移るにつれて序々に開き、据端部は鋭く下方につきだす。外面中位に2本一組の沈線が施され、2段3方の透孔が配される。美濃須衛編年のIII期～後半頃の所産と考えられる。200の須恵器・甕は猿投編年の第II期～第3小期頃の所産と考えられる。195の須恵器・环身や196・198の須恵器・鉢は、8世紀代（美濃須衛編年のIV期～第1～2小期頃）の所産と考えられる。これらの遺物の年代観と造構の切り合いを考慮し、SB29の帰属する時期を7世紀末から8世紀初頭と推定した。

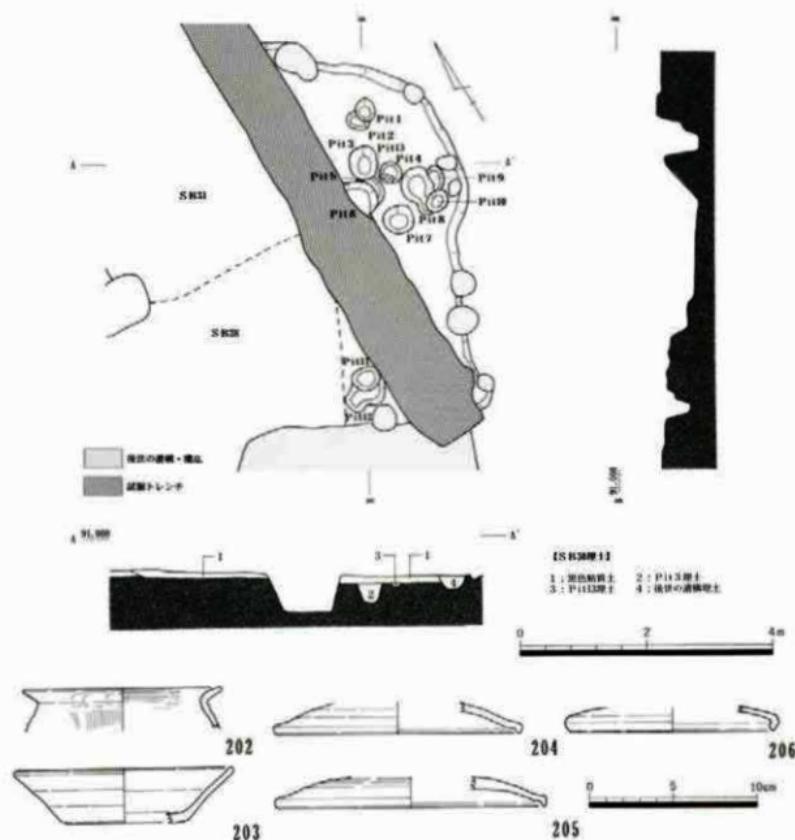
## SB30

目録番 番号	出土グリッド	規 模(m)			床面の 絶対高	面 積	残存率	主 輪 方位	カ マ F 有無	壁 厚	切 り 合 い 形 態 (>切ら、<切られる)	時 期
		長 軸	短 軸	深 さ								
SB30	8L・K、9L・K	6.90	1.84	0.08	90.24	23.67	3/10	N-27°-E	不明	—	無	<SB28・31
<b>平面形</b>												
Pit 1	8.40	0.32	0.40	南 円 形	>Pit 2							
Pit 2	0.28	0.20	0.16	椭 円 形	<Pit 1							
Pit 3	0.54	0.45	0.35	圓角方形	>Pit 5							
Pit 4	0.36	0.36	0.06	正 円 形	<Pit 3							
Pit 5	0.49	0.14	0.05	椭 円 形	<Pit 3・6							
Pit 6	0.42	0.75	0.33	椭 円 形	>Pit 5							
Pit 7	0.49	0.45	0.16	正 円 形								
Pit 8	0.80	0.58	0.12	不 定 形	>Pit 9、<Pit 10							
Pit 9	0.20	0.32	0.09	椭 円 形	<Pit 8・10							
Pit 10	0.32	0.22	0.35	椭 円 形	>Pit 8・9							
Pit 11	0.45	0.40	0.53	椭 円 形	<Pit 12							
Pit 12	0.78	0.50	0.29	不 定 形	>Pit 11							
Pit 13	0.22	0.06	0.17	椭 円 形	>Pit 4							

SB30はA区の8K・L、9K・Lグリッドから検出した。試掘トレンチや後世の造構に切られ、北東の隅と北壁・東壁の一部が確認できただけで、残存率は全体の3/10程度と推測される。SB31やSB28との境界も不明瞭で、全体の規模や平面形を推定することは困難であるが、少なくとも一辺6.90mはある、大型の住居跡と考えられる。住居内からピットを13基検出しているが、造構の切り合いで激しく、後世の造構も相当数含まれていると考えられる。位置的に見て、Pit 3・Pit 11が主柱穴にふさわしいと思われるが、断定する根拠には欠ける。カマド、壁溝は確認できなかった。

SB30からは遺物が92点出土している。内訳は土師器46点、須恵器37点、灰陶陶器2点、山茶碗3点、中・近世陶器2点で、製塩土器が2点出土している。図示した5点の遺物のうち、202の土師器・壺は短い口縁部が直接頭部くびれ部からほぼ直角に屈曲する形状で、口縁部外面のハケメはナデ消され、指頭压痕がかすかに残る。牧野小山編年の第7期頃の所産と考えられる。204～206の須恵器・环蓋はいずれも口縁端部を折り返す形状で、204・205はやや高い天井部からかすかに丸みを見せ

ながら口縁部にいたり、端部に近い所でわずかに上反する。口縁端部は短くほぼ直下に折り返される。206はやや低い天井部から丸みを帯びて口縁部にいたり、口縁端部はやや長く内側へ強く折り返される。204・205は美濃須衛編年のⅣ期—第2小期頃、206は同じくⅣ期—第2～3小期頃の所産と考えられ、203の須恵器・坏身もほぼ同じ時期の所産と思われる。以上のような遺物の年代観を考慮すると、SB30の帰属する時期を8世紀代に求めることが妥当と思われるが、前述のように、SB29がカマドから出土した遺物の年代観から7世紀末から8世紀初頭に帰属すると考えられるため、切り合いで矛盾が生じることになり、結局は年代推定困難な住居跡と言わざるを得ない結果に終わった。



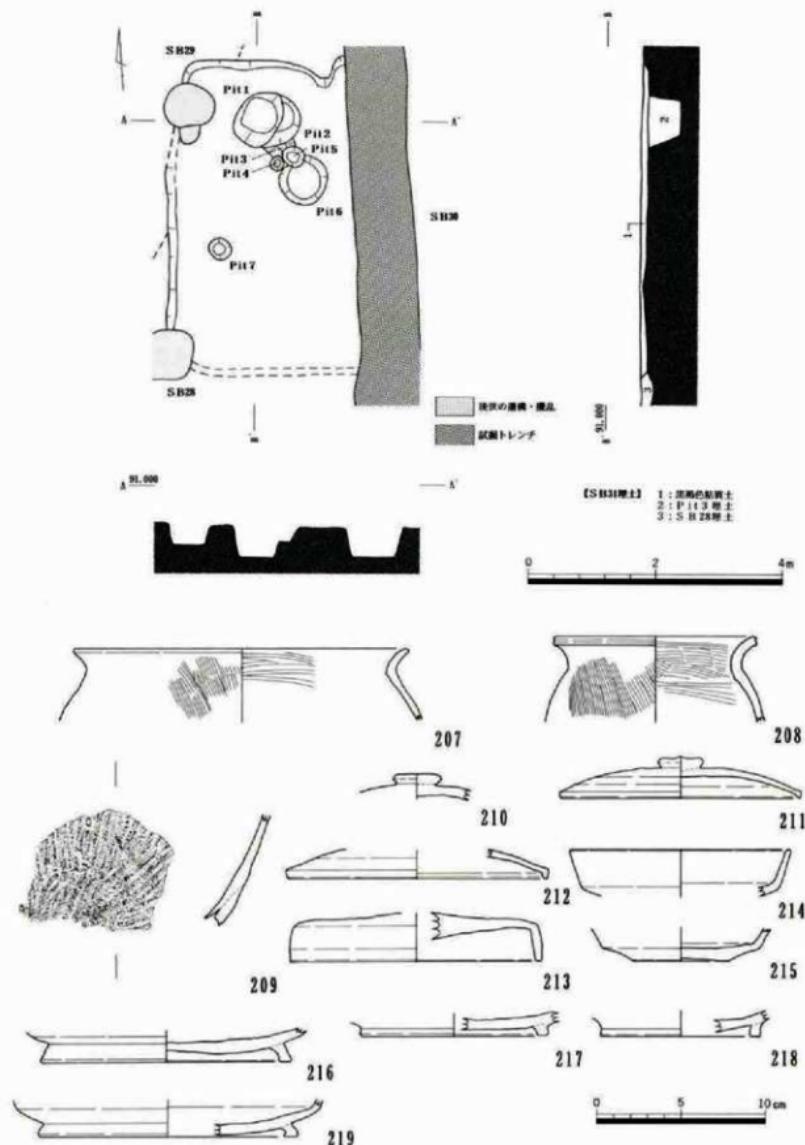
第41図 SB30実測図及び出土遺物

## SB31

住居跡 番号	出土グリッド	規 模(m)			床面の 絶対高	面 積	残存率	主 横 方 位	カマド	壁 構造	切り合ひ関係 (>切る、<切られる)	時 期
		長軸	短軸	深さ								
SB31	8K	5.00	3.05	0.14	96.34	16.28	7/10	N-6°-E	無	-	>SB28・29・30	8世紀-9世紀
SB31	規 模(m)	平 面 形	切り 合 ひ 関 係 (>切る、<切られる)									
Pit1	8.92	0.68	0.52	側丸長方形	>Pit2							
Pit2	9.30	0.68	0.22	椭 圆 形	>Pit3, <Pit1							
Pit3	9.20	0.49	0.11	椭 圆 形	<Pit2・4・5・6				土師器(変1)			
Pit4	8.21	0.33	0.15	正 圆 形	>Pit3				土師器(変1)、中・近世陶器(圓筒1)			後世の遺構
Pit5	8.36	0.32	0.46	正 圆 形	>Pit3・6							
Pit6	8.89	0.78	0.19	正 圆 形	>Pit3, <Pit4・5							
Pit7	8.25	0.34	0.11	正 圆 形					土師器(変1)			

SB31はA区の8Kグリッドから検出した。前述のとおり、近隣の住居跡の中で切り合いの順番が最も新しい住居跡であるにも関わらず、南壁(SB28との境界)が不明確で、東側が試掘トレンチに切られているため、結果的に北西の隅と北壁・西壁の一部が確認できただけであるが、試掘トレンチの東にまでは広がっていないため、残存率は全体の7/10程度と推測される。全体の規模や平面形を推定することは困難であるが、平面形は隅角をやや丸くおさめた南北に長い長方形で、5.00×3.00m程の中型の住居跡と推定される。住内からピットを7基検出しているが、遺構の切り合いが激しく、後世の遺構も相当数含まれていると考えられる。位置的に見て、Pit1が主柱穴の候補となるが、これに対応する南西の柱穴も確認できず、遺構の切り合い関係も最も新しかつて、断定する根拠に乏しいと言わざるを得ない。カマド、壁溝は確認できなかった。

SB31からは遺物が193点出土している。内訳は土師器119点、須恵器55点、山茶碗3点、中・近世陶器5点、製塙土器3点で、その他の遺物として縄文時代の深鉢3点と打製石斧1点が出土している。図示した13点のうち、207の土師器・壺は短い口縁部が直接頭部くびれ部からほぼ直角に屈曲する形状で、口縁部外面のハケメは頭部のかなり上方にまで残される。牧野小山編年の第7期頃の所産と考えられる。208の土師器・壺は口縁部が頭部からわずかに上方に立ち上がった後、短く外反する形状で、口径11.8cmと小振の作りである。川合編年の後VIII～IX期頃の所産と考えられる。209の土師器・壺には「相欠はぎ接合」の技法が見られる。211の須恵器・壺蓋はやや平坦な天井部から丸みを見せながら口縁部にいたり、口縁端部が短く下方に折り返される形状で、つまみは扁平な擬宝珠状のものが付けられる。美濃須衛編年のIV期～第2小期頃の所産と考えられ、212の須恵器・壺蓋もほぼ同時期の所産と思われる。213の須恵器・壺は平坦な天井部から口縁部が下方に長く折り返される形状で、天井部外面には降灰が観察され、いわゆる「自然灰釉」の範疇に入るものかもしれない。猿投編年の第VI期～第2小期頃の所産と考えられる。214～219の須恵器・壺身及び盤は、底部や高台の形状などに様々な特徴が見られるが、いずれも美濃須衛編年のIV期～第2～3小期頃の所産と考えて大過無いものと思われる。これらの遺物の年代観と遺構の切り合いを考慮し、SB31の帰属する時期を8世紀中頃～後半頃と推定した。



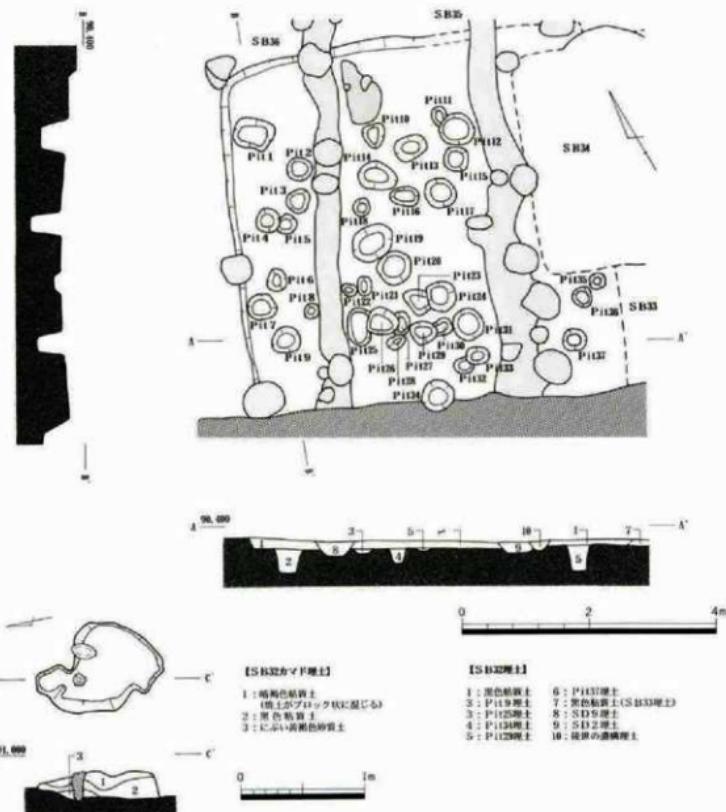
第42図 SB31実測図及び出土遺物

## SB32

住居 番号	出土グリッド	規 格(m)			床面	面 積	残存率	主 横 方 位	カマド 有無	設 置 場	切り合ひ関係 (>切る、<切られる)	時 期
		長 命	短 命	深 底								
SB32	8~10M、8~10N	6.00	5.90	0.14	59.03	38.19	8/10	N~23°~E	有	北壁	>SB33・35・36、<SB34	9世紀初
住居 番号	規 格(m)	平 面 形	切 り 合 ひ 関 係		出 土 遺 物 (破 片 数)							備 考
Pit1	0.64	0.45	0.42	圓丸長方形								
Pit2	0.49	0.36	0.37	椭 円 形								
Pit3	0.38	0.35	0.11	圓丸三角形								土師器(埋土1)、須彌器(蓋付1)、山茶碗(焼1)
Pit4	0.38	0.28	0.48	正 円 形	>Pit5							
Pit5	0.46	0.30	0.15	椭 円 形	<Pit4							
Pit6	0.35	0.22	0.09	圓丸方形								
Pit7	0.45	0.40	0.31	正 円 形								
Pit8	0.25	0.23	0.18	正 円 形								
Pit9	0.46	0.42	0.37	正 円 形								主軸穴?
Pit10	0.38	0.31	0.28	圓丸三角形								
Pit11	0.20	0.21	0.41	椭 円 形	<Pit12							
Pit12	0.58	0.49	0.37	椭 円 形	>Pit11							
Pit13	0.50	0.38	0.26	椭 円 形								
Pit14	0.62	0.45	0.29	椭 円 形								
Pit15	0.49	0.38	0.45	圓丸方形								須彌器(蓋付1・実1)
Pit16	0.47	0.30	0.29	椭 円 形								土師器(蓋付1)
Pit17	0.50	0.45	0.34	正 円 形								
Pit18	0.26	0.26	0.27	正 円 形								須彌器(蓋付1)
Pit19	0.68	0.55	0.29	圓丸長方形								
Pit20	0.50	0.58	0.43	正 円 形								灰陶器(鉢71)
Pit21	0.39	0.22	0.18	椭 円 形								
Pit22	0.28	0.38	0.12	椭 円 形								
Pit23	0.52	0.49	0.16	圓丸三角形	<Pit24							
Pit24	0.48	0.36	0.37	圓丸方形	>Pit23							土師器(實1)
Pit25	0.62	0.30	0.09	椭 円 形	<Pit26							
Pit26	0.52	0.42	0.06	圓丸三角形	>Pit25・27							
Pit27	0.25	0.20	0.10	椭 円 形	<Pit26・28							
Pit28	0.39	0.28	0.22	椭 円 形	>Pit27							
Pit29	0.42	0.38	0.22	圓丸三角形	>Pit30							
Pit30	0.25	0.25	0.35	椭 円 形	<Pit29							
Pit31	0.50	0.48	0.19	正 円 形								須彌器(實1)
Pit32	0.39	0.25	0.10	椭 円 形	<Pit33							須彌器(不明1)
Pit33	0.35	0.25	0.25	椭 円 形	>Pit32							
Pit34	0.54	0.50	0.46	正 円 形								
Pit35	0.24	0.24	0.09	正 円 形								
Pit36	0.30	0.30	0.11	正 円 形								
Pit37	0.38	0.35	0.42	正 円 形								主軸穴?

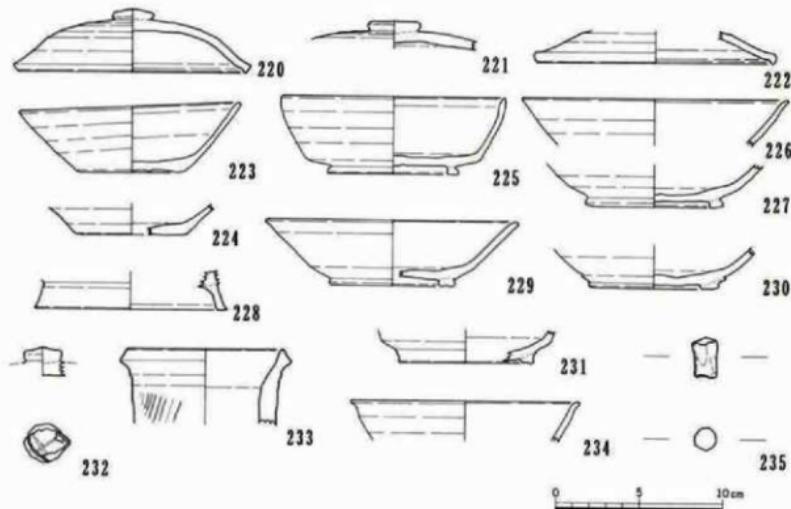
SB32はA区の8~10M、8~10Nグリッドから検出した。近隣にはSB33・34・35・36があり、切り合いの順番はSB35<SB33・34<SB32<SB34と推定した。造構の南側は試掘トレンチによって切られ、SD2とSD9が南北に三等分するような形で貫流している。他の住居跡との境界も不明瞭であるため、結果的に北西の隅と北壁および西壁の一部が確認できただけで、プランの推定にはかなり大胆な復元を行ったが、平面形は方形で、一辺6.00m前後の中型の住居跡と推定した。住居跡内からピット37基と多くの造構が検出されている。出土遺物や切り合い関係から後世の造構と推定

できたものは1基であるが、その他にも後世の造構が多数含まれるものと思われる。位置的に見てPit9、Pit37が主柱穴の候補となろう。北壁の中央からやや西寄りの所にカマドが造られている。焼土の小山が残る程度で、袖部や燃焼部の識別も困難であるが、カマドの本体は壁際からやや離れ、本体は煙道が壁の外まで続いていたと推測される。他の住居跡のカマドと同様の「粘土カマド」で、上部構造は削平のため不明であるが、地山を浅く掘りくぼめ、粘土や砂質土を突き固めて造られる下部構造は、他の住居跡のそれと共通する点である。カマドの中央からやや北寄りの所に長さ25cm程の川原石が縦位に立てられており、これが支脚の石であったと推測され、カマドの西半分は失われていると考えられる。両袖の芯となる石は検出されていない。また、壁溝は確認できなかった。



第43図 SB32実測図

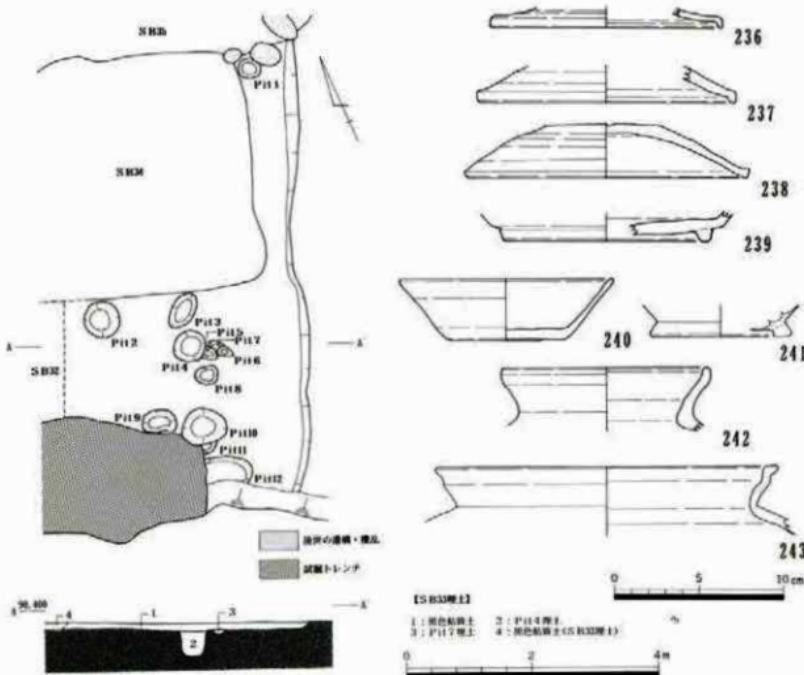
S B 32からは遺物が241点出土している。内訳は土師器91点、須恵器88点、灰釉陶器9点、山茶碗27点、土師器皿11点、中・近世陶器5点で、製塙土器が10点出土している。図示した16点のうち、カマドから出土した遺物は225の須恵器・坏身、229の須恵器・碗、234の灰釉陶器・碗である。225は平らな底部から内縁気味に体部が立ち上がり、口縁部はわずかに内側に肥厚し、端部は尖り気味に厚さを減じて丸く仕上げられる。高台は張り付けで端部が外側に強く突き出し、底部のかなり内側に付けられるため腰部に張りを持つ。美濃須衛編年のⅣ期-第3小期～Ⅷ期-第1小期頃の所産と考えられる。229はほぼ平らな底部から体部は外反気味に立ち上がり、口縁部は外反して端部は丸く仕上げられる。貼付高台の接地面は面取り状の浅い凹面をなす。230・231の須恵器・碗の高台も同様の形状を示す。美濃須衛編年のⅧ期-第1小期頃の所産と考えられる。234の灰釉陶器・碗は内縁気味に体部が立ち上がり、口縁部は外反して端部が玉縁状に丸く仕上げられる。226の須恵器・碗も無釉ではあるがほぼ同じ形状を示す。猪投編年の第V期-第1～2小期(K-14～K-90号窯式期)頃の所産と考えられる。220の須恵器・坏蓋は擬宝珠状のつまみを持ち、やや高い天井部から一度ゆるく屈曲して口縁部にいたり、口縁部は内側に小さく折り返される。美濃須衛編年のⅤ期-第1小期頃の所産と考えられる。228の須恵器・盤は比較的細く長い高台が強く外に張り出す形状で、225などとほぼ同時期の所産と考えられる。これらの遺物の年代観と造構の切り合いを考慮し、S B 32の帰属する時期を9世紀前半頃と推定した。なお、223の坏身はほぼ直線的に立ち上がった体部が口縁部でやや肥厚し、端部が丸く仕上げられる形態で、底部外面にはヘラ切りの痕が残る。美濃須衛編年のⅣ期-第2小期頃の所産と考えられ、推定した年代観よりもやや古いもののと考えられる。



第44図 SB32出土遺物

## SB33

住居跡 番号	出土グリッド	断面 横(m)			床面の 高さ 基準高	面積	残存率	主構造材 有無	カマド 有無	壁 構 成	切り合ひ 開 拓	時 期
		長 幅	短 幅	深さ								
SB33	9 N, 10 M ~ N, 11 M	7.15	3.90	9.10	99.02	12.49	2 / 10	N-22° - E	不明	-	>SB35, <SB32・34	古世紀時代
<b>SB33</b> 断面 横(m)												
Pit1	0.31	0.30	0.09	圓丸形								
Pit2	0.58	0.56	0.42	正円形								
Pit3	0.60	0.36	0.17	椭円形								
Pit4	0.50	0.50	0.41	正円形	>Pit5							
Pit5	0.23	0.22	0.11	椭円形	>Pit6・7, <Pit4							
Pit6	0.28	0.16	0.17	圓丸三角形	>Pit7, <Pit5							
Pit7	0.19	0.15	0.06	椭円形	<Pit5・6							
Pit8	0.38	0.30	0.07	圓丸三角形								
Pit9	0.55	0.38	0.34	不規則形								
Pit10	0.70	0.60	0.35	圓丸三角形	>Pit11							
Pit11	(0.29)	(0.15)	0.07	有孔木柱	<Pit10							
Pit12	0.70	0.30	0.05	椭円形								



第45図 SB33実測図及び出土遺物

S B33はA区10・11M、9・11Nグリッドから検出した。遺構の南側は調査区外にあり、西側の大半をS B32・34に切られている。北側のS B33を切っていると考えられるが、後世の遺構によって境界は不明瞭である。結果的に東壁の一部が確認できただけで、平面形や規模も不明であるが、検出できた範囲で東壁の長さが7.15mあるため、大型の住居に分類できることは確かである。住居内からピット12基を検出しているが、住居跡の隅が不明確なため、主柱穴と推定することも困難な状況である。カマド、壁構は確認できなかった。なお、S B32との境については、「S B32のカマドが北壁の中央よりやや西寄りの場所に造られているであろう」という仮定の下に推定復元した。

S B33からは遺物が88点出土している。内訳は土師器41点、須恵器45点、山茶碗2点で、図示した8点のうち、236・237の須恵器・壺蓋はいずれも口縁端部を下方に折り返す形状で、236はやや薄手の作りで、天井部は口縁部の手前で一度ゆるく上反する。237は236よりも厚手の作りで、天井部はほぼ直線的に開き、折り曲げられた端部はわずかに肥厚する。どちらも美濃須衛福年のⅣ期-第3小期頃の所産と考えられる。238の須恵器・壺蓋は天井部に強い張りを持ち、口縁部は端部に面取りがなされ、上下に明瞭な段を有する。つまみを持たず、浅い壺身を伏せたような形態を示す。美濃須衛福年のⅤ期-第1小期頃の所産と考えられる。240の壺身はほぼ直線的に立ち上がった体部が口縁部でやや肥厚し、端部が丸く仕上げられる形狀で、底部外面にはヘラ切りの痕が残る。美濃須衛福年のⅣ期-第2小期頃の所産と考えられる。242は須恵器・横瓶であろうか。口縁部は内縁気味に立ち上がり、端部はほぼ垂直に立ち上がって丸く仕上げられる。243の須恵器・壺は口縁部がS字状に屈曲し、端部は水平方向に開いて厚さを減じながら丸くおさめられる。いずれも8世紀代の所産と思われる。これらの遺物の年代観と遺構の切り合いを考慮し、S B32の帰属する時期を8世紀後半頃と推定した。

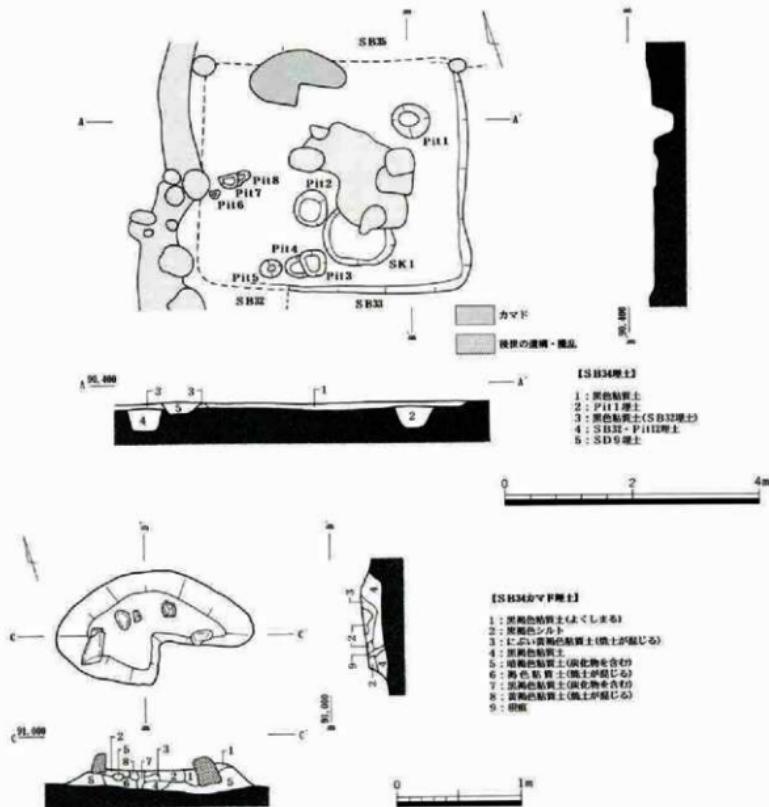
### S B34

住居跡 番号	出 土 グ リ ッ ド	規 格(m)			床 面	面 積	残存率	主 軸 方 位	カマド	壁	切 り 合 い 関 係 (>切る、<切られる)	時 期
		長 柄	短 柄	深 度								
S B34	9 M・N、10M・N	4.38	3.72	0.09	88.93	15.31	10/10	N-19°-E	有 无	無	>SB32-33・35	9世紀前半
<b>住居跡</b>												
SK1	1.15	0.85	0.06	椭 円 形	切り合い四 体 (>切る、<切られる)			出 土 遺 物 (破 片 数)				
Pit1	0.40	0.52	0.30	椭 円 形				土師器(壹1・腰塗土器1)、須恵器(壺壹1・壹1)				
Pit2	0.58	0.52	0.41	正 円 形								
Pit3	0.42	0.40	0.40	椭 丸 方 形	>Pit4							
Pit4	0.39	0.35	0.11	椭 円 形	<Pit3							
Pit5	0.35	0.28	0.36	椭 円 形								
Pit6	0.18	0.14	0.17	椭 丸 三 角 形								
Pit7	0.32	0.22	0.40	椭 丸 三 角 形	>Pit8							
Pit8	0.22	0.20	0.17	椭 円 形	<Pit7							

S B34はA区9 M・N、10M・Nグリッドから検出した。前述のように近隣の4軒の中で最も切り合い関係の新しい住居と推定したが、調査時には南東の隅と東壁および南壁の一部を確認できただけで、S B32やS B35との境界は不明瞭で、「カマドは壁際に造られ、中央からどちらかの隅に偏っている」との仮定に基づき、プランの推定にはかなり大胆な復元を行った。平面形は東西にやや長い方形で、一辺4.38m程の小型の住居跡と推定した。住居内から土坑1基、ピット8基を検出している

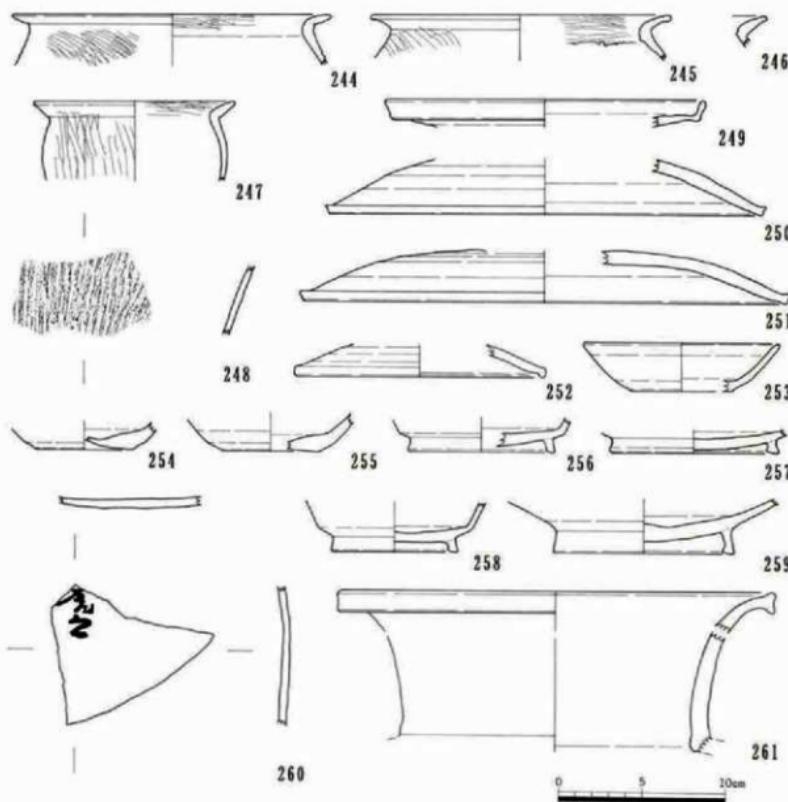
が、いずれの遺構も主柱穴と推定するには不自然な場所に位置する。北壁の中央からやや西寄りの所にカマドが造られている。SB32のカマドと同様に焼土の小山が残る程度で、袖部や燃焼部の識別も困難であるが、他の住居跡のカマドと同様の「粘土カマド」で、上部構造は削平のため不明であるが、地山を浅く掘りくぼめ、粘土や砂質土を突き固めて造られる下部構造は、他の住居跡のそれに共通する点である。カマドの東端と西端に礫が据え置かれており、これが両袖の芯となる石かもしれない。煙道は確認できていない。また、壁溝は確認できなかった。

SB34からは遺物が356点出土している。内訳は土師器215点、須恵器110点、灰釉陶器2点、山茶碗12点、土師器皿3点、製塩土器11点で、その他の遺物として縄文土器の深鉢が3点出土している。図示した18点のうち、カマドから出土したのは248の土師器・甕であるが、胴部の小片であるた



第46図 SB34実測図

め細かい時期推定は困難である。244～247の土師器・壺は短い口縁部が頭部くびれ部から直接直角に近い角度で屈曲する形状で、244・245・247の体部外面には粗いハケメが残る。247は口径11.8cmと小振の作りである。いずれも牧野小山編年の第8期頃の所産と考えられる。249の須恵器・盤は口縁部が外反気味に立ち上がり、端部は丸く仕上げられる。美濃須衛編年のIV期～第3小期～V期～第1小期頃の所産と考えられる。250・251の須恵器・壺蓋は天井部はわずかに丸みを帯び、口縁部は天井部より強い棱を示して内傾し、口縁端部は強い棱をなす形状で、美濃須衛編年のV期～第1小期頃の所産と考えられる。254～258の須恵器・壺身はいずれも底部の破片であるが、249とはほぼ同じ頃の所産と考えて大過ないと思われる。259の須恵器・盤は底部中央が下がり気味で、やや長い貼付高台の内側は強く張り出す。美濃須衛編年のV期～第1小期頃の所産と思われる。261の須恵器・壺は長い口

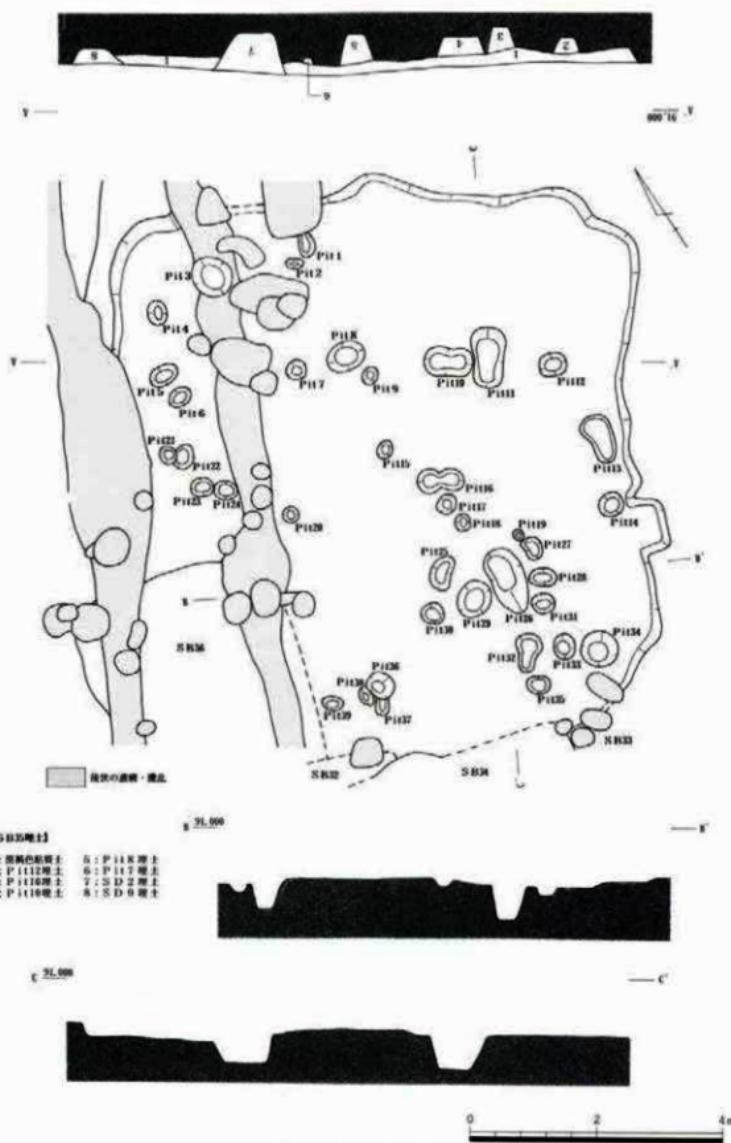


第47図 SB34出土遺物

頭部が外反して立ち上がり、口縁部は大きく外反して 端部は上下に肥厚し、ややくほんだ面をなす 形状で、猿投柵年の第Ⅳ期—第4小期頃の所産と考えられる。これらの遺物の年代観と遺構の切り合 いを考慮し、SB34の帰属する時期を9世紀前半頃と推定した。また260の須恵器・坏身の底部外面 には墨書きが残っており、文字内容は「二合之」と思われる。

## SB35

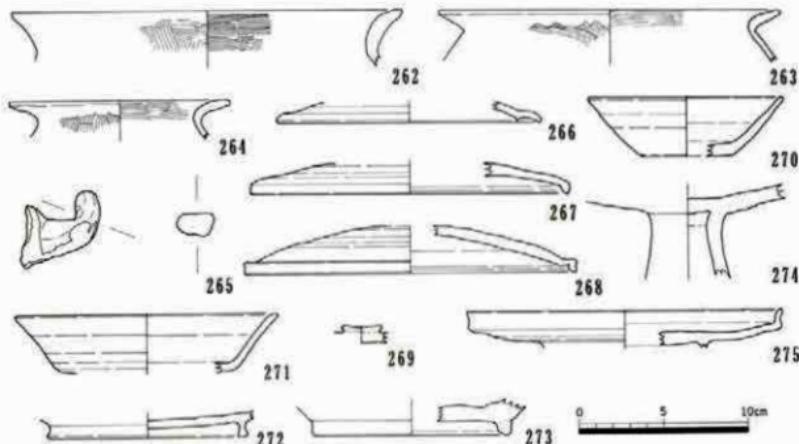
往復牌 番号	出 土 グ リ ッ ド	規 様(m)				底面の 面 級	残存率	主軸 方位	カマド 有無	壁 構	切 り 合 い 開 係 (>切る、<切られる)	時 期
		長 軸	短 軸	深 底	絶対高							
SB35	10K~L, 11K~L	9.28	8.49	8.16	90.28	63.64	9/10	N-36°-E	無	一	無	<SB32・33・34・36
TEBB	規 様(m)	平 面 図	切 り 合 い 開 係	<切る、<切られる				出 土	遺 物 (破 片 数)	備 考		
P111	0.39	0.25	0.16	相 円 形								
P112	0.26	0.18	0.09	相 円 形								
P113	0.68	0.62	0.15	正 円 形								
P114	0.49	0.32	0.43	相 円 形								
P115	0.46	0.24	0.11	相 円 形								
P116	0.36	0.28	0.42	相 円 形								
P117	0.32	0.30	0.33	正 円 形								
P118	0.62	0.46	0.47	相 円 形								主柱穴?
P119	0.26	0.25	0.47	正 円 形								
P120	0.78	0.50	0.30	不 定 形								
P121	0.58	0.54	0.37	不 定 形								
P122	0.45	0.34	0.20	相 円 形								主柱穴?
P123	0.80	0.50	0.32	不 定 形								
P124	0.40	0.37	0.25	正 円 形								
P125	0.29	0.25	0.37	相 円 形								
P126	0.75	0.38	0.16	不 定 形								
P127	0.32	0.30	0.18	正 円 形								
P128	0.29	0.24	0.15	相 円 形								
P129	0.19	0.15	0.22	正 円 形								
P130	0.35	0.25	0.29	正 円 形								
P131	0.30	0.28	0.23	正 円 形	>P1122							
P132	0.42	0.30	0.29	相 円 形	<P1121							
P133	0.25	0.28	0.11	相 円 形								
P134	0.36	0.30	0.14	相 円 形								
P135	0.55	0.34	0.11	不 定 形								
P136	1.00	0.54	0.54	相 円 形								
P137	0.38	0.28	0.17	不 定 形								
P138	0.48	0.30	0.17	相 円 形								
P139	0.58	0.54	0.30	相 円 形								
P140	0.38	0.35	0.20	隅丸三角形								
P141	0.36	0.30	0.17	相 円 形								
P142	0.62	0.44	0.10	不 定 形								
P143	0.40	0.34	0.17	相 円 形								主柱穴?
P144	0.60	0.56	0.24	正 円 形								
P145	0.49	0.30	0.09	隅丸三角形								
P146	0.45	0.49	0.27	隅丸方形	>P1127・38							
P147	0.20	0.22	0.13	相 円 形	<P1126							
P148	0.30	0.19	0.21	相 円 形	<P1126							
P149	0.34	0.24	0.20	相 円 形								
土加器(変2)、油壺器(変1)												



第48図 SB35実測図

S B35はA区10K～L、11K～Lグリッドから検出した。近隣にはS B32・33・34・36があり、切り合ひ関係は5軒の中で最も古いと推定した。5軒の中で最も北に位置し、南側の一部を他の住居跡に、西壁をS D 3に切られているが、残存率は9/10程と推測される。北東と北西の隅が確認できため、平面形は隅角を丸くおさめた方形で、9.28×8.40m程の大型の住居跡と考えられる。住居内からピット39基と多くの遺構が検出されているが、後世の遺構も相当数含まれていると推測される。位置的に見て、Pit 5あるいはPit 7・Pit 12・Pit 33がその候補となろう。これらに対応する南西隅の柱穴は、S B36に切られて検出できなかった。カマドや壁溝は確認できなかった。

S B35からは724点と多量の遺物が出土している。内訳は土師器481点、須恵器175点、灰釉陶器6点、山茶碗25点、土師器皿3点、中・近世陶器6点、製塙土器24点で、その他の遺物として縄文時代の深鉢が3点と打製石斧が1点出土している。図示した14点のうち、263・264の土師器・壺は口縁部が頸部くびれ部から直接屈曲する形状で、頸部の中位ぐらいまでハケメを残す。川合編年の後IX期頃の所産と考えられる。262の土師器・壺は口縁部が頸部から上方にわずかに立ち上がった後、短く外傾する形状で、やはり頸部のかなり上方までハケメを残している。川合編年の後VIII～IX期頃の所産と考えられる。267・268の須恵器・壺蓋は口縁端部を下方に折り返すものである。267の折り返しはゆるく、268は天井部が口縁付近でわずかに上反して垂直に折り返され、端部がわずかに外反する形状で、美濃須衛編年のIV期第一第2～3小期頃の所産と考えられる。275の須恵器・盤はわずかに内側気味の体部から口縁部が外反して立ち上がり、端部は丸く仕上げられる形状で、267・268と同時期のものと考えられる。270・271の須恵器・壺身は無高台で、270の体部は厚さを減しながらほぼ直線的に開く形状で、271の体部はやや外反気味に立ち上がる。272・273の須恵器・有高台壺身も含めて、美濃須衛編年のIV期第一第2～3小期頃の所産と考えて大過ないと思われる。これらの遺物の年代観と遺構の切り合ひを考慮し、S B35の帰属する時期を8世紀中頃～後半頃と推定した。



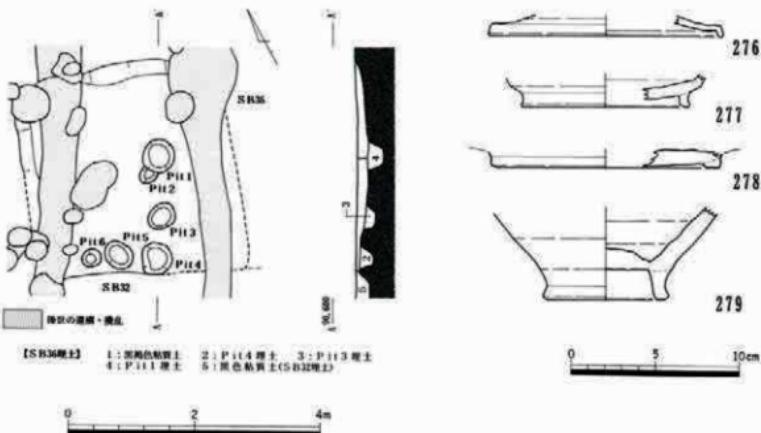
第49図 SB35出土遺物

## SB36

住居跡 番号	出土グリッド	規 模(m)			床面の 絶対高	面 積	荷 力率	主 柱方 位	カマド 有無	壁 設置 状況	切 り合 い 周 囲 (>切る、<切られる)	時 期
		長 軸	短 軸	深 さ								
SB36	9L・M, 10L・M	3.40	3.30	0.11	96.05	10.78	8/10	N-21°-E	無	—	>SB35, <SB32	8世紀後半
SB36	規 模(m)	平 面 形	切 り 合 い 周 囲 (>切る、<切られる)		出 土 遺 物 (破 片 数)							
Pit1	0.50	0.48	0.24	正 円 形	>Pit2							
Pit2	0.20	0.25	0.15	正 円 形	<Pit1							
Pit3	0.41	0.38	0.16	正 円 形								
Pit4	0.48	0.40	0.22	正 円 形								
Pit5	0.30	0.26	0.24	正 円 形								
Pit6												

SB36はA区9L～M, 10L～Mグリッドから検出した。近隣にはSB32・35などがあり、切り合いの順序はSB35<SB36<SB32と推定した。東西の境界をSD2とSD3が南北に貫流し、SB32との境界や北西の隅も後世の造構に切られて不明瞭で、結局、検出できたのは北壁と西壁の一部である。プランの復元には苦慮したが、平面形は方形で、3.40×3.30m程の小型の住居跡と推測した。住居内からピット6基が検出されているが、いずれも主柱穴と推定するにはやや不自然な場所に位置している。カマドや壁溝は確認できなかった。

SB36からは遺物が159点出土している。内訳は土師器32点、須恵器46点、灰釉陶器5点、山茶碗32点、土師器皿6点、中・近世陶器4点で、製塩土器が4点出土している。図示できたのは5点であるが、そのうち276の須恵器・坏蓋は天井部が口縁部近くでゆるく上反し、口縁部がゆるく折り返される形状で、美濃須衛編年Ⅳ期－第2～3小期頃の所産と考えられる。277の須恵器・坏身は底部



第50図 SB36実測図及び出土遺物

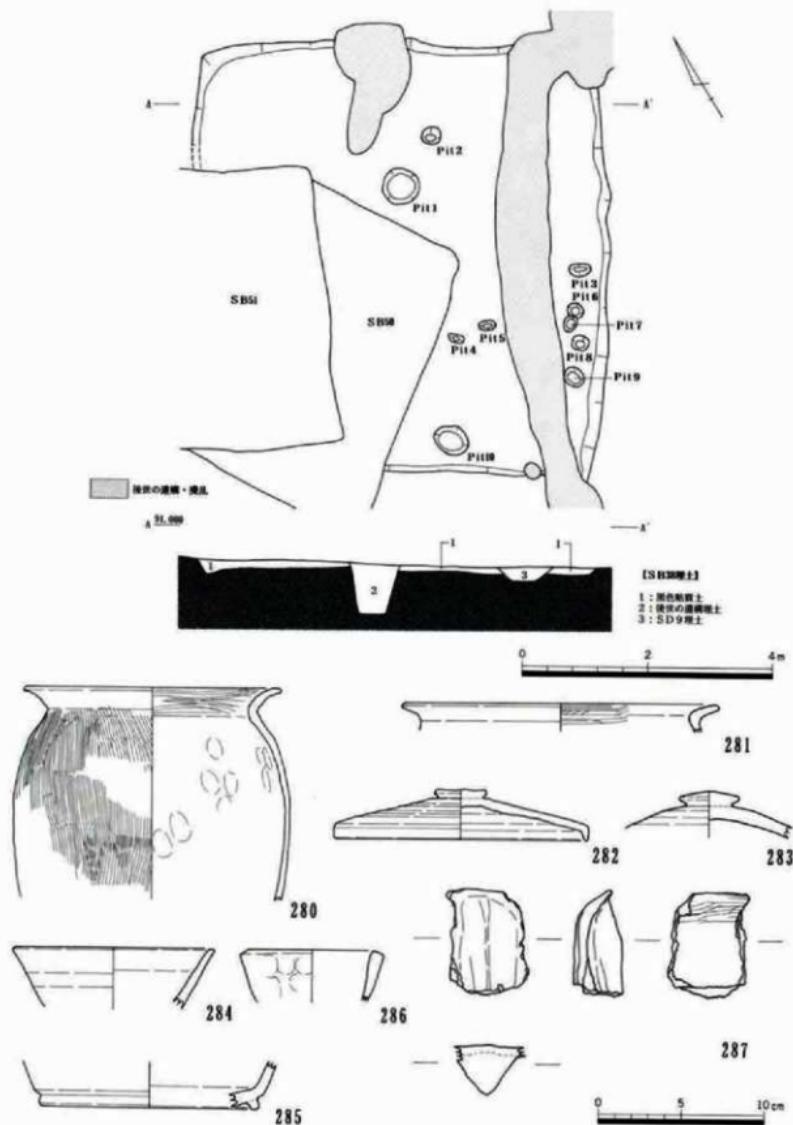
が下方に下がり、端部が強く外に張り出す貼付高台を有する。278の須恵器・坏身は扁平で幅広の貼付高台を有し、端部が面取り状に浅くくぼむ形状で、277と276はほぼ同時期に帰属すると考えられるが、278はやや新しい時期の所産と思われる。これらの遺物の年代観と造構の切り合いを考慮し、S B36の帰属する時期を8世紀後半頃と推定した。

## SB38

住居跡番号	出土グリッド	屋根						床面の絶対高	面積	残存率	主柱方位	カマド有無	壁溝	切り合ひ関係(>切る、<切られる)	時期
		長軸	短軸	深さ	長軸	短軸	深さ								
SB38	9 J ~ K, 10 I ~ K, 11 I	6.95	6.54	0.11	90.37	27.94	6 / 10	N-34° - E	不明	-	無	>SB39, <SB50・51	7世紀~8世紀		
SB38															
Pt11	8.60	8.60	0.28	正円形											
Pt12	8.20	8.26	0.26	椭円形											
Pt13	8.35	8.20	0.34	四角三角形											
Pt14	8.25	8.14	0.51	椭円形											
Pt15	8.26	8.15	0.31	椭円形											
Pt16	8.38	8.20	0.51	椭円形	<Pt17										
Pt17	8.25	8.24	0.50	正円形	>Pt16										
Pt18	8.38	8.30	0.31	正円形											
Pt19	8.32	8.30	0.12	正円形											
Pt20	8.60	8.65	0.40	椭円形											

SB38はA区9 J ~ K、10 I ~ K、11 I グリッドから検出した。近隣にはSB39・SB50・SB51があり、この4軒で一つのグループを形成しているかの観がある。切り合ひ関係の順番は、SB39<SB38<SB50<SB51と推定した。SB50・51に南西隅を大きく切られ、SD3に切られて北東および北西の隅も不明瞭であるが、平面形は方形で、6.95×6.54m程の大型の住居跡と考えられる。住居内からピット10基が検出されているが、位置的に見て、いずれも主柱穴と判定するには不自然な場所に位置する。カマドや壁溝は確認できなかった。

SB38から遺物が178点出土している。内訳は土師器117点、須恵器31点、山茶碗7点、土師器皿2点、中・近世陶器2点、製塩土器14点で、その他の遺物として縄文時代の深鉢が5点出土している。図示できたのは8点であるが、そのうち280の土師器・壺はやや長い口縁部が頭部くびれ部から外反気味に屈曲する形状で、口縁部外面のハケメはナデ消される。川合編年の後VII ~ VIII期頃の所産と考えられる。281の土師器・壺は口縁部が頭部くびれ部から直角に近い角度で屈曲する形状で、280よりもやや新しい時期の所産と思われる。282の須恵器・坏蓋は天井部がほぼ直線的に開き、口縁部は真下に長目に折り返され、端部は尖り気味に丸くおさめられる。つまみは扁平で中央部がわずかに突出する。283の須恵器・坏蓋ははなだらかな天井部に扁平で丸みをおびたつまみが付けられたもので、どちらも美濃須衛編年のIV期 - 第1小期頃の所産と考えられる。284・285の須恵器・坏身も、これらとはほぼ同時期の所産と考えて、大過無いと思われる。これらの遺物の年代観と造構の切り合いを考慮し、SB38の帰属する時期を7世紀末~8世紀初頭と推定した。なお287の土師器・器種不明品は、壺の底部を転用したと思われる浅い皿状の器の内面に粘土を断面三角形の把手状に貼り付けたもので、器種や用途などは不明である。



第51図 SB38実測図及び出土遺物

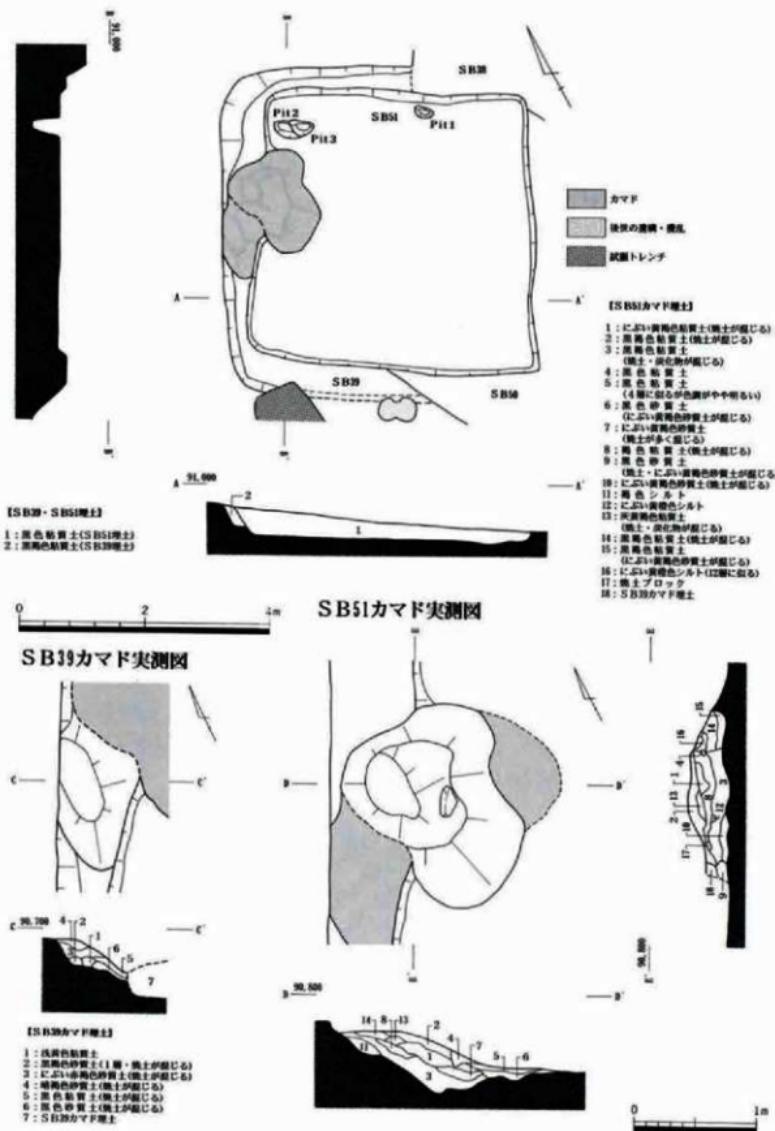
## S B39・51

住居跡番号	出土グリッド	屋根構(m)		床面の 絶対高	面積	残存率	主軸方位	カマド	壁 有無	位置 標	切り合ひ關係 (>切る、<切られる)	時期	
		長軸	短軸										
S B39	8 J, 9 I ~ K	5.42	3.20	8.24	9.33	4.42	1/10	N-23° - E	有	西壁	<SB38-50-51	7世紀後半	
住居跡番号	出土グリッド	屋根構(m)	床面の 絶対高	面積	残存率	主軸方位	カマド	壁 有無	位置 標	切り合ひ關係 (>切る、<切られる)	時期		
S B51	9-10K, 9-10J	4.70	4.65	8.13	9.17	20.33	10/10	N-23° - E	有	西壁	>SB38-28-50	8世紀前半	
SB38		屋根構(m)		切り合ひ關係 (>切る、<切られる)		出土遺物(破片数)		標 名					
Pit1	8.20	0.16	0.12	圓角三角形									
Pit2	0.52	0.25	0.42	橢円形	<Pit3								
Pit3	0.38	0.22	0.59	圓角三角形	>Pit2								

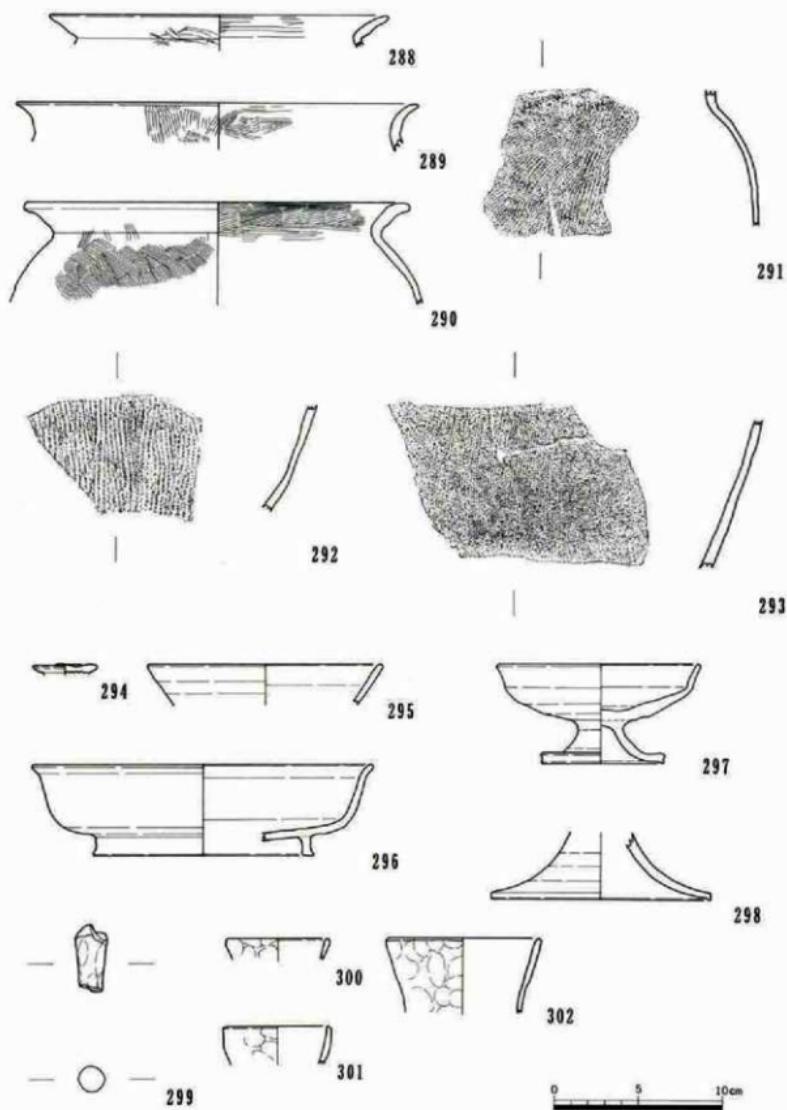
S B39・51は8-10J, 9-10K, 9-11グリッドから検出した。前述のように、S B39は4軒の中で切り合ひ関係が最も古く、遺構の大半を他の住居跡によって切られており、検出できたのは全体の1/10程度と推測されるが、北西と南西の隅が確認できることから、平面形は隅角を丸くおさめた方形で、一辺5.42m程の中型の住居跡と考えられる。住居内から柱穴や壁溝は検出できなかったが、西壁のほぼ中央にカマドが造られている。S B51とS B51のカマドに切られ、燃焼部や袖部は失われているが、川合分類のA類に該当する、壁に造り付けられるタイプと推測される。他の多くの住居跡のカマドと同様の「粘土カマド」で、上部構造は削平のため不明であるが、下部構造は地山を浅く掘りくぼめ、粘土や砂質土を突き固めて造られている。支脚となるような石は確認されていない。

S B51は4軒の中で切り合ひ関係が最も新しく、全周を確認することができた。平面形は方形で、4.70×4.45m程の中型の住居跡と考えられ、S B39のプランの中にすっぽり入るような形で造られていたと推測される。住居内からピットを3基検出している。位置的に見て、いずれも主柱穴と判定するにはやや不自然な場所に位置する。Pit2あるいはPit3を候補として挙げることも可能であろうが、これに対応する各隅の柱穴は未確認である。壁溝は確認できなかった。西壁の中央からやや北よりの所にカマドが造られている。壁をえぐり込んで造られる、川合分類のCタイプに該当すると思われる。他の多くの住居跡のカマドと同様の「粘土カマド」で、上部構造は削平のため不明であるが、下部構造は地山(S B39の床面)をかなり深く掘り込んでから粘土や砂質土を突き固めて造られており、S B39の床面および西壁を煙道部として再利用していたのでは無いかと思われる。燃焼部や袖部の基底部も床面よりやや低い所に設定されている。両袖の芯となるような石は確認できていないが、燃焼部の奥に長さ20cm程の川原石が据え置かれしており、支脚となる石であった可能性もある。

S B39からは遺物が235点出土している。内訳は土師器172点、須恵器30点、山茶碗4点、製塩土器19点で、その他の遺物として縄文時代の漆鉢9点、打製石斧1点が出土している。カマド出土遺物を中心に、比較的質・量に恵まれたが、図示できたのは15点である。そのうちカマドから出土したのは290-293の土師器・甕である。290を除く3点は胴部の破片であり、時期推定は困難であるが、290は口縁部が頭部くびれ部から直接直角に近い角度で屈曲し、口縁端部に近い所でさらに強く外反してほぼ水平に聞く形状で、口縁外面のハケ目はナデ消される。川合分類の後VII-VIII期頃の所産と考えられる。288の土師器・甕は口縁部が頭部くびれ部から直接直角に近い角度で屈曲する形状で、289の土師器・甕は口縁部が大きく外反する形状で、290とは同時期かやや新しい時期の所産と思われる。



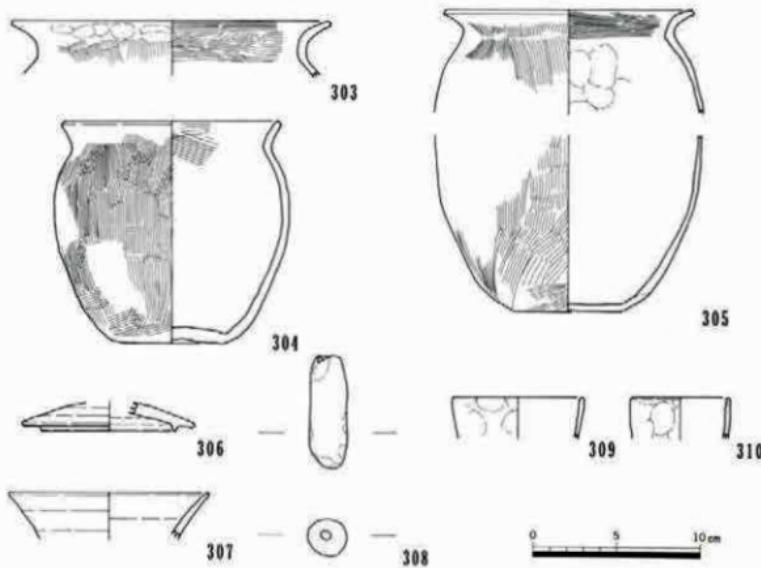
第52図 SB39・SB51実測図



第53図 SB39出土遺物

297の須恵器・高坏の坏部は、扁平な底部から口縁部が外反気味に立ち上がり、端部は丸く仕上げられる。脚部は低く、裾部は強く横に開き、端部は横に突き出して側面は四面をなす。美濃須衛幅年のⅣ期～後半頃の所産と考えられる。298の須恵器・高坏の脚部はやや細身で、裾部に行くにしたがって序々に開き、裾端部が鋭く下方に突き出す形状で、297と同時期の所産と考えられる。これらの遺物の年代観と造構の切り合いを考慮し、SB 39の帰属する時期を7世紀後半頃と推定した。296の須恵器・碗は金属性器を模倣したものと考えられ、ほぼ平坦な底部から体部は丸みをおびて立ち上がり、口縁部が大きく外反する形状で、美濃須衛幅年のV期頃の所産と考えられる。

SB 51からは遺物が75点出土している。内訳は古墳時代の土師器5点、古代の土師器49点、須恵器8点、製塙土器12点で、その他の遺物として管状土錐が1点出土している。図示した8点のうち、カマドから出土したのは303～305の土師器・甕である。303は口縁部が上方に立ち上がった後、外反気味となるもので、口縁部外面の中程にまでハケメが残り、端部には指頭圧痕がかすかに残る。304の口縁部は頸部くびれ部から直接く字状に外傾する形状で、端部は面取りされる。胴部最大径は肩部付近に有り、長胴化の成熟・完成期の所産と思われるが、器高は13.2cmと低い。305は口縁部が外傾して立ち上がった後、外反気味になる形状で、口縁部外面の中程にまでハケメが残される。いずれも川合幅年の後VII期頃の所産と考えられる。これらの遺物の年代観と造構の切り合いを考慮し、SB 51の帰属する時期を8世紀前半～中頃と推定した。306は口縁部に返りをもつ須恵器・坏蓋で、推定したSB 51の時期よりも古い時期の遺物である。



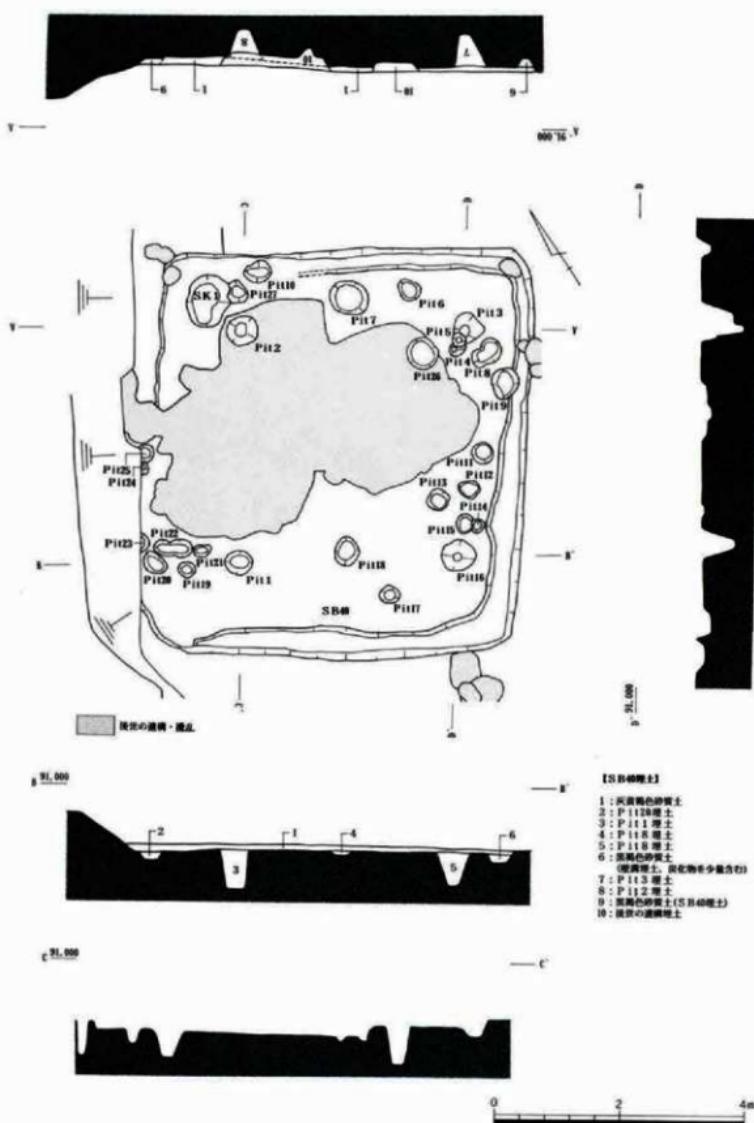
第54図 SB 51出土遺物

## SB40

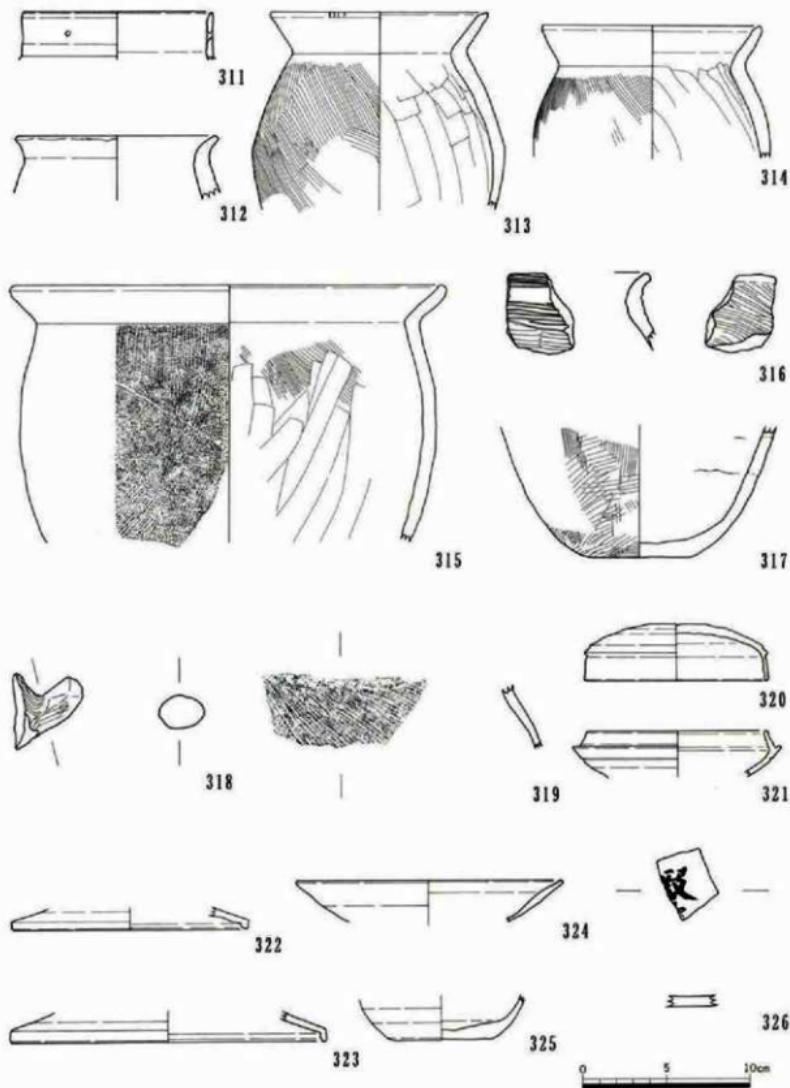
住居跡番号	西土グリッドF	面積(m)				床面の 絶対高	曲面	残存率	主導方位	カマド	壁 有無	壁 位置	壁 構造	切り合ひ周長 (>切る、<切られる)	時期
		長軸	短軸	深さ											
SB40	I80~Q, I90~Q	6.30	6.00	0.15	28.90	28.23	9/10	N-33°-E	無	-	有	>SB41		下世紀手	
Pit1	面積(m)	平面形	切り合ひ周長 (>切る、<切られる)												
SK1	0.84	0.65	0.38	不定形	<Pit27										土師器(変1)
Pit2	0.45	0.28	0.61	正円形											土師器(不明1)
Pit2	0.48	0.44	0.44	正円形											主柱穴
Pit3	0.39	0.35	0.52	隅丸三角形	<Pit5										主柱穴
Pit4	0.26	0.20	0.72	椭円形	<Pit5										主柱穴
Pit5	0.22	0.32	0.74	正円形	>Pit3+4										
Pit6	0.28	0.32	0.35	隅丸三角形											
Pit7	0.64	0.55	0.31	椭円形											
Pit8	0.50	0.38	0.37	不定形											
Pit9	0.50	0.42	0.19	隅丸三角形											
Pit10	0.55	0.35	0.20	不定形											陶器器(変1・変2)
Pit11	0.32	0.32	0.28	正円形											
Pit12	0.35	0.30	0.23	不定形											
Pit13	0.25	0.32	0.23	隅丸三角形											
Pit14	0.22	0.22	0.24	正円形	>Pit5										
Pit15	0.22	0.25	0.18	椭円形	<Pit14										
Pit16	0.52	0.48	0.53	正円形											主柱穴
Pit17	0.35	0.28	0.24	椭円形											
Pit18	0.48	0.40	0.23	椭円形											土師器(変2)
Pit19	0.28	0.25	0.20	椭円形											
Pit20	0.52	0.30	0.14	隅丸三角形											
Pit21	0.30	0.19	0.32	不定形											
Pit22	0.62	0.20	0.21	不定形											陶器器(変2)
Pit23	0.30	0.15	0.34	正円形											
Pit24	0.28	0.12	0.16	正円形	<Pit5										
Pit25	0.28	0.20	0.16	正円形	>Pit24										
Pit26	0.54	0.58	0.57	正円形											
Pit27	0.35	0.24	0.23	不定形	>SK1										

SB40はB区I80~Q、I90~Qグリッドから検出した。北西方向にSB41があり、SB40がこれを切る形となる。住居跡の中央に後世の搅乱があり、南西隅の一部が調査区外に出るが、住居跡のは全周を確認することができた。平面形は隅角をわずかに丸くおさめた方形で、6.30×6.00m程の大型の住居跡と考えられる。住居内から土坑1基、ピット27基と多くの遺構を検出しているが、この中には後世の遺構が相当数含まれるものと思われる。位置的に見て、Pit2、Pit3、Pit4、Pit16が主柱穴と推定される。また西壁を除く三方の壁際から壁溝と考えられる掘り込みが検出されており、幅45cm前後、深さ10cm前後を計る。カマドは確認できなかった。

SB40からは遺物が178点出土している。内訳は土師器63点、須恵器78点、山茶碗29点、土師器皿2点で、製塩土器が14点出土している。図示したのは16点であるが、そのうち312の土師器・壺の口縁部は非常に短く、頸部くびれ部から外反気味に開く形状で、313・314の土師器・壺のやや長い口縁部がく字状に外傾する形状で、体部外面には斜方向のハケメが残り、内面は斜方向のヘラナデが施されている。313は胴部に強い張りを有する。315は球形に近い体部から、口縁部がく字状に大きく開く形状



第55図 SB40実測図

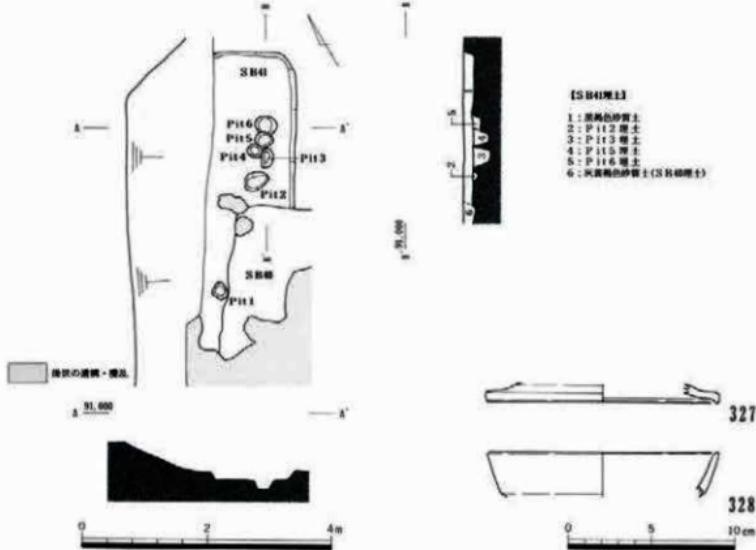


第56図 SB40出土遺物

で、内面のハケメは斜方向のヘラナデでナデ消される。312は川合編年の後V期頃、313・314は牧野小山編年の第4～5期頃、315は牧野小山編年の第4期頃の所産と思われる。320の須恵器・坏蓋はやや丸みをもった天井部から明瞭な棱を形成して口縁部にいたる形状で、321の須恵器・坏身は扁平な体部に内傾するやや短い立ち上がりと受け部を持ち、口径は10.6cmと小型の作りである。どちらも猪投編年の第3期～第1～2小期頃の所産と考えられる。これらの遺物の年代観を考慮し、SB40の帰属する時期を7世紀中頃推定したが、322・323の須恵器・坏蓋のように8世紀代の遺物も含まれる。なお、311の須恵器・短頸壺の口縁部には径2.5mm程の穿孔が見られる。また、326の須恵器・坏身の底部外面には墨書きが残る。文字内容は「□□文」と思われる。

## SB41

目次	出土グリット	規 格(m)	横 長 幅 厚 度 絶対高	床面の 面 積	残存率	主 被 方 法	カマド 有無	壁 厚	切 り 合 い 関 係 (>切る、<切られる)	時 期
SB41	ISO-P. 190	4.85	1.44	0.14	39.92	4.21	2/10	N-30°-E	不明	-
SB41	規 格(m)	横 長 幅 厚 度 絶対高	面 積	切 り 合 い 関 係 (>切る、<切られる)	出 土 遺 物 (破 片 数)	時 期				
Pit1	0.28	0.24	0.18	網丸三角形						
Pit2	0.40	0.30	0.21	不定形						
Pit3	0.32	0.20	0.29	椭円形	< Pit4					
Pit4	0.22	0.28	0.15	正円形	> Pit3・5					
Pit5	0.25	0.25	0.22	正円形	> Pit6, < Pit4					
Pit6	0.35	0.30	0.12	正円形	< Pit5					



第57図 SB41実測図及び出土遺物

S B41はB区18O・P、19Oグリッドから検出した。S B40の北西に位置し、南東隅をS B40に切られているうえ、遺構の西側の大半が調査区外に含まれるため、検出できたのは全体の2/10程度と思われる。平面形は隅角を丸くおさめた方形で、一辺4.85m以上の中～大型の住居跡と推測される。住居内からピット6基を検出しているが、この中には後世の遺構が含まれるものと思われる。位置的に見て、Pit5が主柱穴の候補となるが、対応する他の柱穴は不明であり、断定することが困難な状況である。カマドや壁溝は確認できなかった。

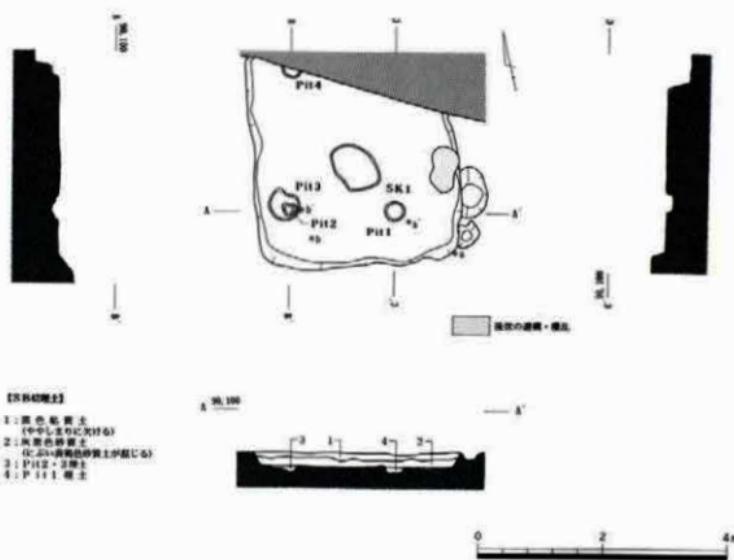
S B41からは遺物が63点出土している。内訳は土師器25点、須恵器29点、土師器皿2点で、製塙土器が7点出土している。図示できたのは2点である。327の須恵器・壺蓋は天井部が口縁部の手前でゆるく上反する形状で、口縁部は短く下方へ折り返され、端部の断面形は三角形を示す。328の須恵器・壺身は有高台の壺身と推測される。腰部に張りを持ち、ほぼ直線的に体部が立ち上がり、口縁部はわずかに厚さを減じて端部は丸く仕上げられる形で、美濃須衛編年のⅣ期～第2小期頃の所産と考えられる。これらの遺物の年代観を考慮すると、S B41の帰属する時期は8世紀代に求めることが妥当となるが、S B40との切り合い関係と矛盾することとなり、遺物内容が質・量ともに貧弱な現状では、時期推定が困難な住居跡という結果に終わった。

#### S B42

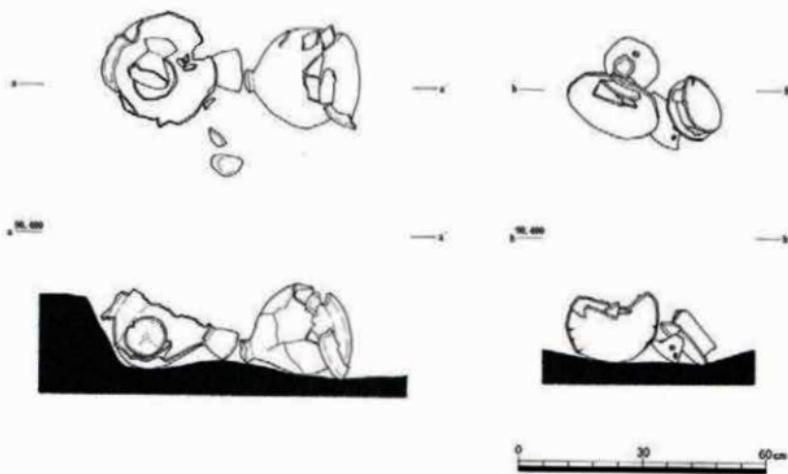
住居跡番号	出土グリッド	規格(m)		床面の高さ	床 面	既存率	主 柱 方 位	カマド	壁	切 り 合 い 围 体	時 期
		長 幅	幅 高								
S B42	21L・K、22L・K	4.20	3.35	0.18	90.05	9.53	7/10	N-E	無	—	3世紀後半
<b>II期</b>											
底 鋸	規 格(m)	平 面 形	切 り 合 い 围 体			出 土 遺 物 (破 片 数)		面 考			
底 鋸	長 幅	幅 高	深 底	<切る。<切られる>							
SK1	0.89	0.65	0.07	横 内 形							
Pit1	0.29	0.20	0.14	横 内 形							
Pit2	0.24	0.18	0.14	楕円三角形		>Pit3					
Pit3	0.50	0.47	0.04	不 定 形		<Pit2					
Pit4	0.30	0.10	0.10	正 内 形							

S B42はB区21L・K、22L・Kグリッドから検出した。B区の最も北側に位置し、南側にはS B44があるが、他の住居跡との切り合い関係は見られなかった。北側の約1/3が調査区外にあり、北東と北西の隅は未確認であるが、後述するように主柱穴の位置が復元できることから、平面形は隅角をやや丸くおさめた南北にやや長い方形で、4.20×3.35m程の中型の住居跡と考えられる。住居内から土坑1基とピット4基を検出している。位置的に見てPit1、Pit2、Pit4が主柱穴と考えられ、これらに対応する北東隅の柱穴は試掘トレレンチに切られて不明である。カマドや壁溝は確認できなかった。

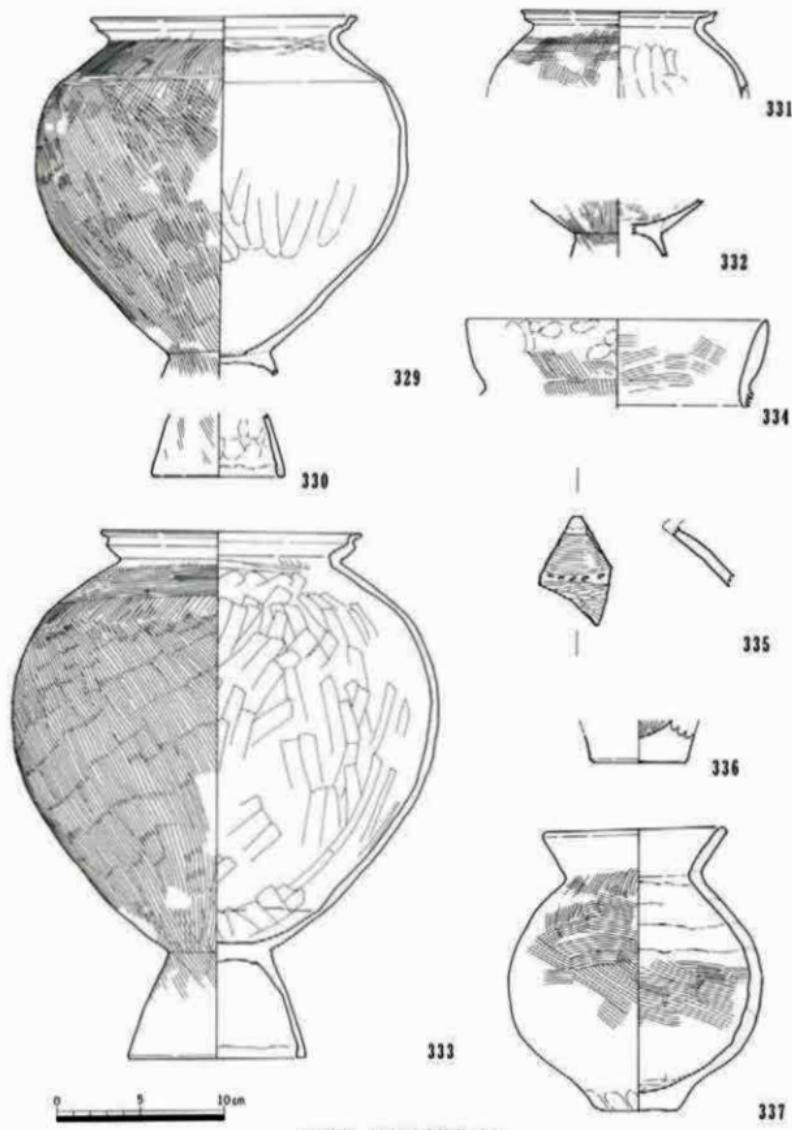
S B42からは262点の遺物が出土している。内訳は土師器256点、須恵器4点、山茶碗2点である。土師器の大半は廻間II～III式期に帰属すると考えられる遺物で、松河戸期にまで下がる遺物や古代の土師器がごく少量含まれる。図示した遺物は16点で、すべて廻間II～III式期頃の所産と考えられる遺物である。329～332はS字型である。329・331・333の口縁部は下段が大きく突出し中段がほぼ垂直に立ち上がり、口縁端部に面を持つ。329・333の体部は球形で、上半に上から下へのハケメ、下半に下から上へのハケメを施し、体部上半にヨコハケが施される。また屈曲部内面にも横方向のハケメが残る。胴部内面には、指やヘラなどによるナデ調整が施される。330・333の台部には折返しの



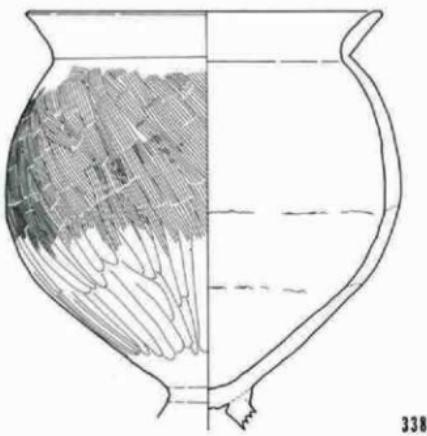
遺物出土状況(333・338・339・340・342・344)



第58回 SB42実測図



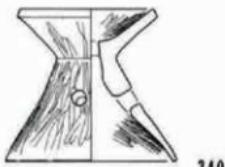
第59図 SB42出土遺物 (1)



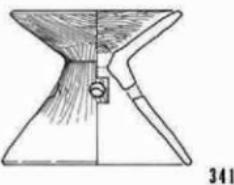
338



339



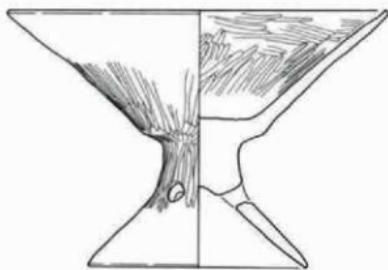
340



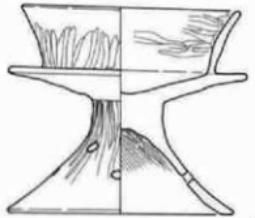
341



343



344



342

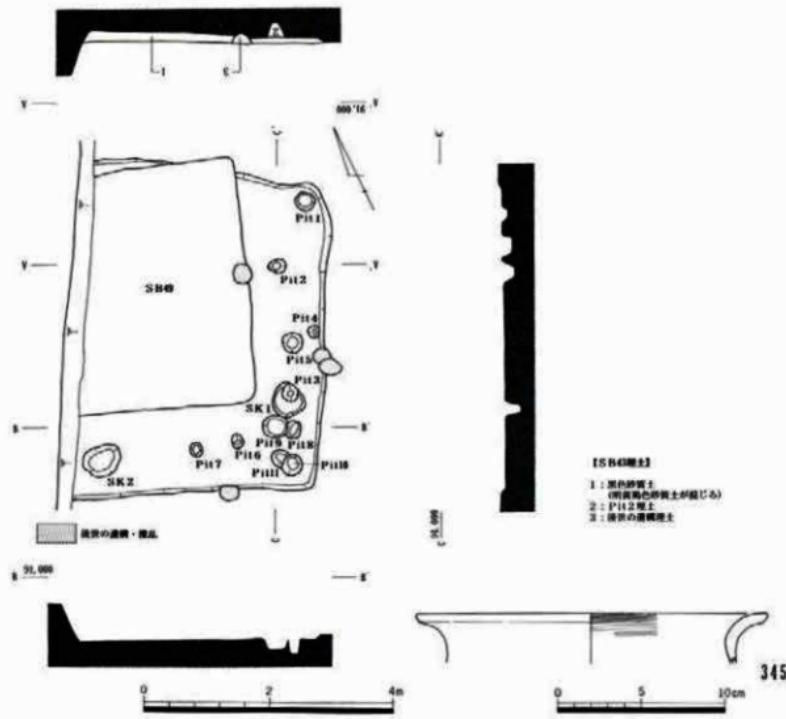
0 5 10cm

第60図 SB42出土遺物 (2)



S B43はB区19N・O、20N・Oグリッドから検出した。南にはS B40・41が在り、東にはS B46・52が在る。他の住居跡との切り合い関係は、S B49に切られており、西側の約1/3が調査区外に在り、検出できたのは全体の6/10程度と推測される。北東と南東の隅が確認できたことから、平面形は隅角をわずかに丸くおさめた方形で、一辺5.44m程の中型の住居跡と考えられる。住居内から土坑2基、ピット11基を検出している。位置的に見てPit2、Pit9が主柱穴と考えられ、これらに対応する東側の柱穴はS B49に切られるか、調査区外に在ると予測される。カマドや壁溝は確認できなかった。

S B43からは遺物が13点出土している。内訳は土師器11点、須恵器1点、山茶碗1点で、その他の遺物として打製石斧が1点出土している。質・量ともに貧弱な内容で、図示できた遺物も1点だけである。345の土師器・甕は口縁部が頭部からわずかに上方に立ち上がった後、大きく外反してほぼ水平に開く形状で、口縁部外面のハケメは横方向のナデによってナデ消される。川合編年の後IX期頃、牧野小山編年の第7期頃の所産と考えられる。出土遺物に恵まれず、時期推定は困難であるが、遺構の切り合い関係も考慮して、S B43の帰属する時期は8世紀代中頃と推定した。

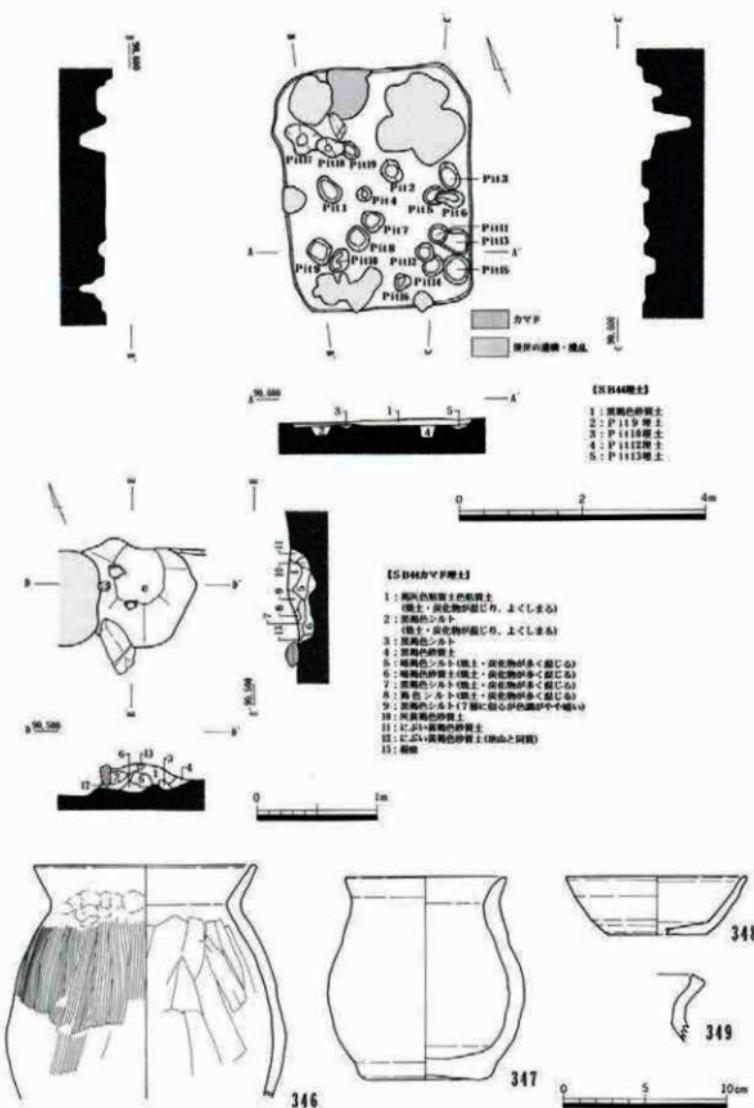


## SB44

住居跡 番号	出土グリッド	面 積(m)			床面の 绝对高	面 積	残存率	上 部 方 位	カマド 有無	壁 厚	切 り 合 い 関 係 (>切る、<切られる)	時 期
		長 軸	短 軸	深 さ								
SB44	21L・M	3.90	3.30	0.11	89.9%	10.55	10/10	N-17°-E	有	厚壁	<	7世紀中期
SB44	面 積(m)	平 面 形	切り 合 い 関 係 (>切る、<切られる)	出 土 遺 物 (破 片 数)	面 厚							
Pit1	0.45	0.54	0.09	不定形							土師器(實1)	
Pit2	0.48	0.52	0.11	不定形							土師器(實1)	
Pit3	0.44	0.29	0.13	椭円形								
Pit4	0.24	0.22	0.17	正円形								
Pit5	0.35	0.30	0.12	椭円形	< Pit6							
Pit6	0.48	0.28	0.10	不定形	> Pit5							
Pit7	0.27	0.25	0.09	椭丸三角形								
Pit8	0.49	0.36	0.08	椭丸方形								
Pit9	0.44	0.38	0.12	椭丸方形								
Pit10	0.39	0.22	0.13	椭丸三角形							主柱穴	
Pit11	0.30	0.30	0.10	正円形	> Pit13							
Pit12	0.39	0.28	0.09	正円形	> Pit14						主柱穴	
Pit13	0.52	0.28	0.15	椭丸三角形	< Pit11							
Pit14	0.35	0.30	0.15	正円形	< Pit12						土師器(實3)	
Pit15	0.47	0.40	0.09	椭円形							陶器(實1)	
Pit16	0.28	0.25	0.02	椭丸三角形								
Pit17	0.64	0.51	0.42	不定形	< Pit18							
Pit18	0.42	0.33	0.08	椭円形	> Pit17・19						主柱穴	
Pit19	0.28	0.24	0.11	椭円形	< Pit18							

SB44はB区21L・Mグリッドから検出した。北にはSB42が、東にはSB45があるが、他の住居跡との切り合い関係は見られない。住居跡の全周を確認することができ、平面形は隅角を丸くおさめた南北にやや長い方形で、3.90×3.30m程の小型の住居跡である。住居内からピット19基を検出しているが、中には深さが10cm以下のものもあり、後世の遺構や自然のくぼみが含まれる可能性もある。位置的に見てPit10、Pit12、Pit18が主柱穴と考えられ、これらに対応する北東隅の柱穴は後世の遺構に切られて確認できなかった。壁溝は確認できなかつたが、北壁の中央からやや西寄りの所にカマドが造られている。西側の一部を後世の土坑によって切られているが、壁に造り付けられる、川合分類のAタイプに該当すると考えられる。他のカマドと同様の「粘土カマド」で、地山を掘りくばめた後、粘土や砂質土を突き固めて造られているが、深さ10数cm前後とかなり深く掘り込まれている。焼土が低い小山状に残っているだけで燃焼部や袖部の識別も困難であるが、カマドの西端、後世の土坑との境目の辺りに長さ18cm程の川原石が縦位に立てられており、袖の芯材であった可能性も考えられる。支脚となるような石は確認できなかつた。

SB44からは遺物が58点出土している。内訳は古墳時代の土師器4点、古代の土師器4点、須恵器3点、灰釉陶器1点、山茶碗2点、中・近世陶器2点で、製塙土器が1点出土している。図示した遺物は4点で、そのうちカマドから出土したのは346・347の土師器・甕である。346の口縁部はく字状に外傾する形状で、頭部には指頭圧痕が残る。胸部に強い張りを有し外面には斜方向のハケメが残る。内面は斜方向のヘラナデが施される。347の口縁部は非常に短く、頭部くびれ部から外反気味に聞く形状で、川合編年の後V期頃の所産と思われる。348の須恵器・甕身は無高台で、体部は内彎気味に



第62図 SB44実測図及び出土遺物

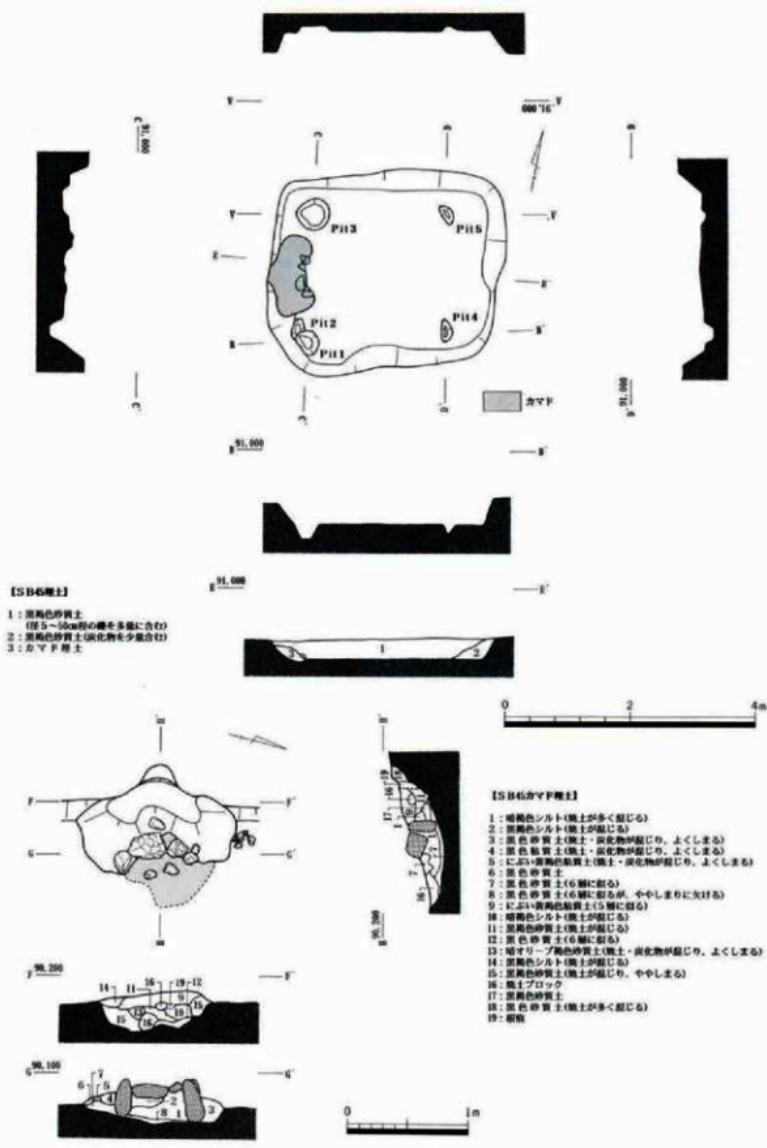
立ち上がり、口縁部がわずかに外反する形状で、美濃須衛編年のIV期—第1小期頃の所産と思われる。また、349の須恵器・壺は口縁部が大きく外反して立ち上がり、口縁部は内傾してほぼ平坦な面をなす。美濃須衛編年のIV期—第3小期頃の所産と考えられる。これらの遺物のうち、特にカマドから出土した遺物の年代観を重視して、SB44の帰属する時期を7世紀中頃と推定した。

## SB45

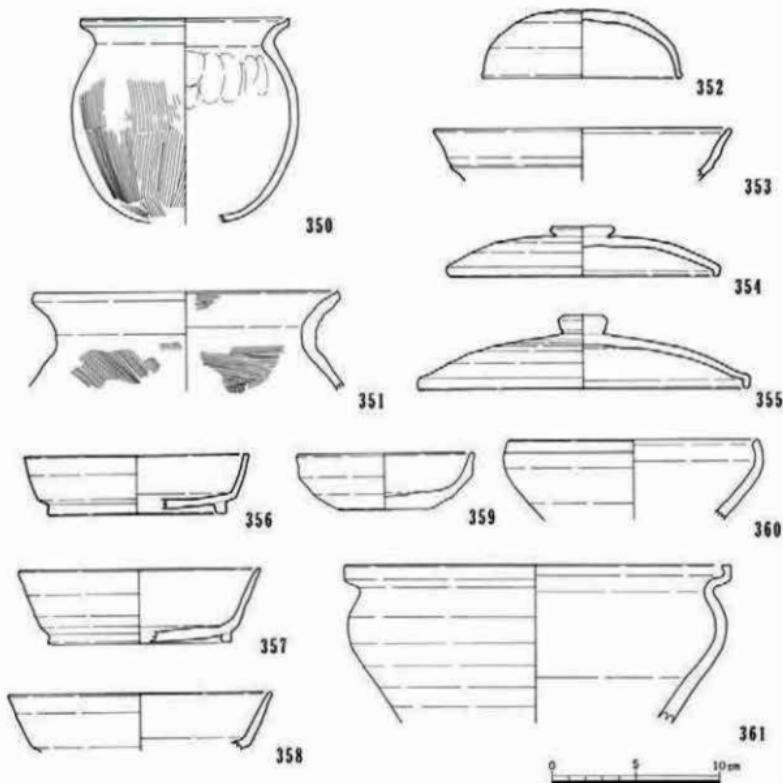
住居跡番号	出土グリッド	幾何学的(m)			床面の面積	既存車	主軸方位	カマド有無	壁溝	切り合い關係(>切る、<切られる)	時期
		長軸	短軸	深さ							
SB45	21M・N、22M・N	3.80	3.14	0.35	89.87	II-III	10/10	N-NE-W	有	西壁 無	8世紀～9世紀
平面形	規格(m)	平面形	切り合い關係(>切る、<切られる)								
直角	直角	直角	>Pit2								主柱穴
Pit1	0.42	0.32	0.32	圓角三角形							
Pit2	0.22	0.24	0.17	圓角三角形	<Pit1						
Pit3	0.55	0.46	0.08	橢円形							主柱穴
Pit4	0.36	0.18	0.14	圓角三角形							主柱穴
Pit5	0.34	0.18	0.08	圓角三角形							主柱穴

SB45はB区21M・N、21M・Nグリッドから検出した。北にはSB44が、南にはやや離れてSB46・52が在るが、他の住居跡との切り合い関係は見られない。住居跡の全周を確認することができ、平面形は隅角を丸くおさめた東西にやや長い方形で、3.80×3.14m程の小型の住居跡である。住居内からピット5基を検出している。位置的に見てPit1、Pit3、Pit4、Pit5が主柱穴と考えられるが、中には深さ8cmとやや浅いピットもある。壁溝は確認できなかったが、西壁の中央からやや南寄りの所にカマドが造られている。壁に造り付けられる、川合分類のAタイプに該当すると考えられ、短い煙道部が壁をえぐって造り付けられている。他のカマドと同様の「粘土カマド」で、地山を掘りくぼめた後、粘土や砂質土を突き固めて造られている。燃焼部と思われる焼土の左右に長さ30cm程の石が立てられており、これが袖の芯となる石と考えられる。さらにその間に板石が橋状に置かれており、これは燃焼部の蓋石と思われる。さらにその奥には支柱石と思われる長さ20cm程の川原石が縦位に置かれている。

SB45からは遺物が90点出土している。内訳は土師器42点、須恵器40点、山茶碗2点、土師器皿1点、中・近世陶器2点、製塙土器3点で、その他の遺物として打製石斧が1点出土している。図示した遺物は12点で、そのうちカマドから出土したのは350の土師器・壺である。350は球形の体部から口縁部が外反して立ち上がり、端部が上方につまみ上げられる。丸底で、体部外面には縱方向のハケメが残り、内面には指ナデが施される。8世紀代の所産と思われる。351は口縁部が上方に立ち上がった後、外反気味になる形状で、川合編年の後VIII期頃の所産と考えられる。354の須恵器・壺蓋は天井部に張りをもち、口縁部は垂直に折り返されるが、にくみをおびる。扁平でやや大振なつまみが付けられる。355の須恵器・壺蓋は天井部は丸みをおび、口縁部は垂直に折り返され、端部は丸く仕上げられる。どちらも美濃須衛編年のIV期—第1～2小期頃の所産と考えられる。356・357の須恵器・壺身はどちらも角張った貼付高台を持つもので、356はほぼ平らな底部から直線的に体部が立ち上がり、端部は丸く仕上げられる。357はやや下方に下がる底部から外反気味に体部が立ち上がり、口縁部は尖り気味にわずかに厚さを減じて端部は丸く仕上げられる。どちらも美濃須衛編年のIV期—



第1～2小期頃の所産と考えられる。359～361は須恵器・鉢で、359は平坦な底部から内擣気味に体部が立ち上がり、中程に明瞭な棱を有する。口縁部はわずかに外反し、端部は尖り氣味に厚さを減じて丸く仕上げられる。猿投編年の第Ⅳ期～第3小期頃の所産と思われる。360は丸みのある体部が上方で内側に屈折し、口縁端部が面取りされる形状で、美濃須衛編年のⅣ期～第1小期頃の所産と考えられる。361の体部は肩の部分でく字状にゆるく屈曲し、外反する頸部に口縁部が立ち上がりかすかな棱をなす。口縁端部は扁平に仕上げられる。美濃須衛編年のⅣ期～第2小期頃の所産と考えられる。これらの遺物の年代観を考慮して、SB45の帰属する時期を8世紀前半～中頃と推定した。353の須恵器・無蓋高杯は丸みをおびた体部が外反氣味に開き、口縁部内面にかすかな面を造り出す形状で、体部の外面には明瞭な棱が2条形成される。猿投編年の第Ⅲ期～第1～2小期頃の所産と考えられる。



第63図 SB45実測図

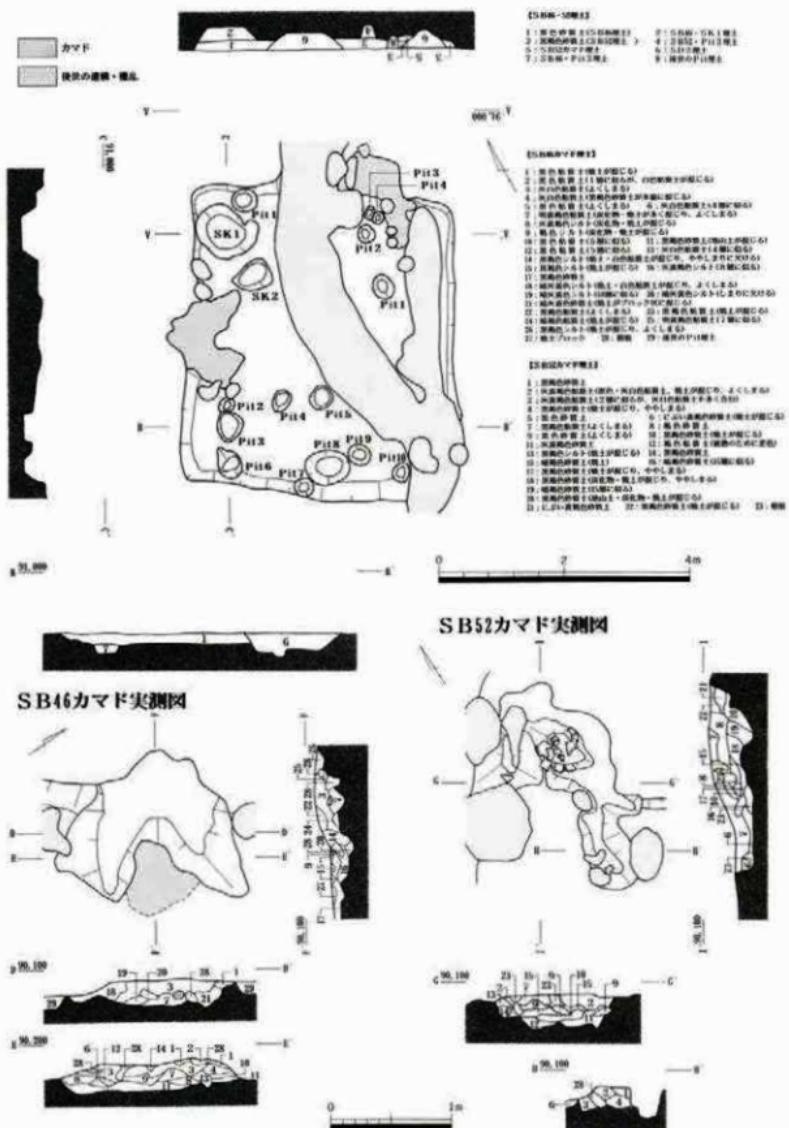
## SB46・52

目次 番号	出土グリッド	概(㎡)			床面の 高さ	面積	残存率	主軸方位	カマド 有無	壁 厚	切り合 い関係 (>切る、<切られる)	時 期
		長軸	短軸	深さ								
SB46	21・22M・21・22N	5.02	3.70	0.22	89.87	11.13	5/10	N~21°~E	有	西壁	無	<SB52
SB52	21・22M・21・22N	5.02	3.70	0.22	89.87	11.13	5/10	N~21°~E	有	西壁	無	<SB46
Pit1	概(㎡)	平面形	切り合 い関係 (>切る、<切られる)									備考
SK1	0.56	0.47	0.23	不定形								
SK2	0.62	0.45	0.16	不定形								
Pit1	0.40	0.25	0.12	正円形								
Pit2	0.27	0.24	0.15	正円形	<Pit3							
Pit3	0.49	0.48	0.09	椭丸三角形	>Pit2							
Pit4	0.36	0.27	0.12	椭円形								
Pit5	0.38	0.28	0.10	椭丸方形								
Pit6	0.55	0.40	0.12	不定形								後世の遺構
Pit7	0.29	0.25	0.23	正円形								後世の遺構
Pit8	0.42	0.40	0.12	椭円形								
Pit9	0.33	0.33	0.14	正円形								
Pit10	0.38	0.28	0.14	椭丸二角形								後世の遺構
SB46	出土グリッド	概(㎡)	床面の 高さ	面積	残存率	主軸方位	カマド 有無	壁 厚	切り合 い関係 (>切る、<切られる)			時 期
SB52	21N・O	4.38	2.20	0.12	89.85	1.64	3/10	N~21°~E	有	東壁	無	>SB46
Pit1	概(㎡)	平面形	切り合 い関係 (>切る、<切られる)									備考
Pit2	0.36	0.32	0.12	椭円形								
Pit3	0.28	0.25	0.17	正円形								
Pit4	0.10	0.18	0.12	椭円形	<Pit3							
Pit5	0.19	0.14	0.15	椭円形	>Pit3							

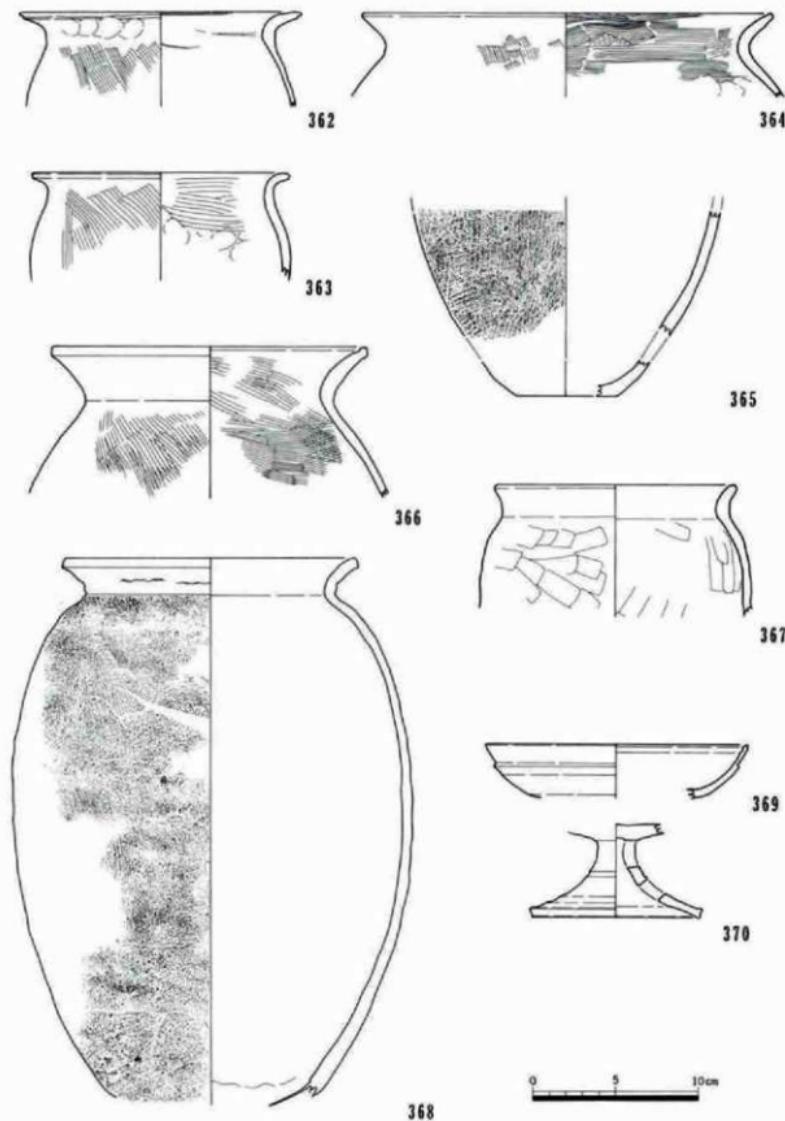
SB46・52はB区21M～O、22M・Nグリッドから検出した。北にはやや離れてSB45が、東にSB43・49が、南にSB52が在るが、他の住居跡との切り合い関係は見られない。2ヶ所からカマドが検出されたため、発掘時には2軒の住居跡と判断されたが、中央をSD2が貫流しており、住居跡埋土の切り合いは確認できなかった。便宜上、SD2の北側をSB52、南側をSB46として図表を作成した。平面形はいずれも隅角をやや丸くおさめた方形で、一辺5m前後の中型の住居跡と考えられるが、床面の高さもほぼ同じで、あるいはカマドが2基ある住居跡であった可能性も否定できない。

SB46は住居内から土坑2基、ピット10基が検出されている。中には後世の遺構も含まれるが、位置的に見て、SK1・Pit3が主柱穴の候補となるが、Pit3は深さが9.0cmとやや浅い。壁溝は確認できなかつたが、西壁のほぼ中央にカマドが造られている。他の住居跡と同様の「粘土カマド」で、壁に造り付けられる川合分類のAタイプに分類され、短い煙道部が壁をえぐり込むように造られている。上部構造は削平されているが、下部構造は比較的よく残っており、袖部や燃焼部も当時の状況を留めていると思われる。地山を掘りくばめて粘土や砂質土を突き固めて造る構造は、この地での一般的なカマドの造り方を示すと考えられる。袖の芯や支脚となるような石は確認できなかつた。

SB52からはピット4基が検出されている。位置的にはPit1が主柱穴の候補となるが、検出できた範囲が全体の3/10程度と推定されることもあり、あくまでも推測の域をでるものではない。壁溝は確認できなかつたが、北壁の中央から東よりの所にカマドが造られている。他の住居跡と同様の「粘土カマド」で、壁をえぐり込んで造られる川合分類のCタイプに分類され、短い煙道部が付けられていく



第65圖 SB46・SB52實測圖

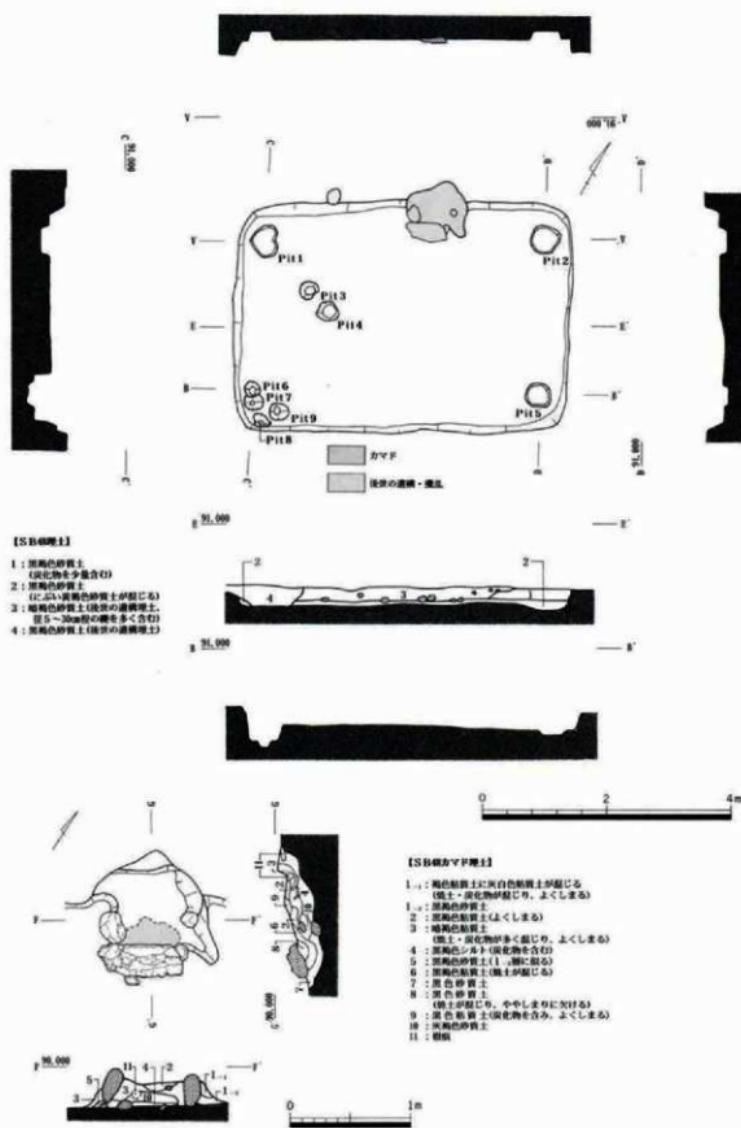


第66図 SB46出土遺物

る。カマドの西側の袖はS D 2に切られているが、残存状態は比較的良好で、燃焼部も含めて地山を30cm前後とかなり深く掘り込み、粘土や砂質土を突き固めて造られている。袖部と燃焼部が屋内にあり、その奥は壁の外に造られている。袖の芯となるような石や支脚となるような石は確認できなかった。なお、関市に所在する重竹遺跡の場合、7世紀後葉にAタイプが多く8世紀前葉以降はCタイプが過半数を占めることから、S B 46により古い要素を見いだすことも可能であるが、出土遺物などによる検証は不可能な状況であった。

S B46からは遺物が125点出土している。内訳は土師器87点、須恵器11点、山茶碗8点、土師器皿13点、製塙土器5点で、その他の遺物として縄文時代の深鉢1点と打製石斧2点が出土している。ただし、調査時に遺物の取り上げに混乱があり、S B46とS B52の出土遺物の区別がなされておらず、図示した9点の中にはS B52に帰属する遺物も含まれていると考えられる。9点の中でカマドから出土した遺物は364・365・368の土師器・甕である。364・365は同一固体と考えられ、径6.0cmと小さめの底部から直線的に体部が立ち上がり、やや長めの口縁部が頭部からわずかに立ち上がり、直角に近い角度で外傾するもので、川合編年の後VII期頃の所産と考えられる。368は胴部の張りが弱く、すん胴な筒型に近い形状で、口縁部は短く外反する。川合編年の後VII期頃の所産と考えられる。362は薄手の作りで、頭部から口縁部がわずかに上方に立ち上がった後、急角度で外傾し稍は水平に開く形状で川合編年の後VIII期頃の、363は頭部があまりしません、ほぼ上方に立ち上がって端部手前で外反する形状で川合編年の後VI期頃の、367は口縁部が短く外反する形状で川合編年の後VI～VII期頃の所産と考えられる。また、366はやや長い口縁部がく字上に外傾し、口縁端部がわずかにつまみ上げられる形状で、7世紀代の所産と思われる。369の須恵器・高环の坏部は丸みを見せながら外反気味に立ち上がり、途中で段部を形成して口縁部にいたるもので、猿投編年の第III期-第1～2小期頃の所産と考えられる。370の須恵器・高环の脚部は比較的低く、序々に広がって裾部にいたり端部は外に開く。脚部中央に沈線が1条巡り、その上下に2段2方向の透孔を有する。369とはば同時期の所産と考えられる。これらの遺物の年代観を考慮し、S B46の帰属する時期を7世紀後半、S B52はそれと連続する時間だろうという予測から7世紀末～8世紀初頭と推定した。

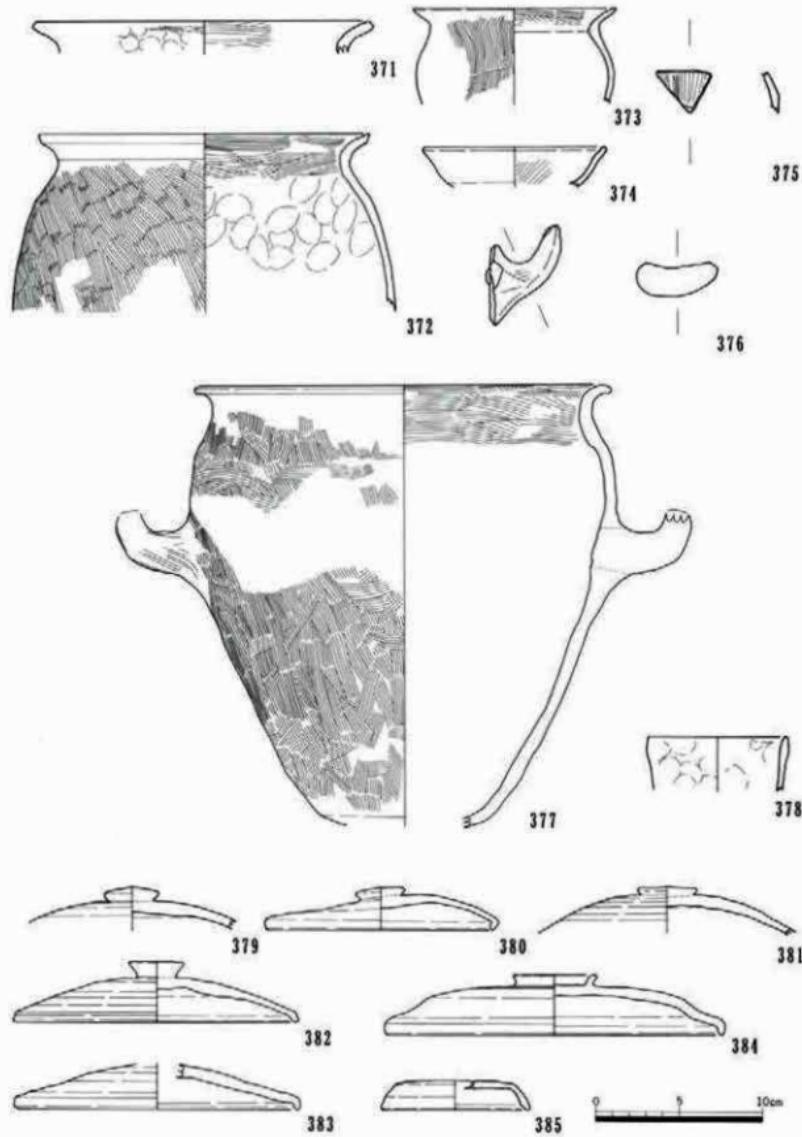
5月4日



第67図 SB48実測図

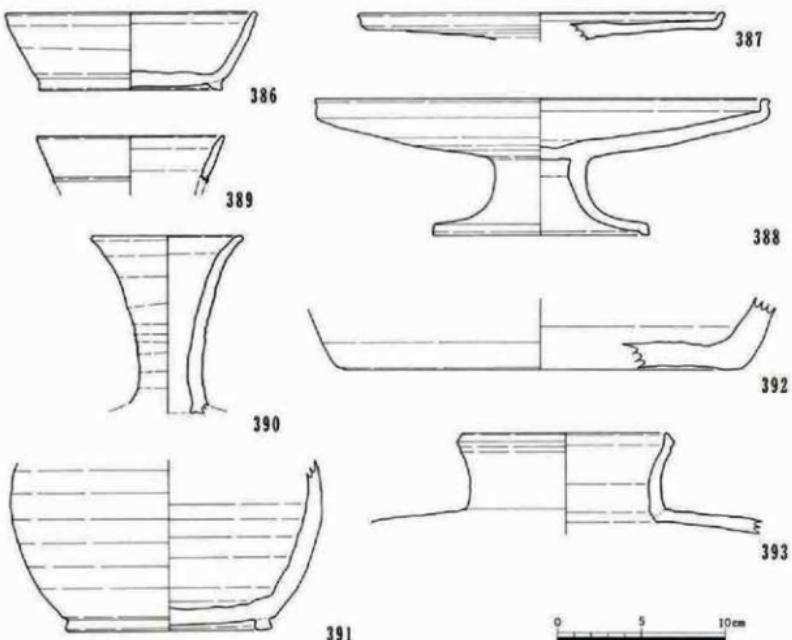
S B48はB区200・P、210・Pグリッドから検出した。北にはS B46・52が近接するが、他の住居跡との切り合い関係は見られない。住居跡の全周を確認することができ、平面形は隅角を丸くおさめた東西に長い長方形で、 $5.45 \times 3.65$ m程の中型の住居跡である。住居内からピット9基を検出している。位置的に見てPit 1、Pit 2、Pit 5、Pit 9が主柱穴と考えられるが、いずれも深さ10cm前後と、柱穴としてはやや浅いとの印象は免れない。壁溝は確認できなかったが、北壁の中央からやや東寄りの所にカマドが造られている。他の住居跡と同様の「粘土カマド」で、地山を掘りくぼめた後、粘土や砂質土を突き固めて造られている。壁をえぐり込んで造られる川合分類のCタイプに分類され、短い煙道部が付けられている。残存状態は比較的良好で、燃焼部と思われる焼土の左右に長さ30cm程の川原石が2本縦位に立てられており、これが袖の芯となる石と考えられる。さらにその手前には50×30cm程の板石が燃焼部に被せられるように置かれており、燃焼部の天井を保護するための蓋石と考えられる。

S B48からは遺物が195点出土している。内訳は土師器88点、須恵器37点、山茶碗21点、土師器皿11点、中・近世陶器3点で、製塙土器が35点出土している。図示した遺物は23点で、そのうちカマドから出土したのは372と377の土師器・壺である。なお、図示した13点はいずれも住居跡覆土2層、床面直上に近い位置から出土しているもので、比較的一括性の高い遺物と考えられる。372の土師器・壺は口縁部が頭部からわざかに上方に立ち上がった後、直角に近い角度で外傾するもので、口縁端部は尖り気味となる。口縁部外面のハケメは横方向のナデ調整で擦り消され、体部内面には指頭圧痕が残る。牧野小山編年の第6期、川合編年の後VIII期頃の所産と思われる。377の土師器・壺は形状から瓶である可能性もあるが、底部を欠失しており、蒸氣孔の有無が不明なため、ここでは壺として扱った。口縁部は長めで、頭部から内傾して立ち上がった後、大きく外反する形状で、いわゆる「牛角状」の把手を持つ。把手は体部を穿孔して差し込んだ後、接合部を粘土で補強した、外れにくい頑丈な作りである。口縁部外面のハケメは横方向のナデ調整で擦り消され、内面には横方向のハケメが明瞭に残る。372の土師器・壺とはほぼ同時期の所産と思われる。373の土師器・壺は口径12.1cmと小振りの作りで、口縁部はやや長く、頭部から直接直角に近い角度で外傾する。口縁部外面のハケメは中位程まで残される。牧野小山編年の第7期、川合編年の後IX期頃の所産と考えられる。374・375は土師器・壺身で、同一個体の可能性もある。375は底部付近の小片で、374は丸みをおびて立ち上がった体部が外反して口縁部にいたり、端部は玉縁状に丸く仕上げられる。いずれも内面に暗文が施されており、いわゆる「畿内産土師器」に類似するものとして注目される。8世紀前半の所産と思われる。376の土師器・把手は幅平ないわゆる「舌状」の把手である。379～385は須恵器の蓋類である。379～383の壺蓋はいずれも口縁部を折り返し、擬宝珠状のつまみが付く形状と考えられ、380は内側に強く折り返されるが、施け蓋みの影響の可能性もある。382は天井部に弱い張りを持ち、口縁部はゆるく折り曲げられる。383は天井部がほぼ直線的に開き、口縁部は垂直に折り返される。いずれも美濃須恵編年のIV期～第1～2小期頃の所産と考えられる。384の碗蓋は環状把手を持ち、天井部が折れて段をなす形状で、口縁部は下方に折り曲げられ、断面はにぶい三角形となる。美濃須恵編年のIV期～第2小期頃の所産と考えられる。385はつまみを持たない小型の蓋で、平坦な天井部から長い口縁部が斜め外方に開き、端部内面にややくぼんだ面を有する。猪投編年の第IV期～第2小期頃の所産と考えられる。386の須恵器・壺身の底部はやや厚手の作りで、外面はやや下方に下がり、内面は上面に



第68図 SB48出土遺物（1）

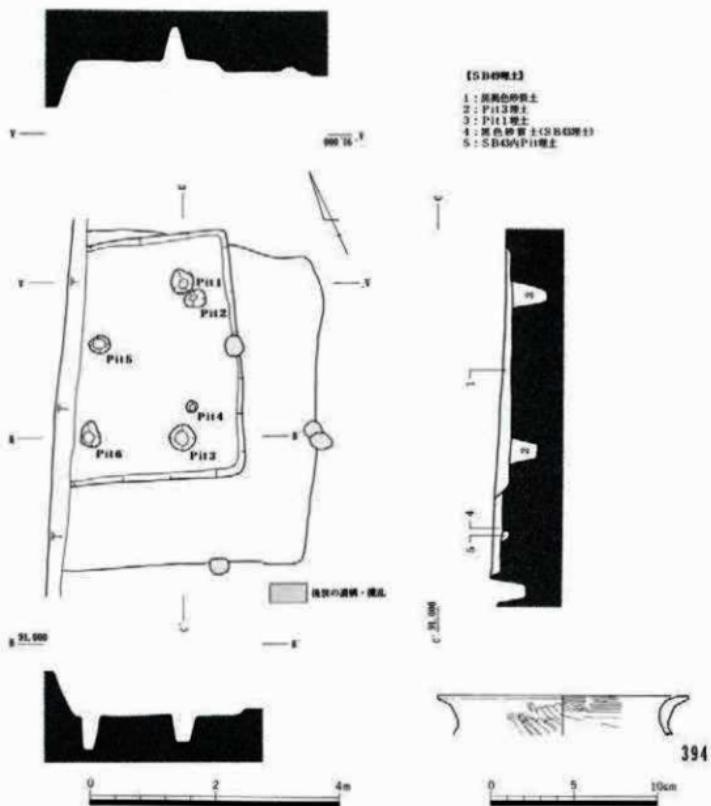
膨らみ氣味となる。さらにやや低目の高台が底部の外側に付けられるため、底部と体部の間がやや丸みを見せる。体部はほぼ直線的に立ち上がり、口縁端部は尖り氣味に厚さを減じて丸く仕上げられる。美濃須衛編年のIV期—第1～2小期頃の所産と考えられる。387・388の須恵器・高环は浅い皿状の坏部を持つもので、387は平坦な底部から短い口縁部が外反氣味に立ち上がり、端部は丸く仕上げられる。388は坏部の内面中央部がやや下がり、短い口縁部はほぼ垂直に立ち上がり、端部が外方に突出するもので、端部上面は平坦な面をなす。脚部は低く、裾部は強く開いて端部がほぼ垂直に内折れする。美濃須衛編年のIV期—第2小期頃の所産と考えられる。390・391は須恵器の長頸瓶である。390は口頸部が外反しながら立ち上がり、口縁部はわずかに厚さを減じて端部は丸く仕上げられる。391は平坦な底部に丸みをおびた体部が立ち上がる。やや外に突出した貼付高台が付けられる。390は美濃須衛編年のIV期—第1小期頃、391はそれよりやや新しい時期の所産と考えられる。393の須恵器・横瓶は口頸部が外反して立ち上がり、口縁部は内彎氣味となり、端部外面は内傾する面をなす。美濃須衛編年のIV期—第1小期頃の所産と考えられる。これらの遺物の年代観を考慮して、S B 48の帰属する時期を8世紀前半～中頃と推定した。なお、S B 48からは暗文の施された土師器・坏（374・375）や碗蓋（384）など、金属器を志向した遺物の出土が目立つ点が注目される。



第69図 SB48出土遺物 (2)

## SB49

住居跡 番号	出土グリッド	規 模(m)			床面の 絶対高	面 積	残存率	主 軸方位	カマド	壁 厚	切り合ひ 関係 (>切る、<切られる)	時 期
		長 軸	短 軸	深 さ								
SB49	19・20N	3.90	2.80	0.17	85.82	9.87	6/10	N- -E	不明	-	>SB49	9世紀前半
SB49	規 模(m)	平面形	切り合ひ関係 (>切る、<切られる)									参考
Pit1	0.39	0.33	0.52	不定形								主軸穴
Pit2	0.32	0.26	0.15	楕丸三角形								
Pit3	0.39	0.39	0.33	正内形								主軸穴
Pit4	0.19	0.16	0.15	正内形								
Pit5	0.22	0.28	0.12	椭 内 形								
Pit6	0.48	0.38	0.51	楕丸三角形								主軸穴



第70図 SB49実測図及び出土遺物

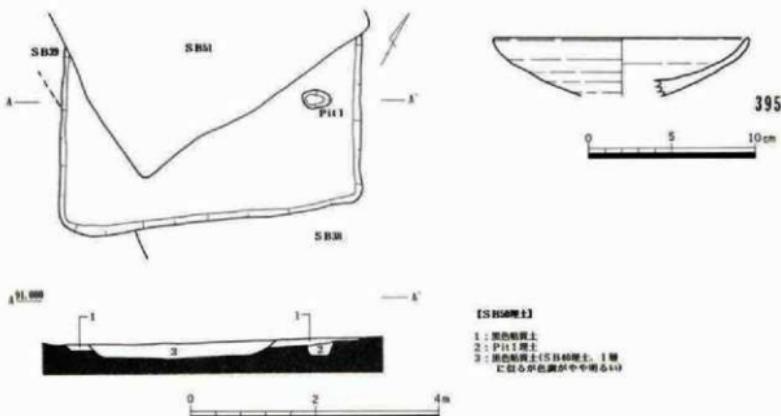
S B49はB区19・20Nグリッドから検出した。南にはS B40・41が、東にはS B46・52があり、他の住居跡との切り合い関係は、S B43を切る形となる。住居の西側は調査区外に当たり、検出できたのは全体の6/10程度と考えられるが、北東と南東の隅が確認できたことから、平面形は南北にやや長い方形で、一辺3.90m程の小型の住居跡と考えられる。住居内からピット6基を検出している。位置的に見てPit1・Pit3・Pit6が主柱穴と考えられ、これらに対応する北西隅の柱穴は調査区外にあると推測される。カマドや壁溝は確認できなかった。

S B49からは遺物が7点出土している。内訳は土師器6点、山茶碗1点と質・量ともに貧弱な内容で、図示できた遺物も1点である。394の土師器・壺は口縁部が頭部からわずかに上方に立ち上がった後、直角に近い角度で外傾してほぼ水平に開く形状で、外面には粗いハケメが残る。牧野小山編年の中第8期頃の所産と考えられる。この遺物の年代観と遺構の切り合い関係を考慮し、S B49の帰属する時期を9世紀の前半頃と推定した。

### S B50

B区N 番号	出土地グリッド	規 格(m)		床面の 絶対高 度	面 積	残存率	主 軸 方位	カマド 有無	壁 厚 度	切 り 合 い 関 係 (>切る、<切られる)	時 期
		長 軸	短 軸								
S B50	9 J・K, 10 J・K	4.85	4.65	0.15	9.36	8.61	3/10	N-59°-E	不明	-	>SB38・39, <SB51
<b>SB50</b>											
Pit1		0.48	0.28	0.16	圓角三角形						参考

S B50はA区9 J・K, 10 J・Kグリッドから検出した。近隣にS B38・39・51があり、切り合いの順番はS B39< S B38< S B50< S B51と推定した。西側の大半をS B51に切られ、検出できたの



第71図 SB50実測図及び出土遺物

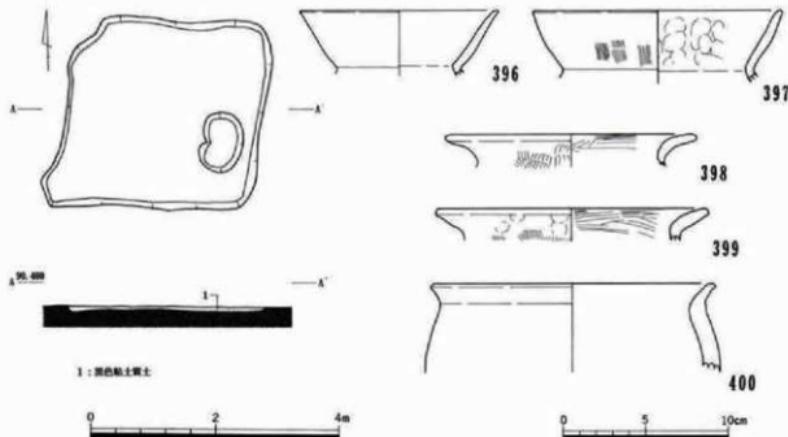
は全体の3/10程度と考えられるが、南東と南西の隅が確認できたことから、平面形は隅角をやや丸くおさめた方形で、一辺4.85m程の中型の住居跡と考えられる。住居内からピット1基を検出しているが、主柱穴と推定するにはやや不自然な場所に位置する。カマドや壁溝は確認できなかった。

S B 49からは遺物が89点出土している。内訳は土師器77点、須恵器3点で、製塙土器が9点出土している。いずれも小さく破碎された小片で、図示できた遺物も1点である。395の須恵器・高坏の坏部は比較的浅く、体部が内彎曲気味に立ち上がり、口縁部は尖り気味に厚さを減じて端部は丸く仕上げられる。美濃須衛福年のⅢ期-後半頃の所産と考えられる。この遺物の年代観と遺構の切り合い関係を考慮し、S B 50の帰属する時期を8世紀の前半頃と推定した。

#### 第4節 その他の遺構と出土遺物

##### 竪穴状遺構1

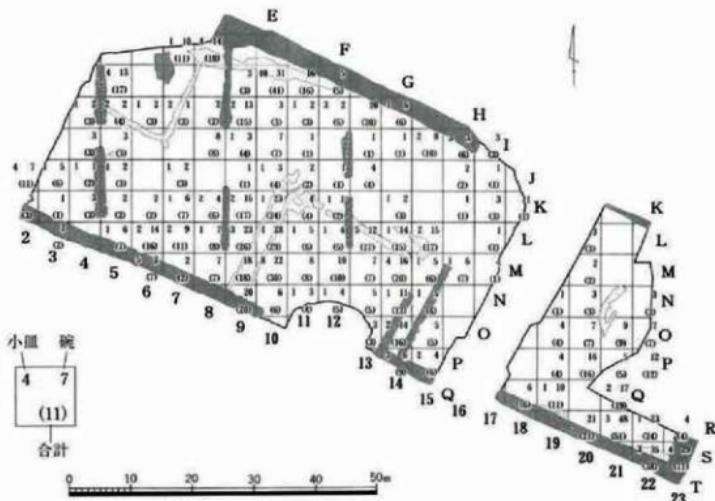
竪穴状遺構1はB区19・20Qグリッドから検出した、平面形は3.20×3.00m程の平行四辺形に近い方形で、深さは6cmと浅い。遺物は107点出土している。内訳は古墳時代の土師器26点、古代の土師器58点、須恵器14点、山茶碗2点、製塙土器5点で、その他の遺物として打製石斧が1点出土している。図示した遺物は5点で、396・397の土師器・広口壺は長い口縁部が内彎曲気味に外傾するもので、397の口縁外面には縱方向のハケメが残り、内面には指頭圧痕が残る。週間Ⅱ～Ⅲ期頃の所産と思われる。398～400は古代の土師器・壺で、口縁部の形状から398・399は牧野小山福年の第7期頃、400は川合福年の後V期頃の所産と考えられる。古墳時代の遺物が一定量出土している点が注目されるが、その他の出土遺物の年代観も考慮し、8世紀後半頃に帰属すると考えたい。



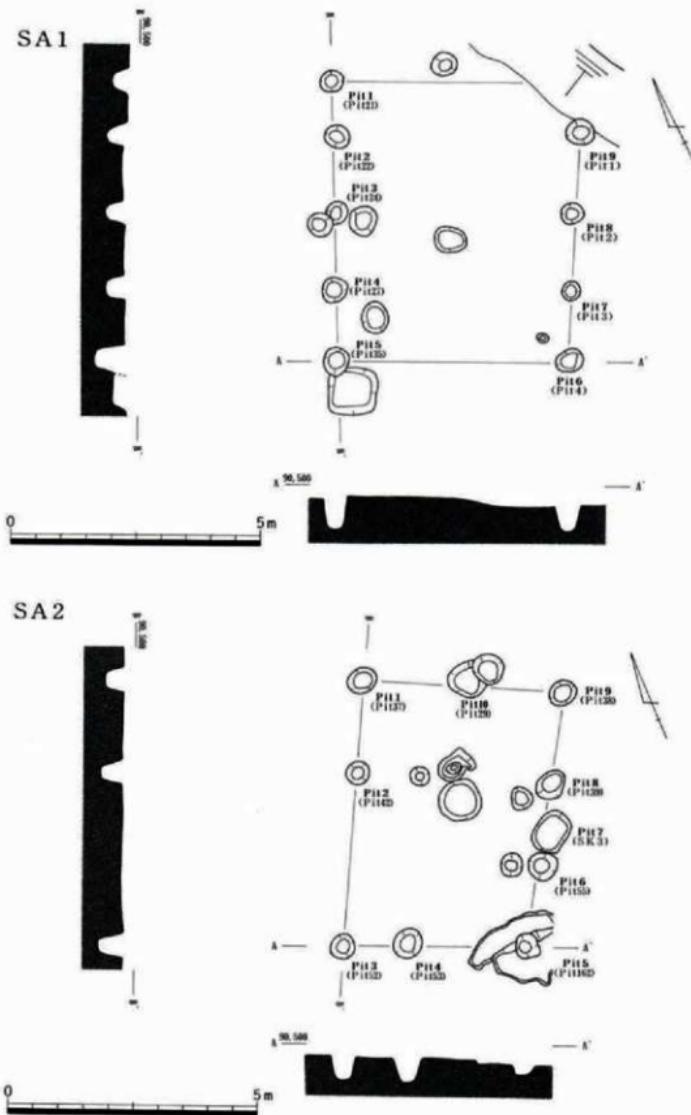
第72図 竪穴状遺構1実測図及び出土遺物

### 柱(杭)列 (SA)

前述のように今回の調査では、AB区合わせてピット1,091基、土坑142基を確認しているが、いずれも柱痕や柱を支える根石などの、柱が立っていた確証は得られなかった。これらの遺構の中で、平面的な分布から比較的規則正しく長方形もしくは方形に並び、掘立柱建物が立っていた可能性がありそうな範囲を一括してSA(柱(杭)列)として扱った。最終的に33ヶ所設定し、平面図は第74~85図に、柱穴などのデータは第9~16表に示した。また、住居内から検出された遺構の中にも後世の遺構が相当数含まれており、それらも含めて検討すれば、その数はより増えるものと考えられる。これらを形成するピットの深さは概ね20~60cm程度であるが、中には10cm以下の浅い遺構も含まれる。SA 2・4・11・13・34などのように、比較的整った方形で、四隅の柱穴も確認できる例もあれば、平面形が歪んだり、どこかの隅の柱穴が未確認の例、試掘トレンチに切られたり調査区外に広がるために、全貌を明らかにできなかった例などもあるが、少なくとも10数軒は掘立柱建物が立っていたものと考えたい。遺物が出土した遺構は117基を数えるが、その主たるものは古代の土器器で、中世から近世にかけての遺物が出土した遺構も、古代以前の遺物が混入する場合が多い。SAの時期推定は、主に柱穴から出土した遺物の年代観によるが、包含層出土の山茶碗の点数をグリッド毎にカウントし、その数の比較的多い場所に中世の遺構があった可能性が高いであろうという推定のもとに第73図を作成し、時期推定に援用した。その結果、中世以降に帰属するであろうと推定した遺構にSA 6・18・19・21・32などがある。なお、ほとんどの遺構の埋土は黒および黒褐色の粘質土を基調としており、厳密な識別が困難で、遺構の年代観を推測する上で援用することはできなかった。

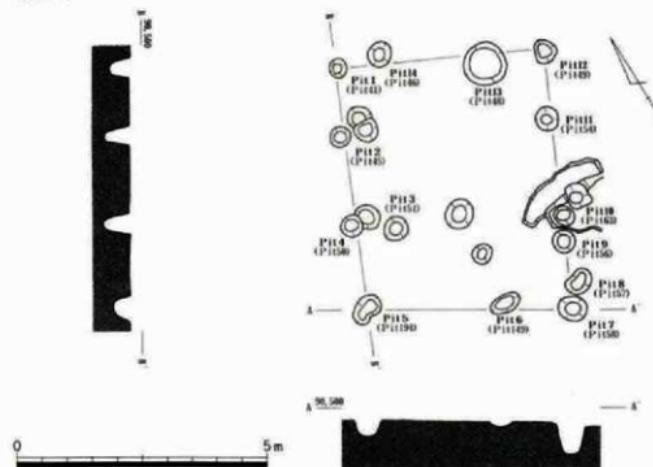


第73図 鈴田遺跡グリッド別山茶碗出土破片数

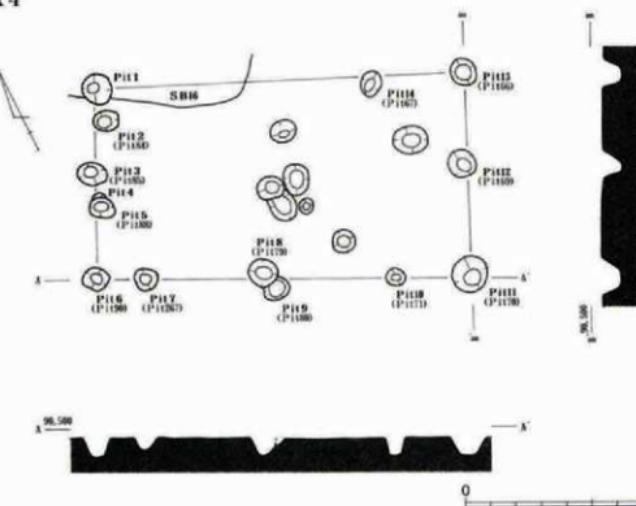


第74図 SA1・2実測図

## SA 3

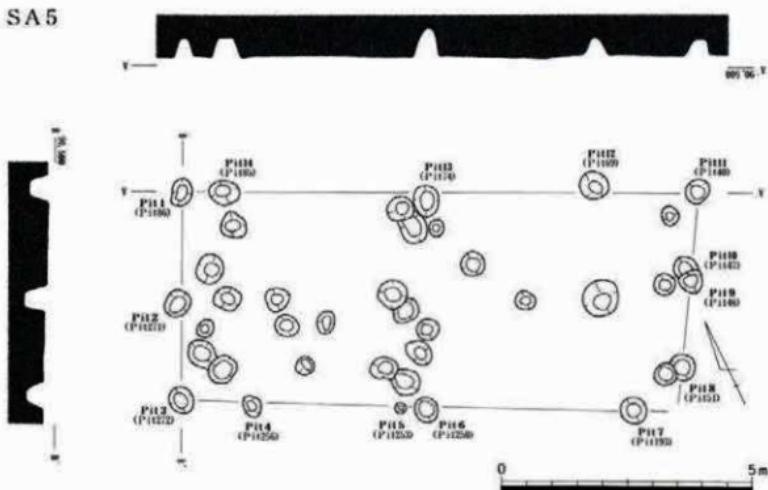


## SA 4

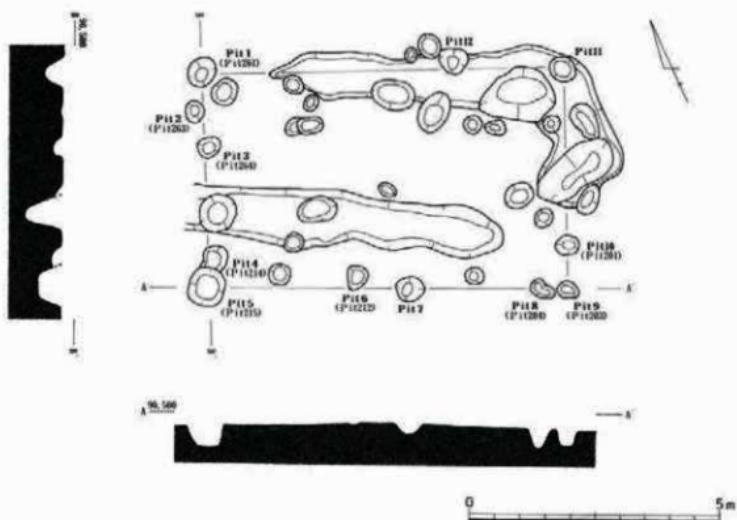


第75図 SA3・4実測図

SA 5

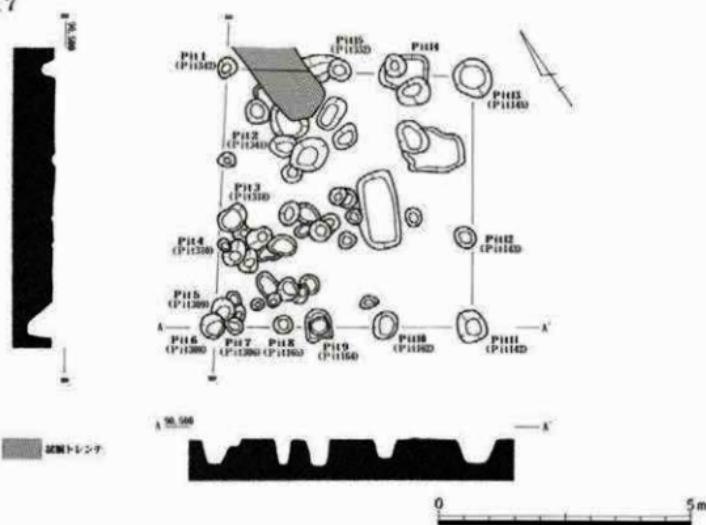


SA 6

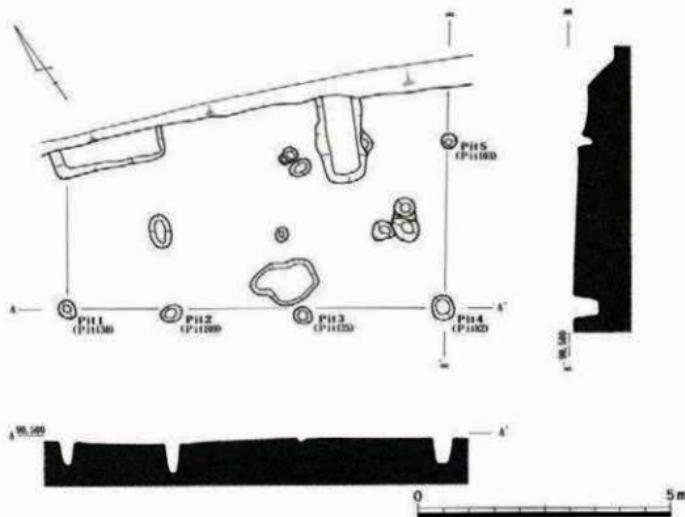


第76図 SA5・6実測図

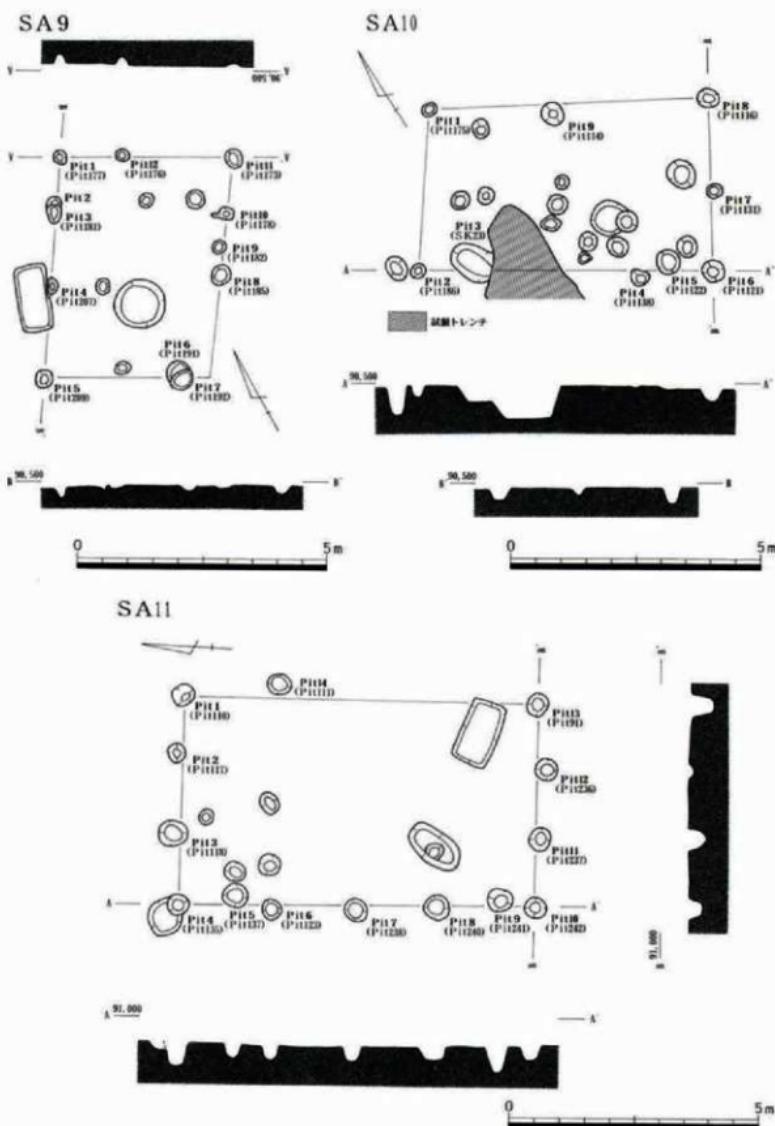
SA 7



SA 8

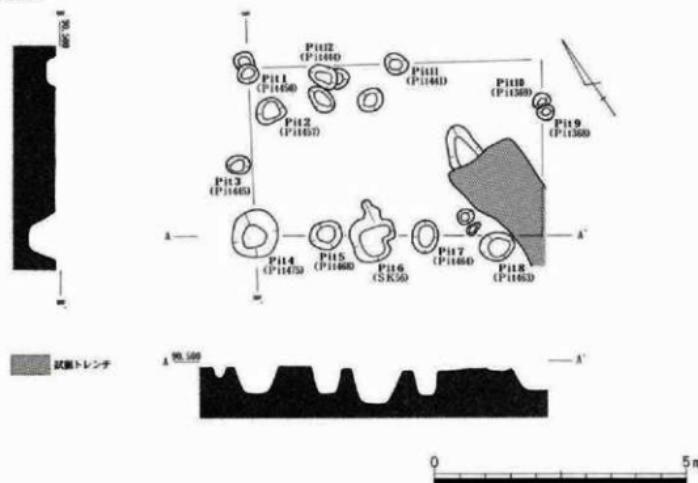


第77図 SA7・8実測図

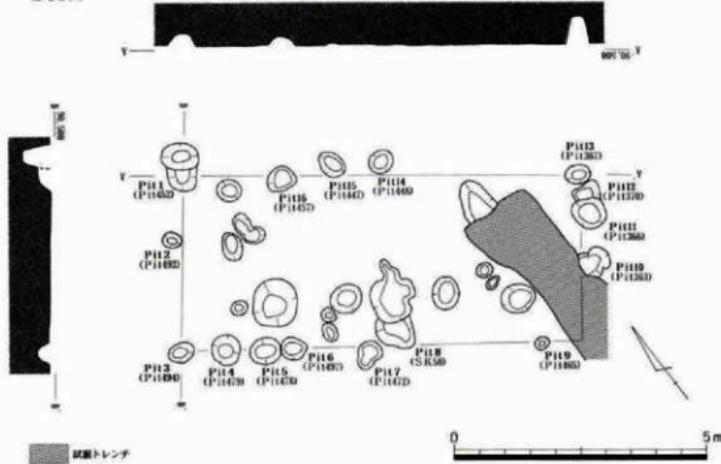


第78図 SA9・10・11実測図

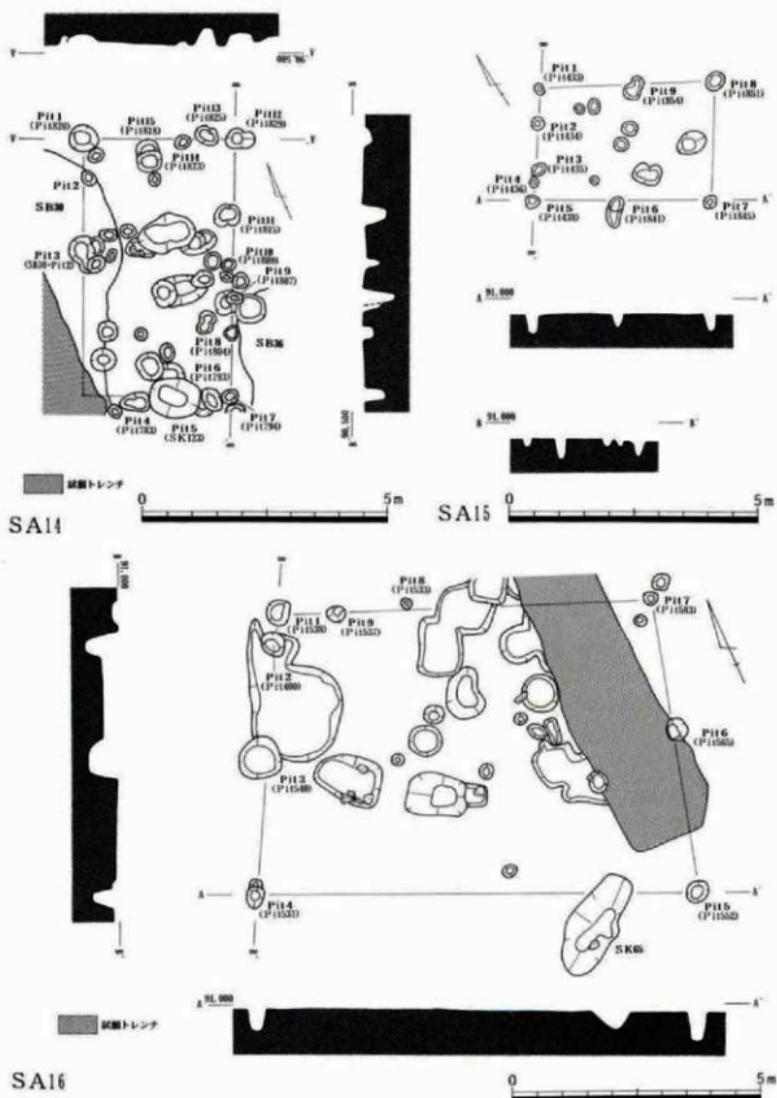
SA12



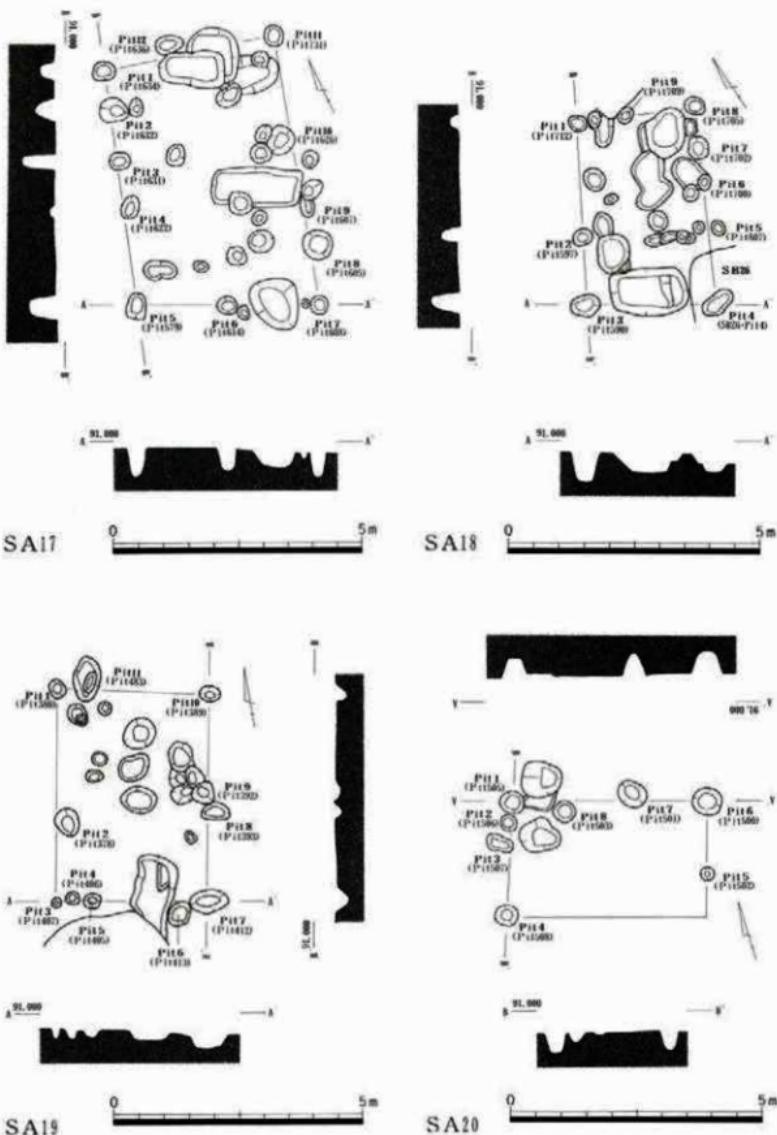
SA13



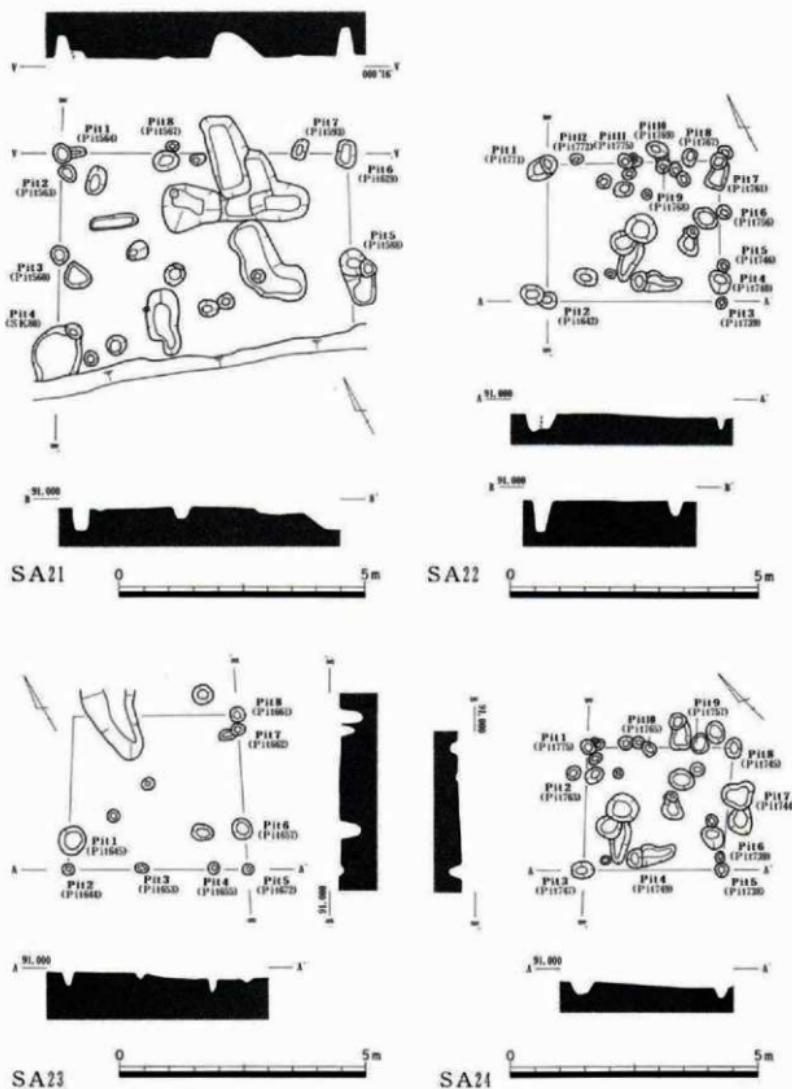
第79図 SA12・13実測図



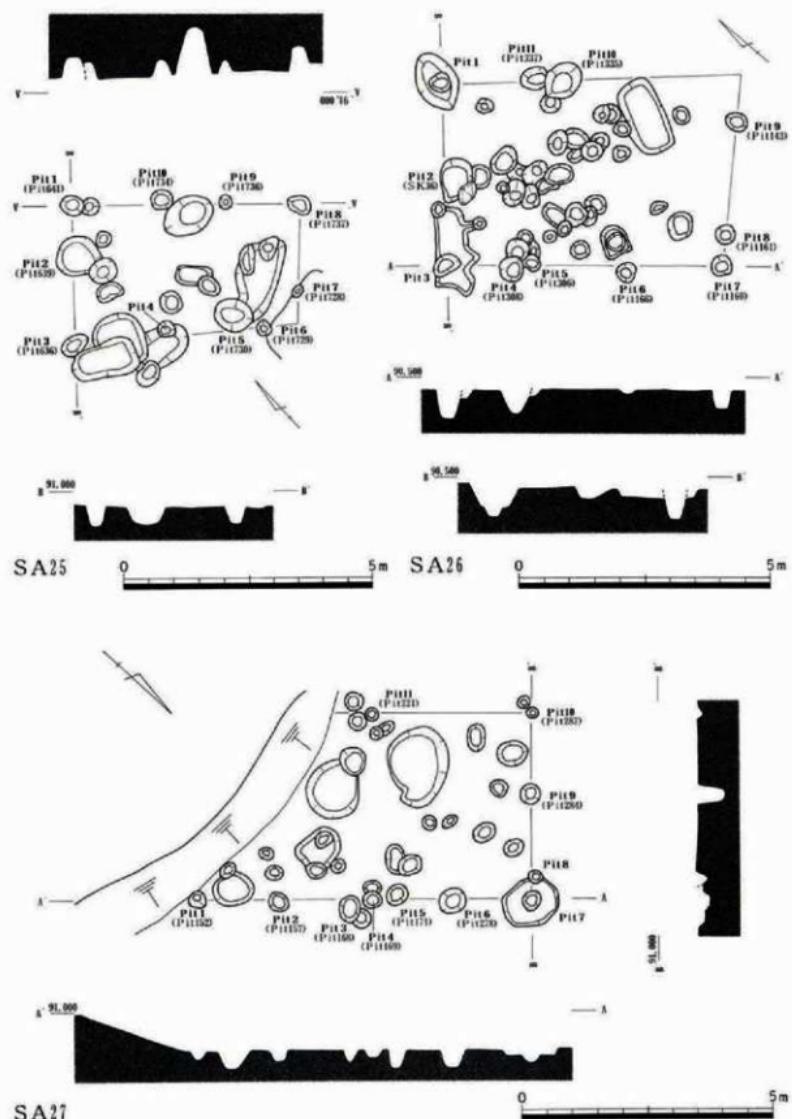
第80図 SA14・15・16実測図



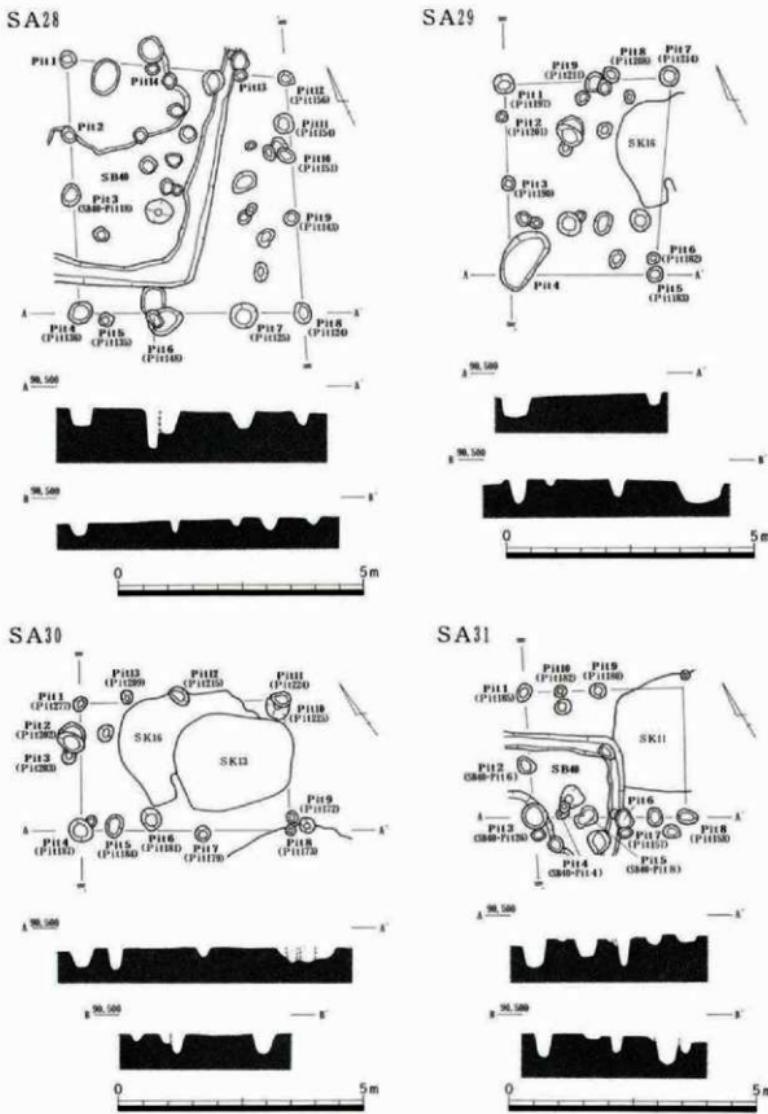
第81図 SA17・18・19・20実測図



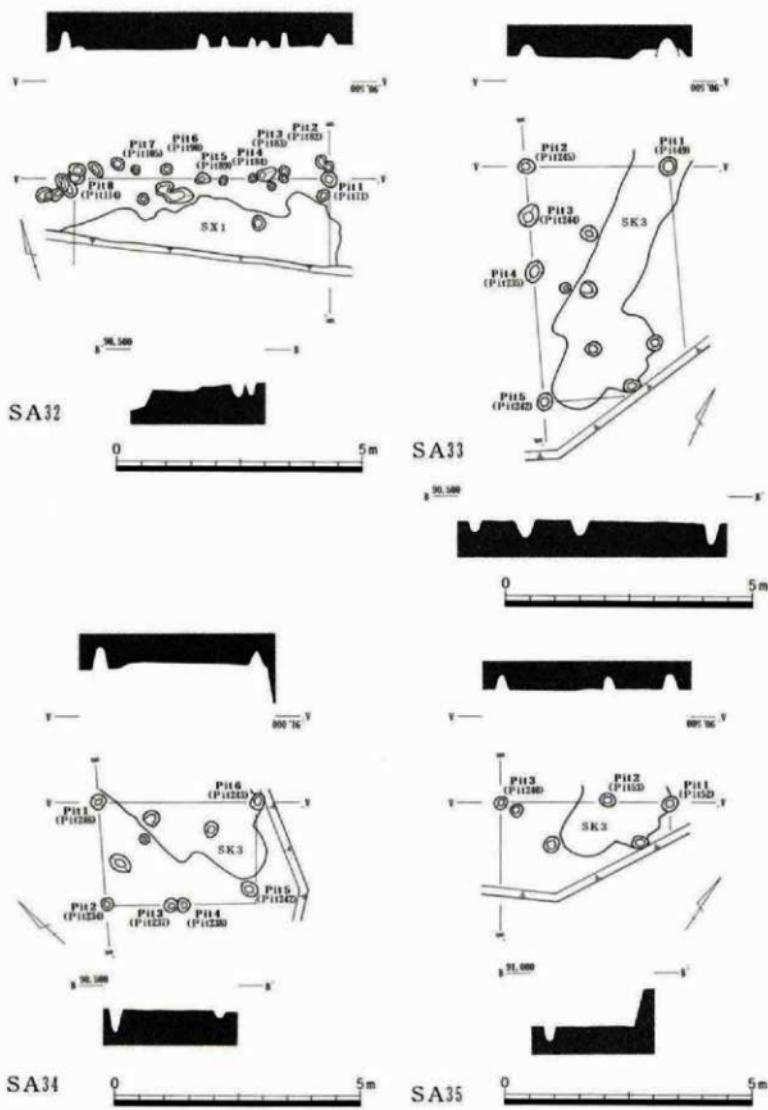
第82図 SA21・22・23・24実測図



第83図 SA25・26・27実測図



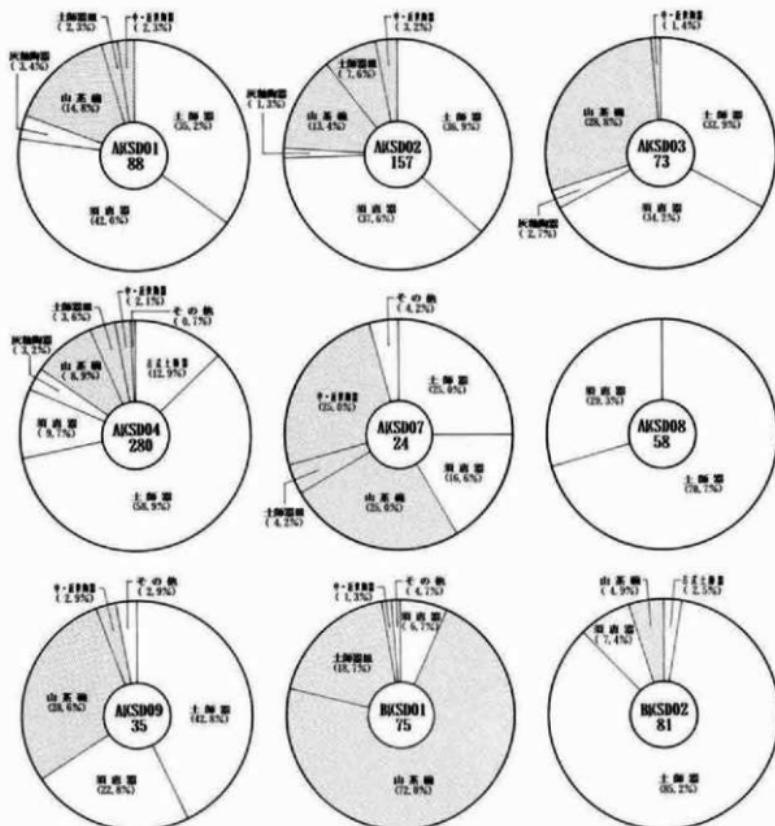
第84図 SA28・29・30・31実測図



第85図 SA32・33・34・35実測図

## 溝状遺構(SD)

前述のように今回の調査では、A区から溝状遺構9条、B区から3条検出した。その位置を第5・6図に、概要は第17・18表に示した。その中で遺物が出土したのは11条で、第88図—401～第90図—487に図示した遺物が出土した遺構を中心、その内訳を第86図にグラフ化し、断面図を第87図に示した。最も多数の遺物が出土したのはA区SD4の280点、次いでA区SD2の157点で、逆に少ないのはA区SD6の1点、A区SD10の4点である。ほぼすべての溝の埋土が1層に分層されるため、溝の埋土としてはなにがしかの違和感を感じ得ないが、埋土を分層することは不可能であったという担当調査員の所見もあり、水を流すための溝というよりも、何らかの区画のために掘削した、「区画



第86図 針田遺跡SD出土土器(破片数)統計グラフ

溝<sup>100</sup>的な性格も想像される。溝から出土する遺物の年代観は広範な時期に及び、溝の年代や性格を推測するのは困難であるが、以下に若干の検討を加えておきたい。

まず、溝の「同時性」を証明する手段の一つとして、出土遺物の組成を比較することが挙げられる。つまり、同じような遺物が出土している溝は、同じような時期に存在した可能性が高いと考えるわけで、このような視点で第86図を見ると、まずA区SD1とA区SD2、A区SD3とA区SD9の組成が非常に似ている点が目につく。位置的に見て、A区SD9はA区SD3の下流に位置するため、遺物の接合関係は確認できなかったが、同一の溝と見てよいであろう。A区SD1も15LグリッドでA区SD2に向かって直角に曲げられており、溝の幅や深さ、断面形や埋土の状況もよく似ており、この2本も同一の溝であった可能性が考えられる。A区SD2は11Kグリッドで直角に曲がり、A区SD3・9と平行して南南西に流れる。これらの4本の溝は、いずれも直線的に造られており、A区SD2に顕著なように、ある場所で人為的に直角に曲げられる点に特徴がある。その用途を考える時に、まず思い浮かぶのが「中世の区画溝」としての役割である。実際にこれらの溝に囲まれた中に位置する柱(杭)列(SA)もあるが、溝の方位とSAの主軸に若干のズレがあり、山茶碗類の出土量も第73図で見るように、溝の内と外で劇的な変化は見られなかった。結局、断定するに足る証拠には欠けるが、可能性としては皆無ではないと言えよう。またA区SD7についても、溝の掘られた方向性や規模・形状はこれらの溝と共通する点が見られる。遺物の組成は中・近世陶器の占める割合がやや高い点がA区SD1・2・3などとは異なるが、同様の性格をもつ遺構と考えたい。なお、これらの溝に土師器・須恵器などの古代の遺物が相当量含まれることは、これらの溝が古代の住居跡を切る形で掘削されていることに起因するものと思われる。SD8は出土した遺物58点がすべて古代以前の遺物であり、これらの溝が造られる前に廃絶していたと考えられるが、検出できた範囲で長さは約2mしかなく、あるいは土坑である可能性もある。以下に、各SDから出土した遺物について、簡単に触れておきたい。

**A区SD1** A区SD1からは遺物が88点出土している。内訳は土師器28点、須恵器37点、灰釉陶器3点、山茶碗13点、土師器皿2点、中・近世陶器2点で、製塩土器が3点出土している。図示したのは7点である。401の土師器・壺は口縁部の形状などから牧野小山編年の第7期頃の所産と考えられる。402の須恵器・壺蓋は口縁端部を下方に折り曲げるもので、403の須恵器・壺身は口縁部がわずかに外反して丸く仕上げられる。どちらも美濃須衛編年のⅣ期-第2~3小期頃の所産と考えられる。404の須恵器・高环は脚端部の小片で、裾広がりに開き、端部は下方に折り曲げられて外面に面をなす。端部のやや上方に明瞭な稜を有する。猿投編年の第II期-第3段階頃の所産と思われる。405は常滑製の壺で、赤羽編年のII期頃の所産と考えられる。406の製塩土器は美濃式2類に、407の製塩土器・脚部は知多式4類系に分類できよう。

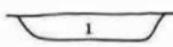
**A区SD2** A区SD2からは遺物が157点出土している。内訳は土師器53点、須恵器59点、灰釉陶器2点、山茶碗21点、土師器皿12点、中・近世陶器5点で、製塩土器が5点出土している。図示したのは13点である。408の土師器・壺は口縁部の形状などから牧野小山編年の第6期頃の所産と考えられる。409の須恵器・壺蓋は口縁部に返りや折り返しを持たない碗形の形状で、美濃須衛編年の第III期の所産と考えられる。410・411の須恵器・壺蓋は口縁端部を下方に折り曲げるもので、410は口縁端部が外側へわずかに膨らむ。410は美濃須衛編年のⅣ期-第2小期頃の、411は同じくⅣ期-第1小期

1. A区SD 1断面図

90.500

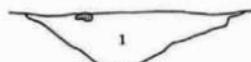
1. 黒褐色粘質土

2. A区SD 2断面図

90.500

1. 黒褐色粘質土

3. A区SD 3断面図

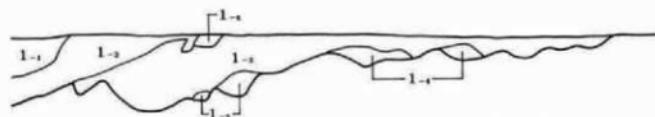
90.5001. 黒色粘質土  
(径5~10cm段の礫を含む)

4. A区SD 10断面図

91.000

1. 黒色粘質土

5. A区SD 4断面図

91.000

1-1. にふい黄褐色砂質土  
1-2. 黑褐色粘質土  
1-3. 黑色粘質土  
1-4. 單褐色砂質土

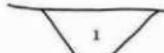
1-1. 黑褐色粘質土  
(にふい黄褐色砂質土が混じる)  
1-2. 黑色粘質土  
(にふい黄褐色砂質土が混じる)

6. A区SD 7断面図-1

91.000

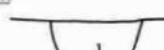
1. 黑褐色粘質土

7. A区SD 7断面図-2

91.000

1. 黑褐色粘質土

8. A区SD 8断面図

91.0001. 黑色粘質土  
(にふい黄褐色砂質土を含む)

9. B区SD 1断面図

90.000

1. 黑色粘質土

10. B区SD 2断面図

90.0001. 黑色粘質土  
(径5~30cm程の礫を含む)

第87図 針田遺跡A・B区SD断面図

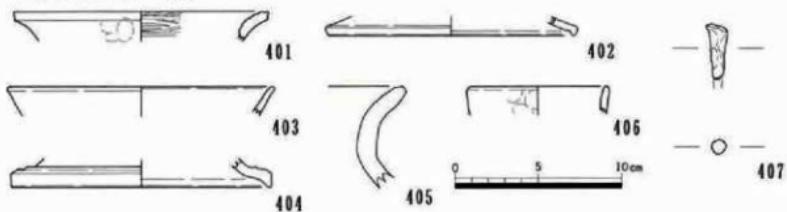
頃の所産と思われる。412の須恵器・盤は口縁部が外反し端部は丸く仕上げられる。美濃須衛編年のIV期-第2~3小期頃の所産と思われる。413・414の須恵器・坏身はどちらも貼付高台を持ち、高台端部が413は内側に、414は外側にそれぞれ突出する。8世紀代の所産と考えられる。415の須恵器・鉢は外反気味の体部から口縁部がほぼ垂直に立ち上がり、端部は内・外側に肥厚し、上面はややくぼんだ面をなす。416・417の山茶碗・碗はどちらも第6~7型式頃に帰属すると考えられる。418の山茶碗・小皿は体部にやや丸みを呈し、腰部の内側がややくぼんだ作りとなり、第9~10型式頃に帰属するものと考えられる。419・420の土師器皿はどちらも手づくねによるもので、法量などによる分類は観察表に示した通りである。

**A区SD3** A区SD3からは遺物が74点出土している。内訳は土師器24点、須恵器25点、灰釉陶器2点、山茶碗21点、土師器皿1点で、その他の遺物として打製石斧が1点出土している。図示したのは11点である。422・423の須恵器・坏蓋は口縁端部を下方に折り曲げるもので、422は天井部が口縁部近くで上反する。422は美濃須衛編年のIV期-第1~2小期頃の、423は同じくIV期-第3小期頃の所産と考えられる。424・425の須恵器・坏身はどちらも貼付高台を持ち、端部がわずかに内側する。8世紀の中頃から後半頃の所産と思われる。426~431の山茶碗・碗は428~430が第7~8型式頃、427・431が第8~9型式頃、426が第9型式頃に帰属すると考えられる。

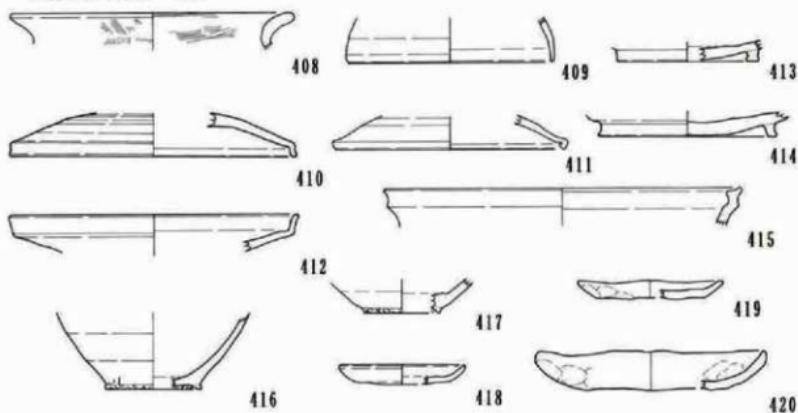
**A区SD4** A区SD4からは遺物が281点出土している。内訳は古墳時代の土師器36点、古代の土師器153点、須恵器27点、灰釉陶器9点、山茶碗25点、土師器皿10点、中・近世陶器6点、製塩土器12点で、その他の遺物として縄文時代の深鉢2点と打製石斧が1点出土している。図示したのは17点である。432・433の土師器・小型丸底壺は、同一個体の可能性もある。口径が胴部最大径を凌駕する形状で、松河戸I式頃の所産と考えられる。434・436は古墳時代の土師器・小型壺で、口縁端部は尖り気味に厚さを減じて、端部は丸く仕上げられる。437の土師器・壺は短い口縁部が水平方向に外反する形状で、川合編年の後V期頃の所産と思われる。438の須恵器・坏蓋は口縁端部を下方に折り曲げるもので、美濃須衛編年のV期-第2~3小期頃の所産と思われる。440・441の須恵器・碗はどちらも美濃須衛編年のV期に帰属すると考えられ、440の体部は腰部からほぼ直線的に立ち上がり、441の体部は内縫気味に立ち上がり、口縁部が強く外反する。442・443の灰釉陶器は442が皿の底部、443が碗の底部と推測され、どちらもK-90号~O-53号窯式期に帰属するとと思われる。444・445の山茶碗・小皿は、444が第6型式頃に、445が第7型式頃に帰属するとと思われる。447の山茶碗・鉢は推定復元した口径は19cm程度で、端部が丸く肥厚し外面に浅い凹線が1条巡る。446の土師器皿は手づくねによるもので、法量などによる分類は観察表に示した通りである。448の製塩土器・脚部は知多式4類系に分類できよう。

**A区SD7** A区SD7からは遺物が24点出土している。内訳は土師器6点、須恵器4点、山茶碗6点、土師器皿1点、中・近世陶器6点、その他の遺物として中世以降の土鉢が1点出土しているが、図示にたえない小片である。図示したのは中・近世陶器を中心に6点である。449の丸皿は削り出し輪高台で、底部内面に染付けによる菊の花が描かれる。453は擂鉢の口縁部で、肉厚の口縁部が体部に対してほぼ直角に上下に伸び、2cm程の縦帯を形成する形状で、大空編年の3段階-5期頃に位置付けられる。451はいわゆる重圓皿で、16世紀前半頃の所産と考えられる。452の土師器皿は手づくねによるもので、法量などによる分類は観察表に示したとおりである。

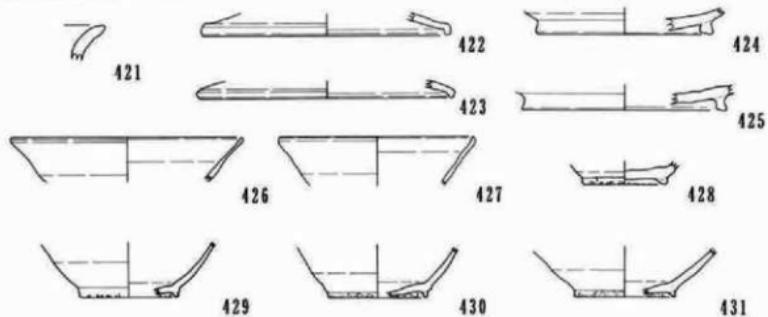
## A区SD1(401~407)



## A区SD2(408~420)

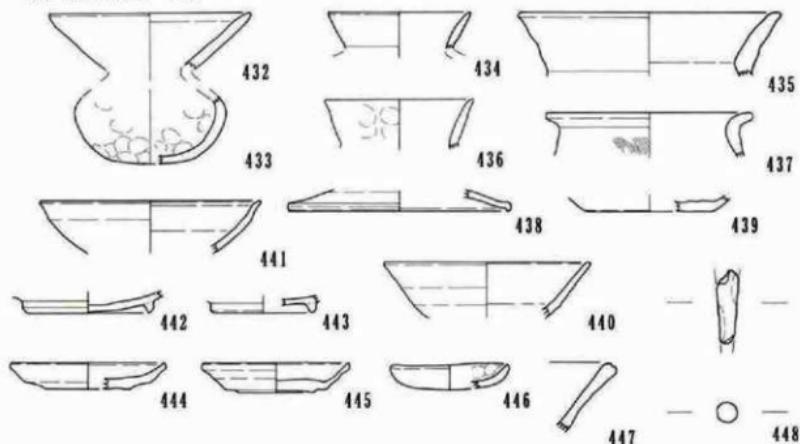


## A区SD3(421~431)

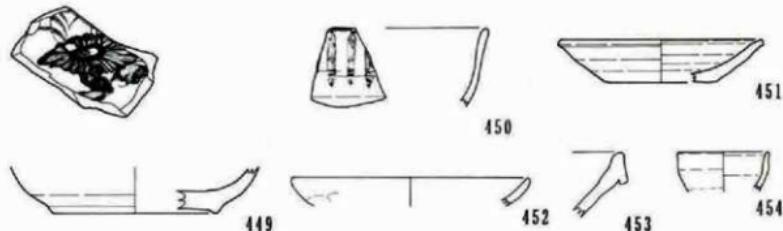


第88図 針田遺跡A区SD出土遺物(1)

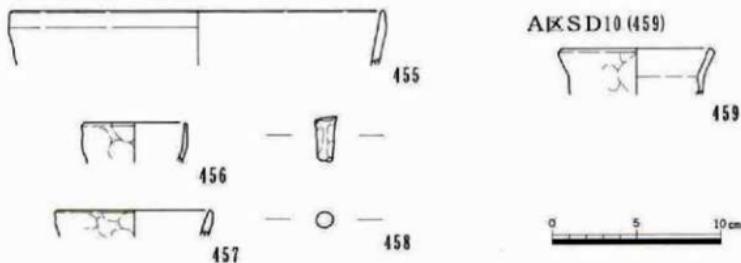
## A区SD4(432~448)



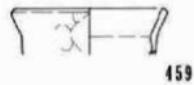
## A区SD7(449~454)



## A区SD8(455~458)

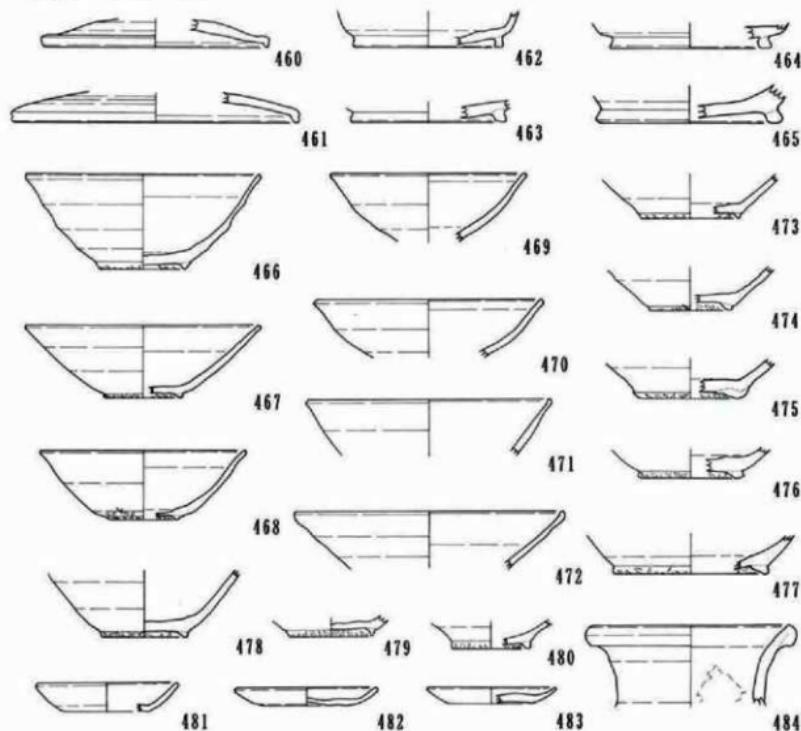


## A区SD10(459)

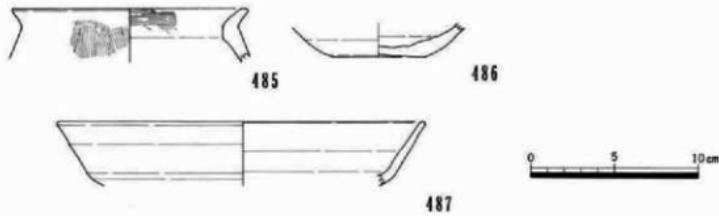


第89図 針田遺跡A区SD出土遺物 (2)

## B区SD1(460~484)



## B区SD2(485~487)



第90回 針田遺跡B区SD出土遺物

**A区SD8** A区SD8からは遺物が58点出土している。内訳は土師器32点、須恵器17点、製塙土器9点で、山茶碗以降の遺物は確認されていない。いずれも小片が多く、図示した4点のうち3点が製塙土器である。455の須恵器・鉢は薄手の作りで、外側気味に立ち上がった体部が尖り気味に厚さを減じ、口縁端部は丸く仕上げられる。美濃須衛編年のIV期-1~2小期頃の所産と思われる。製塙土器のうち456・457の坏部は456が美濃式1類、457は同2類に、458の脚部は知多式4類系に分類できよう。

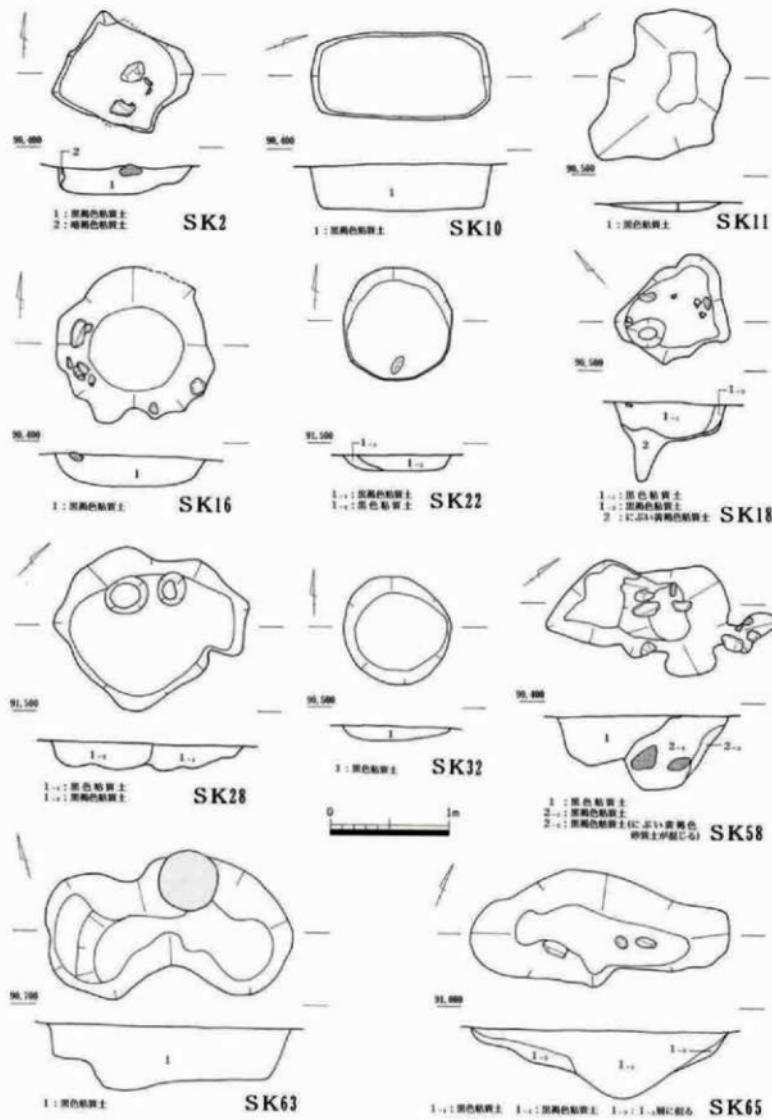
**A区SD10** A区SD10からは遺物が4点出土している。内訳は古墳時代の土師器1点、製塙土器3点で、質・量ともに貧弱な内容である。図示した459の製塙土器の坏部は美濃式2類に分類される。

**B区SD1** B区SD1からは遺物が75点出土している。内訳は須恵器6点、山茶碗53点、土師器皿14点、中・近世陶器1点で、その他の遺物として繩文土器の深鉢が1点出土している。山茶碗以降の遺物が圧倒的に多く、図示した25点の大半が山茶碗類である。460・461の須恵器・坏蓋は口縁端部を下方に折り曲げるもので、460は天井部が口縁部近くで上反する。460は美濃須衛編年のIV期-1~3小期頃の、461は同IV期-1~3小期頃の所産と考えられる。462~464の須恵器・坏身はいずれも貼付高台を持つもので、462の高台は小振で端部が内側に突出し、464の高台端部は外側に突出する。いずれも8世紀の中頃から後半の所産と考えられる。465は須恵器・長頸瓶の底部と思われる。466~480の山茶碗・碗は478が5型式頃、475~477が6型式頃、466が7型式頃、471・473・474・479が7~8型式頃、467・470・472・480が8~9型式頃、468が9型式頃、469が10型式頃の所産と考えられる。481~483の山茶碗・小皿は481が7型式頃、482・483が8~9型式頃の所産と考えられる。484は古瀬戸の有耳壺で、口頭は外反して立ち上がり、口縁端部は折り返されて丸く肥厚する。灰釉も浅黄色に比較的安定して発色する。古瀬戸後期II~III段階頃の所産と考えられる。

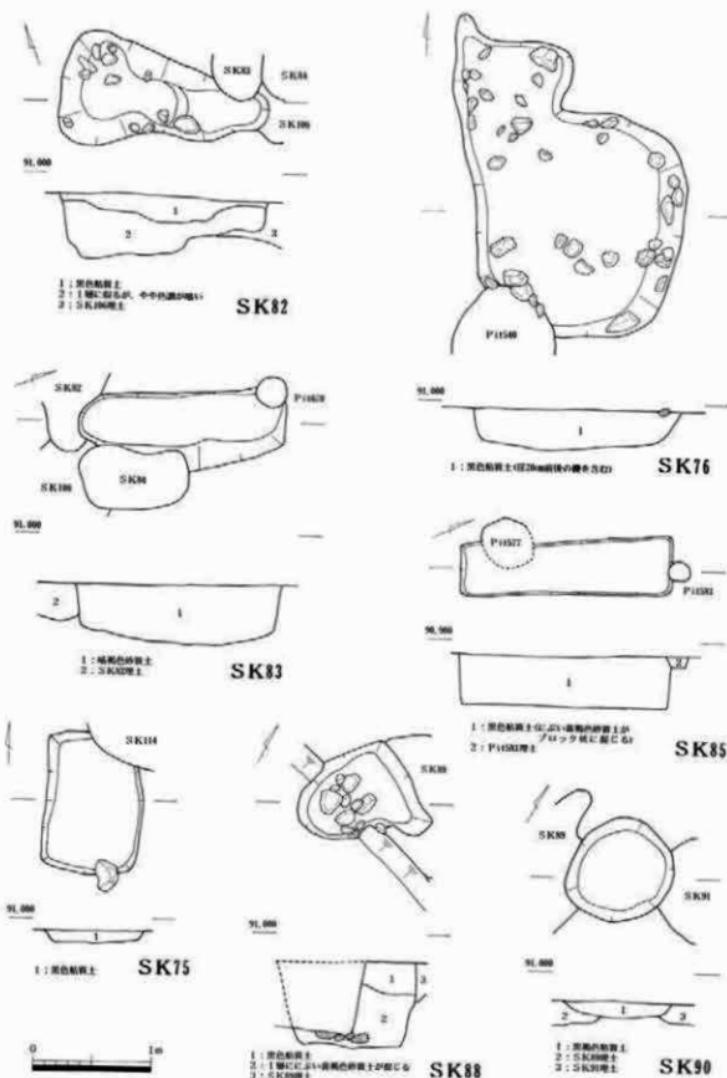
**B区SD2** B区SD2からは遺物が81点出土している。内訳は古墳時代の土師器2点、古代の土師器66点、須恵器6点、山茶碗4点で、製塙土器が3点出土している。図示したのは3点で、485の土師器・甕は短い口縁部がく字状に外傾する形状で、口頭部のやや上方まで体部外面のハケメが残る。486・487は須恵器・坏身で、486は無高台の、487はおそらく貼付高台が付く坏身と推測され、どちらも8世紀前半から中頃の所産と思われる。

#### 土坑・ピット・性格不明遺構

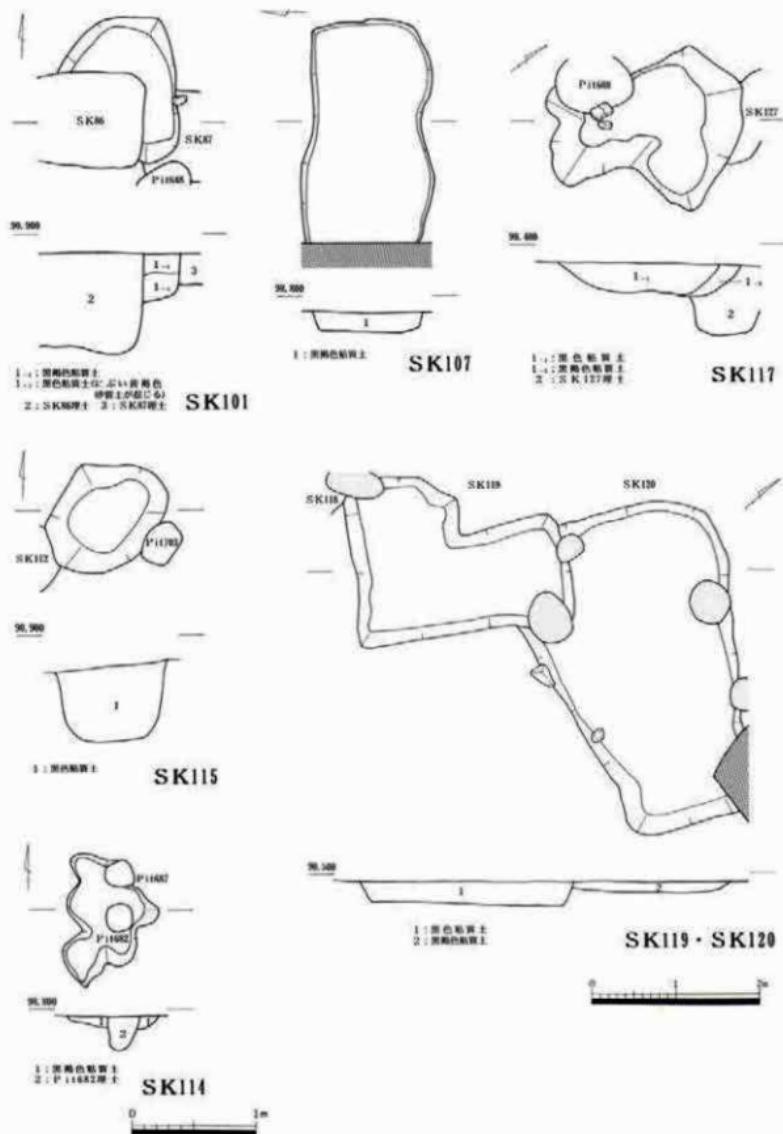
今回の調査で確認されたのは土坑142基、ピット1,091基で、その概要是第19~46表の各一覧表に記した。この中で遺物が出土した遺構は土坑94基、ピット243基を数えるが、その主たるものは古代以降の土師器で、中世から近世にかけての遺物が出土した遺構も、古代以前の遺物が混入する場合が多い。各遺構から出土した遺物のうち、その主なものを第99図~488~593に図示し、これらの遺構が出土した遺構を中心に平面および断面図を作成し、第91~98図に示した。これらの遺構は、土坑の場合は長軸で概ね1~2m程度、深さ20~30cm前後であるが、中にはB区SK3のように長軸で6mを超す遺構や、A区SK86のように深さ80cmを計る遺構もあり、逆に深さ5cm前後の浅い遺構も見られる。ピットの平面形は正円形もしくは橢円形で、長軸で20~50cm程度、深さ20~50cmの遺構が一般的であるが、中にはA区Pit735のように、長軸も深さも1mを超すような遺構も見られる。遺構の年代を推定するにあたっては、主に出土遺物と切り合い関係を考慮して行ったが、時期推定が



第91図 針田遺跡A区SK実測図(1)

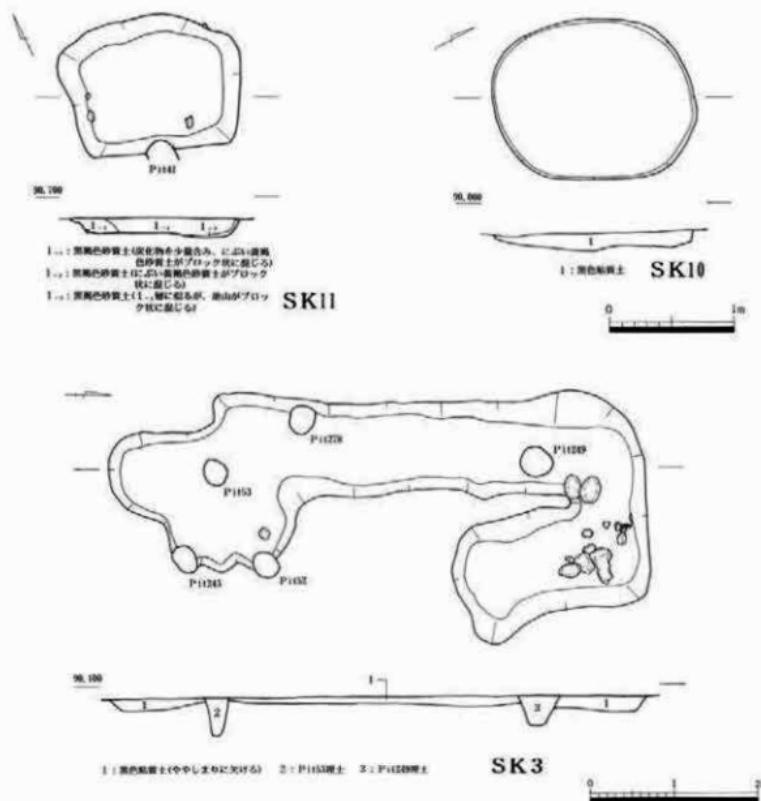


第92図 鈴田道路A区SK実測図(2)

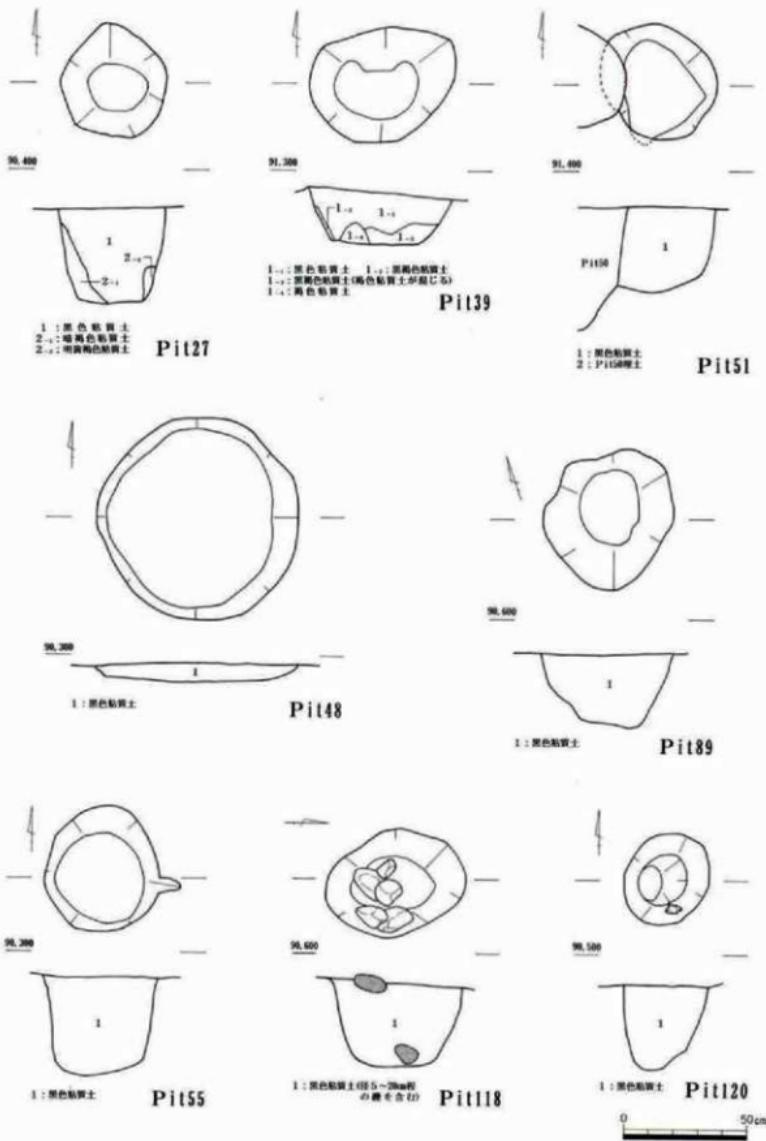


第93図 針田遺跡A区SK実測図 (3)

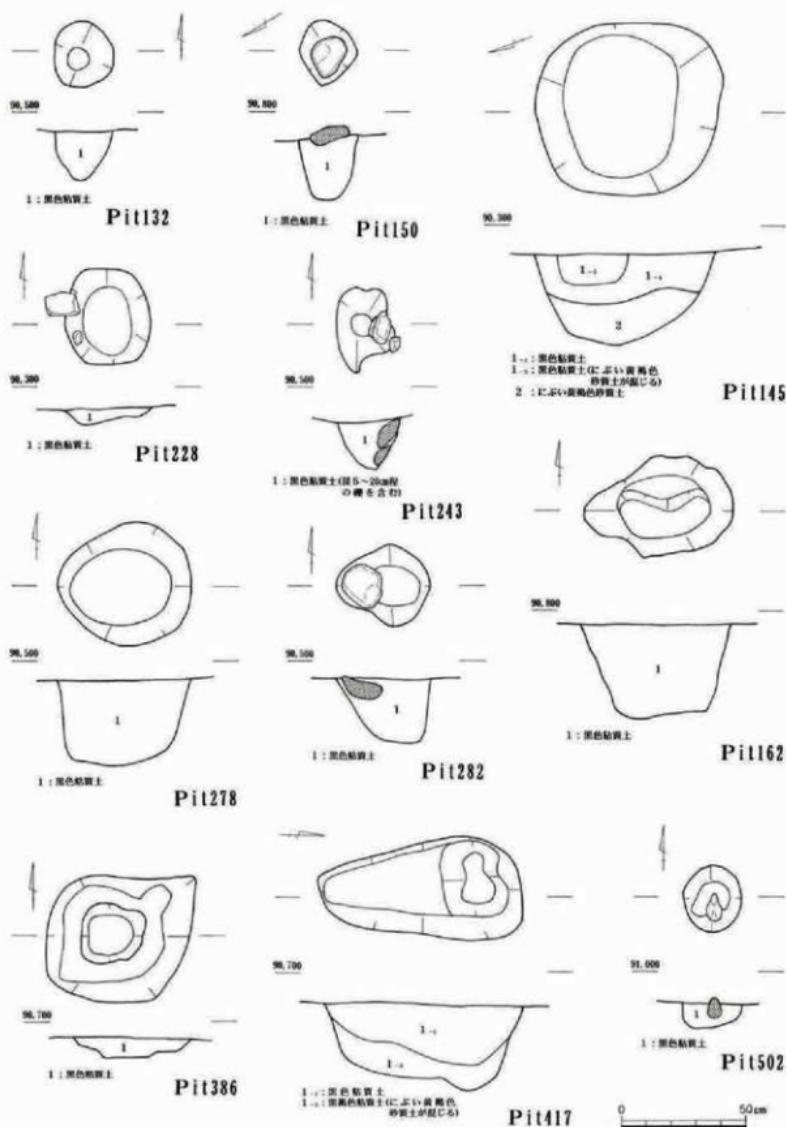
可能であった遺構は、A区で土坑90基（古代36基、中世41基、中・近世13基）、ピット222基（古代164基、中世42基、中・近世16基）で、B区では土坑8基（古代2基、中世3基、中・近世3基）、ピット27基（古代7基、中世7基、中・近世13基）で、合計347基、全体の28.1%にある。結局、その他の多くの遺構が時期不明という結果に終わった。時期推定ができた遺構については、A区では古代の遺構が多い（200/312）のに対し、B区では中世以降の遺構（26/35）が多い点が注目される。想像をたくましくすれば、B区の東には東坪之内遺跡・田中浦遺跡があり、後述するようにどちらも中世以降の遺構や遺物が目立つことから、東方に中世の遺構が広がると考えたいが、これを証明するにはまだ相当の手続きを踏まなければならないであろう。これらの遺構の中で、その性格を推測し得るのは、先に触れたSAを構成する遺構で、その数は367基を数え全体の29.8%にある。なお、この



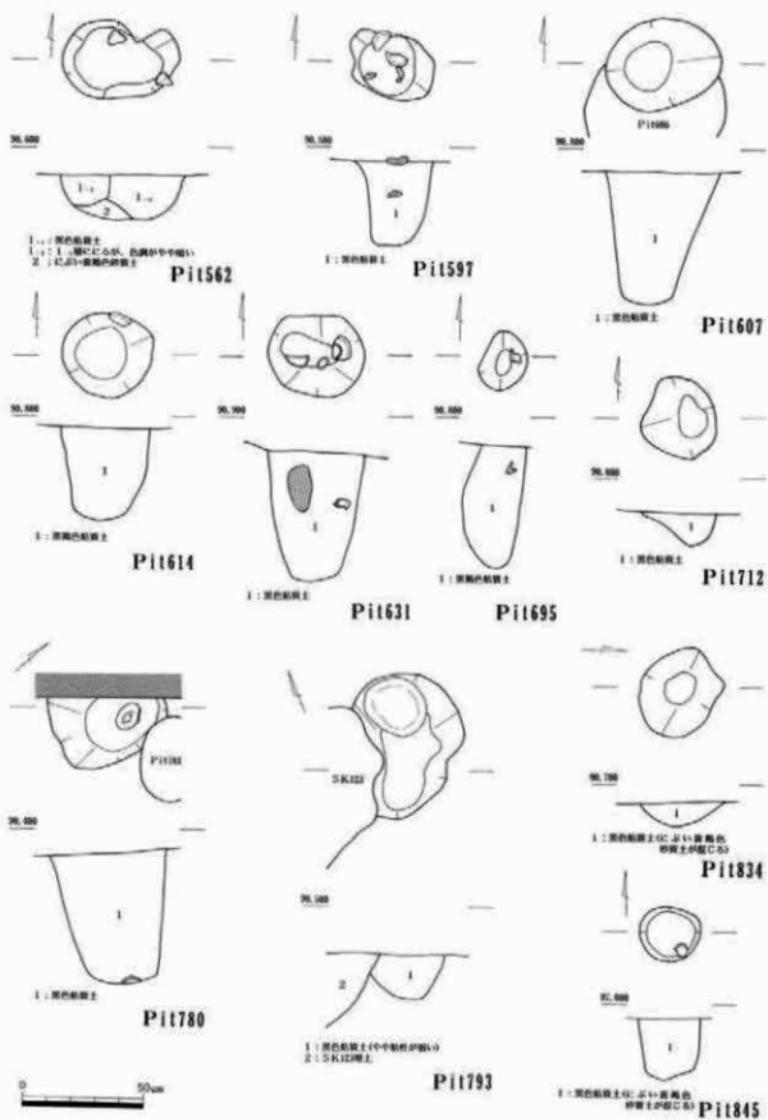
第94図 鈴田遺跡B区SK実測図



第95図 針田遺跡A区Pit実測図(1)



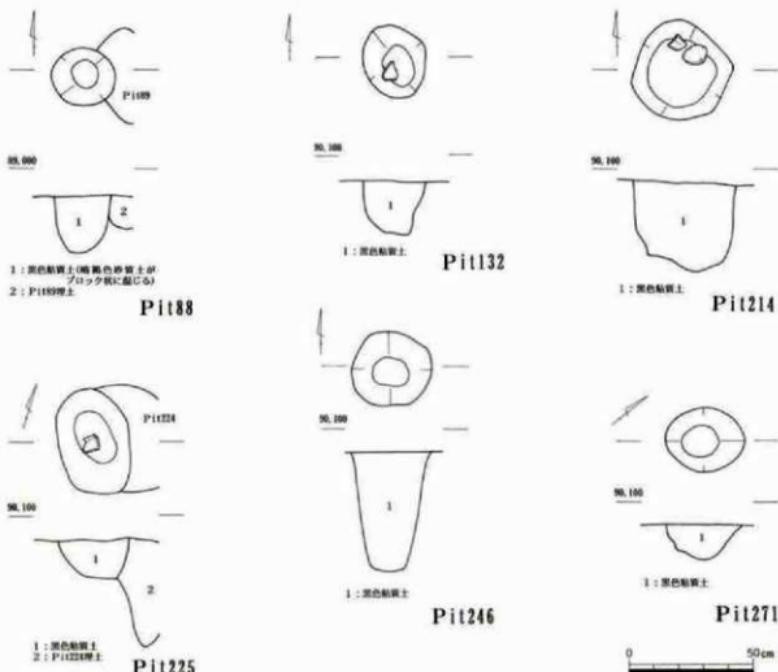
第96図 針田跡A区Pit実測図 (2)



第97図 針田道路A区Pit実測図(3)

中には住居跡内から検出された遺構も少數含まれる。結果的にその他に遺構については、その性格を明らかにするには至らなかった。以下に、主な出土遺物について簡単に触れておきたい。

**A区SK出土遺物** 図示した35点のうち、500・502・503・508の土師器・甕は、口縁部の形状などから、500は川合編年の後IX期頃、502・503・508は牧野小山編年の第7期頃の所産と思われる。493・516・520の須恵器・坏蓋は口縁端部を下方に折り曲げるもので、493は美濃須衛編年のIV期-第2~3小期頃、516・520は同IV期-第1小期頃の所産と考えられる。506は須恵器・碗蓋の環状把手、514の須恵器・坏蓋は径1.7cmの小型のつまみが付けられる。499の須恵器・鉢は体部は直線的に立ち上がり、口縁部が内彎する。美濃須衛編年のIV期-第1~2小期頃の所産と思われる。521・522の須恵器・坏身は貼付高台を持つもので、521は腰部に張りを持ち、体部はほぼ直線的に立ち上がり、端部は尖り気味に厚さを減じて丸く仕上げられる。499とほぼ同時期の所産と思われる。522は底部が下方に垂下し、高台端部が外方にわずかに突出する。498の須恵器・長頸瓶はいわゆる「三段接合」によって口頭部が接合されている。513の灰釉陶器・皿はやや厚手の作りで、口縁部は外反して外側にかかる面をなす。O-53-H-72号窯式期頃の所産と思われる。山茶碗・碗は491が6型式頃、489が



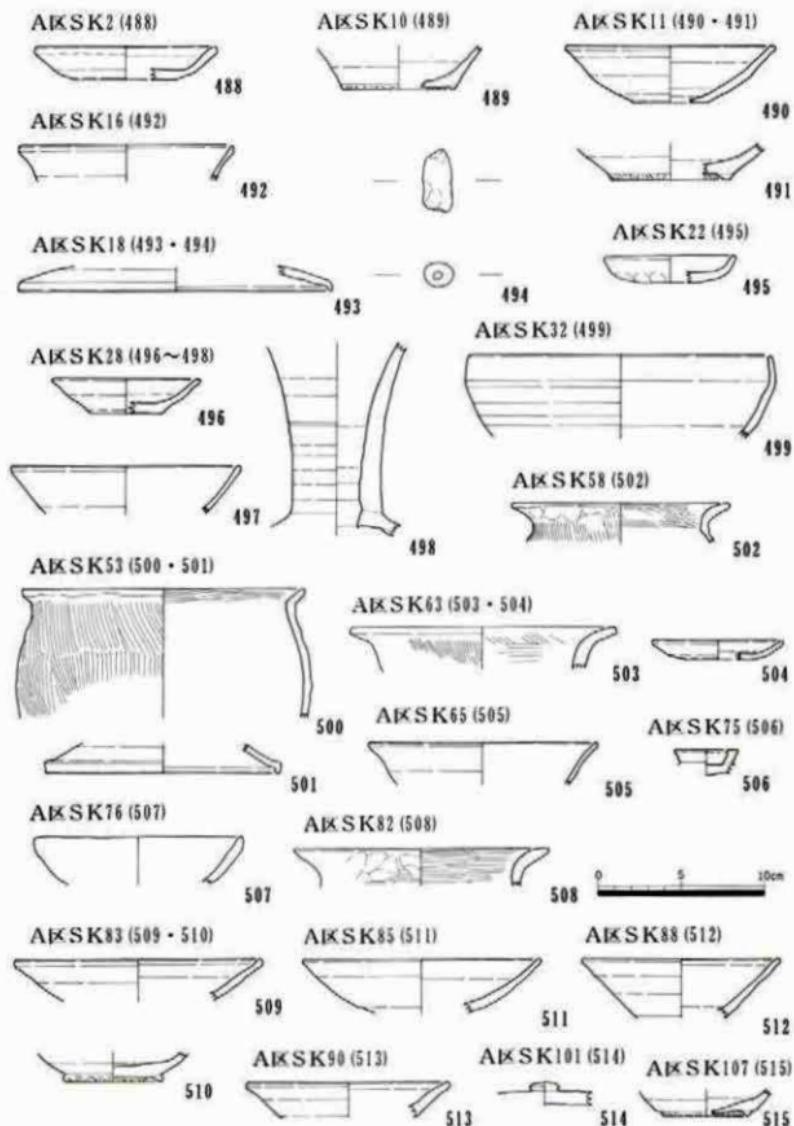
第98図 針田遺跡B区Pit実測図

7型式頃、492・509・510・512・515・517が7～8型式頃、497が8～9型式頃、505が9型式頃、511が10型式頃、490が10～11型式頃の、山茶碗・小皿は496が7型式頃、504が7～8型式頃に帰属する考えられる。488は縁袖小皿で、古瀬戸後IV新段階頃の所産と考えられる。495・519の土師器皿はどちらも手づくりによるもので、519は表面の摩滅が著しい。法量などによる分類は観察表に示したとおりである。

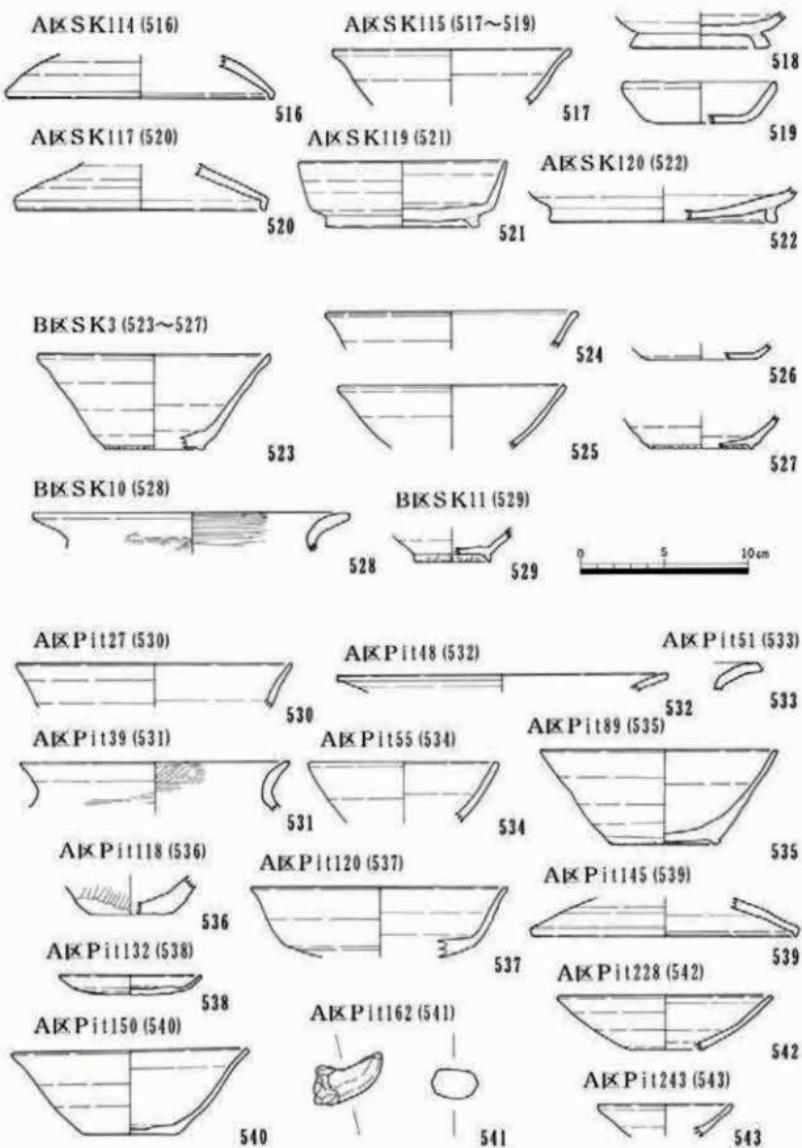
**B区SK出土遺物** 図示した6点のうち、528の土師器・甕はやや短い口縁部が大きく外反して水平方向に開く形状で、牧野小山編年の7～8期頃の所産と思われる。山茶碗・碗は523が6型式頃、524が7型式頃、525が7～8型式頃、527が8～9型式頃、526の山茶碗・小皿は7～8型式頃に帰属すると考えられる。

**A区Pit出土遺物** 図示した32点のうち、531・546の土師器・甕は、口縁部の形状などから、531は川合編年の後VIII期頃、546は同じく後VIII期頃の所産と思われる。541の土師器・把手は比較的扁平な舌状のもので、上面がわずかにくぼむ。瓶か甕に付けられていたものと思われる。539・547・548の須恵器・坏蓋は口縁端部を下方に折り曲げるものの、いずれも美濃須衛編年のIV期～第1～2小期頃の所産と考えられる。550の須恵器・坏蓋には径3.9cmの扁平な擬宝珠形のつまみが付けられ、内面にはヘラ描きの線刻が残る。532の須恵器・高杯は浅い皿状の坏部を持ち、体部は外反気味に開いて口縁端部は面取りがされる。美濃須衛編年のV期頃の所産と考えられる。537の須恵器・坏身は腰部にやや張りを持ち、厚めの底部から外反気味に体部が立ち上がり、口縁部は外反して端部は丸く仕上げられる。無高台の坏身と推測され、美濃須衛編年のIV期～第3小期～V期～第1小期頃の所産と思われる。山茶碗・碗は535が7型式頃、559が7～8型式頃、540が9～10型式頃、542が10型式頃、560・561が11型式頃に帰属すると考えられるが、560は11型式の中で脇之島窯を標識にする一群に、561は生田窯を標識とする一群に属すると思われる。山茶碗・小皿は543・545・557が6～7型式頃に、549が7型式頃に、554が7～8型式頃に、538が8～9型式頃に帰属すると考えられる。545の底部内面には煤状の異物が付着する。553の丸碗は灰釉が施され、丸身をおびた腰部から直線的に体部が立ち上がり、口縁部はわずかに厚さを減じて丸く仕上げられる。18世紀代の所産と思われる。555の鉄絵皿は削り出し輪高台で、体部は丸みをおび口縁部が外反する。長石釉が施され底部内面には鉄絵で紅葉の葉が描かれる。17世紀後半頃の所産と思われる。558の天目茶碗は削り出し輪高台で、高台内の削りこみは浅い。体部は直線的に開き、長めの口唇部はほぼ直立して端部はわずかに外反気味となる。灰釉が施される。連房式登窓の第1段階～2～3期頃の所産と思われる。556の土師器・皿はロクロ整形と考えられ、体部は内彎して立ち上がり、口縁部は外反して端部は玉縁状に丸く仕上げられる。底部外面には糸切り痕が残る。

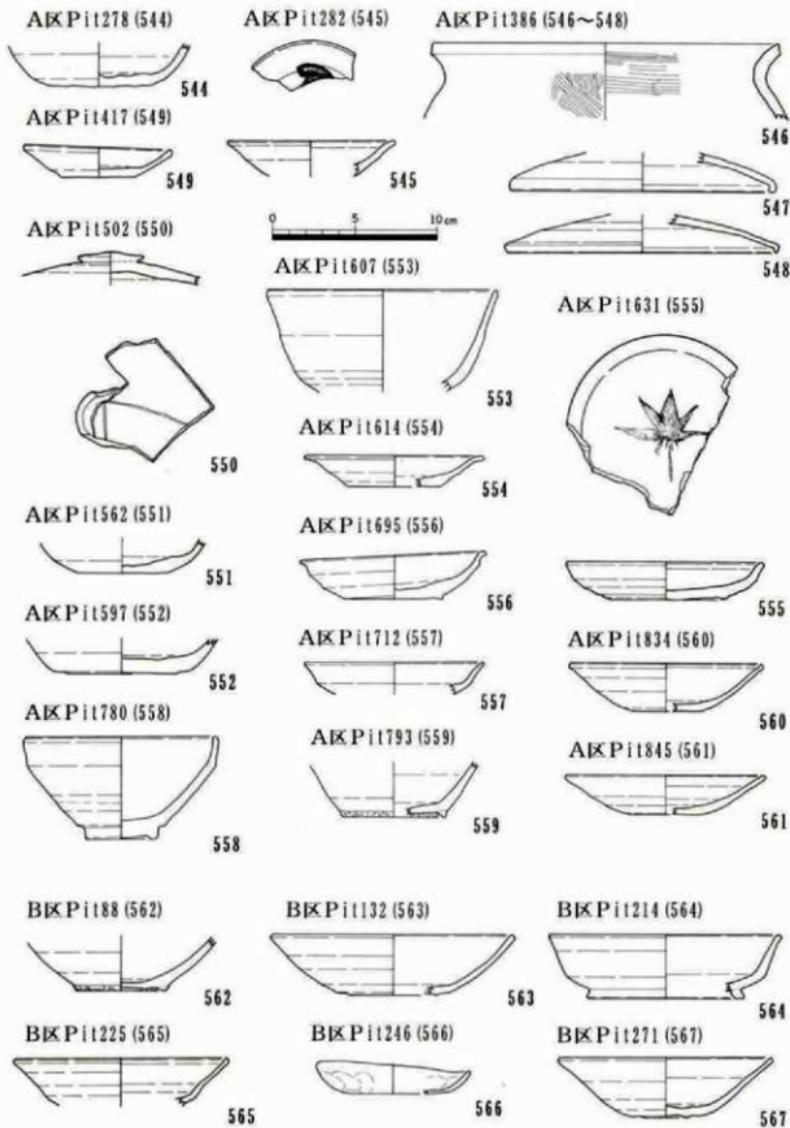
**B区Pit出土遺物** 図示した6点のうち、564の須恵器・坏身は貼付高台が付くもので、高台端部はわずかに外方に突出する。腰部にかすかな張りを持ち、体部は直線的に立ち上がり、口縁部は外反して端部は丸く仕上げられる。美濃須衛編年のIV期～第3小期頃の所産と思われる。山茶碗・碗は562・565が7～8型式頃、567が10型式頃、563は11型式の中でも脇之島窯を標識とする一群に帰属するとされるが、563は口径14.6cmと、該期の遺物の中では大型の作りである。566の土師器皿は手づくりによるもので、法量などによる分類は観察表に示したとおりである。



第99図 計田遺跡A区SK出土遺物



第100図 针田遺跡A・B区SK、A区Pit出土遺物



第101図 針田遺跡A・B区Pit出土遺物

**A区SX1出土遺物** A区SX1は14Hグリッドから検出し、遺構の北側は調査区外に在る。検出できた範囲の法量は長軸2.25m、短軸0.56m、深さ0.21mで、平面形は隅丸長方形と推測される。埋土は黒褐色粘質土の1層である。遺物が17点出土しており、内訳は土師器6点、須恵器5点、山茶碗3点、土師器皿2点で、その他の遺物として打製石斧が1点出土している。図示した2点のうち、568の須恵器・壺は口頭部が外反して立ち上がり、口縁部は肉厚で直下にぶい稜を形成し、上面には丸みのある断面三角形の稜を作り出す。美濃須衛編年のIV期-第2小期頃の所産と考えられる。569の山茶碗・小皿は6型式頃に帰属すると思われる。

**A区SX2出土遺物** A区SX2は5・6Lグリッドから検出し、遺構の南側は調査区外に在る。検出できた範囲の法量は長軸4.22m、短軸1.85m、深さ0.26mで、平面形は隅丸長方形と推測される。埋土は黒色粘質土の1層である。遺物が50点出土しており、内訳は土師器7点、須恵器17点、灰釉陶器2点、山茶碗18点、土師器皿5点、中・近世陶器1点である。図示した5点のうち、570の須恵器・壺蓋はやや扁平な天井部から口縁部にいたり、口縁端部は折り返すことなく側面を面取り状に整形される。美濃須衛編年のIV期-第3小期～V期-第1小期頃の所産と思われる。571・572・573の山茶碗・碗はいずれも11型式に帰属すると考えられるが、571・573は11型式の中で脇之島窯を標識とする一群に、572は生田窯を標識とする一群に属すると思われる。574の徳利は鉄軸が施される。19世紀代の所産と思われる。

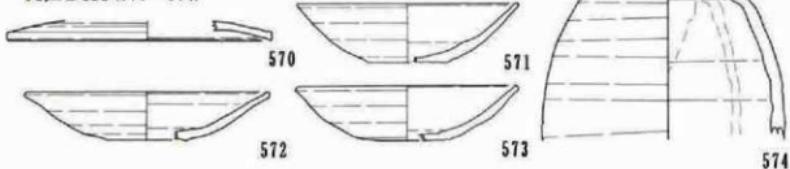
**B区SX1出土遺物** B区SX1は20・21Rグリッドから検出し、遺構の南側は調査区外に在る。検出できた範囲の法量は長軸5.68m、短軸1.48m、深さ0.35mで、平面形は不整角円形と推測される。埋土は黒色粘質土の1層である。遺物が17点出土しており、内訳は土師器3点、須恵器6点、山茶碗7点、土師器皿1点である。図示した2点はいずれも山茶碗・碗で、575は7型式頃、576は6～7型式頃に帰属すると考えられる。

**B区SX2出土遺物** B区SX2は21・22R、21・22Sグリッドから検出し、遺構の南側は調査区外に在る。検出できた範囲の法量は長軸4.40m、短軸2.57m、深さ19.0mで、平面形は隅丸長方形と推測される。埋土は黒褐色粘質土の1層である。SX2の西側からB区SD1が派生しており、あるいは水を貯めたり流したりするための遺構であった可能性も考えられるが、確証はない。遺物が89点出土しており、内訳は土師器14点、須恵器30点、山茶碗38点、中・近世陶器5点で、製塙土器が1点出土している。図示した17点のうち、577の須恵器・高壺は浅い皿状の壺部で、短い口縁部はほぼ垂直に立ち上がり、端部が外方に突出するもので、端部上面は平坦な面をなす。形状はSB48から出土した高壺(388)に類似しており、美濃須衛編年のIV期-第2小期頃の所産と考えられる。山茶碗・碗は588が5型式頃、579・580が7型式頃、583・587が7～8型式頃、578・582・584・589が8～9型式頃、586が9型式頃、581が9～10型式頃、585が10型式頃に帰属すると考えられる。山茶碗・小皿は590が8型式頃、591・592が8～9型式頃に帰属すると考えられる。593の鉢は体部は直線的に立ち上がり、口縁部は肥厚して受け口状となる。端部上面は平坦な面をなす。鋸軸が施されており、形状は描鉢に似るが、描り目はつけられていない。17世紀後半～18世紀前半頃の所産と思われる。

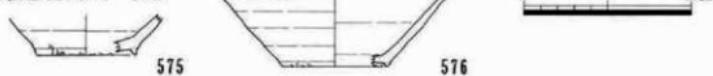
## AIKS X1 (568・569)



## AIKS X2 (570~574)

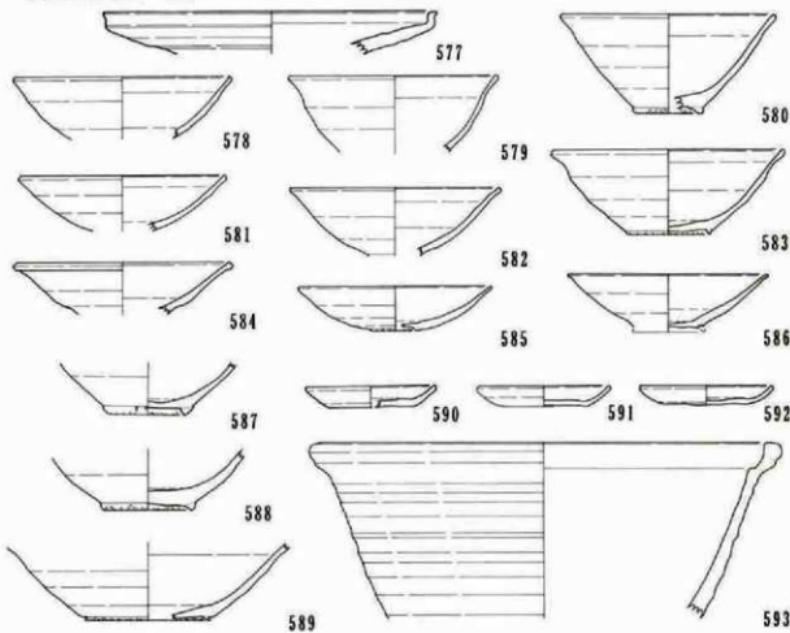


## BIKS X1 (575・576)



0 5 10 cm

## BIKS X2 (577~593)



第102図 針田遺跡A・B区SX出土遺物

## 第5節 包含層出土遺物

今回の調査で包含層から出土した遺物は約10,000点で、土器類は縄文土器から近世陶器の碗・皿類まで広範な時期にわたる。その主たるものは古代の土師器・須恵器類と中世の山茶碗類で、特に土師器と須恵器の中には、本来何れかの住居跡に伴ったであろう遺物も相当数含まれると思われる。残存率の高い遺物もこの時期のものに多い。その主なものを第104図-594～第113図-856までに図示した。また石器類も約300点出土している。その多くは縄文時代に帰属するものと思われるが、中には弥生時代以降の石器も少数含まれる。その主なものを第114図-857～第115図-878までに図示した。以下にその主なものについて、種別毎に説明を加えておきたい。

### 縄文土器（第104図-594～615）

今回の調査では縄文土器が約100点出土している。いずれも深鉢の胴部および口縁部の破片で、全体の器形や法量を明らかにできる資料には恵まれなかった。概ね縄文時代中期後半に帰属すると推定されるものであるが、縄文前期に遡ると思われる資料も少数見られる。從来から飛騨川・本曾川が形成する河岸段丘上には縄文時代の遺跡が数多く知られており、本遺跡が所在する下米田地区でも5ヶ所の縄文時代の遺跡が知られている。後述する石器類の存在を考え合わせると、かつてこの地に縄文時代の造構があった可能性は高いが、明らかに縄文時代に帰属すると考えられる造構は確認できなかった。出土した縄文土器を時期毎に3群に分類し、特に2群は5類に細分類した。以下にその群・類毎に若干の説明を加えておきたい。

#### 第I群：縄文前期に帰属すると思われるもの（602）。

602は胴部に「羽状縄文」を施すものである。今回の調査では、第I群に分類されるものは、本資料を含めて3点しか確認できなかった。

#### 第II群：縄文中期後半に帰属すると思われるもの（594～601、603～614）。

##### 第1類：貼付隆帯にそって押し引きによる刺突文が施されるもの（594）。

594は口縁部の小片で、平縁のキャリバー形を示すと思われる。横方向の3条の隆帯の上から縦方向の細い隆帯を貼付して口縁部を肥厚させ、横方向の隆帯の間に押し引きによる刺突文を施す。口縁部の内面には、撚糸文が残る。船元Ⅲ～里木Ⅰ式に平行する時期のものと思われる。

##### 第2類：キャリバー形の口縁に沈線や刺突による文様が施されるもの（595～597）。

595～597はいずれも口縁部の小片で、平縁のキャリバー形を示すと思われる。597は棒状の工具により渦巻き状の沈線が描かれたものと推測される。597は沈線によって作り出された隆帯の間に、押し引きによる刺突文が施される。

##### 第3類：撚糸文を地文とし、沈線あるいは細い隆帯をもつもの（598～600、603）。

598は貼付隆帯と沈線で橢円形の区画などを作り出し、区画内に撚糸文が施される。里木Ⅱ式に類似するものである。599は胴部外面に撚糸文を施し、棒状の工具で横方向と波状の沈線が引かれている。600は撚糸文を施した胴部に幅3mm程の隆帯が残る。613は胴部外面に撚糸文を施すだけで、沈線や隆帯の存在は不明である。

**第4類：貼付隆帯による施文を基調とするもの（601・603・607）。**

601は幅7mm程の断面三角形の貼付隆帯で楕円形などの区画を作るものと推測され、地は無文となる。603は幅7~12mm程の断面三角形の貼付隆帯で楕円形などの区画を作るものと推測され、隆帯の上面にヘラ状の工具による刻み目が付けられる。地は無文となるが一部に沈線が残る。607は胴部の隆帯を沈線で楕円形に縁取り、その中に刺突文を施す。地はやはり無文となる。

**第5類：沈線による区画の中に繩文を施すもの（604~606、608~612、614）。**

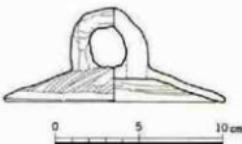
604・605は口縁部付近の破片と思われ、沈線による渦巻文が施される。606は沈線により楕円形の区画や渦巻文が描かれ、区画の中には繩文が施される。608・609・611・612は繩文の地に棒状工具による平行沈線を主体とする文様が施される。610・614は地の繩文の部分のみが残る破片である。これらは、いわゆる神明式に類似するものである。

**第Ⅲ群：時期不明のもの（615）**

615は無文の深鉢の口縁部で、端部は外側に折り返されて幅1.2cm程の縁帯を形成し、上面は小さな波状に刻みが入れられる。

**土師器（第105図-616~634）**

図示した19点のうち、616~622はやや短い口縁部が頭部くびれ部から直接角度をもって外傾する形状を示す。いずれも体部外面には斜方向のハケメが残り、口縁端部を中心に横方向のナデ調整が施されるが、頭部の上方までハケメが残るものに617・618・620・621・622がある。口縁内面には横方向のハケメが明瞭に残り、619の口縁部には指頭圧痕がかすかに残る。617の口縁部は中程が内側に肥厚し、618は口縁端部に面取りがなされる。これらは川合編年の後VII~IX期頃、牧野小山編年の第5期~7期頃に帰属するとと思われる。623・624はやや長い口縁部が頭部からわずかに上方に立ち上がった後、外反気味になる形状を示す。外・内面の調整は上記の遺物とほぼ同様で、623・624とともに頭部の上方までハケメが残る。上記の遺物とはほぼ同時期の所産と考えられる。625は長い口縁部が大き外反するもので、口縁端部に面取りがなされる。634はやや長い口縁部が外反気味となる形状で、625・634の外・内面の調整や年代観も、上記の遺物とほぼ同様である。629の壺の底部は外面がゆるい凹面をなし、体部は急角度に立ち上がる。古墳時代の土師器と思われる。626~628・630の壺の底部はいずれも平底で、628の外面には葉脈状の圧痕が残る。いわゆる「相欠けはぎ接合」の痕跡は確認できなかったが、川合編年の後VII~IX期頃、牧野小山編年の第5期~7期頃に帰属するとと思われる。631・632の把手は、631が牛角状の、632が舌状のもので、壺が壺に付けられていたものと考えられる。633の土師器・蓋は浅い皿状の器の内面に径1.6cm程の粘土紐による環状把手が付けられる。皿状の器は口径11.4cm、底径6.1cm、器高2.3cmを計り、外面には斜方向のハケメが残る。口縁部は尖り気味に厚さを減じ、端部は丸く仕上げられる。壺の底部を転用したものとも思われる。類例に乏しいが、本遺跡に近い今遺跡から土師器の蓋が出土している（第103図）。形状は異なるが、どちらの遺物も外面には炭化物が付着し、本遺物の使用時の状態を示唆してくれる。



第103図 今遺跡出土製塙土器・蓋実測図

## 須恵器（第106図～635～第108図～697）

図示したのは64点である。

635～651、658～660は壺蓋である。635・636は口縁部に低いかえりを持つもので、635のかえりは内傾して口縁部より外に突き出す。636は天井部が口縁端部近くで上反し、かえりは断面三角形の小さなものとなる。どちらも美濃須衛編年のⅢ期～後半頃の所産と思われる。637～650は口縁端部を下方に折り返す壺蓋である。口径13.9～19.0cmを計り、いずれも美濃須衛編年のⅣ期～第1～3小期、8世紀代の所産と考えられる。口縁部が内傾するもの（638・641・642・648・649など）、ほぼ垂直に折り返されるもの（644・646・647など）、ゆるく折り返されるもの（640・650・658など）など口縁部の形状は様々で、643は口縁部を折り曲げて端部を丸く肥厚させる。645の口縁部はほぼ垂直に折り返された後、端部が外方に突き出す。637・638・641・642・644・645は天井部が口縁部近くで上反する。つまみはいずれも擬宝珠形であるが、扁平で径の大きめなもの（640・641・659・660）と肉厚で径の小さめのもの（638・639）がある。638の内面には「×」状の窓記号が残る。651は口縁端部を折り返さず、側面を面取り状に整形するもので、美濃須衛編年のⅣ期～第3小期～V期～第1小期頃の所産と思われる。

652～654は高杯もしくは盤の杯部と考えられる。652・653は浅い皿状で、652の口縁部はほぼ垂直に立ち上がり、端部は丸く仕上げられる。653の口縁部は外傾して立ち上がり、端部が外方に突き出す。654は底部がやや深く、直線的に体部が立ち上がり、口縁部は外反して立ち上がり、端部は丸く仕上げられる。美濃須衛編年のⅣ期～第2～3小期頃の所産と考えられる。

665・666は碗蓋で、環状把手が付けられるものである。美濃須衛編年のⅣ期～第3小期頃の所産と考えられる。657は平坦な天井部から長い口縁部がほぼ垂直に折り曲げられ、尖り気味に厚さを減じて端部内面は内傾する面をなす。径2.6cmの扁平な擬宝珠形のつまみが付けられる。天井部外面には降灰が見られ、いわゆる「自然灰釉」を意識した遺物の可能性もある。猪投編年の第Ⅳ期～第2小期頃の所産と考えられる。

661～682は壺身・碗類である。661～670は無高台の壺身で、口径11.3～13.2cm、底径5.2～7.2cmを計り、いずれも美濃須衛編年のⅣ期～第1～3小期、8世紀代の所産と考えられる。体部がほぼ直線的に立ち上がり口縁端部が丸く仕上げられる遺物が大半であるが、664は内擣気味に、662は外反気味になり、667は尖り気味に厚さを減する。663の底部外面には「△」もしくは「×」の窓記号が残される。671～680は貼付高台が付く壺身で、口径12.4～19.0cm、高台径6.1～14.8cmを計る。いずれも美濃須衛編年のⅣ期～第1～3小期、8世紀代の所産と考えられる。高台は断面台形で角張って外に開く形状を示す物が多いが、673のように外開きで端部外側が強く突き出るもの、675のようにわずかに外に突き出るもの、676のように端部がわずかに内側に突き出るもの、680のように端部が外反するものなどが見られる。腰部に張りを持つ遺物が多いが、679・680は腰部に丸みをおびる。678は高台径が小さく、深みのある形狀を示す。681・682は碗で、681は体部に丸みをおび、口縁部が外反する。682はほぼ平坦な底部に、外開きで端部外側が突き出し、凸面をなす高台が付く。どちらも美濃須衛編年のV期頃の所産と思われる。

683～686は鉢である。683・684の体部はほぼ直線的に立ち上がり、口縁部が内擣するもので、美濃須衛編年のⅣ期～第2～3小期頃の所産と思われる。686の体部は内擣して立ち上がり口縁部は大き

く外反して、端部が受け口状に断面三角形につまみ上げられる形状を示す。また685には強く外に突き出す高台が貼り付けられる。

687・688は盤である。687は底部中央部がやや下がり、長めの貼付高台が外開きに付けられ、端部外側が強く突き出す。688は腰部に強い張りを持ち、体部は直線的に外傾し、口縁端部は面取り状に仕上げられる。貼付高台で、端部外側がわずかに外に突き出す。687は美濃須衛編年のIV期－第2～3小期頃、688は同V期－第1小期頃の所産と思われる。

689・690は小瓶で、猿投編年の第IV期－第4小期－第V期－第1小期頃に帰属すると思われる。

691～698は壺である。691・693・696・697は口頭部が外反して立ち上がり、口縁端部は内傾気味に直立して上面にややくほんだ面をなす。692は肩部はほぼ直線的で口頭部はほぼ直立し、口縁部は内傾気味で端部下部に稜を形成する。694は口頭部が外反して立ち上がり、口縁部は斜め上方に突き出し端部は丸く仕上げられる。695は肩部にやや張りを持ち、口縁部は外反して立ち上がり、端部は肉厚で外側は凹面をなし、かすかに内傾する。698は平底で底径14.4cmを計る。692は美濃須衛編年のIV期－第1段階頃の、691・693・695・696・697は同IV期－第2段階頃の、694は同IV期－第3段階頃の所産と思われる。

#### 灰輪陶器（第108図－699～713）

図示した15点のうち、699～706、708・709は碗、707・711・712は皿、713は長頸瓶と考えられる。概ね体部から口縁部にかけて丸みをおびて立ち上がり、口縁部がわずかに外反して端部を丸く仕上げられるが、701は面取り状に整形される。碗・皿類の高台は貼付高台で、いわゆる三日月高台の範疇に入り、明瞭な棱を有するのはものは少なく、703・712が挙げられる程度である。高台外面に弱い張りを持つものが大半で、699～707はK－90号窯式期頃の、710はK－90～O－53号窯式期頃の、708はO－53号窯式期頃の、709・712はO－53～H－72号窯式期頃の所産と思われる。713の底部はほぼ平坦で、肩部はゆるやかな張りを見せて立ち上がる。高台は貼り付けによりやや丸みをおびて外に開き、接地面は凹面をなす。

#### 山茶碗（第108図－714、第109図－715～711図－811）

図示した98点のうち、714はいわゆる「美濃須衛型四耳壺」と思われる。やや短い口頭部が外傾気味に立ち上がり、口縁端部は断面三角形形状で、わずかに外反する。肩部には凹線が1条横走し、その上方に四つの耳が付けられる。耳部は4条のヘラ状工具による沈線を板状の粘土に施し、粘土の左右の端を器面に接着した後さらにその外縁を指でナデつけている。口縁部および肩部の一部には釉薬の痕跡が観察されるが、おそらくは自然についたものと思われる。「美濃須衛型四耳壺の編年」（佐野元 1995）には美濃須衛型四耳壺の出土地名表が収められている。本遺物が美濃須衛型四耳壺の範疇に入るものならば、佐野氏の集成よると消費遺跡で出土地の明らかな例としては全国で17例目となる。佐野氏の分類・編年に従えば、2類、12世紀後半に帰属すると思われる。

715～732はA区出土の碗、733～757はB区出土の碗、758～777はA区出土の小皿、778～793はB区出土の小皿である。A区出土の碗のうち、715が6型式頃、724が6～7型式頃、716～722が7型式頃、723が7～8型式頃、725が9～10型式頃、726が10～11型式頃、727～732が11型式頃に帰属すると考

えられるが、727・728・730・731は11型式の中で脇之島窯を標識とする一群に、729・732は生田窯を標識とする一群に属すると思われる。B区出土の碗のうち、733が6～7型式頃、734・738が7型式頃、735・736が7～8型式頃、737・739・741・742・744・747・749が9型式頃、740・743が9～10型式頃、745・746・748・750～753が10型式頃、755が10～11型式頃、754・756・757が11型式頃に帰属すると考えられるが、3点とも11型式の中で脇之島窯を標識とする一群に属すると思われる。A区出土の小皿のうち、758が5型式頃、761・766が6型式頃、760・764が6～7型式頃、759・762・763・765・767～771が7型式頃、772～774・776が7～8型式頃、775・777が8～9型式頃に帰属すると考えられる。B区出土の小皿のうち、778～781が6～7型式頃、785・789が7～8型式頃、782・783・792が8～9型式頃、784・786～788・790・791・793が9～10型式頃に帰属すると考えられる。

794～797は鉢である。794～796は体部がほぼ直線的に立ち上がり、口縁部は外反して端部は丸く肥厚する。794・795の口縁端部外面には浅い凹線が1条巡らされる。797は平坦な底部に断面三角形の大振高台が貼り付けられる。これらの4点は胎土の状況などから、いわゆる南部系（荒肌手）山茶碗の範疇に入るものと思われる。798は片口碗で7型式頃に帰属すると考えられる。799・800の鉢皿はいずれも底部のみが残っており、全体の器形は不明であるが、無高台で底部内面にヘラ状の工具により格子状に撻目が施されており、縱方向は16条、横方向は19条を数える。801の小鉢は口径8.4cm、底径6.3cm、器高3.6cmを計る。無高台で体部は内擣気味に立ち上がり、口縁部はわずかに外反して端部は丸く仕上げられる。802の碗は胎土や色調から美濃須衛窯産の遺物と思われる。無高台で体部は内擣して立ち上がり、口縁部は大きく外反して端部は丸く仕上げられる。

803～811は底部外面に墨書が残る遺物で、803～807は碗、809～811は小皿である。底部の小片が多く全体の器形が明らかなのは809・810の小皿程度であるが、804が6型式頃、805が6～7型式頃、806・809が7型式頃、807が7～8型式頃、803が9型式頃、810・811が9～10型式頃、808が10型式頃の所産と考えられる。文字内容は804が「×」、805が「上□」、807が「一」、808「△」、809が「先師」、810「△」と推測され、803・806・811は意味不明の記号が記される。

#### その他の土器・土製品（第112図-812～834）

812～820の土師器皿はいずれも手づくねによるもので、法量などの分類は遺物観察表に示した。

821は瓦質双耳鍋である。口縁部の残存率で1/12程度の小片であるが、口径29.4cmを計り、体部はわずかに丸みをおびて外開きに立ち上がり、口縁部は外折したのち受け口状に斜め上方に伸び、断面長方形に肥厚する。底部の形状は不明であるが、膨らみを持ち、外周よりに三足が付き、口縁部には吊り手を付ける耳部が付設されると推測される。19世紀代の所産と思われる。

822は羽釜である。口縁部の残存率で2/12程度の小片であるが、口径21.0cmを計り、体部から口縁部にかけて強く内擣し、口縁部は内傾して端部は丸く仕上げられる。体部外面には粗いハケメが残る。鉢は板状で斜め上方に伸び、端部は尖り気味となる。鉢と口縁部の境に穴が開けられており、吊されて使用していたことが推測される。「尾張の羽釜」（北村和宏 1996）所収の分類・編年には従うと、II～4類、14世紀末～15世紀前半頃の所産と考えられる。

823・824は伊勢型鍋である。823は口縁部の残存率で2/12程度の小片であるが、口径27.9cmを計り、丸みをおびた体部から長い口頭部が外反して立ち上がり、口縁部は大きく外に開いて、端部は内側に

折り返されて下方に肥厚する。「尾張の「伊勢型鍋」」(北村和宏 1996) 所収の分類・編年従うと、II-2・3類、14世紀前半頃の所産と思われる。

825-830は製塙土器である。825の坏部は口縁部が外反する形状で美濃式1類に、826-828の坏部は美濃式2類に、829-830の脚部は知多式4類系に分類される。

831-834の管状土鍤はいずれも破損品であるが、832は比較的真っすぐな円筒形で、831・833・834は細長い紡錘形をしている。

#### 中・近世陶器 (第112図-835-第113図-856)

835・836は丸碗である。どちらも断面台形の貼付高台が付き、835は体部に丸みを帯び、836はほぼ直線的に立ち上がる。口縁端部は丸く仕上げられる。835は筋軸が、836は灰軸が施される。835は連房式登窯第II段階-5~6小期頃の、836は連房式登窯第III段階-9~10小期頃の所産と思われる。837の縁軸小皿は漬け掛けによる鉄軸が施される。古瀬戸後Ⅲ期~IV期(古)頃の所産と考えられる。838はいわゆる重圓皿で、15世紀後半~16世紀前半頃の所産と考えられる。839の丸皿は削り出し輪高台で、底部外面を除いて灰軸が施される。大窯第III段階-第5~6小期頃の所産と思われる。840の蓋は皿形で、体部は外反して口縁部が水平方向に大きく開く。筋軸が施される。18世紀代に帰属するものと思われる。841の折縁皿は低い貼付高台が付き、体部は内側気味で口縁部が大きく外に開いて端部は丸く仕上げられる。大窯第IV段階-第5~6小期頃の所産と思われる。844の小型壺は、体部が球形に近く、底部は平底で下方にわずかに突出する。口縁部を丸く立ち上げる形状と推測される。灰軸が施され、内面には筋状の異物が付着する。古瀬戸後Ⅲ~IV(古)頃の所産と思われる。845は筒形香炉である。体部は内傾して立ち上がり、口縁部は外反して外側に突出する。鉄軸が施される。連房式登窯第II段階-5~6小期頃の所産と思われる。846~848は擂鉢である。846は口縁部がかすかに外傾し、端部は丸く仕上げられる。擂目は10本を一単位とする。19世紀代の所産であろうか。847の口縁部は外方に突出して断面菱形に肥厚し、外側に明瞭な棱を有する。848は体部がほぼ直線的に立ち上がり、口縁部は外反することなく端部は丸く仕上げられる。内面のやや低い場所に小突起が付けられる。擂目は12本を一単位とする。連房式登窯第I段階-1小期頃の所産と思われる。849の折縁皿は断面台形の角張った貼付高台が付き、体部は内側気味で口縁部が大きく外に開いて端部は丸く仕上げられる。底部内面に文様が描かれる。灰軸が施される。連房式登窯第I段階-4小期頃の所産と思われる。850の鉄絵皿は断面三角形の小さな削り出し輪高台で、鉄絵の具で口縁部内面が線取りされ、底部内面に水鳥と「井」字状の文様が描かれる。長石軸が施される。連房式登窯第I段階-3小期頃の所産と思われる。851は常滑の甕で、口脣部は強く内傾し、口縁部は外側に折り返されて再び直立し、「匂」形となる。赤羽編年のⅢ期-後半頃の所産と思われる。852は直線大皿で、体部はほぼ直線的に立ち上がり、口縁部はわずかに肥厚して端部はかすかな凸面をなす。灰軸が施される。古瀬戸後Ⅲ頃の所産と思われる。853・854は天目茶碗である。853は削り出し輪高台で高台内の削り込みは浅い。腰部はやや薄手で、体部から口脣部にかけては丸みを帯びて立ち上がり、口脣部はやや厚みを増し、口縁部は尖り気味に厚さを減じて端部は丸く仕上げられる。鉄軸が施され、高台脇は露胎となる。古瀬戸後Ⅳ(新)~大窯第I段階-第1小期頃の所産と思われる。854は体部から口縁部にかけての片であるが、形状は853とはほぼ同様であり、同時期の所産と思われる。855の丸碗は幅

広の削り出し輪高台を持ち、高台内と高台外面の一部を除いて鉄軸が施される。体部から口唇部にかけては内擣して立ち上がり、口縁部は尖り気味に厚さを減じて端部は丸く仕上げられる。高台裏には刻印が押されるが、文字内容を解読するにはいたらなかった。18世紀後半から19世紀前半頃の所産と思われる。856の灯明皿は内面に棱を持つ受け皿で、口縁部周辺に灰釉が施される。連房式登窓第Ⅲ段階－9～10小期頃の所産と思われる。

#### 石器（第114図-857～第115図-878）

今回の調査では石器類が約300点出土しているが、その多くは剥片や碎片で、製品としての体裁を保つものは100点程である。そのほとんどが打製石斧で、他の製品、例えば磨石・敲石類が皆無である点に本遺跡の特徴がある。打製石斧の在り方については後章で触れることにしたい。図示した22点は主に針田遺跡から出土したものであるが、東坪内遺跡（870・871・873・874）、田中浦遺跡（875）から出土した石器についても便宜上本項で扱うこととする。

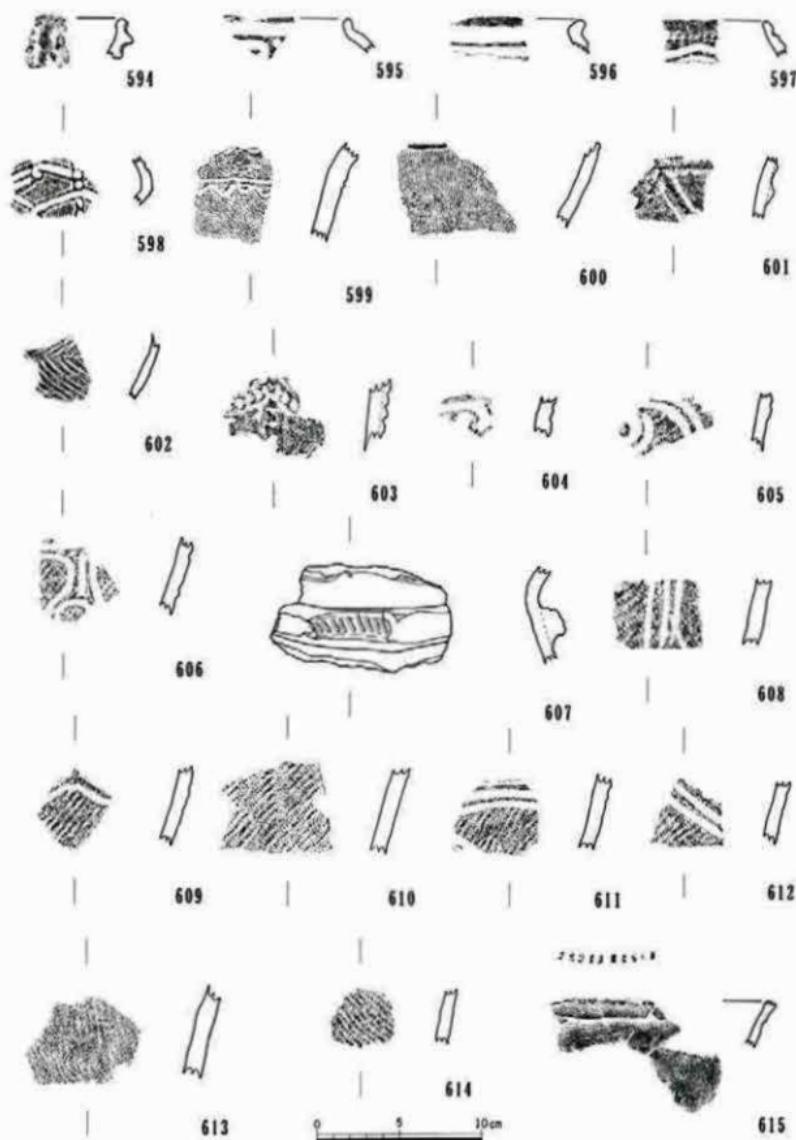
図示した遺物のうち、857～859は石鏃である。858はいわゆる凹基鏃、857・859は有基鏃で、859は未製品と思われる。857・858はいずれも素材の剥離面を残さず、基部・先端部とともに押圧剥離による平坦な剥離によって整形されている。859は裏面に主剥離面を残し、基部は押圧剥離による急角度な剥離によって整形される。石材は857・858はチャートが、859は下呂石が使用されている。

860は器種不明の石器であるが、チャートの横長剥片を素材とし、左側辺は主に裏面から、右側辺と先端部は主に表面からの押圧剥離によって整形される。調整痕の残る剥片もしくは削器と思われる。

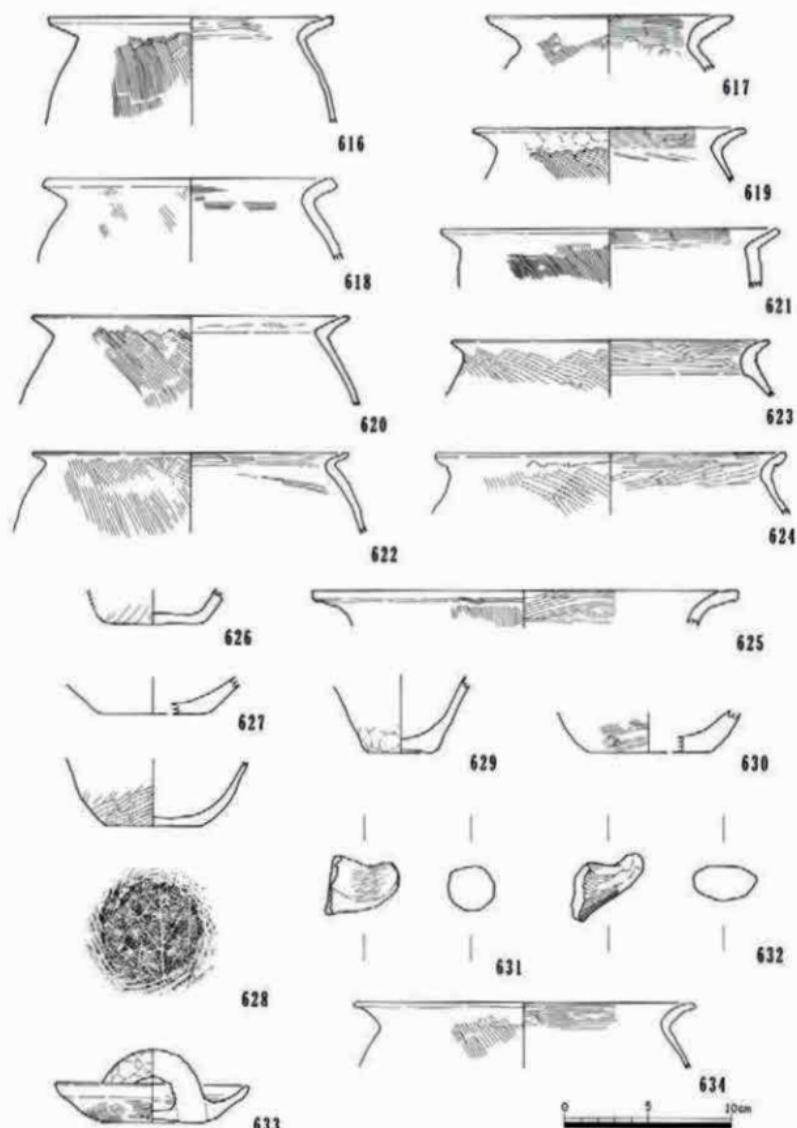
861～874は打製石斧である。形状はいわゆる短冊型・鋸型、側辺の一辺を弧状に整形するものに分類される。いずれもホルンフェルスの横長剥片を素材としており、石材の選択性もうかがわれる。863・869・871は表面に自然面を残す。主に硬質の工具を用いた垂直方向の直接打撃によって整形されており、861・863～866には刃潰しが行なわれる。870は刃部が、871・872・875は基部を破損しており、863・871は刃部正面に、864は刃部先端部と両側辺に磨耗が見られ、866は刃部縁辺と左側辺中央のあたりに着柄によると思われる摩滅痕が見られる。

876・877の砥石は、877が金属器の粗砥ぎ、876が同じく仕上げ砥ぎに使用されたと考えられ、弥生時代以降の時期に帰属すると推測される。石材は876が凝灰岩、877が砂石である。

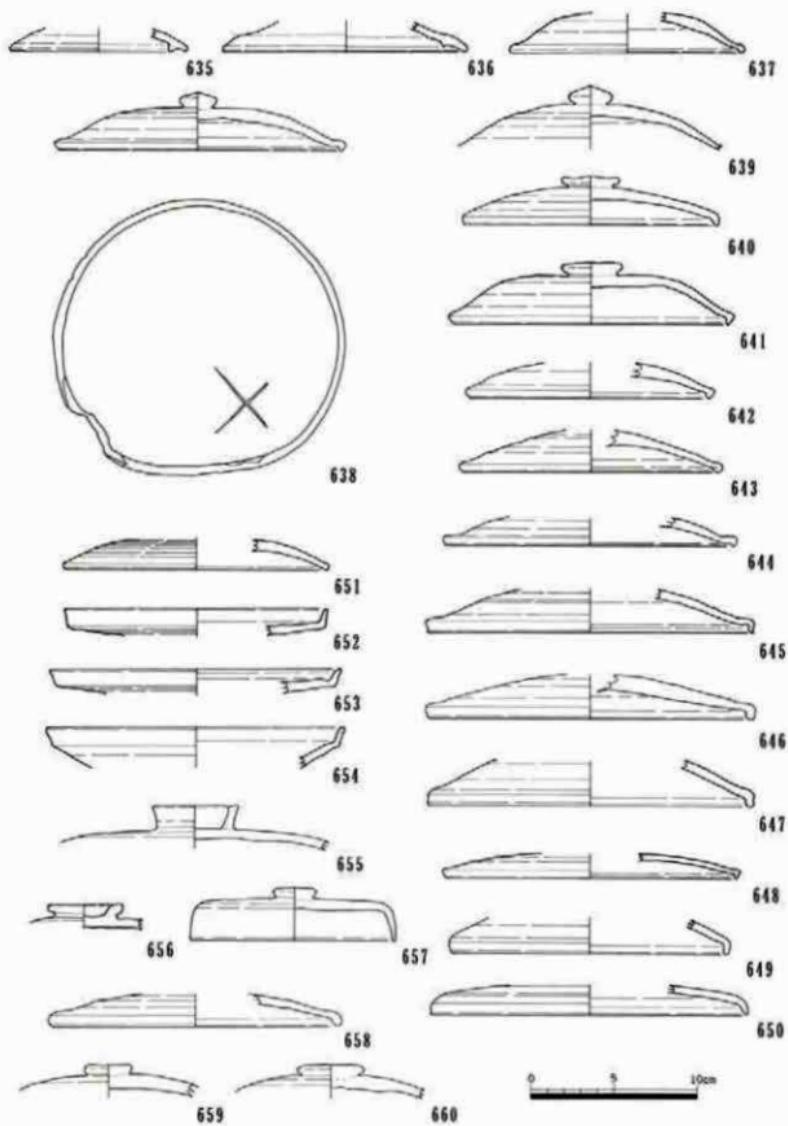
878の石皿は一部を破損しているが本来は円形であったと推測され、硬質砂石を素材とする。皿面は2面で、裏面には敲打の痕跡が観察される。



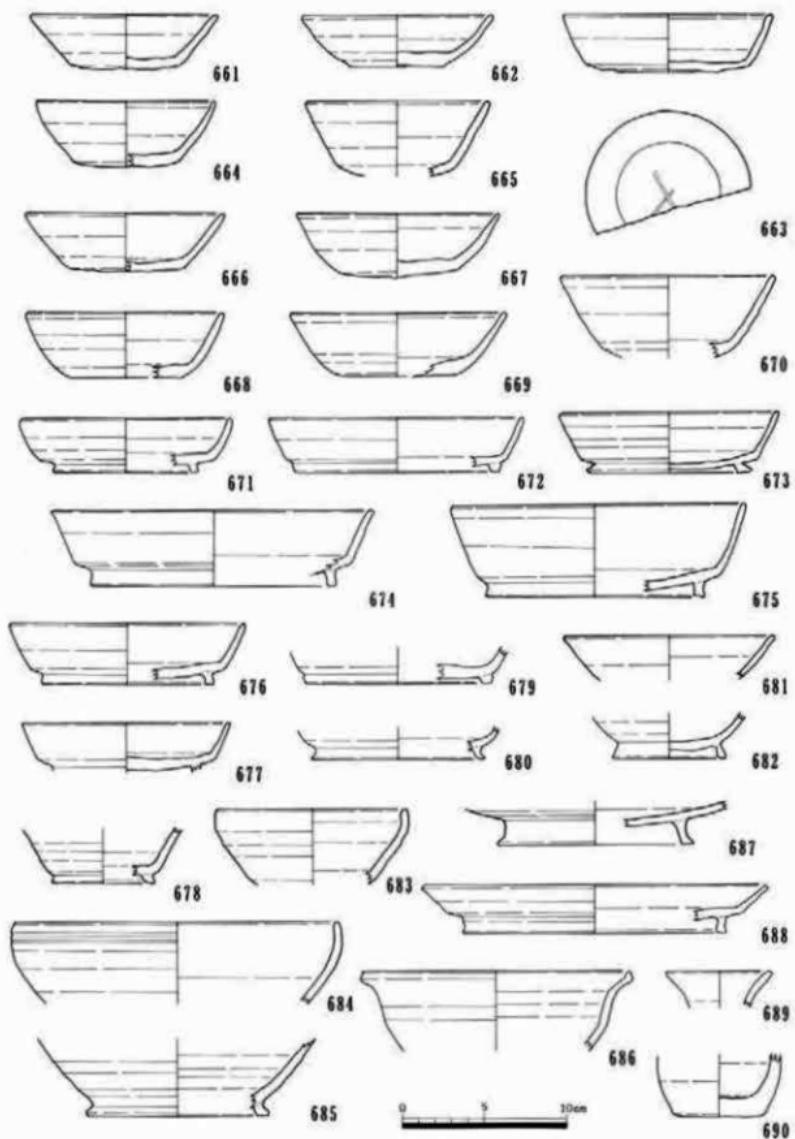
第104圖 鈎田遺跡出土繩文土器拓影



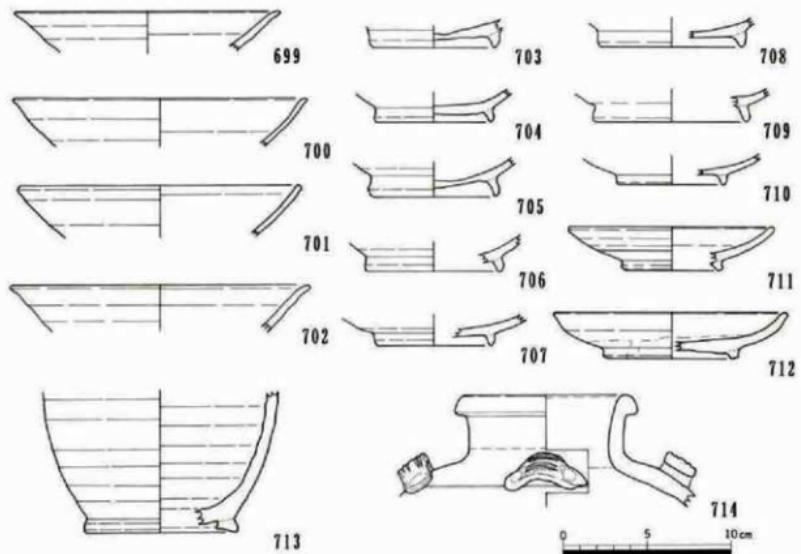
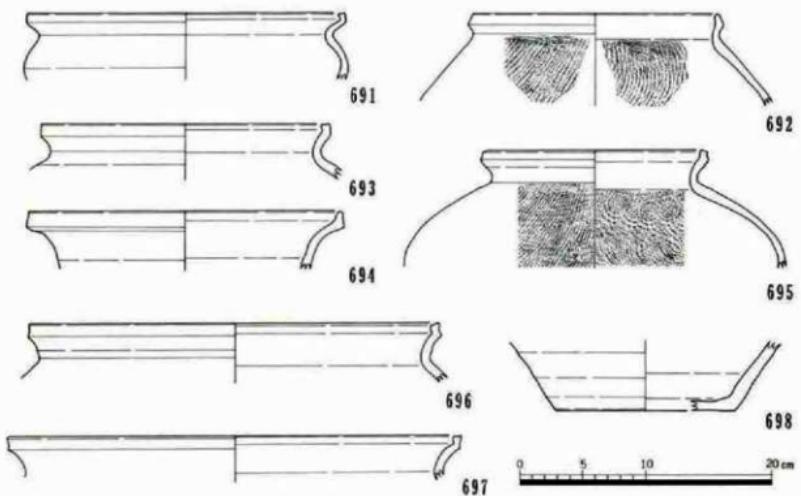
第105図 針田遺跡包含層出土遺物（1）



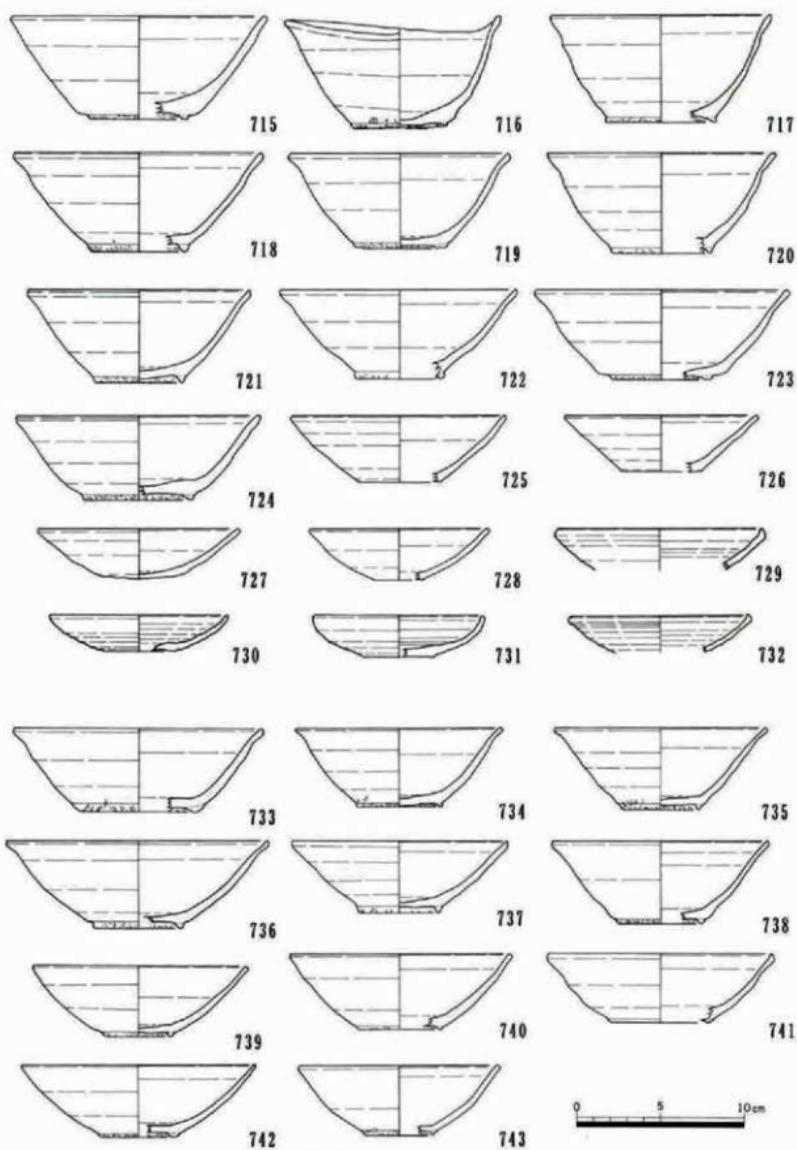
第106圖 針田遺跡包含層出土遺物（2）



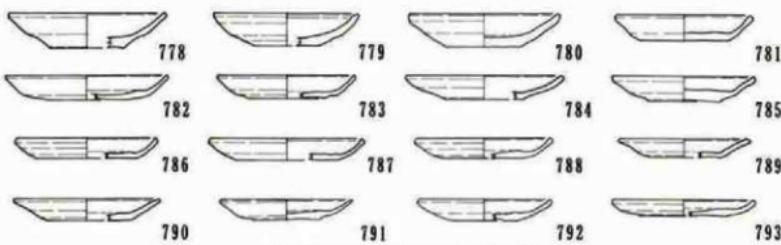
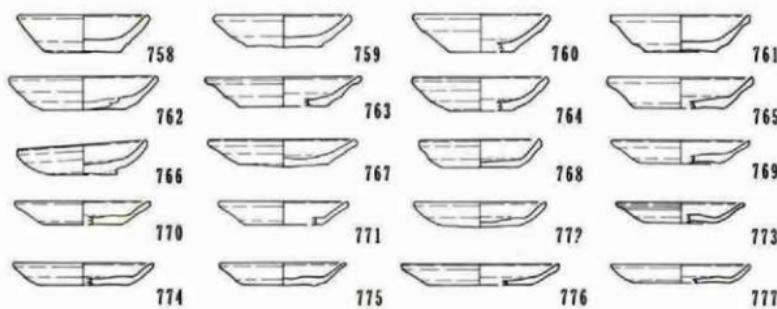
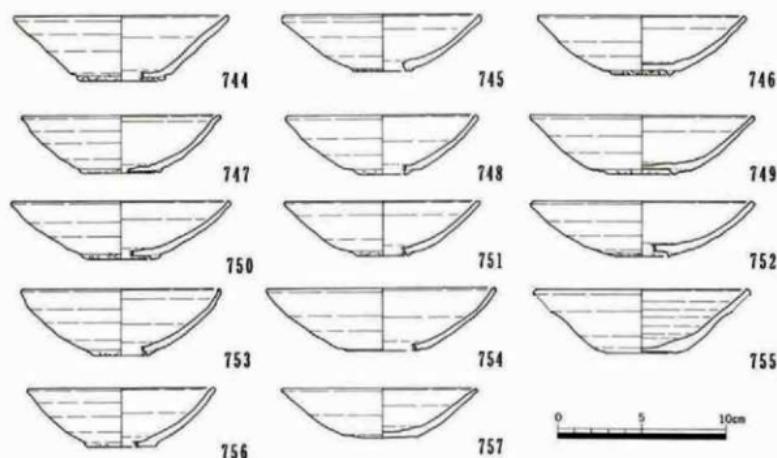
第107図 計田遺跡包含層出土遺物（3）



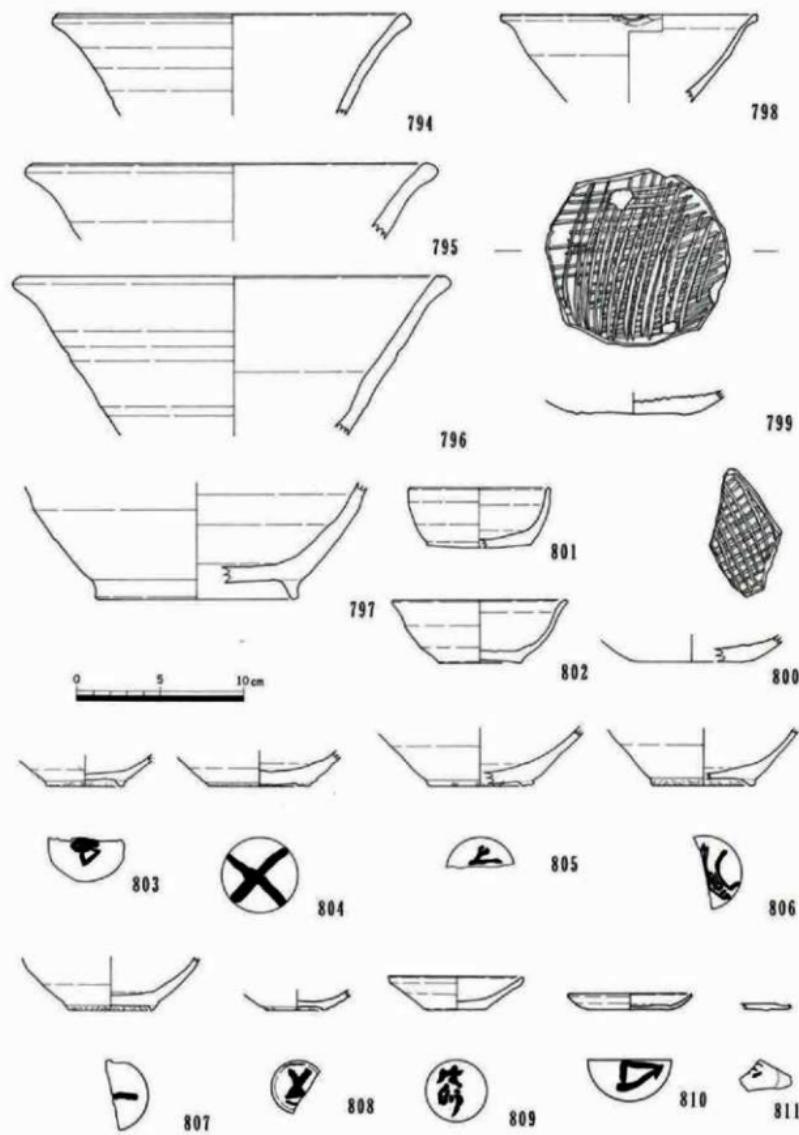
第108図 針田遺跡包含層出土遺物（4）



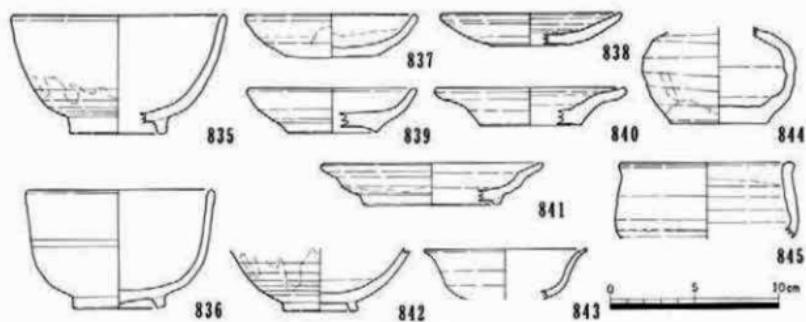
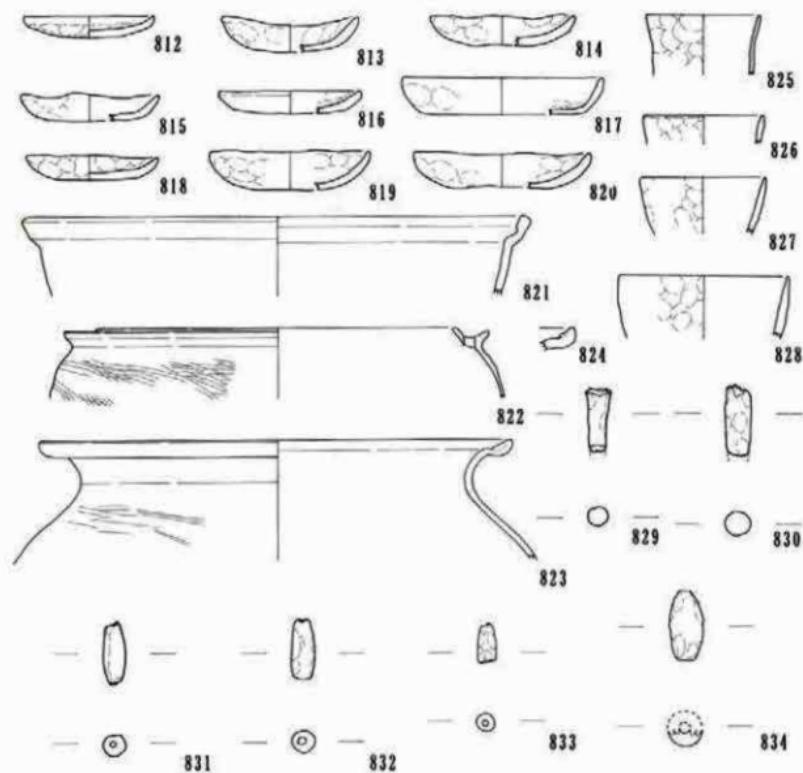
第109図 針田遺跡包含層出土遺物（5）



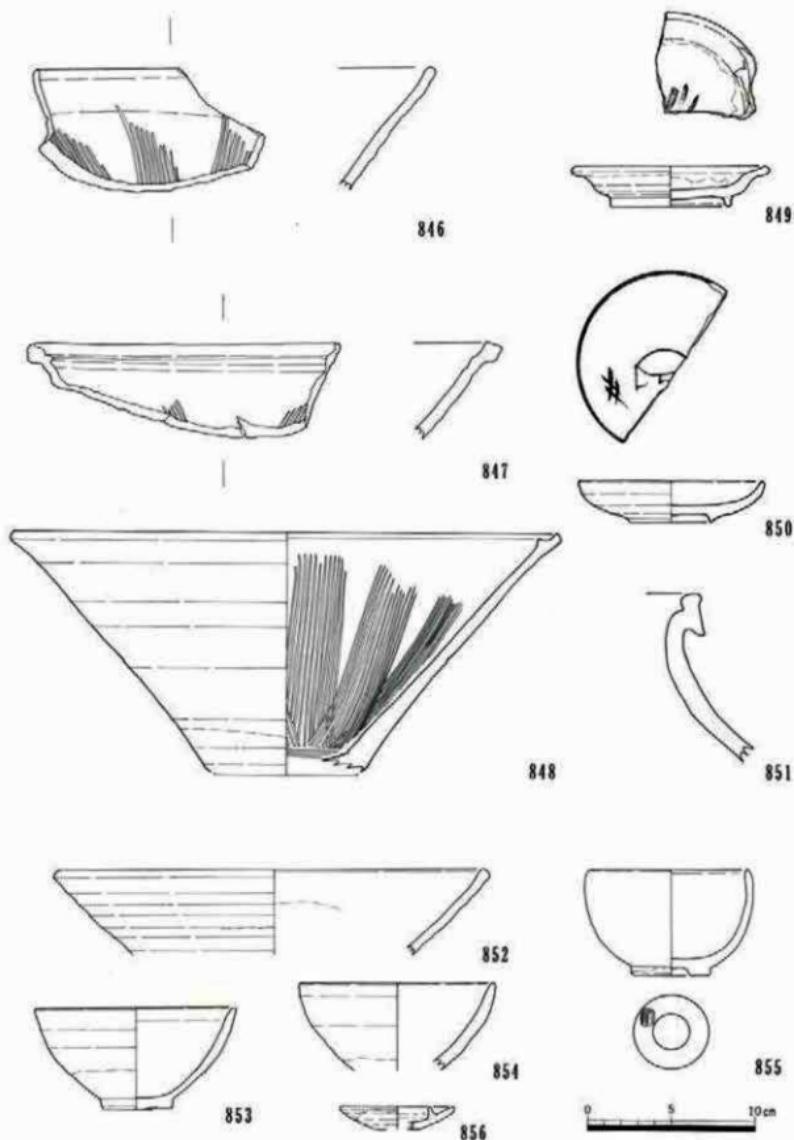
第110図 針田遺跡包含層出土遺物 (6)



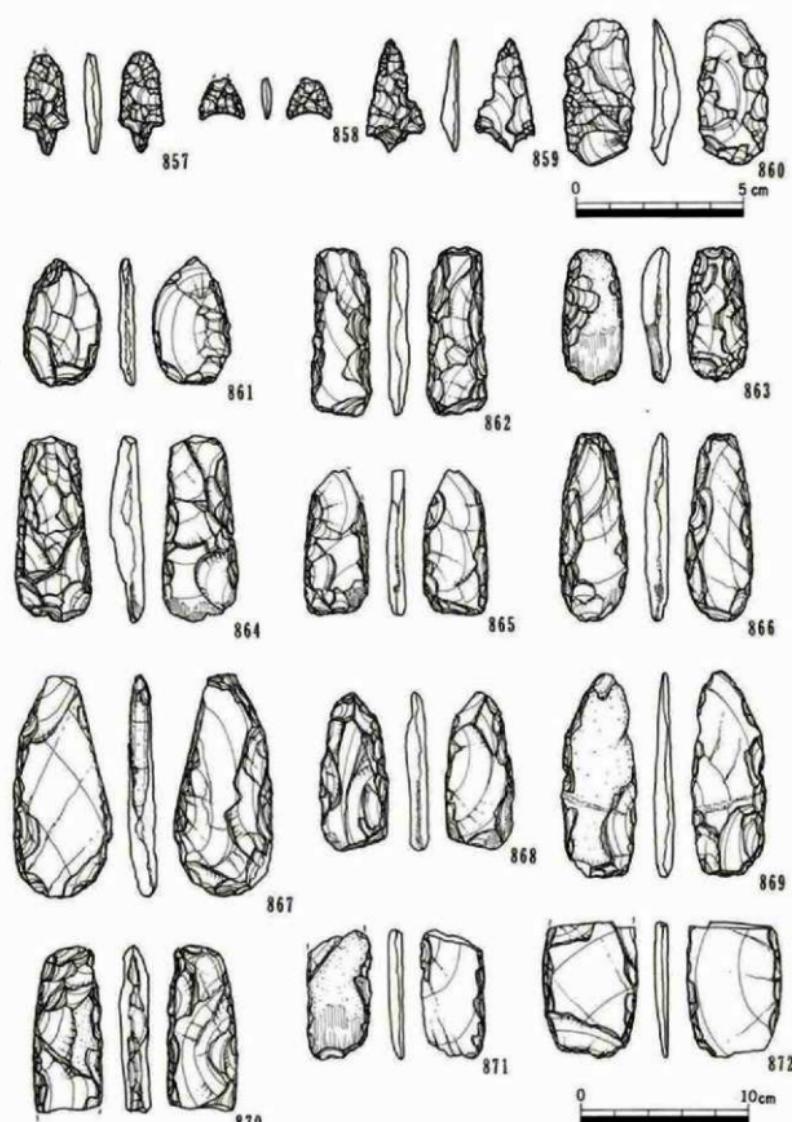
第111図 針田遺跡包含層出土遺物 (7)



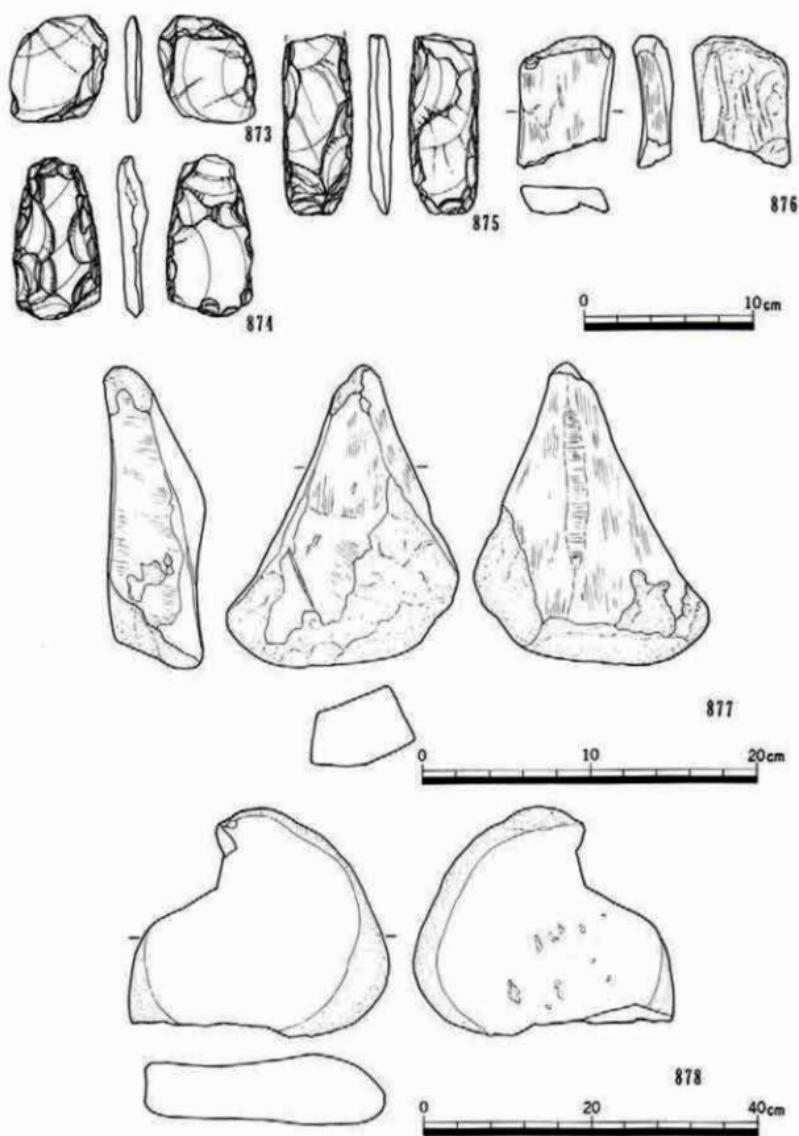
第112図 鈎田道路包含層出土遺物 (8)



第113図 針田道路包含層出土遺物 (9)



第114図 針田遺跡・東坪之内遺跡・田中浦遺跡出土石器実測図(1)



第115図 針田遺跡・東坪之内遺跡・田中浦遺跡出土石器実測図(2)

## 第5章 東坪之内遺跡の調査

### 第1節 遺構概要

今回の調査で確認した遺構面は、A・B・C区ともに1面で、検出した遺構はいずれもⅢ層から掘り込まれている。したがって、古墳時代から近世まで、各時期の遺構が混在していると考えられるが、層位的に区別することが困難であるため、時期判定については、針田遺跡と同様に出土遺物や遺構の切り合い関係を考慮して行った。しかし、遺構出土の遺物に恵まれなかつたこともあり、十分な成果を上げることはできず、結局、帰属時期不明の遺構が多数存在する結果に終わった。遺構の略称については例言に記した通りであるが、遺構番号については調査時における検出順に付けていたため、必ずしも時期や地区ごとに順序立てられてはいるとは限らない。

検出した主な遺構は溝状遺構4条、自然流路1条、土坑25基、ピット36基である。検出した遺構は概して掘形が浅く、Ⅲ層上面は相当削平されていると推測され、遺構を検出した面が当時の生活面とは限らない。なお、一覧表などに記した年代観は第4章第1節で触れたとおりである。

### 第2節 遺物概要

今回の調査で出土した遺物は、約500点である。その大半が細かく破碎された小片で、全体の器形を明らかにできる遺物はごく少数である。質量ともに貧弱な内容であるが、土器類は古墳時代の土師器から古代の土師器、須恵器、灰釉陶器、中世の山茶碗、古瀬戸・大窯・連房式登窓などの中・近世陶器と広範な時期に及ぶ。その他に縄文時代の打製石斧が少数出土している。量的には山茶碗類を中心に、中世以降の遺物が多く、上記の遺構の多くはこの時期に帰属するものと思われる。

なお、各遺物の分類、名称、年代観などは針田遺跡の報告に準じており、詳細は第4章第2節を参照されたい。

### 第3節 遺構と遺構出土遺物

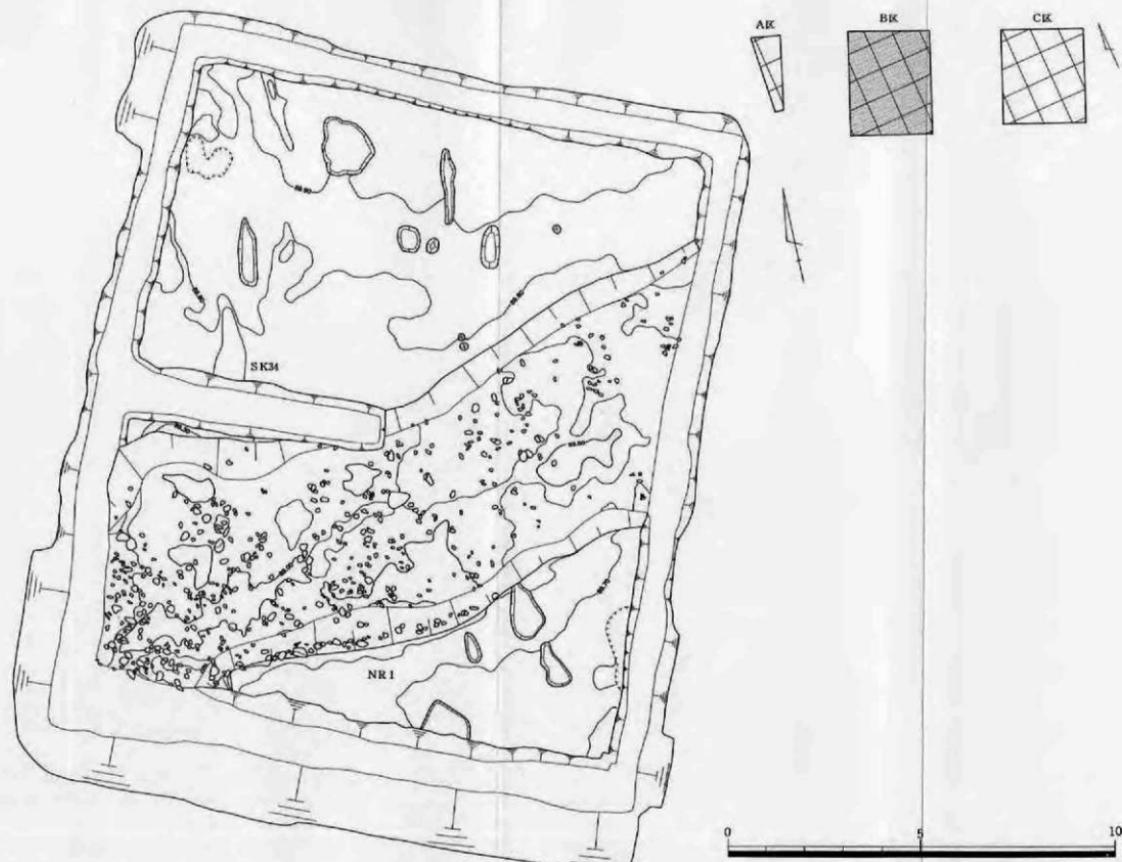
#### 溝状遺構（SD）・自然流路（NR）

今回の調査では、A区から溝状遺構1条、B区から自然流路1条、C区から溝状遺構3条を検出した。その位置は第116~118図に、概要を第47表に示した。溝状遺構は検出できた範囲で幅0.41~6.52mとかなり違があるが、いずれも深さが11~15cmと非常に浅く、遺構の上面はかなり削平されていると考えられる。遺物が出土した遺構は2条で、SD1から5点、NR1から59点が出土している。いずれも図示の困難な小片であるが、第120図に図示した遺物が出土したNR1について断面図を作成して第119図に示した。これらの溝の年代観や性格を推測するのは困難であるが、以下にNR1について若干の検討を加えたい。

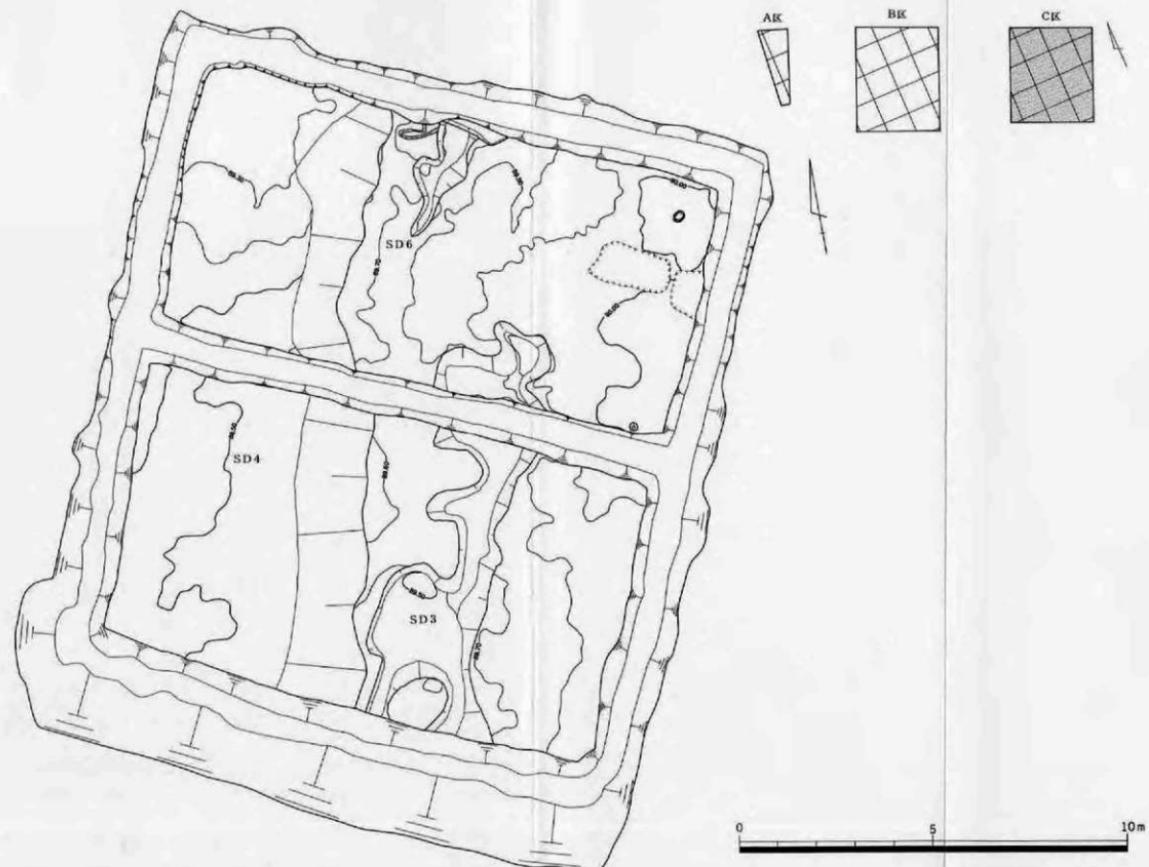
NR1はB区4~7E・4~7Fグリッドから検出し、幅6.54m、深さ0.60mを計る。他の溝と比



第116図 東坪之内道路A区橋構分布図

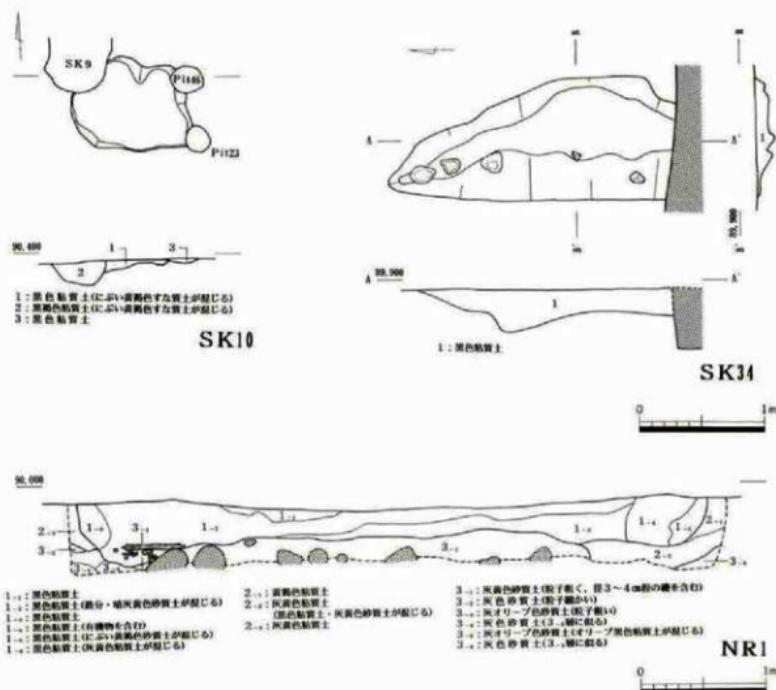


第117図 東坪之内道路B区造構分布図



第118図 東坪之内遺跡C区道構分布図

較して、埋土が3層に分層でき埋土中に礫を多く含むこと、規模、特に深さがはるかに深いこと、水が流れた方向が他の溝が概ね南西から北東であるのに対し、東から西へと方向が異なることなどに特徴がみられる。出土した遺物の内訳は古墳時代の土師器24点、古代の土師器26点、須恵器2点、灰釉陶器1点、山茶碗4点で、その他の遺物として打製石斧が2点出土している。山茶碗より後の時期の遺物が出土していないことを考えると、中世から中世末には廃絶していたと考えられる。出土遺物の組成では、特に古墳時代から古代の土師器・須恵器が大半(88.1%)を占める点が注目される。また、埋土から炭化木材が出土しており、放射性炭素年代測定の結果、AD 235~420年との結果が得られた。<sup>(18)</sup> 板材の形状や共伴する遺物も不明確であるが、少なくとも近くにこの時期に消失した板材を使用していた場所が在ったことになり、そこにこの時代の造構があった可能性は高いと思われる。該期の遺物が出土した針田遺跡は本遺跡の西に位置することから、水の流れた方向を考慮すると本遺跡の東方に最もこの時期の造構があったと推測される。



第119図 東坪之内遺跡SK・NR1実測図

**N R 1 出土遺物（第120図-883～885）**

図示した3点のうち、884の土師器・壺は平底で底部が下方に突出し、体部との境付近に指頭圧痕が残る。古墳時代の松河戸期の所産であろうか。883の土師器・壺は口縁部が外反する形状で、端部は面取り状に整形される。牧野小山編年の第7～8期頃の所産と考えられる。885の灰釉陶器・碗はやや外に開く三角形の貼付高台を持ち、外面にやや弱い張りを持つ。O-53号窯式期頃に帰属すると思われる。

**土坑・ピット・性格不明遺構**

今回の調査で確認されたのは土坑25基、ピット36基で、その概要是第48・49表の各一覧表に記した。これらの遺構の中で、土坑の平面形は梢円形もしくは長方形を基調とするが、不定形のものが半数近くを占める。法量は長軸で0.5～2.0m程度で、深さは大半が15cm以下と浅く、中には1.7cm、2.0cmという極めて深い遺構もある。最も深い遺構でも28.6cmしかなく、各遺構の上部は相当削平されていると考えられる。ピットの平面形は正円形もしくは梢円形を基調とし、法量は長軸で20～35cm程度、40cmを超えるものは少ない。全体的に深さが浅いのは土坑と同様である。中には埋土内に拳大から人頭大の礫を含む土坑も見られるが、結局、遺構の性格を明らかにすることはできなかった。この中で遺物が出土した遺構は土坑5基、ピット2基である。いずれも図示するのも困難な小片であるが、その主なものを第120図-879・880に図示し、その遺物が出土したSK10・SK34の平面および断面図を作成して第119図に図示した。

**S K 出土遺物（第120図-879・880）**

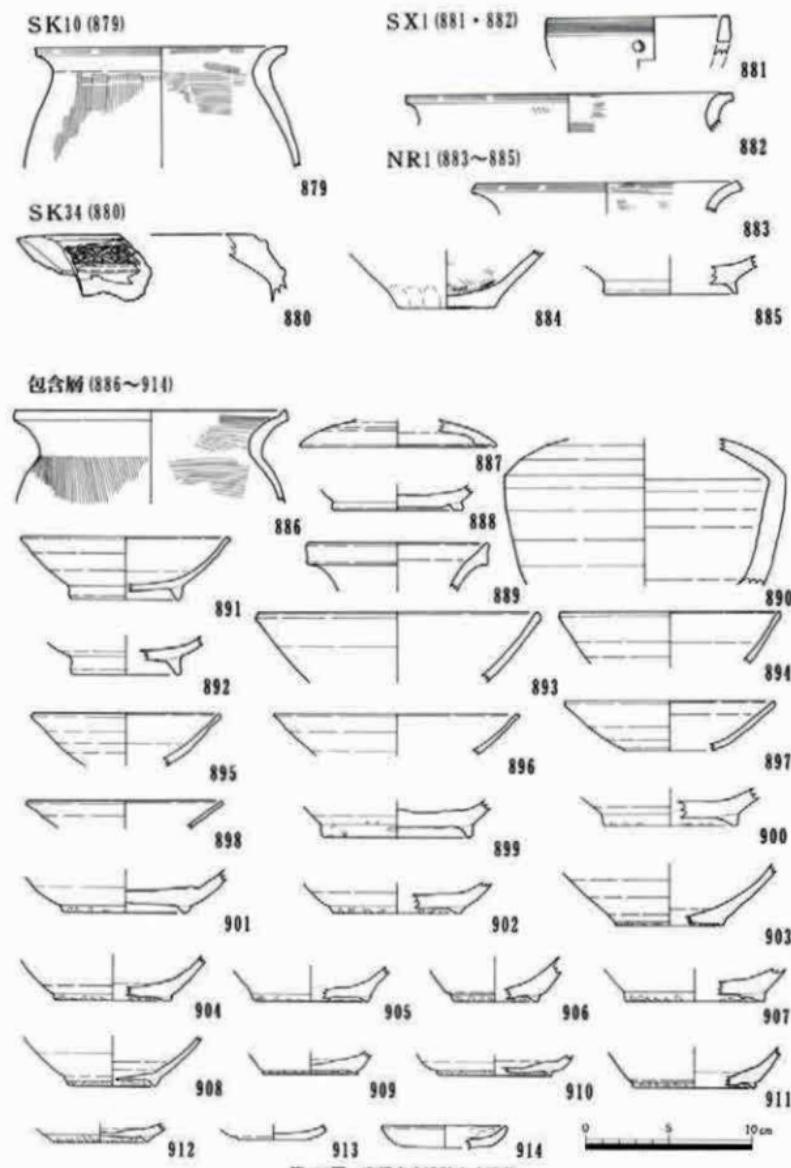
879の土師器・壺はやや短い口縁部が外反して立ち上がり、端部は面取り状に整形される。外面のハケメはナデ消される。川合編年の後VII期頃の所産と考えられる。880の奈良火鉢は口縁部残存率1/12程度の小片であるが、平面円形の浅鉢形で、体部は内彎し、口縁端部が内側に引き出されて幅のある平坦な面となる。外面には凸帯が2条巡らされ、その間に花菱文のスタンプが捺印される。「奈良火鉢」（立石堅志 1995年）所収の分類・編年に従うと、浅鉢V類、14世紀後半～15世紀前半頃の所産と考えられる。

**S X 1 出土遺物（第120図-881・882）**

S X 1はA区1・2B、1・2Cグリッドから検出した。遺構の東側は調査区外にあり、検出できた範囲で長軸5.05m、短軸1.80m、深さ0.41mを計る。摺鉢状の土坑が何基か集まって形成されたような形状であるが、平面形は不定形を示す。図示した2点のうち、881の土師器・短頸壺は口径10.9cmを計り、口縁部は内彎して立ち上がり、端部外面には横線が5条巡らされ、その下方に穿孔される。廻間II～III式期頃の所産と思われる。882の土師器・壺は口縁部がわずかに上方に立ち上がった後、短く外反する形状で、川合編年の後VII期頃の所産と思われる。

#### 第4節 包含層出土遺物

図示した29点のうち、886の土師器・甕はやや長い口縁部が外反し、口縁端部は上方にわずかにつまみ上げられ、断面が三角形状となる。外側は面取り状に整形される。7世紀後半頃の所産であろうか。887～890は須恵器である。887の坏蓋は内面にかえりを持つものであるが、かえりは小さくにぶい作りで、口縁部より下がらない形状を示す。猿投編年第Ⅲ期－第2小期頃の所産と思われる。888の坏身は底部外面が下がり気味となり、低く外に聞く貼付高台がつけられる。889・890は長頸瓶である。889の口縁部は大きく外反し、端部は下方に垂下して断面三角形の稜を形成し、外側はわずかにくほんだ面をなす。890の胴部は肩部で強く屈折して後をなすものである。891・892・896は灰釉陶器の碗である。891は全体の器形の分かる数少ない遺物の一つで、やや形のくずれた三日月高台を持ち、高台外面には弱い張りを持つ。体部は丸みをおびて立ち上がり、口縁部は外反して端部は玉縁状に丸くおさめられる。893～895、897～912の山茶碗・碗は、899～902が5型式頃、903・907が6型式頃、893・906が6～7型式頃、904・905が7型式頃、894・908が7～8型式頃、910～912が8型式頃、908が9型式頃、895・898が9～10型式頃、897が10型式頃に帰属すると考えられ、胎土の状況などから907・908は南部系(粗肌手)の範疇に入るものと思われる。913の山茶碗・小皿は7型式頃の所産と思われる。914の土師器皿は手づくねによるもので、法量などによる分類は遺物観察表に記した。



第120図 東坪之内遺跡出土遺物

## 第6章 田中浦遺跡の調査

### 第1節 遺構概要

今回の調査で確認した遺構面は、A・B区ともに1面で、検出した遺構はいずれもⅢ層から掘り込まれている。したがって、古代から近世まで、各時期の遺構が混在していると考えられるが、層位的に区別することが困難であるため、時期判定については、針田遺跡と同様に出土遺物や遺構の切り合の関係を考慮して行った。しかし、遺構出土の遺物に恵まれなかつたこともあり、十分な成果を上げることはできず、時期推定ができる遺構も中世以降に属すると考えられ、古代以前に遡ると思われる遺構は確認できなかった。結局、帰属時期不明の遺構が多数存在する結果に終わった。遺構の略称については例言に記した通りであるが、遺構番号については調査時における検出順に付けているため、必ずしも時期や地区ごとに順序だてられているとは限らない。

検出した主な遺構は溝状遺構6条、土坑10基、ピット26基である。検出した遺構は概して掘幅が浅く、Ⅲ層上面は相当削平されていると推測され、遺構を検出した面が当時の生活面とは限らない。なお、一覧表などに記した年代観は、第4章第1節で触れたとおりである。

### 第2節 遺物概要

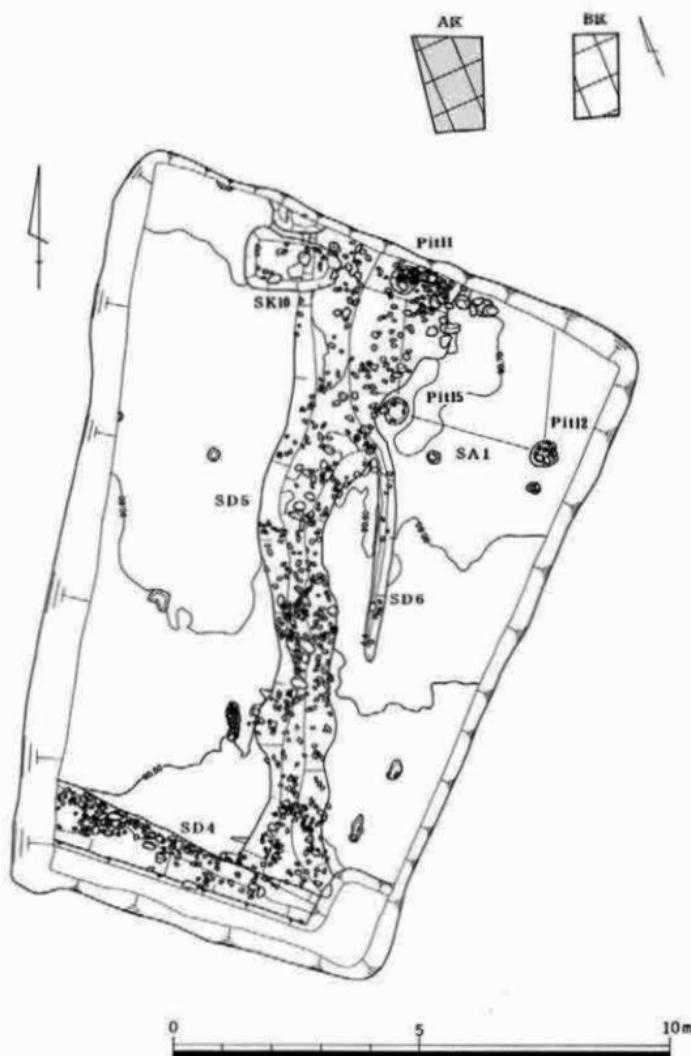
今回の調査で出土した遺物は、約300点である。その大半が細かく破碎された小片で、全体の器形を明らかにできる遺物は皆無である。質量とともに非常に貧弱な内容であるが、土器類は古墳時代の土師器から古代の土師器、須恵器、灰釉陶器、中世の山茶碗、古瀬戸・大窯・連房式登窓などの中・近世陶器と広範な時期に及ぶ。その他に縄文時代の打製石斧が少数出土している。量的には山茶碗類が圧倒的に多く、上記の遺構の多くはこの時期に帰属するものと思われる。

なお、各遺物の分類、名称、年代観などは針田遺跡の報告に準じており、詳細は第4章第2節を参照されたい。

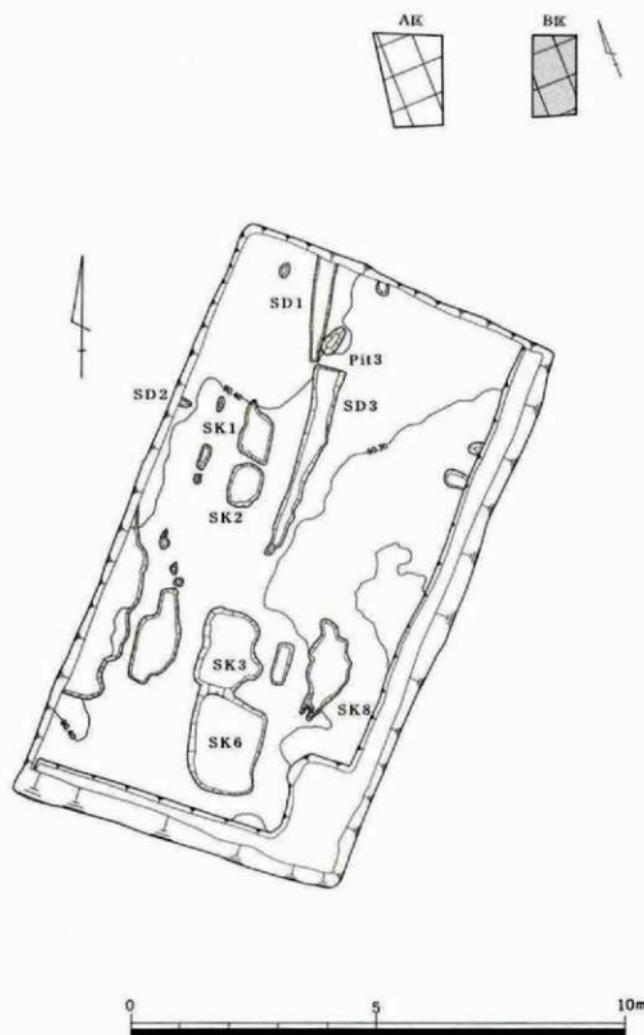
### 第3節 遺構と遺構出土遺物および包含層出土遺物

#### 柱(杭)列(S A 1)

検出した26基のピットの中で、比較的平面形が整っており、かつ平面的な分布が方形に規則的に並び、掘立柱建物が建っていた可能性が考えられるということで、柱(杭)列として扱った。A区2・3・Bグリッドに位置し、北側は調査区外に在るため、全貌を明らかにすることはできなかったが、南北に長い建物と推測される。構成するピットはPit11・12・15の3基で、法量は長軸51.5~54.5cm、短軸45.9~52.0cm、深さ19.0~54.2cmを計り、柱間の距離は南北2.55m、東西3.10mを計る。Pit11・15がS D 5を切っていることから、中世以降に帰属すると考えられる。



第121図 田中浦道路A区遺構分布図



第122図 田中浦遺跡B区造構分布図

### 溝状遺構（SD）および出土遺物

今回の調査では、A区から3条、B区から3条の溝状遺構を検出した。その位置は第121・122図に、概要を第50表に示した。溝状遺構は検出できた範囲で幅0.40～3.17mと大小の差が著しいが、いずれも深さが5～14cmと非常に浅く、遺構の上面はかなり削平されていると考えられる。遺物が出土した遺構は3条で、SD1から1点、SD3から26点、SD4から13点が出土しており、その内訳は第50表に記したとおりである。いずれも図示の困難な小片であるが、第125図～927が出土しているSD3について断面図を作成し、第123図に示した。これらの溝の年代観や性格を推測するのは困難であるが、出土遺物や切り合ひ関係を考慮すれば、概ね中世以降に帰属すると考えられる。ただし、調査範囲が狭く、遺構の全貌を確認し得なかったこともあり、その性格を推測するにはいたらなかった。

第125図に図示した927は山茶碗・碗底部の小片で、7～8型式頃の所産と考えられる。

### 土坑・ビット（SK・Pit）

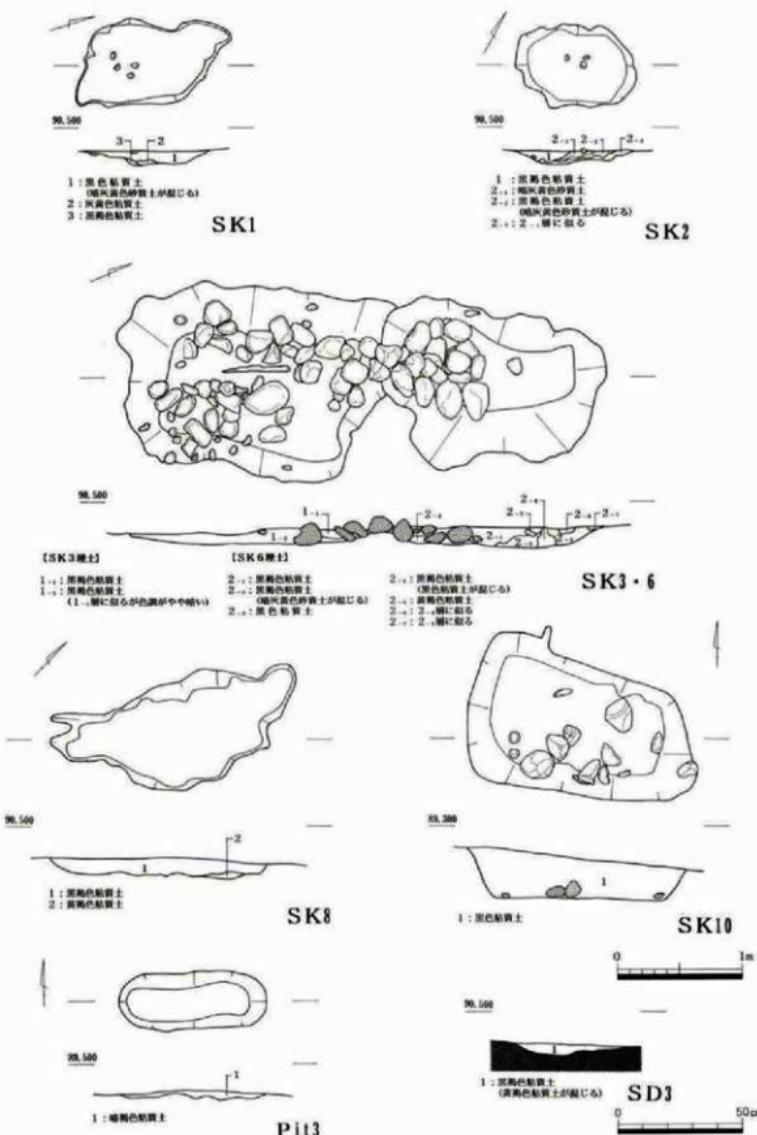
今回の調査で確認されたのは土坑10基、ビット26基で、その概要は第51・52表の各一覧表に記した。これらの遺構の中で、土坑の平面形は長方形を基調とするが、不定形のものも若干見られる。法量は長軸で1～2m程度であるが、SK5のように4mを超す大きな遺構もある。深さは大半が15cm以下の浅いもので、最も深い遺構でも41.0cmしかなく、各遺構の上部は相当削平されていると考えられる。ビットの平面形は正円形もしくは梢円形を基調とするが、半数以上は不定形・不正円形といった、形がくずれた形状を示す。法量は長軸で20～50cm程度で、中には70cmを超す遺構もある。全体的に深さが浅い傾向は土坑よりも著しく、5cmを切るもののが約1/3を占める。中には埋土内に拳大から人頭大の礫を含む土坑も見られるが、結局、遺構の性格を明らかにすることはできなかった。この中で遺物が出土した遺構は土坑7基、ビット1基である。いずれも図示するのが困難な小片であるが、その主なものを第125図～915～926に図示し、その遺物が出土した遺構の平面および断面図を作成して第123図に図示した。

### SK・Pit出土遺物（第125図～915～926）

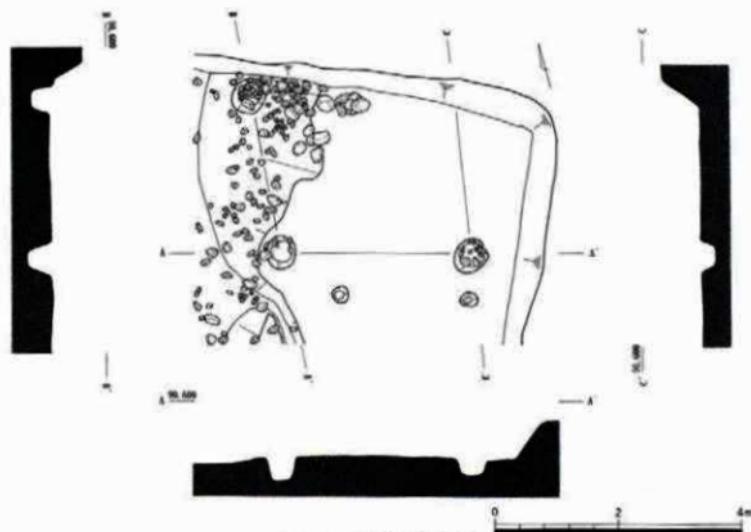
図示した16点はいずれも山茶碗で、915～922、925・926が碗、923・924が小皿である。いずれも底部もしくは口縁部の小片で、全体の器形が明らかなのは3点しかない。碗のうち922が5型式頃、916・925が5～6型式頃、915・926が6型式頃、920が6～7型式頃、917・918・919が7～8型式頃、921が9～10型式頃に帰属すると考えられる。小皿は923が8～9型式頃、924が9型式頃に帰属すると考えられる。

### 包含層出土遺物（第125図～928～932）

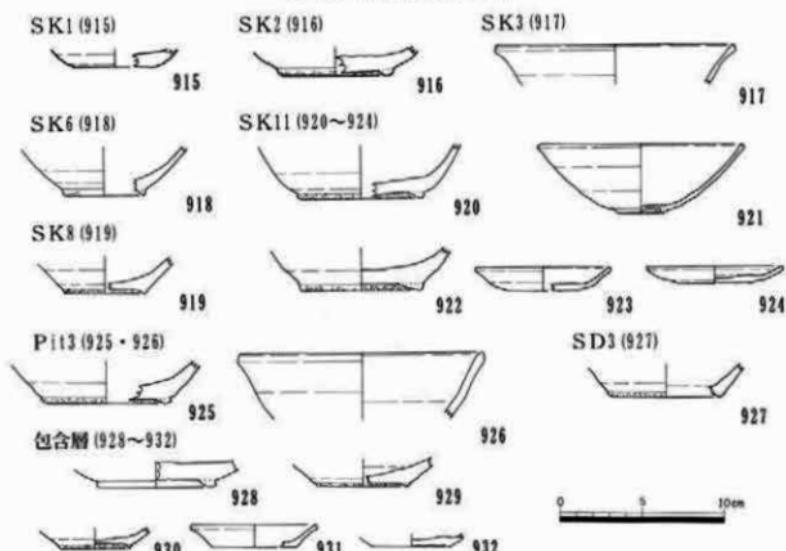
図示した5点はすべて山茶碗である。928～930は碗で、928が5型式頃、929が6～7型式頃、930が7～8型式頃の所産と考えられる。また931・932の小皿はどちらも7型式頃の所産と考えられる。



第123図 田中浦遺跡SK・Pit・SD3実測図



第124図 田中浦遺跡SA1実測図



第125図 田中浦遺跡出土遺物

## 第7章 自然科学分析

### 第1節 製塙土器・S字口縁台付壺の胎土材料

藤根 久・今村美智子（パレオ・ラボ）

#### 1. はじめに

土器胎土は、粘土と砂粒などの混和材から構成されるが、その様子は肉眼観察によりある程度識別されるものの、粘土の種類やミクロ的な構成物は顕微鏡観察によらなければならない。最近では、胎土中に含まれる珪藻化石や骨針化石などの記載により、粘土の種類について知ることができ、混和材の種類も砂粒のほか火山灰や灰質物などが混入されていくことが分かってきた（車崎ほか、1996）。こうした土器胎土の材料を調べることは、土器の形態や文様とともに土器の構成要素として重要な事柄と考えられ、土器材料の種類そのもののか材料から見た製作技法や土器の製作地の情報などについても知ることができる。

針田遺跡の調査では、7世紀末～8世紀の製塙土器の脚部あるいは杯部が出土している。

ここでは、これら製塙土器胎土について、胎土の粘土および砂粒の組成について調べ、この遺跡で使用された製塙土器胎土の特徴について検討した。なお、S字状口縁台付壺についても調べた。

#### 2. 方法と記載

ここでは、土器の薄片を作成し偏光顕微鏡による観察による方法を行った。試料は、針田遺跡出土製塙土器13試料とS字状口縁台付壺2試料、比較試料として城之内遺跡出土製塙土器3試料、牧野小山遺跡出土製塙土器4試料である（第1表）。土器は、次の手順に従って偏光顕微鏡観察用の薄片（プレパラート）を作成した。なお、試料は、面積約6cm<sup>2</sup>程度（2×3cm）を使用した。

(1)試料は、始めに岩石カッターなどで整形し、恒温乾燥機により乾燥した。乾燥後、全体にエボキシ系樹脂を含浸させ固化処理を行った。これをスライドグラスに接着した後、精密岩石薄片作製機を用いて平面を作成し、同様にしてその平面の固化処理を行った。

(2)さらに、研磨機およびガラス板を用いて研磨し、平面を作成した後、スライドグラスに接着した。

(3)その後、精密岩石薄片作製機を用いて切断し、ガラス板などを用いて研磨し、厚さ0.02mm前後の薄片を作成した。仕上げとして、研磨剤を含ませた布板上で琢磨し、コーティング剤を塗布した。

各薄片試料は、偏光顕微鏡下300倍で分類群ごとに同定・計数する。同定・計数は、100μm格子目盛を用いて任意の位置における約50μm(0.05mm)以上の鉱物や複合鉱物類（岩石片）あるいは微化石類(50μm前後)を対象とし、微化石類と石英・長石類以外の粒子が約100個以上になるまで行った。また、この計数とは別に薄片全面について、微化石類（放散虫化石、珪藻化石、骨針化石、胞子化石）や大型粒子などの特徴についても観察・記載した。

#### 3. 分類群の記載

細繊～砂サイズ以下の粒子を偏光顕微鏡により同定する場合、粒子が細粒であるため同定が困難である場合が多い。特に、岩石片については、岩石片中に含まれる鉱物数がきわめて少ないため、岩石

名を決定することが事实上不可能である場合が多い。ここでは岩石名を付けず、岩石片を構成する鉱物や構造的な特徴に基づいて分類した（菱田ほか、1993）。なお、胎土の特徴を抽出するために、鉱物や岩石片以外の生物起源の粒子（微化石類）も同時に計数した。ここで採用した各分類群の記載とその特徴などは以下の通りである。なお、各鉱物の光学的性質についてはその記述を省略する。

#### [放散虫化石]

放散虫は、放射板足類に属する海生浮遊性原生動物で、その骨格は硫酸ストロンチウムまたは珪酸からなる。放散虫化石は、海生浮遊生珪藻化石とともに外洋性堆積物中によく見られる。

#### [骨針化石]

海綿動物の骨格を形成する小さな珪質、石灰質の骨片で、細い管状や針状などを呈する。海綿動物は、多くは海産であるが、淡水産としても日本において23種ほどが知られ、湖や池あるいは川の水底に横たわる木や貝殻などに付着して生育する。

#### [珪藻化石]

珪酸質の殻をもつ微小な藻類で、その大きさは10~数百 $\mu\text{m}$ 程度である。珪藻は海水域から淡水域に広く分布し、個々の種類によって特定の生息環境をもつ。最近では、小杉（1988）や安藤（1990）によって環境指標種群が設定され、具体的な環境復原が行われている。ここでは、種あるいは属が同定できるものについて珪藻化石（海水種）・珪藻化石（汽水種）・珪藻化石（淡水種）と分類し、同定できないものは珪藻化石（？）とした。なお、各胎土中の珪藻化石の詳細については、計数外の特徴とともに記載した。

#### [植物珪酸体化石]

植物の細胞組織を充填する非晶質含水珪酸体であり、大きさは種類によっても異なり、主に約10~50 $\mu\text{m}$ 前後である。一般的にプランツ・オパールとも呼ばれ、イネ科草本、スゲ、シダ、トクサ、コケ類などに存在することが知られている。ファン型や亜鉛型あるいは棒状などがあるが、ここでは大型のファン型と棒状を対象とした。

#### [胞子化石]

胞子状粒子は、珪酸質と思われる直径10~30 $\mu\text{m}$ 程度の小型無色透明の球状粒子である。これらは、水成堆積中に多く見られるが、土壤中にも含まれる。

#### [石英・長石類]

石英あるいは長石類は、いずれも無色透明の鉱物である。長石類のうち後述する双晶などのように光学的に特徴をもたないものは石英と区別するのが困難である場合が多く一括して扱う。なお、石英・長石類（雲母）は、黄色などの細粒雲母類が含まれる石英または長石類である。

#### [長石類]

長石は大きく斜長石とカリ長石に分類される。斜長石は、双晶（主として平行な縞）を示すものと累帯構造（同心円状の縞）を示すものに細分される（これらの縞は組成の違いを反映している）。カリ長石は、細かい葉片状の結晶を含むもの（バーサイト構造）と格子状構造（微斜長石構造）を示すものに分類される。また、ミルメカイトは斜長石と虫食い状石英との連晶（微文象構造という）である。累帯構造を示す斜長石は、火山岩中の結晶（斑晶）の斜長石にみられることが多い。バーサイト構造を示すカリ長石はカコウ岩などのSiO<sub>2</sub>%の多い深成岩や低温でできた泥質・砂質の変成岩などに産す

る。

ミルメカイトあるいは文象岩は火成岩が固結する過程の晩期に生じると考えられている。これら以外の斜長石は、火成岩、堆積岩、変成岩に普通に産する。

#### [雲母類]

一般的には黒雲母が多く、黒色から暗褐色で風化すると金色から白色になる。形は板状で、へき開（規則正しい割れ目）にそって板状には剥がれ易い。薄片上では長柱状や層状に見える場合が多い。カコウ岩などのSiO<sub>2</sub>%の多い火成岩に普遍的に産し、泥質、砂質の変成岩および堆積岩にも含まれる。なお、雲母類のみが複合した粒子を複合雲母類とした。

#### [輝石類]

主として斜方輝石と単斜輝石がある。斜方輝石（主に紫蘇輝石）は、肉眼的にピールびんのような淡褐色および淡緑色などの色を呈し、形は長柱状である。SiO<sub>2</sub>%が少ない深成岩、SiO<sub>2</sub>%が中間あるいは少ない火山岩、ホルンフェルスなどのような高温で生じた変成岩に産する。単斜輝石（主に普通輝石）は、肉眼的に緑色から淡緑色を呈し、柱状である。主としてSiO<sub>2</sub>%が中間から少ない火山岩によく見られ、SiO<sub>2</sub>%の最も少ない火成岩や変成岩中にも含まれる。

#### [角閃石類]

主として普通角閃石であり、色は黒色から黒緑色で、薄片上では黄色から緑褐色などである。形は細長く平たい長柱状である。閃綠岩のようなSiO<sub>2</sub>2%が中間的な深成岩をはじめ火成岩や変成岩などに産する。

#### [ガラス・軽石型ガラス]

透明の非結晶の物質で、電球のガラス破片のような薄くて湾曲したガラス（バブル・ウォール型）や小さな泡をたくさんもつガラス（軽石型ガラス）などがある。主に火山の噴火により噴出された噴出物と考える。

#### [斑晶質・完晶質]

斑晶質は斑晶（鉱物の結晶）状の部分と石基状のガラス質の部分が明瞭に確認できるもの、完晶質は、ほとんどが結晶からなり石基の部分が見られないか、ごくわずかのものをいう。これらの斑晶質、完晶質の粒子は主として玄武岩、安山岩、デイサイト、流紋岩などの火山岩類を起源とする可能性が高い。

#### [凝灰岩質]

凝灰岩質は、ガラスや鉱物、火山岩片などの火山碎屑物などから構成され、非晶質でモザイックな文様構造を示す。起源となる火山により鉱物組成は変わる。

#### [複合鉱物類]

構成する鉱物が石英あるいは長石以外に重鉱物を伴う粒子で、雲母類を伴う粒子は複合鉱物類（含雲母類）、輝石類を伴う粒子を複合鉱物類（含輝石類）、角閃石類を伴う粒子を複合鉱物類（角閃石類）とした。

#### [複合石英類]

複合石英類は石英の集合している粒子で、基質（マトリックス）の部分をもたないものである。個々の石英粒子の粒径は粗粒から細粒まで様々である。ここでは、便宜的に個々の石英粒子の粒径が約

0.01mm未満のものを微細、0.01~0.05mmのものを小型、0.05~0.1mmのものを中型、0.1mm以上のものを大型と分類した。また、等粒で小型の長石あるいは石英が複合した粒子は、複合石英類（等粒）として分類した。この複合石英類（等粒）は、ホルンフェルスなどで見られる粒子と考える。

#### [砂岩質・泥岩質]

石英、長石類、岩片類などの粒子が集合し、それらの間に基質の部分をもつもので、含まれる粒子の大きさが約0.06mm以上のものを砂岩質とし、約0.06mm未満のものを泥岩質とする。

#### [不透明・不明]

下方ポーラーのみ、直交ポーラーのいずれにおいても不透明なものや、変質して愈物あるいは岩石片として同定不可能な粒子を不明とする。

#### 4. 各胎土の特徴および計数の結果

胎土中の粒子組成は、任意の位置での粒子を分類群別に計数した（第2表）。また、計数されない微化石類や鉱物・岩石片を記載するために、プレバラート全面を精査・観察した。以下では、粒度分布や0.1mm前後以上の鉱物・岩石片の砂粒組成あるいは計数も含めた微化石類などの記載を示す。なお、不等号は、概略の量比を示し、二重不等号は極端に多い場合を示す。

No1 : 60~200 $\mu\text{m}$ が多い（最大粒径400 $\mu\text{m}$ ）。石英・長石類）凝灰岩質）複合石英類（微細）斜長石（双晶）、赤褐色粒子、角閃石類、斜方輝石、雲母類、ガラス質（凝灰岩質）、斑晶質（凝灰岩質）、放散虫化石（5個体）、骨針化石、植物珪酸体化石

No2 : 80~400 $\mu\text{m}$ が多い（最大粒径500 $\mu\text{m}$ ）。石英・長石類）凝灰岩質）複合石英類（微細）斜長石（双晶）、赤褐色粒子、角閃石類、单斜輝石、斜方輝石、雲母類、ガラス質（凝灰岩質）、斑晶質（凝灰岩質）、放散虫化石（5個体）、骨針化石、植物珪酸体化石

No3 : 70~700 $\mu\text{m}$ が多い（最大粒径1.0mm）。石英・長石類）ガラス質）複合石英類（微細）複合石英類、凝灰岩質、カリ長石（ $\text{Na}^+$ -サト）、カリ長石（微斜長石）、雲母類、斜方輝石、ジルコン、珪藻化石（内湾指標種 *Thalassionema nitzschiodes*、海水種 *Coscinodiscus marginatus*、*Actinocyclus*属、*Coscinodiscus*属/*Thalassiosira*属、淡水種 *Synedra ulna*、*Cymbella*属、*Diploneis*属、不明種）、骨針化石多い、胞子化石、植物珪酸体化石

No4 : 60~100 $\mu\text{m}$ が多い（最大粒径1.2mm）。石英・長石類）複合石英類（微細）複合石英類、凝灰岩質、ジルコン、ガラス質、角閃石類、雲母類、骨針化石、胞子化石、植物珪酸体化石

No5 : 100~800 $\mu\text{m}$ が多い（最大粒径2.3mm）。石英・長石類）複合石英類）複合石英類（微細）複合石英類（小型）、カリ長石（ $\text{Na}^+$ -サト）、斜長石（双晶）、カリ長石（微斜長石）、ガラス質、雲母類、角閃石類、凝灰岩質、ジルコン多い、珪藻化石（海水種 *Coscinodiscus*属/*Thalassiosira*属、淡水種 *Rhopalodia gibberula*、*Pinnularia nodosa*、*Diploneis*属、*Pinnularia*属、不明種多い）、骨針化石多い、胞子化石、植物珪酸体化石

No6 : 70~700 $\mu\text{m}$ が多い（最大粒径3.0mm）。石英・長石類）複合石英類（微細）複合石英類）カリ長石（ $\text{Na}^+$ -サト）、斜長石（双晶）、角閃石類、ジルコン、放散虫化石（1個体）、珪藻化石（海水種 *Campylodiscus*属、*Coscinodiscus*属/*Thalassiosira*属）、骨針化石、植物珪酸体化石

- No7: 100~700  $\mu\text{m}$ が多い (最大粒径2.6mm)。石英・長石類)複合石英類 (微細) > 複合石英類、斜長石 (双晶)、カリ長石 (n<sup>+</sup>-#件)、カリ長石 (微斜長石)、角閃石類、ジルコン、凝灰岩質、ガラス質、放散虫化石 (1個体)、珪藻化石 (海水種 *Araconoidiscus chrenbergii*, *Coscinodiscus*属/*Thalassiosira*属、淡水種 *Eunotia biareofera*, *Eunotia*属)、骨針化石、植物珪酸体化石
- No8: 100~800  $\mu\text{m}$ が多い (最大粒径1.6mm)。石英・長石類)複合石英類 > 複合石英類 (微細) > 斜長石 (双晶)、角閃石類、ジルコン、ガラス質 (軽石型含む)、凝灰岩質、斜方輝石、珪藻化石 (海水種 *Coscinodiscus*属/*Thalassiosira*属、淡水種 *Diploneis*属、*Pinnularia*属、*Eunotia*属、不明種)、骨針化石、胞子化石、植物珪酸体化石
- No9: 110  $\mu\text{m}$ ~1.2mmが多い (最大粒径3.0mm)。石英・長石類)複合石英類 > 複合石英類 (微細) > カリ長石 (n<sup>+</sup>-#件)、斜長石 (双晶)、砂岩質、ガラス質、ジルコン、藻化石 (沼沢湿地付着生指標種群 *Eunotia pectinalis* var. *undulata*)、淡水種 *Stauroneis acuta*, *Eunotia*属、*Pinnularia*属、*Diploneis*属、*Cymbella*属、*Nitzschia*属、不明種多産)、骨針化石、植物珪酸体化石、イネ類珪酸体化石
- No10: 50~150  $\mu\text{m}$ が多い (最大粒径3.3mm)。石英・長石類)複合石英類 > 複合石英類 (微細) > 斜長石 (双晶)、雲母類、ガラス質、凝灰岩質、ジルコン、單斜輝石、斜方輝石、角閃石類、放散虫化石 (5個体)、珪藻化石 (海水種 *Coscinodiscus*属/*Thalassiosira*属)、胞子化石、骨針化石、植物珪酸体化石、イネ類珪酸体化石
- No11: 90  $\mu\text{m}$ ~700  $\mu\text{m}$ が多い (最大粒径1.5mm)。石英・長石類)複合石英類 > 複合石英類 (微細) > カリ長石 (n<sup>+</sup>-#件)、斜長石 (双晶)、ガラス質、ジルコン、放散虫化石 (1個体)、珪藻化石 (海水種 *Coscinodiscus*属/*Thalassiosira*属、沼沢湿地付着生指標種群 *Pinnularia nodosa*, *Cymbella aspera*)、淡水種 *Eunotia biareofera*, *Rhopalodia gibberula*, *Diploneis*属、*Pinnularia*属、不明種多い)、骨針化石多い、胞子化石、植物珪酸体化石
- No12: 90~250  $\mu\text{m}$ が多い (最大粒径550  $\mu\text{m}$ )。石英・長石類)複合石英類 (微細) > [複合石英類]、雲母類、斜長石 (双晶)、ガラス質、角閃石類、ジルコン、凝灰岩質、放散虫化石 (3個体)、珪藻化石 (海水種 *Actinocyclus*属、*Coscinodiscus*属/*Thalassiosira*属、淡水種 *Synedra ulna*, *Pinnularia*属、不明種)、骨針化石多い、胞子化石、植物珪酸体化石
- No13: 100~700  $\mu\text{m}$ が多い (最大粒径2.8mm)。石英・長石類)複合石英類 (微細) > 複合石英類、カリ長石 (微斜長石)、カリ長石 (n<sup>+</sup>-#件)、斜長石 (双晶)、ジルコン、砂岩質、微細黑褐色粒子高密度
- No14: 120~600  $\mu\text{m}$ が多い (最大粒径1mm)。石英・長石類)複合石英類 (微細) > 砂岩質、カリ長石 (n<sup>+</sup>-#件)、斜長石 (双晶)、凝灰岩質、斜方輝石、角閃石類、斑晶質 (凝灰岩質)、[ガラス、複合石英類]、珪藻化石 (海水種 *Coscinodiscus*属/*Thalassiosira*属)、植物珪酸体化石、微細黑褐色粒子高密度
- No15: 70~500  $\mu\text{m}$ が多い (最大粒径800  $\mu\text{m}$ )。石英・長石類)複合石英類 (微細) > 複合石英類、斜長石 (双晶)、砂岩質、角閃石類、斑晶質 (凝灰岩質)、植物珪酸体化石、微細黑褐色粒子高密度
- No16: 80~600  $\mu\text{m}$ が多い (最大粒径1.6mm)。石英・長石類)複合石英類 (微細) > 複合石英類、斜長石 (双晶)、斑晶質 (凝灰岩質)、ガラス質、角閃石類、珪藻化石 (沼沢湿地付着生指標種群 *Stauroneis phoenicenteron*、湖沼沼沢湿地指標種群 *Melosira ambigua*)、淡水種 *Pinnularia*属、*Cymbella*属、*Eunotia*属、不明種多産)、胞子化石、植物珪酸体化石

No17 : 70~700  $\mu\text{m}$ が多い (最大粒径900  $\mu\text{m}$ )。石英・長石類) 複合石英類 (微細) > 複合石英類 (小量)、斜長石 (双晶)、ジルコン、雲母類、[ガラス質]、放散虫化石 (1個体)、珪藻化石 (沼澤湿地付着生指標種群 *Gomphonema gracile*、淡水種 *Eunotia biaerofera*, *Synedra ulna*, *Pinnularia*属、*Eunotia*属、陸域指標種群 *Pinnularia borealis*、不明種多い)、骨針化石、胞子化石、植物珪酸体化石

No18 : 100~800  $\mu\text{m}$ が多い (最大粒径1.5mm)。石英・長石類) 複合石英類 (微細) > 複合石英類、凝灰岩類、ジルコン、[ガラス質]、骨針化石、胞子化石、植物珪酸体化石

No19 : 80~700  $\mu\text{m}$ が多い (最大粒径1.6mm)。石英・長石類) 複合石英類 (微細) > 凝灰岩質) 雲母類、ガラス質、角閃石類、珪藻化石 (海水藻場指標種群 *Cocconeis scutellum*、陸域指標種群 *Hantzschia amphioxys*)、胞子化石、植物珪酸体化石、イネ類珪酸体化石

No20 : 110~1.0mm前後が多い (最大粒径2.5mm)。石英・長石類) 複合石英類 (微細) > 複合石英類、砂岩質、ガラス質、角閃石類、ジルコン、斜方輝石、珪藻化石 (不明種)、骨針化石多い、胞子化石、植物珪酸体化石

No21 : 800  $\mu\text{m}$ ~1.3mmが多い (最大粒径2.5mm)。複合石英類) 斜長石 (双晶) > 雲母類、カリ長石 (バーベット)、複合鉱物類 (角閃石類)、石英・長石類、角閃石類、複合石英類 (微細)、砂岩質、ジルコン、[ガラス質]、凝灰岩質)、珪藻化石 (中~下流性河川指標種群 *Diatoma hemale* var. *quadratum*、淡水種 *Eunotia biaerofera*, *Eunotia*属)、骨針化石、胞子化石、植物珪酸体化石

No22 : 150  $\mu\text{m}$ ~1.3mmが多い (最大粒径2.1mm)。複合石英類) 石英・長石類、斜長石 (双晶)、雲母類、複合石英類 (微細)、角閃石類、複合鉱物類 (含角閃石類)、複合鉱物類 (含ザクロ石類)、ジルコン、[ガラス質]、放散虫化石 (2個体)、珪藻化石 (海水種 *Coccinodiscus*属/*Thalassiosira*属)、骨針化石、胞子化石、植物珪酸体化石

## 5. 化石による材料粘土の分類

検討した胎土中には、その薄片全面の観察から、放散虫化石や珪藻化石あるいは骨針化石などが検出された。これら微化石類の大きさは、珪藻化石が10~数100  $\mu\text{m}$  (実際観察される珪藻化石は大きいもので150  $\mu\text{m}$ 程度)、放散虫化石が数百  $\mu\text{m}$ 、骨針化石が10~100  $\mu\text{m}$ 前後である (植物珪酸体化石が10~50  $\mu\text{m}$ 前後)。一方、矽利性堆積物の粒度は、粘土が約3.9  $\mu\text{m}$ 以下、シルトが約3.9~62.5  $\mu\text{m}$ 、砂が62.5  $\mu\text{m}$ ~2mmである (地学団体研究会・地学事典編集委員会編、1981)。このことから、植物珪酸体化石を除いた微化石類は胎土の材料となる粘土中に含まれるものと考えられ、その粘土の起源を知るのに有効な指標になるとされる。なお、植物珪酸体化石は、堆積物中に含まれていること、製作場では灰質が多く混入する可能性が高いなど、他の微化石類のように粘土の起源を指標する可能性は低いと思われる。

ここで検討した胎土は、微化石類により、1) 外洋成粘土を利用した胎土、2) 海成粘土を利用した胎土、3) 淡水成粘土を利用した胎土、4) 本成粘土を利用した胎土、5) その他粘土を利用した胎土、であることが推定された (第4表)。

### 1) 外洋成粘土を利用した胎土 (5胎土)

これら胎土中には、放散虫化石が特徴的に含まれ、その他海水種珪藻化石や骨針化石なども含まれていた。なお、これらの胎土中には、淡水種珪藻化石は含まれない。県内において、こうした放散虫

化石を含み得る外洋成堆積物は、美濃加茂市や可見市あるいは瑞浪市にかけて、新第三紀中新世前中期の瑞浪層群が分布するが、その主部においては砂岩・泥岩・礫岩および凝灰岩から構成されている（地質調査所、1990；第127図の中新統）。

#### 2) 海成粘土を利用した胎土（2胎土）

これらの胎土中には、海水種の*Coscinodiscus*属/*Thalassiosira*属が含まれていた。ただし、いずれも海水種珪藻化石の出現頻度は低い（第4表において（海成）とした）。

#### 3) 淡水成粘土を利用した胎土（10胎土）

この胎土中には、淡水種珪藻化石や骨針化石などが含まれていた。このうちNo.5・No.9・No.11・No.16・No.17・No.21の胎土中には、沼澤湿地付着生指標種群の*Stauroneis phoenicenteron*や*Pinnularia nodosa*などが特徴的に含まれていた。これらの粘土は、沼澤湿地に堆積した比較的有機質な粘土質堆積物を利用したものと推定される。

なお、No.7・No.11・No.12・No.16の胎土中には、放散虫化石が含まれていた。

#### 4) 水成粘土を利用した胎土（3胎土）

これらの胎土中には、水成を指標する骨針化石が含まれていた。

#### 5) その他粘土を利用した胎土（2胎土）

これら胎土中には、前述のような水成環境を指標するような微化石類が含まれていないため、粘土についての具体的な成因については言及できない。

### 6. 砂粒組成による分類

ここで設定した複合鉱物類は、構成する鉱物種や構造的特徴から設定した分類群であるが、地域を特徴づける源岩とは直接対比できない。このため、各胎土中の鉱物、岩石粒子の岩石学的特徴は、地質学的状況に一義的に対応しない。

ここでは、比較的大型の砂粒について起源岩石の推定を行った（第4表）。岩石の推定は、複合石英類（微細）や砂岩質あるいは泥岩質が堆積岩類、複合石英類（大型）や複合鉱物類（含輝石類・含角閃石類・含雲母類）が深成岩類、凝灰岩質が凝灰岩類、斑晶質や完晶質が火山岩類、ガラスがテフラ（火山噴出物）である。さらに、第3表に示す推定岩石の第1出現群および第2出現群の組み合わせにより分類を行った。

#### a. 製塙土器の砂粒組成

製塙土器の砂粒組成は、堆積岩類を主体として深成岩類や凝灰岩類などから構成されるC b群（9胎土）、堆積岩類を主体として凝灰岩類やテフラからなるC e群（6胎土）、深成岩類を主体とした堆積岩類やテフラなどからなるB c群（2胎土）、凝灰岩類を主体として堆積岩類やテフラからなるE c群（2胎土）、堆積岩類を主体としてテフラなどからなるC f群（1胎土）である。このうち、凝灰岩類を含む胎土は、20胎土中16胎土に及ぶ。

美濃加茂市や隣接する可見市あるいは瑞浪市にかけての地域では、新第三紀中新世前中期の瑞浪層群が分布するが、その下部層の蜂屋累層は、流紋岩・安山岩・玄武岩の火成岩および溶岩が分布し、また、その主部においては砂岩・泥岩・礫岩および凝灰岩から構成されている（地質調査所、1990；第127図の中新統）。こうした地質学的環境から、少なくともここで分類された堆積岩類や凝灰岩類を

主体としたC e群やE c群の砂粒組成は、こうした地域の砂粒組成であることが予想される。

#### b. S字状口縁台付甕の砂粒組成

S字状口縁台付甕胎土中の砂粒組成は、深成岩類を主体とした堆積岩類やテフラなどからなるB c群から構成される。なお、No22の胎土中には、ザクロ石類が含まれている。

### 7. 考察一1

ここでは、本遺跡あるいは城之内遺跡や牧野小山遺跡から出土した製塙土器の脚部や杯部胎土、S字状口縁台付甕胎土について、これら胎土の粘土および砂粒組成について調べた。以下では、製塙土器とS字状口縁台付甕に分けて、材料についての考察を行う。

#### a. 製塙土器の胎土材料

材料粘土では、胎土中粘土部分に含まれる微化石類により、外洋成粘土を利用した胎土（4胎土）、海成粘土を利用した胎土（2胎土）、淡水成粘土を利用した胎土（9胎土）、水成粘土を利用した胎土（3胎土）、その他粘土を利用した胎土（2胎土）、であった。

一方、砂粒組成では、堆積岩類を主体として深成岩類や凝灰岩類などから構成されるC b群（9胎土）、堆積岩類を主体として凝灰岩類やテフラからなるC e群（6胎土）、深成岩類を主体とした堆積岩類やテフラなどからなるB c群（2胎土）、凝灰岩類を主体として堆積岩類やテフラからなるE c群（2胎土）、堆積岩類を主体としてテフラなどからなるC f群（1胎土）である。このうち、凝灰岩類を含む胎土は、20胎土中16胎土に及ぶ。

第5表に、胎土材料の粘土と砂粒組み合わせの関係についてまとめた。これを見ると、外洋成粘土や放散虫化石を含む淡水成粘土を用いた胎土は、C f群以外の砂粒組成において見られ、特に凝灰岩類を含む砂粒組成と相関が高いことが理解される。

針田遺跡の製塙土器では、外洋成粘土や沼沢湿地型の珪藻化石からなる淡水成粘土を用いた胎土が多く、微化石類として骨針化石を含む胎土が多い。骨針化石は、海綿動物の骨格を形成する針状などの珪酸質であるが、淡水棲の海綿動物が存在することから、淡水成堆積物中に見られることもあるが、海成堆積物中では特に多い。美濃加茂市や隣接する可児市あるいは瑞浪市にかけての地域では、新第三紀中新世前一中期の瑞浪層群が分布するが、主部においては海成層である。また、この瑞浪層群では、凝灰岩層が含まれるなど、製塙土器胎土中に見られた粘土あるいは砂粒組成の特徴は、周辺地域の特徴と調和的である。なお、脚部と杯部では、No3のテフラを多く含む砂粒組成からなる胎土があること、No1やNo2のような凝灰岩類が特徴的に多い砂粒組成などがあるものの、概ね堆積岩類や深成岩類あるいは凝灰岩類から構成されるなど共通した砂粒組成を示している。

なお、岐阜市城之内遺跡や美濃加茂市牧野小山遺跡から出土した製塙土器では、類似した特徴を示す胎土も見られる。

その他の特徴として、針田遺跡出土製塙土器杯部のNo9およびNo10では、イネの穎表面に形成されるくちばし状珪酸体の化石が含まれている。また、No11の胎土中には、沼沢湿地型の淡水成粘土を反映して、ヨシ属の葉に形成される珪酸体の化石が多く含まれている。

#### b. S字状口縁台付甕の胎土材料

B類に分類されるS字状口縁台付甕は、外洋成粘土と淡水成粘土を利用しているが、砂粒組成はい

すれも深成岩類を主体として堆積岩類からなるB群に分類される。なお、No22の胎土中には、ザクロ石類が特徴的に含まれている。

No22の胎土中には、放散虫化石が含まれているが、東海地域において放散虫化石を含む地層は、先の美濃加茂市などの周辺に分布する第三紀中新統瑞浪層群のほか、三重県伊勢周辺に分布する新第三紀中新統一志層群にも含まれる可能性がある。矢作はか（1997）は、これらS字状口縁台付壺の重鉱物組成を調べ、角閃石やザクロ石を特徴的に含むことから、三重県に流域をもつ雲出川下流地域で作られた土器である可能性を示唆している。

No22の外洋成粘土を用いた胎土は、角閃石類のほかザクロ石類を含んでいることから、一志層群が分布する地域の材料を利用している可能性が高い。なお、こうしたS字状口縁台付壺胎土の特徴は、大垣市今宿遺跡から出土した多くのS字状口縁台付壺A類（壺C1）においても見られる（藤根・古橋、1998；藤根、1998）。

なお、No21の胎土は、砂粒組成が類似するものの、放散虫化石や海水種珪藻化石あるいはザクロ石類が含まれないことから、No22と同じであるとは断言できない。

## 8. 考察—2

ここでは、製塙土器脚部および杯部胎土を中心に、粘土および砂粒組成について検討した。その結果、放散虫化石を含む外洋成粘土あるいは淡水成粘土を用い、堆積岩類や深成岩類あるいは凝灰岩類を特徴的に含む砂粒組成からなるなど、当遺跡周辺の地質学的特徴に類似した特徴と推定され、周辺域の材料を利用して製作された土器の考えられる。

土器の粘土材料として利用できる粘土質堆積物は、放散虫化石を含むような中新統の固い地層粘土ではなく、こうした地層分布域に隣接する段丘成粘土など、極限られた地層と思われる。ここで示すような特徴をもつ粘土層や砂粒組成について地質調査や分析を行う必要がある。これまで、土器の胎土分析は、砂粒に注目して製作地の推定を目的として盛んに行なわれてきたが、製作地のみならず土器作りの実体を知るために、胎土の砂粒組成のみならず粘土の特徴についても検討することが重要である。

## 引用文献

- 安藤一男（1990）淡水産珪藻による環境指標種群の設定と古環境復元への応用。東北地理。42,73-88。
- 地学団体研究会・地学事典編集委員会編（1981）『増補改訂 地学事典』。平凡社。1612p.
- 地質調査所（1990）20万分の1地質図[岐阜田]。地質調査所
- 菱田 量・車崎正彦・松本 実・藤根 久（1993）岩石学的方法に基づく胎土分析について—弥生時代後期の土器を例にして—。日本文化財科学会第10回大会研究発表要旨集。34-35。
- 藤根 久（1998）東海地域（伊勢一三河湾周辺）の弥生および古墳土器の材料。第6回東海考古学フォーラム岐阜大会、土器・墓が語る。108-117。
- 藤根 久・古橋美智子（1998）第4節 古墳時代壺・鉢の胎土材料。岐阜県文化財保護センター調査報告書第37集「今宿遺跡（第2分冊）」。岐阜県土木開発公社・財团法人岐阜県文化財保護センター。p38-70。
- 小杉正人（1988）珪藻の環境指標種群の設定と古環境復元への応用。第四紀研究。27,1-20。
- 車崎正彦・松本 実・藤根 久・菱田 量・古橋美智子（1996）(39)土器胎土の材料—粘土の起源を中心にして。日本考古学協会第62回大会研究発表要旨。153-156。
- 矢作健二・服部俊之・赤坂次郎（1997）東海地域におけるS字状口縁台付壺の産地について—胎土分析による予察一。日本文化財科学会第14回大会研究発表要旨集。p.126-127。

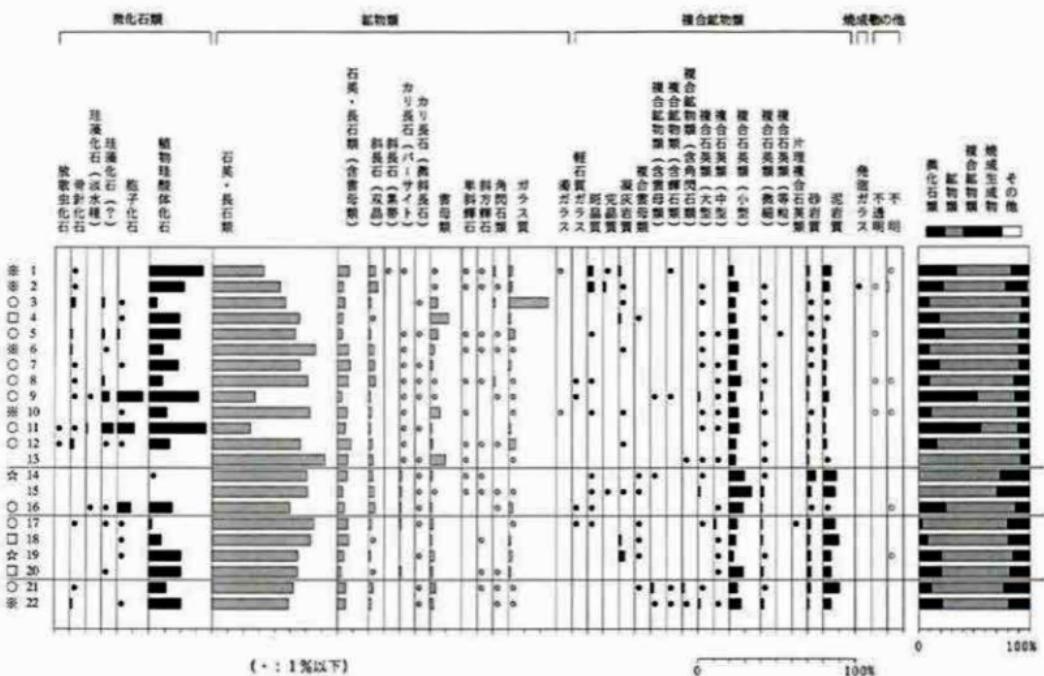
第1表 製塙土器・比較製塙土器・S字状口縁台付壺の特徴

分析No	遺跡	出土遺構	器種(部位)	遺物番号	備考	色相 明度/彩度	色	中黒層 の有無
1	針田遺跡	SB3	製塙土器脚部	15	7世紀末～8世紀	5YR 4/6	赤褐色	有
2	針田遺跡	SB39	製塙土器脚部	299	7世紀末～8世紀	2,5YR 5/6	明赤褐色	無
3	針田遺跡	A区KSD1	製塙土器脚部	407	7世紀末～8世紀	2,5Y 8/4	淡黄色	無
4	針田遺跡	A区KSD4	製塙土器脚部	448	7世紀末～8世紀	2,5YR 5/6	明赤褐色	無
5	針田遺跡	A区包含層	製塙土器脚部	830	7世紀末～8世紀	5YR 6/6	橙色	有
6	針田遺跡	SB14	製塙土器坏部	81	7世紀末～8世紀	2,5Y 6/3	にぶい黄色	有
7	針田遺跡	SB18	製塙土器坏部	111	7世紀末～8世紀	5YR 6/6	橙色	無
8	針田遺跡	SB23	製塙土器坏部	145	7世紀末～8世紀	10YR 6/6	明黄褐色	有
9	針田遺跡	SB29	製塙土器坏部	201	7世紀末～8世紀	5YR 4/3	にぶい赤褐色	有
10	針田遺跡	SB38	製塙土器坏部	286	7世紀末～8世紀	10YR 4/3	にぶい黄褐色	無
11	針田遺跡	SB39	製塙土器坏部	302	7世紀末～8世紀	2,5YR 8/2～3	淡黄から灰白色	有
12	針田遺跡	SB48	製塙土器坏部	378	7世紀末～8世紀	10YR 6/4	にぶい黄褐色	有
13	針田遺跡	A区包含層	製塙土器蓋	633	7世紀末～8世紀	10YR 2/2	黑褐色	無
14	城之内遺跡	包含層	製塙土器脚部	『城之内遺跡』(1991)-242	7世紀末～8世紀	2,5YR 7/6	橙色	有
15	城之内遺跡	包含層	製塙土器脚部	『城之内遺跡』(1991)-243	7世紀末～8世紀	2,5YR 7/4	淡赤橙色	無
16	城之内遺跡	包含層	製塙土器脚部	『城之内遺跡』(1991)-244	7世紀末～8世紀	2,5YR 7/3	淡赤橙色	有
17	牧野小山遺跡	SB107	製塙土器脚部	440(MK.SB107. I. 2970)	7世紀末～8世紀	7,5YR 7/6	橙色	無
18	牧野小山遺跡	SB12	製塙土器坏部	755(MK.SB12.カマツ'.755A)	7世紀末～8世紀	5YR 5/8	明赤褐色	無
19	牧野小山遺跡	SB12	製塙土器坏部	223(MK.SB12)	7世紀末～8世紀	10YR 3/2	黑褐色	有
20	牧野小山遺跡	SB12	製塙土器坏部	225(MK.SB12.568)	7世紀末～8世紀	7,5YR 6/8	橙色	有
21	針田遺跡	SB42	S字状口縁台付壺	333	B類	10YR 2/3	黑褐色	無
22	針田遺跡	SB42	S字状口縁台付壺	339	B類	10YR 7/3	にぶい黄橙色	有

第2表 製塙土器・S字口縁台付窓土中の計数粒子

分類群	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22
微粒化石類	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
放射虫化石	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
骨針化石	2	3	6	-	5	5	2	3	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	1	5	
珪藻化石 (淡水種)	-	-	-	-	8	1	-	7	28	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
珪藻化石 (?)	-	-	4	-	7	-	-	-	-	43	2	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	
胞子化石	-	-	1	1	1	1	1	1	98	1	62	4	-	-	-	-	-	-	-	-	1	
植物珪藻体化石	131	79	13	86	95	40	83	36	185	47	209	54	-	1	-	42	1	1	1	95	33	80
鉱物類	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
石英類	126	156	126	253	262	313	253	274	154	268	141	235	315	195	193	238	235	246	270	258	162	195
石英 (含雲母類)	28	13	12	16	3	34	37	31	16	25	29	37	29	19	10	21	24	29	21	12	17	21
長石類	17	21	4	3	7	16	17	20	6	6	7	9	12	5	11	19	7	1	5	2	9	7
斜長石 (黑帶)	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
カリ長石 (パーサイト)	-	-	-	-	1	1	2	1	2	1	1	2	1	4	4	5	4	-	-	5	-	-
カリ長石 (微斜長石)	-	-	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
雲母類	1	1	12	54	24	12	5	3	2	27	1	6	43	4	1	1	1	1	13	7	11	1
鐵斜長石	2	1	-	-	-	2	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	3	1	1
鈣長石	4	1	3	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
角閃石質	8	7	67	6	19	18	7	7	5	10	1	1	11	2	4	10	1	1	1	1	1	1
ガラス質	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
複合粘物類	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
軽石質ガラス	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3	3	-	-	-	-	-
琥珀質	14	15	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	15	1	-	-	-	-	-
完晶質	5	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3	3	-	-	-	-	-
深成灰岩質	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
複合雲母類	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
複合雲母類 (含雲母類)	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
複合雲母類 (含矽石類)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
複合石英類 (含角閃石類)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
複合石英類 (大型)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
複合石英類 (中型)	11	22	11	20	27	29	1	2	34	4	4	4	4	4	4	4	2	2	2	1	1	30
複合石英類 (小型)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	18	30	46	42	15	13	42
複合石英類 (微細)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	7	4	4	5	1	7	3
複合石英類 (等粒)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	7	4	4	5	1	7	3
片理複合石英類	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
砂岩質	5	6	2	2	4	12	10	7	23	7	9	10	4	26	24	4	27	39	10	11	6	-
泥岩質	21	15	2	4	8	12	10	9	23	7	9	10	4	26	24	4	27	39	25	24	32	20
燒成生成物	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
発泡ガラス	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
その他	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
不透明	-	1	-	-	1	-	-	1	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
不明	2	5	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-	1	-	-	4	-	-	-
総ポイント数	386	361	269	455	495	473	452	448	601	430	579	422	439	306	315	477	361	391	484	474	312	400

第126図 製塙土器・S字状口縁台付壺胎土中の粒子相成図



【粘土の区分 (試験番号左)】

※: 外洋成粘土 (放散虫化石などの出現)

●: 淡水成粘土 (淡水成珪藻化石などの出現)

無印: 水成堆積を標榜する微化石を含まない

☆: 海水成粘土 (海水種珪藻化石などの出現)

□: 水成粘土 (不明種珪藻化石・骨針化石の出現)

第4表 製塙土器・S字口縁台付窯 胎土および砂粒の特徴

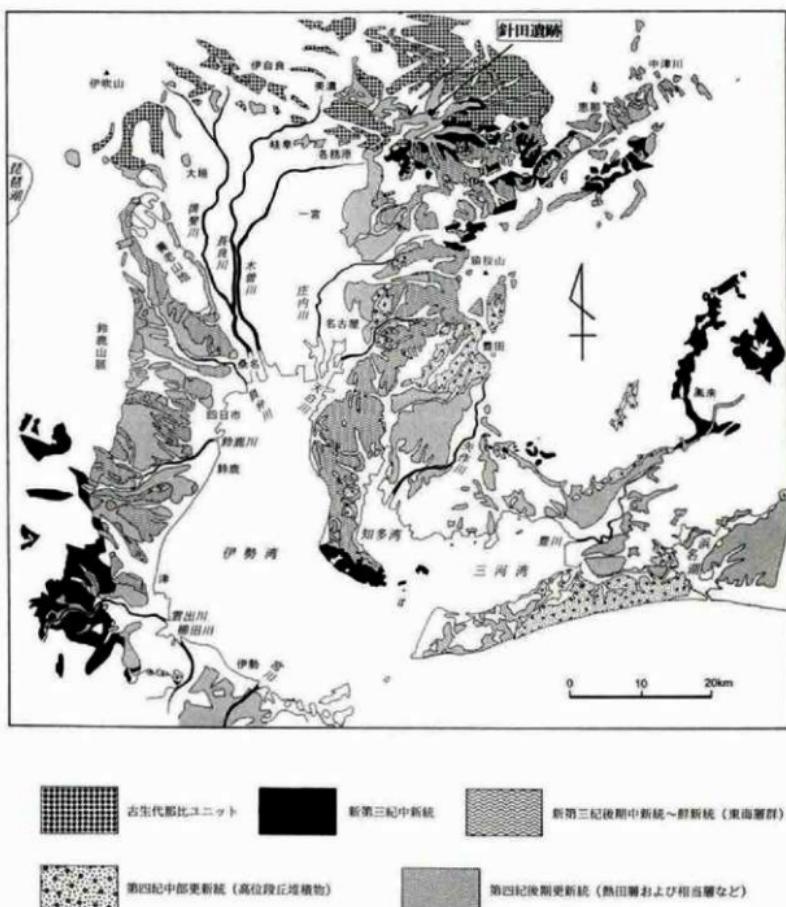
試料名	遺跡	器種(部位)	粘土の特徴						砂粒の特徴						その他の特徴		
			分類	種類	淡水風化石	海水風化石	殻巻虫化石	海水礁貝化石	不明礁貝化石	骨針化石	胎 土	分類	砂粒組成(無序系、△は複数の場合、□は無)	テクロ石類	ジルコン	角閃石類	
1	針山遺跡	製塙土器脚部	■	洪積成							出現	凝灰岩質	Ec	凝灰岩質	地塊岩質	テフラ	+
2	針山遺跡	製塙土器脚部	■	外洋成							出現		Ec	凝灰岩質	地塊岩質	テフラ	+
3	針山遺跡	製塙土器脚部	○	淡水成	出現		多い	出現	多い			Cf	地塊岩質	テフラ	テフラ	+	+
4	針山遺跡	製塙土器脚部	□	水 成							出現	Ce	地塊岩質	凝灰岩質	〔深成岩質〕	テフラ	+
5	針山遺跡	製塙土器脚部	○	淡水成	泥灰質地帯		出現	多い	多い			Cb	地塊岩質	凝灰岩質	テフラ	テフラ	+
6	針山遺跡	製塙土器脚部	■	外洋成			出現		多い			Cb	地塊岩質	〔深成岩質〕	テフラ	テフラ	+
7	針山遺跡	製塙土器脚部	○	淡水成	出現	出現	出現		多産			Cb	地塊岩質	凝灰岩質	〔深成岩質〕	テフラ	+
8	針山遺跡	製塙土器脚部	○	淡水成	出現			出現	多産			Cb	地塊岩質	凝灰岩質	〔深成岩質〕	テフラ	+
9	針山遺跡	製塙土器脚部	○	淡水成	泥灰質地帯				多産			Bc	地塊岩質	〔深成岩質〕	テフラ	テフラ	+
10	針山遺跡	製塙土器脚部	■	外洋成			出現	出現	出現			Cb	地塊岩質	〔深成岩質〕	凝灰岩質	テフラ	+
11	針山遺跡	製塙土器脚部	○	淡水成	泥灰質地帯		出現	出現	多産			Bc	地塊岩質	〔深成岩質〕	テフラ	テフラ	+
12	針山遺跡	製塙土器脚部	○	淡水成	出現	出現	出現		多産			Ce	地塊岩質	凝灰岩質	〔深成岩質〕	テフラ	+
13	針山遺跡	製塙土器脚部	■	外洋成								Cb	地塊岩質	〔深成岩質〕	テフラ	テフラ	+
14	福之内塙跡	製塙土器脚部	★ (海成)									Cb	地塊岩質	凝灰岩質	〔深成岩質〕	テフラ	+
15	福之内塙跡	製塙土器脚部	その他									Cb	地塊岩質	凝灰岩質	〔深成岩質〕	テフラ	+
16	牧野小内塙跡	製塙土器脚部	○	淡水成	泥灰質地帯				多産	出現		Cb	地塊岩質	〔深成岩質〕	〔深成岩質〕	テフラ	+
17	牧野小内塙跡	製塙土器脚部	○	淡水成	泥灰質地帯				多産	出現		Cb	地塊岩質	〔深成岩質〕	〔深成岩質〕	テフラ	+
18	牧野小内塙跡	製塙土器脚部	○	水 成						出現		Cb	地塊岩質	〔深成岩質〕	〔深成岩質〕	テフラ	+
19	牧野小内塙跡	製塙土器脚部	★ (海成)									Cb	地塊岩質	凝灰岩質	〔深成岩質〕	テフラ	+
20	牧野小内塙跡	製塙土器脚部	□	水 成						出現		Cb	地塊岩質	〔深成岩質〕	〔深成岩質〕	テフラ	+
21	針山遺跡	S字口縁台付窯	○	淡水成						出現		Bc	地塊岩質	〔深成岩質〕	〔深成岩質〕	テフラ	多産
22	針山遺跡	S字口縁台付窯	■	外洋成						出現		Bc	地塊岩質	〔深成岩質〕	〔深成岩質〕	テフラ	多産

第3表 土器胎土中の砂粒分類

第2 出現 群	片岩類	第1出現群					
		A	B	C	D	E	F
		片岩類	深成岩類	堆積岩類	火山岩類	凝灰岩類	テフラ
a	片岩類	—	B a	C a	D a	E a	F a
	深成岩類	A b	—	C b	D b	E b	F b
	堆積岩類	A c	B c	—	D c	E c	F c
	火山岩類	A d	B d	C d	—	E d	F d
	凝灰岩類	A e	B e	C e	D e	—	F e
	テフラ	A f	B f	C f	D f	E f	—

第5表 胎土材料の粘土と岩石組合せの関係

粘土 の種類	砂粒組み合わせ				
	Cb群	Ce群	Bc群	Ec群	Cf群
	外洋成				合 計
(海成)					5
淡水成 (泥灰質地帯)	1	1	20		6
淡水成 (その他)	2	1			4
水 成	2	1			3
その他	2				2
合 計	9	6	4	2	22
放散虫化石を含む胎土	3	2	2	2	9



第127図 伊勢一三河湾周辺の地層分布図

## 第2節 放射性炭素年代測定

山形 秀樹（パレオ・ラボ）

### 1. 放射性炭素年代測定について

東坪之内遺跡から出土した木材試料1点の放射性炭素年代を気体計数法にて測定した。得られた結果は、第6表に記載した。

試料は、アルカリ・酸処理を施して不純物を除去し、炭化処理をした後、リチウムと混合して反応管に入れ、真空ポンプで引きながら800°Cまで加熱して炭化リチウム(カーバイド)を生成後、加水分解によりアセチレンを生成した。

測定は、約一ヶ月放置した後、精製したアセチレンを比例計数管(400cc)を用いて $\beta$ 線を計数して<sup>14</sup>C濃度を算出し、これを用いて<sup>14</sup>C年代値(yrBP: AD1,950年から何年前かを示した値)を算出した。

なお、年代値の算出には<sup>14</sup>Cの半減期としてLibbyの半減期5,568年を使用して年代値を算出した。また、付記した年代誤差は、計数値の標準偏差 $\sigma$ に基づいて算出し、標準偏差(One sigma)に相当する年代である。

### 2. 同位体分別の補正について

第6表の $\delta^{14}\text{C}_{\text{true}}$ 値は標準値からのずれを千分率で示し、試料炭素の<sup>13</sup>C/<sup>12</sup>C比(<sup>13</sup>C/<sup>12</sup>C)<sub>sample</sub>)を質量分析計で測定して求める。PDB標準試料の<sup>13</sup>C/<sup>12</sup>C比(<sup>13</sup>C/<sup>12</sup>C)<sub>std</sub> = 0.0112372を標準値として、 $\delta^{14}\text{C}_{\text{true}} = [(\text{C}/\text{C})_{\text{sample}} / (\text{C}/\text{C})_{\text{std}}] - 1 \times 1000$ の計算式によって $\delta^{14}\text{C}_{\text{true}}$ 値は算出される。試料の $\delta^{14}\text{C}_{\text{true}}$ 値を-25.0‰に規格化することにより、測定された試料の $\delta^{14}\text{C}_{\text{true}}$ 値を用いて<sup>14</sup>C濃度を補正し、これを用いて<sup>14</sup>C年代値を算出する。同位体測定は行われていないので、試料の $\delta^{14}\text{C}_{\text{true}}$ 値は-25.0‰と同等である。したがって、第6表に示した<sup>14</sup>C年代値は同位体分別効果による測定誤差を補正していない年代値である。

### 3. 历年代較正について

歴年代較正は、大気中の<sup>14</sup>C濃度が一定で半減期が5,568年として算出された<sup>14</sup>C年代値(yrBP)に対し、過去の宇宙線強度や地球磁場の変動による大気中の<sup>14</sup>C濃度の変動、および半減期の違い(<sup>14</sup>Cの半減期5,730±40年)を較正し、より正確に真の年代を求めるために<sup>14</sup>C年代を歴年代に変換することである。具体的には、年代既知の樹木年輪の<sup>14</sup>C年代の詳細な測定値を用い、さらに珊瑚のU-Th年代と<sup>14</sup>C年代の比較、および海成堆積物中の縞状の堆積構造を用いて<sup>14</sup>C年代と歴年代の関係を調べたデータにより、較正曲線を作成し、これを用いて較正歴年代値を算出する。較正歴年代値の算出にRadiocarbon Calibration Program<sup>®</sup> CALIB rev. 4.3 [Reference for datasets used: Stuiver, M., Reimer, P.J., Bard, E., Beck, J.W., Burr, G.S., Hughen, K.A., Kromer, B., McCormac, F.G., v.d. Plicht, J., and Spurk, M. (INTCAL98 : Stuiver et al., 1998a). Radiocarbon 40 : 1041-1083]を使用した。なお、交点年代値は<sup>14</sup>C年代値に対応する較正曲線上の歴年代値であり、真の年代である可能性が最も高いことを示す。 $1\sigma$ 年代幅は<sup>14</sup>C年代誤差( $1\sigma$ )に相当する較正曲線上の歴年代範囲であり、真の年代が、表1に示されたすべての $1\sigma$ 年代幅のいずれかに入る確率が68%であることを示す。Probabilityは、68%のうちで、さらに特定の $1\sigma$ 年代幅に入る確率を

示す。校正曲線は<sup>14</sup>C濃度の変動のためデコボコしており、そのため<sup>14</sup>C年代値に対応する曆年代値、または<sup>14</sup>C年代誤差に相当する曆年代範囲が複数存在する場合があるが、交点年代値はいずれも等しく真の年代である可能性があり、1σ 年代幅はいずれも68%の確率で、さらにProbabilityに示された確率で真の年代が入る可能性がある。

第5表 放射性炭素年代測定結果

測定番号 (測定方法)	試料データ	$\delta^{14}\text{C}_{\text{PPM}}$ (‰)	<sup>14</sup> C年代値 (yrBP $\pm 1\sigma$ )	校正曆年代値	
				交点年代値	1 σ 年代幅 (Probability)
PLD-483 ( $\beta$ 線)	木材	—	1720 $\pm$ 80	cal AD 265 cal AD 275 cal AD 340	cal AD 235 – 420 (100%)

calは校正した曆年代を意味し、実際の曆年代との混同を防ぐためにつけられている。

#### 引用文献

- 中村俊夫 (2000) 放射性炭素年代測定法の基礎：日本先史時代の<sup>14</sup>C年代, p.3-20.  
 Stuiver, M. and Reimer, P. J. (1993) Extended <sup>14</sup>C Database and Revised CALIB3.0 <sup>14</sup>C Age Calibration Program, Radiocarbon, 35, p.215-230.

## 第8章 考察・まとめ

今回の針田遺跡・東坪之内遺跡・田中浦遺跡の調査では、1,200基を超える遺構と16,000点近い遺物を確認することができた。残念ながら東坪之内遺跡・田中浦遺跡では当時の人々の生活を復元し得る遺構や遺物に恵まれなかったが、針田遺跡からは古墳時代前期および古代の住居跡50軒を確認し、該期の下木田地区の拠点となるような集落の一端を明らかにしたと言える。そこで本章では針田遺跡を中心に遺構と遺物の分析を行い、本遺跡の性格を考えてみたい。

### 1. 住居跡の変遷

今回の調査で確認できた住居跡の分布については第5・6図の遺構分布図および第7図の堅穴住居分布図に示した通りであり、その変遷を模式化したのが第128図-1の模式図である。住居跡の時期区分については、単純に1世代を20年と計算して100年を5期に分けて設定した。なお、第4章で触れたように、SB30・41は時期判定が困難なため、この模式図からは省いている。

まず、本遺跡での住居跡の分布状況を概観すると、第5・6図に見るように、A区を中心に遺構の重なりが著しいのが特徴となる。41軒が何らかの形で切り合った関係を持ち、他の住居跡との切り合いか確認できないのは9軒である。最大で6軒が重なって築かれている。そのため、互いに切り合っている数軒の住居跡の「まとまり」が調査区内に点在し、住居跡が分布する地域と空白の地域が比較的明瞭に分かれる傾向が見られる。「SB38・39・50・51」「SB26・27・28・29・30・31」「SB12・13・14・15・16」「SB32・33・34・35・36」などの「まとまり」がこれにあたるが、7~8のグループに分けることが可能と思われる。いずれも比較的近い時期の住居跡が連続して築かれており、特定の時期の住居跡が特定の場所に偏るという傾向はほとんど見られない。本遺跡と同様に、狭い範囲に数軒の住居跡が重なって発見されている遺跡に岡市の榎ノ木洞遺跡があるが、「新修岡市史考古・文化財編」(岡市教育委員会1994)では、この様な検出状況を「一つの家族が親から子や孫へと一定区域をその家の土地として受けついだものと解釈してよいであろう」と指摘している。この解釈の当否はさておき、本遺跡での出土状況はこの仮説を裏付けるものと思われる。

住居跡の中で最も古い時期に位置づけられるのがSB24・42(3世紀後半)で、その後約300年の空白期間があり、7世紀中頃のSB40・44が築かれた後は、ほぼ連続して住居が営まれ、最も新しい住居跡(SB34等)は9世紀前半に建てられたものと考えられる。したがって、これらの住居跡は3世紀後半と7世紀中頃~9世紀前半の2期に分けることができるが、前者に帰属する住居跡は2軒であり、集落の中心は後者の時期に求めることができる。この間を埋める時期の住居跡の存在については全く不明であるが、質・量ともに極めて貧弱な内容ながらも、今回の調査で該期の遺物が出土しており、調査区からあまり遠くない周辺にあったと考えたいが、推測の域を出るものではない。各時期ごとの軒数を見ると、最も多いのが8世紀前半~中頃の11軒、次いで8世紀前半の7軒で、逆に少ないのは7世紀中頃と8世紀後半の2軒である。調査区外にどれだけの住居跡が存在するかは未知数であるが、およそ10数軒から20軒程度の集落であったのではないかろうか。

発掘でその輪郭がほぼ確認できた住居跡は11軒(22.0%)である。平面形は概ね隅角をやや丸くおさ

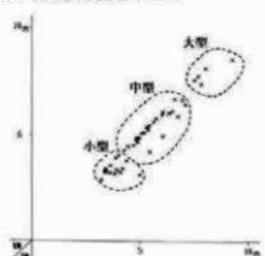
めた方形であるが、長軸を100とした時に短軸が90以上になる、ほぼ正方形に近いものが6軒、その割合が85前後のやや長方形に近いものが4軒、SB48のように長軸と短軸の割合が67となり、長方形を意識して設計されたと考えられるものが1軒である。このような長方形プランをもつ住居跡として他にSB31があるが、全体の中では極めて少数である。時期的には共に8世紀代に属するものの、30軒のうちの2軒であり、「時期による平面形の違い」という程の頻度ではない。11軒の中で最小のものはB区SB45の長軸3.80m・短軸3.14m・面積11.13m<sup>2</sup>、最大のものはA区SB22の長軸7.12m・短軸6.38m・面積41.33m<sup>2</sup>で、SB45の4倍近い面積がある。さらに他の遺跡の出土例などを参考に、正方形に近い方形プランが主流であろうとの前提の下に、柱穴の配置や隅の検出状況などから住居跡プランの復元作業を進め、ある程度その輪郭を復元することが可能な住居跡が34軒ある。それらも含めると最小のものはA区SB26の長軸3.19m・短軸2.85m・面積8.77m<sup>2</sup>、最大のものはA区SB35の長軸9.28m・短軸8.40m・面積63.64m<sup>2</sup>となり、SB26の8倍近い面積をもつこととなる。

住居跡の規模については第128図-2のグラフを基に、大型を一辺7m以上、小型を一辺4m未満、その中間を中型として3種類に分類した。45軒の内訳は大型5軒、中型26軒、小型14軒で、宮之脇道路等の近隣の遺跡と比べてもほぼ同様な様相を示すが、若干大型の住居跡が目立つ傾向にある。その

### 1. 壁穴住居跡変遷模式図

時期	A	B	軒数	
3世紀後半	SB24	SB42	2	
7世紀	中項	SB40 SB44	2	
後半	SB28 SB39	SB4	SB46	4
紀	SB29 SB38 SB13	SB6	SB52	5
8世紀	前半 SB19 SB21 SB27 SB50 SB15 SB8 SB3	SB7・10 SB1・5	SB48 SB45	11
前半	SB23 SB18 SB20	SB2	SB43	5
中項	SB22	SB12・16	SB2	5
後半	SB31 SB35 SB14 SB9・11	SB36・33	SB49	2
9世紀	前半 SB25	SB32 SB17	SB49	5
後半		SB34		

### 2. 壁穴住居跡規模分布グラフ



### 3. 壁穴住居跡規模時期別分類表

時期	大型	中型	小型	小計
3世紀後半	1	1	2	
7世紀	1	1	2	
後半	2	—	2	
紀	5	5	—	
8世紀	2	2	2	7
前半	1	4	5	10
中項	1	4	5	10
後半	1	2	1	5
9世紀	—	—	1	1
前半	2	2	2	6
中項	5	26	14	45

### 4. カマド形施設時期別分類表

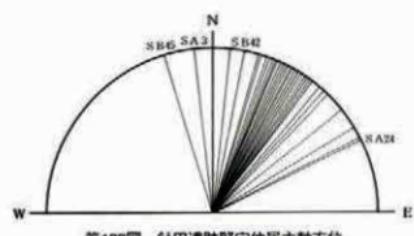
時期	Aタイプ	Bタイプ	Cタイプ	Dタイプ	小計	
3世紀後半	—	—	—	—	—	
7世紀	SB44	—	—	—	1	
後半	SB39・46	—	—	—	2	
紀	SB29	SB62	—	—	2	
8世紀	—	—	—	—	—	
前半	SB10・18・23・45	SB46・51	—	—	6	
中項	—	—	—	—	—	
後半	—	—	SB8	—	1	
9世紀	—	—	—	—	—	
前半	SB17	—	—	SB34	SB22	3
中項	—	—	—	SB34	SB22	2

第128図 針田遺跡壁穴住居統計図表

時期別の軒数を第128図-3の表に示した。中型の住居跡は各時期を通して比較的安定した割合で佔かれているが、特に7世紀代は中型の住居跡が10軒のうち9軒を占め、ほぼ中型の住居跡に限られると言っても過言ではない状況である。8世紀に入ると大型の住居跡が登場し、小型の住居跡の割合も増加して、住居跡規模の多様化が見られる。その後9世紀代には大型の住居跡は見られず、住居跡規模が縮小していく傾向がうかがわれる。この背景にある事情については明確な答えを持ち合わせていないが、8世紀以降に規模が縮小する傾向は、近隣の宮之脇遺跡でもほぼ同様である。

カマドが検出された住居跡は15軒で、全体の30.0%にすぎない。これは宮之脇遺跡での75%という数字と比較するとかなり低い値ではあるが、後世の搅乱や切り合いによるものと考えたい。『川合遺跡群』(吉田正人 1994) 所収のカマドの分類に習い、Aタイプ(壁に造り付けるもの)、Bタイプ(地山を掘り残すもの)、Cタイプ(壁をえぐり込むもの)の3タイプに分類したが、その結果はAタイプ9軒、Cタイプ5軒、SB32に見られる壁からやや離れた所に築かれる分類不能の特殊な例が1軒で、Bタイプのものは確認できなかった。時期別に整理したのが第128図-4の表である。関市重竹遺跡では、7世紀後葉はAタイプが大半で、8世紀前葉以降はCタイプが過半数を占め、8世紀中葉にはB・Cタイプの併用も出現するとされている。本遺跡では、時期毎の明確な特徴を見いだすことはできなかつたが、Aタイプのカマドが出現するのが7世紀中頃(SB44)、Cタイプのカマドが出現するのが7世紀末~8世紀初め頃(SB52)であり、Aタイプの方がやや古い傾向が看取され、大筋では重竹遺跡での年代観と大きく矛盾するものではないと思われる。カマドが作り付けられる場所については、北壁が6基、西壁が8基で、SB29のように南壁に築かれる特殊な例もある。通常、北壁に作られる場合は中央からやや西側に、西壁の場合は中央からやや北側に寄った所に作り付けられるが、SB17やSB45のようにほぼ中央に位置する場合もある。上部構造をかなり削平されたものが大半であり、その構造を十分に復元することは困難であるが、一般的にはいわゆる「粘土カマド」で、燃焼部を浅く掘りくぼめ、袖部や天井部は粘土や砂質土を突き固めて作られる。SB48のように両袖に芯として石を並べたり、焚口上部に蓋石を置くものもあるが、袖の芯となる石や支柱石を確認できた例は少ない。壁溝が確認できたのは3軒で、壁溝の保有率は極めて低い。この背景にあるのは、本遺跡が非常に水捌けの良い場所に立地するという、地理的条件によるものと思われる。

また、第129図に見るよう、各住居跡の主軸方位は、SB45・3を除いて概ね20°~35°程東へ振った方向に一定しているが、3世紀後半に帰属するSB24は東に、SB42は北にやや主軸がはずれている。この背景にあるものは、あるいは時期による違いであるかも知れないが、これを証明するのは困難である。本遺跡はほぼ平坦な段丘上に立地するため、地形の傾斜に左右されることなく、住居跡の主軸方位がほぼ一致するのもこれに起因すると思われるが、あるいは、集落内に何らかの「秩序」のようなものが存在したのかもしれない。また、遺跡の西側を飛騨川が南流しており、住居跡の主軸方位やカマドの位置も、これと無関係ではないと思われる。



第129図 鈴木遺跡壁穴住居主軸方位

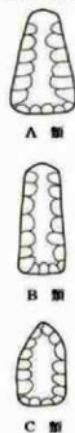
## 2. 打製石斧について

今回の調査では約16,000点の遺物が出土している。その中で石器類の占める割合は約2%にすぎないが、第4章で触れたとおり、製品の体裁を整える石器類の90%以上を打製石斧が占めるという、特殊な組成を示している。そこで打製石斧について以下に検討を加えておきたい。

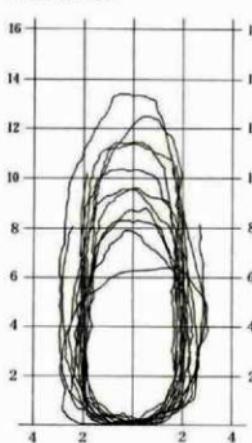
前述のように、石器類の分類、年代観等については、角張淳一、池谷勝典両氏の教示によるが、図示した15点は全て縄文中期に帰属するとの教示を得た。本遺跡からは縄文中期後葉の縄文土器が一定量出土しており、両氏の教示も妥当なものと思われる。しかし、縄文中期の石器組成を考えると、磨石・敲石類および石鎌類が全くと言ってよいほど見られない点に非常な違和感を禁じ得ない。<sup>(注1)</sup>そこで、出土した打製石斧を再検討するため、実測した15点についてその外形図を作り、長さと幅の関係をグラフ化した(第130図-2・3)。その結果、長さと幅の関係が概ね3:1から2:1の範囲に納まる一群と、2:1から1:1の範囲に納まる一群に分かれることが分かる。前者は両側刃を直線的に整形し、いわゆる撥形・短冊形の石斧に類似するに対し、後者には側刃の片方を弧状に整形する傾向が見られる。そこで今回の調査で出土した94点をA類(いわゆる撥形のもの)、B類(いわゆる短冊形のもの)、C類(側刃の片方を弧状に整形するもの)の3種類に分類し、その比率を第130図-4にグラフ化して示した。C類は全体の24.4%を占め、定形化された石器として一定量存在し、本遺跡の中で「道具」としてそれなりの地位を与えることができると思われる。さらに第130図-5を見ると、A類は1.01~1.50cm、B類は0.51~1.50cmに器厚のピークが見られるのに対し、C類は0.51~1.00cmに器厚のピークが見られ、A・B類よりも薄く作られる傾向が看取される。管見の及ぶかぎりでは、A・B類は縄文時代の遺跡に一般的に見られる形状であるがC類は類例に乏しく、A・B類を縄文中期の土器と仮定した場合、その形態的な特徴から、C類がこれらとは異なる使用法を持つ可能性がうかがわれるのである。ただ第130図-4に見るよう、出土の傾向はいずれも際立った違いは見られず、遺構や遺物の共伴関係による明確な時期区分はできなかった。以下に類似すると思われる遺物を挙げ、C類の性格について検討したい。

まず、本遺跡と同じ美濃加茂市に所在する尾崎遺跡において、従来、打製石斧として分類されてきた石器の中に「機能を別とする石器」が存在するということで、「小型直線刃石器」という名称で報告がなされている(佐野康雄他 1993)。その形態的な特徴として、板状節理に沿う剥離を施し、体部・刃部とともに打製で、平面形はいわゆる短冊形の打製石斧に酷似するが、片側に刃部の加工あるいは使用が集中し、その対辺は刃部というよりむしろ背部調整的な調整が加えられ、面を形成する傾向が強いことが指摘されている。その用途としては石鎌の機能を想定され、「石製農具として一つの地位を与えることができると思われる。」と結論づけられている。本遺跡のC類の重要な属性である「側刃の片方を弧状に整形する」という特徴については言及されていないが、第131図-2のように、片刃をく字状に整形する例も散見される。同じく美濃加茂市に所在する野籠遺跡では1,000点を超す打製石斧が報告されている(千藤克彦他 2000)。打製石斧の出土量が膨大である点は本遺跡と共通するが、その組成は本遺跡ほど極端ではない。その中で千藤氏は「粗製剥片石器」として報告されている石器に、使用痕の観察などから収穫具としての性格を付与し、前述の「小型直線刃石器」もこれに含まれると考えられること、さらにこの石器が打製石斧や剥片と区別が困難であることなどを指摘している。形状が本遺跡のC類に類似するもの(第131図-4・6)も見られるが、自然面を残す剥片を

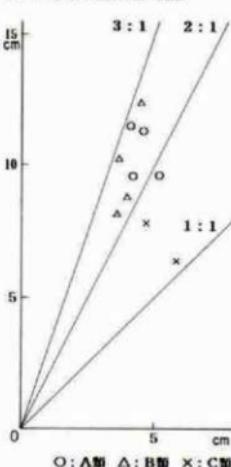
1. 打製石斧分類模式図



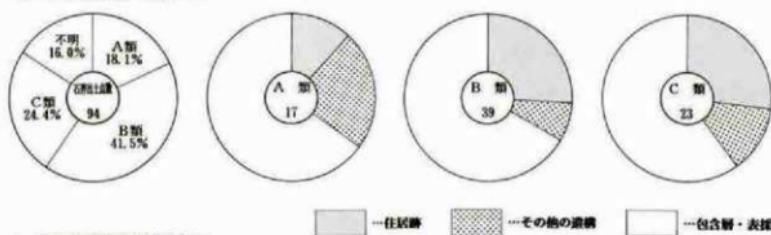
2. 打製石斧外型圖



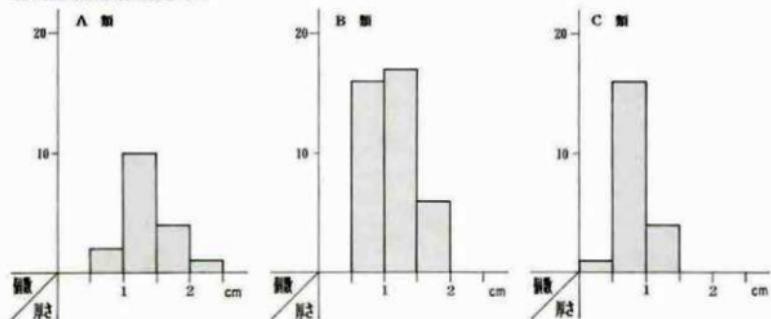
3. 打製石斧の長さと幅の関係



4. 打製石斧形態測定出土状況グラフ



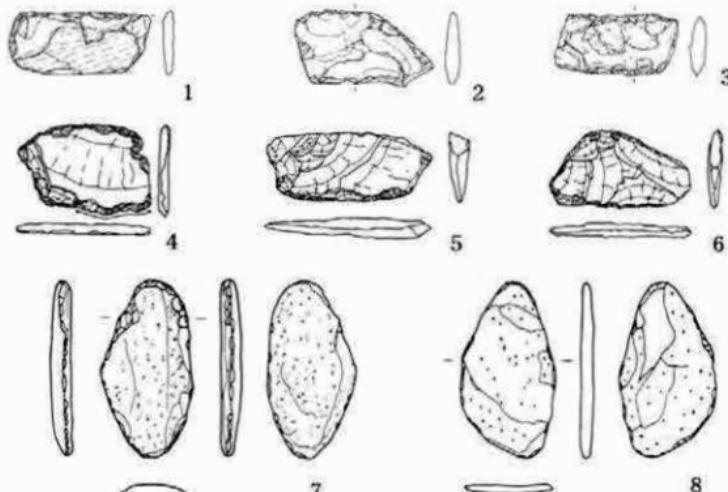
5. 打製石斧形態測厚さ統計グラフ



第130回 打製石斧統計グラフ

使用する点等、必ずしも本遺跡のC類に酷似するとは言えないが、極めて示唆に富む指摘と思われる。さらに他県の出土例ではあるが、茨城県の原田北・西原遺跡出土の穂摘具について報告がされている（江幡良夫 1994）。これは弥生時代の集落の中で、一般的な形態の石包丁が皆無である状況の下、薄くて扁平な石が住居跡の床面や覆土中から出土しており、中には形態や大きさに規格性がうかがわれることから、穂摘具として使用された可能性を指摘したものである。その形態的な特徴として、三角形を基本とする定型的なものと、楕円形・長方形などの不定形なものの2種類に分けられるが、後者の方がやや多いこと。石材は董青石ホルンフェルスがほとんどで、わずかに砂石が使われていることなどが挙げられている。江幡氏は、原田北・西原遺跡出土の石器を穂摘具として解釈する根拠の一つとして、「最大長が10cm前後と小型で三角形状であるため、手を握ったときの手のひらと同形態で、手によく馴染む。手のひらと指三本でしっかりと固定でき、しかも人さし指と親指は自由に動かせ、落下を防ぐための紐を通す孔がなくても十分使用可能である」点を挙げられている。上記の解釈に従えば、本遺跡出土の打製石斧のうちC類はよくこれに当てはまると言える。

以上のような他遺跡の類例も考慮した結果、C類に分類される石器に「弥生時代以降の収穫具」という性格を付与したいという結論に達するわけである。しかし、今回の調査では弥生時代に帰属する土器類に恵まれず、C類が弥生時代の石器であると断定する根拠に乏しく、上記の仮説も説得力に欠けると言わざるを得ない。今回はその可能性の指摘にとどめ、類例の増加を見て再検討したい。



1～3：尾崎遺跡 4～6：野笠遺跡  
7・8：原田北・西原遺跡



第131図 他の遺跡から出土したC類に類似する石器の実測図

### 3. 「特殊器台」について

S B42から出土した器台(342)は、脚部にわずかに上反り気味の円板をのせ、その円板を基底部として上部に外反する口縁部を付したもので、いわゆる東海系器台とは異なる特異な形状を示している。この様な「特殊器台」については、熊野正也氏(1974、77、80)、鈴木直人氏(1994)、利根川章彦氏(1999)等の先行研究があり、集成・分類がなされている。各氏の研究によると、この種の「特殊器台」は古墳時代前期を中心に認められ、古いと考えられるものでも弥生時代後期を過らないこと、分布は北は宮城県から南は福岡県まで全国的に分布するが、量的には関東地方に集中する傾向があること、住居跡からの出土例が多いが、方形周溝墓からも比較的多く出土しており、「祭祀的意義をもつた」土器との解釈もなされていることなどが指摘されている。管見の及ぶ所、県内での類例はほんの数例であるが、古墳時代前期における土器交流を考える上でも貴重な資料と考えられ、以下に若干の検討を加えてみたい。

「特殊器台」の分類については、前述の先学諸氏によって各々の分類概念が示されている。そこで各氏の分類について簡単に触れておくと、おおよそ第132図のようになろう。それぞれの分類に一長一短があることは、浅学の身ならずとも衆目の一一致する所であろうが、本遺跡出土の「特殊器台」を各氏の分類に当てはめれば、熊野分類の「II類-d型」に、鈴木分類の「結合器台形土器-II類-A類-A」に、利根川分類の「C群」に該当するであろうか。なお、以下に本稿を進めるに当たっては、便宜上「利根川分類」を使用することとする。

従来、古墳時代前期の全国的な土器交流の中で、伊勢湾周辺地域を中心とする東海地方は、比較的他地域からの影響を受けない地域との評価が定着している。そこで近年の発掘調査の増加に伴い、外来系の土器資料の出土例も着実に蓄積されており、その動向に注目する研究者も見られるようになった。現在のところ、この種の「特殊器台」の祖形は、いわゆる「北陸系装飾器台」にあるものと理解されているようである。ただ管見の及ぶ限り、利根川分類のA群とD群の一部を除き北陸での類例が極めて少ないとから、B・C群の土器をも「北陸系土器」として捉えるには、なにがしかの違和感を禁じ得ない。しかし、利根川氏は埼玉県内の出土例52点を集め、その編年的位置付けから、

<b>【熊野分類】</b> I類：座・壺・体を器台の上に乗せて結合させた、複数の土器を合わせた器形をなすもの  II類：高坪形で、基底部に脚状突起をもつもの  III類：高坪形で腹部が小さく、基底部に脚状突起をもつたないもの	a類：器台部の口縁が斜状 b類：器台部の口縁が未縫 c類：器台部の口縫がコの字状 d類：器台部の口縫が内側に開いた透孔をもつ e類：器台下部に凹部をもつ f類：器台中央に凸部をもつ  補分：今後の復原のことである	<b>【利根川分類】</b> A群：北陸系装飾器台原土器の特徴を多く備えるもの B群：結合器台形土器として考えられるもの C群：坪澤透孔や鉢澤貫通孔が無く、脚付高坪形のもの D群：A～C群の範疇に含まれないもの
<b>【鈴木分類】</b> 組合器台形土器  I類：器台の形狀を示す  II類：器台の形狀を示さない  有孔高坪形土器  I類：坪澤下位に便をもち、口縁が大きく外反し、坪澤に透孔、底澤に貫通孔をもつもの II類：坪澤が直立気味に立ちて体部をなし、そこから大きく外反し、坪澤に透孔、底澤に貫通孔をもつもの  * 坪澤透孔と底澤貫通孔は、そのどちらかが欠ける場合もある。	A類：脚部が有位で器底部に垂下槽をもつもの B類：下部の形狀が小型器台形のもの  A類：下部の形狀は小型器台形に似るが、器底部が水滴もしくはそれに近いもの B類：脚部は柱状で、器底部は小笠型台状、水滴もしくはそれに近いもの C類：脚部は中央から左右の柱状部で大きくて脚部がつくもの、もしくは「八」字状の脚部に付いた脚部がつくもの	a類：土器上部の形狀が唐口絞彌形 b類：土器上部の形狀が壺・袖形 a類：土器上部の形狀が唐口絞彌形 b類：土器上部の形狀が壺・袖形 b類：土器上部の形狀が壺・袖形 C類：脚部は中央から左右の柱状部で大きくて脚部がつくもの、もしくは「八」字状の脚部に付いた脚部がつくもの

第132図 「特殊器台」に関する分類

「この4群の土器はA→B→Cという変化の方向性をたどっており、D群はA群のやや新しい段階以降の展開期に並行して出現・展開している」とされ、その時期を「出現期は弥生時代終末期に遡る可能性をもつものの、埼玉県出土例は古墳時代の初頭の五重期（古）段階を遡るものではなく、C群の最新段階は和泉期前半までくだるのである」と考察されている。結局、利根川氏が指摘するように、北陸からもたらされたA群土器が、時間的な重複がかなりあるものの、どこかの地でB群、C群へと変化して行ったと理解すべきであろうか。そういう意味で「北陸系装飾器台に祖形をもつ」との評価がなされているのであろう。なお、「どこかの地」が具体的に何処であるかの問い合わせに対しては、現在、明確な解答を持ち合わせていないが、その有力な場所の一つが関東地方であると考えている。その理由は、関東地方にこの種の器台、特にB、C群が多く出土していること、弥生時代後期の山中式期には東海地方から南関東（東京湾沿岸）への土器波及が始まると推定され、さらに北陸から信濃、あるいは越後・会津盆地を経由して北関東に至る波及経路の存在も考えられ、古墳時代初頭における北陸系土器の関東地方への波及経路がほぼ解明されることなどによるが、これを証明するにはまだ相当の手続きを踏まなければならないであろう。また、東海地方でこの変遷がなされた可能性も否定できないが、質・量共に豊富な関東地方の出土状況と比べると、積極的に肯定する材料に乏しい現状であることを付け加えておきたい。

今回の報告にあたり、岐阜県内と不十分ではあるが隣県での出土例を調べてみた。その結果が第7表であり、第133・134図に示した実測図は、文献に挙げた報告書の実測図を再トレスしたものである。作業は「欠山式土器とその前後」（東海埋蔵文化財研究会 1986）、「土器・墓が語る」（東海考古学フォーラム岐阜大会実行委員会 1998）、「シンポジウム『月影式』土器について」（石川考古学研究会 1986）等の該期の土器を扱ったシンポジウムの土器集成を中心、対象となる地域の各市町村史、発掘調査報告書、さらに「庄内式土器研究 I-XII」（庄内式土器研究会 1992~99）等の雑誌に掲載された各地域の報告から「特殊器台」の出土例を探し出すという、いわゆる「力技」に頼ったものである。従って、時間的制約及び当センター並びに個人が所有している資料の量的な限界から、見落としている出土例が相当あると予測され、学兄諸氏のご教示をお願いする次第である。

現在のところ、岐阜県内では本遺跡を含めて5遺跡、9例が確認できた。資料的に限られた現状であるが、県内の出土例を見る限り、北陸系装飾器台の特徴を多く備える資料も含めてほぼ全部の種類が見られるが、北陸系に近いものは1例（岐阜市城之内遺跡）で、いわゆる「結合器台形」や「高環形」のものが目立つこと、本遺跡を含めて出土土地が木曾川中流域に多く分布することが注目される。さらに東海地方全体を見ると、いわゆる尾張低湿地部や名古屋台地に比較的類例が少なく、美濃、伊勢、西三河、遠江といった周辺地域に分布が偏る傾向がうかがわれる。

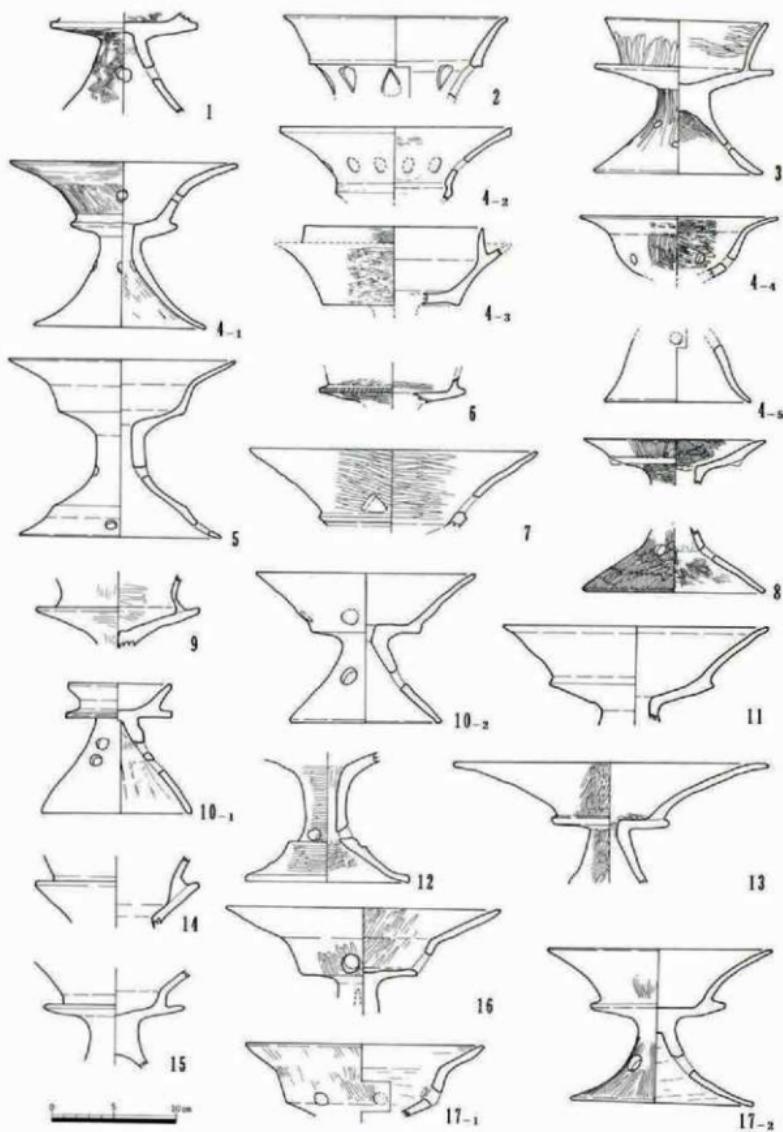
東海地方出土の北陸系土器については、原田幹氏（1998）による集成が報告されている。その後の調査例も含め、岐阜県内での出土例も相当数が増加しており、北陸との土器交流を示す資料として注目される。その一方で、当センターが実施した南青柳遺跡SB9での出土例が示すように、東海系の壺・高環・長頸壺・器台などと共に北陸系の土器が1・2点出土する例が多く、壺・高環などの主要器種がセットで出土する例は皆無である。一部の遺跡を除いて相対的に北陸系の土器が占める比率も低く、S字壺に代表される東海系の土器が東日本におよばしたような、在地の土器様式を解体し、再編していくような影響力は感じられない。さらにこれらの土器が搬入品なのか模倣品なのかは即断で

第7表 「特殊器台」出土地地名表

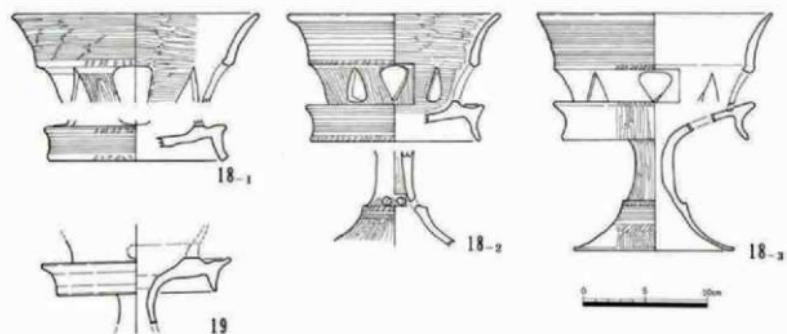
番号	市町村名	遺跡名	遺構	分類			編年の位置付付	文献
				熊野分類	鈴木分類	備考		
1	揖斐郡油田町	二ノ井遺跡	—	II類	輪形器座-II-A類	C群	順位付?	1
2	岐阜市	城之内遺跡	—	I類	輪形器座-I-A類?	A群	順位付?	2
3	美濃加茂市	針田遺跡	B3, SB42	II-d類	輪形器座-II-A-a類	C群	順位付?	本遺跡
4-1	可児市	宮之脇遺跡	—	I-b類	輪形器座-I-B-b類	B群	順位付?	3
-2			AB3, SB32	III類	輪形器座-II類	D群	順位付?	4
-3			AB3, SB44	III類?	輪形器座?	D群	順位付?	4
-4			AB3, SB44	III類	輪形器座-II類	D群	順位付?	4
-5			AB3, SB44	III類	輪形器座-I類?	D群	順位付?	4
5	可児市	久ノ上遺跡	2号墳	III類	輪形器座-II類	D群	順位付?~既出付?	5
6	飛騨郡木曾川町	門間沼遺跡	SE14Ⅲ	II類	輪形器座-II-A類	C群	順位付?~既出付?	6
7	尾西市	西上免遺跡	SX03	III類	輪形器座-I類	D群	順位付?	7
8	一宮市	北道手遺跡	SK16	III類	輪形器座-II類	D群	順位付?	8
9	岩倉市	小森遺跡	—	I-b類	輪形器座-I-B-a類	B群	順位付?~既出付?	9
10-1	西春日井郡清洲町	朝日遺跡	—	II-d類	輪形器座-II-A-a類	C群	順位付?	10
-2			—	III類	輪形器座-II類	D群	順位付?~既出付?	10
11	名古屋市	三王山遺跡	SK02-05	I-b類	輪形器座-I-B-a類	B群	順位付?~既出付?	11
12	西尾市	岡島遺跡	—	I類?	輪形器座-I-A類	A群	—	12
13	知立市	小針遺跡	SI9	I-b類	輪形器座-II-A-a類	B群	順位付?~既出付?	13
14	知立市	天神遺跡	SI6	I-b類	輪形器座-I-B-b類	B群	順位付?~既出付?	14
15	安城市	中狭間遺跡	附註	II-d類	輪形器座-II-A-a類	C群	順位付?	14・15
16	浜松市	柿野遺跡	SD121	III類	輪形器座-II類	D群	順位付?	16
17-1	浜松市	諫勅跡	豊能5-7	II-d類	輪形器座-II-A-a類	C群	順位付?	16
-2			豊能5-7	III類	輪形器座-II類	D群	順位付?	16
18-1	一志郡嬉野町	貝蔵貝塚	AB3	I-a類	輪形器座-I-A類	A群	順位付?	17・18
-2			2B3SD17	I-a類	輪形器座-I-A類	A群	順位付?	17・18
-3			—	I-a類	輪形器座-I-A類	A群	順位付?	17・18
19	島羽市	白浜遺跡	AB3	I-a類	輪形器座-I-A類	A群	順位付?	17・18

## 【文獻】

- 飯沼暢康他「南高野古墳・二ノ井遺跡・市場遺跡」岐阜県文化財保護センター 2000
- 堀正人他「城之内遺跡」岐阜市教育委員会 1990
- 大江幸也「宮之脇遺跡発掘調査報告書」可児市教育委員会 1976
- 吉田英敏他「川合遺跡群」可児市教育委員会 1994
- 大江幸也「二ノ井遺跡発掘調査報告書」可児市教育委員会 1979
- 石黒立人他「門間沼遺跡」愛知県埋蔵文化財センター 1999
- 赤塚次郎他「西上免遺跡」愛知県埋蔵文化財センター 1997
- 高橋信明他「北道手遺跡」愛知県埋蔵文化財センター 1996
- 加納俊介他「愛知県岩倉市小森遺跡出土の土器」「古代」第36号 早稲田大学考古学会 1988
- 加藤安信他「朝日遺跡」愛知県教育委員会 1982
- 村木誠治「三王山遺跡(第1次～5次)」名古屋市教育委員会 1999
- 佐井直樹・鈴木とよ江「岡島遺跡」西尾市教育委員会 1994
- 大野真規他「寺ヶ野遺跡発掘調査報告書」知立市教育委員会 1996
- 川崎みどり「西三河」「久山式土器とその発展」第3回東海埋蔵文化財研究会 1991
- 神谷真佐子・川崎みどり他「仲津間遺跡」安城市教育委員会 1999
- 鈴木敏明「遠江」「久山式土器とその発展」第3回東海埋蔵文化財研究会 1991
- 原田幹「東海出土の北陸系土器」「考古学フォーラム」10 1998
- 和氣清章「伊勢に於ける土器交流拠点」「往内式土器研究」II 庄内土器研究会 1999



第133図 東海地方出土「特殊器台」実測図(1)



第134図 東海地方出土「特殊器台」実測図(2)



第135図 「特殊器台」出土遺跡分布図

きないが、少なくとも「特殊器台」に限って言えば、A群に含まれる資料は彼の地からの搬入品の可能性が高いと考えたい。それは前述のように、北陸においては、B群・C群に分類される土器の存在が希薄であり、A群が北陸系装飾器台の代表的形態を示す土器として、かの地で生産されたと思われるからである。

第135図に見るように、「特殊器台」の分布は原田氏が指摘する「特定エリア」（伊勢雲出川下流域、西三河矢作川中下流域）とはほぼ一致するが、さらに第3のエリアとして、木曾川中流域を挙げることが可能であろう。特に第1のエリア（伊勢雲出川下流域）での出土例が北陸系の特徴をより多く備えるA群に分類できる資料であるのに対し、第2（西三河矢作川中下流域）、第3のエリアではA群の範疇に入る資料は少なく、北陸系土器の原型からやや離れた「結合器台形」や「高环形」のもの（利根川分類のB～C群）が多く出土している点を考慮すると、第1のエリアと第2、第3のエリアとでは、広域土器交流の中で果たした役割に若干の違いがあるよう思われる。原田氏は、水上交通の視点もふまえ、伊勢雲出川下流域が南関東も含めた太平洋沿岸部への波及に果たした役割に注目されている。今回の作業で得られた知見もそれを否定するものではないが、「特殊器台」に限って見れば、特に第2、第3のエリアは、北陸→東海→南関東という土器の波及経路の中で、波及の拠点や中継点としての役割を果たしただけでなく、むしろ関東地方からの「特殊器台波及経路」の中継点、もしくは終着点としての側面が推測されるのである。つまり、第2・第3のエリアで見られる特殊器台の多くは、北陸から搬入されたり北陸系の土器が当地で変遷したものではなく、関東地方から搬入されたものか、あるいは関東の影響の下に生産されたものと考えたいということになる。

S字型を中心とする、東海地方と北陸・関東地方の土器波及経路の復元は多くの先駆者の業績が示す所である。先行研究の多くは、尾張低湿地部からいわゆる東海道筋を通っての土器波及と経路を想定するものであるが、さらに比田井克仁氏は、木曾川沿いに東濃地方から長野県、北関東へといたる、後の東山道に当たる経路の存在も指摘されている。<sup>110</sup>この種の土器波及経路が成立した後は、片方から一方的に土器が移動しただけと考える必要はなく、逆方向からの土器搬入があったと考えても問題は無いと思われる。「特殊器台」が関東地方から搬入されたものであるとの推測が許されるならば、第2のエリアには「東海道ルート」を、第3のエリアには「東山道ルート」を通って土器がもたらされたという推測も可能となる。第2、第3のエリアと関東地方をつなぐ土器波及経路として、それぞれ別のルートを想定することは、尾張低湿地部を中心とした地域にこの種の器台の分布が薄いという状況と矛盾するものではなく、積極的に評価すれば、間接的に「東山道ルート」の存在を示す根拠となり得るとも思われる。さらに想像をたくましくすれば、この地がS字型に代表される東海系土器発進の中心地であり、他地域の土器をほとんど受け入れない「特殊な地域」であったという推測も成り立つであろうが、現段階ではあくまでも想像の域を出るものではない。また、前述の利根川氏が想定された「特殊器台」の年代観や、北陸系土器が南関東に波及する時期が廻間Ⅱ式期の段階とする比田井氏の研究等を考慮すると、第7表で示した編年的位置付けが、関東で北陸系装飾器台が「結合器台形」や「高环形」に変化して、再び東海地方にもたらされるまでの十分な時間を確保するものかどうかさらに検討を要する所であり、今後の重要な課題となる。いずれにせよこの種の「特殊器台」が、古墳時代前期の東日本の広域土器交流を考える上で、大きな意味をもつ遺物と考えることに大きな過ちは無いと確信するところである。

#### 4. 製塙土器について

今回確認された堅穴住居50軒のうち、34軒から製塙土器が出土している。これは全体の68.0%にあたり、破片数は438点を数える。細かく破碎した小片が大多数ではあるが、美濃においては1遺跡から数点、あるいは注意していても確認できないのが通常であると言われる現状を考えると、重竹遺跡や宮之脇遺跡に匹敵する出土量である。さらに、海に面さない岐阜県においては、塙は何らかの形で他地域からもたらされたものであり、地域間の交流を考える上でも重要な資料と言える。そこで、以下に本遺跡から出土した製塙土器について、若干の検討を加えておきたい。

県内における製塙土器研究については、重竹遺跡における吉田英敏氏の画期的な研究があり、その後の研究史や現状の課題はについては、「東海地方における消費地出土の製塙土器」(森泰通 1997)に詳しく紹介されている。検討にあたっては型式分類が不可欠であるが、全形を把握できる資料に乏しい現状では、明確な分類基準を設定することが困難であることは、すでに森氏が前掲書で指摘される通りである。ここでは氏の分類に従って、美濃地方独自の製塙土器、いわゆる「焼塙土器」を「美濃式製塙土器」と呼称し、器厚が2.9mm以下の薄手のものを美濃式I類、3.0mm以上の中手・厚手のものを美濃式II類として分類の基準とした。また、口縁部の形状は内・外に屈曲、彎曲するもの、直立するものなど様々であるが、「松崎遺跡」(福岡晃彦他 1991)の分類を参考に、4種類に分類した(第136図-3)。

本遺跡の製塙土器の検討を加える前に、森氏の研究に従って県内の分布や時期変遷などを概観しておきたい。まず、氏の報告では美濃地方で製塙土器が出土した遺跡として、18遺跡が紹介されている。そのうち揖斐川流域に1遺跡、長良川流域に5遺跡、木曾川流域に5遺跡が位置し、河川と製塙土器が出土する遺跡の密接な関係が指摘されている。これと同様の指摘は、松村冬樹氏(松村他 2000)等もされている。今回の報告に当たりその後の出土例を調査し、その結果を第8表に示した。本遺跡を含めて新たに7遺跡(内2遺跡は飛騨地方)を加えることができ、その結果もそれを裏付けるものであるが、閔市根ノ木洞遺跡、富加町半布里遺跡、美濃加茂市佐口遺跡など、長良川や木曾川からやや内陸に入った遺跡からも出土している点が注目される。また、時期変遷については重竹遺跡を中心に詳細に検討されており、その概要を簡略書きにすると以下のようになろう。

- ① 美濃式製塙土器の初源は7世紀中葉に求められる。
- ② 7世紀中葉から後葉では、器厚2mm程の美濃式I類が大部分を占める。
- ③ 8世紀に入ると美濃式I類は激減し、器厚4mm前後の中手の資料が増加し、あわせて器厚6mm以上の厚手の資料も登場して、主体は完全に美濃式II類(中手・厚手の資料)が中心となる。
- ④ 9世紀後半以降は集落の調査例が少なく、美濃式製塙土器は確認されていない。

これは宮之脇遺跡や他の製塙土器が出土した多くの遺跡にも共通する傾向とされ、美濃における一般的な製塙土器の出土状況を示すものと思われる。また口径については、美濃式I類が6cm前後の小型品が主流で、美濃式II類は口径8cm前後の資料が多く、やや大型化するとされる。

今回の分析の対象としたのは、住居跡から出土した438点のうち、時期推定が可能な住居跡から出土しており、口縁部の形状や口径の復元が可能な遺物170点で、全体の38.8%にあたる。1軒の住居跡から最も数多く出土したのはS B22の77点で、次いでS B23の48点、S B48の35点である。時期ごとの口縁形態・器厚別出土点数を第136図-1表に、美濃式I・II類の時期別の比率を第136図-2にグ

第8表 製塙土器出土土地名表

編	No	出 土 地 ・ 遺 路 名	製 塙 土 器	出 土 遺 構	文 献 等
美	1	大垣市赤坂町一本松	一本松遺跡	知多式の環口縫部	土坑 1
	2	大垣市曾根町1丁目	曾根城跡	美濃式2類	2
	3	岐阜市御望	御望遺跡	美濃式2類	堅穴住居 3
	4	岐阜市鷺山岬	鷺山岬遺跡	美濃式	4
	5	岐阜市長良城之内	城之内遺跡	美濃式1類、知多式4類系脚部	5、6
	6	岐阜市芥見	芥見町星遺跡	知多式4類系脚部	7
	7	岐阜市芥見長山	芥見長山遺跡	美濃式2類	8
	8	各務原市那加前洞新町	前洞遺跡	美濃式2類	堅穴住居 9
	9	各務原市蘇原寺島町	山田寺跡	美濃式2類	10
	10	各務原市蘇原新栄町2丁目	野口庵寺	美濃式2類	10
濃	11	各務原市三井町寺浦	三井遺跡	知多式4類系脚部	堅穴住居 11
	12	閇市池尻弥勒寺	弥勒寺跡	美濃式1類・2類	12
	13	閇市池尻弥勒寺東	弥勒寺東遺跡	知多式4類系脚部	13
	14	閇市下有知重竹	重竹遺跡	美濃式1類・2類	堅穴住居他 14
	15	閇市下有知小和田・櫻ノ木洞	櫻ノ木洞遺跡	知多式4類系脚部	14
	16	加茂郡富加町飛田・羽生	半布里遺跡	美濃式1類・2類	土坑 15
	17	美濃加茂市鶴谷町上峰谷	尾崎遺跡	知多式4類系脚部	16
	18	美濃加茂市山之上町	佐口遺跡	美濃式1類・2類	17
	19	美濃加茂市下米田町今中屋敷	今遺跡	美濃式2類	堅穴住居 18
	20	美濃加茂市下米田町針田	針田遺跡	美濃式1類・2類、知多式4類系脚部	堅穴住居他 本遺跡
飛	21	美濃加茂市牧野・下米田町小山	牧野小山遺跡	美濃式1類・2類、知多式4類系脚部	堅穴住居他 19、20
	22	可見市川合宮の脇	宮之脇遺跡	美濃式1類・2類、知多式4類系脚部	堅穴住居 21
飛	23	可見市川合東堀	川合遺跡	知多式4類系脚部	堅穴住居 22
	24	吉城郡国府町	直道遺跡	能登式口縫部	23
屏	25	吉城郡国府町	塚田遺跡	製塙土器・坏部	23

## 【文 献 等】

- 鈴木元 「一本松遺跡」「大垣市埋蔵文化財調査概要 平成4年度」 大垣市教育委員会 1994
- 中井正幸 「曾根城跡」「大垣市埋蔵文化財調査概要 平成5年度」 大垣市教育委員会 1995
- 内藤信雄他 「御望遺跡」 岐阜市教育委員会 1995
- 松村冬樹他 「企画展『川と遺跡』」 名古屋市博物館 2000
- 塙正人他 「城之内遺跡」 岐阜県教育委員会 1990
- 名篠光洋他 「城之内遺跡Ⅱ」 岐阜県教育委員会・岐阜県文化財保護センター 1991
- 内藤信雄他 「岐阜市埋蔵文化財調査報告書」 岐阜市教育委員会 1996
- 西村勝広他 「前田遺跡A地区発掘調査報告書」 各務原市埋蔵文化財調査報告書 1996
- 西村勝広他 「前田遺跡A地区発掘調査報告書」 各務原市埋蔵文化財調査センター 1994
- 吉田英敏他 「重竹遺跡」 その3 岐阜教育委員会 1984
- 大江命他 「三井遺跡・六軒遺跡」 岐阜県教育委員会 1981
- 鶴原英政他 「弥勒寺跡」 岐阜県埋蔵文化財調査報告書第1号「閇市教育委員会」 岐阜市教育委員会 1990
- 森泰通 「東濃地方における酒樽等出土の製陶工芸品―特に因形埴の問題をめぐって―」『シンポジウム 製塙土器の研究開拓―古代における陶の生産と流通―』 塚の会シンポジウム実行委員会 1997
- 塙正人他 「三井遺跡・六軒遺跡」 岐阜県埋蔵文化財調査報告書第1号「閇市教育委員会」 2000
- 大江命他 「半布里遺跡」 富加町教育委員会 1986
- 佐野信雄他 「飛田遺跡」 岐阜県埋蔵文化財調査センター 1993
- 小瀬忠司他 「化口遺跡」 岐阜県埋蔵文化財調査センター 2001
- 大江命他 「今遺跡」 岐阜県教育委員会・美濃加茂市教育委員会 1979
- 鶴原英敏他 「牧野小山遺跡出土の製塙土器について」『美濃加茂市文化財調査集録』 美濃加茂市教育委員会 1994
- 佐野康雄他 「牧野小山遺跡 C地点 発掘調査報告書」 岐阜県文化財保護センター 1998
- 吉田英敏他 「川合遺跡」 可見市教育委員会 1994
- 大江命他 「川合遺跡発掘調査報告書」 岐阜県教育委員会・可見市教育委員会 1978
- 国府町教育委員会の教示による。

ラフ化して示した。計測の対象となった遺物のうち、美濃式I類に分類される資料は18点で全体の10.5%であるが、いずれも口縁形態がa類に分類できるものに限られ、b・c・x類のものは全て厚さ3.0mm以上の美濃式II類に分類される資料である点が注目される。このことは美濃式I類と口縁形態a類に、かなり密接な相関関係があることを容易に推測させる結果である。森氏の「美濃式製塩土器集成図」に紹介された美濃式I類の実例や、重竹遺跡で出土した7世紀中頃から後半にかけての製塩土器の口縁形態が、概ねa類に分類できることを考え合わせると、「口縁端部を尖らせる」ことは美濃式I類の属性の一つと考えても大きな間違いはないと思われる。

本遺跡での出土傾向を見ると、何れの時期も美濃式II類の中でも、中手(器厚3.0~5.9mm)の資料が大半を占める。8世紀以降、薄手のものが減少して、厚手のものが増える傾向はかろうじてうかがうことはできるが、美濃式I類が大部分を占めると言われる7世紀代においても、その割合は13.3%にすぎず、重竹遺跡で見られるような「劇的」な変化は見られなかった。この背景にあるのは、両遺跡からの出土品の1/4近くがカマドや貯蔵穴から出土しているのに対し、本遺跡の場合は住居跡覆土から出土したものがほとんどであり、複雑に切り合った住居跡の検出状況を考慮すると、出土した製塩土器が、住居跡の年代を必ずしも反映しない危険性を持つからと思われる。ただ、美濃式I類とII類の境目である3.0mmと計測した遺物が48点あり、そのうちa類に分類したものが38点ある。これらが仮に美濃式I類に帰属する余地があるとすれば、先に示した数値も若干変わるものとなろう。

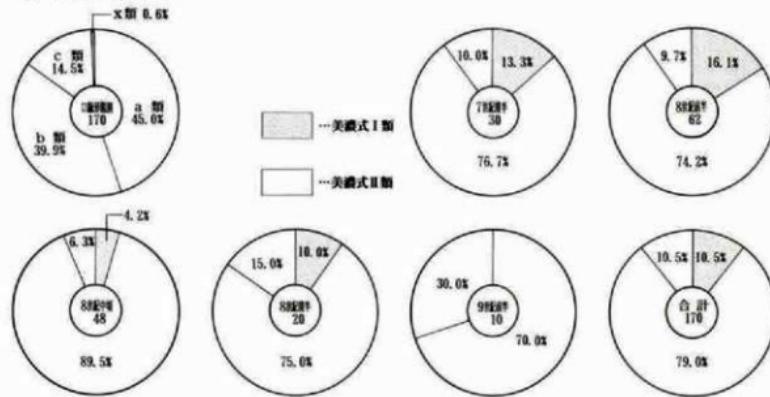
また、器厚別の口径については第136図-4に示した。残存率で1/12程度の小片が多く、製塩土器自体の歪みも著しいため、必ずしも正確な口径を反映しているとは限らないが、美濃式I類に分類されるものは5.0~5.9cmの所にピークがあり、前述の傾向と大差は無い。美濃式II類に分類されるものについては、6.0~6.9cmと8.0~8.9cmの2ヶ所にピークが見られる。後者については前述の傾向によく一致し、前者のピークについても、美濃式I類よりも口径が大きくなる傾向に大きな矛盾はないものと思われる。

重竹遺跡では、いわゆる知多式4類系製塩土器の脚部の存在が知られていないのに対し、本遺跡からは10点出土している。环部の多さに比べると微々たる量ではあるが、これらは愛知県から運ばれたものであり、环部の中にも知多式製塩土器の环部が含まれるはずである。森氏は美濃式製塩土器と愛知県の製塩土器を区別するのは困難としながらも、両者の違いとして、①美濃式の方が平均して器壁が薄い、②外面に粘土紐接合痕を残すものがなく、③愛知県の製塩土器にしばしば見られる、口縁端部が内側に折れ込む資料がほとんどない、といった点を挙げられている。今回得られた資料の中に、口縁端部が内側に折れ込むものが23点見られることなどからも、美濃式に分類した製塩土器の环部の中に、愛知県から搬入されたものが含まれることは間違いないと言える。福岡見彦氏は、知多式4類製塩土器の中に、塩を製造した後そのまま搬出用の容器として使用される「土器」の存在を設定し、粗塩を製塩土器に入れたまま内陸部に運んだという仮説を立て、知多式と美濃式の形態上の類似性も加味した上で、美濃式製塩土器の中には生産地から運ばれた製塩土器が混在する可能性を指摘している。本遺跡での知多式4類系製塩土器脚部の出土は、福岡氏の仮説を裏付けるものであり、産地からの塩の搬入法の復元までも追り得る資料と考えられる。そこで、本遺跡から出土した脚部と环部の相関関係を探るため、製塩土器の胎土分析を株式会社ラボに委託して行った。なお、参考資料として、当センターが調査を実施した遺跡のうち、城之内遺跡・牧野小山遺跡から出土した製塩土器に

## 1. 口縁形態・器厚別出土点数

地盤 分類	a 級			b 級			c 級			x 級			小計
	E0118	美濃式Ⅰ類	E0119	E0118	美濃式Ⅱ類	E0119	E0118	美濃式Ⅲ類	E0119	美濃式Ⅳ類	E0119	美濃式Ⅴ類	
時期	~2.9	3.0~5.9	6.0~	~2.9	3.0~5.9	6.0~	~2.9	3.0~5.9	6.0~	~2.9	3.0~5.9	6.0~	
古河	4	15	-	-	8	-	-	-	3	-	-	-	30
7世紀代	前半	2	3	-	-	7	2	-	2	-	-	-	16
	前~中	8	16	-	-	11	2	-	6	2	-	1	46
	中~後	2	17	-	-	24	2	-	2	1	-	-	48
	後半	2	5	-	-	8	1	-	2	1	-	-	19
9世紀前半	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	1
小計	18	60	-	-	60	9	-	13	9	-	1	-	170

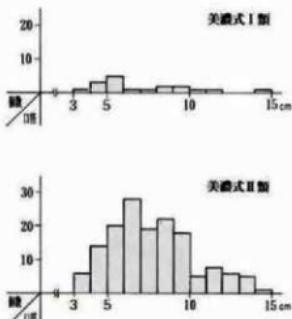
## 2. 口縁形態・器厚別比率



## 3. 口縁形態分類模式図



## 4. 器厚別口径の頻度



## 5. 土材材料の粘土と岩石組合せの関係

	Cb	Bc	Ce	Ec	Cf
外 存 成	6 (0)	14 (24)		<u>1</u> (0)	<u>2</u> (0)
海 成			66 (12)	67 (14)	
水 成	10 (0)	29 (5)		4 (1)	
黄 水 成	5 (0)	9 (0)	11 (2)	12 (3)	3 (0)
土 の 他	11 (3)	9 (2)	46 (14)	47 (14)	

注：1～11：針田道路 06～09；城之内道路  
12～19：牧野小山道路  
（1）内の数字は実測番号。ただし06～09は  
「城之内道路」（各務光存他19）による  
注：アンダーラインは脚部

第136図 製塙土器統計図表

ついても胎土分析を行った。その結果は第7章の藤根氏の報告の通りである。氏の報告の中の第5表に出土遺跡や脚部・坏部の別を加味したのが第136図-5である。粘土と岩石の組合せで見ると、脚部は胎土に凝灰岩を含むC e・E c類に多く、坏部は外洋性・水性-C b類の組合せに特徴的に分布する。分析を依頼した製塙土器の胎土は、概ね本遺跡周辺の地質学的特徴に類似するとの分析結果を得たが、脚部が愛知県産との前提に立てば、坏部の中で7(111)・8(145)・12(378)・19は愛知県から搬入された可能性が高く、6(81)・10(286)・18・20などは美濃式製塙土器として、在地の土を用いたものと考えることができる。なお、今回分析したのは20点という少数であり、藤根氏の教示によれば、現段階では正確な产地推定は困難であるとのことで、当初期待したほどの成果を上げることはできなかったが、今後同様の分析をされた資料が増加することを期待したい。

森氏を初めとし、先学諸氏の多くが重竹遺跡と宮之脇遺跡の立地に注目し、「尾張から長良川、木曾川を遡って運ばれた粗塙を荷揚げし、固形塙を作成する拠点として機能していた」との評価がなされている。遺跡の立地という視点で見れば、本遺跡も飛驒川に近接しており、両遺跡と同様である。本遺跡が両遺跡のような拠点的な役割を果たしていたかは、さらに検討を要する所であるが、本遺跡に近い今遺跡や牧野小山遺跡などからも製塙土器が出土している。<sup>1120</sup> 7世紀から9世紀にかけては、木曾川と飛驒川の合流点を中心とした一帯では、宮之脇遺跡を始めとした各集落で、ごく一般的に固形塙生産が行なわれていたと考える方が自然ではなかろうか。また、今回の整理調査にあたっては、前任者より知多式4類系の脚部の存在は知らされていたが、坏部については予想外に多くの量が出土していたことに驚かされた。製塙土器は様々な事情から発掘調査時には確認されにくい性格を持つが、人間が生命を維持するために塙分は不可欠なものであり、個人的には、該期の集落跡には「当然存在するもの」との認識の下に調査を進める必要を痛感した次第である。

## 5.まとめ

今回の調査で確認できた竪穴住居跡のうち、46軒は7世紀後半から9世紀前半に帰属すると考えられ。集落の中心となる時期や10数軒から20軒程度と思われる集落規模などを、ある程度明らかにすることができたと考えられる。本遺跡の立地する場所が水田耕作にあまり適さない点を考慮すると、該期における当地の拠点となる集落とは必ずしも言い切ることはできず、出土遺物についてもいわゆる「美濃(国)刻印須恵器」や鏡など、当時の中央政府や地方官衙との関連を推測させる遺物には恵まれなかった。その中でSB48から出土した暗文を持つ土師器坏身<sup>1121</sup>(374・375)は、県内で24遺跡目の出土であり、美濃地方では最も東に位置する出土例として、また、畿内との関連を推測させる遺物として注目される。さらに数百点を数える製塙土器や、古墳時代前期の「特殊器台」など、他地域との広範な交流を物語る資料を得ることができた。これらの評価についてはさらに検討を要する所であるが、交通の要衝として、古墳時代以来当地が重要な役割を果たしてきたことに間違いはないと思われる。

なお、筆者の力量不足から多くの先行研究を誤解・曲解した部分も少なくないと思われる。末文ながらその非礼を詫び、先学諸氏の御批正をあおぐとともに、試掘確認・本発掘調査から整理作業、報告書刊行までの長きにわたって御指導・御協力をいただいた方々や関係諸機関、ならびに補助調査員、発掘・整理作業員の皆様に、改めて深く感謝の意を表する次第である。

## 【註】

- (1) 佐野他(1998)によると、「相欠はぎ接合」方法とは、土師器・壺の製作時の底部の接合方法で、底部上端、胴部下端に器壁の半分程の接合部分(のり代部分)を2~3cm程度もち、ある程度時間をおいて半乾燥の状態で接合させる方法である。牧野小山塚年の第1期(5世紀後半)には既に見られる技法である。
- (2) 今回の調査で確認できた住居跡のうち、貯藏穴が確認できたものは皆無で、可能性のあるものを含めてもその保有率は10%に満たず、極めて低い結果に終わった。
- (3) 板岡・神谷(1998)では、「壺が金属光沢を表現したとする見解は、広く認められていることであろう」とされている。本遺跡出土の土師器・壺が壺内面か壺底が金屬器の表面を模倣したと考えられる須恵器・壺蓋と共に金銀器を指向したものと解釈して大過無いと思われる。
- (4) 重竹遺跡では中世の区画溝と考えられる溝が何本か検出されている(藤原・吉田他 1984)。「L」字状の平面形や、どこに流れるのかよくわからない状況は、本遺跡の溝状道構も共通する。
- (5) 潟の同時性について、筆者は「船ノ木洞遺跡」(班地 2000)の中で触れたことがある。同時性を証明する最も確実な根拠は「出土遺物が接合する」ことであるが、接合関係が認められた溝は既して遺物組成が異なる傾向にあり、同時性を示す根拠の一つになり得ると考えている。
- (6) 横崎(1976)による。
- (7) 今遺跡第31号住居跡の貯藏穴からは、第103図に挙げた蓋と一緒に美濃式II類に分類される製塙土器(報告では土師器の跡)出土している。藤原・吉田他(1984)、福岡他(1991)、森(1997)等にも引用され、製塙土器の蓋と解釈するのが広く定着しているようであり、本遺跡出土遺物( )の使用法もこれに類似するものと考えたい。
- (8) NR1から出土した木材の年代線は山形秀樹氏の放射性炭素年代測定により、氏の測定結果は第7章第2節の通りである。
- (9) 関市教育委員会(1994)では、燈ノ木洞遺跡から検出された住居跡の中に平面形が長方形のものが2軒あり、いずれも5世紀代に帰属することから、時期差によるものである可能性を指摘している。
- (10) 藤原・吉田他(1984)、吉田他(1994)等による。
- (11) 本遺跡の石器組成は極めて不自然な比率を示しているが、調査時に磨石・敲石類を見落とした可能性は皆無ではないが打製石斧ばかりが目立ち、磨石・敲石類及び石器さえもほとんど見られなかったとの担当調査員の所見を得ている。
- (12) 佐野他(1993)・千葉他(2000)等では、定型化した磨製石斧の出土が少ない東海地方では、この種の粗製の打製石器が「取扱具」として使用されていたと解釈されている。
- (13) 早野浩二(1996)、原田幹(1998a・1998b)等。
- (14) 第7表内の編年觀は、文獻に挙げた各報告書の編年觀によっており、その並行關係については、『桜林遺跡』(伊藤他 1998)所収の「三河地方における土器編年試案」等を参考にした。
- (15) 東海考古学フォーラム岐阜大会実行委員会(1998)所収の「美濃国古墳時代前期土器集成」によると、大垣市今宿遺跡可児市宮之脇遺跡A地点で北陸系の土器の出土が報告されている。また当センターが実施した関市砂田遺跡、南青柳遺跡の調査でも北陸系土器が確認されている。なお、本遺跡が所在する美濃加茂市では、木下遺跡で北陸系の壺の出土が報告されている。
- (16) かって筆者は岐阜市城之内遺跡出土の「特殊器台」を発掘・報告する機会に恵まれたが、非常に白っぽい色調で、胎土も在地の土師器とは異なる、緻密なものであったことを記憶している。
- (17) 東海と長野を結ぶ土器波及経路としては、他に西三河から天龍川沿いに北上するルートも想定されている。現在のところ、長野県内の「特殊器台」の出土地として、下平小山遺跡(佐久市)、御屋敷遺跡(更級郡上山田町)、小島塙遺跡(長野市)等を確認しているが、これらの遺跡は必ずしも「東山道ルート」上に位置するものではなく、土器の編年的位置付けと合わせて、今後の課題としたい。
- (18) 比田井(1994)による。
- (19) 今回歯土分析を行なった20点のうち、本遺跡出土の111の形狀が松崎遺跡出土の遺物(福岡他 1991、第49図-28)に類似する点が目立てるが、その他には口縁部の形狀・口徑・器厚等のいずれも明確な分類基準を見いだすことはできなかつた。なお、海バレオ・ラボの藤根氏の教示によれば、愛知県理文化財センターでも同様の分析をされているとのことで、成果の發表が待たれる。
- (20) 飛騨川と木曾川の合流地点付近では、宮之脇遺跡・本遺跡の他に製塙土器が出土した遺跡として今遺跡・牧野小山遺跡(以上美濃加茂市)、川合遺跡(可児市)があり、他地域と比較しても密集度の高い地域と言える。
- (21) 横幕(2000)所収の地名表等による。

## [引用・参考文献]

- 赤塚次郎他 1990 「廻間遺跡」 財団法人愛知県埋蔵文化財センター
- 赤塚次郎他 1992 「山中遺跡」 財団法人愛知県埋蔵文化財センター
- 赤塚次郎他 1994 「松河戸遺跡」 財団法人愛知県埋蔵文化財センター
- 赤塚次郎 1996 「濃尾平野低湿地部における古墳時代の更」『第4回考古学フォーラム 銅と窯 そのデザイン』 東海考古学フォーラム尾張大会実行委員会
- 赤塚次郎他 1997 「西上免遺跡」 財団法人愛知県埋蔵文化財センター
- 赤羽一郎 1984 「考古学ライブラリー-23 常滑焼-中世窯の研究-」 ニュー・サイエンス社
- 石川県考古学研究会 1986 「シンポジウム「月影式」土器について」
- 石黒立人 1992 「伊勢湾地方周辺における弥生時代石器組成の変遷」『第31回埋蔵文化財研究集会 弥生時代の石器 一その始まりと終わりー』 埋蔵文化財研究会開催世話人会
- 池谷勝典 2000 「打製石斧研究序論 一水遺跡出土の打製石斧についてー」『東京考古』第18号 東京考古試験会
- 伊藤基之他 1998 「桜林遺跡」 安城市教育委員会
- 井上喜久男 1992 「尾張陶磁」 ニュー・サイエンス社
- 内堀信雄・井川祥子 1996 「美濃における古代土器と煮沸具の様相」『第4回考古学フォーラム 銅と窯 そのデザイン』 東海考古学フォーラム尾張大会実行委員会
- 大江幸也 1982 「福田山古墳群発掘調査報告書」 各務原市教育委員会
- 小野木学他 1995 「下市上遺跡」 財団法人岐阜県文化財保護センター
- 小野木学他 1997 「堀田城之内遺跡」 財団法人岐阜県文化財保護センター
- 川村清司 1994 「関東南部における北陸系土器の様相について」『庄内式土器研究』 VI 庄内式土器研究会
- 北武藏古代文化研究会・群馬県考古学談話会・千曲川水系古代文化研究会 1984 「第5回三県シンポジウム 古墳出現期の地域性」
- 北村和宏 1996 「尾張の「伊勢型鏡」」『第4回考古学フォーラム 銅と窯 そのデザイン』 東海考古学フォーラム尾張大会実行委員会
- 北村和宏 1996 「尾張の羽釜」『第4回考古学フォーラム 銅と窯 そのデザイン』 東海考古学フォーラム尾張大会実行委員会
- 熊野雅也 1974 「特殊な器台について(1)」「史館」第3号 史館同人
- 熊野雅也 1977 「特殊な器台について(2)」「史館」第8号 史館同人
- 熊野雅也 1980 「特殊な器台について(3)」「史館」第12号 史館同人
- 小谷和彦他 1997 「山手宮前遺跡」 財団法人岐阜県文化財保護センター
- 近藤大典他 1998 「上原遺跡」 財団法人岐阜県文化財保護センター
- 齋藤孝正 1989 「古墳時代の猿投塗」『第6回東海埋蔵文化財研究会 斎夫山古墳とその時代』 第6回東海埋蔵文化財研究会実行委員会
- 齋藤孝正 1994 「東海地方の施釉陶器生産 一張投塗を中心としてー」『古代の土器研究会 第3回シンポジウム 古代の土器研究ー律令的土器様式の西・東3 施釉陶器』 古代の土器研究会
- 齋藤孝正他 1995 「須恵器集成図録第3巻 東日本編A」 雄山閣
- 齋藤基生他 1999 「木ノ下遺跡」 美濃加茂市教育委員会
- 桜岡正信・神谷佳明 1998 「金属機械と金属器指向」『財団法人群馬県文化財調査事業団研究紀要』15 財団法人群馬県文化財調査事業団
- 佐野元 1995 「美濃須衛型四耳壺の編年」『瀬戸市埋蔵文化財センター研究紀要』第3編 財団法人瀬戸市埋蔵文化財センター
- 佐野康雄他 1993 「尾崎遺跡」 財団法人岐阜県文化財保護センター
- 佐野康雄他 1998 「牧野小山遺跡C地点 発掘調査報告書」 財団法人岐阜県文化財保護センター
- 藤原英政・吉田敏雄 1984 「吉竹遺跡 その3」 関市教育委員会
- 菅原正明 1989 「西日本における瓦器生産の展開」『国立歴史民俗博物館研究報告』第19集
- 杉原莊介・大坂初重編 1991 「合巣 土師式器集成」 東京堂出版
- 鈴木直人 1994 「特殊な土器の再検討(前編)」「史館」第25号 史館同人
- 鈴木正貴 1996 「総論 一東海地方の中世から近世の煮沸具の様相と諸問題」『第4回考古学フォーラム 銅と窯 そのデザイン』 東海考古学フォーラム尾張大会実行委員会

- 開市教育委員会 1994 「新修 開市史 考古・文化財編」 開市
- 瀬戸市史編纂委員会 1993 「瀬戸市史 陶磁史編」 4 瀬戸市
- 千葉恭次郎 2000 「野狐道跡」 財団法人岐阜県文化財保護センター
- 第3回東海埋蔵文化財研究会実行委員会 1986 「『山式土器とその前後』
- 田崎明人他 1986 「法町遺跡Ⅰ」 右川県立埋蔵文化財センター
- 立石堅志 1995 「奈良火鉢」「概説 中世の土器・陶磁器」 中世土器研究会
- 東海考古学フォーラム岐阜大会実行委員会 1998 「土器・墓が語る 美濃の独自性～発生から古墳へ～」
- 利根川草薙 1999a 「西富田・四方田条里遺跡」 財団法人埼玉県埋蔵文化財調査事業団
- 利根川草薙 1999b 「北條系装飾器部の系譜についての小論 一いわゆる「特殊な器形」について」 財団法人埼玉県埋蔵文化財調査事業団研究紀要』第15号 財団法人埼玉県埋蔵文化財調査事業団
- 柄崎彰一 1976 「日本陶磁全集6 白瓷」 中央公論社
- 柄崎彰一他 1981 「老洞古窯跡群発掘調査報告書」 岐阜市教育委員会
- 柄崎彰一他 1990 「尾呂」 瀬戸市教育委員会
- 成瀬正勝他 2000 「珍行遺跡」 財団法人岐阜県文化財保護センター
- 原田幹 1998a 「伊勢勢地城における土器群の画期と交流」『庄内式土器研究』XVI 庄内式土器研究会
- 原田幹 1998b 「東海出土の北條系土器～古墳時代初頭前後に於ける広域土器交流の一様相～」『考古学フォーラム』第10号 考古学フォーラム編集部
- 早野浩二 1996 「東海地方における鏡内裏について」『第4回考古学フォーラム 鏡と鏡 そのデザイン』東海考古学フォーラム尾張大会実行委員会
- 比田井亮仁 1994 「南関東における庄内式土器の前後土器移動」『庄内式土器研究』V 庄内式土器研究会
- 福岡見彦他 1991 「松崎遺跡」 財団法人愛知県埋蔵文化財センター
- 藤沢良祐 1986 「瀬戸大黒発掘調査報告書」『瀬戸市歴史民俗博物館研究紀要』V 瀬戸市歴史民俗博物館
- 藤沢良祐 1987-89 「本業焼の研究(1)～(3)」『瀬戸市歴史民俗博物館研究紀要』VI～VIII瀬戸市歴史民俗博物館
- 藤沢良祐 1991 「瀬戸古窯跡群～古窯跡後期様式の編年」『瀬戸市歴史民俗博物館研究紀要』X 瀬戸市歴史民俗博物館
- 藤沢良祐 1994 「山茶碗研究の現状と課題」『三重県埋蔵文化財センター研究紀要』第3号 三重県埋蔵文化財センター
- 春田英博他 2000 「船山北古窯群・船山北古窯跡群・船山北遺跡」 財団法人岐阜県文化財保護センター
- 堀正人他 2000 「船木本副遺跡」 財団法人岐阜県文化財保護センター
- 美濃加茂市 1980 「美濃加茂市史 通史編」
- 松田典夫他 1979 「今遺跡」 美濃加茂市教育委員会
- 武藤貞昭他 1994 「「入村平遺跡」 財団法人岐阜県文化財保護センター
- 村瀬泰喜 1999 「諱洞遺跡・大坪遺跡」 財団法人岐阜県文化財保護センター
- 森泰通 1997 「東海地方における消費地出土の製造土器」『第9回塙の会 シンポジウム製造土器の諸問題－古代における塙の生産－』 塙の会シンポジウム実行委員会
- 横畠大祐 2000 「美濃・飛騨の畿内赤土陶器」『美濃の考古学 第4号』 美濃の考古学刊行会
- 吉田正人他 1994 「川合遺跡群」 可児市教育委員会
- 和氣清草 1999 「伊勢に於ける土器交流拠点」『庄内式土器研究』XX 庄内式土器研究会
- 渡辺博人 1984 「美濃須賀古窯跡群資料調査報告書」 各務原市教育委員会
- 渡辺博人他 1995 「為同遺跡発掘調査報告書」 美濃加茂市教育委員会
- 渡辺博人 1997 「美濃須賀窯における平安・鎌倉の移相」『食田芳郎先生古希記念生誕の考古学』 同書刊行会

なお、第7・8表に挙げた文献については、本項で省略したものもある。

第9表 針田遺跡SA一覧表(1)

遺構番号	出土グリッド	規格			主軸方位	柱間の距離(m)				備考	
		桁行		梁行		南北方向・西面(北から)		東西方向・南面(東から)			
		前	後	左		右	上	下	左		
SA1 16-18L, 17-18L		4間	5.56m	2間	4.63m	N-25°-E	1.19-1.54-1.59-1.42	2.43-2.28-	- -	古代	
#114 規格(m)	長軸 幅 短軸 深さ	平 面 形	出土 遺物(破片数)			#115 規格(m)	成 紗	長 軸 幅 短 軸 深さ	平 面 形	出土 遺物(破片数)	
Pit1 46.0 36.5 28.8 楕 円 形			Pit2 41.2 40.5 24.5 不正円形							1層(B1)	
Pit3 38.0 33.0 33.0 不正円形			Pit4 45.0 42.5 38.5 不正円形							1層(B2), 2層(B3)	
Pit5 40.0 36.8 50.0 楕 円 形			Pit6 41.0 40.8 50.8 正 円 形							1層(B4)	
Pit7 35.0 31.2 39.5 正 円 形			Pit8 35.5 33.0 26.5 不正円形							1層(B2), 2層(B3-B4), 3層(B5)	
Pit9 40.0 46.0 37.2 不正円形			Pit10								
遺構番号	出土グリッド	規格			主軸方位	柱間の距離(m)				備考	
		桁行		梁行		南北方向・東面(北から)		東西方向・南面(東から)			
		前	後	左		右	上	下	左		
SA2 16S-18L, 16H		3間	5.56m	2間	3.71m	N-22°-E	1.96-1.65-1.65	2.39-1.32	-	古代	
#114 規格(m)	長軸 幅 短軸 深さ	平 面 形	出土 遺物(破片数)			#115 規格(m)	成 紗	長 軸 幅 短 軸 深さ	平 面 形	出土 遺物(破片数)	
Pit1 46.0 46.0 34.6 正 円 形			Pit2 38.0 38.5 31.3 正 方 形							1層(B1)	
Pit3 41.2 40.0 34.2 不正円形			Pit4 54.0 54.1 47.0 不正円形							1層(B1-B2)	
Pit5 50.5 42.0 28.0 不正円形			Pit6 51.0 46.9 48.2 正 円 形							1層(B3-B4)	
Pit7 32.0 54.5 4.4 長 方 形			Pit8 54.5 48.3 20.0 楕 円 形							1層(B5)	
Pit9 44.0 44.0 17.5 正 円 形			Pit10 64.5 53.9 24.5 不正円形							1層(B2)	
遺構番号	出土グリッド	規格			主軸方位	柱間の距離(m)				備考	
		桁行		梁行		南北方向・西面(北から)		東西方向・南面(東から)			
		前	後	左		右	上	下	左		
SA3 15-16L, 15-16H		3間	4.89m	2間	4.12m	N-25°-E	1.28-1.19-1.72	1.42-2.70	-	古代	
#114 規格(m)	長軸 幅 短軸 深さ	平 面 形	出土 遺物(破片数)			#115 規格(m)	成 紗	長 軸 幅 短 軸 深さ	平 面 形	出土 遺物(破片数)	
Pit1 35.5 32.0 29.4 不正円形			Pit2 37.8 30.0 32.0 楕 円 形							1層(B1)	
Pit3 46.0 46.0 33.9 楕 円 形			Pit4 44.0 42.2 45.5 正 円 形							1層(B3)	
Pit5 52.0 50.0 30.2 不正円形			Pit6 35.5 35.0 28.5 48.2 楕 円 形							1層(B1)	
Pit7 48.2 48.6 51.5 楕 円 形			Pit8 47.0 28.0 17.5 不正円形							1層(B1-B2)	
Pit9 41.2 37.8 33.7 楕 円 形			Pit10 42.5 36.5 51.1 正 円 形							1層(B1-B2)	
Pit11 46.5 39.2 40.8 正 円 形			Pit12 43.3 39.0 35.2 不正円形							1層(B1)	
Pit13 31.0 40.0 7.8 正 円 形			Pit14 40.5 36.1 41.0 不正円形								
遺構番号	出土グリッド	規格			主軸方位	柱間の距離(m)				備考	
		桁行		梁行		南北方向・西面(北から)		東西方向・南面(東から)			
		前	後	左		右	上	下	左		
SA4 16L-14L, 15-15L		4間	7.45m	2間	3.85m	N-22°-E	1.72-2.13	1.59-2.71-2.35-1.88	-	古代	
#114 規格(m)	長軸 幅 短軸 深さ	平 面 形	出土 遺物(破片数)			#115 規格(m)	成 紗	長 軸 幅 短 軸 深さ	平 面 形	出土 遺物(破片数)	
Pit1 63.0 55.0 51.0 楕 円 形			Pit2 53.0 50.0 18.5 不正円形								
Pit3 52.0 41.5 15.0 不正円形			Pit4 38.0 35.0 5.0 楕 円 形?								
Pit5 44.0 39.0 15.5 楕 円 形			Pit6 47.0 45.0 42.0 正 円 形								
Pit7 45.0 34.5 16.1 不正円形			Pit8 48.5 45.5 18.5 不正円形								
Pit9 42.5 41.0 30.5 不正円形			Pit10 31.0 25.0 36.1 楕 円 形								
Pit11 78.0 66.5 30.3 不正円形			Pit12 58.5 52.5 36.8 不正円形							1層(B1)	
Pit13 42.8 33.0 38.6 不正円形			Pit14 38.0 32.5 22.1 楕 円 形								
遺構番号	出土グリッド	規格			主軸方位	柱間の距離(m)				備考	
		桁行		梁行		南北方向・西面(北から)		東西方向・北面(東から)			
		前	後	左		右	上	下	左		
SA5 14-16L, 14-15L		4間	10.47m	2間	4.23m	N-26°-E	1.22-2.07	2.00-2.49-4.12-8.86	-		
#114 規格(m)	長軸 幅 短軸 深さ	平 面 形	出土 遺物(破片数)			#115 規格(m)	成 紗	長 軸 幅 短 軸 深さ	平 面 形	出土 遺物(破片数)	
Pit1 57.5 57.0 17.0 不正円形			Pit2 47.0 40.0 24.0 楕 円 形								
Pit3 52.0 40.0 30.2 楕 円 形			Pit4 42.0 30.0 24.2 楕 円 形								

第10表 針田遺跡SA一覧表 (2)

SA5 (鏡)													
規 模 (m)			平 面 形	出 土 貨 物 (破片数)			規 模 (m)			平 面 形	出 土 貨 物 (破片数)		
直 横 長 横 幅 幅	深 度	底					直 横 長 横 幅 幅	深 底					
Pit5	25.0	22.0	21.6	横 円 形			Pit6	44.0	35.5	35.0	横 円 形		
Pit7	45.0	44.0	42.0	正 円 形			Pit8	44.6	(36.5)	32.9	横 円 形	(288)	
Pit9	40.5	36.1	41.0	不 正 円 形			Pit10	44.0	G1.0	27.7	不 正 円 形		
Pit11	58.0	46.0	38.0	正 円 形	388(8)		Pit12	58.5	52.5	36.5	不 正 円 形		
Pit13	42.0	42.0	42.5	不 正 円 形			Pit14	52.0	41.5	15.0	不 正 円 形	(288D), (358)(E)	
直 横 直 横 幅 幅										規 模 (m)			備 考
出 土 グ リ ッ ド			規 模		主 横 方 位		規 模 (m)			規 模 (m)			備 考
面 号			幅 行	横 行	主 横 方 位		規 模 (m)			規 模 (m)			備 考
SA6 13-15L, 14-15N			3間	7.38m	3間	4.31m	N-23° - E	1.50 - L.32 - L.49		2.23 - (2.58) - (2.57)			中・近世?
SA7 菱 横										規 模 (m)			備 考
規 模 (m)			平 面 形	出 土 貨 物 (破片数)			規 模 (m)			平 面 形	出 土 貨 物 (破片数)		
直 横 長 横 幅 幅	深 底	底					直 横 長 横 幅 幅	深 底					
Pit1	58.5	54.0	33.2	正 円 形	388(8)		Pit2	45.0	41.5	28.1	横 円 形		
Pit3	40.0	35.9	15.5	不 正 円 形			Pit4	48.0	45.0	14.5	横 円 形	(288D)	
Pit5	40.3	36.0	39.4	横 円 形			Pit6	40.0	38.5	22.2	不 正 円 形		
Pit7	58.0	50.0	65.0	横 円 形			Pit8	54.0	48.0	11.0	不 正 円 形		
Pit9	42.0	40.0	27.0	不 正 円 形	388(8)		Pit10	58.0	34.0	3.5	不 定 形		
Pit11	58.0	49.0	44.0	横 円 形			Pit12	61.0	52.0	24.0	楕円・三角形		
直 横 直 横 幅 幅										規 模 (m)			備 考
出 土 グ リ ッ ド			規 模		主 横 方 位		規 模 (m)			規 模 (m)			備 考
面 号			幅 行	横 行	主 横 方 位		規 模 (m)			規 模 (m)			備 考
SA7 12-12L, 12-12R			3間	5.7m	2間	4.95m	N-27° - E	L.63 - L.69 - L.65		2.68 - 2.27			古代?
SA8 菱 横										規 模 (m)			備 考
規 模 (m)			平 面 形	出 土 貨 物 (破片数)			規 模 (m)			平 面 形	出 土 貨 物 (破片数)		
直 横 長 横 幅 幅	深 底	底					直 横 長 横 幅 幅	深 底					
Pit1	36.0	30.0	18.5	不 定 形			Pit2	25.5	27.0	9.5	不 定 形	(288D)	
Pit3	32.5	(40.0)	41.4	横 円 形	(288)		Pit4	43.0	33.0	4.8	横 円 形		
Pit5	42.0	(40.0)	49.5	横 円 形			Pit6	48.0	(46.5)	45.4	正 円 形	(288D)	
Pit7	Q26.0	Q32.0	9.2	横 円 形			Pit8	33.5	30.0	33.7	横 円 形	(288D)	
Pit9	54.5	51.0	31.0	不 正 円 形			Pit10	58.0	39.0	38.0	不 正 楕円形	(288D)	
Pit11	53.0	44.0	39.3	横 円 形	(288-289)		Pit12	37.0	36.0	47.3	正 円 形		
Pit13	72.3	70.6	48.4	正 円 形	(288-289), (288-289-289)		Pit14	45.0	40.0	42.0	横 円 形		
Pit15	42.0	Q5.0	27.7	不 正 円 形	(288-289-289)								
直 横 直 横 幅 幅										規 模 (m)			備 考
出 土 グ リ ッ ド			規 模		主 横 方 位		規 模 (m)			規 模 (m)			備 考
面 号			幅 行	横 行	主 横 方 位		規 模 (m)			規 模 (m)			備 考
SA8 13-15L, 14-15I			3間	7.52m	2間	3.12m	N-22° - E	2.22		2.82 - 2.60 - 2.04			
SA9 菱 横										規 模 (m)			備 考
規 模 (m)			平 面 形	出 土 貨 物 (破片数)			規 模 (m)			平 面 形	出 土 貨 物 (破片数)		
直 横 長 横 幅 幅	深 底	底					直 横 長 横 幅 幅	深 底					
Pit1	36.5	29.0	6.4	横 円 形	(288), (288-289)		Pit2	35.5	35.5	35.8	横 円 形	(288D)	
Pit3	29.0	26.0	12.5	正 円 形	(288)		Pit4	37.0	34.0	35.8	正 円 形	(288D), (288-289)	
Pit5	26.2	24.5	12.5	正 円 形									
直 横 直 横 幅 幅										規 模 (m)			備 考
出 土 グ リ ッ ド			規 模		主 横 方 位		規 模 (m)			規 模 (m)			備 考
面 号			幅 行	横 行	主 横 方 位		規 模 (m)			規 模 (m)			備 考
SA9 11-12L, 12I			3間	4.44m	2間	2.06m	N-24° - E	1.12 - L.47 - L.84		1.23 - 2.23			古代
SA10 菱 横										規 模 (m)			備 考
規 模 (m)			平 面 形	出 土 貨 物 (破片数)			規 模 (m)			平 面 形	出 土 貨 物 (破片数)		
直 横 長 横 幅 幅	深 底	底					直 横 長 横 幅 幅	深 底					
Pit1	23.5	17.5	9.0	横 円 形			Pit2	28.0	28.0	4.0	横 円 形?		
Pit3	19.5	19.5	7.5	正 円 形			Pit4	27.0	23.0	12.0	横 円 形	(288D)	
Pit5	29.8	29.0	10.1	不 正 円 形			Pit6	35.5	32.0	11.7	不 正 円 形		
Pit7	45.0	Q3.0	44.7	不 正 円 形			Pit8	29.5	29.5	47.5	不 正 円 形	(288D)	
Pit9	28.5	26.0	11.0	正 円 形			Pit10	37.5	23.0	6.5	不 定 形		
Pit11	29.5	27.0	6.0	正 円 形			Pit12	17.0	17.0	6.0	正 円 形		

第11表 針田遺跡SA一覧表(3)

遺構番号	出土グリッド	規 模			主軸方位	柱間の距離(m)			備考
		桁 行	梁 行	柱		南北方向・東西(北から)	東西方向・南北(東から)		
SA12	12-13H.12-13I	4間	5.96m	2間	3.47m	N-33°-E	1.87-1.60	1.27-(1.50)-(1.63)-1.58	
■■■■■	規 模(cm)	平 面 形		出 土 遺 物(破片数)		■■■■■	規 模(cm)	平 面 形	
遺構	長 軸 幅 軸 深さ	平 面 形		出 土 遺 物(破片数)		遺構	長 軸 幅 軸 深さ	平 面 形	
Pit1	27.5 24.5 23.6	不 正 円 形		■■■(10)		Pit2	28.0 25.5 12.7	不 正 円 形	
Pit3	(32.0) 37.0 23.3	不 正 円 形		■■■(10)		Pit4	32.5 31.5 9.0	正 円 形	
Pit5	47.0 39.5 19.7	椭 圆 形		■■■(10)		Pit6	37.0 32.0 19.5	正 円 形	
Pit7	28.0 22.5 9.2	椭 圆 形		■■■(10)		Pit8	41.3 30.0 20.0	不 正 円 形	
Pit9	44.5 46.5 24.0	正 円 形		■■■(10)				■■■(10), ■■■(10)	
■■■■■	規 模(cm)	平 面 形		出 土 遺 物(破片数)		■■■■■	規 模(cm)	平 面 形	
遺構	長 軸 幅 軸 深さ	平 面 形		出 土 遺 物(破片数)		遺構	長 軸 幅 軸 深さ	平 面 形	
SA13	13-14H.13-14I	4間	7.21m	3間	4.06m	N-2°-W	1.85-1.72-1.68-1.96	1.30-1.38-1.38	古代
■■■■■	規 模(cm)	平 面 形		出 土 遺 物(破片数)		■■■■■	規 模(cm)	平 面 形	
遺構	長 軸 幅 軸 深さ	平 面 形		出 土 遺 物(破片数)		遺構	長 軸 幅 軸 深さ	平 面 形	
Pit1	43.5 29.8 22.9	不 正 円 形		■■■(10)		Pit2	35.0 26.0 19.0	椭 圆 形	
Pit3	55.0 41.3 33.3	椭 圆 形		■■■(10)		Pit4	(41.2) (24.0) 41.0	正 円 形	
Pit5	28.5 34.5 29.0	椭 圆 形		■■■(10)		Pit6	36.1 35.0 26.6	椭 圆 形	
Pit7	39.0 35.0 24.0	正 円 形		■■■(10)		Pit8	41.5 41.5 28.0	正 円 形	
Pit9	44.0 42.0 49.9	正 円 形		■■■(10)		Pit10	36.0 36.0 19.8	正 円 形	
Pit11	40.0 38.0 29.5	正 円 形		■■■(10)		Pit12	44.0 34.0 28.8	椭 圆 形	
Pit13	44.5 43.0 38.8	椭 圆 形		■■■(10-10)		Pit14	36.5 38.0 48.9	椭 圆 形	
■■■■■	規 模(cm)	平 面 形		出 土 遺 物(破片数)		■■■■■	規 模(cm)	平 面 形	
遺構	長 軸 幅 軸 深さ	平 面 形		出 土 遺 物(破片数)		遺構	長 軸 幅 軸 深さ	平 面 形	
SA12	12-13J.12-13K	4間	5.75m	3間	3.22m	N-33°-E	1.82-1.49	(0.89)-1.42-2.02-1.42	古代?
■■■■■	規 模(cm)	平 面 形		出 土 遺 物(破片数)		■■■■■	規 模(cm)	平 面 形	
遺構	長 軸 幅 軸 深さ	平 面 形		出 土 遺 物(破片数)		遺構	長 軸 幅 軸 深さ	平 面 形	
Pit1	38.0 (32.0) 14.0	椭 圆 形		■■■(10)		Pit2	48.0 47.0 12.0	不 正 円 形	
Pit3	50.0 29.5 38.6	椭 圆 形		■■■(10)		Pit4	47.0 46.0 43.2	不 正 円 形	
Pit5	59.0 55.5 44.4	椭 圆 形		■■■(10)		Pit6	47.0 (37.0) 66.0	不 定 形	
Pit7	69.0 54.0 43.9	椭 圆 形		■■■(10)		Pit8	52.5 (31.0) 35.8	椭 圆 形	
Pit9	28.5 22.0 18.6	椭 圆 形		■■■(10)		Pit10	23.0 23.0 19.3	正 円 形	
Pit11	31.0 26.0 38.5	不 正 円 形		■■■(10)		Pit12	43.5 34.0 21.1	椭 圆 形	
■■■■■	規 模(cm)	平 面 形		出 土 遺 物(破片数)		■■■■■	規 模(cm)	平 面 形	
遺構	長 軸 幅 軸 深さ	平 面 形		出 土 遺 物(破片数)		遺構	長 軸 幅 軸 深さ	平 面 形	
SA13	11-12J.11-12K	4間	7.86m	2間	3.50m	N-38°-E	1.30-2.29	(1.89)-(1.92)-2.09-1.95	古代?
■■■■■	規 模(cm)	平 面 形		出 土 遺 物(破片数)		■■■■■	規 模(cm)	平 面 形	
遺構	長 軸 幅 軸 深さ	平 面 形		出 土 遺 物(破片数)		遺構	長 軸 幅 軸 深さ	平 面 形	
Pit1	54.0 (29.0) 19.8	不 正 円 形		■■■(10)		Pit2	31.0 29.0 21.3	椭 圆 形	
Pit3	48.0 32.0 19.0	椭 圆 形		■■■(10)		Pit4	55.0 53.0 25.5	不 正 円 形	
Pit5	65.0 56.0 19.0	椭 圆 形		■■■(10)		Pit6	48.0 41.8 22.8	椭 圆 形	
Pit7	47.5 (27.0) 33.4	椭 圆 形		■■■(10)		Pit8	140.0 69.0 66.0	不 定 形	
Pit9	21.5 23.5 9.2	不 定 形		■■■(10)		Pit10	51.5 (35.0) 42.8	椭 圆 形	
Pit11	56.0 48.0 45.0	正 円 形		■■■(10)		Pit12	54.5 42.0 22.5	不 正 円 形	
Pit13	46.5 39.0 45.1	椭 圆 形		■■■(10)		Pit14	47.0 42.0 22.9	正 円 形	
Pit15	39.0 (32.0) 45.0	椭 圆 形		■■■(10)		Pit16	48.0 47.0 12.0	不 正 円 形	
■■■■■	規 模(cm)	平 面 形		出 土 遺 物(破片数)		■■■■■	規 模(cm)	平 面 形	
遺構	長 軸 幅 軸 深さ	平 面 形		出 土 遺 物(破片数)		遺構	長 軸 幅 軸 深さ	平 面 形	
SA14	9-10K.9-10L	3間	5.18m	2間	3.05m	N-38°-E	1.54-1.69-1.95	1.05-2.00	中-近世
■■■■■	規 模(cm)	平 面 形		出 土 遺 物(破片数)		■■■■■	規 模(cm)	平 面 形	
遺構	長 軸 幅 軸 深さ	平 面 形		出 土 遺 物(破片数)		遺構	長 軸 幅 軸 深さ	平 面 形	
Pit1	49.0 (31.0) 37.0	不 正 円 形		■■■(10)		Pit2	32.0 27.0 28.0	椭 圆 形	

第12頁 針田遭跡SA一覽表 (4)

第13表 針田遺跡SA一覧表(5)

遺構番号	出土グリッド	風 檐			主軸方位	柱 囲 の 断 面 (m)			備 考	
		前 行	後 行	主軸方位		南北方向・西面(北から)		東西方向・北面(東から)		
SA19	9-108.9-101	2回	4.18m	1回	3.00m	N-11° - E	1.98-2.20		3.00	中・近世?
遺構番号	風 檻(cm)	平 面 形	出 土 遺 物(破片数)	遺構番号	風 檻(cm)	長 軸	短 軸	深 底	平 面 形	出 土 遺 物(破片数)
Pit1	35.5	31.0	8.5	楕 円 形	Pit2	51.5	42.0	18.5	楕 円 形	
Pit3	19.0	18.0	10.2	正 円 形	Pit4	28.0	24.0	12.4	楕 円 形	壁(B)
Pit5	28.0	26.0	8.8	正 円 形	Pit6	45.0	38.0	8.0	楕 円 形	
Pit7	(41.0)	(30.0)	21.1	楕 円 形	Pit8	52.0	35.0	12.5	不正円形	壁(B)
Pit9	48.0	(37.0)	20.5	不 定 形	Pit10	45.0	38.5	16.0	楕 円 形	
Pit11	(44.0)	(31.0)	16.2	楕 円 形	Pit12					
遺構番号	出土グリッド	風 檻			主軸方位	柱 围 の 断 面 (m)			備 考	
SA20	101	2回	3.86m	2回	2.30m	N-30° - E	0.92-1.40		1.48-2.38	
遺構番号	風 檻(cm)	平 面 形	出 土 遺 物(破片数)	遺構番号	風 檻(cm)	長 軸	短 軸	深 底	平 面 形	出 土 遺 物(破片数)
Pit1	44.5	43.0	29.2	正 円 形	Pit2	35.0	29.0	9.7	楕 円 形	
Pit3	45.0	19.0	17.5	不 定 形	Pit4	38.5	38.0	18.0	不正円形	壁(B), 壁(E)
Pit5	26.5	23.0	19.5	楕 円 形	Pit6	55.0	54.5	55.2	正 円 形	壁(E)
Pit7	54.0	47.0	39.5	楕 円 形	Pit8	39.5	38.0	17.0	不正円形	
遺構番号	出土グリッド	風 檻			主軸方位	柱 围 の 断 面 (m)			備 考	
SA21	SE-5-6L	3回	5.76m	2回	4.12m	N-31° - E	2.02-2.10		0.58-2.68-2.10	
遺構番号	風 檻(cm)	平 面 形	出 土 遺 物(破片数)	遺構番号	風 檻(cm)	長 軸	短 軸	深 底	平 面 形	出 土 遺 物(破片数)
Pit1	64.0	38.0	45.2	不正円形	Pit2	37.0	22.5	23.6	不正円形	
Pit3	38.0	26.5	11.5	楕 円 形	Pit4	102.0	(95.0)	12.0	正 円 形	
Pit5	51.0	42.5	42.5	不正円形	Pit6	(45.0)	(28.0)	42.0	不 定 形	
Pit6	38.0	16.5	8.5	不正円形	Pit8	45.0	43.0	51.5	楕 円 形	
遺構番号	出土グリッド	風 檻			主軸方位	柱 围 の 断 面 (m)			備 考	
SA22	71.6-72	5回	2.45 m	3回	2.87m	N-20° - E	1.06-1.08-1.03		0.58-0.99-0.73-0.58-0.56	
遺構番号	風 檻(cm)	平 面 形	出 土 遺 物(破片数)	遺構番号	風 檻(cm)	長 軸	短 軸	深 底	平 面 形	出 土 遺 物(破片数)
Pit1	33.0	(24.0)	56.0	不正円形	Pit2	(30.0)	28.5	17.5	不正円形	壁(E)
Pit3	(24.0)	17.0	14.0	楕 円 形	Pit4	34.0	(24.0)	12.0	楕 円 形	
Pit5	22.0	20.0	11.5	正 円 形	Pit6	29.0	23.0	34.0	不正円形	
Pit7	34.0	(28.5)	24.5	楕 円 形	Pit8	33.0	28.5	19.0	不正円形	
Pit9	25.0	23.5	28.5	正 円 形	Pit10	29.0	25.0	24.5	不正円形	壁(E)
Pit11	(25.0)	23.0	15.0	不正円形	Pit12	28.0	17.0	19.5	楕 円 形	
遺構番号	出土グリッド	風 檻			主軸方位	柱 围 の 断 面 (m)			備 考	
SA23	5-61.6J	3回	3.59m	2回	3.16m	N-28° - E	1.32-0.84		0.49-1.47-1.43	
遺構番号	風 檻(cm)	平 面 形	出 土 遺 物(破片数)	遺構番号	風 檻(cm)	長 軸	短 軸	深 底	平 面 形	出 土 遺 物(破片数)
Pit1	57.0	53.0	60.0	不正円形	Pit2	22.0	20.0	18.0	正 円 形	
Pit3	21.5	19.0	9.0	不正円形	Pit4	20.0	19.5	13.5	不正円形	
Pit5	23.5	21.0	6.0	正 円 形	Pit6	41.5	35.0	48.5	楕 円 形	
Pit7	28.0	25.0	30.0	不正円形	Pit8	36.0	25.0	31.5	不 定 形	
遺構番号	出土グリッド	風 檻			主軸方位	柱 围 の 断 面 (m)			備 考	
SA24	71-2	3回	2.96m	2回	2.48m	N-51° - E	0.96-1.52		0.73-1.09-1.23	

第14表 針田道路SA一覧表(6)

SA24(横手)				SA25(横手)				SA26(横手)			
直 線 長 度 m	曲 率 半 径 m	切 れ 角 度 度	平 面 形 状	直 線 長 度 m	曲 率 半 径 m	切 れ 角 度 度	平 面 形 状	直 線 長 度 m	曲 率 半 径 m	切 れ 角 度 度	平 面 形 状
Pit1 25.0 23.0 15.0 不正規円形				Pit2 32.0 25.5 26.5 楕円形							
Pit3 46.0 29.0 22.0 楕円形				Pit4 37.0 32.0 26.5 楕円形							
Pit5 22.0 26.0 16.0 正円形				Pit6 24.0 17.0 14.0 楕円形							
Pit7 58.0 53.0 21.0 不定形				Pit8 45.0 26.5 6.5 不定形							
Pit9 36.0 34.0 15.0 正円形				Pit10 28.0 22.0 31.0 不正規円形							
直 線 長 度 m	出 土 グ リ ッ ド	規 格	主 要 方 位	規 格	主 要 方 位	規 格	主 要 方 位	規 格	主 要 方 位	規 格	主 要 方 位
SAS25 6-71.7E	3回	4.95m 2周 2.88m N-45°-E				南北方向・西面(北から)	東西方向・北面(東から)				参考
直 線 長 度 m	出 土 グ リ ッ ド	規 格	主 要 方 位	規 格	主 要 方 位	規 格	主 要 方 位	規 格	主 要 方 位	規 格	主 要 方 位
Pit1 48.0 35.5 22.0 不正規円形 SHH-SHD				Pit2 79.0 77.0 26.0 楕円形							
Pit3 51.0 36.0 28.0 楕円形				Pit4 34.0 38.0 34.0 楕円形							
Pit5 72.0 44.0 51.5 楕円形				Pit6 24.0 24.5 32.5 楕円形							
Pit7 39.0 35.0 6.0 不正規円形				Pit8 40.0 35.0 40.0 不正規円形							
Pit9 26.5 26.0 28.5 正円形				Pit10 25.0 23.5 26.5 楕円形							
直 線 長 度 m	出 土 グ リ ッ ド	規 格	主 要 方 位	規 格	主 要 方 位	規 格	主 要 方 位	規 格	主 要 方 位	規 格	主 要 方 位
SAS26 11L.12-12N	3回	5.52m 2周 1.61m N-10°-E				南北方向・西面(北から)	東西方向・南面(東から)				参考
直 線 長 度 m	出 土 グ リ ッ ド	規 格	主 要 方 位	規 格	主 要 方 位	規 格	主 要 方 位	規 格	主 要 方 位	規 格	主 要 方 位
Pit1 42.0 36.0 57.0 滝丸二角形				Pit2 91.0 (51.0) 33.0 不定形 SHH-SHD-SHH-SHD							
Pit3 52.0 58.0 59.0 滝丸二角形				Pit4 48.0 (65.0) 49.4 正円形 SHH-SHD							
Pit5 68.0 62.0 9.2 楕円形				Pit6 38.0 38.2 54.8 不正規円形 SHH-SHD							
Pit7 48.5 33.0 38.0 不正規円形 SHH-SHD				Pit8 38.5 26.5 22.0 不正円形 SHH-SHD-SHH-SHD							
Pit9 22.0 26.0 52.2 正円形				Pit10 71.5 65.5 33.7 正円形 SHH-SHD-SHD							
Pit11 58.5 63.0 28.6 楕円形											
直 線 長 度 m	出 土 グ リ ッ ド	規 格	主 要 方 位	規 格	主 要 方 位	規 格	主 要 方 位	規 格	主 要 方 位	規 格	主 要 方 位
SAS27 11-12K.11-12N	4回	6.78m 2周 1.75m N-45°-E				南北方向・西面(北から)	東西方向・北面(東から)				参考
直 線 長 度 m	出 土 グ リ ッ ド	規 格	主 要 方 位	規 格	主 要 方 位	規 格	主 要 方 位	規 格	主 要 方 位	規 格	主 要 方 位
Pit1 25.0 (5.0) 16.0 平内形				Pit2 33.0 25.0 28.2 楕円形 SHH-SHD							
Pit3 37.0 (31.0) 26.7 楕円形				Pit4 34.5 (25.0) 14.4 楕円形 SHH-SHD							
Pit5 42.5 30.0 28.0 不正規円形				Pit6 53.0 49.0 24.8 楕円形 SHH-SHD-SHH-SHD							
Pit7 41.0 32.0 24.0 滝丸二角形				Pit8 28.0 34.0 38.0 楕円形 SHH-SHD-SHD							
Pit9 22.5 30.0 45.0 正円形				Pit10 16.0 16.0 5.4 不正円形							
Pit11 21.0 19.5 18.5 楕円形											
直 線 長 度 m	出 土 グ リ ッ ド	規 格	主 要 方 位	規 格	主 要 方 位	規 格	主 要 方 位	規 格	主 要 方 位	規 格	主 要 方 位
SAS28 11-12P.18-19Q	3回	5.11m 3回 4.65m N-23°-E				南北方向・西面(北から)	東西方向・南面(東から)				参考
直 線 長 度 m	出 土 グ リ ッ ド	規 格	主 要 方 位	規 格	主 要 方 位	規 格	主 要 方 位	規 格	主 要 方 位	規 格	主 要 方 位
Pit1 35.0 34.0 14.0 正円形				Pit2 51.0 27.0 15.0 楕円形 SHH-SHD							
Pit3 48.0 40.0 23.0 楕円形 SHH-SHD				Pit4 51.5 41.0 48.8 不正円形							
Pit5 28.0 24.0 21.0 正円形				Pit6 28.0 45.0 36.0 正円形							
Pit7 49.0 46.0 38.0 不正規円形				Pit8 41.0 36.3 29.0 正円形							
Pit9 31.4 36.0 27.5 不正円形				Pit10 16.2 (31.0) 11.4 正円形							
Pit11 42.0 31.0 33.0 楕円形 SHH-SHD-SHD				Pit12 29.3 35.5 12.1 楕円形							
Pit13 29.0 22.0 34.0 楕円形				Pit14 27.0 23.0 39.0 滝丸二角形							

第15表 針田遺跡SA-1監表(7)

遺構番号	出土グリッド	風 横		主軸方位	柱間の距離(m)				備考
		前 行	後 行		南北方向・西面(北から)		東西方向・北面(東から)		
SA29	19-200.19P	2回	1.86m	2回	3.32m	N-35°-E	2.69-1.81	1.82-1.50	
遺構番号	風 横(cm)	平 面 形	出 土 遺 物(破片数)	主軸方位	風 横	長 軸	短 軸	深さ	備考
Pit1	40.0	39.2	44.1	正 円 形	Pit2	34.9	23.8	8.7	不正円形
Pit3	29.0	25.9	22.4	椭 円 形	Pit4	129.0	71.0	39.0	椭 円 形
Pit5	33.0	31.8	29.7	椭 円 形	Pit6	36.0	24.0	42.8	正 円 形
Pit7	46.4	40.3	36.7	正 円 形	Pit8	37.0	32.7	46.0	不正椭円形
Pit9	29.3	32.8	25.4	椭 円 形					
遺構番号	風 横(cm)	平 面 形	出 土 遺 物(破片数)	主軸方位	風 横	長 軸	短 軸	深さ	備考
SA30	19-200.20P	2回	4.05m	2回	3.55m	N-35°-E	1.05-1.50	2.05-2.00	中・近世?
遺構番号	風 横(cm)	平 面 形	出 土 遺 物(破片数)	主軸方位	風 横	長 軸	短 軸	深さ	備考
Pit1	35.2	33.2	42.8	正 円 形	Pit2	44.2	42.0	38.4	正 円 形
Pit3	41.5	40.0	62.7	不正椭円形	Pit4	56.0	(40.0)	31.8	正 円 形
Pit5	45.5	43.5	47.0	不正椭円形	Pit6	56.0	35.0	41.7	不正椭円形
Pit7	28.4	25.8	32.5	不正円形	Pit8	33.3	19.5	24.1	椭 円 形
Pit9	21.8	20.2	15.0	不正円形	Pit10	41.8	28.0	15.0	椭 円 形
Pit11	42.5	40.0	42.6	不正円形	Pit12	34.3	21.1	22.7	椭 円 形
Pit13	22.3	18.8	21.2	椭 円 形					
遺構番号	出土グリッド	風 横		主軸方位	柱間の距離(m)				備考
SA31	190.19-20P	4回	3.10m	2回	2.53m	N-27°-E	1.48-1.05	0.64-0.63-0.67-1.16	
遺構番号	風 横(cm)	平 面 形	出 土 遺 物(破片数)	主軸方位	風 横	長 軸	短 軸	深さ	備考
Pit1	36.0	33.5	47.0	不正椭円形	Pit2	36.0	32.0	35.0	椭丸三角形
Pit3	54.0	50.0	57.0	正 円 形	Pit4	26.0	20.0	72.0	椭 円 形
Pit5	50.0	38.0	37.0	不 定 形	Pit6	38.0	32.0	18.0	椭 円 形
Pit7	35.0	38.0	16.4	椭 円 形	Pit8	22.0	22.2	14.5	不正円形
Pit9	28.7	25.3	26.5	不正円形	Pit10	26.0	24.0	42.8	正 円 形
遺構番号	出土グリッド	風 横		主軸方位	柱間の距離(m)				備考
SA32	28-21R	4回	5.21m	-一回	-一 m	N-18°-E		1.42-1.23-1.34-1.23	中・近世
遺構番号	風 横(cm)	平 面 形	出 土 遺 物(破片数)	主軸方位	風 横	長 軸	短 軸	深さ	備考
Pit1	32.5	30.0	47.0	正 円 形	Pit2	20.9	(12.0)	14.3	正 円 形
Pit3	28.0	22.0	14.0	不正椭円形	Pit4	30.5	13.2	7.8	不正椭円形
Pit5	38.7	(32.0)	13.0	不正円形	Pit6	39.5	28.5	27.1	不正円形
Pit7	19.0	17.0	18.2	椭 円 形	Pit8	22.0	19.5	14.0	正 円 形
遺構番号	出土グリッド	風 横		主軸方位	柱間の距離(m)				備考
SA33	21-22N.21-22D	4回	4.81m	2回	1.89m	N-30°-E	1.01-1.12-(L.60)-(L.02)	(L.67)-(L.22)	
遺構番号	風 横(cm)	平 面 形	出 土 遺 物(破片数)	主軸方位	風 横	長 軸	短 軸	深さ	備考
Pit1	37.0	35.0	43.0	正 円 形	Pit2	26.1	25.0	31.9	正 円 形
Pit3	34.5	38.5	38.8	椭 円 形	Pit4	39.5	28.3	43.3	椭 円 形
Pit5	29.8	36.7	38.7	不正椭円形					

第16表 針田遺跡SA一覧表(8)

遺構番号	出土グリッド	風 横		主 傾 方 向	柱 間 の 隅 頂 (m)		備 考
		北 行	東 行		南北方向・東西(北から)	東西方向・南北(東から)	
SA34 21-220		2回	2.00m	1回	2.10m	N-84°-E	2.10 (1.40-1.56)
Pit45	風 横(cm) 底 細 長 細 短	平 面 形	出 土 遺 物(破片数)	風 横(cm) 底 細 長 細 短	平 面 形	出 土 遺 物(破片数)	
Pit11 22.5	35.5 38.0 47.0	椭円形	BBB(1)	Pit12 25.5 33.5 43.0	正円形		
Pit13 27.0	25.0 28.4	不正円形		Pit14 27.0 19.2 62.6	椭円形		
Pit15 28.8	26.7 38.7	不正規円形		Pit16 35.9 37.5 33.0	椭円形		
遺構番号	出土グリッド	風 横		主 傾 方 向	柱 間 の 隅 頂 (m)		備 考
		北 行	東 行		南北方向・東西(北から)	東西方向・南北(東から)	
SA35 21-220.21F		2回	1.41m	- 一回 - m	N-32°-W	1.26-2.15	
Pit11	風 横(m) 底 細 長 細 短	平 面 形	出 土 遺 物(破片数)	Pit13	風 横(m) 底 細 長 細 短	平 面 形	出 土 遺 物(破片数)
Pit13 28.0	27.9 34.0	椭円形		Pit13 31.0 26.0 48.0	椭円形		
Pit15 28.8	21.6 18.0	椭円形					

第17表 針田遺跡A区SD一覧表

遺構番号	出土グリッド	風 横(m)		水の流れた方向	出 土 遺 物(破片数)	備 考	順 号 番 号
		幅	深さ				
SD1 14-15L, 15M		1.46	0.18	北西 → 南東	BBB(1), BBB(2), BBB(2), BBB(3), BBB(3), BBB(3), BBB(3), BBB(3)		SD70
SD2 11L-12L, 10-13-14L 9-10-10L, 10M		0.89	0.16	南東 → 北西 北東→南西	BBB(5), BBB(5), BBB(5), BBB(5), BBB(5), BBB(5), BBB(5), BBB(5)		SD70
SD3 10L, 10L, 9-10L, 10M		1.45	0.27	北北東→南西	BBB(2), BBB(2), BBB(2), BBB(2), BBB(2), BBB(2), BBB(2), BBB(2)	SD 9の上流か?	SD70
SD4 8-12L, 7-10F		1.49	0.39	西西南→北北東	BBB(2), BBB(2), BBB(2), BBB(2), BBB(2), BBB(2), BBB(2), BBB(2)		SD70
SD5 K K K							
SD6 SL		0.28	0.12	西 → 東	BBB(1)	SKの可能性有り。	
SD7 S-7L-S-8L-S-8F		0.72	0.23	北西 → 南東 南西 → 北東	BBB(6), BBB(6), BBB(6), BBB(6), BBB(6), BBB(6)	SD 4を切る。	SD70
SD8 SI		0.56	0.20	西 → 東	BBB(4), BBB(4)		SD70
SD9 SW-SK		0.57	0.07	北北東→南西	BBB(1), BBB(1), BBB(1), BBB(1), BBB(1), BBB(1)	SD 3の下流か?	
SD10 SW		0.44	0.16	北北東→南西	BBB(1), BBB(1)		SD70

第18表 針田遺跡B区SD一覧表

遺構番号	出土グリッド	風 横(m)		水の流れた方向	出 土 遺 物(破片数)	備 考	順 号 番 号
		幅	深さ				
SD1 22-23S		1.22	0.19	北西 → 南東	BBB(1), BBB(5), BBB(5), BBB(1), BBB(1), BBB(1)		SD70
SD2 28-21N-20-21S		1.19	0.43	北東 → 南西	BBB(1), BBB(1), BBB(6), BBB(6), BBB(6)		SD70
SD3 18-19N, 19K		0.67	0.14	北西 → 南東			

第19表 針田遺跡A区SK-1観表 (1)

遺構 番号	出土グリッド	平面形	規 格(m)		切り合ひ面番 (<切られる。>切る)	出 土 遺 物 (破片数)	神 号	時期
			長	幅				
1 015		横 円 形	158.0	62.0	49.5	180(2), 888(1), 888(1)		古代
2 K16-17		長 方 形	98.0	88.0	22.2	>Pi135	180(2), 180(1), 888(1), 888(1), 9-298(1)	中世
3 L16-17		長 方 形	85.5	54.5	4.4			
4 L16-17, M16-17 不 定 形			106.8	(41.0)	7.0	<285	4-298(1)	中世
5 L16-17, M16-17 長 方 形			227.0	110.5	22.0	>284	180(2), 888(1)	古代
6 014		半 円 形	(187.0)	77.5	17.7		180(2), 888(1)	古代
7 J13-14		長 方 形	122.0	65.0	7.0			
8 H14		不 定 形	124.5	97.0	11.3			
9 H14		正 円 形	84.5	78.0	6.1			
10 M12-13		長 方 形	151.0	71.2	38.5		180(2), 180(1), 888(1), 888(1), 888(1), 888(1)	中世
11 M13		不 定 形	124.0	94.5	8.2	>Pi146	180(2), 888(1), 888(1), 888(1)	中世
12 K-L12		長 方 形	145.0	92.0	8.0	>SK13, <Pi135		中世
13 K-L12		長 方 形	(177.0)	92.0	8.0	<SK12, Pi125-265	180(1), 888(1), 888(1), 888(1), 888(1)	中世
14 L12		長 方 形	109.0	89.0	11.0		180(1), 888(1)	古代
15 灰塗								
16 G-H12		不正円形	122.0	115.8	25.1		180(2), 888(1), 888(1)	中世
17 H12		不正円形	76.0	67.0	48.2	>Pi154	180(1), 888(1), 888(1), 888(1)	古代
18 H12		不 定 形	91.0	65.0	32.5		180(2), 888(1), 888(1), 888(1)	中世
19 M11-12		正 円 形	107.5	106.0	26.6	>Pi126	180(2), 888(1), 888(1), 888(1)	中世
20 H12		横 円 形	96.0	89.0	11.5	<Pi117		古代
21 H12		横 円 形	(44.0)	35.0	11.5	<Pi117		古代
22 H12		正 円 形	92.0	89.5	12.8		180(2), 888(1), 888(1)	中世
23 H12		不 定 形	(82.0)	57.0	23.3		180(1)	古代
24 M15		不 定 形	139.0	88.3	12.0		180(1), 888(1)	古代
25 H11		長 方 形	124.0	54.0	4.0			
26 L-M12		不 定 形	112.0	87.0	32.2			
27 L13		不 定 形	60.0	48.0	14.6			
28 M-H11		不 定 形	156.0	122.5	21.0		180(2), 888(1), 888(1), 888(1), 888(1)	中世
29 H11		不 定 形	75.5	66.0	21.4	<Pi123		
30 H11		半 円 形	58.0	(62.0)	8.0	180(1)		中世
31 J13		長 方 形	112.0	62.0	13.0		180(1)	
32 G11		正 円 形	90.0	88.5	10.0		180(2), 888(1)	中世
33 G10-11		横 円 形	136.0	106.5	9.2			
34 H11		不 定 形	102.5	92.5	12.0		180(2), 888(1)	中世
35 L11-12, M11-12 不 定 形			153.0	78.5	25.0		180(1), 888(1), 888(1)	古代
36 L12		不 定 形	91.0	(51.0)	32.9	>Pi139	180(1), 888(1), 888(1)	古代
37 F10		不 定 形	(396.0)	58.5	35.5			
38 F10		不 定 形	(129.0)	65.0	18.0			
39 F9-10		横 円 形	137.0	86.0	29.0		180(1), 888(1), 888(1)	中世
40 L12		不 定 形	(117.5)	74.5	38.5	<Pi136		
41 G8		正 円 形	46.0	(44.0)	30.6		180(1), 888(1)	古代
42 G9		正 円 形	49.0	(45.0)	36.9		180(1), 888(1)	古代
43 G9		正 円 形	45.0	48.0	5.0		180(1), 888(1)	古代
44 H9		半椭円形	(227.0)	(45.0)	22.5			
45 I9		不正円形	132.5	119.0	11.0		180(1), 888(1)	古代
46 I8-9		正 円 形	99.5	98.0	23.0		180(1), 888(1)	古代
47 H-19		長 方 形	128.0	82.0	16.0	>2848	180(24-187), 888(182)	古代
48 I9		長 方 形	229.0	118.0	73.5	<2847	180(1)	古代
49 G8		長 方 形	184.0	(115.5)	76.0		180(1), 888(1), 888(1), 888(1), 888(1)	中世

第20表 計田道路A区SK-1観測表(2)

番號	出上り下り	F	平均距離	総延長(m)		測定日	測定時間	測定場所	測定員
				左側	右側				
59 G8	東	東	66.0	65.0	67.1	10/15/01	08:00~09:00	(<90%OK, >90%)	大川
59 G8	西	西	61.5	27.5	4.7				大川
59 G8	東	東	152.0	91.0	11.0	>7/14/00		95.0(OK)~95.0(OK), 95.0(OK)~95.0(OK), 95.0(OK)~95.0(OK)	中野
59 G8	西	西	146.0	74.0	6.5				中野
59 G8	東	東	146.0	95.0	11.0	>7/14/01		95.0(OK)~95.0(OK), 95.0(OK)~95.0(OK), 95.0(OK)~95.0(OK)	中野
59 G8	西	西	172.0	75.0	13.0	>7/14/01		95.0(OK)~95.0(OK), 95.0(OK)~95.0(OK)	中野
59 G8	東	東	173.0	73.0	4.5				中野
59 G8	西	西	61.0	62.0	66.0	<7/3/04			大川
59 G8	東	東	109.0	89.0	54.0	<7/3/02			中野
59 G8	西	西	146.0	95.0	11.0	>7/3/06		95.0(OK)~95.0(OK), 95.0(OK)~95.0(OK)	中野
59 G8	東	東	146.0	94.0	21.1	<7/14/00			中野
60 H11	東	東	762.0	81.5	23.5				中野
60 H11	西	西	762.0	86.0	44.0	>7/9/22			大川
61 H11	東	東	133.0	86.0	54.5				中野
61 H11	西	西	122.5	81.5	54.5	>7/9/27			中野
63 H11	東	東	186.0	94.0	45.0				中野
63 H11	西	西	185.0	100.0	45.0	<7/9/01		95.0(OK)~95.0(OK), 95.0(OK)~95.0(OK)	中野
64 L4	東	東	141.0	149.0	32.2				中野
64 L4	西	西	216.0	92.0	52.0	<7/9/01		95.0(OK)~95.0(OK)	中野
65 H4	東	東	143.0	66.0	14.5				中野
65 H4	西	西	143.0	66.0	14.5	>7/9/01		95.0(OK)~95.0(OK)	中野
67 H4	東	東	72.0	78.0	14.0				中野
67 H4	西	西	68.0	71.5	12.5	>7/9/01		95.0(OK)~95.0(OK)	中野
68 H4	東	東	186.0	94.0	54.0	>7/9/03			中野
69 J-83	東	東	116.0	93.0	51.2	<7/9/08		95.0(OK)~95.0(OK), 95.0(OK)~95.0(OK)	中野
70 J-83	西	西	126.0	94.5	21.5				中野
71 K7-3	東	東	187.0	63.0	24.0	>7/8/23			中野
72 K4	東	東	68.0	72.5	4.5				中野
73 J4	東	東	71.0	62.0	10.0	>7/9/14		95.0(OK)	中野
74 J4	西	西	108.0	96.0	18.0	<7/8/25		95.0(OK)~95.0(OK)	中野
75 J4	東	東	111.0	82.0	10.7	<7/8/14		95.0(OK)~95.0(OK), 95.0(OK)~95.0(OK)	中野
76 J3	西	西	109.0	172.0	24.4	<7/15/00		95.0(OK)~95.0(OK), 95.0(OK)~95.0(OK)	中野
77 J-13	東	東	156.0	75.0	5.4				中野
78 H4	東	東	187.0	117.0	64.5				大川
79 H4	西	西	116.0	112.5	25.5				中野
80 J-5	東	東	182.0	95.0	12.0	<7/15/13			中野
81 J5	西	西	151.0	115.0	12.0				中野
82 J5	東	東	175.0	94.5	54.5	>7/8/16		95.0(OK)~95.0(OK)	中野
83 K5-6, J5-6	東	東	160.0	94.5	44.5	>7/8/22		95.0(OK)~95.0(OK)	中野
84 J-5	西	西	192.0	155.0	39.7	>7/8/16		95.0(OK)~95.0(OK)	中野
85 K5	東	東	178.0	95.0	42.0				中野
86 J6	西	西	113.0	63.0	8.0	<7/9/07		95.0(OK)~95.0(OK)	中野
87 J6	東	東	182.0	74.0	14.0	>7/9/17		95.0(OK)~95.0(OK)	中野
88 J-96	東	東	105.0	71.0	24.0	>7/9/29		95.0(OK)~95.0(OK)	中野
89 J-15	西	西	116.0	66.0	42.0	>7/9/28		95.0(OK)~95.0(OK)	中野
90 J6	東	東	87.0	85.0	23.0	>7/9/1		95.0(OK)~95.0(OK)	中野
91 J6	西	西	108.0	93.5	26.5	<7/9/09		95.0(OK)~95.0(OK)	中野
92 J-96	東	東	93.0	72.0	19.0	>7/9/30		95.0(OK)~95.0(OK)	中野
93 J-96	西	西	111.0	85.0	19.2	<7/9/07		95.0(OK)~95.0(OK)	中野
94 J-15	東	東	182.0	60.0	5.5				中野
95 J6	西	西	141.0	105.0	56.0	>7/9/26			中野
96 J6	東	東	94.0	73.0	22.0	>7/9/19		95.0(OK)~95.0(OK)	中野
97 J6	西	西	105.0	98.0	66.2				中野
98 J-7	東	東	165.0	79.0	34.2				中野

第21表 針田道路A区SK一覧表(3)

遺構 番号	出土グリッド	平面形	規 格(cm)			切り合ひ 関係 (<切られる。>切る)	出 土 遺 物 (破片数)	神 田 番 号	時 期
			長 軸	短 軸	深 さ				
99	K-16	不定形	162.0	111.0	18.5		BB(B)・BB(D)、BB(E)、BB(F)		中世
100	BB	不正四角形	82.0	114.0	14.0				
101	J6	不正四角形	96.0	(56.0)	48.7		BB(BD)、BB(E)、BB(F)	第93回	近世
102	B5	長方形	121.0	(45.0)	19.0		BB(B)		古代
103	HIS-16	不定形	222.0	(73.0)	13.0				
104	J6	不定形	(169.0)	(86.0)	42.0				
105	HIS-17	不定形	156.0	109.0	56.0		BB(B)		古代
106	J6	不正四角形	(125.0)	71.0	41.5	<SK81-84			
107	L6-7, M6-7	長方形	177.0	86.0	14.5		BB(B)、BB(C)、BB(D)	第93回	中世
108	M7	不定形	98.0	(64.0)	14.5		BB(B)		中世
109	N7	不定形	155.0	95.0	18.0		BB(B)		中世
110	L6	平円形	(58.0)	(38.0)	37.7	<SK97	BB(B)、BB(C)		古代
111	L7	椭円形	71.0	51.0	25.5		BB(B)、BB(C)		古代
112	L7	椭円形	66.0	43.0	5.0	>SK113-115	BB(B)		中世
113	K7	不正四角形	(83.0)	78.0	11.0	<SK112、>SK115	BB(B)、BB(C)		中世
114	J6	不正四角形	85.0	71.0	23.0	>P1682-687	BB(B)	第93回	古代
115	K-L7	不定形	(68.0)	55.0	14.0	<SK112-113	BB(B)、BB(C)、BB(D)、BB(E)、BB(F)	第93回	中世
116	L11	不正四角形	94.0	76.0	68.0	>SK126	BB(B)、BB(C)		古代
117	K-L11	不定形	104.0	78.0	23.0	>SK127-P1688	BB(B)	第93回	古代
118	M7	長方形	128.0	54.0	21.0	BB(B)、BB(C)、BB(D)、BB(E)、BB(F)、 +BB(G)、BB(H)		中世	
119	L7-8, M7-8	不定形	256.0	192.0	22.0	>SK120	BB(B)、BB(C)、BB(D)	第93回	中世
120	M-8	不定形	(232.0)	11.0		<SK119	BB(B)、BB(C)、BB(D)、BB(E)、BB(F)、 +BB(G)、BB(H)	第93回	中世
121	J-K7	不定形	(146.0)	94.0	26.0	<P1730			
122	I7	不正四角形	129.0	76.0	16.5				
123	L9	不正四角形	102.0	92.0	57.5	<P1730、>P1792-793	BB(B)、BB(C)、BB(D)、BB(E)、BB(F)、 +BB(G)、BB(H)		近世
124	L9	不正四角形	(104.0)	95.0	44.0	<P1811、>P1812	BB(B)		中世
125	M7	不定形	57.0	(56.0)	3.0	<P1148			
126	L11	不定形	100.0	76.0	13.0	<SK116			古代
127	K11-12	不正四角形	85.0	56.0	53.5	<SK117			古代

第22表 針田道路B区SK一覧表(1)

遺構 番号	出土グリッド	平面形	規 格(cm)			切り合ひ 関係 (<切られる。>切る)	出 土 遺 物 (破片数)	神 田 番 号	時 期
			長 軸	短 軸	深 さ				
1	S22-23, R22	不正四角形	381.0	195.5	23.0	<P15-6-7-42-43	BB(B)・BB(C)、BB(D)、BB(E)、BB(F)		中世
2	L22	椭円形	81.0	(43.0)	18.0	<SK42			
3	R21-22, O21-22	不定形	633.0	259.0	28.0	<P149-52-53-243 >P1278	BB(B)・BB(C)、BB(D)、BB(E)、BB(F)、 BB(G)、BB(H)	第94回	中世
4	R-S21	椭円形	85.0	55.0	19.3		BB(B)、BB(C)、BB(D)		古代
5	R-S22	椭円形	121.3	70.0	24.0	<P125-26			
6	R22	椭円形	100.0	80.2	19.4				
7	R22	不正四角形	76.5	58.8	13.2				
8	R22	正四角形	76.8	67.0	5.7				
9	R22	椭円形	(111.0)	(41.0)	29.0	<P131-32			
10	Q-R21	椭円形	159.0	130.0	17.4	>P161	BB(B)・BB(C)、BB(D)、BB(F)	第94回	中世
11	P19-20	長方形	271.0	222.5	31.5	<P154-171-173	BB(B)・BB(C)、BB(D)、BB(E)、BB(F) BB(G)・BB(H)、BB(I)・BB(J)、BB(K)、 BB(L)・BB(M)	第94回	中世
12	Q-R21	椭円形	136.0	94.0	16.0	>P145、<P146-47	BB(B)		古代
13	O19-20	長方形	229.8	167.2	12.0	>SK16	BB(B)・BB(C)、BB(D)・BB(E)		中世
14	R19-20	椭円形	86.5	72.0	38.9	>P1118-SB3			
15	L20	長方形	(65.0)	62.0	14.0				
16	O19-20	不定形	281.0	222.0	6.0	<SK13-P1215			中世

第23表 鈴田遺跡A区Pit一覧表(1)

遺構 番号	出土グリット	平面形	規 格(cm)			切り合ひ 固 体 (<切られる、>切る)	出 土 遺 物 (破片数)	標 固 番 号	時期
			長 軸	短 軸	深 底				
1 K16		不正円形	49.0	46.0	37.2		188(4)		古代
2 K18		不正円形	35.5	33.0	26.5		188(2), 188(3), 188(4)		古代
3 K17		正 円 形	35.0	31.2	20.5				
4 K17		正 円 形	41.0	40.0	50.8		188(1)		古代
5 K18		不正円形	23.2	15.5	2.2				
6 K17		正 円 形	23.0	23.7	22.5		188(1)		中世
7 L18	土王者骨	72.0	41.0	14.5	<Pi1865		188(4)		
8 L17		不正円形	24.5	20.3	20.0				
9 L17		正 円 形	31.0	29.7	10.0				
10 L17		正 円 形	28.0	26.5	8.5		188(1)		古代
11 L17		不正円形	26.0	15.0	6.5		188(1)		古代
12 M17		不正円形	23.0	22.0	10.0				
13 K17		正 円 形	19.5	18.0	9.8				
14 O15		正 円 形	52.0	(47.1)	54.0		188(1), 188(2), 188(3)		古代
15 O15		正 円 形	57.0	(49.0)	32.5		188(1)		古代
16 P14		正 円 形	53.0	50.8	41.5		188(1)		古代
17 P14		不正円形	63.0	(59.5)	68.5		188(1), 188(2)		古代
18 P14		椭 圆 形	56.0	(21.0)	4.5				
19 P15		不正円形	68.0	69.0	46.5		188(1)-188(2), 188(3)		古代
20 J17		正 円 形	36.0	32.5	27.0				
21 J17		椭 圆 形	48.0	36.5	28.8		188(1)-188(2)		古代
22 J17		不正円形	41.0	40.5	24.5		188(1)		古代
23 J17		不正円形	39.0	37.5	28.4		188(1)		古代
24 J17		不正円形	38.0	33.0	33.0		188(1)		中世
25 K17		不正円形	54.0	47.8	18.8		188(1)		古代
26 K17		不正円形	48.0	43.0	5.5				
27 K17		不正円形	45.0	42.5	38.5		188(1), 188(2)		第95回 古代
28 K17		不正円形	54.0	51.0	38.0		188(1)		古代
29 K16		不正円形	64.5	53.9	24.5		188(1)		古代
30 K17		不正円形	61.0	56.0	36.5		188(1)		古代
31 K16		椭 圆 形	46.0	35.5	14.0				
32 E16		椭 圆 形	35.0	25.0	26.0				
33 E16		椭 圆 形	41.0	37.0	9.5				
34 E16		不正円形	46.0	31.0	10.8				
35 E16		椭 圆 形	46.0	36.8	59.0	<382	188(1), 188(2)		古代
36 E16		不正円形	59.0	46.0	45.5		188(1)		古代
37 E16		正 円 形	46.0	46.0	34.6		188(1)		古代
38 L17		正 円 形	44.0	44.0	17.5		188(1)		
39 L17		椭 圆 形	58.5	48.2	28.0	<Pi1394	188(1)		第95回 古代
40 E-L16		正 円 形	56.0	46.0	26.0		188(1)		古代
41 L16	土王者骨	35.0	32.0	29.4		188(1)		古代	
42 L16		正 円 形	39.0	38.5	31.5		188(1)		古代
43 L16		椭 圆 形	36.0	28.5	26.6				
44 L16	不 定 形	68.0	56.0	46.0		188(1)		古代	
45 L16		椭 圆 形	37.0	38.0	32.0		188(1)		
46 L16		不正円形	48.5	36.1	41.0	>Pi147			
47 L16		不正円形	44.0	(31.0)	27.7	<Pi146			
48 L16		正 円 形	84.0	80.0	7.8	>SK125	188(1), 188(2)		第95回 古代
49 L16		不正円形	43.0	39.0	35.2		188(1)		古代
50 L16		正 円 形	44.0	42.2	49.5	>Pi151	188(1)		古代

第24表 鈴田遺跡A区Pii一覧表(2)

遺物 番号	出土グリッド	平面形	幅(cm)			切り合ひ面 (<切られる。>切る)	出 土 薫 物 (破片数)	神 国 番 号	時 期
			長軸	短軸	深さ				
51 L15-16		楕円形	46.6	36.5	33.9	<Pi150	BB(B)		第95回 古代
52 L16		不正円形	41.2	38.0	34.2		BB(B)		古代
53 L16		不正円形	48.0	54.1	47.0		BB(B+D)		古代
54 L16		正円形	46.5	39.2	48.8		BB(B+D)		古代
55 L16		正円形	51.0	46.0	48.2		BB(B+D), BB(D)		第95回 古代
56 N16		楕円形	41.2	37.8	33.7				
57 N16		不正円形	47.0	28.0	17.5				
58 N16		楕円形	48.3	49.6	57.5				
59 N16		楕円形	(54.0)	48.0	52.0		BB(D)		古代
60 P14		半円形	(39.0)	38.5	38.2				
61 P14		半円形	(45.0)	27.5	28.0				
62 L-M16		不正円形	50.5	42.0	38.0		BB(D)		古代
63 L-M16		正円形	42.5	36.5	51.1		BB(B+D)		古代
64 E16		正円形	32.5	28.5	35.8	>Pi165			
65 E16		不正円形	50.0	37.5	32.0	<Pi164			
66 E16		不正円形	42.8	33.0	38.6		BB(B), BB(B+D)		古代
67 E15		楕円形	39.0	32.5	22.2				
68 E15		楕円形	59.5	45.5	28.2		BB(B+D)		古代
69 E15-16		不正円形	58.5	52.5	36.8		BB(B)		古代
70 L15		不正円形	70.0	66.5	38.3		BB(B), BB(D)		中世
71 L15		楕円形	31.8	25.0	38.1				
72 E15		不正円形	31.0	27.5	16.2				
73 E15		正円形	51.5	50.0	22.0		BB(B), BB(D)		古代
74 E15		不正円形	47.0	42.0	43.5				
75 E15		楕円形	59.2	(47.5)	21.5	<Pi176	BB(D)		中世
76 E15		楕円形	54.5	52.0	38.5	>Pi175			
77 E15		不正円形	25.5	23.0	7.0		BB(BD)		古代
78 E15		楕円形	48.5	35.8	28.8				
79 E15		不正円形	48.5	45.5	18.5	>Pi180			
80 E15		不正円形	42.5	(31.5)	38.5	<Pi179			
81 L15		楕円形	41.0	33.0	39.6		BB(D)		古代
82 L15		正円形	32.0	34.0	35.8		BB(B), BB(D)		古代
83 L15		楕円形	42.0	36.0	28.0		BB(D), BB(B)		古代
84 J-K14		不正円形	53.0	50.0	18.5				
85 J-K14		不正円形	52.0	41.5	15.0		BB(B), BB(D)		古代
86 E14		不正円形	57.5	57.0	17.0				
87 E14		不正円形	35.3	38.0	8.5				
88 E14		楕円形	44.0	39.0	15.5		BB(D)		
89 E14		不正円形	57.0	52.0	38.5		BB(B), BB(D)		第95回 中世
90 E14		正円形	47.0	45.0	42.0				
91 J14		楕円形	44.5	43.0	38.8		BB(B+D)		古代
92 O13-14		楕円形	45.0	35.0	19.0				
93 O14		楕円形	(38.0)	28.0	38.0	<Pi191			
94 O14		正円形	32.0	29.5	12.1	>Pi192			
95 O14		半楕円形	42.0	27.0	43.5				
96 O14		正円形	38.5	35.0	41.5				
97 N14		不正円形	54.0	41.0	19.1		BB(B)		古代
98 N14		不正円形	26.0	24.5	16.2	>Pi195			
99 N14		不正円形	(25.5)	18.5	18.0	<Pi198			
100 N14		不正円形	37.0	38.0	38.5				

第25表 针田遺跡A区Pit一覧表(3)

遺構 番号	出土グリッド	平面形	規 格(cm)			切り合ひ 四 頂 (<切らる。>切ら)	出 土 貨 物(破片数)	移 国 番 号	時 代
			長 幅	短 幅	深 底				
101	M14	椭円形	28.0	19.0	46.5				
102	I15	正円形	43.5	41.0	30.8				
103	I15	正円形	26.2	24.5	13.5				
104	B-115	半円形	30.5	14.0	17.0				
105	I15	不正円形	62.0	38.5	36.5	<Pi1106-566			
106	I15	不正円形	42.0	35.5	36.0	>Pi1105			
107	B14-15	正円形	28.5	28.5	28.2				
108	B14-15	不正円形	38.0	26.5	14.2				
109	I14	椭円形	35.5	26.2	33.8		BB(BD)		古代
110	I14	不正円形	43.5	29.8	22.9		BB(BD)		古代
111	I14	椭円形	36.5	30.0	48.9				
112	B13	正円形	23.5	23.0	16.0				
113	B13	椭円形	26.5	25.5	19.7		BB(BD)		古代
114	B13	正円形	44.5	40.5	24.0		BB(BD)		古代
115	B13	椭円形	39.0	33.1	21.0		BB(BD)		
116	B13	不正円形	41.3	36.0	26.0		BB(BD), BB(BD)		古代
117	I13-14	椭円形	35.0	26.0	19.0		BB(BD)		古代
118	I13	椭円形	55.0	41.3	33.3		BB(BD)		第55回 古代
119	I13	正円形	37.8	34.2	29.9		BB(BD)		古代
120	I13	椭円形	39.5	34.5	35.4		BB(BD), BB(BD)		第55回 古代
121	I13	正円形	37.0	32.0	19.5		BB(BD)		古代
122	I13	椭円形	47.0	39.5	19.7		BB(BD)		古代
123	I13	椭円形	26.1	25.0	20.6				
124	I13	椭円形	32.0	24.5	15.7				
125	I14	正円形	29.0	26.0	12.5		BB(BD)		古代
126	I14	椭円形	33.0	24.0	8.9				
127	I14	不正円形	58.0	38.0	9.0				
128	B13	不正円形	42.0	22.1	18.8				
129	B13	椭円形	29.5	23.5	42.5				
130	B13	椭円形	36.5	29.0	6.4		BB(BD), BB(BD)		中世
131	I13	椭円形	28.0	23.5	9.2				
132	I13	椭円形	26.0	23.0	28.7		BB(BD)		第56回 中世
133	I13	正円形	36.5	34.0	16.8		BB(BD)		古代
134	I13	正円形	67.0	64.5	15.5	>Pi1135	BB(BD), BB(BD)-BB(BD)		古代
135	I13	正円形	(41.2)	(24.0)	41.0	<Pi1134	BB(BD)		古代
136	I13	正円形	32.2	30.0	19.0		BB(BD)		古代
137	I13	椭円形	39.5	34.5	29.0		BB(BD)		古代
138	I13	正円形	32.5	31.5	9.0				
139	I13	不正円形	34.0	22.0	25.3				
140	I13	正円形	48.0	47.0	14.0				
141	M13	椭円形	(46.0)	45.0	37.8	<Pi1142			
142	M12-13	椭円形	53.0	44.0	28.3	>Pi1141	BB(BD)-BB(BD)		古代
143	M13	正円形	37.0	36.0	47.3				
144	M13	不正円形	32.0	28.8	23.3				
145	M13	正円形	72.2	70.5	40.4		BB(BD), BB(BD)-BB(BD)		第56回 古代
146	M13	不正円形	65.0	55.0	31.0	<BB(BD)			
147	L-M16	不正円形	36.5	33.5	17.5				
148	M16	椭円形	30.0	21.0	13.0	>Pi1149			
149	M16	椭円形	35.5	29.5	60.0	<Pi1148	BB(BD)		古代
150	M15-16	不正円形	26.5	23.5	25.0		BB(BD), BB(BD)-BB(BD)		第56回 中世

第26表 鈴田遺跡A区Pit-1観察表(4)

遺構 番号	出土グリッド	平面形	規 模(cm)			切り合ひ 四隅 (<切られる。>切る)	出 土 遺 物 (破片数)	種 別 番 号	期 間
			長 軸	短 軸	深 さ				
151	M15-16	半 円 形	29.0	9.0	16.5				
152	H12	不正円形	22.0	29.0	16.5				
153	H12	椭 円 形	41.5	27.0	28.0		BBB(BD)		古代
154	H12	不正円形	37.0	23.5	33.0	<5817	BBB(BD)		古代
155	H12	半 円 形	28.0	29.0	26.0		BBB(BD)		古代
156	H12	不正円形	38.0	26.5	14.2				
157	H12	椭 円 形	33.0	29.0	28.2		BBB(BD)		
158	W-H12	正 円 形	25.5	24.0	21.0				
159	H12	不正円形	45.0	40.5	39.0				
160	H12	不正円形	48.5	33.0	30.6		BBB(BD)		古代
161	H12	不正円形	38.5	34.5	27.0		BBB(BD)、BBB(BD)		古代
162	H12	半 円 形	59.0	39.0	38.0		BBB(G)	第94回	古代
163	H12	不正円形	38.0	25.0	12.8				
164	H12	不正円形	54.5	51.0	31.0				
165	H12	椭 円 形	33.5	26.0	33.7		BBB(BD)		古代
166	H12	半 円 形	38.0	31.2	51.8		BBB(BD)		古代
167	H12	正 円 形	38.0	27.2	25.0	>Pit168			
168	H12	椭 円 形	37.0	G1.D	26.7	<Pit167	BBB(BD)		
169	H12	椭 円 形	34.5	25.0	14.4	<Pit1179	BBB(BD)		古代
170	H12	正 円 形	34.0	30.0	12.5	>Pit169			
171	H12	不正円形	42.5	30.0	39.0				
172	H12	不 定 形	74.0	45.0	55.0	>5820-21	BBB(BD)		古代
173	H12	正 円 形	25.5	27.0	6.0				
174	H12-13	正 円 形	38.5	28.5	22.9				
175	H12	不正円形	27.5	24.5	23.6				
176	H12	正 円 形	17.8	17.2	4.0				
177	G-H12	椭 円 形	21.5	17.5	9.0				
178	H12	不 定 形	37.5	23.0	6.5				
179	H12	椭 円 形	38.0	27.5	29.0				
180	H12	椭 円 形	28.5	25.0	12.1				
181	H12	正 円 形	19.5	19.5	7.9				
182	H12	正 円 形	28.5	26.0	11.0				
183	H-112	正 円 形	22.0	31.0	24.0				
184	H12	正 円 形	29.5	28.0	13.6				
185	H12	不正円形	39.5	39.5	47.5				
186	H12	不正円形	28.0	25.5	13.7				
187	H-112	半 円 形	45.5	35.0	50.3				
188	H12	椭 円 形	26.0	21.0	51.5				
189	H-112	椭 円 形	29.0	25.5	8.2				
190	H12	椭 円 形	25.0	21.0	8.5		BBB(BD)		古代
191	H-112	不正円形	35.5	32.0	11.7	>Pit192			
192	H-112	不正円形	45.0	G3.0	44.7	<Pit193			
193	L15	正 円 形	45.0	44.0	41.0				
194	L15	不正円形	52.0	50.0	30.2		BBB(BD)、BBB(BD)		古代
195	M15	不正円形	23.0	22.0	47.0				
196	M15	不正円形	37.0	34.0	35.5				
197	M15	椭 円 形	43.0	33.0	16.5				
198	M15	不正円形	26.0	26.0	9.5	>Pit199			
199	M15	椭 円 形	45.0	26.5	9.0	<Pit198			
200	M15	不 定 形	36.0	24.0	27.9				

第27表 針田遺跡A区Pit一覧表(5)

遺構 番号	出土グリット	平面形	規 格(cm)			切り合ひ 四 頂 (<切られる、>切ら)	出 土 遺 物 (破片数)	神 国 番 号	時 代
			長	幅	深				
201	M15	不 定 形	48.0	34.0	9.8				
202	M15	不 定 形	77.0	56.0	31.0				
203	M15	不正円形	42.0	40.0	27.0		188(46)		
204	M14-15	不正円形	54.0	46.0	11.0				
205	M15	椭 圆 形	35.0	31.0	34.8				
206	L-M15	不正円形	56.0	38.0	24.7		188(40), 888(41)		中世
207	H11-12	椭 圆 形	21.0	23.0	12.0				
208	H11-12	正 圆 形	31.0	30.0	45.0		188(41)		古代
209	H11	不正円形	29.8	29.0	10.1				
210	H11	椭 圆 形	35.0	34.5	44.8				
211	M14	不正円形	32.0	32.0	21.0				
212	L-M14	不正円形	40.0	38.5	23.2				
213	L14	正 圆 形	42.0	39.0	45.0				
214	L13	椭 圆 形	48.0	45.0	14.5	>P11215	188(40)		古代
215	L13	椭 圆 形	88.3	67.0	39.4	<P11214			
216	N11	不正円形	52.5	48.0	31.5	<SK19			
217	N11	不正円形	48.0	33.0	26.5	<P11218	188(40), 888(41)		中世
218	N11	不正円形	34.0	28.0	17.0	>P11217			
219	N11	不正円形	32.0	26.0	18.5		188(40)		古代
220	N11	不正円形	33.0	28.5	14.5				
221	N11	椭 圆 形	21.0	19.5	16.5				
222	N11	椭 圆 形	23.5	23.0	12.8				
223	N11	不 定 形	38.5	31.0	42.5				
224	N11	椭 圆 形	42.5	32.5	46.0	>SK19			
225	N11	椭 圆 形	21.0	16.5	19.4				
226	N11	椭 圆 形	28.5	26.5	17.9				
227	N-N11	椭 圆 形	45.0	33.5	47.2				
228	N10	椭 圆 形	38.5	34.0	5.8		188(41)		第96回 中世
229	N10	椭 圆 形	39.0	32.0	13.9				
230	N10	椭 圆 形	29.0	26.0	26.3				
231	N10	正 圆 形	19.0	18.0	5.3				
232	N10-11	椭 圆 形	70.0	43.0	29.0				
233	N10	椭 圆 形	31.0	24.0	11.6				
234	N10	椭 圆 形	22.0	17.0	17.2				
235	N10	半 圆 形	48.0	26.0	6.2				
236	J13-14	椭 圆 形	44.0	34.0	28.8		188(40)		古代
237	J13	正 圆 形	48.0	38.0	28.9				
238	J13	正 圆 形	39.0	35.0	24.0				
239	J13	不正円形	29.0	23.0	3.4				
240	J13	正 圆 形	41.5	41.5	28.0				
241	J13	正 圆 形	44.0	42.0	45.9				
242	J13	正 圆 形	36.0	36.0	19.8				
243	J13	不 定 形	34.5	21.0	19.0		188(40)		第96回 中世
244	J13	不正円形	67.0	67.0	24.7				
245	J13	不正円形	38.0	38.0	22.0				
246	J13	正 圆 形	19.0	18.5	7.7				
247	L15	不正円形	39.0	38.0	36.5		188(41)		古代
248	L14-15	不正円形	35.0	35.0	28.7				
249	L14	不 定 形	41.0	28.0	4.8				
250	L14-15	椭 圆 形	44.0	35.5	29.0				

第28表 針田遺跡A区Pit一覧表(6)

番号	出土グリッド	平面形	規格			穿り合ひ回数 (<切られる、>切る)	出土遺物(破片数)	種類	時期
			長	幅	厚さ				
251	L14-15	楕円形	51.6	49.0	19.7	>Pit1252	188(10)		中世
252	L14	不定形	47.2	34.5	26.8	<Pit1251	188(10)		古代
253	L14	楕円形	25.0	22.0	21.6				
254	L14	正円形	21.0	18.5	15.0				
255	K14	正円形	22.0	21.0	24.2				
256	K-L14	楕円形	42.0	38.0	24.2				
257	L14	楕円形	42.5	33.0	16.5				
258	L14	不定形	41.0	38.0	31.2				
259	L14	楕円形	29.5	28.0	9.0	<Pit1260			
260	L14	不正円形	50.5	27.0	27.2	>Pit1259			
261	K-L14	正円形	58.5	54.0	33.2		188(10)		古代
262	L14	不正円形	49.0	46.5	32.2				
263	L13-14	楕円形	45.0	41.5	28.1				
264	L13-14	不正円形	49.0	35.0	11.5				
265	K14	楕円形	43.0	32.0	12.0		188(12-14), 188(10)		古代
266	K14	正円形	43.0	43.0	10.4				
267	K14	不正円形	45.0	34.5	16.1				
268	K14	楕円形	58.0	42.0	25.0	<Pit1269			
269	K14	楕円形	62.0	52.0	45.0	>Pit1268	188(10)		
270	K14	楕円形	38.0	26.0	26.2				
271	K14	楕円形	47.0	40.0	34.8				
272	K14	楕円形	52.0	49.0	38.2				
273	G11	正円形	42.5	42.0	19.0				
274	G11	楕円形	68.5	59.0	43.8				
275	G11	楕円形	51.7	35.0	28.5				
276	M11-12	不正円形	48.2	27.0	17.5	>Pit1273	188(10)		古代
277	M11	不正円形	(26.0)	35.0	26.0	<Pit1276			古代
278	M11	楕円形	53.0	49.5	34.8		188(10), 188(10)	第96回	古代
279	M11	楕円形	28.5	23.0	58.0				
280	M11	不正円形	28.0	17.0	15.0				
281	M11	不正円形	46.0	29.0	28.5				
282	M11	不正円形	28.0	22.0	26.2		188(10-11), 1-218(10)	第96回	中世
283	M11	不正円形	39.5	34.0	26.0		188(10)		
284	M11	正円形	32.5	30.0	43.0				
285	M11	楕円形	61.0	50.5	28.7		188(10)		
286	M11	正円形	26.0	22.0	13.5				
287	M11	不正円形	18.0	16.0	5.4				
288	M11	不正円形	42.0	24.5	24.7				
289	M11	不正円形	56.5	41.0	34.6		188(10-11)		
290	M11	不定形	61.0	27.0	18.1				
291	M12	半円形	38.0	(28.0)	23.5				
292	M12	不正円形	48.5	(20.0)	9.5	<Pit1293			
293	M12	不正円形	35.0	30.0	28.2	>Pit1292			
294	M12	正円形	22.0	20.5	16.5		188(10)		
295	M12	不正円形	(26.5)	(28.0)	33.6				
296	M12	不正円形	(33.0)	30.0	47.7				
297	M12	不正円形	27.0	(26.0)	28.6				
298	M12	不正円形	(27.0)	(19.0)	38.7		188(10)		
299	M12	不正円形	48.0	(43.0)	49.7				
300	M12	楕円形	48.0	24.0	22.0				

第29表 鉢田遺跡A区Pit一覧表(7)

遺構 番号	出土グリット	平面形	幅(cm)			切り合ひ・開口 (<切られる。>切る)	出土遺物(破片数)	堆積 番号	時期
			長	短	幅				
301	M12	楕円形	33.0	26.0	18.3				
302	M12	不正円形	49.0	28.0	17.0				
303	M12	楕円形	38.0	27.0	9.5				
304	M12	楕円形	48.0	35.0	16.1				
305	M12	正円形	22.0	22.0	12.2		BB(B), BB(D)		古代
306	M12	楕円形	30.0	22.0	9.3				
307	M12	楕円形	33.0	22.5	4.7				
308	M12	正円形	48.0	46.5	49.4		BB(D)		古代
309	M12	正円形	42.0	40.0	49.5				
310	M12	楕円形	24.0	23.0	4.8				
311	M12	楕円形	49.0	40.0	21.0				
312	M12	不正円形	36.0	27.0	12.7				
313	M12	楕円形	35.0	29.0	18.6				
314	M12	楕円形	39.0	29.5	14.6				
315	M12	楕円形	30.0	27.0	8.9				
316	M12	不定形	34.0	16.0	35.2				
317	M12	不定形	49.0	37.0	26.5				
318	L-M12	楕円形	52.5	48.0	41.4		BB(B)		古代
319	G12	不定形	39.0	36.5	15.4				
320	G12	不定形	49.0	23.0	5.0				
321	G12	不定形	45.0	38.0	7.2				
322	L12	楕円形	37.5	24.0	16.6	>Pi1323			
323	L12	楕円形	33.5	32.5	38.4	<Pi1322			
324	L12	不正円形	38.0	27.5	10.0				
325	L12	不正円形	28.5	27.0	27.8				
326	L12	不正円形	34.0	29.5	9.9	>Pi1327			
327	L12	楕円形	55.0	39.0	21.5	<Pi1326			
328	L12	正円形	23.0	22.0	7.5				
329	L12	半円形	28.0	15.5	16.5				
330	L12	不定形	33.0	22.0	26.4	>Pi1331	BB(B), BB(D)		古代
331	L12	不正円形	47.5	36.0	26.0	>Pi1330-332			
332	L12	不正円形	42.0	35.0	27.7	<Pi1331	BB(B), BB(D)		古代
333	L12	不定形	66.0	37.5	37.0				
334	L12-13, M12-13	不定形	49.0	32.0	29.7		BB(B)		古代
335	L-M12	正円形	71.5	65.5	33.7		BB(B), BB(D)		古代
336	L-M12	正円形	35.5	33.0	17.1		BB(B), BB(D), BB(M), BB(H)		中世
337	L12	楕円形	58.5	33.0	28.0	<Pi1338			
338	L12	正円形	74.0	44.0	22.0	>Pi1337	BB(D)		古代
339	L12	半円形	47.5	24.0	12.7	<Pi1348			
340	L12	正円形	47.0	44.0	28.2	>Pi1339	BB(D), BB(H)		古代
341	L12	不定形	29.5	27.0	9.8		BB(D)		
342	L12	不定形	36.0	30.0	18.5				
343	L12	正円形	40.5	39.0	32.0				
344	L12	不定形	21.0	31.0	38.6				
345	L12	楕円形	95.0	62.0	43.0	>Pi1346			
346	L12	不定形	(55.5)	(51.5)	24.6	>3848, <Pi1345			
347	L12	不定形	38.0	39.0	14.7		BB(D)		中世
348	L12	楕円形	36.0	28.0	14.7				
349	L12	不正円形	42.0	28.0	40.0	<Pi1350	BB(D)		古代
350	L12	不正円形	57.0	52.0	21.7	>Pi1349-351			

第30表 針田遺跡A区Pit一覧表(8)

遺構番号	出土グリット	平面形	規格(cm)			切り合ひ 固体 (<切られる。>切る)	出土遺物(破片数)	神 國 時代	時期
			長 幅	短 幅	厚さ				
351 L12		不正四角	58.0	56.0	46.2	<P11358	漆器(1), 銀鏡(1)		
352 L12		不正四角	38.0	28.0	16.5				
353 L12		椭円形	64.0	52.0	44.4	>SK12-13			
354 L12		不定形	34.0	21.0	10.3				
355 L-L12		不正四角	58.0	52.0	53.2	>SK13			
356 L12		不定形	41.0	32.0	26.7				
357 L13		椭円形	33.5	25.0	7.3				
358 L13		椭円形	31.0	28.5	11.0				
359 L13		椭円形	(32.0)	26.0	5.5				
360 L13		不正四角	65.0	60.0	16.5	>P11361			
361 L13		不正四角	46.0	44.0	4.6	<P11360			
362 L12		不正四角	31.0	23.0	4.5				
363 L13		椭円形	51.5	45.0	47.8	>P11364			
364 L13		不定形	62.0	(7.0)	41.7	<P11363			
365 L13		椭円形	38.0	29.0	10.0				
366 L13		正円形	56.0	48.0	45.0	<P11370			古代
367 L13		椭円形	46.5	39.0	45.1	>P11370	(漆器)		古代
368 L13		椭円形	28.5	22.0	18.6	>P11369			
369 L13		正円形	22.0	26.0	17.2	<P11368			
370 L13		不正四角	54.5	42.0	22.5	<P11367, >P11366			
371 G11		椭円形	27.0	22.0	34.0				
372 G11		椭円形	48.5	41.0	8.2				
373 G9		正円形	32.0	29.0	4.6				
374 G9		正円形	12.0	15.0	18.5	<P11375			
375 G9		不定形	31.0	23.0	5.5	>P11374			
376 G9		正円形	25.0	23.5	2.5				
377 B9		正円形	22.0	20.0	2.2				
378 B9		椭円形	54.5	42.0	18.5				
379 B9		椭円形	44.0	41.5	5.5				
380 B9		椭円形	35.5	31.0	8.5				
381 B9		椭円形	32.0	34.0	12.0				
382 B9		椭円形	91.0	58.5	24.5	<P11482			
383 B9		不正四角	(28.0)	(13.5)	17.9	<P11483			
384 B9		正円形	25.0	26.0	6.5				古代
385 B9		椭円形	62.0	57.0	26.0				古代
386 B9		不正四角	57.0	56.0	7.7				第36回 古代
387 B9		椭円形	64.0	54.5	9.5				古代
388 B9		正円形	23.0	27.0	8.0				
389 B10		椭円形	45.0	30.5	16.0				
390 B9		不正四角	(44.0)	(31.0)	22.5				
391 B9		不定形	43.5	(16.0)	11.0				古代
392 B9-10		不定形	48.0	(17.0)	38.5				古代
393 B9-10		不正四角	32.0	35.0	13.5				古代
394 G9		正円形	(19.0)	19.0	7.0	<P11395, >P1139			
395 G9		正円形	15.0	15.0	2.5	>P11394			
396 G9		椭円形	28.0	36.5	6.2				
397 B9		椭円形	34.0	24.0	23.0				
398 F9		椭円形	(44.0)	Q5.0	18.8				
399 L-W12		不正四角	37.0	Q5.0	29.0	<SK36			
400 J3		正円形	42.0	38.5	59.8				

第31表 針田遺跡A区Pit一覧表(9)

番号 品名	出土グリッド	平面形	規 格(cm)			切り 合 い 周 長 (<切られる、>切る)	出 土 貨 物 (破片数)	種 因 番 号	時 期
			長 幅	幅 厚	深 底				
401 L-96		正四角	25.0	25.0	31.2				
402 M6		半四角	(61.0)	32.0	19.0				
403 H9		椭四角	(43.5)	36.0	10.0		漆器(1)		古代
404 H9		椭四角	26.0	19.0	5.5		漆器(1)		中世
405 I9		正四角	28.0	26.0	8.8				
406 H-19		椭四角	28.0	24.0	12.4		漆器(1)		古代
407 H-19		正四角	19.0	18.0	10.2				
408 H-19		不定形	57.0	54.0	11.2		漆器(1), 漆器(2)		古代
409 H10		正四角	38.0	28.0	15.7				
410 I9-10		正四角	36.0	(35.0)	15.7	Pi1410-4122400304E			
411 I9		椭四角	(58.0)	34.0	14.8				古代
412 I9		椭四角	(43.0)	36.0	21.1	Pi1410-4122400304E			
413 I9		椭四角	45.0	38.0	8.0				
414 I9		椭四角	26.0	17.0	8.0		漆器(1)		古代
415 I9		不定形	31.0	22.5	8.3				
416 I9		不正四角	22.0	22.0	13.8				
417 I9		半四角	86.0	41.0	24.1		漆器(1)		中世
418 I9		不定形	91.0	37.0	26.9		漆器(1)		古代
419 G8		椭四角	32.5	20.0	16.7				
420 G8		不正四角	37.0	(26.0)	15.7				
421 G8		不正四角	(38.0)	35.5	11.0				
422 G8		椭四角	42.0	35.5	22.8				
423 G8		不正四角	36.0	32.0	8.5				
424 G8		椭四角	25.0	26.0	14.7				
425 G8		椭四角	46.0	32.0	12.0	>Pi1426	漆器(1)		古代
426 G8		椭四角	34.0	(33.0)	10.2	<Pi1425			
427 G8		不定形	(59.0)	(29.0)	7.5				
428 G8		不定形	35.0	30.0	10.2				
429 H7		椭四角	36.5	31.0	5.6				
430 H8		椭四角	38.0	34.0	25.3		漆器(1), 漆器(2)		古代
431 H8		椭四角	25.0	22.0	19.2				
432 H8		正四角	26.5	18.0	18.0				
433 H8		椭四角	22.5	19.0	10.8				
434 H8		正四角	23.5	21.0	23.4				
435 H8		椭四角	32.0	21.5	5.6				
436 H8		椭四角	19.0	17.5	6.5				
437 H8		正四角	28.0	26.5	21.5				
438 H7		正四角	27.0	25.5	37.0				
439 G8		椭四角	25.0	22.5	19.0				
440 H7		不正四角	(46.0)	33.0	38.0	<Pi1451			
441 J12		不正四角	31.0	28.0	38.2				
442 J12		不正四角	33.0	(25.0)	28.2	<Pi1442	漆器(1)		古代
443 J12		不正四角	45.0	31.0	35.5	>Pi1442			
444 J12		椭四角	43.5	34.0	21.1	>Pi1445			
445 J12		椭四角	50.0	29.5	39.6	<Pi1444			
446 J12		椭四角	35.0	(28.0)	18.8	Pi1446-400304E			
447 J12		椭四角	39.0	(32.0)	45.0	Pi1446-400304E			
448 J12		正四角	47.0	42.0	22.9				
449 J12		不正四角	37.0	27.0	14.2	>3859-Pi1450			
450 J12		椭四角	38.0	(32.0)	14.0	<Pi1449			

第32表 針田遺跡A区Pit一覧表(10)

遺構 番号	出土グリッド	平面形	規 格(cm)			切り合ひ面 (<切られる。>切る)	出 土 遺 物 (破片数)	種 別 番 号	時期
			長 軸	寛 軸	深 さ				
451 J12		不正円形	61.0	51.0	44.5	>P11452			
452 J11-12		不正円形	58.0	49.0	19.8	<P11451	BB(BD)		古代
453 J12		不定形	45.0	35.0	13.4				
454 J12		不定形	(41.0)	37.0	17.7	<P11456			
455 J12		不定形	25.0	23.0	13.2				
456 J11-12		不定形	32.0	30.0	5.5	>P11454			
457 J12		不正円形	48.0	42.0	12.0				
458 K12		不定形	40.5	40.0	16.8	>P11459	BB(BD)		
459 K12		不正円形	62.0	57.0	45.2	<P11458	BB(BD)		古代
460 K12		椭円形	21.5	22.5	22.0				
461 K12		不定形	25.5	23.0	7.0				
462 K12		椭円形	42.0	36.0	37.9	<P11463	BB(BD)		古代
463 K12		椭円形	52.5	41.0	35.8	>P11462	BB(BD)		古代
464 K12		椭円形	69.0	54.0	41.9		BB(BD)		古代
465 K12		不定形	24.5	23.5	9.2				
466 K12		椭円形	34.0	29.0	19.0	>P11467			
467 K12		椭円形	33.0	22.0	16.5	<P11466			
468 K12		椭円形	59.0	55.5	44.4				
469 K12		正円形	23.0	23.0	19.3				
470 K12		不定形	33.0	21.0	13.0				
471 K12		不正円形	25.0	23.0	32.5	>P11472	BB(BD)		古代
472 K12		椭円形	47.5	27.0	33.4	<P11471			古代
473 K12		不正円形	28.0	25.0	8.6				
474 J11-12, K11-12		不正円形	37.0	27.0	41.0				
475 J11-12, K11-12		不正円形	47.0	46.0	43.2		BB(BD)		古代
476 J11-12, K11-12		不正円形	53.0	28.0	42.2		BB(BD), BB(BD)		中世
477 K11		正円形	46.0	43.0	17.5				
478 K11		椭円形	65.0	56.0	19.0				
479 J-831		不正円形	55.0	53.0	25.5				
480 J11		不正円形	37.0	29.0	16.0				
481 P5		不定形	(16.5)	15.0	23.4				
482 P9-10		不定形	(12.0)	(5.0)	23.7				
483 P9-10		椭円形	(14.0)	(11.0)	16.2	>P11382-383			
484 P5		不正円形	52.5	28.0	21.0				
485 G5		不正円形	68.0	54.0	21.0	>P11488			
486 P5		椭円形	(16.5)	25.0	5.6	<P11487-488			
487 P5		不正円形	(31.5)	38.0	23.6	>P11486			
488 P5		不正円形	(23.0)	32.0	14.8	>P11486			
489 P5		正円形	28.5	26.0	25.7				
490 P-G5		正円形	44.5	43.0	24.3				
491 G5		不正円形	47.0	39.5	17.5				
492 J11		椭円形	31.0	29.0	21.3				
493 J11		椭円形	57.0	35.0	16.2		BB(BD)		
494 J11		椭円形	49.0	32.5	19.0		BB(BD)		古代
495 J11		不正円形	55.0	50.0	22.0		BB(BD), BB(BD)		古代
496 H11		椭円形	47.0	41.0	41.0				
497 H-111		椭円形	48.0	41.0	22.8				
498 J11		椭円形	42.0	39.0	11.8				
499 J11		不正円形	59.0	59.0	21.0		BB(BD)		古代
500 H9-11		正円形	55.0	54.5	55.2		BB(BD)		古代

第33表 犬田瀬跡A区FP-陶瓦(11)

番号	出土位置	層	断面		測定(2)	測定(1) (<30%失耗, >98%)	測定(2) (<30%失耗, >98%)	測定(1) (<30%失耗, >98%)	測定(2) (<30%失耗, >98%)	測定(1) (<30%失耗, >98%)
			左側	右側						
501 119	横円形	54.0	47.0	39.6						
502 119	横円形	26.5	23.0	16.5						
503 119	横円形	29.5	29.0	17.0						
504 119	不規則形	73.0	68.0	55.0						
505 119	横円形	64.5	63.0	52.2						
506 119	横円形	35.0	35.0	9.7						
507 119	不規則形	46.0	18.0	11.5						
508 119	不規則形	28.5	30.0	18.0						
509 14	横円形	32.5	38.0	3.0						
510 14	横円形	21.5	26.5	20.5						
511 14	不規則形	37.0	34.0	46.2						
512 14	横円形	29.0	35.0	38.5						
513 14	不規則形	98.0	121.0	24.0	<PT1514					
514 14	不規則形	35.0	35.0	26.0	>PT1512					
515 14	横円形	17.5	16.0	5.0						
516 14	横円形	28.0	22.0	47.1						
517 14	横円形	33.2	22.0	18.2						
518 84	横円形	34.0	128.0	65.1						
519 84	不規則形	91.5	58.0	14.5						
520 84	不規則形	28.0	33.0	8.0						
521 84	横円形	26.0	21.0	11.0						
522 84	不規則形	28.0	24.0	13.2						
523 84	横円形	58.0	58.0	10.2						
524 84	不規則形	24.0	22.0	16.5						
525 84	横円形	36.2	23.0	1.2						
526 84	横円形	29.0	27.0	34.5						
527 84	不規則形	32.0	27.0	17.0						
528 83	横円形	24.0	16.0	11.0						
529 83	横円形	22.0	28.0	18.5						
530 83	不規則形	23.0	23.0	2.5						
531 83	不規則形	36.0	31.0	65.7						
532 1-48	不規則形	91.0	58.5	49.0						
533 14	横円形	34.0	34.0	21.0						
534 14	不規則形	78.0	73.0	37.5						
535 24	不規則形	25.0	321.0	64.0						
536 14	不規則形	31.0	21.0	24.2						
537 14	不規則形	42.5	538.0	22.2	P1512-14-000000000000					
538 13	横円形	25.5	16.0	8.0						
539 14	不規則形	21.0	34.0	12.0						
540 13	不規則形	43.0	22.0	1.7						
541 13	横円形	24.0	62.0	19.0	P1512-13-000000000000					
542 14	不規則形	90.0	65.5	9.0						
543 14	不規則形	22.0	31.0	55.0						
544 14	不規則形	35.0	34.0	18.7						
545 13	横円形	88.0	15.0	21.0						

第34表 計画道路A区PA-最長表(12)

番号	路名	距離(km)	車種別			総台数	単位台数	備考
			乗用車	軽自動車	大型車			
551	J3	橋 P1 約	57.5	16.0	23.5	<P15486, >P165		
552	J4-5	橋 P1 約	44.0	35.0	37.4			
553	J5	下-4 P1 約	51.0	35.0	12.5	>S880		
554	J5	E P1 約	26.5	25.0	23.5			
555	J5	橋 P1 約	48.0	32.0	21.0			
556	J5	橋 P1 約 (P1)	24.0	26.0				
557	J5	橋 P1 約	37.0	32.0	16.0			
558	J5	下-4 P1 約	51.0	24.0	14.0	>P1659		
559	J5	下-4 P1 約	25.5	24.0	7.0	<P1654		
560	J5	橋 P1 約	38.0	26.5	11.5			
561	J5	橋 P1 約	42.0	34.5	12.5			
562	J5	下-4 P1 約	48.0	32.5	18.5			
563	J5	下-4 P1 約	31.0	22.5	12.0			
564	J5	下-4 P1 約	64.0	38.0	16.0			
565	J5	下-4 P1 約 (P1)	38.0	37.0	14.0			
566	J5	下-4 P1 約	43.0	41.0	17.0			
567	J5	橋 P1 約	45.0	43.0	16.5			
568	J5	橋 P1 約	29.0	26.5	20.0			
569	J5	E P1 約	29.0	19.5	11.7			
570	J5	E E P1 約	28.0	28.0	9.0			
571	J5	下-4 P1 約	26.5	25.0	10.5			
572	J5	E E P1 約	37.0	37.0	9.5			
573	J5	橋 P1 約	39.0	32.0	16.0	(P15486, P1659)		
574	J5	橋 P1 約	21.0	26.5	20.0	>P1656		
575	J5	下-4 P1 約	42.0	37.0	27.5			
576	J5	E P1 約	27.0	25.0	26.8			
577	J5	下-4 P1 約	36.5	33.0	16.0			
578	J5	橋 P1 約	28.0	31.0	26.0			
579	J5-6	下-4 P1 約	52.0	41.0	47.5			
580	J5-6	E P1 約	48.0	37.5	17.5			
581	J5	下-4 P1 約	16.5	15.0	9.5			
582	J5	橋 P1 約	24.0	28.0	5.0			
583	J5	E P1 約	27.0	26.0	24.0			
584	J5	E P1 約	22.0	22.0	21.5			
585	J5	下-4 P1 約	43.0	36.5	13.0			
586	J5	下-4 P1 約 (P1)	28.0	9.7	<P16514			
587	J5	下-4 P1 約 (P1)	66.0	55.0	22.5			
588	J5	下-4 P1 約	51.0	47.5	43.5			
589	J5	下-4 P1 約	25.0	33.0	18.0			
590	J5	下-4 P1 約	25.0	63.0	61.0	(P15486, P1659)		
591	J5	下-4 P1 約 (P1)	31.0	11.4		(P15486, P1659)		
592	J5	下-4 P1 約	22.0	23.5	13.0			
593	J5	下-4 P1 約	38.0	16.0	6.0			
594	J5	橋 P1 約	27.5	21.0	18.5			
595	J5	橋 P1 約	66.0	52.5	26.0	>P1659		
596	J5	下-4 P1 約 (P1)	34.0	18.0	<P1656			
597	J5	P1 約	23.0	26.0	34.0			
598	J5-7	橋 P1 約	44.0	39.0	40.0	(P15486, P1659)		
599	J5-7	橋 P1 約	26.0	27.0	56.0			
600	J5-7	E E P1 約	58.0	27.0	25.0	(P15486, P1659)		

第35表 針田遺跡A区Pt一覧表 (13)

遺構 番号	出土グリッド	平面形	規格(cm)			取り合ひ面積 (<切られる。>切る)	出土遺物(破片数)	神田 番号	時期
			長 辺	短 辺	深 さ				
601	K6-7	正円形	26.0	26.0	32.0				
602	K6-7	不定形	73.0	21.0	32.0				
603	K6	楕円形	34.0	32.0	12.0	>Pt1671			
604	K6	不定形	35.0	15.0	33.6				
605	K6	正円形	52.0	49.0	51.0		BBB(1), BBB(1)-BBB(1), BBB(1)-BBB(1)		9-12世
606	K6	不定形	42.0	22.0	26.0	Pt1671-BBB(1)-BBB(1)			
607	K6	不定形	46.0	31.0	38.0	Pt1671-BBB(1)-BBB(1)	BBB(1), BBB(1)-BBB(1), BBB(1)	第97回	9-12世
608	K6	正円形	33.0	33.0	34.5				
609	K6	楕円形	27.0	18.0	9.5		BBB(1), BBB(1)		中世
610	K6	不正円形	19.0	19.0	22.5				
611	K6	不定形	53.0	27.0	21.0				
612	K6	楕円形	29.0	25.0	13.0				
613	K6	楕円形	25.0	21.0	6.0				
614	K6	正円形	36.0	34.5	36.5		BBB(1)	第97回	中世
615	K6	楕円形	36.5	38.0	13.5	>Pt1676			
616	K6	楕円形	25.0	21.0	16.5	<Pt1675			
617	K6	楕円形	22.0	20.0	7.0				
618	K6	楕円形	28.0	26.0	25.5		BBB(1)		古代
619	K6	正円形	45.0	43.0	50.7				
620	K6	楕円形	30.0	27.0	6.0				
621	K6	楕円形	53.0	42.0	42.0	<Pt1674			
622	K6	楕円形	46.0	28.5	22.5				
623	欠番								
624	J6	不正円形	32.5	29.0	29.5		BBB(1)		古代
625	J6	不正円形	39.0	39.0	21.0		BBB(1)-BBB(1)		9-12世
626	J6	不正円形	49.0	42.0	35.0		BBB(1)		中世
627	J6	楕円形	26.5	23.0	17.5		BBB(1)		古代
628	J-6	不定形	43.0	34.0	39.5				
629	J-6	不定形	45.0	29.0	42.8				
630	K-12	楕円形	29.0	26.0	11.5				
631	J6	楕円形	40.0	33.5	51.7		BBB(1), BBB(1)-BBB(1)	第97回	9-12世
632	J6	不正円形	49.5	49.0	31.0				
633	J6	楕円形	36.5	27.0	34.0				
634	J6	楕円形	41.0	39.0	22.0				
635	J6	不定形	57.0	36.0	38.0	<Pt1677			
636	J6	楕円形	53.0	36.0	28.0				
637	J6	不定形	44.0	35.0	4.0				
638	J6	不正円形	50.0	48.0	47.8	<Pt1679			
639	J6	楕円形	79.0	77.0	26.0	>Pt1678	BBB(1)		古代
640	J6	不定形	40.0	34.5	32.0				
641	J6	不正円形	40.0	34.5	32.0	>Pt1642	BBB(1)		古代
642	J6-7	不定形	30.0	28.5	17.5	<Pt1641	BBB(1)		古代
643	K6	楕円形	16.0	15.0	11.0				
644	I5	正円形	22.0	20.0	18.0				
645	I5	不正円形	57.0	53.0	64.0				
646	I5	正円形	23.0	22.0	16.5				
647	I5	不正円形	31.5	26.0	18.5	<Pt1648			
648	I5	楕円形	26.0	22.5	11.5	>Pt1647			
649	I5	楕円形	30.5	23.0	9.5	<Pt1650			
650	I5	不定形	32.5	26.5	5.5	>Pt1649			

第36表 鈴田道路A区PH一覧表(14)

道構 番号	出上グリッド	平面形	面 積(cm <sup>2</sup> )			切り口 合 い 開 き (<切られる、>切る)	出上 土 道 物 (断片数)	神 河 番 号	時間
			長 辺	短 辺	深 さ				
651	15	不 定 形	22.5	28.5	27.0		BBB(D)		
652	15	半 円 形	32.0	32.0	25.0				
653	15	不正円形	23.5	19.0	9.0				
654	1-16	正 円 形	25.5	23.5	9.5				
655	1-16	不正円形	28.0	19.5	12.5				
656	16	半 円 形	28.5	31.0	8.0				
657	16	椭 円 形	41.5	35.0	40.0				
658	16	正 円 形	22.5	26.5	5.5				
659	16	不正円形	54.0	26.0	12.0				
660	16	椭 円 形	24.0	21.0	9.0				
661	16	半 定 形	28.0	25.0	21.5				
662	16	不正円形	28.0	25.0	26.0				
663	16	不正円形	23.0	21.0	12.5				
664	16	椭 円 形	27.0	22.0	7.5				
665	16	椭 円 形	24.0	30.0	7.5				
666	16	不正円形	22.0	18.5	24.0				
667	16	正 円 形	15.0	13.0	9.0				
668	16	椭 円 形	28.0	28.0	15.0				
669	17	正 円 形	28.0	29.0	15.0				
670	15-6	不 定 形	25.0	32.0	24.7				
671	16	不正円形	26.0	31.5	18.0	<SP11693			
672	16	正 円 形	22.5	21.0	6.0				
673	17	不 定 形	66.0	43.0	59.5		BBB(D)-BBB(BD-BD)-9-2BBB(BD)		9-2B
674	17	椭 円 形	28.5	35.0	4.5				
675	17	不正円形	26.0	36.0	29.0				
676	17	椭 円 形	23.0	26.0	24.0		9-2BBB(BD)		9-2B
677	17	半正円形	22.0	38.0	8.5	P1167224009340404			
678	17	椭 円 形	22.0	17.5	9.0	P1167224009340404			
679	17	不正円形	19.0	33.0	12.0				
680	17	不 定 形	61.5	33.5	16.5				
681	17	椭 円 形	19.0	16.0	8.0				
682	16	半 正円形	25.0	22.0	22.5	<SK1114			
683	1-17	半 正円形	26.0	19.0	23.0		BBB(D)		中世
684	16	不 定 形	23.5	7.5	15.0				
685	16	半 正円形	23.5	15.0	45.0				
686	16	半 正円形	25.0	22.0	12.0				
687	16	正 円 形	22.0	21.0	28.0	<SK1114			
688	111	椭 円 形	31.0	37.0	28.5	<SK1117			
689	17	正 円 形	29.5	32.0	28.7				
690	17	不 定 形	22.0	21.0	6.0				
691	17	不 定 形	26.0	26.0	12.0	>P11692			
692	17	不正円形	26.0	18.0	17.5	<P11691-P116924009340404			
693	17	半 正円形	23.0	28.0	11.0	P1169224009340404			
694	17	不正円形	42.0	25.0	42.5				
695	17	椭 円 形	24.0	18.0	48.5		BBB(D)		近世初期
696	17	椭 円 形	29.0	26.0	17.0		BBB(D)-BBB		古代
697	17	椭 円 形	(22.0)	16.0	16.0	P1169324009340404			
698	17	椭 円 形	14.0	13.0	11.0	P1169724009340404			
699	17	不正円形	23.5	26.0	35.7		BBB(B2-BD)		中世
700	17	半 正円形	24.0	27.0	36.0		BBB(D)		中世

第37表 針田遺跡A区Pit一覧表(15)

番号	出土グリット	平面形	規 格(cm)			切り口・古文・固体 (<切られる。>切る)	出 土 貨 物(破片数)	神 国 番 号	時期
			長 軸	短 軸	深 底				
701	L7	楕円形	21.0	19.0	16.0				
702	K-L7	不正円形	43.0	43.0	40.0		Pit17082409050418		9-18
703	K7	楕円形	28.5	25.0	7.0				
704	K7	正円形	27.0	25.5	22.5				
705	K7	楕円形	37.0	32.5	33.0				
706	K7	楕円形	22.0	20.5	10.5				
707	K7	不正円形	38.0	37.5	41.0		Pit17082409050418		
708	K7	不定形	25.5	22.0	16.0		Pit17072409050418		
709	K7	不正円形	39.0	29.0	42.0				
710	K7	不正円形	41.0	27.0	27.0		Pit17082409050418		中世
711	K7	不正円形	56.5	33.0	27.0				
712	K7	不正円形	35.0	30.0	13.0				
713	K7	不正円形	45.0	32.5	39.5				
714	L6	楕円形	22.0	15.0	7.0				
715	L11	不正円形	40.0	32.0	16.4				
716	L11-L12	不正円形	34.0	27.0	17.5				
717	K12	不正円形	44.0	24.0	41.0				
718	K11	楕円形	44.0	43.0	26.5				
719	K11	不定形	46.0	38.0	23.0		Pit1708		古代
720	K11	不正円形	38.0	24.0	16.0				
721	K11	不定形	55.0	32.0	19.0				
722	K11	不正円形	26.0	21.0	29.5				
723	M5	正円形	27.0	25.0	49.5				
724	M-98	楕円形	66.0	58.0	46.0		Pit1708		古代
725	M-9	正円形	35.0	25.0	5.5		Pit1708		古代
726	M-9	楕円形	38.5	38.0	4.5	<Pit1727			
727	K9	楕円形	38.5	32.0	5.0	>Pit1726			
728	K7	不正円形	49.0	49.0	6.0				
729	K7	楕円形	26.0	24.5	32.5				
730	J-17	楕円形	72.0	64.0	51.5	>SK121-123			9-18
731	J6	楕円形	40.0	38.0	35.0				
732	J7	楕円形	43.0	29.0	46.0	>Pit1723			
733	J7	長方形	47.0	34.5	14.5	<Pit1722			
734	J7	楕円形	39.0	33.5	30.5				
735	J7	楕円形	106.0	76.0	103.5		Pit1708-171		9-18
736	J7	正円形	26.5	26.0	20.5				
737	J7	不正円形	46.0	32.0	46.0				
738	J7	正円形	27.0	26.0	16.5	>Pit1728			
739	J7	楕円形	24.0	17.0	14.0	<Pit1728			
740	J7	楕円形	34.0	24.0	12.0	<Pit1741			
741	J7	不正円形	31.5	26.0	26.0	>Pit1740			
742	J7	正円形	27.0	24.0	13.5				
743	J7	不定形	47.0	39.5	16.5	<Pit1744			
744	J7	不定形	58.0	52.0	21.0	>Pit1743			
745	J7	不定形	45.0	26.5	6.5				
746	J7	正円形	23.0	20.0	11.5				
747	J7	楕円形	40.0	29.0	22.0				
748	J7	楕円形	19.0	15.0	8.0				
749	J7	楕円形	37.0	27.0	36.5	Pit1708-171			
750	J7	不定形	65.0	25.0	22.5	Pit1709-171			

第38表 針田道路A区PI-一覧表(16)

遺構 番号	出土グリッド	平面形	規 格(cm)			等 級 (<切られる。>切る)	出 土 遺 物 (破片数)	神 國 番 号	時期
			長 軸	短 軸	厚 さ				
751 JT		正四角形	36.0	32.5	13.0				
752 JT		椭円形	68.0	33.0	31.0		III(B)		古代
753 JT		正四角形	68.0	58.0	34.0				
754 JT		正四角形	38.0	35.0	27.0	<PI1755			
755 JT		正四角形	29.0	28.0	37.5	>PI1754			
756 JT		正四角形	29.0	23.0	34.0				
757 JT		正四角形	26.0	24.0	15.0				
758 JT		不正四角形	37.5	36.0	26.2				
759 JT		椭円形	28.0	36.0	52.5				
760 JT		不正四角形	37.5	32.0	12.0	<PI1761			
761 JT		椭円形	34.0	(28.0)	24.5	>PI1760			
762 JT		椭円形	28.0	47.0	16.0				
763 I-17		椭円形	32.0	29.5	26.5				
764 JT		正四角形	19.0	17.0	22.0				
765 JT		正四角形	(28.0)	22.0	31.0	<PI1766			
766 I-17		正四角形	23.0	22.0	5.0	>PI1765			
767 I-17		正四角形	32.0	28.5	18.0				
768 I-17		正四角形	25.0	23.5	28.5	>PI1769			
769 JT		不正四角形	39.0	25.0	24.5	<PI1768	III(B)		古代
770 JT		椭円形	41.0	34.5	31.0	>PI1771			
771 JT		不正四角形	32.0	(24.0)	56.0	<PI1770			
772 JT		椭円形	28.0	17.0	10.5				
773 JT		正四角形	25.5	25.0	28.0				
774 JT		椭円形	25.0	19.0	25.0				
775 JT		正四角形	(25.0)	23.0	15.0	<PI1776			
776 JT		不正四角形	28.0	14.0	14.0	>PI1775			
777 JT		不正四角形	21.5	20.0	7.5				
778 L9		椭円形	31.0	27.0	34.0				
779 L9		正四角形	45.0	38.0	5.0		II-III(B)(III-C)		中世
780 L9		不正四角形	47.0	(18.0)	52.2	PI1781-PI1784	III(B)-III(C), III(D)-III(E), II-III(B)(III-C)	III(B)	中世
781 L9		正四角形	27.0	(21.0)	61.2	PI1785-PI1786			
782 L9		正四角形	29.5	28.0	28.5	>PI1783			
783 L9		椭円形	34.0	(22.0)	26.5	<PI1782			
784 L9		椭円形	33.0	32.0	5.0				
785 L9		椭円形	24.0	28.0	28.0				
786 L9		正四角形	22.0	(18.0)	2.0				
787 L-M9		不定形	44.0	33.5	7.5				
788 L-M9		椭円形	42.0	38.0	45.5				
789 L-M9		正四角形	22.0	(18.0)	19.5				
790 L-M9		不正四角形	(31.0)	29.0	38.0				
791 L-M9		椭円形	(27.0)	(18.0)	35.9				
792 L9		不正四角形	58.0	39.5	47.0	<PI1793-1794	III(B)-III(C)		中世
793 L9		正四角形	45.0	(28.0)	18.5	<PI1793-1794	III(B)-III(C), III(D)-III(E), II-III(B)(III-C)	III(B)	中世
794 L9		椭円形	32.0	27.0	28.7				
795 L9		椭円形	45.0	32.5	42.0				
796 L9		椭円形	21.0	27.0	7.5				
797 L9		不正四角形	32.0	31.0	37.0				
798 L9		椭円形	25.0	24.0	14.0				
799 L9		不正四角形	63.0	47.0	47.0	>PI1799			
800 L9		正四角形	49.0	(43.0)	18.5	<PI1799, >PI1800			

第39表 針田遺跡A区Pt-1観察表 (17)

番号	出土グリッド	平面形	測定値(cm)			切り合ひ 固体 (<切られぬ、>切る)	出土遺物(破片等)	種類 番号	時期
			長	幅	厚さ				
801 L9	不正円形	25.0	28.0	50.5	>P11800				
802 L9	不正円形	26.5	23.0	9.5	<P11802				
803 L9	正円形	28.0	28.0	18.5	>P11802				
804 L9	不正円形	28.0	28.0	18.5					
805 L9	不定形	47.0	25.0	26.0	>P11806				
806 L9	椭円形	28.0	19.0	28.5	<P11805				
807 L9	正円形	28.0	26.0	58.5					
808 L9	椭円形	34.5	23.0	52.0					
809 L9	正円形	24.0	23.0	48.0					
810 L9	椭円形	28.5	22.0	18.0					
811 L9	不正円形	36.0	24.0	15.0	>P11814				
812 L9	不正円形	43.0	26.0	28.0	<P11814, >P11812	8-280(80)			
813 L9	不定形	46.5	22.0	9.0	<P11812				
814 L9	不正円形	42.0	32.0	38.0	P11815+P11816+P11817				
815 L9	不正円形	46.0	38.0	12.0	P11815+P11816+P11817				
816 K-15	正円形	27.0	26.5	6.5					
817 K9	不正円形	25.0	26.0	21.0	<P11820				
818 K9	不正円形	46.0	21.0	13.5	>P11827				
819 K9	不正円形	57.0	39.0	13.0	>P11828				
820 K9	不正円形	49.0	31.0	37.0	<P11829	888(80)			
821 K9	不正円形	34.0	28.0	16.0					
822 K9	椭円形	21.0	17.0	12.5					
823 K9	正円形	24.0	33.0	28.0					
824 K9	椭円形	29.0	28.0	8.0					
825 K9	不正円形	34.0	26.0	18.0	>P11826				
826 K9	椭円形	42.0	28.0	24.0	<P11825				
827 K10	不正円形	28.0	25.0	24.5	>P11828				
828 K10	不正円形	25.0	37.0	22.0	<P11827				
829 K-10	不正円形	32.0	26.0	14.5	>P11828	888(80)			
830 K-110	不正円形	25.0	26.0	16.5	<P11829				
831 K9	不正円形	34.0	22.0	23.5					
832 K9	不正円形	66.0	51.0	56.0	>P11832	888(80), 888(81), 8-280(81)			
833 K9-10	不正円形	35.0	37.0	12.0	<P11832				
834 K8	椭円形	26.0	24.0	9.0		888(80)		第97回	中世
835 K8	不正円形	58.0	42.0	14.0					
836 K8	椭円形	48.5	31.0	2.5					
837 K8	椭円形	47.0	41.5	31.5					
838 K8	椭円形	49.0	42.5	22.5					
839 K7	椭円形	31.0	28.5	25.0		888(80)			古代
840 K8	不定形	48.0	23.0	21.0	P11840+P11841	888(80)			中世
841 K8	不正円形	62.0	28.0	21.0	P11840+P11841				
842 K8	椭円形	15.0	12.0	19.0					
843 K8	不正円形	29.0	26.5	12.0	<P11844				
844 K8	不正円形	34.0	23.0	17.0	>P11843				
845 K8	正円形	25.0	22.5	25.0		888(80)		第97回	中世
846 K8	不定形	32.0	18.0	11.0					
847 K8	椭円形	58.0	46.0	29.0					
848 K-18	椭円形	38.0	28.0	11.3					
849 K8	椭円形	33.0	28.0	15.0	>P11850				
850 K8	不正円形	23.0	(19.0)	12.5	<P11849				

第40表 針田道路A区PI-1観察表 (18)

通帳 番号	測定グリッド	平地形	幅 (m)			切り立たれ高さ (<切られる。>切る)	出土地物 (断片数)	仲間 番号	時間
			長	幅	深				
851	0-12	正門形	26.0	25.0	24.0				
852	13	横門形	40.0	38.0	14.0				
853	14	横門形	24.5	23.0	19.5	<PI1054			
854	14	不正門形	27.5	22.0	17.0	>PI1053			
855	15	直線							
856	15	カーブ左	52.0	33.0	45.0				
857	15	カーブ右	26.0	26.0	6.0				
858	15	横門形	29.0	22.0	5.0				
859	15	カーブ左	23.5	19.5	4.5				
860	15	横門形	44.0	23.0	24.0				
861	15	横門形	33.0	23.0	27.5	<PI1062			
862	15	カーブ右	24.0	24.0	28.0	>PI1063			
863	15	不正門形	48.0	44.0	42.5				
864	15	カーブ右	25.5	25.0	9.0				
865	118	横門形	26.0	25.0	16.0	>PI117			
866	115	横門形	37.0	32.0	41.4	>PI1185			

第41表 針田道路B区PI-1観察表 (1)

通帳 番号	測定グリッド	平地形	幅 (m)			切り立たれ高さ (<切られる。>切る)	出土地物 (断片数)	仲間 番号	時間
			長	幅	深				
1	S23	不正門形	26.0	26.0	22.0	>PI112			
2	S23	不正門形	32.0	21.2	19.1	<PI113			
3	S22	横門形	35.5	38.5	28.2				
4	S22	不正門形	25.7	22.0	8.1				
5	S22	不正門形	41.0	32.8	5.2	>PI114			
6	S22-13	不正門形	42.8	48.5	12.6	>PI115			
7	S23	正門形	24.5	21.0	16.5	>PI116			
8	S22	不正門形	21.1	28.0	7.3				
9	S22	正門形	16.0	17.0	27.0				
10	S22	不正門形	22.0	21.7	7.0				
11	S22	横門形	26.2	20.5	7.3				
12	S22	カーブ左	26.0	18.5	12.6				
13	S22	カーブ左	(6.5)	26.1	5.1				
14	S24	カーブ左	21.8	29.5	4.9				
15	S22	不正門形	33.9	27.8	2.9				
16	S22	正門形	22.6	18.8	12.0				
17	S22	横門形	33.7	24.0	21.4				
18	S22	横門形	38.2	(17.0)	9.4	<PI119			
19	S22	不正門形	24.0	(11.0)	26.5	>PI118, PI1128, PI1129, PI1130, PI1131			
20	S22	不正門形	29.5	(25.0)	28.8	PI119, PI1128, PI1130, PI1131			
21	S22	不正門形	26.0	22.5	4.0				
22	S22	横門形	33.5	26.7	12.4				
23	R-S22	横門形	26.5	26.2	8.7				
24	S24	不正門形	21.9	28.4	9.1				
25	S22	カーブ左	21.8	(12.0)	10.2	>PI120			
26	S22	カーブ左	25.2	(24.0)	11.3	>PI120			
27	S22	不正門形	19.0	16.2	11.6				
28	S22	正門形	22.0	22.5	14.0	>PI122			
29	S22	正門形	16.0	12.7	3.8	<PI123			
30	S22	正門形	39.0	28.7	9.6				

第42表 鈴田遺跡B区Pit一覧表(2)

遺構 番号	出土グリッド	平面形	規 格(cm)			切り合 い周 囲 長 (<切られる。>切る)	出 土 遺 物 (破片数)	神 國 番 号	時期
			長 軸	短 軸	深 さ				
31	R22	正円形	28.2	28.0	21.0	>SK9, Pi132.			
32	R22	不正円形	38.5	31.0	7.2	<Pi131, >SK9			
33	R22	楕円形	46.3	38.3	49.0				
34	R21+22	不正円形	41.9	33.4	8.3				
35	R21	不正円形	47.2	45.5	8.0				
36	R21	正円形	32.8	31.2	14.9				
37	R21	不正円形	35.5	31.0	9.7				
38	R21	不正円形	70.0	63.2	9.5				
39	R21	不正円形	38.4	25.5	17.1				
40	R21	不正円形	51.3	47.0	19.1				
41	R21	正円形	36.8	34.5	38.5	<SK10			
42	S23	正円形	26.0	(25.0)	(26.0)	>SK1			中世
43	S23	楕円形	(44.0)	(42.0)	(31.0)	>SK1			中世
44	Q18	正円形	(46.0)	(16.0)	21.0	<Pi130-131			
45	Q-R21	楕円形	65.0	45.0	22.0	<SK12			
46	Q-R21	楕円形	28.8	17.5	19.0	>SK12			
47	R21	半円形	21.0	(15.7)	23.2	>SK12			
48	R21	楕円形	56.5	49.0	28.5		BB(B)		中世
49	R22	正円形	37.0	35.0	(41.0)	>SK3			中世
50	欠番								
51	R22	不正円形	28.0	19.2	4.5				
52	R22	楕円形	38.0	27.0	(34.0)	>SK3			中世
53	R22	楕円形	31.0	26.0	(48.0)	>SK3			中世
54	P20	楕円形	46.0	37.0	34.0	>SK11			中世
55	欠番								
56	欠番								
57	R21	楕円形	39.0	27.6	17.1				
58	R21	楕円形	25.0	21.9	13.6				
59	欠番								
60	欠番								
61	R21	楕円形	35.1	26.5	11.4				
62	R21	楕円形	46.5	33.0	46.3	>Pi163			
63	R21	楕円形	32.0	29.0	16.3	<Pi162			
64	R21	不正円形	24.7	21.8	14.8				
65	R21	不正円形	17.5	17.0	17.5				
66	R21	正円形	18.0	15.2	35.0				
67	欠番								
68	R21	正円形	28.0	28.3	34.4				
69	R21	不正円形	24.8	(16.5)	28.7	<Pi170			古代
70	R21	不正円形	25.3	28.5	18.0	>Pi169			
71	R21	正円形	32.5	38.0	47.0		BB(B)D, BB(B)		古代
72	欠番								
73	R21	楕円形	27.0	22.5	14.3				
74	R21	不正円形	32.0	25.5	28.0				
75	R21	不正円形	22.0	21.3	32.0				
76	欠番								
77	R21	正円形	20.0	16.5	19.0				
78	R21	正円形	19.0	17.7	17.5				
79	欠番								
80	R21	正円形	21.0	21.0	16.0				

第43表 計田遺跡B区Ph-1層表(3)

遺構 番号	出土グリッド	平面形	規 模(m)			切り合ひ面 (<切られる、>切る)	出 土 遺 物 (破片数)	種 類 番 号	時 期
			長 軸	短 軸	厚 さ				
81 R21		楕円形	24.5	19.0	31.2	>Ph182			
82 R21		正円形	29.9	22.0	14.3	<Ph181			
83 R21		不正円形	28.0	22.0	14.8				
84 R21		不正円形	28.3	13.2	7.8				
85 R21		不正円形	28.5	15.0	7.6				
86 R21		楕円形	28.5	25.0	33.0	<Ph1			
87 欠番									
88 R20-21		楕円形	25.0	22.5	22.5	>Ph189	輪状土器	第99回	中世
89 R20-21		不正円形	29.7	19.0	12.0	<Ph188			
90 R20		不正円形	39.5	28.5	37.1	>Ph191	輪状土器		古代
91 R20		楕円形	45.0	28.0	32.5	<Ph190			
92 欠番									
93 R20		正円形	15.5	14.0	11.3				
94 欠番									
95 欠番									
96 欠番									
97 欠番									
98 欠番									
99 欠番									
100 欠番									
101 欠番									
102 R20		楕円形	25.8	21.8	48.7				
103 R20		楕円形	45.0	32.0	14.0				
104 R20		楕円形	(52.0)	38.0	14.0	<Ph184			
105 R20		楕円形	19.0	17.0	18.2	>Ph182			
106 R20		正円形	26.5	24.0	16.4				
107 欠番									
108 R20		正円形	22.0	20.0	13.9				
109 R20		楕円形	22.3	18.5	17.1				
110 R20		正円形	21.0	20.0	24.0	<Ph114			
111 R20		楕円形	39.5	27.0	23.0	<Ph114, >Ph115			
112 R20		正円形	38.0	38.0	38.0	<Ph113			
113 R20		不正円形	38.0	38.0	16.0	>Ph112			
114 R20		正円形	22.0	19.5	14.0	>Ph110-111			
115 R20		正円形	(33.0)	(2.0)	38.0	<Ph111			
116 欠番									
117 欠番									
118 R20		正円形	33.0	35.0	22.5	<Ph14			
119 Q18-19		楕円形	52.5	21.0	11.0	<Ph1129, >Ph1127-148			
120 欠番									
121 R19		楕円形	41.0	29.0	21.5		輪状土器	第99回	中世
122 欠番									
123 欠番									
124 Q19		正円形	41.2	35.3	39.0				
125 Q19		不正円形	49.0	46.0	38.5				
126 欠番									
127 Q18-19		不正円形	63.0	47.0	55.5	<Ph115, >Ph1128			
128 Q18-19		正円形	23.0	13.0	40.3	<Ph1127			
129 Q18-19		楕円形	42.8	38.8	11.5	>Ph1179			
130 Q18		不正円形	63.0	65.0	37.0	>Ph144			

第44表 計田遺跡6区Pt-1観察表(4)

遺構 番号	出土グリッド	平 岡 部	規 格 (mm)			切り 取 り 方 法 (<切られる。>切る)	出 土 遺 物 (破片数)	神 国 番 号	時 期
			長 軸	短 軸	厚 度				
131 Q18		不正円形	56.0	47.3	21.8	>Pt144			
132 Q18		楕円形	29.5	25.6	21.2		筒状(1), 破片(2)	總554	中世
133 Q18		楕円形	25.9	23.0	21.9				
134 Q18		トコ着作形	27.0	26.8	28.5				
135 Q18		正円形	25.0	24.0	21.8				
136 Q18		不正円形	51.5	44.0	40.8				
137 欠番									
138 Q19		不正円形	33.0	25.8	33.5				
139 欠番									
140 欠番									
141 欠番									
142 Q19		楕円形	35.8	29.5	26.0				
143 Q19		正円形	31.4	30.0	27.5				
144 Q19		楕円形	23.0	20.2	9.5	>Pt145			
145 Q19		不正円形	26.4	(16.5)	23.0	<Pt144			
146 Q19		不正円形	18.5	(16.0)	16.0	<Pt147			
147 Q19		楕円形	29.0	27.0	8.0	>Pt146			
148 Q19-19		正円形	28.8	(5.5)	88.0	<Pt152			
149 欠番									
150 Q19		楕円形	52.8	39.7	48.0				
151 Q19		正円形	16.3	(12.0)	11.4	<Pt152			
152 Pt19		楕円形	21.2	(19.0)	9.2	>Pt151,<Pt153			
153 Q19		楕円形	30.5	25.8	22.3	>Pt152			
154 Pt19		楕円形	42.0	31.0	33.0		筒状(1), 破片(1)		古代
155 Q19		楕円形	25.8	18.1	9.7				
156 Pt19		楕円形	29.2	25.5	12.1				
157 Pt19		楕円形	35.9	30.0	16.4				
158 Pt19-20		不正円形	32.9	29.2	14.9				
159 Pt19-20		楕円形	37.5	31.7	16.9	<Pt150			
160 Pt19-20		不正円形	30.7	(18.0)	12.5	>Pt159			
161 欠番									
162 Pt20		不正円形	24.5	(18.0)	16.9	>Pt163			
163 Pt20		楕円形	21.8	16.4	9.9	<Pt162			
164 Pt20		楕円形	32.0	23.5	42.2				
165 欠番									
166 Pt20		正円形	21.0	18.0	27.5				
167 Pt20		楕円形	24.5	(28.0)	58.5	<Pt168			
168 Pt20		楕円形	34.8	24.0	50.0	>Pt167			
169 欠番									
170 Pt20		不正円形	26.0	23.8	21.5	>SK11			
171 Pt20		楕円形	38.0	26.4	26.4				中世
172 Pt20		不正円形	21.8	20.2	15.0	>SK11			
173 Pt20		楕円形	23.3	19.5	24.1		筒状(1)		中世
174 欠番									
175 欠番									
176 欠番									
177 欠番									
178 欠番									
179 Pt19		不正円形	28.4	25.6	32.5				
180 Pt19		不正円形	28.7	25.2	26.5				

第45表 針田遺跡B区Pit一覧表(5)

番号	出土グッサード	平面形	横(60)			分類合計(回数) (<印はれる。>印も)	出 土 遺 物(破片数)	時 代 古代	時 期
			反 傾	正 傾	反 正				
181 019		正四角形	46.0	35.0	41.7				
182 019		不正四角形	36.0	24.0	42.8				
183 019		椭円形	33.0	31.0	29.7		58(18)		
184 019		正四角形	45.5	43.5	47.8				
185 0-019		正四角形	26.0	23.5	41.0				
186 019		正四角形	26.4	26.0	8.0	>P1187			
187 019		正四角形	46.0	(46.0)	23.8	<P1186			
188 欠 番									
189 欠 番									
190 019		椭円形	29.0	25.0	22.4				
191 019		椭円形	39.5	39.0	46.7	>P1192			
192 019		椭円形	65.0	47.0	25.0	<P1193			
193 019		不正四角形	36.0	38.0	42.9				
194 019		椭円形	39.0	32.0	48.8				
195 019		正四角形	34.0	27.7	48.8				
196 欠 番									
197 019		正四角形	40.0	39.2	44.1		58(18)		
198 019		不正四角形	23.3	(19.0)	26.3	>SK13			
199 欠 番									
200 019		不正四角形	18.0	17.9	9.7				
201 019		不正四角形	24.9	23.8	8.7				
202 019		正四角形	44.2	42.0	38.8	>P1193			
203 019		不正四角形	41.5	(15.0)	62.7	>P1194,<P1192			
204 019		椭円形	68.0	27.0	47.0	<P1193			
205 欠 番									
206 019		不正四角形	22.0	28.9	45.4				
207 019-28		正四角形	42.5	48.0	36.0				
208 019-28		正四角形	32.0	32.7	44.0				
209 020		椭円形	22.3	18.8	21.2				
210 019		不正四角形	27.7	(28.0)	31.1	<P1123			
211 019		椭円形	39.3	32.9	25.4	>P1120			
212 020		椭円形	32.5	22.1	25.0	<P1123			
213 020		不正四角形	29.5	(16.0)	26.4	>P1122			
214 020		正四角形	40.4	40.3	36.7		58(18)		
215 020		椭円形	34.3	21.1	22.7	>SK16			
216 欠 番									
217 020		椭円形	26.0	26.0	15.5				
218 020		椭円形	25.0	23.0	45.0				
219 020		正四角形	35.0	32.0	63.0				
220 020		椭円形	51.0	28.8	49.4	>P1122			
221 020		不正四角形	47.0	(29.0)	22.0	<P1120			
222 020									
223 欠 番									
224 020		不正四角形	43.5	(28.0)	42.0	<P1125			
225 020		椭円形	41.8	28.0	15.0	>P1124	58(18)		
226 021		不正四角形	39.1	31.0	39.5			第58回 中世	
227 020-23		椭円形	35.5	36.0	15.3				
228 020		正四角形	31.0	28.2	27.0				
229 020		椭円形	45.0	37.0	23.4				
230 019		椭円形	49.0	35.0	55.0				

第46表 鈴田遺跡B区Pit一覧表(6)

遺構 番号	出土グリッド	平面形	規格(cm)			切り合ひ 四隅 (<切られる、>切る)	出土遺物(破片数)	神 面 番 号	時期
			長	短	幅				
231	021	楕円形	35.6	24.2	16.3	>Pi1232			
232	021	楕円形	28.0	(14.5)	20.0	<Pi1233			
233	021	楕円形	21.6	17.0	15.8				
234	021	正円形	25.5	23.5	13.0				
235	021	楕円形	39.5	28.3	42.3				
236	021	正円形	19.6	18.8	16.2				
237	021	不正円形	27.0	25.0	28.4				
238	021	楕円形	27.0	19.2	62.6				
239	021	不定形	27.6	27.0	37.8				
240	021	楕円形	26.8	21.5	18.0				
241	欠番								
242	021-22	不定形	29.8	26.7	34.7				
243	022	楕円形	35.8	27.5	33.0	>SK3			9-18
244	021	楕円形	34.5	26.5	38.8				
245	021	正円形	26.1	25.0	31.9				
246	021	楕円形	32.5	28.0	47.0		SK4(1)		第30回 中世
247	N-21	不正円形	25.5	24.0	41.0				
248	N-029	不正円形	27.5	26.0	31.2				
249	欠番								
250	K21	不正円形	(29.8)	(28.0)	11.0	<Pi1251-252			
251	K21	正円形	29.8	(22.0)	9.8	<Pi1252,>Pi1250			
252	K21	正円形	32.5	30.0	10.0	>Pi1250-251			
253	K21	楕円形	94.0	26.2	15.5				
254	L21	楕円形	36.3	29.2	13.5				
255	L21	正円形	27.1	(25.0)	27.0	<Pi1256			
256	L21	楕円形	35.9	21.2	38.4	>Pi1255			
257	L28-21	不定形	58.7	49.0	10.8				
258	L21	楕円形	24.5	24.0	9.5	>Pi1259			
259	L21	楕円形	23.5	(15.5)	22.8	<Pi1258			
260	欠番								
261	L21	楕円形	38.9	28.0	41.7	>Pi1262			
262	L21	楕円形	32.0	(23.0)	35.6	<Pi1261			
263	L21	正円形	22.5	21.8	26.5				
264	L20	不正円形	31.0	29.0	31.0				
265	L20	楕円形	38.0	32.5	13.0				
266	M21	正円形	31.9	21.0	14.0				
267	M21	正円形	27.5	23.9	21.2				
268	M21	正円形	41.7	39.5	18.5				
269	M20	楕円形	38.0	24.5	36.2				
270	欠番								
271	M20	楕円形	31.0	25.2	14.1		SK4(1)		第30回 中世
272	M20	楕円形	41.1	35.5	42.7				
273	欠番								
274	L22	不正円形	40.0	32.0	42.0				
275	L22	不正円形	(40.0)	(35.0)	12.0	<SK42			
276	M20	不正円形	36.9	25.1	16.0				
277	019	正円形	35.2	33.2	42.8				
278	021	不定形	40.0	27.0	13.4	<SK3			

第47表 東坪之内遺跡SD一覧表

遺構番号	出土区	出土グリッド	平面形	幅 幅 深さ	水の流れた方向	切り合ひ關係 (<切られる、>切る)	出土遺物(破片数)	神田番号	時期
SD1	A	I-2B	矩形	0.41	0.15	由西→北東	<SD1(101) SD2(2) SD3(101) SD4(10)		中世
SD2	無					→			
SD3	C	II-6-I, 12G-II	矩形	2.68	0.13	由南西→東北東			
SD4	C	10-HF-I	矩形	0.52	0.14	由南西→東北東			
SD5	無					→			
SD6	C	II-12F	矩形	0.92	0.11	由南西→東北東	>SK37, <SK38		
NR1	B	4-7E, 4-7F	矩形	0.54	0.09	東→西	SD1(101) SD2(2) SD3(101) SD4(10) SD5(1) SD6(2)	第11590	中世

第48表 東坪之内遺跡SK一覧表

遺構番号	出土区	出土グリッド	平面形	幅 幅 深さ	切り合ひ關係 (<切られる、>切る)	出土遺物(破片数)	神田番号	時期	
SK1	A	E2	椭円形	(58.0)	22.0	16.0	<SK113		
SK2	A	E2	不定形	65.0	15.2	1.7			
SK3	A	E2	不定形	55.0	28.0	16.0			
SK4	A	E2	椭円形	93.0	42.0	27.5	<SK9		
SK5	無								
SK6	無								
SK7	無								
SK8	A	E2	長方形	49.5	21.3	7.2			
SK9	A	E-C2	長方形	171.0	56.0	28.6	>SK4-10	第11590	中世
SK10	A	C2	不定形	91.3	68.5	10.0	<SK9+P1123	第11590	古代
SK11	A	C1-2	不定形	185.0	128.0	14.0			
SK12	A	C-9I	椭円形	85.0	64.0	12.0			
SK13	無								
SK14	無								
SK15	無								
SK16	無								
SK17	無								
SK18	無								
SK19	無								
SK20	無								
SK21	B	G5-6	不定形	120.0	78.2	8.0	SD3(101) SD4(1) SD5(1)		中世
SK22	B	F6	不定形	83.0	32.0	10.7			
SK23	B	F-G6	不定形	113.0	41.6	7.3			
SK24	B	F6	不定形	140.0	75.8	12.6	<SK1		
SK25	無								
SK26	B	D6	不定形	116.0	25.5	9.3			
SK27	B	D6	不定形	220.0	25.2	6.0	SD3(101) + P1123(100)	第11590	中世
SK28	無								
SK29	B	C-G6	不定形	129.0	127.0	18.1			
SK30	B	C5-G5, G5	不定形	(214.0)	55.0	16.0			
SK31	B	G5	不定形	(209.0)	85.0	16.0			
SK32	B	G5	不定形	112.0	51.0	12.0			
SK33	B	G5	不定形	176.0	94.0	16.0			
SK34	B	G-E5	不定形	(268.0)	94.0	16.0	SD3(101) SD4(1) + P1123(100)	第11590	中世
SK35	B	G5	不定形	(282.0)	(102.0)	13.0			
SK36	B	G6	椭円形	67.5	58.0	6.0			
SK37	C	F11-12	椭円形	70.5	54.5	5.1	<SK6		
SK38	C	F12	不定形	(19.5)	(6.0)	2.0	>SK6		古-近

第49表 東坪之内遺跡Pit一覧表

遺 墓 番 号	出 土 グ リッド	平 面 形	幅 員 (m)	切 り 合 い 図 体 (<切られる、>切る)	出 土 遺 物 (破片数)	神 国 番 号	時 期
Pit1 A A-81		不 规 形	33.0	15.0	14.6		
Pit2 A B1		正 规 形	26.5	25.0	11.7	> Pit3	
Pit3 A B1		規 规 形	37.0	27.1	13.6	< Pit2	
Pit4 A A2		半 规 形	31.0	11.50	2.8		
Pit5 略							
Pit6 A B2		規 规 形	27.0	26.0	21.8		
Pit7 A B2		不 规 形	24.5	18.0	7.4		
Pit8 A B2		不 正 规 形	26.0	22.0	8.5	> Pit9	
Pit9 A B2		不 正 规 形	28.0	24.9	4.1	< Pit8	
Pit10 略							
Pit11 A B2		半 规 形	26.0	16.0	4.7		
Pit12 A B2		半 规 形	34.0	22.0	12.4		
Pit13 A B2		規 规 形	33.0	25.8	7.2	> SK1	
Pit14 A C1-2		規 规 形	50.5	25.0	1.9		
Pit15 A C1-2		規 规 形	38.0	28.0	8.0		
Pit16 A B2		正 规 形	22.5	22.0	2.1		
Pit17 A B2		規 规 形	19.0	15.0	3.7		
Pit18 A B2		規 规 形	19.0	17.0	6.3		
Pit19 A C2		規 规 形	22.5	19.0	18.9		
Pit20 A C2		半 规 形	19.1	(11.0)	5.2		
Pit21 A C2		正 规 形	26.5	24.0	8.4		
Pit22 A C2		規 规 形	29.0	18.0	3.7		
Pit23 A C2		不 正 规 形	20.0	19.0	6.1	> SK10	
Pit24 A C2		不 规 形	25.2	15.0	10.8		
Pit25 略							
Pit26 A C2		正 规 形	26.5	18.0	4.5		
Pit27 A C1		不 正 规 形	29.0	(24.0)	2.6	> SK22	
Pit28 A B1		規 规 形	28.3	14.0	4.0	< SK22	
Pit29 略							
Pit30 略							
Pit31 A C2		不 规 形	36.0	22.0	3.4	> Pit32	
Pit32 A C2		規 规 形	32.5	(16.0)	5.8	< Pit31	
Pit33 A B1		半 规 形	38.0	(15.0)	0.4		
Pit34 略							
Pit35 B D7		規 规 形	32.0	22.0	4.1		
Pit36 B D6		規 规 形	39.5	28.5	13.9		
Pit37 略							
Pit38 B E6		不 正 规 形	19.5	17.0	2.9		
Pit39 B E6		規 规 形	38.5	34.0	4.1		
Pit40 略							
Pit41 略							
Pit42 略							
Pit43 C B12		正 规 形	22.0	21.0	6.6		
Pit44 C G12		規 规 形	33.0	26.0	6.0		

第50表 田中浦遺跡SD一覧表

施 構 番 号	出 土 区 域	出土グリッド	規 模 (m)	水の流れた方向	切り 合 い 間 保 (<切られる、>切る)	出 土 財 物 (破片数)	神 殿 番 号	時 期
SD1	B	C-06	0.40	0.05	北 → 南		SB8(B)	中世
SD2	B	B6	0.18	0.05	東 → 西			
SD3	B	B6	0.42	0.12	北 → 南		SB8(B)-SB9(B), +SB9(B)	第12380 9-18
SD4	A	B1-2	(1.00)	0.14	北西 → 南東	>SB5	SB8(B)-SB9(B)-SB10(B), SB11(B)	中世
SD5	A	B2-B2-C2-B2	3.17	0.96	北 → 南	<SB10-13, SB11-15, SB16	>SB6	中世
SD6	A	B-C2	0.39	0.05	北 → 南	<SB5		

第51表 田中浦遺跡SK一覧表

施 構 番 号	出 土 区 域	出土グリッド	平 延 長	規 模 (m)	切り 合 い 間 保 (<切られる、>切る)	出 土 財 物 (破片数)	神 殿 番 号	時 期
SK1	B	B6	長 方 形	98.0	52.5	11.4	SB8(B), +SB9(B)	第12380 中世
SK2	B	B6	長 方 形	94.0	52.5	12.9	SB9(B), SB10(B), SB11(B), SB12(B), +SB13(B)	第12380 9-18
SK3	B	B-16	長 方 形	283.0	155.0	12.0	SB9(B), SB10(B), +SB11(B)	第12380 中世
SK4	B	B6-B6	不 定 形	281.0	92.0	8.7		
SK5	B	B6-B6, B5	長 方 形	414.0	61.0	>SB5	SB8(B)-SB10(B)-SB11(B), +SB12(B)	9-18
SK6	B	B6	長 方 形	281.0	107.1	16.5 <SB5	SB9(B), SB10(B), +SB11(B)-SB12(B)	第12380 9-18
SK7	B	B6	長 方 形	85.0	33.7	12.8		
SK8	B	B6	不 定 形	196.0	64.5	19.1	SB8(B)-SB10(B)	第12380 中世
SK9	BB	-						
SK10	A	A-B2	長 方 形	176.2	101.0	>SB5	SB8(B)-SB10(B)	第12380 中世
SK11	BB	-						
SK12	BB	-						
SK13	A	A2	平 円 形	(115.0)	(60.0)	46.5 >SB5 <SB16		

第52表 田中浦遺跡SK一覧表

施 構 番 号	出 土 区 域	出土グリッド	平 延 長	規 模 (m)	切り 合 い 間 保 (<切られる、>切る)	出 土 財 物 (破片数)	神 殿 番 号	時 期
Pt11	B	B6	不 と そ れ ど	32.0	15.5	7.7		
Pt12	B	B6-7	不 正 四 角	33.5	26.5	12.4		
Pt13	B	B6	椭 圆 形	59.0	22.5	13.5 >SB5	SB8(B)-SB10(B)	第12380 9-18
Pt14	B	B7	不 正 四 角	37.0	36.1	2.2		
Pt15	B	B6	不 と そ れ ど	42.0	17.0	2.7		
Pt16	B	B6	不 と そ れ ど	58.2	19.0	5.6		
Pt17	B	B6	不 定 形	28.5	7.5	2.6		
Pt18	B	B6	不 定 形	38.9	7.5	3.6		
Pt19	B	B6	不 正 四 角	16.5	9.5	4.4		
Pt20	B	B6	不 と そ れ ど	21.8	15.5	3.5		
Pt21	A	A2-2	椭 圆 形	94.5	52.0	16.0 >SB5		
Pt22	A	A3	不 正 四 角	51.5	45.9	22.5		
Pt23	A	A3	正 四 角	26.0	19.0	7.7		
Pt24	A	A3	不 正 四 角	28.5	28.0	3.6		
Pt25	A	A2	正 四 角	51.5	45.9	64.2 >SB5		
Pt26	A	A2	椭 圆 形	62.0	38.0	44.0 >SB5		
Pt27	A	A2	平 四 角	38.0	16.0	4.0		
Pt28	A	A3	平 四 角	21.50	15.50	10.1		
Pt29	A	A2	不 正 四 角	24.5	22.0	14.9		
Pt30	A	C1-2	不 定 形	48.0	42.0	8.4		
Pt31	BB	-						
Pt32	A	C2	不 定 形	72.0	16.0	4.2		
Pt33	BB	-						
Pt34	A	B2	不 と そ れ ど	39.6	23.8	5.3		
Pt35	A	B2	不 定 形	52.0	16.4	4.1		
Pt36	B	B2	不 定 形	29.0	14.0	4.6		
Pt37	A	B2	椭 圆 形	37.0	20.0	20.1		

第53表 針田遺跡遺物觀察表(1)

件 番 号	出土遺物 (部位)	器 種	尺 寸 (cm)		質 地 ・ 調 査	頂 土	燒 成 度 ・ 色 調	残 存 率 (1/12)	備 考
			口徑	底徑					
1	SB1 1-1層	須 底 器 身	14.0	-	-	IIIB-AB, BCDF,	良 灰褐色	1B- 1/12	IIIBAB, B-1-2.
2	SB1 1-1層	須 底 器 身	12.4	-	-	IIIA-AB, BCDF,	良 灰褐色	1B- 1/12	IIIBAB, B-1-2.
3	SB2 2層	須 底 器 身	15.6	-	-	IIIAB-AB, BCDF,	良 灰褐色	1B- 1/12	IIIBAB, B.
4	SB2 2層	土 師 器 體	5.9	-	-	IIIC, AB, BCDF, BCDF,	良 灰褐色	1B- 1/12	IIICAB.
5	SB2 2層	須 底 器 身	-	-	AB, BCDF, BCDF, AB, BCDF, BCDF,	良 灰白色	1B- 1/12	IIIBAB.	
6	SB3 1層	土 師 器 S半體	-	-	-	IIIB-AB, BCDF-3, BCDF, BCDF,	中-良 灰褐色	1B- 1/12	IIICAB.
7	SB3 1層	土 師 器 身	12.2	-	-	IIIB-AB, BCDF-3, BCDF, BCDF,	中-良 灰褐色	1B- 1/12	IIIBAB.
8	SB3 1層	土 師 器 身	12.6	-	-	IIIB-AB, BCDF-3, BCDF, BCDF, BCDF, BCDF, BCDF, BCDF, BCDF,	中-良 灰褐色	1B- 1/12	IIIBAB.
9	SB3 1層	土 師 器 身	16.0	-	-	IIIB-AB, BCDF-3, BCDF, BCDF, BCDF,	中-良 灰褐色	1B- 1/12	IIIBAB.
10	SB3 1層	土 師 器 身	-	6.0	-	IIIB-AB, BCDF-3, BCDF, BCDF,	中-良 灰褐色	1B- 1/12	IIIBAB.
11	SB3 1層	須 底 器 身	14.9	-	-	IIIB-AB, BCDF-3/4,	良 灰色	1B- 1/12	IIIBAB, B-1B.
12	SB3 1層	須 底 器 身	13.0	7.8	3.6	IIIB-AB, BCDF,	中-良 灰白色	1B- 1/12	IIIBAB, B-1-2.
13	SB3 1層	須 底 器 身?	16.7	-	-	IIIB-AB, BCDF,	良 黑色	1B- 1/12	IIIBAB.
14	SB3 1層	須 底 器 身	18.9	-	-	IIIB-AB, BCDF,	良 灰色	1B- 1/12	IIIBAB.
15	SB3 1層	土 師 器 體	-	1.1	-	IIIC, AB, BCDF, BCDF,	良 灰褐色	1B- 1/12	IIICAB.
16	SB5 1層	土 師 器 身	21.2	-	-	IIIB-AB, BCDF-3, BCDF,	中-良 灰褐色	1B- 1/12	IIIBAB, B-1B.
17	SB5 1層	須 底 器 身?	28.2	-	-	IIAB, BCDF,	良 灰褐色	1B- 1/12	IIIBAB, B-1.
18	SB5 1層	須 底 器 身	12.0	-	-	IIAB, BCDF,	中-良 灰褐色	1B- 1/12	IIIBAB, B-1.
19	SB4 1層	土 師 器 身	-	-	-	IIIB-AB, BCDF-3, BCDF,	中-良 灰褐色	1B- 1/12	IIIBAB.
20	SB4 1層	須 底 器 身	13.8	-	-	IIAB, BCDF,	良 灰褐色	1B- 1/12	IIIBAB, B-1-2.
21	SB4 1層	須 底 器 身	15.8	-	-	IIAB, BCDF,	中-良 灰褐色	1B- 1/12	IIIBAB, B.
22	SB4 1層	須 底 器 身	-	7.8	-	IIAB, BCDF,	良 灰白色	1B- 1/12	IIIBAB, B-1B.
23	SB6 1層	土 師 器 身	24.1	-	-	IIIB-AB, BCDF-3, BCDF, BCDF,	中-良 灰褐色	1B- 3/12	IIIBAB.
24	SB6 1層	土 師 器 身	-	-	-	IIIB-AB, BCDF-3, BCDF, BCDF,	中-良 灰褐色	1B- 1/12	IIIBAB.
25	SB6 1層	土 師 器 身	10.0	-	-	IIIB-AB, BCDF-3, BCDF, BCDF,	良 灰褐色	1B- 2/12	IIIBAB.

第54表 針田遺跡遺物觀察表(2)

種類 番号	出土遺構	基層	位置(m)			發現・測量	形	性質	色調	保存率 (1/12)	備考
			口径	底径	高さ						
2.6	SB6 1層	土 脳 鋼 鐵	-	4.6	-	AB.2000, AB.102077, AB.102080	外.30.00±0.00±1.30.20 内.10.00	中空且 上部破缺	黒-12/12		
2.7	SB6 1層	陶 瓦 平版	9.2	-	-	AB.2000	外.30.00±0.00±1.30.20	良	灰白色	黒- 2/12	SB6.3-1-2.5-488.
2.8	SB6 1層	陶 瓦 平版	-	2.8	-	AB.2000, AB.102077, AB.102080	外.30.00±0.00±1.30.20	中空且 上部破缺	黒-12/12	SB6.3-1-2.	
2.9	SB6 1層	陶 瓦 平版	-	12.8	-	AB.2000, AB.102077, AB.102080	外.30.00±0.00±1.30.20	中空且 上部破缺	黒- 1/12	SB6.3-1-2.	
3.0	SB6 1層	土 脳 鋼 鐵板土基	4.9	-	-	AB.20.317, AB.102055, AB.102080	外.30.00±0.00±1.30.20	中空且 上部破缺	黒- 1/12	SB6.3-2.	
3.1	SB6 1層	土 脳 鋼 鐵板土基	5.1	-	-	AB.20.317, AB.102055, AB.102080	外.30.00±0.00±1.30.20	良	灰白色	黒- 1/12	SB6.3-3.
3.2	SB6 1層	土製内盤	2.5	1.3	1.1	AB.2000, AB.102077, AB.102080	外.30.00±0.00±1.30.20	中空且 上部破缺	黒- 12/12	SB6.3-3-488.	
3.3	SB7 1層	土 脳 鋼 鐵	13.1	-	-	AB.2000, AB.102077, AB.102080	外.30.00±0.00±1.30.20	中空且 上部破缺	黒- 12/12	SB6.3-3-488.	
3.4	SB7 1層	陶 瓦 平版	16.9	-	-	AB.2000, AB.102077	外.30.00±0.00±1.30.20	良	灰黃色	黒- 1/12	SB6.3-1-2.588.
3.5	SB7 1層	陶 瓦 平版	18.1	-	-	AB.2000, AB.102077	外.30.00±0.00±1.30.20	中空且 上部破缺	黒- 1/12	SB6.3-1-2.	
3.6	SB8 1層	土 脳 鋼 鐵	-	-	-	AB.2000, AB.102077, AB.102080	外.30.00±0.00±1.30.20	中空且 上部破缺	黒-12/12	SB6.3-1.	
3.7	SB8 1層	土 脳 鋼 鐵	-	-	-	AB.2000, AB.102077, AB.102080	外.30.00±0.00±1.30.20	中空且 上部破缺	黒-12/12	SB6.3-1.	
3.8	SB8 1層	陶 瓦 鐵	-	-	-	AB.2000, AB.102077, AB.102080	外.30.00±0.00±1.30.20	良	灰白色	黒- 1/12	SB6.3-1-2.588.
3.9	SB8 1層	陶 瓦 平版	15.9	-	-	AB.2000, AB.102077	外.30.00±0.00±1.30.20	良	灰白色	黒- 1/12	SB6.3-1.
4.0	SB8 1層	陶 瓦 平版	-	12.2	-	AB.2000, AB.102077	外.30.00±0.00±1.30.20	良	灰白色	黒- 1/12	SB6.3-1-2.
4.1	SB8 1層	陶 瓦 鐵板土 鐵板	13.2	-	-	AB.2000, AB.102077, AB.102080	外.30.00±0.00±1.30.20	良	黑色	黒- 1/12	SB6.3-1-2.588.
4.2	SB8 1層	陶 瓦 平版	-	-	-	AB.2000, AB.102077	外.30.00±0.00±1.30.20	良	灰白色	黒-12/12	SB6.3-1-2.588.
4.3	SB9 1層	土 脳 鋼 鐵	19.0	-	-	AB.2000, AB.102077, AB.102080, AB.102081	外.30.00±0.00±1.30.20	中空且 上部破缺	黒- 1/12	SB6.3-2.	
4.4	SB9 1層	土 脳 鋼 鐵	21.8	-	-	AB.2000, AB.102077, AB.102080, AB.102081, AB.102082	外.30.00±0.00±1.30.20	中空且 上部破缺	黒- 2/12	SB6.3-2-488.	
4.5	SB9 1層 力々F	土 脳 鋼 鐵	18.6	6.0	19.0	AB.2000, AB.102077, AB.102080, AB.102081, AB.102082	外.30.00±0.00±1.30.20	良	灰白色	黒- 2/12	SB6.3-2-488.
4.6	SB9 1層	陶 瓦 平版	11.5	-	-	AB.2000	外.30.00±0.00±1.30.20	良	灰白色	黒- 1/12	SB6.3-1-D.
4.7	SB9 1層	陶 瓦 平版	14.3	3.6	3.6	AB.2000, AB.102077/2	外.30.00±0.00±1.30.20	良	灰白色	黒- 2/12	SB6.3-1-D.588.
4.8	SB9 1層	陶 瓦 平版	15.1	-	-	AB.2000, AB.102077/2	外.30.00±0.00±1.30.20	良	灰白色	黒- 1/12	SB6.3-1-2.
4.9	SB9 1層	陶 瓦 平版	15.5	-	-	AB.2000, AB.102077	外.30.00±0.00±1.30.20	良	灰白色	黒- 1/12	SB6.3-1-2.588.
5.0	SB9 1層	陶 瓦 高环	21.7	13.2	2.1	AB.2000, AB.102077, AB.102081, AB.102082	外.30.00±0.00±1.30.20	中空且 上部破缺	黒- 5/12	SB6.3-2.	

第55表 針田遺跡遺物觀察表(3)

件 番 号	出土遺構	器 種	法 量(cm)		變 形・調 整	地 上	燒 成	色 調	残 存 率 (%)	備 考
			11往	成形						
5.1	SB9 1層	須 直 筒 形身	-	11.2	-	198.5-199.5mm, 199.5-200.5mm	9.5mm 1.5mm	灰 灰色	88- 3/12	須直筒形身
5.2	SB9 1層	土 師 器 圓腹土器	8.1	-	-	190.5-191.5mm, 191.5-192.5mm	9.5mm 1.5mm	中中良 燒 色	88- 1/12	圓腹土器
5.3	SB9 1層	土 師 器 圓腹土器	7.2	-	-	190.5-191.5mm, 191.5-192.5mm	9.5mm 1.5mm	灰 灰白色	88- 1/12	圓腹土器
5.4	SB10 力々下 方	土 師 器 實	19.0	-	-	198.5-199.5mm, 199.5-200.5mm 199.5-200.5mm	9.5mm 1.5mm	灰 灰黑色	88- 2/12	須直筒形身
5.5	SB10 SK1	土 師 器 實	19.8	-	-	198.5-199.5mm, 199.5-200.5mm 199.5-200.5mm	9.5mm 1.5mm	中中良 燒 色	88- 1/12	須直筒形身
5.6	SB10 力々下 方	土 師 器 實	-	-	-	198.5-199.5mm, 199.5-200.5mm 199.5-200.5mm	9.5mm 1.5mm	灰 灰黑色	88- 1/12	須直筒形身
5.7	SB10 1層	土 師 器 實	21.0	-	-	198.5-199.5mm	9.5mm 1.5mm	中中良 燒 色	88- 1/12	須直筒形身
5.8	SB10 1層	土 師 器 圓腹土器	6.4	-	-	190.5-191.5mm, 191.5-192.5mm	9.5mm 1.5mm	中中良 燒 色	88- 1/12	圓腹土器
5.9	SB10 1層	土 師 器 圓腹土器	8.5	-	-	190.5-191.5mm, 191.5-192.5mm	9.5mm 1.5mm	中中良 燒 色	88- 2/12	圓腹土器
6.0	SB10 1層	土 師 器 管狀土器	6.6	2.2	-	190.5-191.5mm	9.5mm 1.5mm	中中良 燒 色	88- 1/12	管狀土器
6.1	須 直 筒 形身	12.7	-	-	8-18.5mm	8.5mm 1.5mm	中中良 燒 色	88- 1/12	須直筒形身	
6.2	SB11 1層	須 直 筒 形身	16.6	3.4	2.5	198.5-199.5mm 199.5-200.5mm	8.5mm 1.5mm	灰 黃褐色	88- 1/12	須直筒形身
6.3	SB11 1層	土 師 器 實	14.2	-	-	198.5-199.5mm, 199.5-200.5mm	9.5mm 1.5mm	中中良 燒 色	88- 1/12	須直筒形身
6.4	SB11 1層	土 師 器 圓腹土器	6.2	-	-	190.5-191.5mm, 191.5-192.5mm	9.5mm 1.5mm	中中良 燒 色	88- 2/12	圓腹土器
6.5	SB12 1層	須 直 筒 形身	14.6	-	-	8-18.5mm	8.5mm 1.5mm	灰 灰白色	88- 1/12	須直筒形身
6.6	SB12 1層	須 直 筒 形身	15.1	-	-	198.5-199.5mm 199.5-200.5mm	8.5mm 1.5mm	灰 灰白色	88- 1/12	須直筒形身
6.7	SB12 1層	土 師 器 圓腹土器	7.1	-	-	190.5-191.5mm, 191.5-192.5mm	9.5mm 1.5mm	中中良 燒 色	88- 1/12	圓腹土器
6.8	SB12 1層	土 師 器 圓腹土器	8.6	-	-	190.5-191.5mm, 191.5-192.5mm	9.5mm 1.5mm	灰 灰白色	88- 1/12	圓腹土器
6.9	SB13 1層	土 師 器 實	15.6	-	-	198.5-199.5mm, 199.5-200.5mm	9.5mm 1.5mm	中中良 燒 色	88- 2/12	須直筒形身
7.0	SB13 1層	土 師 器 圓腹土器	-	-	-	198.5-199.5mm, 199.5-200.5mm	9.5mm 1.5mm	中中良 燒 色	88- 1/12	圓腹土器
7.1	SB13 1層	土 師 器 實	17.2	-	-	198.5-199.5mm, 199.5-200.5mm	9.5mm 1.5mm	中中良 燒 色	88- 2/12	須直筒形身
7.2	SB13 1層	須 直 筒 形身	-	2.4	-	-	8.5mm 1.5mm	灰 灰白色	88- 1/12	須直筒形身
7.3	SB14 1層	土 師 器 實	12.4	-	-	198.5-199.5mm, 199.5-200.5mm 199.5-200.5mm	9.5mm 1.5mm	中中良 燒 色	88- 2/12	須直筒形身
7.4	SB14 1層	土 師 器 實	24.0	-	-	198.5-199.5mm	9.5mm 1.5mm	中中良 燒 色	88- 1/12	須直筒形身
7.5	SB14 1層	土 師 器 實	18.0	-	-	198.5-199.5mm, 199.5-200.5mm	9.5mm 1.5mm	中中良 燒 色	88- 2/12	須直筒形身

第56表 針田遺跡遺物觀察表(4)

件 番 号	出土遺構	基 礎	底 基(cm)			整 形	調 査	前 上	地 成	色 調	残 存 率 (%)	備 考
			口徑	底徑	高さ							
7.6	SB14 1層	土 基 盤	24.0	—	—	筒状。外径89.7, 内径66.0, 厚. 8.5±0.000.	99.81±0.01+/-0.004 30.	中 小 良	灰褐色	DB- 1/12	SB14B, T7E.	
7.7	SB14 1層	土 基 盤・把手	—	—	—	筒狀。直径89.7, 厚. 8.5±0.000, 高. 17.	99.81±0.01+/-0.004 30.	良	灰褐色	詳細不明	SB14B.	
7.8	SB14 1層	直 筒 器 环茎	16.0	—	—	筒狀。外径87.7, 厚. 8.5±0.000.	99.81±0.01+/-0.004 30.	良	灰白色	DB- 1/12	SB14B, T-2-3.	
7.9	SB14 1層	直 筒 器 高环	13.7	—	—	筒狀。外径87.7, 厚. 8.5±0.000,	99.81±0.01+/-0.004 30.	中 小 良	灰 色	DB- 1/12	SB14B, T-3-4.	
8.0	SB14 1層	直 筒 器 环身	—	5.0	—	筒狀。外径87.7, 厚. 8.5±0.000,	99.81±0.01+/-0.004 30.	良	灰 色	DB- 1/12	SB14B, T-1-2	
8.1	SB14 1層	土 基 盤 製版土器	9.4	—	—	円筒。外径87.7, 直径5.5, 厚. 8.5±0.000.	99.81±0.01+/-0.004 30.	中 小 良	灰 色	DB- 1/12	SB14B, H.	
8.2	SB14 1層	土 基 盤 製版土器	9.5	—	—	円筒。外径87.7, 直径5.5, 厚. 8.5±0.000.	99.81±0.01+/-0.004 30.	中 小 良	灰 色	DB- 1/12	SB14B, H.	
8.3	SB16 1層	土 基 盤	23.6	—	—	筒狀。外径89.7, 直径18.0, 厚. 8.5±0.000, 直径8.5, 厚. 8.5±0.000.	99.81±0.01+/-0.004 30.	中 小 良	灰 色	DB- 2/12	SB14B.	
8.4	SB16 1層	土 基 盤	19.0	—	—	筒狀。外径87.7, 直径18.0, 厚. 8.5±0.000, 直径8.5, 厚. 8.5±0.000.	99.81±0.01+/-0.004 30.	中 小 良	灰 色	DB- 1/12	SB14B, T6-7E.	
8.5	SB16 1層	土 基 盤	12.3	—	—	筒狀。外径87.7, 直径18.0, 厚. 8.5±0.000, 直径8.5, 厚. 8.5±0.000.	99.81±0.01+/-0.004 30.	中 小 良	灰 色	DB- 2/12	SB14B, T6-7E.	
8.6	SB16 1層	土 基 盤 製版土器	—	4.1	—	円筒。外径89.7, 直径18.0, 厚. 8.5±0.000, 直径8.5, 厚. 8.5±0.000.	99.81±0.01+/-0.004 30.	中 小 良	灰 色	DB- 1/12	SB14B, SB16-17E.	
8.7	SB16 1層	土 基 盤 製版土器	8.1	—	—	円筒。外径87.7, 直径18.0, 厚. 8.5±0.000.	99.81±0.01+/-0.004 30.	中 小 良	灰 色	DB- 1/12	SB14B, H.	
8.8	SB16 1層	土 基 盤 製版土器	8.5	—	—	円筒。外径87.7, 直径18.0, 厚. 8.5±0.000.	99.81±0.01+/-0.004 30.	中 小 良	灰 色	DB- 1/12	SB14B, H.	
8.9	SB16 1層	土 基 盤 製版土器	8.5	—	—	円筒。外径87.7, 直径18.0, 厚. 8.5±0.000.	99.81±0.01+/-0.004 30.	中 小 良	灰 色	DB- 1/12	SB14B, H.	
9.0	SB14 1層	直 筒 器 环茎	13.5	—	—	筒狀。外径87.7, 厚. 8.5±0.000, 高. 13.5.	99.81±0.01+/-0.004 30.	良	灰 色	DB- 3/12	SB14B, T-2-3.	
9.1	SB14 1層	直 筒 器 环茎	15.9	—	—	筒狀。外径87.7, 厚. 8.5±0.000, 高. 15.9.	99.81±0.01+/-0.004 30.	中 小 良	灰 色	DB- 1/12	SB14B, T-2-3.	
9.2	SB14 1層	直 筒 器 环茎	15.8	—	—	筒狀。外径87.7, 厚. 8.5±0.000, 高. 15.8.	99.81±0.01+/-0.004 30.	良	灰 色	DB- 2/12	SB14B, T-2-3.	
9.3	SB16 1層	直 筒 器 环身	16.0	12.2	3.4	筒狀。外径87.7, 直径12.2, 厚. 8.5±0.000.	99.81±0.01+/-0.004 30.	良	黄 灰 色	DB- 3/12	SB14B, T-2-3.	
9.4	SB16 1層	直 筒 器 环身	10.7	—	—	筒狀。外径87.7, 厚. 8.5±0.000, 高. 10.7.	99.81±0.01+/-0.004 30.	良	灰 色	DB- 1/12	SB14B, T-1.	
9.5	SB16 1層	直 筒 器 环身	—	10.2	—	筒狀。外径87.7, 厚. 8.5±0.000, 高. 10.2.	99.81±0.01+/-0.004 30.	良	灰 色	DB- 1/12	SB14B.	
9.6	SB16 1層	直 筒 器 环身	—	4.9	—	筒狀。外径87.7, 厚. 8.5±0.000, 高. 4.9.	99.81±0.01+/-0.004 30.	良	灰 色	DB- 1/12	SB14B, T-2-3.	
9.7	SB16 1層	直 筒 器 环身	—	7.8	—	筒狀。外径87.7, 厚. 8.5±0.000, 高. 7.8.	99.81±0.01+/-0.004 30.	中 小 良	灰 色	DB- 4/12		
9.8	SB15 1層	土 基 盤	17.0	—	—	筒狀。外径87.7, 直径17.0, 厚. 8.5±0.000.	99.81±0.01+/-0.004 30.	中 小 良	灰 色	DB- 2/12	SB14B, H.	
9.9	SB15 1層	土 基 盤 製版土器	6.9	—	—	円筒。外径87.7, 直径6.9, 厚. 8.5±0.000.	99.81±0.01+/-0.004 30.	中 小 良	灰 色	DB- 1/12	SB14B, H.	
1.00	SB15 1層	土 基 盤 製版土器	5.7	—	—	円筒。外径87.7, 直径5.7, 厚. 8.5±0.000.	99.81±0.01+/-0.004 30.	中 小 良	灰 色	DB- 1/12	SB14B, H.	

第57表 計田道路遺物觀察表(5)

件 番 号	出土遺 跡	形 態	法 量(cm)			變 形・調 整	地 土	地 成	色 調	充 分 度 (L/12)	備 考
			口徑	底径	厚度						
101	SB15 1回 側面土器	8.1	-	-	-	PPG2, R8, 897, 898, 899,	998, 999, 1000+1, 10, 10 890, 891,	中-中 良	灰 色	10- 1/12	10000, 9,
102	SB15 1回 坪蓋	19.0	-	-	-	PPG2, R8, 897,	998, 999, 1000+1, 10, 10 890, 891,	良	灰白色	10- 1/12	10000, 9-1, 888,
103	SB16 1回 坪介	11.6	-	-	-	R-88, 897,	998, 999, 1000+1, 10, 10 890, 891,	良	灰 色	10- 2/12	10000, 9-2,
104	SB15 1回 森林	9.0	-	-	-	R-88, 897,	998, 999, 1000+1, 10, 10 890, 891,	良	灰 色	10- 2/12	10000, 9-3-1,
105	SB17 1回 坪介	15.0	-	-	-	R-88, 897,	998, 999, 1000+1, 10, 10 890, 891,	良	灰 色	10- 2/12	10000, 9-4,
106	SB17 1回 鐵	8.9	-	-	-	R-88, 897,	998, 999, 1000+1, 10, 10 890, 891,	良	青 灰色	10- 3/12	10000, 9-5-2,
107	SB18 1回 鐵	18.5	-	-	-	PPG2, R8, 897, 898, 899, 890, 891, 892, 893, 894,	998, 999, 1000+1, 10, 10 890, 891,	中-中 良	灰 色	10- 1/12	10000,
108	SB18 1回 鐵	20.0	-	-	-	PPG2, R8, 897, 898, 899, 890, 891,	998, 999, 1000+1, 10, 10 890, 891,	中-中 良	灰 色	10- 1/12	10000, 988, 989, 990,
109	SB18 1回 鐵 力子	5.4	-	-	-	PPG2, R8, 897, 898, 899, 890, 891, 892, 893, 894, 895, 896, 897, 898, 899, 890, 891, 892, 893, 894,	998, 999, 1000+1, 10, 10 890, 891,	中-中 良	灰 色	10- 2/12	10000, 98-22, 98-23, 988,
110	SB18 1回 鐵	-	6.3	-	-	PPG2, R8, 897, 898, 899, 890, 891,	998, 999, 1000+1, 10, 10 890, 891,	中-中 良	灰 色	10- 2/12	10000,
111	SB18 1回 側面土器	7.1	-	-	-	PPG2, R8, 897, 898, 899, 890, 891,	998, 999, 1000+1, 10, 10 890, 891,	中-中 良	粉 色	10- 2/12	10000, 9,
112	SB18 Pitt	16.2	-	-	-	R-88, 897,	998, 999, 1000+1, 10, 10 890, 891,	良	黄 色	10- 1/12	10000, 9-27,
113	SB19 1回 鐵	-	6.5	-	-	PPG2, R8, 897, 898, 899, 890, 891, 892, 893, 894,	998, 999, 1000+1, 10, 10 890, 891,	中-中 良	黑 色	10- 3/12	10000, 98-98,
114	SB19 1回 鐵板	13.1	-	-	-	R-88, 897, 898, 899, 890, 891,	998, 999, 1000+1, 10, 10 890, 891,	良	红 色	10- 3/12	10000, 9-1, 888,
115	SB20 1回 鐵	17.9	-	-	-	PPG2, R8, 897, 898, 899, 890, 891,	998, 999, 1000+1, 10, 10 890, 891,	中-中 良	灰 色	10- 1/12	10000, 9900, 990,
116	SB21 1回 鐵	12.9	-	-	-	PPG2, R8, 897,	998, 999, 1000+1, 10, 10 890, 891,	中-中 良	灰 色	10- 1/12	10000,
117	SB21 1回 坪蓋	14.1	-	-	-	R-88, 897, 898, 899, 890, 891,	998, 999, 1000+1, 10, 10 890, 891,	良	灰 色	10- 2/12	10000, 9-3-1,
118	SB21 1回 坪介	14.6	-	-	-	PPG2, R8, 897, 898, 899, 890,	998, 999, 1000+1, 10, 10 890, 891,	良	灰 色	10- 1/12	10000, 9-3-2,
119	SB21 1回 坪蓋	15.7	-	-	-	PPG2, R8, 897,	998, 999, 1000+1, 10, 10 890, 891,	良	灰 色	10- 1/12	10000, 9-3-1, 888,
120	SB21 1回 坪蓋	16.8	-	-	-	PPG2, R8, 897, 898, 899, 890, 891,	998, 999, 1000+1, 10, 10 890, 891,	良	灰 色	10- 1/12	10000, 9-3-2,
121	SB21 1回 坪介	-	5.7	-	-	PPG2, R8, 897, 898, 899, 890,	998, 999, 1000+1, 10, 10 890, 891,	中-中 良	灰 色	10- 2/12	10000, 9-17,
122	SB22 1回 木 子	14.9	-	-	-	PPG2, R8, 897, 898, 899, 890, 891, 892, 893, 894, 895,	998, 999, 1000+1, 10, 10 890, 891,	中-中 良	灰 色	10- 2/12	10000, 9-3-4,
123	SB22 1回 鐵	13.8	-	-	-	PPG2, R8, 897, 898, 899, 890, 891, 892, 893, 894, 895, 896,	998, 999, 1000+1, 10, 10 890, 891,	良	灰 色	10- 3/12	10000, 988, 989-990, 99-78,
124	SB22 1回 鐵	18.0	-	-	-	PPG2, R8, 897, 898, 899, 890, 891, 892, 893, 894, 895,	998, 999, 1000+1, 10, 10 890, 891,	中-中 良	灰 色	10- 1/12	10000, 988, 989-990, 99-78,
125	SB22 1回 鐵	20.0	-	-	-	PPG2, R8, 897, 898, 899, 890,	998, 999, 1000+1, 10, 10 890, 891,	中-中 良	灰 色	10- 3/12	10000, 988, 989-990, 99-78,

第58表 針田遺跡遺物觀察表(6)

件 號 號 號	出土遺 物 名	器 種	尺 寸 (cm)			整 形 · 調 節	施 土	燒 成	色 調	殘 存 率 (%)	備 考
			口徑	底徑	厚度						
126	SB22 1層	土 師 窯 窯	21.1	—	—	圓錐形, 細長, 壓縮, 烧成 灰, 灰褐色。	49.5mmH×1.56.5W 49.5mmH.	中中燒	青灰色	0%~2/12	燒成, 灰 燒成, 灰-7%.
127	SB22 1層	土 師 窯 窯	20.9	—	—	圓錐形, 細長, 壓縮, 烧成 灰, 灰褐色。	49.5mmH×1.56.5W 49.5mmH.	中中燒	青灰色	0%~2/12	燒成, 灰 燒成, 灰-7%.
128	SB22 1層	陶 瓶 瓶	15.2	—	—	X形+細, 灰紅。	8.55.5mmH×1.56.5W 49.5mmH.	良	灰 色	0%~1/12	燒成, 灰-2~3.8%.
129	SB22 1層	陶 瓶 瓶	15.0	—	—	X形+細, 灰紅。	8.55.5mmH×1.56.5W 49.5mmH.	良	灰 色	0%~2/12	燒成, 灰-2.
130	SB22 1層	陶 瓶 瓶	15.6	—	—	X形+細, 灰紅。	8.55.5mmH×1.56.5W 49.5mmH.	良	灰 色	0%~1/12	燒成, 灰-2~3.
131	SB22 1層	陶 瓶 瓶	14.4	—	—	X形+細, 灰紅。	8.55.5mmH×1.56.5W 49.5mmH.	良	黃 灰 色	0%~1/12	燒成, 灰-2.
132	SB22 1層	陶 瓶 瓶	21.5	—	—	X形+細, 灰紅。	8.55.5mmH×1.56.5W 49.5mmH.	良	灰 色	0%~1/12	燒成, 灰-2.
133	SB22 1層	陶 瓶 瓶	13.8	—	—	5~6mmH, 細長, 灰紅。	8.55.5mmH×1.56.5W 49.5mmH.	良	灰 色	0%~1/12	燒成, 灰-2.
134	SB22 1層	陶 瓶 瓶	9.8	—	—	5~6mmH, 灰紅。	8.55.5mmH×1.56.5W 49.5mmH.	良	黃 灰 色	0%~1/12	燒成, 灰-2~3.
135	SB22 1層	陶 瓶 瓶	—	9.1	—	8mmH, 灰紅, 灰白, 灰 白, 灰紅。	8.55.5mmH×1.56.5W 49.5mmH.	中中良	黃 灰 色	0%~2/12	燒成, 灰-2~3.
136	SB22 1層	陶 瓶 瓶	13.6	—	—	X形+細, 灰紅。	8.	良	灰 灰 色	0%~1/12	燒成, 灰-1~2.5~8%.
137	SB22 1層	土 師 窯 制 胎 土	9.4	—	—	球狀, 細長, 灰紅。	49.5mmH×1.56.5W 49.5mmH.	中中良	灰 色	0%~1/12	燒成, 灰.
138	SB22 1層	土 師 窯 制 胎 土	7.5	—	—	球狀, 細長, 灰紅。	49.5mmH×1.56.5W 49.5mmH.	中中燒	灰 色	0%~2/12	燒成, 灰.
139	SB22 1層	土 師 窯 制 胎 土	7.9	—	—	球狀, 細長, 灰紅。	49.5mmH×1.56.5W 49.5mmH.	中中良	灰 色	0%~1/12	燒成, 灰.
140	SB22 1層	土 師 窯 制 胎 土	9.2	—	—	球狀, 細長, 灰紅。	49.5mmH×1.56.5W 49.5mmH.	良	灰 色	0%~1/12	燒成, 灰.
141	SB22 1層	土 師 窯 制 胎 土	7.9	—	—	球狀, 細長, 灰紅。	49.5mmH×1.56.5W 49.5mmH.	中中燒	灰 色	0%~1/12	燒成, 灰.
142	SB23 1層	土 師 窯 窯	16.6	—	—	圓錐形, 細長, 壓縮, 灰 白, 灰白, 灰白, 灰白, 灰 白, 灰白。	49.5mmH×1.56.5W 49.5mmH.	中中良	赤褐色	0%~2/12	燒成, 灰-8%.
143	SB23 1層	土 師 窯 窯	14.7	—	—	圓錐形, 細長, 壓縮, 灰 白, 灰白。	49.5mmH×1.56.5W 49.5mmH.	中中燒	灰 色	0%~1/12	燒成, 灰-8%.
144	SB23 1層	土 師 窯 窯	18.6	—	—	圓錐形, 細長, 壓縮, 灰 白, 灰白。	49.5mmH×1.56.5W 49.5mmH.	中中良	灰 色	0%~1/12	燒成, 灰-8%.
145	SB23 力々下	土 師 窯 制 胎 土	6.0	—	—	球狀, 細長, 灰紅。	49.5mmH×1.56.5W 49.5mmH.	良	灰 色	0%~4/12	燒成, 灰.
146	SB23 力々下	土 師 窯 制 胎 土	6.1	—	—	球狀, 細長, 灰紅。	49.5mmH×1.56.5W 49.5mmH.	良	灰 色	0%~5/12	燒成, 灰.
147	SB23 1層	土 師 窯 窯	4.5	—	—	球狀, 細長, 灰紅。	49.5mmH×1.56.5W 49.5mmH.	中中良	灰 色	0%~2/12	燒成, 灰.
148	SB23 1層	土 師 窯 制 胎 土	8.8	—	—	球狀, 細長, 灰紅。	49.5mmH×1.56.5W 49.5mmH.	中中燒	灰 色	0%~2/12	燒成, 灰.
149	SB24 1層	土 師 窯 窯	15.0	—	—	圓錐形, 細長, 壓縮, 灰 白, 灰白, 灰白, 灰白, 灰 白。	49.5mmH×1.56.5W 49.5mmH.	中中良	灰 色	0%~2/12	
150	SB24 1層	土 師 窯 窯	14.5	—	—	圓錐形, 細長, 壓縮,	8.	良	灰 色	0%~3/12	

第59表 針田道跡遺物観察表 (7)

件 番 号	出土遺構	器 種	底 径 (cm)			地 形・調 査	地 土	地 成	色 調	残 存 率 (%)	備 考
			口径	底径	高さ						
151	SB24 1層	土 師 器 類	-	-	-	89-896. 895864-897. 896. 896697.	8. 8962749-1. 86. 68 8938.	中-中良	灰褐色	追溯不能	
152	SB24 1層	土 師 器 S字型	-	-	-	89-896. 895864-897. 896. 896697.	8. 8962749-1. 86. 68 8938.	中-中良	灰褐色	追溯不能	SB24-1-3-47
153	SB24 1層 A員直筒	9.9	-	-	-	89-896. 895864-897. 896. 896697. 89-896. 896. 896697.	8. 8962749-1. 86. 68 8938.	良	明褐色	89-5/12	SB24-1-3-4.
154	SB24 1層 鋸台	15.1	-	-	-	89-896. 895864-897. 896. 896697.	8. 8962749-1. 86. 68 8938.	良	褐色	89-1/12	SB24-1-3-4.
155	SB24 1層 鋸台	-	12.0	-	-	-	-	中-中良	褐色	89-2/12	SB24-1-3-4.
156	SB25 1層 直 筒	19.0	-	-	-	89-896. 895864-897. 896. 896697.	8. 8962749-1. 86. 68 8938.	中-中良	灰褐色	89-1/12	SB24-1-3-4.
157	SB25 1層 圓 筒	19.0	-	-	-	89-896. 895864-897. 896. 896697.	8. 8962749-1. 86. 68 8938.	中-中良	灰褐色	89-1/12	K14-K50出目.
158	SB26 1層 直 筒	23.6	-	-	-	89-896. 895864-897. 896. 896697.	8. 8962749-1. 86. 68 8938.	良	明褐色	89-2/12	SB24-1-3-4, SB24-1-3-5.
159	SB26 1層 直身 身身	11.8	6.0	2.9	-	8. 8962749-1. 86. 68 8938.	8. 8962749-1. 86. 68 8938.	良	灰白色	89-2/12 89-9/12	SB24-1-3-4.
160	SB26 1層 直身 身身	11.3	6.4	2.9	-	8. 8962749-1. 86. 68 8938.	8. 8962749-1. 86. 68 8938.	良	灰白色	89-3/12 89-2/12	SB24-1-3-4.
161	SB26 1層 直身 身身	-	7.8	-	-	8. 8962749-1. 86. 68 8938.	8. 8962749-1. 86. 68 8938.	良	灰白色	89-7/12	
162	SB26 1層 瓶體?	22.0	-	-	-	-	-	良	黃褐色	89-1/12	
163	SB26 1層 瓶體上部	-	1.6	-	-	89-896. 895864-897. 896. 896697.	8. 8962749-1. 86. 68 8938.	良	米白色	追溯不能	SB24-1-3-4.
164	SB27 1層	土 師 器 直 筒	20.1	-	-	89-896. 895864-897. 896. 896697. 89-896. 896. 896697. 89-896. 896. 896697.	8. 8962749-1. 86. 68 8938.	中-中良	灰褐色	89-2/12	SB24-1-3-4, SB24-1-3-5.
165	SB27 1層 直身 身身	13.2	6.9	3.7	-	8. 8962749-1. 86. 68 8938.	8. 8962749-1. 86. 68 8938.	中-中良	灰白色	89-2/12 89-3/12	SB24-1-3-4-2.
166	SB27 1層 直身 身身	-	9.7	-	-	89-896. 895864-897. 896. 896697.	8. 8962749-1. 86. 68 8938.	良	黃褐色	89-4/12	
167	SB27 1層 直身 身身	-	9.8	-	-	89-896. 895864-897. 896. 896697.	8. 8962749-1. 86. 68 8938.	良	黃褐色	89-4/12	SB24-1-3-4-2.
168	SB28 1層 直 筒	20.8	-	-	-	89-896. 895864-897. 896. 896697. 89-896. 896. 896697.	8. 8962749-1. 86. 68 8938.	中-中良	米白色	89-1/12	SB24-1-3-4.
169	SB28 1層 直 筒	13.9	-	-	-	89-896. 895864-897. 896. 896697.	8. 8962749-1. 86. 68 8938.	中-中良	米白色	89-1/12	SB24-1-3-4-2.
170	SB28 1層 直身 身身	12.7	-	-	-	8. 8962749-1. 86. 68 8938.	8. 8962749-1. 86. 68 8938.	良	灰褐色	89-1/12	SB24-1-3-4-2.
171	SB28 1層 直 筒	14.9	-	-	-	8. 8962749-1. 86. 68 8938.	8. 8962749-1. 86. 68 8938.	良	灰白色	89-2/12	SB24-1-3-4-2.
172	SB28 1層 直身 身身	18.6	-	-	-	8. 8962749-1. 86. 68 8938.	8. 8962749-1. 86. 68 8938.	良	灰白色	89-2/12	SB24-1-3-4-2.
173	SB28 1層 直身 身身	20.6	-	-	-	8. 8962749-1. 86. 68 8938.	8. 8962749-1. 86. 68 8938.	良	米白色	89-1/12	SB24-1-3-4-2.
174	SB28 1層 直身 身身	13.4	3.98	2.7	8. 8962749-1. 86. 68 8938.	8. 8962749-1. 86. 68 8938.	良	灰白色	89-2/12	SB24-1-3-4-2.	
175	SB28 1層 直 筒	22.3	-	-	8. 8962749-1. 86. 68 8938.	8. 8962749-1. 86. 68 8938.	良	灰白色	89-2/12	SB24-1-3-4-2.	

第60表 針田遺跡遺物觀察表(8)

件 番 号	出土遺構	遺 物	尺 寸(cm)			質 地 測 定	重 量	形 狀	色 調	保存 率	備 考
			口徑	底徑	高さ						
176	SB28 1層	陶器 环身	10.5	4.1	4.7	BBR. HBR. HBR. HBR. HBR.	8.35g	筒形-1.50x0.50	良	24.0g	BB. 3/12 BB. 5/12
177	SB28 1層	陶器 环身	12.7	8.4	3.6	S-H. HBR. HBR. HBR. HBR.	8.35g	筒形-1.50x0.50	良	44.9g	BB. 1/12 BB. 3/12 BB. 4/12
178	SB28 1層	陶器 环身	-	7.2	-	BBR. HBR. HBR. HBR.	8.35g	筒形-1.50x0.50	良	44.8g	BB. 4/12
179	SB28 1層	陶器 环身	-	7.0	-	BBR. HBR. HBR. HBR.	8.35g	筒形-1.50x0.50	良	44.8g	BB. 5/12
180	SB28 1層	陶器 环身	13.9	7.5	3.9	S-H. HBR. HBR. HBR. HBR.	9.9g	筒形-1.50x0.50	中不良	44.8g	BB. 5/12 BB. 6/12
181	SB28 1層	陶器 环身	-	9.7	-	BBR. HBR. HBR. HBR.	8.35g	筒形-1.50x0.50	良	44.8g	BB. 7/12
182	SB28 1層	陶器 环身	-	11.7	-	BBR. HBR. HBR. HBR.	8.35g	筒形-1.50x0.50	良	44.8g	BB. 8/12
183	SB28 1層	陶器 环身	-	12.2	-	BBR. HBR. HBR. HBR.	9.9g	筒形-1.50x0.50	中不良	44.8g	BB. 4/12
184	SB28 1層	陶器 环身	8.6	5.0	-	S-H. HBR.	9.9g	筒形-1.50x0.50	良	44.8g	BB. 1/12 BB. 6/12
185	SB28 1層	陶器 环身	16.7	-	-	BBR. HBR. HBR.	9.9g	筒形-1.50x0.50	中不良	44.8g	BB. 2/12
186	SB28 1層	陶器 环身	-	12.4	-	S-H. HBR.	9.9g	筒形-1.50x0.50	中不良	44.8g	BB. 7/12
187	SB28 1層	土器 环身	-	9.9	-	BBR. HBR. HBR.	9.9g	筒形-1.50x0.50	中不良	44.8g	計測不能
188	SB29 1層	土器 實	14.2	-	-	BBR. HBR. HBR. HBR. HBR.	9.9g	筒形-1.50x0.50	良	44.8g	BB. 3/12
189	SB29 力々P	土器 實	-	6.5	-	HBR. HBR. HBR. HBR. HBR.	8.35g	筒形-1.50x0.50	良	24.0g	BB. 12/12
190	SB29 力々P	土器 實	-	-	-	HBR. HBR. HBR. HBR.	8.35g	筒形-1.50x0.50	中不良	24.0g	計測不能
191	SB29 力々P	土器 實	-	-	-	HBR. HBR. HBR. HBR.	8.35g	筒形-1.50x0.50	中不良	24.0g	計測不能
192	SB29 力々P	土器 實	-	6.4	-	HBR. HBR. HBR. HBR.	8.35g	筒形-1.50x0.50	中不良	24.0g	BB. 5/12
193	SB29 P-11	土器 實	9.1	-	-	HBR. HBR. HBR. HBR.	8.35g	筒形-1.50x0.50	中不良	24.0g	BB. 7/12
194	SB29 1層	土器 實	-	5.7	-	HBR. HBR. HBR. HBR.	8.35g	筒形-1.50x0.50	中不良	24.0g	BB. 6/12 BB. 8/12, BB. 9/12
195	SB29 1層	土器 實	15.0	10.3	4.9	S-H. HBR. HBR. HBR.	9.9g	筒形-1.50x0.50	良	44.8g	BB. 12/12 BB. 13/12
196	SB29 1層	土器 實	11.3	8.3	2.1	S-H. HBR. HBR. HBR.	9.9g	筒形-1.50x0.50	良	44.8g	BB. 1/12 BB. 3/12
197	SB29 1層	土器 實	-	18.2	-	S-H. HBR. HBR. HBR.	9.9g	筒形-1.50x0.50	中不良	44.8g	BB. 3/12
198	SB29 1層	土器 實	19.6	-	-	S-H. HBR. HBR. HBR.	9.9g	筒形-1.50x0.50	良	44.8g	BB. 4/12
199	SB29 1層	土器 實	-	9.9	-	S-H. HBR. HBR. HBR.	9.9g	筒形-1.50x0.50	良	44.8g	BB. 10/12
200	SB29 1層	土器 實	18.8	-	-	S-H. HBR. HBR. HBR.	9.9g	筒形-1.50x0.50	良	44.8g	BB. 1/27

第61表 針田道路遺物觀察表 (9)

件 番 号	出土遺物	形 態	寸 法(cm)			遺 跡	地 質	地 成	色 調	残 存 率 (%)	備 考
			口徑	底径	高さ						
201	SB29 1号	土 師 器 鉢形土器	6.4	—	—	198.8-200.7, 0.0-0.6, 0.0-0.6	99.8-100.7-1.5-1.6, 0.0-0.6	中-中良	CD48	DB- 2/12	SB29.1-2.
202	SB30 1号	土 師 器 盤	12.0	—	—	198.8, 0.0-1.5, 0.0-0.6, 0.0-0.6	99.8-100.7-1.5-1.6, 0.0-0.6	中-中良	CD48	DB- 1/12	SB30.1-2.
203	SB30 1号	陶 器 环身	12.0	6.5	3.4	8-18-18.5, 0.0-0.6, 0.0-0.6	99.8-100.7-1.5-1.6, 0.0-0.6	中-中良	灰白色	DB- 2/12	SB30.1-2-3.
204	SB30 1号	陶 器 环盖	16.9	—	—	198.8, 0.0-0.6/2.0	99.8-100.7-1.5-1.6/0.6 0.0-0.6	良	E6-78	DB- 6/12	SB30.1-2-4.6.
205	SB30 1号	陶 器 环盖	16.3	—	—	198.8, 0.0-0.6/4.0	99.8-100.7-1.5-1.6 0.0-0.6	中-中良	灰褐色	DB- 2/12	SB30.1-2-.
206	SB30 1号	陶 器 环身	12.3	—	—	198.8-18.5, 0.0-0.6, 0.0-0.6	9.8-10.5-100.7-1.5-1.6 0.0-0.6	良	灰 色	DB- 1/12	SB30.1-2-3.
207	SB31 1号	土 師 器 盤	19.9	—	—	198.8, 0.0-0.6/7.0, 0.0-0.6, 0.0-0.6	9.8-100.7-1.5-1.6/0.6 0.0-0.6	中-中良	E2-85	DB- 1/12	SB31.1-2.
208	SB31 1号	土 師 器 盤	11.8	—	—	198.8, 0.0-0.6/7.0, 0.0-0.6, 0.0-0.6	99.8-100.7-1.5-1.6/0.6 0.0-0.6	中-中良	E2-85	DB- 2/12	SB31.1-3.
209	SB31 1号	土 師 器 盤	—	—	—	198.8-198.9, 0.0-0.6/9.0, 0.0-0.6/9.0	99.8-100.7-1.5-1.6 0.0-0.6	中-中良	CD48	計測不能	
210	SB31 1号	陶 器 环身	—	2.8	—	—	9.8-100.7-1.5-1.6/0.6 0.0-0.6	良	E2-85	計測不能	
211	SB31 1号	陶 器 环盖	14.3	2.6	—	198.8, 0.0-0.6/4.5	99.8-100.7-1.5-1.6 0.0-0.6	中-中良	灰 色	DB- 2/12	SB31.1-2.
212	SB31 1号	陶 器 环盖	15.5	—	—	198.8-18.5, 0.0-0.6	9.8-100.7-1.5-1.6/0.6 0.0-0.6	良	灰白色	DB- 1/12	SB31.1-2.
213	SB31 1号	陶 器 環	15.0	—	—	8-18-18.5, 0.0-0.6/9.0	9.8-100.7-1.5-1.6/0.6 0.0-0.6	良	灰 色	DB- 1/12	SB31.1-2-198.8.
214	SB31 1号	陶 器 环身	12.9	—	—	8-18-18.5,	9.8-100.7-1.5-1.6/0.6 0.0-0.6	良	CD48	DB- 1/12	SB31.1-2-37.
215	SB31 1号	陶 器 环身	—	5.6	—	8-18-18.5, 0.0-0.6/9.0	9.8-100.7-1.5-1.6/0.6 0.0-0.6	良	CD48	DB- 2/12	SB31.1-2.
216	SB31 1号	陶 器 盤?	—	14.7	—	198.8-198.9/12.0 0.0-0.6	9.8-100.7-1.5-1.6/0.6 0.0-0.6	良	E2-85	DB- 10/12	SB31.1-2-3.
217	SB31 1号	陶 器 环身	—	11.1	—	198.8, 0.0-0.6/10.0	9.8-100.7-1.5-1.6/0.6 0.0-0.6	中-中良	灰白色	DB- 7/12	
218	SB31 1号	陶 器 环身	—	9.4	—	198.8-18.5, 0.0-0.6	9.8-100.7-1.5-1.6/0.6 0.0-0.6	中-中良	灰白色	DB- 7/12	SB31.1-2-3.198.8.
219	SB31 1号	陶 器 盤?	—	15.2	—	198.8-18.5/18.5, 0.0-0.6	9.8-100.7-1.5-1.6/0.6 0.0-0.6	中-中良	灰白色	DB- 4/12	SB31.1-2-3.
220	SB32 1号	陶 器 环身	12.6	2.8	—	198.8, 0.0-0.6/2.0	9.8-100.7-1.5-1.6 0.0-0.6	中-中良	灰白色	DB- 2/12	SB32.1-1.
221	SB32 1号	陶 器 环身	—	7.8	—	198.8, 0.0-0.6/2.0	9.8-100.7-1.5-1.6/0.6 0.0-0.6	良	灰白色	計測不能	
222	SB32 1号	陶 器 环身	14.5	—	—	198.8, 0.0-0.6/2.0	9.8-100.7-1.5-1.6/0.6 0.0-0.6	良	灰白色	DB- 2/12	SB32.1-1.
223	SB32 1号	陶 器 环身	13.1	6.3	3.9	8-18-18.5/18.5, 0.0-0.6/9.0	9.8-100.7-1.5-1.6/0.6 0.0-0.6	中-中良	黄灰白	DB- 12/12	SB32.1-2-3-1.
224	SB32 1号	陶 器 环身	—	6.6	—	8-18-18.5/18.5, 0.0-0.6/9.0	9.8-100.7-1.5-1.6/0.6 0.0-0.6	中-中良	灰白色	DB- 3/12	SB32.1-2-3-1.
225	SB32 1号	陶 器 环身	13.4	7.9	4.6	8-18-18.5/18.5, 0.0-0.6/9.0	9.8-100.7-1.5-1.6/0.6 0.0-0.6	中-中良	灰 色	DB- 5/12	SB32.1-2-3-1.

第62表 針田遺跡遺物觀察表 (10)

件 番 号	出土遺 構	器 種	法 算 (cm)		形 状・ 調 整	施 工	燒 成	色 調	残 存 率 (%)	備 考	
			口 径	底 径							
226	SB32 1層	圓底深 盤	15.9	—	8-86H77. 8-86H80.	998.51m2019-1.50.08 9920.	中-中 燒	灰黃色	88- 2/12 SBM.V-1-2- 2268-8897		
227	SB32 1層	圓底深 盤	—	6.8	8-86H77.8-86H80. 9-86H.	998.51m2019-1.50.08 9920.	中-中 燒	灰黃色	88-12/12 SBM.V-1-2- 2268-8897		
228	SB32 1層	圓底深 盤	—	11.4	8-86H.	998.51m2019-1.50.08 9920.	中-中 燒	灰白色	88- 2/12 SBM.V-3-9-1.		
229	SB32 1層	圓底深 盤	15.8	7.3	8-86H77.8-86H80. 9-86H.	998.51m2019-1.50.08 9920.	中-中 燒	灰-灰 88- 2/12 88- 2/12	SBM.V-1-1- 2268-8897		
230	SB32 1層	圓底深 盤	—	7.7	8-86H77.8-86H80. 9-86H.	998.51m2019-1.50.08 9920.	中-中 燒	灰 88- 7/12	SBM.V-1-1.		
231	SB32 1層	圓底深 盤	—	8.0	8-86H77.8-86H80. 9-86H.	9.51m2019-1.50.089 9920.	良	灰 88- 5/12	SBM.V-1-1.		
232	SB32 1層	圓底深 盤	—	7.8	8-86H.	9.51m2019-1.50.089 9920.	良	灰黃色	計測不能	SBM.V-1-88925.	
233	SB32 1層	圓底深 盤	9.3	—	8-86H77.8-86H80. 9-86H.	9.51m2019-1.50.089 9920.	良	灰 88- 2/12			
234	SB32 1層	圓底深 盤	13.8	—	8-86H77.	9.	良	灰白色	88- 1/12	X140-890422.	
235	SB32 1層	土 器	—	8.8	8-86H.8-86H80. 9-86H.	998.51m2019-1.50.089 9920.	良	計測不能	SBM.V-88.		
236	SB33 1層	圓底深 盤	13.7	—	8-86H77.	998.51m2019-1.50.089 9920.	良	灰 88- 2/12	SBM.V-3-37		
237	SB33 1層	圓底深 盤	15.1	—	8-86H.8-86H80/2. 9-86H.	9.	良	灰白色	88- 2/12	SBM.V-3-37	
238	SB33 1層	圓底深 盤	16.6	6.8	8-86H77.8-86H80/2. 9-86H80/2.	998.51m2019-1.50.089 9920.	中-中 燒	灰黃色	88-11/12	SBM.V-1-1.	
239	SB33 1層	圓底深 盤	—	12.8	8-86H77.8-86H80/2. 9-86H.	998.51m2019-1.50.089 9920.	中-中 燒	灰 88- 1/12	SBM.V-3-2-1.		
240	SB33 1層	圓底深 盤	12.6	6.9	8-86H77.8-86H80/2. 9-86H.	9.51m2019-1.50.089 9920.	良	灰 88- 3/12 88-12/12	SBM.V-3-2.		
241	SB33 1層	圓底深 盤	—	8.1	8-86H.8-86H80/2. 9-86H.	9.51m2019-1.50.089 9920.	良	灰白色	88- 5/12	889.	
242	SB33 1層	圓底深 盤	12.8	—	8-86H77.8-86H80/2. 9-86H.	998.51m2019-1.50.089 9920.	良	黃灰 88- 3/12	889.889.		
243	SB33 1層	圓底深 盤	20.1	—	8-86H77.8-86H80/2. 9-86H.	9.51m2019-1.50.089 9920.	良	灰白色	88- 2/12	889.	
244	SB34 1層	土 器	18.9	—	8-86H.8-86H80/2. 9-86H.	998.51m2019-1.50.089 9920.	中-中 燒	88- 1/12	SBM.V-88.		
245	SB34 1層	土 器	17.9	—	8-86H.8-86H80/2. 9-86H.	998.51m2019-1.50.089 9920.	中-中 燒	88- 1/12	SBM.V-88.		
246	SB34 1層	土 器	15.8	—	8-86H.8-86H80/2. 9-86H.	998.51m2019-1.50.089 9920.	中-中 燒	88- 1/12	SBM.V-88.		
247	SB34 1層	土 器	11.8	—	8-86H.8-86H80/2. 9-86H.	998.51m2019-1.50.089 9920.	中-中 燒	88- 2/12	SBM.V-88.		
248	SB34 1層	土 器	—	—	8-86H.8-86H80/2. 9-86H.	9.51m2019-1.50.089 9920.	良	計測不能			
249	SB34 1層	土 器	19.0	—	8-86H77.	9.51m2019-1.50.089 9920.	良	灰白色	88- 2/12	SBM.V-1-1.	
250	SB34 1層	圓底深 盤	25.9	—	8-86H.8-86H80/2. 9-86H.	998.51m2019-1.50.089 9920.	良	灰黃色	88- 2/12	SBM.V-1-1.	

第63表 针田道路遺物観察表(11)

序 番 号	出土場所	面 積	法 線(cm)	整 形・溝 形	地 上	地 底	色 調	残存率 (%)	備 考
					OB	OBH	底面		
251	SB34 1m 外縁	28.8	-	-	1188.00A/001/2.	8.11m2049+1.50.000 1200.	良	灰白色	OB- 1/12 SB34.1-1.
252	SB34 1m 外縁	14.8	-	-	1188.00A/001/2.	8.11m2049+1.50.000 1200.	良	黄灰色	OB- 2/12 SB34.1-2.
253	SB34 1m 外縁	11.6	6.0	2.9	8-OB-0017.	8.11m2049+1.50.000 1200.	良	灰白色	OB- 2/12 OB- 1/12 SB34.1-3-4-17
254	SB34 1m 外縁	-	5.7	-	8-OB-0017. 1188.000 1200.	8.11m2049+1.50.000 1200.	中小良	灰白色	OB- 2/12 SB34.1-3-4-17
255	SB34 1m 外縁	-	5.8	-	8-OB-0017. 1188.000 1200.	998.11.5m2049+1.50.0 1200.	中小良	灰白色	OB- 4/12 SB34.1-3-4-17 OB- 00002.
256	SB34 1m 外縁	-	8.5	-	8-OB-0017. 1188.000 1200.	8.11m2049+1.50.000 1200.	良	灰白色	OB- 2/12 SB34.1-5-3.
257	SB34 1m 外縁	-	9.9	-	8-OB-0017. 1188.000 1200.	8.11m2049+1.50.000 1200.	良	灰黄色	OB- 6/12 SB34.1-5-3-4-1. OB- 00020. OB- 0002.
258	SB34 1m 外縁	-	7.5	-	8-OB-0017. 1188.000 1200.	8.11m2049+1.50.000 1200.	良	灰白色	OB-12/12 SB34.1-7-1.
259	SB34 1m 外 縁	-	10.7	-	8-OB-0017. 1188.000 1200.	8.11m2049+1.50.000 1200.	良	灰白色	OB-12/12 SB34.1-7-1.
260	SB34 1m 外縁	-	-	-	1188.000.1188.000. 1200.	8.11m2049+1.50.000 1200.	良	灰白色	詳細不明 SB- 00022?
261	SB34 1m 外 縁	-	25.9	-	8-OB-0017.	998.11.5m2049+1.50.000 1200.	中小良	點一色	OB- 1/12 SB- 3-4.
262	SB35 1m 外 縁	-	23.1	-	1188.000.1188.000. 1200.	8.11m2049+1.50.000 1200.	中小良	CD400	OB- 1/12 OB- 00-00.00.00.
263	SB35 1m 外 縁	-	18.9	-	1188.000.1188.000. 1200.	8.11m2049+1.50.000 1200.	中小良	灰黄色	OB- 1/12 OB- 000.000.00.00.
264	SB35 1m 外 縁	-	13.1	-	1188.000.1188.000. 1200.	8.11m2049+1.50.000 1200.	中小良	CD400	OB- 1/12 OB- 000.000.00.00.
265	SB35 1m 外 縁 +把手	-	-	-	1188.000.1188.000. 1200.	8.11m2049+1.50.000 1200.	良	浅黄色	詳細不明
266	SB35 1m 外 縁	-	15.7	-	1188.000.1188.000. 1200.	8.11m2049+1.50.000 1200.	中小良	黄灰色	OB- 3/12 SB35.1-0.
267	SB35 1m 外 縁	-	18.7	-	1188.000.1188.000. 1200.	8.11m2049+1.50.000 1200.	良	灰白色	OB- 3/12 SB35.1-2-1.
268	SB35 1m 外 縁	-	19.6	-	1188.000.1188.000. 1200.	8.11m2049+1.50.000 1200.	良	点一色	OB- 3/12 SB35.1-2-1.
269	SB35 1m 外 縁	-	20.8	-	-	8.11m2049+1.50.000 1200.	良	米黄色	詳細不明
270	SB35 1m 外 縁	11.4	6.8	2.6	8-OB-0017. 1188.000. 1200.	8.11m2049+1.50.000 1200.	良	黄灰色	OB- 2/12 OB- 3/12 SB35.1-2-3.
271	SB35 1m 外 縁	-	15.9	-	8-OB-0017.	8.11m2049+1.50.000 1200.	良	点一色	OB- 3/12 SB35.1-2-3.
272	SB35 1m 外 縁	-	11.1	-	1188.000.1188.000. 1200.	8.11m2049+1.50.000 1200.	中小良	灰黄色	OB- 3/12 SB35.1-2-3.
273	SB35 1m 外 縁	-	11.5	-	1188.000.1188.000. 1200.	998.11.5m2049+1.50.000 1200.	中小良	灰黄色	OB- 5/12 SB35.1-2-3.000.
274	SB35 1m 外 縁	-	-	-	8-OB-0017. 1188.000. 1200.	8.11m2049+1.50.000 1200.	中小良	灰黄色	詳細不明 SB35.1-3-4-1.
275	SB35 1m 外 縁	-	18.6	-	8-OB-0017. 1188.000. 1200.	998.11.5m2049+1.50.000 1200.	良	灰黄色	OB- 4/12 SB35.1-3-4-1.

第64表 針田遺跡遺物観察表(12)

件 番 号	出土遺物	器 種	法 基 (cm)			整 形 調 査	施 上	焼 成 色 調	残 存 率 (%)	備 考
			口徑	底径	高					
276	SB36 1柄	直 筒 环	18.3	—	—	S-HS-HSF.	8.00.200001+1.50.05 49020.	良 黑灰色	10~1/12	1933年.7-2-37 破片.
277	SB36 1柄	直 筒 环	—	9.9	—	S-HS-HSF. HSS. △HS. 49020.	8.00.200001+1.50.05 49020.	良 黑白色	10~1/12	1933年.7-2-3.
278	SB36 1柄	直 筒 环	—	12.5	—	S-HS-HSF. HSS. △HS. 49020.	8.00.200001+1.50.05 49020.	良 黑灰色	10~2/12	1933年.7-37
279	SB36 1柄	直 筒 長脚版?	—	6.8	—	S-HS-HSF. HSS. △HS. 49020.	8.00.200001+1.50.05 49020.	良 黑色	10~12/12	
280	SB38 1柄	土 師 實	15.2	—	—	圓筒形. S-HS-HSF. HS. HSS. △HS. HSF. HSS. △HS. 49020. 49021.	8.00.200001+1.50.05 49020.	良 褐點	10~9/12	1933年.7-3.
281	SB38 1柄	直 筒 實	18.9	—	—	圓筒形. S-HS-HSF. HS. HSS. △HS. HSF. HSS. △HS. 49020.	8.00.200001+1.50.05 49020.	中小良 褐點	10~1/12	1933年.7-37.
282	SB38 1柄	直 筒 环	15.3	7.8	3.8	△HS. HSS. △HS. 49021.	8.00.200001+1.50.05 49020.	良 黑白色	10~2/12	1933年.7-(8)-3-1.
283	SB38 1柄	直 筒 环	—	7.6	—	△HS. HSS. △HS. 49020.	8.00.200001+1.50.05 49020.	良 黑白色	計測不能	1933年.7-(8)-3-1.
284	SB38 1柄	直 筒 环	11.8	—	—	S-HS-HSF.	8.00.200001+1.50.05 49020.	良 褐點	10~2/12	1933年.7-1.
285	SB38 1柄	直 筒 环	—	13.0	—	S-HS-HSF. HSS. △HS. 49020.	8.00.200001+1.50.05 49020.	良 褐點	10~1/12	1933年.7-1-2.
286	SB38 1柄	土 師 質 質地不 明	7.6	—	—	△HS. S-HS-HSF. HSS. 49020.	8.00.200001+1.50.05 49020.	中小良 黑褐色	10~2/12	1933年.7-3.
287	SB38 1柄	土 師 質 質地不 明	6.2	4.4	3.0	△HS. 200001+200001+ HS. 49020.	8.00.200001+1.50.05 49020.	良 褐點	計測不能	1933年.7-4-9.
288	SB39 1柄	土 師 實	20.0	—	—	△HS. 200001+200001+ HS. 49020.	8.00.200001+1.50.05 49020.	中小良 黑白色	10~1/12	1933年.7-3.
289	SB39 1柄	土 師 實	21.9	—	—	△HS. 200001+200001+ HS. 49020.	8.00.200001+1.50.05 49020.	中小良 黑褐色	10~1/12	1933年.7-3.
290	SB39 カマフ	土 師 實	22.7	—	—	△HS. 200001+200001+ HS. 49020.	8.00.200001+1.50.05 49020.	良 褐點	10~2/12	1933年.7-3-3.
291	SB39 カマフ	土 師 實	—	—	—	△HS. 200001+200001+ HS. 49020.	8.00.200001+1.50.05 49020.	良 黑褐色	計測不能	
292	SB39 カマフ	土 師 實	—	—	—	△HS. 200001+200001+ HS. 49020.	8.00.200001+1.50.05 49020.	良 褐點	計測不能	
293	SB39 カマフ	土 師 實	—	—	—	△HS. 200001+200001+ HS. 49020.	8.00.200001+1.50.05 49020.	良 褐點	計測不能	
294	SB39 1柄	直 筒 环	—	7.6	—	—	—	良 黑褐色	計測不能	1933.
295	SB39 1柄	直 筒 环	13.9	—	—	S-HS-HSF.	8.00.200001+1.50.05 49020.	中小良 黑色	10~2/12	1933年.7-1-2.
296	SB39 1柄	直 筒 实	20.9	12.9	5.3	S-HS-HSF. HSS. 49020.	8.00.200001+1.50.05 49020.	中小良 黑灰色	10~4/12 10~3/12	1933年.7-1-2.
297	SB39 1柄	直 筒 高环	11.9	5.9	7.2	S-HS-HSF.	8.00.200001+1.50.05 49020.	良 黑色	10~10/12 10~12/12	1933年.7-(8)
298	SB39 1柄	直 筒 高环	—	12.0	—	S-HS-HSF.	8.00.200001+1.50.05 49020.	良 黑褐色	10~1/12	1933年.7-(8).5-3-3.
299	SB39 1柄	土 師 質 質地不 明	—	7.6	1.9	△HS. HS. 49020.	8.00.200001+1.50.05 49020.	良 黑褐色	計測不能	1933年.7-3.
300	SB39 1柄	土 師 質 質地不 明	6.0	—	—	△HS. S-HS-HSF. HSS. 49020.	8.00.200001+1.50.05 49020.	中小良 褐點	10~2/12	1933年.7-3.

第65表 針田遺跡遺物観察表(13)

件 番 号	出土遺構	部 位	法 長(cm)			形 状	質 土	燒 成	色 調	残 存 率 (%)	備 考
			口径	底径	高さ						
301	SB39 1層	土 師 器 鋸齒土器	6.2	—	—	円筒形、S-N、D.F.、底面凹 S-N、D.F.、底面凹	粘土、S-N、D.F.、底面凹 粘土、S-N、D.F.、底面凹	中-中 中-中	黄 灰白色	10~2/12	SB39.48.
302	SB39 1層	土 師 器 鋸齒土器	9.0	—	—	円筒形、S-N、D.F.、底面凹 S-N、D.F.、底面凹	粘土、S-N、D.F.、底面凹 粘土、S-N、D.F.、底面凹	中-中 中-中	灰 灰白色	10~3/12	SB39.49.
303	SB51 力マフ 實	土 師 器	19.0	—	—	圓錐形、S-N、D.F.、底面凹 S-N、D.F.、底面凹	粘土、S-N、D.F.、底面凹 粘土、S-N、D.F.、底面凹	中-中 中-中	灰 灰褐色	10~4/12	SB51.50.
304	SB51 力マフ 實	土 師 器	12.6	6.2	12.2	圓錐形、S-N、D.F.、底面凹 S-N、D.F.、底面凹	粘土、S-N、D.F.、底面凹 粘土、S-N、D.F.、底面凹	良	灰褐色	10~1/12 10~12/12	SB51.51.
305	SB51 力マフ 實	土 師 器	16.7	6.4	—	圓錐形、S-N、D.F.、底面凹 S-N、D.F.、底面凹	粘土、S-N、D.F.、底面凹 粘土、S-N、D.F.、底面凹	良	灰褐色	10~6/12 10~12/12	SB51.52.
306	SB51 須 器 环蓋	土 師 器	8.0	—	—	円筒形、S-N、D.F.、底面凹 S-N、D.F.、底面凹	粘土、S-N、D.F.、底面凹 粘土、S-N、D.F.、底面凹	良	黄 灰褐色	10~2/12	SB51.53.
307	SB51 須 器 环身	土 師 器	11.9	—	—	S-N、D.F.	粘土、S-N、D.F.	良	灰 色	10~2/12	SB51.54.
308	SB51 1層 骨状土器	土 師 器	16.8	—	—	円筒形、S-N、D.F.、底面凹 S-N、D.F.、底面凹	粘土、S-N、D.F.、底面凹 粘土、S-N、D.F.、底面凹	良	棕 褐色	計測不能	SB51.55.
309	SB51 1層 鋸齒土器	土 師 器	2.7	—	—	円筒形、S-N、D.F.、底面凹 S-N、D.F.、底面凹	粘土、S-N、D.F.、底面凹 粘土、S-N、D.F.、底面凹	中-中 中-中	灰 褐色	10~2/12	SB51.56.
310	SB51 1層 鋸齒土器	土 師 器	6.0	—	—	円筒形、S-N、D.F.、底面凹 S-N、D.F.、底面凹	粘土、S-N、D.F.、底面凹 粘土、S-N、D.F.、底面凹	中-中 中-中	黄 褐色	10~2/12	SB51.57.
311	SB40 1層 鋸齒土器	土 師 器	11.3	—	—	圓錐形、S-N、D.F.	粘土、S-N、D.F.	良	灰 色	10~2/12	SB40.58.
312	SB40 1層 鋸齒土器	土 師 器	11.9	—	—	圓錐形、S-N、D.F.、底面凹 S-N、D.F.、底面凹	粘土、S-N、D.F.、底面凹 粘土、S-N、D.F.、底面凹	中-中 中-中	灰 褐色	10~2/12	SB40.59.
313	SB40 1層 鋸齒土器	土 師 器	12.0	—	—	圓錐形、S-N、D.F.、底面凹 S-N、D.F.、底面凹	粘土、S-N、D.F.、底面凹 粘土、S-N、D.F.、底面凹	良	灰褐色	10~3/12	SB40.60.
314	SB40 1層 鋸齒土器	土 師 器	12.0	—	—	圓錐形、S-N、D.F.、底面凹 S-N、D.F.、底面凹	粘土、S-N、D.F.、底面凹 粘土、S-N、D.F.、底面凹	良	灰褐色	10~4/12	SB40.61.
315	SB40 1層 鋸齒土器	土 師 器	25.5	—	—	圓錐形、S-N、D.F.、底面凹 S-N、D.F.、底面凹	粘土、S-N、D.F.、底面凹 粘土、S-N、D.F.、底面凹	良	灰褐色	10~2/12	SB40.62.
316	SB40 1層 鋸齒土器	土 師 器	—	—	—	圓錐形、S-N、D.F.、底面凹 S-N、D.F.、底面凹	粘土、S-N、D.F.、底面凹 粘土、S-N、D.F.、底面凹	良	灰褐色	計測不能	SB40.63.
317	SB40 1層 鋸齒土器	土 師 器	—	6.2	—	円筒形、S-N、D.F.、底面凹 S-N、D.F.、底面凹	粘土、S-N、D.F.、底面凹 粘土、S-N、D.F.、底面凹	中-中 中-中	灰 褐色	10~12/12	SB40.64.
318	SB40 1層 鋸齒土器 ・把手	土 師 器	—	—	—	円筒形、S-N、D.F.、底面凹 S-N、D.F.、底面凹	粘土、S-N、D.F.、底面凹 粘土、S-N、D.F.、底面凹	良	灰褐色	計測不能	SB40.65.
319	SB40 1層 鋸齒土器	土 師 器	—	—	—	円筒形、S-N、D.F.、底面凹 S-N、D.F.、底面凹	粘土、S-N、D.F.、底面凹 粘土、S-N、D.F.、底面凹	中-中 中-中	黄 褐色	計測不能	SB40.66.
320	SB40 1層 鋸齒 环蓋	土 師 器	10.8	3.8	2.5	円筒形、S-N、D.F.、底面凹 S-N、D.F.、底面凹	粘土、S-N、D.F.、底面凹 粘土、S-N、D.F.、底面凹	良	灰 褐色	10~2/12	SB40.67.
321	SB40 1層 环身	土 師 器	10.6	—	—	S-N、D.F.	粘土	良	灰 色	10~2/12	SB40.68.
322	SB40 1層 环蓋	土 師 器	12.9	—	—	S-N、D.F.	粘土	良	灰 白色	10~2/12	SB40.69.
323	SB40 1層 环身	土 師 器	18.7	—	—	S-N、D.F.	粘土	良	灰 黄色	10~2/12	SB40.70.
324	SB40 1層 环身	土 師 器	15.9	—	—	円筒形、S-N、D.F.、底面凹 S-N、D.F.、底面凹	粘土、S-N、D.F.、底面凹 粘土、S-N、D.F.、底面凹	中-中 中-中	灰 褐色	10~2/12	SB40.71.
325	SB40 1層 环身	土 師 器	—	5.8	—	S-N、D.F.	粘土	良	灰 色	10~3/12	SB40.72.

第66表 鈴木遺跡遺物觀察表 (14)

件 號 番 号	出土遺構	器 種	法 量 (cm)		整 形 · 潛 伏	地 上	燒 成	色 調	失 存 率 (1/12)	備 考	
			口徑	底徑							
326	SB40 1層	圓底器 环身	-	-	EMR. H4595, 19930.	E. 90. 1m107+1.36.08 19930.	良	灰黃色	計測不能	EMR. H4595(?)	
327	SB41 1層	圓底器 环身	13.9	-	E. 90. H67.	E. 90. 1m107+1.36.08 19930.	良	陶灰色	DB- 1/12	EMR. Y-27. 888.	
328	SB41 1層	圓底器 环身	12.6	-	E. 90. H67.	E. 90. 1m107+1.36.08 19930.	良	灰白色	DB- 1/12	EMR. Y-27	
329	SB42 2層	土師 S字裏	15.9	-	EMR. 2305. 0886. 2160 H93020.	EMR. 2305. 0886. 2160 H93020.	良	土師胎	DB- 1/12	EM. MM. 1-2-4. 86. 882	
330	SB42 2層	土師 S字裏	-	7.7	EMR. H3400. 048. 0921. 6 H. 877. 0886.	EMR. H3400. 048. 0921. 6 H. 877. 0886.	良	土師胎	DB- 7/12	EM. 1-2-4. 3200. 087	
331	SB42 2層	土師 S字裏	11.6	-	EMR. 2305. 0886. 2160 H93020.	EMR. 2305. 0886. 2160 H93020.	良	土師胎	DB- 3/12	EM. MM. 1-2-4. 86. 882	
332	SB42 2層	土師 S字裏	-	-	EMR. H3400. 048. 0921. 6 H. 877. 0886. H. 42 H. 877. 0886. H. 42	EMR. H3400. 048. 0921. 6 H. 877. 0886. H. 42	良	土師胎	計測不能	EM. 1-3-4.	
333	SB42 2層	土師 S字裏	15.3	18.5	11.4	EMR. 2305. 0886. 2160 H93020. 0886. 2160	EMR. 2305. 0886. 2160 H93020. 0886. 2160	良	土師胎	DB- 6/12 DB- 12/12	EM. MM. 1-2-4. 86. 882
334	SB42 2層	瓦口壺	17.8	-	EMR. 2305. 0886. 2160 H93020. 0886. 2160	EMR. 2305. 0886. 2160 H93020.	中や良	土師胎	DB- 2/12	EM. 1-82.	
335	SB42 2層	土師 パレス型	-	-	EMR. H3400. 048. 0921. 6 H. 877. 0886. H. 42	EMR. H3400. 048. 0921. 6 H. 877. 0886. H. 42	良	土師胎	計測不能	EM. 1-82.	
336	SB42 2層	土師 壺	-	5.6	EMR. 123001. 048. 0921. H. 877.	EMR. 123001. 048. 0921. H. 877.	良	黑褐色	DB- 12/12		
337	SB42 2層	土師 瓦口壺	10.4	4.5	17.9	EMR. H3400. 048. 0921. H. 877. 0886. H. 42 H. 877. 0886. H. 42	EMR. H3400. 048. 0921. H. 877. 0886. H. 42	中や良	土師胎	DB- 2/12 DB- 12/12	EM. 1-82.
338	SB42 2層	土師 二字裏	21.8	-	EMR. H3400. 048. 0921. H. 877. 0886. H. 42	EMR. H3400. 048. 0921. H. 877. 0886. H. 42	良	暗褐色	DB- 11/12	EM. 1-2-4. 86. 882	
339	SB42 2層	土師 鉢	9.7	3.7	3.6	EMR. H3400. 048. 0921. H. 877. 0886. H. 42	EMR. H3400. 048. 0921. H. 877. 0886. H. 42	良	褐色	DB- 12/12 DB- 12/12	EM. 1-3-4.
340	SB42 2層	土師 器台	7.9	9.1	9.9	EMR. H3400. 048. 0921. H. 877. 0886. H. 42	EMR. H3400. 048. 0921. H. 877. 0886. H. 42	良	褐色	DB- 12/12 DB- 12/12	EM. 1-3-4.
341	SB42 2層	土師 器台	9.8	9.8	11.9	EMR. H3400. 048. 0921. H. 877. 0886. H. 42	EMR. H3400. 048. 0921. H. 877. 0886. H. 42	良	暗褐色	DB- 3/12 DB- 1/12	EM. 1-3-4.
342	SB42 2層	土師 特殊器台	12.9	9.9	12.3	EMR. H3400. 048. 0921. H. 877. 0886. H. 42	EMR. H3400. 048. 0921. H. 877. 0886. H. 42	良	土師胎	DB- 12/12 DB- 3/12	EM. 1-3-4.
343	SB42 2層	土師 高環	22.5	-	-	EMR. H3400. 048. 0921. H. 877. 0886. H. 42	EMR. H3400. 048. 0921. H. 877. 0886. H. 42	中や良	暗褐色	DB- 12/12	EM. 1-3-4.
344	SB42 2層	土師 高環	22.5	12.9	15.4	EMR. H3400. 048. 0921. H. 877. 0886. H. 42	EMR. H3400. 048. 0921. H. 877. 0886. H. 42	良	土師胎	DB- 12/12 DB- 12/12	EM. 1-3-4.
345	SB43 1層	土師 高環	21.8	-	-	EMR. H3400. 048. 0921. H. 877. 0886. H. 42	EMR. H3400. 048. 0921. H. 877. 0886. H. 42	中や良	褐色	DB- 1/12	EM. 338. 880. 878.
346	SB44 カマフ 賣	土師 高環	12.5	-	-	EMR. H3400. 048. 0921. H. 877. 0886. H. 42	EMR. H3400. 048. 0921. H. 877. 0886. H. 42	良	土師胎	DB- 6/12	EM. 342. 84-58. EM. 342.
347	SB44 カマフ 賣	土師 高環	9.8	8.1	12.5	EMR. H3400. 048. 0921. H. 877. 0886. H. 42	EMR. H3400. 048. 0921. H. 877. 0886. H. 42	良	暗褐色	DB- 5/12 DB- 12/12	EM. 342.
348	SB44 1層	圓底器 环身	10.9	6.9	2.6	E. 90. H67. E. 90. H67. E. 90. H67.	E. 90. H67. E. 90. H67. E. 90. H67.	良	灰白色	DB- 2/12 DB- 2/12	EMR. 3-1.
349	SB44 1層	圓底器 环身	37.6	-	-	EMR. H3400. 048. 0921. H. 877. 0886. H. 42	EMR. H3400. 048. 0921. H. 877. 0886. H. 42	中や良	灰黃色	DB- 1/12	EMR. 3-2.
350	SB45 カマフ	土師 高環	12.5	-	-	EMR. H3400. 048. 0921. H. 877. 0886. H. 42	EMR. H3400. 048. 0921. H. 877. 0886. H. 42	良	褐色	DB- 6/12	EMR. 357.

第67表 針田遺跡遺物觀察表 (15)

件 号	出土層	地 質	地 質 (cm)		空 氣 中 溫 度	水 平 面 積 度	形 狀	性 質	顏 色	性 存 率 (%)	備 考
			上	下							
351	SB45 1層	土 質 變 質	12.2	-	-	10000.00±0.00, 8000.00±0.00, 6000.00±0.00, 4000.00±0.00, 2000.00±0.00	99.99±0.01±0.01, 99.98±0.01±0.01	中 中 良	褐 色	98- 1/12	89887
352	SB45 1層	泥 質 變 質	11.7	-	4.0	10000.00±0.01±0.01	99.99±0.01±0.01, 99.99±0.01±0.01	良	褐 色	98- 5/12	100000.0-00,
353	SB45 1層	泥 質 高 峰	12.8	-	-	8-98.00±0.00, 8000.00±0.00, 6000.00±0.00	9.99.99±0.01±0.01, 99.98±0.01±0.01	良	褐 色	98- 1/12	89881.0-1-2,
354	SB45 1層	泥 質 峰 巒	15.9	2.9	10000.00±0.01±0.01	99.99.99±0.01±0.01, 99.98±0.01±0.01	良	褐 白 色	98- 5-1-2, 6489,		
355	SB45 1層	泥 質 峰 巒	19.7	4.4	10000.00±0.01±0.01	99.99.99±0.01±0.01, 99.98±0.01±0.01	良	褐 灰 色	98- 4/12	100000.0-1-2,	
356	SB45 1層	泥 質 峰 巒	13.3	10.6	3.5	8-98.00±0.00, 8000.00±0.00, 6000.00±0.00	9.99.99±0.01±0.01, 99.98±0.01±0.01	良	褐 灰 色	98- 2/12	100000.0-1-2,
357	SB45 1層	泥 質 峰 巒	14.4	10.7	4.4	8-98.00±0.00, 8000.00±0.00, 6000.00±0.00	9.99.99±0.01±0.01, 99.98±0.01±0.01	中 中 良	褐 灰 色	98- 6/12	100000.0-1-2,
358	SB45 1層	泥 質 峰 巒	15.7	-	-	8-98.00±0.00	9.99.99±0.01±0.01, 99.98±0.01±0.01	良	褐 灰 色	98- 2/12	100000.0-1-2,
359	SB45 1層	泥 質 峰 巒	16.8	5.2	3.3	8-98.00±0.00, 8000.00±0.00, 6000.00±0.00	9.99.99±0.01±0.01, 99.98±0.01±0.01	良	褐 灰 色	98- 3/12	89881.0-3,
360	SB45 1層	泥 質 峰 巒	14.9	-	-	8-98.00±0.00, 8000.00±0.00, 6000.00±0.00	9.99.99±0.01±0.01, 99.98±0.01±0.01	中 中 良	褐 灰 色	98- 6/12	100000.0-1-1,
361	SB45 1層	泥 質 峰 巒	23.2	-	-	8-98.00±0.00, 8000.00±0.00, 6000.00±0.00	9.99.99±0.01±0.01, 99.98±0.01±0.01	中 中 良	褐 白 色	98- 1/12	100000.0-1-2,
362	SB46 1層	土 質 變 質	16.8	-	-	10000.00±0.00, 8000.00±0.00, 6000.00±0.00, 4000.00±0.00	99.99.99±0.01±0.01, 99.98±0.01±0.01	良	褐 色	98- 3/12	1000.000.00000.000,
363	SB46 1層	土 質 變 質	15.3	-	-	10000.00±0.00, 8000.00±0.00, 6000.00±0.00, 4000.00±0.00	99.99.99±0.01±0.01, 99.98±0.01±0.01	良	褐 色	98- 1/12	1000.000.
364	SB46 カマド 火 窓	土 質 變 質	24.7	-	-	10000.00±0.00, 8000.00±0.00, 6000.00±0.00, 4000.00±0.00	99.99.99±0.01±0.01, 99.98±0.01±0.01	良	褐 灰 色	98- 4/12	1000.000.00000.000, 26670-0007
365	SB46 カマド 火 窓	土 質 變 質	-	6.0	-	8000.00±0.00, 6000.00±0.00, 4000.00±0.00, 2000.00±0.00	99.99.99±0.01±0.01, 99.98±0.01±0.01	良	褐 色	98- 2/12	1000.000.00000.000, 36450-0007
366	SB46 1層	土 質 變 質	18.9	-	-	10000.00±0.00, 8000.00±0.00, 6000.00±0.00, 4000.00±0.00	99.99.99±0.01±0.01, 99.98±0.01±0.01	良	褐 色	98- 3/12	70007
367	SB46 1層	土 質 變 質	18.4	-	-	10000.00±0.00, 8000.00±0.00, 6000.00±0.00, 4000.00±0.00	99.99.99±0.01±0.01, 99.98±0.01±0.01	良	褐 色	98- 2/12	1000.00-0007
368	SB46 カマド 火 窓	土 質 變 質	17.4	-	-	10000.00±0.00, 8000.00±0.00, 6000.00±0.00, 4000.00±0.00	99.99.99±0.01±0.01, 99.98±0.01±0.01	中 中 良	褐 色	98- 3/12	1000.000.00000.000, 21.00
369	SB46 1層	泥 質 高 峰	15.7	-	-	8-98.00±0.00, 8000.00±0.00, 6000.00±0.00	9.99.99±0.01±0.01, 99.98±0.01±0.01	中 中 良	褐 色	98- 2/12	89881.0-1-2, 27000.0007
370	SB46 1層	泥 質 高 峰	-	10.2	-	8-98.00±0.00, 8000.00±0.00, 6000.00±0.00	9.99.99±0.01±0.01, 99.98±0.01±0.01	中 中 良	褐 色	98- 4/12	89881.0-1-2, 20070-0007
371	SB48 2層	土 質 變 質	20.0	-	-	10000.00±0.00, 8000.00±0.00, 6000.00±0.00	9.99.99±0.01±0.01, 99.98±0.01±0.01	中 中 良	褐 色	98- 1/12	89881.0-0007
372	SB48 カマド 火 窓	土 質 變 質	19.7	-	-	10000.00±0.00, 8000.00±0.00, 6000.00±0.00, 4000.00±0.00	9.99.99±0.01±0.01, 99.98±0.01±0.01	中 中 良	褐 灰 色	98- 10/12	99000.0-0007, 1000.000.000,
373	SB48 2層	土 質 變 質	12.1	-	-	10000.00±0.00, 8000.00±0.00, 6000.00±0.00, 4000.00±0.00	9.99.99±0.01±0.01, 99.98±0.01±0.01	良	褐 色	98- 2/12	99000.0-0007, 1000.000.000, 2000.000.
374	SB48 2層	土 質 變 質	10.7	-	-	8-98.00±0.00, 8000.00±0.00, 6000.00±0.00	9.99.99±0.01±0.01, 99.98±0.01±0.01	良	褐 色	98- 1/12	89881.0-0007, 27500-0007
375	SB48 1層	土 質 變 質	-	-	-	8-98.00±0.00, 8000.00±0.00, 6000.00±0.00	9.99.99±0.01±0.01, 99.98±0.01±0.01	良	褐 色	計數不足	89881.0-0007

第68表 針田遺跡遺物観察表(16)

件 固 番 号	出土遺物	器 種	底 量(cm)		形 状・測 定	質 上	集 成	色 調	残 存 率 (%)	備 考
			口径	底径						
376	SB48 2柄 甕・把手	—	—	—	円筒形。底面直角。内側に把手2箇付。底面中央に小孔。外側は手触りの良い滑らかな表面。	9.5cm厚さ1.5cm 44.5cm 44.5cm	良	褐色	計測不能	
377	SB48 力口甕	24.5	—	—	圓筒形。底面直角。内側に把手2箇付。底面中央に小孔。外側は手触りの良い滑らかな表面。	9.5cm厚さ1.5cm 44.5cm 44.5cm	良	褐色	DB-5/12 SB48.9cm. SB48.9cm. 4m. 3426. 6a.	
378	SB48 2柄 附蓋上部	8.4	—	—	円筒形。底面直角。内側に把手2箇付。底面中央に小孔。外側は手触りの良い滑らかな表面。	9.5cm厚さ1.5cm 44.5cm 44.5cm	良	褐色	DB-2/12 SB48.9cm.	
379	SB48 2柄 环蓋	—	9.0cm 3.2	—	圓筒形。底面直角。内側に把手2箇付。底面中央に小孔。外側は手触りの良い滑らかな表面。	9.5cm厚さ1.5cm 44.5cm 44.5cm	良	褐色	計測不能	SB48.3-1-2.
380	SB48 2柄 环蓋	13.7	9.0cm 2.5	—	圓筒形。底面直角。内側に把手2箇付。底面中央に小孔。外側は手触りの良い滑らかな表面。	9.5cm厚さ1.5cm 44.5cm 44.5cm	良	褐色	DB-5/12 SB48.3-1-2. 342493L 4. 3426.	
381	SB48 2柄 环蓋	—	9.0cm 3.5	—	圓筒形。底面直角。内側に把手2箇付。底面中央に小孔。外側は手触りの良い滑らかな表面。	9.5cm厚さ1.5cm 44.5cm 44.5cm	良	褐色	計測不能	SB48.3-1-2.
382	SB48 2柄 环蓋	16.9	9.0cm 3.3	—	圓筒形。底面直角。内側に把手2箇付。底面中央に小孔。外側は手触りの良い滑らかな表面。	9.5cm厚さ1.5cm 44.5cm 44.5cm	良	褐色	DB-2/12 SB48.3-1-2.	
383	SB48 2柄 环蓋	16.8	—	—	圓筒形。底面直角。内側に把手2箇付。底面中央に小孔。外側は手触りの良い滑らかな表面。	9.5cm厚さ1.5cm 44.5cm 44.5cm	中不良	褐色	DB-2/12 SB48.3-1-2. 3426.	
384	SB48 2柄 甕・蓋	20.1	9.0cm 5.0	3.6	S-AB. H27. ABABABABAB 554. 0221.	9.5cm厚さ1.5cm 44.5cm 44.5cm	良	灰白色	DB-7/12 SB48.3-2(B). 3426.	
385	SB48 2柄 环蓋	8.8	ABAB 6.8	1.7	S-AB. H27. ABABABAB 552. 2.	9.5cm厚さ1.5cm 44.5cm 44.5cm	良	褐色	DB-1/12 SB48.3-2.	
386	SB48 2柄 环身	14.9	10.9	4.7	S-AB. H27. ABABABAB 552. 0	9.5cm厚さ1.5cm 44.5cm 44.5cm	良	灰白色	DB-10/12 DB-12/12 SB48.3-1-2.	
387	SB48 2柄 高环	21.8	—	—	S-AB. H27. ABABABAB 551. 2.	9.5cm厚さ1.5cm 44.5cm 44.5cm	良	褐色	DB-4/12 SB48.3-2. 3426.	
388	SB48 2柄 高环	27.2	脚柱	8.1	S-AB. H27. ABABABAB 552. 5.	9.5cm厚さ1.5cm 44.5cm 44.5cm	良	褐色	DB-4/12 DB-4/12 SB48.3-2.	
389	SB48 2柄 長脚柱	11.1	—	—	S-AB. H27.	9.5cm厚さ1.5cm 44.5cm 44.5cm	良	褐色	DB-2/12	
390	SB48 2柄 長脚柱	9.1	—	—	S-AB. H27.	9.5cm厚さ1.5cm 44.5cm 44.5cm	良	灰	DB-7/12 SB48.3-1.	
391	SB48 2柄 長脚柱	—	12.1	—	S-AB. H27. ABABAB 552. 0	9.5cm厚さ1.5cm 44.5cm 44.5cm	良	褐色	DB-12/12 SB48.3-2.	
392	SB48 2柄 甕	—	24.2	—	AB. H27. ABABABAB 552. 022007.	9.5cm厚さ1.5cm 44.5cm 44.5cm	良	灰	DB-2/12	
393	SB48 2柄 環狀	12.2	—	—	AB-ABAB. ABABAB 552. 022007. AB. 122007.	9.5cm厚さ1.5cm 44.5cm 44.5cm	良	灰白色	DB-4/12 SB48.3-1. 3426-3427 3428.	
394	SB49 1柄 甕	15.0	—	—	ABAB. ABABABAB 552. 022007.	9.5cm厚さ1.5cm 44.5cm 44.5cm	中不良	褐色	DB-1/12 SB48.3-2.	
395	SB50 1柄 甕	15.4	—	—	S-AB. H27.	9.5cm厚さ1.5cm 44.5cm 44.5cm	良	褐色	DB-6/12 SB48.3-2(B). 3426.	
396	SB48 1柄 甕	12.1	—	—	ABAB. ABABAB 552. 022007.	9.5cm厚さ1.5cm 44.5cm 44.5cm	中不良	褐色	DB-3/12 SB48.3-2.	
397	SB48 1柄 甕	15.0	—	—	ABAB. ABABABAB 552. 022007. ABABAB	9.5cm厚さ1.5cm 44.5cm 44.5cm	中不良	褐色	DB-1/12 SB48.3-2.	
398	SB48 1柄 甕	15.2	—	—	ABAB. ABABABAB 552. 022007. AB. 022007.	9.5cm厚さ1.5cm 44.5cm 44.5cm	中不良	褐色	DB-1/12 SB48.3-2.	
399	SB48 1柄 甕	16.4	—	—	ABAB. ABABAB 552. 022007.	9.5cm厚さ1.5cm 44.5cm 44.5cm	中不良	褐色	DB-1/12 SB48.3-2.	
400	SB48 1柄 甕	17.2	—	—	ABAB. ABABAB 552. 022007.	9.5cm厚さ1.5cm 44.5cm 44.5cm	良	褐色	DB-1/12 SB48.3-2.	

第69表 針田遺跡遺物觀察表(17)

序 號 號	出土遺物	形 狀	量 (cm)			性 質	形 土	燒 成	色 調	風 化 率 (1/12)	備 考
			長	寬	厚						
401	AKSD1 1組	土 燒 變 質	15.1	-	-	1000.0~1000.0, 0.0~0.0, 0.0~0.0	99. 1000.0~1. 00. 00 00. 00	中-良	本 色	0~1/12	99999. 0~0.
402	AKSD1 1組	陶 器 灰	15.8	-	-	9~9.0, 0.0~0.0,	9. 00. 1000.0~1. 00. 00 00. 00	良	褐 灰色	0~1/12	99999. 0~0.
403	AKSD1 1組	陶 器 灰	15.7	-	-	9~9.0, 0.0~0.0,	9. 00. 1000.0~1. 00. 00 00. 00	良	灰 色	0~1/12	99999. 0~0.
404	AKSD1 1組	陶 器 灰	-	15.5	-	9~9.0, 0.0~0.0,	9. 00. 1000.0~1. 00. 000 00. 00	良	灰 色	0~1/12	99999. 0~0.
405	AKSD1 1組	陶 器 灰	15.2	-	-	1000.0~1000.0, 0.0~0.0, 0.0~0.0	99. 1000.0~1. 00. 00 00. 00	良	灰 色	0~1/12	99999. 0~0.
406	AKSD1 1組	土 燒 變 質	8.1	-	-	100. 0~100. 0, 0.0~0.0, 0.0~0.0	99. 1000.0~1. 00. 00 00. 00	中-良	褐 色	0~1/12	99999. 0~0.
407	AKSD1 1組	土 燒 變 質	-	1.0	-	100. 0~100. 0, 0.0~0.0, 0.0~0.0	99. 1000.0~1. 00. 00 00. 00	中-良	灰 色	0~1/12	99999. 0~0.
408	AKSD2 1組	土 燒 變 質	16.8	-	-	1000.0~1000.0, 0.0~0.0, 0.0~0.0	99. 1000.0~1. 00. 00 00. 00	中-良	灰 色	0~1/12	99999. 0~0.
409	AKSD2 1組	陶 器 灰	12.4	-	-	9~9.0, 0.0~0.0,	9. 00. 1000.0~1. 00. 000 00. 00	良	灰 色	0~1/12	99999. 0~0.
410	AKSD2 1組	陶 器 灰	17.0	-	-	1000.0~1000.0, 0.0~0.0, 0.0~0.0	99. 1000.0~1. 00. 000 00. 00	良	灰 色	0~1/12	99999. 0~0.
411	AKSD2 1組	陶 器 灰	13.9	-	-	1000.0~1000.0, 0.0~0.0, 0.0~0.0	99. 1000.0~1. 00. 00 00. 00	良	灰 色	0~1/12	99999. 0~0.
412	AKSD2 1組	陶 器 灰	17.3	-	-	9~9.0, 0.0~0.0,	9. 00. 1000.0~1. 00. 000 00. 00	良	灰 色	0~1/12	99999. 0~0.
413	AKSD2 1組	陶 器 灰	-	8.3	-	100. 0~100. 0, 0.0~0.0, 0.0~0.0	99. 1000.0~1. 00. 00 00. 00	良	灰 色	0~2/12	99999. 0~0.
414	AKSD2 1組	陶 器 灰	-	16.7	-	100. 0~100. 0, 0.0~0.0, 0.0~0.0	99. 1000.0~1. 00. 00 00. 00	良	灰 色	0~1/12	99999. 0~0.
415	AKSD2 1組	陶 器 灰	21.2	-	-	9~9.0, 0.0~0.0,	99. 1000.0~1. 00. 00 00. 00	良	褐 灰色	0~1/12	99999. 0~0.
416	AKSD2 1組	山 茶 瓶	-	5.6	-	100. 0~100. 0, 0.0~0.0,	9. 00. 1000.0~1. 00. 00 00. 00	良	灰 色	0~1/12	6~7SL
417	AKSD2 1組	山 茶 瓶	-	4.6	-	100. 0~100. 0,	9. 00. 1000.0~1. 00. 00 00. 00	良	灰 色	0~1/12	6~7SL
418	AKSD2 1組	山 茶 瓶 小 瓶	7.6	5.3	1.1	100. 0~100. 0, 0.0~0.0,	9. 00. 1000.0~1. 00. 00 00. 00	良	褐 灰色	0~2/12	6~7SL
419	AKSD2 1組	土 燒 變 質	8.6	-	-	100. 0~100. 0, 0.0~0.0, 0.0~0.0	99. 1000.0~1. 00. 00 00. 00	中-良	灰 色	0~2/12	6~7SL
420	AKSD2 1組	土 燒 變 質 大 瓶	13.5	-	-	100. 0~100. 0, 0.0~0.0,	99. 1000.0~1. 00. 00 00. 00	中-良	灰 色	0~1/12	6~7SL
421	AKSD3 1組	土 燒 變 質	28.0	-	-	1000.0~1000.0, 0.0~0.0, 0.0~0.0	99. 1000.0~1. 00. 00 00. 00	良	灰 色	0~1/12	99999. 0~0.
422	AKSD3 1組	陶 器 灰	14.8	-	-	1000.0~1000.0, 0.0~0.0, 0.0~0.0	9. 00. 1000.0~1. 00. 00 00. 00	良	褐 灰色	0~1/12	99999. 0~0.
423	AKSD3 1組	陶 器 灰	15.2	-	-	9~9.0, 0.0~0.0,	99. 1000.0~1. 00. 00 00. 00	中-良	灰 色	0~1/12	99999. 0~0.
424	AKSD3 1組	陶 器 灰	-	10.3	-	100. 0~100. 0, 0.0~0.0, 0.0~0.0	9. 00. 1000.0~1. 00. 00 00. 00	良	灰 色	0~2/12	99999. 0~0.
425	AKSD3 1組	陶 器 灰	-	12.0	-	100. 0~100. 0, 0.0~0.0, 0.0~0.0	9. 00. 1000.0~1. 00. 00 00. 00	良	灰 色	0~2/12	99999. 0~0.

第70表 鈴田流域植物観察表 (18)

地 点 名 号	出土地點	樹 樹	高 度 (m)			草 本・灌木	地 土	株 形	色 調	生 存 率 (%)	備 考
			山 植	林 植	灌 植						
4-2-6 AKSD3 1号	山茶園 南	12.8	-	-	-		E.	及	黃灰色	80- 2/12	95%
4-2-7 AKSD3 1号	山茶園 南	11.7	-	-	-		E. 5m200ft-1.50.000ft 220.	及	灰白色	80- 2/12	8-95%
4-2-8 AKSD3 1号	山茶園 南	-	5.0	-	-	E. 5m200ft-1.50.000ft 220.	E.	紅褐色	80- 2/12	7-85%	
4-2-9 AKSD3 1号	山茶園 南	-	5.7	-	-	E. 5m200ft-1.50.000ft 220.	E.	紅褐色	80- 2/12	7-85%	
4-3-0 AKSD3 1号	山茶園 南	-	6.0	-	-	E. 5m200ft-1.50.000ft 220.	E.	紅褐色	80- 2/12	7-85%	
4-3-1 AKSD3 1号	山茶園 南	-	6.0	-	-	E. 5m200ft-1.50.000ft 220.	E.	紅褐色	80- 2/12	8-95%	
4-3-2 AKSD4 1号	土 壤 南 小葉樹	12.0	-	-	-	E. 5m200ft-1.50.000ft 220.	E. 50.000ft-1.50. 150ft	中小數	綠 色	80- 2/12	80-100% 43220-800%
4-3-3 AKSD4 1号	土 壤 南 小葉樹	-	1.6	-	-	E. 5m200ft-1.50.000ft 220.	E. 50.000ft-1.50. 150ft	中小數	綠 色	80- 2/12	80-100% 43220-800%
4-3-4 AKSD4 1号	土 壤 南 小葉樹	8.5	-	-	-	E. 5m200ft-1.50.000ft 220.	E. 50.000ft-1.50. 150ft	中小數	綠 色	80- 2/12	80-100%
4-3-5 AKSD4 1号	土 壤 南 實	15.5	-	-	-	E. 5m200ft-1.50.000ft 220.	E. 50.000ft-1.50. 150ft	中小數	綠 色	80- 2/12	80-100% 81-20%
4-3-6 AKSD4 1号	土 壤 南 小葉樹	9.0	-	-	-	E. 5m200ft-1.50.000ft 220.	E.	中小數	綠 色	80- 2/12	80-100%
4-3-7 AKSD4 1号	土 壤 南 實	12.0	-	-	-	E. 5m200ft-1.50.000ft 220.	E. 50.000ft-1.50. 150ft	中小數	綠 色	80- 2/12	80-100%
4-3-8 AKSD4 1号	山茶園 北	13.2	-	-	-	E. 5m200ft-1.50.000ft 220.	E. 50.000ft-1.50. 150ft	及	紅褐色	80- 2/12	80-100% 8-2-37
4-3-9 AKSD4 1号	山茶園 北	-	7.4	-	-	E. 5m200ft-1.50.000ft 220.	E.	及	黃褐色	80- 2/12	80-100% 8-17
4-4-0 AKSD4 1号	山茶園 南?	12.4	-	-	-	E. 5m200ft-1.50.000ft 220.	E. 50.000ft-1.50. 150ft	中小數	黃褐色	80- 2/12	80-100% 78%
4-4-1 AKSD4 1号	山茶園 南	13.2	-	-	-	E. 5m200ft-1.50.000ft 220.	E. 50.000ft-1.50. 150ft	中小數	黃褐色	80- 2/12	80-100% 7-2-
4-4-2 AKSD4 1号	山茶園 南?	-	7.2	-	-	E. 5m200ft-1.50.000ft 220.	E. 50.000ft-1.50. 150ft	及	紅褐色	80- 2/12	E-90-500%
4-4-3 AKSD4 1号	山茶園 南?	-	5.9	-	-	E. 5m200ft-1.50.000ft 220.	E. 50.000ft-1.50. 150ft	及	紅褐色	80- 2/12	E-90-500%
4-4-4 AKSD4 1号	山茶園 小葉	9.2	5.1	1.6	-	E. 5m200ft-1.50.000ft 220.	E.	及	黃褐色	80- 2/12	85%
4-4-5 AKSD4 1号	山茶園 小葉	8.7	4.4	1.8	-	E. 5m200ft-1.50.000ft 220.	E. 50.000ft-1.50. 150ft	及	紅褐色	80- 2/12	79%
4-4-6 AKSD4 1号	土 壤 南 小葉	7.0	-	-	-	E. 5m200ft-1.50.000ft 220.	E. 50.000ft-1.50. 150ft	中小數	黃褐色	80- 2/12	8-10%
4-4-7 AKSD4 1号	山茶園 南	15.0	-	-	-		E. 50.000ft-1.50. 150ft	中小數	黃褐色	80- 2/12	
4-4-8 AKSD4 1号	土 壤 南 樹皮土	-	5.8	-	-	E. 5m200ft-1.50.000ft 220.	E. 50.000ft-1.50. 150ft	及	紅褐色	80- 2/12	80-100% 88%
4-4-9 AKSD7 1号	+ E. 5m200ft 山茶園	-	5.8	-	-	E. 50.000ft-1.50.000ft 220.	E. 50.000ft-1.50. 150ft	及	紅褐色	80- 2/12	88%
4-5-0 AKSD7 1号	+ E. 5m200ft 樹皮土	-	-	-	-	E. 50.000ft-1.50.000ft 220.	E.	及	紅褐色	80- 2/12	88%

第71表 針田遺跡遺物觀察表(19)

件 番 号	出土箇所	部 位	性 質 (cm)			形 状・調 整	地 上	構 成	色 調	残 存 率 (1/12)	備 考
			土 高	底 径	底 厚						
451	AKSD7 1層 表面	—	12.0	6.7	2.6	5-18-0077, 0008-001-0 10, 0010-0020.	000-00-000000-1-00- 000000.	良	棕 褐色	00- 1/12 00- 2/12	100%.
452	AKSD7 1層 表面	—	14.3	—	—	100-00-000000-1-00-0 000000.	—	中-良	棕 褐色	00- 1/12	2-0-2.
453	AKSD7 1層 表面	—	—	—	—	000-00-0000.	—	良	棕 褐色	00- 1/12	12-200-5.
454	AKSD7 1層 小縫	—	5.3	—	—	000-00-0000.	—	良	棕 褐色	00- 3/12	100%.
455	AKSD8 1層 表面	—	22.2	—	—	5-18-0077,	000-00-000000-1-00-0 000000.	中-良	褐 灰色	00- 1/12	100% 3-1-2.
456	AKSD8 1層 表面土層	—	6.2	—	—	100-00-0077, 000800	—	中-良	棕 褐色	00- 2/12	100% 4.
457	AKSD8 1層 表面土層	—	9.0	—	—	100-00-0077, 000800	000-00-0000-1-00-0 000000.	中-良	棕 褐色	00- 1/12	100% 4.
458	AKSD8 1層 表面土層	—	1.5	—	—	100-00-0077, 000800	000-00-0000-1-00-0 000000.	良	棕 褐色	00- 不 存	100% 0.
459	AKSD10 1層 表面土層	—	8.8	—	—	100-00-0077, 000800	000-00-0000-1-00-0 000000.	中-良	棕 褐色	00- 1/12	100% 4.
460	BKSD1 1層 表面	—	13.3	—	—	000-00-0000-1-00-0 000000.	0.00-00-0000-1-00-0 000000.	良	灰 色	00- 1/12	100% 3-2-3.
461	BKSD1 1層 表面	—	17.0	—	—	000-00-0000-1-00-0 000000.	0.00-00-0000-1-00-0 000000.	良	黄 灰色	00- 1/12	100% 3-2.
462	BKSD1 1層 表面	—	9.0	—	—	5-18-0077, 0008-000 0000.	0.00-00-0000-1-00-0 000000.	良	灰 色	00- 5/12	100% 3-2.
463	BKSD1 1層 表面	—	9.1	—	—	000-00-0000-1-00-0 000000.	0.00-00-0000-1-00-0 000000.	中-良	褐 灰色	00- 1/12	100% 3-2-3.
464	BKSD1 1層 表面	—	9.6	—	—	000-00-0000-1-00-0 000000.	0.00-00-0000-1-00-0 000000.	良	灰 色	00- 1/12	100% 3-2-3.
465	BKSD1 1層 表面	—	11.2	—	—	000-00-0000-1-00-0 000000.	0.00-00-0000-1-00-0 000000.	良	黄 灰色	00- 1/12	AM.
466	BKSD1 1層 表面	—	13.8	5.0	5.6	000-00-0000-1-00-0 000000.	0.00-00-0000-1-00-0 000000.	良	灰 白色	00- 1/12 00- 5/12	7-00L AM.
467	BKSD1 1層 表面	—	13.8	4.4	4.2	000-00-0000-1-00-0 000000.	0.00-00-0000-1-00-0 000000.	良	褐 灰色	00- 1/12 00- 5/12	8-00L AM.
468	BKSD1 1層 表面	—	12.2	4.0	4.2	000-00-0000-1-00-0 000000.	0.00-00-0000-1-00-0 000000.	良	灰 白色	00- 1/12 00- 5/12	90L
469	BKSD1 1層 表面	—	11.7	—	—	—	0.00-00-0000-1-00-0 000000.	良	浅 黄色	00- 3/12	90L
470	BKSD1 1層 表面	—	12.5	—	—	—	000-00-0000-1-00-0 000000.	良	棕 褐色	00- 1/12	8-00L
471	BKSD1 1層 表面	—	11.6	—	—	—	—	良	灰 白色	00- 2/12	7-00L
472	BKSD1 1層 表面	—	16.2	—	—	—	0.00-00-0000-1-00-0 000000.	良	灰 白色	00- 2/12	8-00L
473	BKSD1 1層 表面	—	5.8	—	—	000-00-0000-1-00-0 000000.	0.00-00-0000-1-00-0 000000.	良	灰 白色	00- 5/12	7-00L
474	BKSD1 1層 表面	—	4.9	—	—	000-00-0000-1-00-0 000000.	0.00-00-0000-1-00-0 000000.	良	棕 褐色	00- 3/12	7-00L
475	BKSD1 1層 表面	—	5.7	—	—	000-00-0000-1-00-0 000000.	0.00-00-0000-1-00-0 000000.	良	黄 灰色	00- 1/12	00L

第72表 針田遺跡遺物觀察表 (20)

件 目 番 号	出土遺物	形 質	度量 (cm)			費用	測量	地 上	地 底	色 調	保存率 (1/12)	備 考
			口径	底径	高							
476	BESD1 1層	山茶葉 繩	-	5.7	-	4988.009.00016.00.007 7.	9.31m207r-1.56.009 32.	良	灰白色	BB- 5/12	89L 88R,	
477	BESD1 1層	山茶葉 繩	-	9.0	-	4988.009.00016.00.007 7.	8.	良	灰黃色	BB- 1/12	88L	
478	BESD1 1層	山茶葉 繩	-	4.9	-	4988.009.	9.31m207r-1.56.009 32.	良	灰白色	BB- 6/12	58L 88R,	
479	BESD1 1層	山茶葉 繩	-	5.0	-	4988.009.00016.00.007 7.	9.31m207r-1.56.009 32.	良	灰黃色	BB- 2/12	7-88L	
480	BESD1 1層	山茶葉 繩	-	4.6	-	4988.009.00.007.	9.31m207r-1.56.009 32.	良	灰黃色	BB- 3/12	8-98L	
481	BESD1 1層	山茶葉 小環	8.3	5.1	1.7	4988.009.00.007. 7.	8.	良	灰黃色	BB- 2/12 BB- 2/12	78L	
482	BESD1 1層	山茶葉 小環	8.4	5.1	1.1	4988.009.00016.00.007 7.	9.31m207r-1.56.009 32.	良	灰白色	BB- 1/12 BB- 2/12	8-98L	
483	BESD1 1層	山茶葉 小環	7.7	5.1	1.9	4988.009.00.007. 7.	9.31m207r-1.56.009 32.	良	灰白色	BB- 2/12 BB- 2/12	8-98L	
484	BESD1 1層 有耳環	11.7	-	-	-	4988.009.00.007. 7.	9.31m207r-1.56.009 32.	良	灰白色	BB- 2/12	BB- 8-98L	
485	BESD2 1層	土師器 甕	14.0	-	-	4988.009.00.007. 7.	9.31m207r-1.56.009 32.	中-良	綠色	BB- 1/12	38L 38R,	
486	BESD2 1層 環身	-	5.7	-	-	8-98.009.00.007. 7.	9.31m207r-1.56.009 32.	良	灰黃色	BB- 2/12	BB- 8-98L, 3-1.	
487	BESD2 1層 環身	22.0	-	-	-	8-98.009.	9.31m207r-1.56.009 32.	良	灰黃色	BB- 1/12	BB- 8-98L, 3-1-2.	
488	AESK2 1層 輪胎小環	10.7	6.1	1.9	8-98.009.00.007. 7.	9.31m207r-1.56.009 32.	良	黃灰色	BB- 1/12 BB- 2/12	BB- 8-98L		
489	AESK2 1層	山茶葉 繩	-	7.0	-	4988.009.00.007. 7.	9.31m207r-1.56.009 32.	良	灰白色	BB- 2/12	78L	
490	AESK2 1層	山茶葉 繩	12.4	4.6	3.4	4988.009.00.007. 7.	9.31m207r-1.56.009 32.	良	灰黃色	BB- 3/12 BB- 2/12	10-118L	
491	AESK2 1層	山茶葉 繩	-	7.0	-	4988.009.	8.	良	黃灰色	BB- 1/12	89L 88R,	
492	AESK16 1層	山茶葉 繩	12.3	-	-	-	9.31m207r-1.56.009 32.	良	灰白色	BB- 2/12	7-88L 88R,	
493	AESK18 2層 环蓋	18.9	-	-	-	8-98.009.	9.31m207r-1.56.009 32.	良	灰白色	BB- 1/12	BB- 8-98L, 3-2-3, 88R.	
494	AESK18 2層	土師器 管狀土錐	-	1.8	-	9.31m207r-1.56.009 32.	9.31m207r-1.56.009 32.	中-良	綠色	計測不能		
495	AESK22 1層 中環	7.9	3.6	-	-	9.31m207r-1.56.009 32.	9.31m207r-1.56.009 32.	良	綠色	BB- 2/12 BB- 2/12	1-8-98L	
496	AESK23 1層	山茶葉 小環	8.7	4.1	2.2	7.	9.31m207r-1.56.009 32.	良	灰白色	BB- 2/12 BB- 3/12	78L	
497	AESK23 1層	山茶葉 繩	12.9	-	-	-	9.31m207r-1.56.009 32.	良	灰白色	BB- 1/12	8-98L	
498	AESK23 1層 長形瓶	-	-	-	-	8-98.009. 7.	9.31m207r-1.56.009 32.	良	灰白色	計測不能		
499	AESK23 1層	山茶葉 繩	18.1	-	-	8-98.009. 7.	8.	良	綠色	BB- 1/12	BB- 8-98L, 3-1-2	
500	AESK53 1層	土師器 甕	17.1	-	-	4988.009.00.007. 7.	9.31m207r-1.56.009 32.	中-良	黃綠色	BB- 2/12	88L 88R,	

第73表 針田遺跡遺物觀察表 (21)

件 號 號	出土遺物	器 種	尺 寸			質 地	形 狀	性 能	色 調	存 在 率 (1/12)	備 考
			長	寬	高						
501	AKSK51 1號	陶 器 身	14.0	—	—	6-68.16577.	6. 68.16577+1.50.1689 125.	良	灰褐色	10- 2/12	10000.0-1-2.
502	AKSK52 2.號	土 器 身	12.1	—	—	6-68.16577. 68.16581. 68. 16582. 68.16583. 68.16584. 68.16585.	6. 68.16577+1.50.16 125.	中中良	灰褐色	10- 2/12	99100.0-278.
503	AKSK53 1號	土 器 身	16.0	—	—	6-68.16577. 68.16581. 68. 16582. 68.16583. 68.16584. 68.16585.	6. 68.16577+1.50.16 125.	中中良	灰褐色	10- 2/12	99100.0-277.
504	AKSK54 1號	土 器 身	7.9	4.9	1.2	68.165. 68.16577.	6.	良	灰褐色	10- 1/12 BP- 2/12	7-85L
505	AKSK55 1.號	土 器 身	13.0	—	—	—	6.	良	灰 色	10- 2/12	98L
506	AKSK57 1號	陶 器 身	—	1.8	—	68.16577.	6. 68.16577+1.50.1689 125.	良	灰褐色	計測不確	10000.0-2-3.
507	AKSK58 1號	土 器 身	12.1	—	—	68.16577. 68.16581. 68. 16582.	6. 68.16577+1.50.1689 125.	中中良	灰 色	10- 1/12	99100.
508	AKSK59 2號	土 器 身	15.4	—	—	68.165. 68.16577. 68. 16581. 68.16582.	6. 68.16577+1.50.16 125.	中中良	灰褐色	10- 2/12	99100.0-278.
509	AKSK61 1號	土 器 身	14.9	—	—	—	6. 68.16577+1.50.1689 125.	良	灰褐色	10- 1/12	7-85L
510	AKSK62 1號	土 器 身	—	5.8	—	68.165. 68.16577.	6. 68.16577+1.50.1689 125.	良	灰褐色	BP- 1/12	7-85L
511	AKSK65 1號	土 器 身	16.2	—	—	—	6. 68.16577+1.50.1689 125.	良	灰褐色	10- 3/12	100L
512	AKSK68 1號	土 器 身	11.9	—	—	—	6.	良	灰褐色	10- 2/12	7-85L
513	AKSK69 1號	陶 器 身	12.2	—	—	—	6. 68.16577+1.50.1689 125.	良	灰褐色	10- 1/12 0-52-0-72500F AKSK69-19-702.	100L
514	AZSK101 1.號	陶 器 身	—	9.8	—	—	68.16577+1.50.1689 125.	良	灰褐色	計測不確	100L. 98L.
515	AZSK102 1號	陶 器 身	—	5.0	—	68.165. 68.16581. 68.16582.	6.	良	灰褐色	BP- 4/12	7-85L
516	AZSK114 1號	陶 器 身	10.6	—	—	68.165. 68.16582/1.	6. 68.16577+1.50.16 125.	良	灰褐色	10- 1/12	10000.0-1-2.
517	AZSK115 1號	陶 器 身	10.4	—	—	—	6.	良	灰褐色	10- 3/12	7-85L
518	AZSK116 1號	陶 器 身	—	3.0	—	6-68.16577. 68.16581. 68. 16582.	6. 68.16577+1.50.16 125.	中中良	灰褐色	BP- 1/12	10000.0-1-2.
519	AZSK118 1號	土 器 身	9.0	5.0	2.5	68.165. 68.16577. 68.16581. 68.16582.	6. 68.16577+1.50.1689 125.	良	灰褐色	10- 1/12 BP- 2/12	1-5-25.
520	AZSK117 1號	陶 器 身	15.0	—	—	68.165. 68.16581/2.	6. 68.16577+1.50.1689 125.	良	灰褐色	10- 2/12	10000.0-1-2.
521	AZSK119 1號	陶 器 身	12.6	5.4	2.9	6-68.16577. 68.16581. 68. 16582.	6. 68.16577+1.50.1689 125.	良	灰褐色	10- 3/12 BP- 2/12	10000.0-1-2.
522	AZSK120 1號	陶 器 身	—	12.4	—	6-68.16577. 68.16581. 68. 16582.	6. 68.16577+1.50.1689 125.	良	灰褐色	BP- 2/12	10000.0-1-2.
523	BKSK3 1號	土 器 身	13.9	5.9	4.6	68.165. 68.16577.	6. 68.16577+1.50.1689 125.	良	灰褐色	10- 1/12 BP- 2/12	98L.
524	BKSK3 1號	土 器 身	15.2	—	—	—	6. 68.16577+1.50.1689 125.	良	灰褐色	10- 1/12	78L. 0-98L.
525	BKSK3 1號	土 器 身	13.8	—	—	—	6. 68.16577+1.50.1689 125.	良	灰褐色	10- 1/12	7-85L

第74表 针田清热植物种类表(22)

种名	科属	产地	花期	花色	果期	生长期	根	茎
5.2.6 BUSK3 山茶科	山茶科	1.1月	2.8月~2.9月	-	5.2	-	黑	黑
5.2.6 1W	山茶科	1月	4月	-	5.2	-	黑	黑
5.2.7 BUSK3 山茶科	山茶科	1月	-	-	5.2	-	黑	黑
5.2.8 BUSK9 木犀科	木犀科	1月	-	-	5.2	-	黑	黑
5.2.9 BUSK11 木犀科	木犀科	1月	1~3月	-	5.2	-	黑	黑
5.2.9 1W	木犀科	1月	4月	-	5.2	-	黑	黑
5.2.9 ARP127 木犀科	木犀科	1月	16.5	-	5.2	-	黑	黑
5.3.1 ARP129 木犀科	木犀科	1月	16.5	-	5.2	-	黑	黑
5.3.1 1W	木犀科	1月	4月	-	5.2	-	黑	黑
5.3.2 ARP148 木犀科	木犀科	1月	22.0	-	5.2	-	黑	黑
5.3.2 1W	木犀科	1月	4月	-	5.2	-	黑	黑
5.3.3 AMP153 木犀科	木犀科	1月	15.0	-	5.2	-	黑	黑
5.3.3 1W	木犀科	1月	4月	-	5.2	-	黑	黑
5.3.4 ARP155 木犀科	木犀科	1月	11.2	-	5.2	-	黑	黑
5.3.4 1W	木犀科	1月	4月	-	5.2	-	黑	黑
5.3.5 ARP158 木犀科	木犀科	1月	11.0	6.6	6.7	5.2	黑	黑
5.3.5 1W	木犀科	1月	4月	-	5.2	-	黑	黑
5.3.6 ARP15118 F:木犀科	木犀科	1月	16.5	-	5.2	-	黑	黑
5.3.6 1W	木犀科	1月	4月	-	5.2	-	黑	黑
5.3.7 ARP15120 木犀科	木犀科	1月	15.4	7.4	-	5.2	-	黑
5.3.7 1W	木犀科	1月	4月	-	5.2	-	黑	黑
5.3.8 ARP15122 木犀科	木犀科	1月	15.5	8.2	4.9	5.1	黑	黑
5.3.8 1W	木犀科	1月	4月	-	5.2	-	黑	黑
5.3.9 ARP15123 木犀科	木犀科	1月	15.2	-	5.2	-	黑	黑
5.3.9 1W	木犀科	1月	4月	-	5.2	-	黑	黑
5.4.0 ARP15126 木犀科	木犀科	1月	12.8	5.4	5.1	5.2	黑	黑
5.4.0 1W	木犀科	1月	4月	-	5.2	-	黑	黑
5.4.1 ARP15127 木犀科	木犀科	1月	12.7	4.6	3.3	5.2	黑	黑
5.4.1 1W	木犀科	1月	4月	-	5.2	-	黑	黑
5.4.2 ARP15128 木犀科	木犀科	1月	12.7	4.6	3.3	5.2	黑	黑
5.4.2 1W	木犀科	1月	4月	-	5.2	-	黑	黑
5.4.3 ARP15129 木犀科	木犀科	1月	12.0	-	5.2	-	黑	黑
5.4.3 1W	木犀科	1月	4月	-	5.2	-	黑	黑
5.4.4 ARP15130 木犀科	木犀科	1月	22.6	-	5.2	-	黑	黑
5.4.4 1W	木犀科	1月	4月	-	5.2	-	黑	黑
5.4.5 ARP15132 木犀科	木犀科	1月	16.0	-	5.2	-	黑	黑
5.4.5 1W	木犀科	1月	4月	-	5.2	-	黑	黑
5.4.6 ARP15136 木犀科	木犀科	1月	22.6	-	5.2	-	黑	黑
5.4.6 1W	木犀科	1月	4月	-	5.2	-	黑	黑
5.4.7 ARP15138 木犀科	木犀科	1月	16.0	-	5.2	-	黑	黑
5.4.7 1W	木犀科	1月	4月	-	5.2	-	黑	黑
5.4.8 ARP15139 木犀科	木犀科	1月	16.1	-	5.2	-	黑	黑
5.4.8 1W	木犀科	1月	4月	-	5.2	-	黑	黑
5.4.9 ARP15141 木犀科	木犀科	1月	22.9	4.5	1.9	5.2	黑	黑
5.4.9 1W	木犀科	1月	4月	-	5.2	-	黑	黑
5.5.0 ARP1592 木犀科	木犀科	1月	22.0	-	5.2	-	黑	黑
5.5.0 1W	木犀科	1月	4月	-	5.2	-	黑	黑

第75表 針田遺跡遺物觀察表 (23)

件 番 号	出土遺 物	器 種	法 量 (cm)			整 形・形 態	陶 土	燒 成	色 調	残 存 率 (1/12)	備 考
			口径	底径	厚度						
551	AEP11562	圓底盤 1-2層	-	5.6	-	5-AB-1657. 鏽褐色, 厚燒。	998. 116107+1. 16498 2.	良	黃灰色	缺- 5/12	16888. 3-1-2.
552	AEP11567	圓底盤 1層	-	6.4	-	5-AB-1657. 鏽褐色, 厚燒。	998. 116107+1. 16498 2.	良	黃-9-25	缺- 6/12	
553	AEP11607	中-EBB 1層	14.0	-	-	EBB. 5-705. 純黑色-黑褐色	998. 10-260+16888. 2.	良	淡黃色	缺- 1/12	1688.
554	AEP11616	山茶碗 小盤	10.6	5.5	1.9	圓. 5-705. 黑褐色-黑褐色 17.	998. 10-260+16888. 2.	中-中良	灰白色	缺- 2/12 缺- 3/12	7-88L 8-AB. 1688.
555	AEP11631	中-EBB 1層	11.8	7.4	2.2	EBB. 5-705. 黑褐色-黑褐色	998. 116107+1. 16498 2.	良	灰白色	缺- 3/12 缺- 5/12	16888.
556	AEP11655	土師器皿	11.3	6.0	2.5	EBB. 5-705.	998. 116107+1. 16498 2.	中-中軟	綠色	缺- 3/12 缺- 10/12	
557	AEP11712	山茶碗 小盤	10.8	-	-		998. 116107+1. 16498 2.	中-中軟	灰白色	缺- 2/12	6-78L 1688
558	AEP11780	中-EBB 1層	11.4	4.4	6.2	EBB. 5-705. 黑褐色-黑褐色	998. 116107+1. 16498 2.	良	灰白色	缺- 3/12 缺- 12/12	16888. 1688-2-287
559	AEP11793	山茶碗 鐵	-	6.2	-	EBB. 5-705. 黑-黑褐色	8.	良	灰白色	缺- 2/12	7-88L
560	AEP11834	山茶碗 鐵	11.4	4.2	2.9	EBB. 5-705. 黑色	998. 116107+1. 16498 2.	良	灰白色	缺- 3/12 缺- 6/12	1688.
561	AEP11834	山茶碗 鐵	11.6	4.1	2.4	EBB. 5-705. 黑色	8.	良	灰白色	缺- 3/12 缺- 4/12	1688.
562	BICP1188	山茶碗 鐵	-	5.4	-	EBB. 5-705. 黑褐色-黑褐色 17.	998. 116107+1. 16498 2.	良	黃灰色	缺- 1/12	7-88L
563	BEP11121	山茶碗 鐵	11.6	5.3	3.1	EBB. 5-705. 黑色	998. 116107+1. 16498 2.	良	淡黃色	缺- 3/12 缺- 3/12	1688.
564	BEP11214	圓底盤 1層	12.7	9.4	2.9	5-AB-1657. 黑褐色	998. 116107+1. 16498 2.	良	青灰色	缺- 1/12 缺- 1/12	16888. 3-3.
565	BEP11225	山茶碗 鐵	12.7	-	-		998. 116107+1. 16498 2.	良	灰白色	缺- 2/12	7-88L
566	BEP11246	土師器皿 中瓶	9.3	5.1	1.8	PIO. 5-16507. 黑褐色 6.5-6.8. 黑褐色. 黑褐色	998. 116107+1. 16498 2.	良	灰褐色	缺- 5/12 缺- 6/12	1-3-18.
567	BEP11255	山茶碗 鐵	12.6	2.5	3.7	EBB. 5-705. 黑-黑褐色	998. 116107+1. 16498 2.	良	灰白色	缺- 2/12 缺- 5/12	1688.
568	AKSX1	圓底盤 2層	15.8	-	-	5-AB-1657.	8.	中-中良	灰褐色	缺- 1/12	16888. 3-27
569	AKSX2	山茶碗 小盤	8.8	5.1	1.8	EBB. 5-705.	8.	中-中軟	綠色	缺- 3/12 缺- 12/12	98L.
570	AKSX2	圓底盤 2層	15.8	-	-	EBB. 5-705. 5-16507. 5-16507 8. 5-855.	998. 116107+1. 16498 2.	良	青灰色	缺- 1/12	16888. 3-3-V-1.
571	AKSX2	山茶碗 鐵	13.4	4.8	3.5	EBB. 5-705. 黑色	998. 116107+1. 16498 2.	良	灰褐色	缺- 2/12 缺- 3/12	1688.
572	AKSX2	山茶碗 鐵	14.4	4.8	2.9	EBB. 5-705. 黑色	998. 116107+1. 16498 2.	良	灰白色	缺- 4/12 缺- 2/12	1688.
573	AKSX2	山茶碗 鐵	13.2	5.4	3.3	EBB. 5-705. 黑色	998. 116107+1. 16498 2.	良	灰白色	缺- 2/12 缺- 3/12	1688.
574	AKSX2	中-EBB 柄利	-	-	-	EBB. 5-705.	998. 116107+1. 16498 2.	良	灰白色	缺- 不備	16887.
575	BESX1	山茶碗 鐵	-	5.9	-	EBB. 5-705.	998. 116107+1. 16498 2.	良	灰白色	缺- 4/12	78L.

第76表 針田遺跡遺物觀察表(24)

序 號 號 號	出土遺物 器 類	器 體	估 量 (cm)			性 別 · 年 齡	地 質	地 成	色 調 ( $\text{CIE}$ )	存 在 率 ( $\times 10^{-2}$ )	備 考	
			口徑	底徑	高							
576	BK5X1 2層	山茶 碗	12.5	6.2	4.6	女	EM6.109.	E. 810107-1.564920	良	灰白色	EM-2/12 EM-1/12	6-95L
577	BK5X2 2層	山茶 碗	20.2	-	-	女	EM6.109.011/2.	E. 810107-1.564920	良	灰-白	EM-1/12	EM6.9-2.
578	BK5X2 2層	山茶 碗	12.9	-	-	女	EM6.109-1.564920	良	灰白色	EM-5/12	8-95L	
579	BK5X2 2層	山茶 碗	12.7	-	-	女	EM6.109-1.564920	良	灰白色	EM-4/12	78L 88R.	
580	BK5X2 2層	山茶 碗	12.6	3.8	6.0	女	EM6.109.009.008.007	E. 810107-1.564920	良	灰白色	EM-2/12 EM-3/12	78L
581	BK5X2 2層	山茶 碗	11.2	-	-	女	EM6.109-1.564920	良	灰黄色	EM-2/12	9-105L	
582	BK5X2 2層	山茶 碗	12.7	-	-	女	EM6.109-1.564920	良	灰黄色	EM-2/12	8-95L	
583	BK5X2 2層	山茶 碗	13.7	4.9	5.1	女	EM6.109.009.008.007	E. 810107-1.564920	良	灰黄色	EM-2/12 EM-3/12	7-85L
584	BK5X2 2層	山茶 碗	12.8	-	-	女	EM6.109-1.564920	良	浅黄色	EM-3/12	8-95L	
585	BK5X2 2層	山茶 碗	11.7	2.7	2.7	女	EM6.109.008.007	E. 810107-1.564920	良	灰白色	EM-1/12 EM-1/12	108L 88R.
586	BK5X2 2層	山茶 碗	11.8	3.0	3.4	女	EM6.109.008.007	E. 810107-1.564920	良	浅黄色	EM-1/12 EM-1/12	95L
587	BK5X2 2層	山茶 碗	-	4.5	-	女	EM6.109.008.007	E. 810107-1.564920	良	灰白色	EM-10/12	7-85L
588	BK5X2 2層	山茶 碗	-	5.2	-	女	EM6.109.	E. 810107-1.564920	良	灰黄色	EM-12/12	58L 88R.
589	BK5X2 2層	山茶 碗	-	7.4	-	女	EM6.109.007	E. 810107-1.564920	良	灰灰色	EM-2/12	8-95L 88R.
590	BK5X2 2層 小盤	山茶 碗	1.7	5.0	1.2	女	EM6.109.007	E. 810107-1.564920	良	灰灰色	EM-3/12 EM-3/12	85L
591	BK5X2 2層 小盤	山茶 碗	7.9	5.0	1.2	女	EM6.109.008.007	E. 810107-1.564920	良	灰白色	EM-12/12 EM-12/12	8-95L
592	BK5X2 2層 小盤	山茶 碗	7.9	4.8	1.2	女	EM6.109.008.007	E. 810107-1.564920	良	灰白色	EM-12/12 EM-12/12	8-95L
593	9-10 年 跡	山茶 碗	27.2	-	-	女	EM6.109-1.564920.	999.99.56107-1.56.08 EM6.109.	良	灰黑色	EM-3/12	EM95. 178881-188881
594	AK-G10 Ⅱ層	圓文土器 深鉢	-	-	-	女	EM6.109-1.564920	999.99.56107-1.56.08 EM6.109.	中-中	暗 色	計測不能	EM-10.99.88.8888
595	SB2.2 Ⅰ層	圓文土器 深鉢	-	-	-	女	EM6.109-1.564920	999.99.56107-1.56.08 EM6.109.	中-中	暗 色	計測不能	EM-28.99.88.8888
596	SB2.2 Ⅰ層	圓文土器 深鉢	-	-	-	女	EM6.109-1.564920	999.99.56107-1.56.08 EM6.109.	中-中	暗 色	計測不能	EM-28.99.88.8888
597	AK-J10 Ⅱ層	圓文土器 深鉢	-	-	-	女	EM6.109-1.564920	999.99.56107-1.56.08 EM6.109.	中-中	暗 色	計測不能	EM-28.99.88.8888
598	AK-J3 Ⅱ層	圓文土器 深鉢	-	-	-	女	EM6.109-1.564920	999.99.56107-1.56.08 EM6.109.	良	暗灰色 暗褐色	計測不能	EM-28.99.88.8888
599	9-6年試掘 Ⅱ層	圓文土器 深鉢	-	-	-	女	EM6.109-1.564920	999.99.56107-1.56.08 EM6.109.	中-中	暗 色	計測不能	EM-28.99.88.8888
600	9-6年試掘 Ⅱ層	圓文土器 深鉢	-	-	-	女	EM6.109-1.564920	999.99.56107-1.56.08 EM6.109.	良	暗 色	計測不能	EM-28.99.88.8888

第77表 針田遺跡遺物觀察表 (25)

件 番 号	出土場所	器 種	寸 法 (cm)			性 質 · 調 査	年 代	地 域	色 調 (C.I.H.D. O.I.B.D.)	保 存 率 (%)	備 考
			口 徑	底 径	高 度						
601	AK-N13	圓文土器 Ⅱ期	-	-	-	897.00mm, 493.00mm,	498.50±0.07±1.50.05 493.00	中央丘 陵地	朱青色 青褐色	81.40-80.80; 81.90±0.1	計測不能
602	AK-N10	圓文土器 Ⅱ期	-	-	-	897.00mm, 493.00mm,	498.50±0.07±1.50.05 493.00	中央丘 陵地	朱褐色 黑褐色	81.30-80.80±0.1	計測不能
603	SB20	圓文土器 Ⅰ期	-	-	-	897.00mm-93.	498.51±0.07±1.50. 493.00	中央丘 陵地	朱褐色 青褐色	81.30-80.80; 81.90±0.1	計測不能
604	SB24	圓文土器 Ⅰ期	-	-	-	897.00mm	498.51±0.07±1.50. 493.00	中央丘 陵地	朱褐色 青褐色	81.30-80.80; 81.90±0.1	計測不能
605	SB24	圓文土器 Ⅰ期	-	-	-	897.00mm-93.	498.51±0.07±1.50. 493.00	中央丘 陵地	朱褐色 青褐色	81.30-80.80; 81.90±0.1	計測不能
606	9.6年試掘 Ⅱ期	圓文土器 Ⅱ期	-	-	-	897.00mm-93.	498.52±0.07±1.50. 493.00	中央丘 陵地	朱褐色 青褐色	81.30-80.80; 81.90±0.1	計測不能
607	9.6年試掘 Ⅱ期	圓文土器 Ⅱ期	-	-	-	897.00mm-93.	498.52±0.07±1.50. 493.00	中央丘 陵地	朱褐色 青褐色	81.30-80.80; 81.90±0.1	計測不能
608	SB24	圓文土器 Ⅰ期	-	-	-	897.00mm-93.	498.52±0.07±1.50. 493.00	中央丘 陵地	朱褐色 青褐色	81.30-80.80; 81.90±0.1	計測不能
609	AK-J-3	圓文土器 Ⅲ期	-	-	-	897.00mm-93.	498.53±0.07±1.50.05 493.00	中央丘 陵地	朱褐色 青褐色	81.30-80.80; 81.90±0.1	計測不能
610	9.6年試掘 Ⅱ期	圓文土器 Ⅱ期	-	-	-	897.00mm-93.	498.53±0.07±1.50.05 493.00	中央丘 陵地	朱褐色 青褐色	81.30-80.80; 81.90±0.1	計測不能
611	SB18	圓文土器 Ⅰ期	-	-	-	897.00mm-93.	498.54±0.07±1.50. 493.00	中央丘 陵地	朱褐色 青褐色	81.30-80.80; 81.90±0.1	計測不能
612	SB24	圓文土器 Ⅰ期	-	-	-	897.00mm-93.	498.55±0.07±1.50. 493.00	中央丘 陵地	朱褐色 青褐色	81.30-80.80; 81.90±0.1	計測不能
613	AK-F-8	圓文土器 Ⅲ期	-	-	-	897.00mm	498.56±0.07±1.50.05 493.00	中央丘 陵地	朱褐色 青褐色	81.30-80.80; 81.90±0.1	計測不能
614	SB21	圓文土器 Ⅰ期	-	-	-	897.00mm	498.56±0.07±1.50.05 493.00	中央丘 陵地	朱褐色 青褐色	81.30-80.80; 81.90±0.1	計測不能
615	SB22	圓文土器 Ⅰ期	-	-	-	897.00mm-93.00 493.00	498.56±0.07±1.50.05 493.00	中央丘 陵地	朱褐色 青褐色	81.30-80.80; 81.90±0.1	計測不能
616	AK-J-9	土 壤 灰 Ⅱ期	17.1	-	-	898.00±0.07±0.50.05 493.00, 498.00, 500.00, 502. 505.00, 507.00	498.57±0.07±1.50.05 493.00	中央丘 陵地	XⅢ褐色 青褐色	81.2/12	81.90±0.50.
617	AK-L-13	土 壤 灰 Ⅱ期	14.6	-	-	898.00±0.07±0.50.05 493.00, 498.00, 500.00, 502. 505.00, 507.00	498.57±0.07±1.50.05 493.00	中央丘 陵地	81.2/12	81.90±0.50.	
618	AK-L-8	土 壤 灰 Ⅱ期	17.1	-	-	898.00±0.07±0.50.05 493.00, 498.00, 500.00, 502. 505.00, 507.00	498.57±0.07±1.50.05 493.00	中央丘 陵地	81.2/12	81.90±0.50.	
619	AK-表様	土 壈 灰 Ⅱ期	16.1	-	-	898.00±0.07±0.50.05 493.00, 498.00, 500.00, 502. 505.00, 507.00	498.57±0.07±1.50.05 493.00	中央丘 陵地	81.2/12	81.90±0.50.	
620	AK-N10	土 壈 灰 Ⅱ期	19.0	-	-	898.00±0.07±0.50.05 493.00, 498.00, 500.00, 502. 505.00, 507.00	498.58±0.07±1.50.05 493.00	中央丘 陵地	81.2/12	81.90±0.50.	
621	AK-表様	土 壈 灰 Ⅱ期	28.2	-	-	898.00±0.07±0.50.05 493.00, 498.00, 500.00, 502. 505.00, 507.00	498.58±0.07±1.50.05 493.00	中央丘 陵地	81.2/12	81.90±0.50.	
622	9.6年試掘 Ⅱ期	土 壈 灰 Ⅱ期	19.0	-	-	898.00±0.07±0.50.05 493.00, 498.00, 500.00, 502. 505.00, 507.00	498.58±0.07±1.50.05 493.00	中央丘 陵地	81.2/12	81.90±0.50.	
623	AK-M10	土 壈 灰 Ⅰ期	19.1	-	-	898.00±0.07±0.50.05 493.00, 498.00, 500.00, 502. 505.00, 507.00	498.58±0.07±1.50.05 493.00	良	81.2/12	81.90±0.50.	
624	AK-M10	土 壈 灰 Ⅰ期	21.0	-	-	898.00±0.07±0.50.05 493.00, 498.00, 500.00, 502. 505.00, 507.00	498.58±0.07±1.50.05 493.00	良	81.2/12	81.90±0.50.	
625	AK-G10	土 壈 灰 Ⅱ期	25.6	-	-	898.00±0.07±0.50.05 493.00, 498.00, 500.00, 502. 505.00, 507.00	498.58±0.07±1.50.05 493.00	良	81.2/12	81.90±0.50.	

第78表 針田遺跡遺物觀察表 (26)

件 番 号	出土遺 物	器 種	長 径 (cm)	口 徑 (cm)	高 度 (cm)	性 別	測 量	地 上	地 底	色 調	残 存 率 (%)	備 考
626	A区・L11 Ⅱ層	土 師 器 類	-	5.8	-		8886.810007, 88.42380 77, 8886.4238007,	88.810007+1.36.08 8886.00	良	土色	88-12/12	8887.88-88.
627	A区・J13 Ⅱ層	土 師 器 類	-	6.1	-		8886.810007, 88.42380 77, 8886.4238007,	88.810007+1.36.08 8886.00	中小良	土色	88-3/12	8887.888.
628	96年試 掘 Ⅱ層	土 師 器 類	-	5.6	-		8886.810007, 88.42380 77, 8886.4238007, 8886. 4238007,	88.810007+1.36.08 8886.00	中小良	土色	88-12/12	8887.88-888.878.
629	A区・L13 Ⅱ層	土 師 器 類	-	3.7	-		8886.810007, 88.42380 77, 8886.4238007,	88.810007+1.36.08 8886.00	中小良	灰白色	88-12/12	8887.1-8887.
630	A区・J-2 Ⅱ層	土 師 器 類	-	7.2	-		8886.810007, 88.42380 77, 8886.4238007, 8886. 4238007,	88.810007+1.36. 8886.00	中小良	灰白色	88-3/12	8887.8887.
631	A区・G18 Ⅱ層	土 師 器 類 把手	-	-	-		8886.810007, 88.42380 77, 8886.4238007,	88.810007+1.36.08 8886.00	良	土色	計測不能	
632	A区・M12 Ⅱ層	土 師 器 類 把手	-	-	-		8886.810007, 88.42380 77, 8886.4238007,	88.810007+1.36.08 8886.00	良	土色	計測不能	
633	A区・L10 Ⅱ層	土 師 器 類 蓋	11.4	6.1	4.4		8886.810007, 88.42380 77, 8886.4238007, 8886. 4238007, 8886.00	88.810007+1.36.08 8886.00	良	土色	88-7/12 88-12/12	8887.8887
634	96年試 掘 Ⅱ層	土 師 器 類	28.3	-	-		8886.810007, 88.42380 77, 8886.4238007,	8.810007+1.36.088	中小良	土色	88-3/12	8887.878.
635	A区・G-9 Ⅱ層	陶 器 類 罐	8.8	-	-		8-88.42387,	8.810007+1.36.088 8886.00	良	灰黄色	88-4/12	8888.1-8888.
636	96年試 掘 Ⅱ層	陶 器 類 罐	16.7	-	-		8886.8642382/3,	8.810007+1.36.088 8886.00	良	灰白色	88-3/12	8888.1-8888.
637	A区・N10 Ⅱ層	陶 器 類 罐	13.9	-	-		8886.8642382/5,	8.810007+1.36.088 8886.00	良	灰褐色	88-4/12	8888.1-8-2-1. 8-8888.
638	A区・K-8 Ⅱ層	陶 器 類 罐	16.9	9.8	3.5		8886.8642382/5,	8.810007+1.36.088 8886.00	良	灰灰色	88-11/12	8888.1-8-2-8888. 8888.8887-1.
639	A区・N15 Ⅱ層	陶 器 類 罐	-	9.8	-		8886.8642382/5,	8.810007+1.36.088 8886.00	良	灰蓝色	計測不能	8888.1-3.
640	A区・H15 Ⅱ層	陶 器 類 罐	15.2	9.8	3.4		8886.8642382/5,	8.810007+1.36.088 8886.00	中小良	土色	88-6/12	8888.1-3.
641	A区・K-8 Ⅱ層	陶 器 類 罐	16.5	9.8	3.7		8886.8642382/5,	8.810007+1.36.088 8886.00	良	灰 色	88-2/12	8888.1-3.
642	A区・N-9 Ⅱ層	陶 器 類 罐	14.4	-	-		8886.8642382/5,	8.810007+1.36.088 8886.00	良	灰白色	88-2/12	8888.1-1.
643	96年試 掘 Ⅱ層	陶 器 類 罐	15.9	-	-		8886.8642382/5,	8.810007+1.36.088 8886.00	中小良	灰白色	88-4/12	8888.1-1.
644	A区・L14 Ⅱ層	陶 器 類 罐	17.4	-	-		8886.8642382/5,	8.810007+1.36.088 8886.00	良	灰蓝色	88-1/12	8888.1-2.
645	96年試 掘 Ⅱ層	陶 器 類 罐	19.7	-	-		8886.8642382/5,	8.810007+1.36.088 8886.00	良	灰黄色	88-2/12	8888.1-2-3.
646	A区・J10 Ⅱ層	陶 器 類 罐	19.4	-	-		8886.8642382/5,	8.810007+1.36.088 8886.00	良	灰白色	88-4/12	8888.1-2-8888.
647	A区・K-8 Ⅱ層	陶 器 類 罐	19.6	-	-		8886.8642382/5,	8.810007+1.36.088 8886.00	良	灰灰色	88-1/12	8888.1-1.
648	A区・N15 Ⅱ層	陶 器 類 罐	17.6	-	-		8886.8642382/5,	8.810007+1.36.088 8886.00	良	灰褐色	88-2/12	8888.1-3.
649	A区・L11 Ⅱ層	陶 器 類 罐	16.5	-	-		8-88.42387,	8.810007+1.36.088 8886.00	良	灰 色	88-2/12	8888.1-1.
650	A区・I10 Ⅱ層	陶 器 類 罐	19.9	-	-		8886.8642382/5,	8.810007+1.36.088 8886.00	良	灰白色	88-1/12	8888.1-3.

第79表 針田遺跡遺物觀察表(27)

件 番 号	出土遺物	器 種	規 格 (cm)		形 状・調 査	施 工上	燒 成 色 調	残存率 (1/12)	備 考	
			口径	底径						
651	A区-L11-B10 Ⅱ層	陶土器 环底	15.9	-	-	外輪削、内輪凹切、口縁部 2mm。	外輪削、内輪凹切、口縁部 2mm。	良	灰 色	10- 2/12 1988年、3-3-Y-1。
652	A区-L14 Ⅱ層	陶土器 腹側	15.8	-	-	外輪削、内輪凹切。	外輪削、内輪凹切。	良	灰 色	10- 1/12 1988年、3-2。
653	A区-N13 Ⅱ層	陶土器 腹側	17.8	-	-	外輪削、内輪凹切。	外輪削、内輪凹切。	良	灰 色	10- 1/12 1988年、3-2。
654	A区-M9 Ⅱ層	陶土器 腹側	18.0	-	-	外輪削、内輪凹切。	外輪削、内輪凹切。	良	灰 色	10- 2/12 1988年、3-2。
655	A区-N10 Ⅱ層	陶土器 腹・底	-	7.48	-	外輪削、内輪凹切、底部厚 5.1。	外輪削、内輪凹切、底部厚 5.1。	良	黄 灰色	剖面不整 1988年、3-3。
656	A区-N9 Ⅱ層	陶土器 腹・底	-	7.48	-	外輪削、内輪凹切、底部厚 4.5。	外輪削、内輪凹切、底部厚 4.5。	良	黄 灰色	剖面不整 1988年、3-3-NR。
657	9-6年試掘 Ⅱ層	陶土器 底	12.2	7.48	3.2	外輪削、内輪凹切、底部厚 6.57。	外輪削、内輪凹切、底部厚 6.57。	良	灰 色	10- 1/12 1988年、3-2-1988年。
658	B区-Q19 Ⅱ層	陶土器 环底	17.4	-	-	外輪削、内輪凹切、口縁部 2mm。	外輪削、内輪凹切、口縁部 2mm。	中-良	灰 白色	10- 1/12 1988年、3-2-3。
659	B区-Q23 Ⅱ層	陶土器 环底	-	7.48	-	外輪削、内輪凹切。	外輪削、内輪凹切。	良	黄 灰色	剖面不整 1988年、3-2-3。
660	B区-O29 Ⅱ層	陶土器 环底	-	7.48	-	外輪削、内輪凹切。	外輪削、内輪凹切。	良	灰 白色	剖面不整 1988年、3-2-3。
661	A区-M12 Ⅱ層	陶土器 环身	11.3	5.2	3.3	外輪削、内輪凹切、口縁部 2mm。	外輪削、内輪凹切、口縁部 2mm。	中-良	灰 黄色	10-10/12 1988年、3-1。
662	A区-M10 Ⅱ層	陶土器 环身	11.8	5.8	3.2	外輪削、内輪凹切、口縁部 2mm。	外輪削、内輪凹切、口縁部 2mm。	中-良	灰 黄色	10- 3/12 1988年、3-2。
663	A区-M10 Ⅱ層	陶土器 环身	12.5	6.1	3.5	外輪削、内輪凹切、口縁部 2mm。	外輪削、内輪凹切、口縁部 2mm。	良	灰 色	10- 2/12 1988年、3-2-3, 1988年、3-2-1。
664	A区-O14 Ⅱ層	陶土器 环身	10.6	6.0	4.0	外輪削、内輪凹切、口縁部 2mm。	外輪削、内輪凹切、口縁部 2mm。	良	灰 黄色	10- 6/12 1988年、3-2。
665	A区-K12 Ⅱ層	陶土器 环身	11.1	-	-	外輪削、内輪凹切。	外輪削、内輪凹切。	良	灰 色	10- 2/12 1988年、3-1。
666	A区-M10 Ⅱ層	陶土器 环身	11.8	7.0	2.5	外輪削、内輪凹切、口縁部 2mm。	外輪削、内輪凹切、口縁部 2mm。	良	黄 灰色	10- 4/12 1988年、3-1。
667	A区-O14 Ⅱ層	陶土器 环身	12.4	7.2	2.9	外輪削、内輪凹切、口縁部 2mm。	外輪削、内輪凹切、口縁部 2mm。	良	灰 白色	10-12/12 1988年、3-1-1988年、3-2
668	A区-K15 Ⅱ層	陶土器 环身	11.3	6.6	3.5	外輪削、内輪凹切、口縁部 2mm。	外輪削、内輪凹切、口縁部 2mm。	良	灰 色	10- 3/12 1988年、3-1。
669	A区-L17 Ⅱ層	陶土器 环身	13.2	7.2	3.8	外輪削、内輪凹切、口縁部 2mm。	外輪削、内輪凹切、口縁部 2mm。	中-良	灰 黄色	10- 2/12 1988年、3-1。
670	A区-N10 Ⅱ層	陶土器 环身	12.7	-	-	外輪削、内輪凹切。	外輪削、内輪凹切。	良	黄 灰色	10- 2/12 1988年、3-1。
671	A区-N10 Ⅱ層	陶土器 环身	12.6	8.7	3.3	外輪削、内輪凹切、口縁部 2mm。	外輪削、内輪凹切、口縁部 2mm。	良	灰 白色	10- 2/12 1988年、3-1。
672	A区-K17 Ⅱ層	陶土器 环身	15.5	12.5	3.3	外輪削、内輪凹切、口縁部 2mm。	外輪削、内輪凹切、口縁部 2mm。	良	黄 灰色	10- 1/12 1988年、3-2。
673	A区-M10 Ⅱ層	陶土器 环身	13.0	8.5	3.7	外輪削、内輪凹切、口縁部 2mm。	外輪削、内輪凹切、口縁部 2mm。	良	黄 灰色	10- 2/12 1988年、3-1-2。
674	9-6年試掘 Ⅱ層	陶土器 环身	15.8	14.8	4.5	外輪削、内輪凹切、口縁部 2mm。	外輪削、内輪凹切、口縁部 2mm。	良	灰 色	10- 1/12 1988年、3-2。
675	A区-L12 Ⅱ層	陶土器 环身	17.7	12.1	5.6	外輪削、内輪凹切、口縁部 2mm。	外輪削、内輪凹切、口縁部 2mm。	良	黄 灰色	10- 3/12 1988年、3-2-2。

第80表 針田道路遺物觀察表 (26)

序 番 号	出土遺物	器 種	底 盤 (cm)			形 狀・ 測 量	底 上	底 成	色 調	底 存 半 (cm)	備 考
			日 径	底 径	高 度						
676	AK・米澤 Ⅱ期	圓 盤	14.2	10.4	3.7	5-16.1637.1638.1639. 1640.	5-16.1637-1.164938	良	灰白色	10- 2/12 10- 2/12	16888.3-1-2, 磁器,
677	AK・L11 Ⅱ期	圓 盤	12.5	-	-	5-16.1637.1638.1639. 1640.	5-16.1637-1.164938 1640.	良	灰 色	10- 5/12	16888.3-1-2,
678	AK・K9 Ⅱ期	圓 盤	-	6.1	-	5-16.1637.1638.	5-16.1637-1.164938	良	灰 色	8- 2/12	16888.3-1,
679	BK・R21 Ⅱ期	圓 盤	-	11.4	-	5-16.1637.1638.1639. 1640.	5-16.1637-1.164938 1640.	良	灰 色	8- 2/12	16888.3-2-3,
680	9.6試掘 Ⅱ期	圓 盤	-	10.6	-	5-16.1637.1638.	5-16.1637-1.164938	良	淡 褐色	8- 2/12	16888.3-3,
681	AK・M10 Ⅱ期	圓 盤	12.6	-	-	5-16.1637.	5-16.1637-1.164938	良	灰 色	10- 6/12	16888.3-1,
682	AK・L9 Ⅱ期	圓 盤	-	6.6	-	5-16.1637.1638.1639. 1640.	5-16.1637-1.164938	良	灰 色	8- 8/12	16888.3-2-1,
683	9.6試掘 Ⅱ期	圓 盤	11.4	-	-	5-16.1637.	5-16.1637-1.164938	良	灰 色	10- 2/12	16888.3-3,
684	AK・K9 Ⅱ期	圓 盤	10.5	-	-	5-16.1637.1638.1639. 1640.	5-16.1637-1.164938	良	灰 色	10- 1/12	16888.3-2,
685	AK・L10 Ⅱ期	圓 盤	-	10.9	-	5-16.1637.1638.1639. 1640.	5-16.1637-1.164938	良	灰 色	10- 2/12	16888.3-2-1,
686	9.6試掘 Ⅱ期	圓 盤	10.1	-	-	5-16.1637.	5-16.1637-1.164938	良	灰 色	10- 1/12	
687	AK・M10 Ⅱ期	圓 盤	-	11.8	-	5-16.1637.1638.1639. 1640.	5-16.1637-1.164938	良	灰 色	10- 3/12	16888.3-2-3,
688	AK・M10 Ⅱ期	圓 盤	20.5	15.7	2.9	5-16.1637.1638.1639. 1640.	5-16.1637-1.164938	良	灰 色	10- 4/12 10- 2/12	16888.3-1-1,
689	BK・S22 Ⅱ期	圓 盤	6.1	-	-	5-16.1637.	5.	良	灰 色	10- 2/12	16888.3-4-1, 1, 16888.
690	AK・O4 Ⅱ期	圓 盤	-	5.5	-	5-16.1637.1638.1639. 1640.	5-16.1637-1.164938	良	灰 色	10- 5/12	16888.3-4-1, 1, 16888.
691	AK・M10 Ⅱ期	圓 盤	25.4	-	-	5-16.1637.	5-16.1637-1.164938	中 等 良	灰 色	10- 2/12	16888.3-1,
692	AK・L13 Ⅱ期	圓 盤	19.1	-	-	5-16.1637.1638.1639. 1640.1641.1642.1643.1644.	5-16.1637-1.164938	良	灰 色	10- 1/12	16888.3-1,
693	AK・L13 Ⅱ期	圓 盤	23.0	-	-	5-16.1637.1638.1639. 1640.1641.	5-16.1637-1.164938	中 等 良	淡 黃 色	10- 1/12	16888.3-2,
694	AK・L8 Ⅱ期	圓 盤	24.9	-	-	5-16.1637.	5-16.1637-1.164938	良	灰 色	10- 1/12	16888.3-2,
695	AK・J4 Ⅱ期	圓 盤	16.9	-	-	5-16.1637.1638.1639. 1640.1641.1642.1643.1644.	5-16.1637-1.164938	良	灰 色	10- 1/12	16888.3-2,
696	9.6試掘 Ⅱ期	圓 盤	22.9	-	-	5-16.1637.1638.1639. 1640.	5-16.1637-1.164938	良	灰 色	10- 1/12	16888.3-2,
697	AK・N9 Ⅱ期	圓 盤	26.4	-	-	5-16.1637.	5.	中 等 良	灰 色	10- 1/12	16888.3-2,
698	9.6試掘 Ⅱ期	圓 盤	-	16.1	-	5-16.1637.1638.1639. 1640.	5-16.1637-1.164938	中 等 良	灰 色	10- 2/12	
699	AK・L8 Ⅱ期	圓 盤	15.6	-	-	5-16.1637.1638.1639. 1640.	5-16.1637-1.164938	良	灰 色	10- 2/12	K-18-K-90128.
700	AK・P9 Ⅱ期	圓 盤	17.3	-	-	5-16.1637.1638.1639. 1640.	5.	良	灰 色	10- 1/12	K-18-K-90128.

第81表 針田遺跡遺物観察表(29)

検査番号	出土遺物	器種	底基(cm)			形状・測定	面	底	色調	残存率 (1/12)	備考
			口径	底径	高さ						
701	A区・G10 Ⅱ層	灰陶陶器 碗	16.2	—	—	5-68.007, 細縫目-5-7 22, A887	8.	良	灰白色	BB- 1/12	K-90988, K-A888,
702	A区・L9 Ⅱ層	灰陶陶器 碗	17.7	—	—	5-68.007, 細縫目-5-7 22, A887	8.	良	灰黄色	BB- 1/12	K-90988,
703	A区・F8 Ⅱ層	灰陶陶器 碗	—	7.4	—	5-68.007, 細縫目-5-7 22, A887	8.00, 5-68.007-5-8, 5-8 822	良	灰白色	BB- 5/12	K-90988,
704	A区・G10 Ⅱ層	灰陶陶器 碗	—	7.0	—	5-68.007, 細縫目-5-7 22,	8.00, 5-68.007-5-8, 5-8 822	中少良	BB- 3/12	K-90988, K-A888,	
705	A区・F8 Ⅰ層	灰陶陶器 碗	—	7.3	—	5-68.007, 細縫目-5-7 22,	8.0, 5-68.007-5-8 822	良	灰黄色	BB- 3/12	K-90988, K-A888,
706	A区・N9 Ⅱ層	灰陶陶器 碗	—	8.1	—	5-68.007, 細縫目-5-7 22,	8.10, 5-68.007-5-8, 5-8 822	良	灰黄色	BB- 1/12	K-90-632888, K-A888,
707	A区・F8 Ⅱ層	灰陶陶器 碗	—	6.9	—	5-68.007, 細縫目-5-7 22, 細縫目-5-8	8.	良	灰白色	BB- 5/12	K-90-632888, K-A888,
708	A区・G10 Ⅱ層	灰陶陶器 碗	—	8.4	—	5-68.007, 細縫目-5-7 22,	8.00, 5-68.007-5-8, 5-8 822	良	灰白色	BB- 2/12	0-53-4-72888,
709	A区・F9 Ⅱ層	灰陶陶器 碗	—	9.0	—	5-68.007,	8.00, 5-68.007-5-8, 5-8 822	良	灰白色	BB- 2/12	0-53-8-72888,
710	A区・F8 Ⅱ層	灰陶陶器 碗	—	6.4	—	5-68.007, 細縫目-5-7 22,	8.00, 5-68.007-5-8, 5-8 822	良	灰黄色	BB- 3/12	K-90-6-532888,
711	A区・N16 Ⅱ層	灰陶陶器 碗	12.1	5.3	2.6	5-68.007, 細縫目-5-7 22, A887	8.00, 5-68.007-5-8, 5-8 822	良	灰白色	BB- 5/12	0-53-8-72888, K-A888,
712	A区・F8 Ⅰ層	灰陶陶器 碗	13.7	7.1	2.8	5-68.007, 細縫目-5-7 22, A887	8.00, 5-68.007-5-8, 5-8 822	良	灰白色	BB- 1/12	0-53-8-72888,
713	A区・K12 Ⅱ層 長頸瓶	—	—	8.8	—	5-68.007, 細縫目-5-7 22, 細縫目-5-8, A887 2, 長頸瓶-5-7, A887	8.00, 5-68.007-5-8, 5-8 822	良	灰白色	BB- 3/12	0-53-8-72888,
714	A区・O14 Ⅱ層 四脚壺	—	9.2	—	—	5-68.007-5-8, 5-9, 5-10 22-922,	8.00, 5-68.007-5-8, 5-8 822	良	灰白色	BB- 9/12	BB-922, 12988,
715	A区・N12 Ⅱ層	山茶瓶 瓶	14.9	6.2	5.8	5-68.007, 5-9, 5-10	8.	良	灰黄色	BB- 1/12	0-53-8-6888,
716	A区・N14 Ⅱ層	山茶瓶 瓶	13.1	5.6	6.5	5-68.007, 5-9, 5-10, 5-7	8.00, 5-68.007-5-8, 5-8 822	良	灰白色	BB-12/12	BB-12/12
717	A区・L10 Ⅱ層	山茶瓶 瓶	12.9	6.5	6.4	5-68.007, 5-9, 5-10	8.	良	浅黄色	BB- 2/12	BB-12/12
718	A区・M10 Ⅱ層	山茶瓶 瓶	14.6	5.5	6.0	5-68.007, 5-9, 5-10	8.	良	黄褐色	BB- 2/12	BB-12/12
719	A区・N9 Ⅱ層	山茶瓶 瓶	13.2	5.5	5.7	5-68.007, 5-9, 5-10	8.	良	灰白色	BB- 2/12	BB-12/12
720	A区・O14 Ⅱ層	山茶瓶 瓶	13.4	5.7	6.0	5-68.007, 5-9, 5-10	8.00, 5-68.007-5-8, 5-8 822	良	浅黄色	BB- 2/12	BB-12/12
721	A区・M14 Ⅱ層	山茶瓶 瓶	13.2	5.2	5.5	5-68.007, 5-9, 5-10	8.	良	灰白色	BB- 5/12	BB-12/12
722	A区・L19 Ⅱ層	山茶瓶 瓶	14.4	5.1	5.3	—	8.00, 5-68.007-5-8, 5-8 822	良	灰白色	BB- 1/12	BB-12/12
723	A区・N14 Ⅱ層	山茶瓶 瓶	13.9	5.9	5.3	5-68.007, 5-9, 5-10	8.	良	深灰色	BB- 3/12	7-888,
724	A区・F8 Ⅰ層	山茶瓶 瓶	13.6	6.1	5.0	5-68.007, 5-9, 5-10	8.	良	灰黄色	BB- 2/12	6-788,
725	9-6年試掘 Ⅱ層	山茶瓶 瓶	13.1	5.0	2.9	5-68.007, 5-9, 5-10	8.00, 5-68.007-5-8, 5-8 822	良	浅黄色	BB- 3/12	9-1988,

第82表 針田遺跡遺物觀察表(30)

標 識 號	出土遺構	器 種	法 量(cm)			形 狀・調 整	胎 土	施 成	色 調	残 存 率 (%)	備 考
			口徑	底徑	厚度						
7.2.6	AK-H11 II層	山茶碗 底	11.5	4.7	3.3	E88A.109.860. ACR.	E.88109-1.86.869 E88.	良	灰白色	II- 2/12 BB- 2/12	10-11%L
7.2.7	AK-M10 II層	山茶碗 底	11.9	4.3	3.0	E88A.109.860.AC.108C ACR.	E88.	中-良	灰黄色	II- 5/12 BB- 6/12	11%L
7.2.8	AK-M6 II層	山茶碗 底	10.9	3.0	3.1	E88A.109.860.	E.	良	灰白色	II- 2/12 BB- 1/12	11%L
7.2.9	9.6年試掘 II層	山茶碗 底	12.6	-	-	E88A.109.860. ACR.	E88.109-1.86.868 E88.	中-良	灰灰色	II- 2/12	11%L
7.3.0	AK-J17 II層	山茶碗 底	10.6	4.3	2.1	E88A.109.860.AC.070C ACR.	E.88109-1.86.866 E88.	良	灰灰色	II- 1/12 BB- 3/12	11%L
7.3.1	9.6年試掘 II層	山茶碗 底	10.3	4.2	2.4	E88A.109.860.AC.070C ACR.	E.88.109-1.86.867 E88.	良	灰白色	II- 2/12 BB- 4/12	11%L
7.3.2	AK-P8 II層	山茶碗 底	10.3	-	-	E88A.109.860. ACR.	E.88.109-1.86.868 E88.	良	灰白色	II- 3/12	11%L
7.3.3	BK-Q23 II層	山茶碗 底	14.7	6.8	5.6	E88A.109.860.	E.88109-1.86.869 E88.	良	灰白色	II- 2/12 BB- 6/12	6-7%L
7.3.4	BK-S23 II層	山茶碗 底	12.4	5.0	4.7	E88A.109.860. ACR.	E.88109-1.86.870 E88.	良	灰白色	II- 1/12 BB- 2/12	7-8%L
7.3.5	BK-S23 II層	山茶碗 底	12.6	4.5	4.9	E88A.109.860. ACR.	E.88109-1.86.870 E88.	良	灰白色	II- 2/12 BB- 6/12	7-8%L
7.3.6	9.6年試掘 II層	山茶碗 底	15.6	5.1	5.2	E88A.109.860. ACR.	E.88109-1.86.870 E88.	良	灰白色	II- 2/12 BB- 5/12	7-8%L
7.3.7	BK-R21 II層	山茶碗 底	13.8	4.8	4.3	E88A.109.860. ACR.	E.88109-1.86.870 E88.	良	灰白色	II- 2/12 BB- 7/12	9%L
7.3.8	BK-R21 II層	山茶碗 底	12.7	4.9	4.9	E88A.109.860.	E.	良	灰黄色	II- 3/12 BB- 4/12	7%L
7.3.9	9.6年試掘 II層	山茶碗 底	12.9	2.9	4.2	E88A.109.860. ACR.	E.88109-1.86.870 E88.	良	灰黄色	II- 7/12 BB- 9/12	9%L
7.4.0	BK-R21 II層	山茶碗 底	13.1	5.0	4.5	E88A.109.860. ACR.	E.	良	灰白色	II- 1/12 BB- 1/12	9-10%L
7.4.1	BK-Q23 II層	山茶碗 底	13.3	5.7	4.1		E.88109-1.86.870 E88.	良	灰灰色	II- 1/12 BB- 1/12	9-10%L
7.4.2	BK-R24 II層	山茶碗 底	13.8	4.2	4.4	E88A.109.860. ACR.	E.88109-1.86.870 E88.	良	灰白色	II- 2/12 BB- 3/12	9%L
7.4.3	BK-S23 II層	山茶碗 底	12.0	4.1	4.2	E88A.109.860. ACR.	E.	良	灰白色	II- 3/12 BB- 2/12	9-10%L
7.4.4	BK-R21 II層	山茶碗 底	12.8	5.2	3.9	E88A.109.860. ACR.	E.88109-1.86.870 E88.	良	灰黄色	II- 1/12 BB- 4/12	9%L
7.4.5	BK-R21 II層	山茶碗 底	11.9	2.6	3.4	E88A.109.860. ACR.	E.88109-1.86.870 E88.	良	灰白色	II- 2/12 BB- 2/12	10%L
7.4.6	9.6年試掘 II層	山茶碗 底	12.3	3.4	3.6	E88A.109.860. ACR.	E.88109-1.86.870 E88.	良	灰白色	II- 2/12 BB- 3/12	10%L
7.4.7	BK-R21 II層	山茶碗 底	11.8	4.6	3.5	E88A.109.860. ACR.	E.	良	灰白色	II- 1/12 BB- 1/12	9-10%L
7.4.8	BK-R20 II層	山茶碗 底	11.7	2.9	3.6	E88A.109.860. ACR.	E.88.109-1.86.868 E88.	良	灰黄色	II- 2/12 BB- 1/12	10%L
7.4.9	BK-Q19 II層	山茶碗 底	13.2	2.9	3.5	E88A.109.860. ACR.	E.88109-1.86.868 E88.	良	灰白色	II- 2/12 BB- 2/12	9-10%L
7.5.0	BK-P20 II層	山茶碗 底	12.9	3.7	3.5	E88A.109.860. ACR.	E.	良	灰黄色	II- 2/12 BB- 3/12	10%L

第83表 針田遺跡遺物觀察表(31)

件 號 序 號	出土遺物 名稱	形 狀	尺 寸 (cm)			性 質 及 特 點	發 上	施 工	色 調	地 在 中 (L/12)	備 考
			長	寬	厚						
751	B区・S23 Ⅱ層	山茶葉 形	11.9	3.1	2.1	E886.2007.000.000000	E. 886.2007.000.000000	良	灰白色	L= 3/12 R= 2/12	1092.
752	96年試掘 Ⅱ層	山茶葉 形	12.0	3.3	2.3	E886.2007.000.000000	E. 886.2007.000.000000	良	灰黃色	L= 2/12 R= 2/12	1092.
753	B区・R19 Ⅱ層	山茶葉 形	11.8	3.2	2.0	E886.2007.000.000000	E. 886.2007.000.000000	良	灰黃色	L= 2/12 R= 2/12	1092. 1093.
754	B区・O21 Ⅱ層	山茶葉 形	14.0	4.4	3.7	E886.2007.000.000000	E. 886.2007.000.000000	良	灰白色	L= 3/12 R= 1/12	1092.
755	96年試掘 Ⅱ層	山茶葉 形	12.6	4.3	3.8	E886.2007.000.000000	E. 886.2007.000.000000	良	灰黃色	L= 1/12 R= 1/12	10-1092.
756	B区・R21 Ⅱ層	山茶葉 形	11.1	3.1	2.6	E886.2007.000.000000	E. 886.2007.000.000000	良	灰色	L= 2/12 R= 1/12	1092.
757	B区・P21 Ⅱ層	山茶葉 形	11.8	4.4	2.0	E886.2007.000.000000	E. 886.2007.000.000000	良	灰白色	L= 5/12 R= 7/12	1092.
758	A区・E2 Ⅰ層	山茶葉 小標	7.8	4.3	2.3	E886.2007.000000	E. 886.2007.000000	良	灰黃色	L= 6/12 R= 12/12	1092. 1093.
759	A区・E2 Ⅰ層	山茶葉 小標	8.0	4.6	1.9	E886.2007.000000	E. 886.2007.000000	良	黃灰色	L= 10/12 R= 12/12	1092. 1093.
760	A区・L14 Ⅱ層	山茶葉 小標	8.1	4.0	2.2	E886.2007.	E.	良	灰黃色	L= 1/12 R= 2/12	6-1092.
761	A区・J2 Ⅱ層	山茶葉 小標	8.4	4.4	2.2	E886.2007.	486.20.100746569200	中中級	灰褐色	L= 7/12 R= 7/12	693.
762	A区・M10 Ⅱ層	山茶葉 小標	8.7	5.0	2.0	E886.2007.	E.	良	黃灰色	L= 2/12 R= 6/12	793.
763	A区・M9 Ⅱ層	山茶葉 小標	9.3	5.3	1.9	E886.2007.000000	E. 886.2007.000000	良	灰白色	L= 2/12 R= 2/12	793.
764	A区・E2 Ⅰ層	山茶葉 小標	8.0	3.9	2.0	E886.2007.	E.	良	灰白色	L= 2/12 R= 2/12	6-1092.
765	A区・E2 Ⅰ層	山茶葉 小標	8.6	5.2	1.8	E886.2007.000000	E. 886.2007.000000	良	灰黃色	L= 5/12 R= 6/12	1092. 1093.
766	A区・E2 Ⅰ層	山茶葉 小標	7.9	6.1	1.8	E886.2007.	E.	良	淡黃色	L= 12/12 R= 12/12	693.
767	A区・E2 Ⅰ層	山茶葉 小標	8.8	5.4	1.6	E886.2007.000000	E. 886.2007.000000	良	灰白色	L= 12/12 R= 12/12	1092. 1093.
768	A区・H12 Ⅱ層	山茶葉 小標	7.3	4.5	1.7	E886.2007.000000	E. 886.2007.000000	良	灰黃色	L= 5/12 R= 7/12	793.
769	A区・N14 Ⅱ層	山茶葉 小標	8.2	4.7	1.4	E886.2007.000000	E. 886.2007.000000	良	灰黃色	L= 3/12 R= 2/12	793.
770	A区・F7 Ⅱ層	山茶葉 小標	8.9	5.6	1.4	E886.2007.000000	E. 886.2007.000000	良	灰白色	L= 1/12 R= 2/12	1092. 1093.
771	A区・L13 Ⅱ層	山茶葉 小標	7.8	4.6	1.4	E886.2007.	E. 886.2007.000000	良	灰白色	L= 3/12 R= 2/12	793.
772	A区・L15 Ⅱ層	山茶葉 小標	8.0	5.4	1.5	E886.2007.000000	E. 886.2007.000000	良	灰白色	L= 7/12 R= 12/12	7-1092.
773	A区・K9 Ⅱ層	山茶葉 小標	7.5	4.3	1.2	E886.2007.000000	E. 886.2007.000000	良	灰白色	L= 5/12 R= 6/12	7-1092.
774	A区・N15 Ⅱ層	山茶葉 小標	8.4	5.2	1.2	E886.2007.000000	E. 886.2007.000000	良	灰白色	L= 5/12 R= 6/12	7-1092.
775	A区・O4 Ⅱ層	山茶葉 小標	7.5	4.1	1.4	E886.2007.000000	E. 886.2007.000000	良	黃褐色	L= 8/12 R= 12/12	8-1092.

第84表 精田遺跡植物遺跡表(32)

標 識 號	出 土 地 點	層 位	地 質	標 高 (m)	標 高 (m)	地 形	地 理	地 理	地 理	地 理	地 理
									(1/12)	(1/12)	(1/12)
7.7.6	AK·G6 H·H	山 西 領	3.4 5.9 1.2 C.	3.4 5.9 1.1 C.	3.4 5.9 1.1 C.	山 西 領	AK·G6 H·H	R	R	R	R
7.7.7	AK·L13 H·H	山 西 領	3.3 5.8 0.8	3.3 5.8 0.8	3.3 5.8 0.8	山 西 領	AK·L13 H·H	R	R	R	R
7.7.8	BK·AK H·H	山 西 領	3.4 6.4 0.8	3.4 6.4 0.8	3.4 6.4 0.8	山 西 領	BK·AK H·H	R	R	R	R
7.7.9	BK·AK H·H	山 西 領	3.6 3.5 0.8	3.6 3.5 0.8	3.6 3.5 0.8	山 西 領	BK·AK H·H	R	R	R	R
7.8.0	9.6·AK20 H·H	山 西 領	3.9 4.5 0.8	3.9 4.5 0.8	3.9 4.5 0.8	山 西 領	9.6·AK20 H·H	R	R	R	R
7.8.1	BK·R21 H·H	山 西 領	3.0 5.1 0.8	3.0 5.1 0.8	3.0 5.1 0.8	山 西 領	BK·R21 H·H	R	R	R	R
7.8.2	BK·S23 H·H	山 西 領	3.9 5.0 0.8	3.9 5.0 0.8	3.9 5.0 0.8	山 西 領	BK·S23 H·H	R	R	R	R
7.8.3	BK·Q31 H·H	山 西 領	3.2 4.7 0.8	3.2 4.7 0.8	3.2 4.7 0.8	山 西 領	BK·Q31 H·H	R	R	R	R
7.8.4	9.6·AK20 H·H	山 西 領	3.3 4.8 0.8	3.3 4.8 0.8	3.3 4.8 0.8	山 西 領	9.6·AK20 H·H	R	R	R	R
7.8.5	BK·Q23 H·H	山 西 領	3.4 4.4 0.8	3.4 4.4 0.8	3.4 4.4 0.8	山 西 領	BK·Q23 H·H	R	R	R	R
7.8.6	BK·P18 H·H	山 西 領	3.3 6.0 0.8	3.3 6.0 0.8	3.3 6.0 0.8	山 西 領	BK·P18 H·H	R	R	R	R
7.8.7	BK·P22 H·H	山 西 領	3.1 6.1 0.8	3.1 6.1 0.8	3.1 6.1 0.8	山 西 領	BK·P22 H·H	R	R	R	R
7.8.8	BK·S23 H·H	山 西 領	3.1 4.8 0.8	3.1 4.8 0.8	3.1 4.8 0.8	山 西 領	BK·S23 H·H	R	R	R	R
7.8.9	BK·Q23 H·H	山 西 領	7.4 4.2 0.8	7.4 4.2 0.8	7.4 4.2 0.8	山 西 領	BK·Q23 H·H	R	R	R	R
7.9.0	BK·S23 H·H	山 西 領	3.6 5.0 0.8	3.6 5.0 0.8	3.6 5.0 0.8	山 西 領	BK·S23 H·H	R	R	R	R
7.9.1	9.6·AK20 H·H	山 西 領	7.3 4.0 0.8	7.3 4.0 0.8	7.3 4.0 0.8	山 西 領	9.6·AK20 H·H	R	R	R	R
7.9.2	BK·K29 H·H	山 西 領	3.0 3.8 0.8	3.0 3.8 0.8	3.0 3.8 0.8	山 西 領	BK·K29 H·H	R	R	R	R
7.9.3	BK·Q29 H·H	山 西 領	3.6 5.1 0.8	3.6 5.1 0.8	3.6 5.1 0.8	山 西 領	BK·Q29 H·H	R	R	R	R
7.9.4	AK·F9 H·H	山 西 領	22.9 —	22.9 —	22.9 —	山 西 領	AK·F9 H·H	R	R	R	R
7.9.5	BK·R20 H·H	山 西 領	23.5 —	23.5 —	23.5 —	山 西 領	BK·R20 H·H	R	R	R	R
7.9.6	9.6·AK20 H·H	山 西 領	25.3 —	25.3 —	25.3 —	山 西 領	9.6·AK20 H·H	R	R	R	R
7.9.7	AK·F9 H·H	山 西 領	34 —	34 —	34 —	山 西 領	AK·F9 H·H	R	R	R	R
7.9.8	AK·L10 H·H	山 西 領	16.1 —	16.1 —	16.1 —	山 西 領	AK·L10 H·H	R	R	R	R
7.9.9	AK·N9 H·H	山 西 領	— 2.1	— 2.1	— 2.1	山 西 領	AK·N9 H·H	R	R	R	R
8.0.0	AK·L9 H·H	山 西 領	— 2.1	— 2.1	— 2.1	山 西 領	AK·L9 H·H	R	R	R	R

第85表 針田跡遺物觀察表 (33)

序 番 号	出土遺構	器 種	規 格 (cm)			寶 形・調 整	地 土	燒 成	色 調	残存率 (%)	備 考
			口径	底径	高						
801	AK-M8 II層	山茶瓶 小鉢	3.4	6.3	3.6	8~9.8, 16.7, 18.8, 19.9, 20.	E.	良	灰黄色	10~3/12 BB 3/12	88%.
802	AK-N10 II層	山茶瓶 瓶	10.6	5.1	3.7	8~9.8, 16.7, 18.8, 19.9, 20.	E. 16.7±0.7~1.56±0.928	良	灰白色	10~4/12 BB 12/12	100%.
803	AK-L10 II層	山茶瓶 瓶	—	4.6	—	BB8, 18.9, 19.9, 20.	E. 16.7±0.7~1.56±0.928	良	灰黄色	BB~6/12	98.8, 88.8, 88 (X784).
804	9.6年試掘 II層	山茶瓶 瓶	—	6.0	—	—	E. 16.7±0.7~1.56±0.928	良	灰黄色	BB~12/12	98.8, 88.8, 88 (X784).
805	BK-P1124 I層	山茶瓶 瓶	—	6.5	—	—	E. 16.7±0.7~1.56±0.928	良	灰白色	BB~5/12	9~78.8, 88.8, 88 (上17 AM).
806	9.6年試掘 II層	山茶瓶 瓶	—	6.0	—	BB8, 18.9, 19.9, 20. 9.	E. 16.7±0.7~1.56±0.928	良	灰白色	BB~6/12	78.8, 88.8, 88 (X784).
807	BK-R28 II層	山茶瓶 瓶	—	5.0	—	BB8, 18.9, 19.9, 20. 9.	E. 16.7±0.7~1.56±0.928	良	灰黄色	BB~6/12	7~88.8, 88.8, 88 (上17 AM).
808	BK-P19 II層	山茶瓶 瓶	—	3.7	—	BB8, 18.9, 19.9, 20. 9.	E. 16.7±0.7~1.56±0.928	良	灰黄色	BB~7/12	100.8, 88.8, 88 (X7).
809	BK-P1124 I層	山茶瓶 小鉢	3.2	3.7	2.0	BB8, 18.9, 19.9, 20. 9.	E. 16.7±0.7~1.56±0.928	良	灰白色	BB~12/12 BB 12/12	78.8, 88.8, 88 (X784).
810	9.6年試掘 II層	山茶瓶 小鉢	7.4	5.0	1.0	BB8, 18.9, 19.9, 20. 9.	E. 16.7±0.7~1.56±0.928	良	灰白色	BB~6/12 BB~6/12	9~100.8, 88.8, 88 (X784).
811	AK-N13 II層	山茶瓶 小鉢	—	—	—	BB8, 18.9, 19.9, 20. 9.	E. 16.7±0.7~1.56±0.928	良	灰白色	計測不 可	9~100.8, 88.8, 88 (X784).
812	AK-K15 II層	土師器皿 中盤	7.8	3.6	1.3	17.0~18.8, 19.9, 20. 9.	BB8, 18.9, 19.9, 20. 9.	中~良	褐色	BB~3/12 BB~3/12	I-b-1L.
813	AK-J表記 II層	土師器皿 中盤	8.2	3.8	2.1	17.0~18.8, 19.9, 20. 9.	BB8, 18.9, 19.9, 20. 9.	中~良	褐色	BB~4/12 BB~4/12	I-b-1L.
814	AK-L10 II層	土師器皿 中盤	8.7	3.5	1.8	17.0~18.8, 19.9, 20. 9.	BB8, 18.9, 19.9, 20. 9.	中~良	灰白色	BB~3/12 BB~3/12	I-b-2L.
815	AK-J表記 II層	土師器皿 中盤	8.3	4.6	1.7	17.0~18.8, 19.9, 20. 9.	BB8, 18.9, 19.9, 20. 9.	中~良	褐色	BB~3/12 BB~5/12	I-b-2L.
816	AK-N9 I層	土師器皿 中盤	8.6	3.8	1.4	17.0~18.8, 19.9, 20. 9.	BB8, 18.9, 19.9, 20. 9.	中~良	褐色	BB~4/12 BB~3/12	I-b-1L.
817	AK-M10 II層	土師器皿 大盤	12.0	8.6	2.2	17.0~18.8, 19.9, 20. 9.	BB8, 18.9, 19.9, 20. 9.	中~良	褐色	BB~1/12 BB~1/12	I-c-1L.
818	BK-P20 II層	土師器皿 小鉢	7.5	3.8	1.6	17.0~18.8, 19.9, 20. 9.	BB8, 18.9, 19.9, 20. 9.	中~良	灰白色	BB~7/12 BB~8/12	I-a-2L.
819	BK-P20 II層	土師器皿 中盤	9.4	4.2	2.4	17.0~18.8, 19.9, 20. 9.	BB8, 18.9, 19.9, 20. 9.	中~良	褐色	BB~2/12 BB~2/12	I-b-2L.
820	BK-P21 II層	土師器皿 大盤	10.5	5.3	2.2	17.0~18.8, 19.9, 20. 9.	BB8, 18.9, 19.9, 20. 9.	中~良	褐色	BB~2/12 BB~2/12	I-c-1L.
821	9.6年試掘 II層	土師器皿 五三三	23.4	—	—	8~10.8, 16.7, 18.8, 19.9, 20.	BB8, 18.9, 19.9, 20. 9.	良	褐色	BB~1/12	199.8, 88.8.
822	BK-R29 II層	土師器皿 刷毛	21.0	—	—	BB8, 18.9, 19.9, 20. 9.	BB8, 18.9, 19.9, 20. 9.	中~良	灰白色	BB~2/12	148.8~158.8, 88.8.
823	BK-Q20 II層	土師器皿 伊勢型鍋	27.9	—	—	BB8, 18.9, 19.9, 20. 9.	BB8, 18.9, 19.9, 20. 9.	良	灰白色	BB~2/12	149.8~158.8.
824	AK-M11 II層	土師器皿 伊勢型鍋	25.9	—	—	BB8, 18.9, 19.9, 20. 9.	BB8, 18.9, 19.9, 20. 9.	良	褐色	BB~1/12	149.8~158.8.
825	AK-T29 II層	土師器皿 鋸板型	6.8	—	—	BB8, 18.9, 19.9, 20. 9.	BB8, 18.9, 19.9, 20. 9.	中~良	褐色	BB~6/12	BB8, 88.

第86表 鈴田遺跡遺物觀察表(34)

件 固 品 号	出土遺 物	器 種	底 径 (cm)	底 厚 (cm)	形 狀	整 形 · 漆 器		地 土	施 成	色 調	存 在 率 (1/12)	備 考
						直 徑	底 厚					
8.2.6	A区・J.9 直刷	土 漆 器	7.0	—	PFQ.5-16.817.00055	9.9.16.0107+1.56.18 999928.		中小良	深 色	DB- 2/12	8628.9.	
8.2.7	A区・M.15 直刷	土 漆 器	7.4	—	PFQ.5-16.817.00055	9.9.16.0107+1.56.18 999928.		中小良	深 色	DB- 3/12	8628.9.	
8.2.8	A区・J.9 直刷	土 漆 器	10.0	—	PFQ.5-16.817.00055	9.9.16.0107+1.56.18 999928.		中小良	深 色	DB- 1/12	8628.9.	
8.2.9	A区・H.12 直刷	土 漆 器	—	輪形	PFQ.5-16.81655	9.9.16.0107+1.56.18 999928.		良	深 色	漆膜不 能	8628.9.	
8.3.0	A区・H.12 直刷	土 漆 器	—	輪形	PFQ.5-16.81655	9.9.16.0107+1.56.18 999928.		良	深 色	漆膜不 能	8628.9.	
8.3.1	B区・Q.15 直刷	土 漆 器	—	直 筒	PFQ.5-16.81655	9.9.16.0107+1.56.18 999928.		良	深 色	漆膜不 能		
8.3.2	9.6年試 掘 直刷	土 漆 器	3.7	直 筒	PFQ.5-16.81655	9.9.16.0107+1.56.18 999928.		良	深 色	12/12		
8.3.3	A区・M.14 直刷	土 漆 器	3.5	1.3	PFQ.5-16.81655	9.9.16.0107+1.56.18 999928.		中小良	深 色	漆膜不 能		
8.3.4	A区・表 現 直刷	土 漆 器	—	直 筒	PFQ.5-16.81655	9.9.16.0107+1.56.18 999928.		中小良	深 色	漆膜不 能		
8.3.5	A区・M.8 直刷	土 漆 器	12.5	5.8	7.1	8-16.0107.00055.00055 8.16.0107+1.56.18 999928.		良	灰白色	DB- 1/12	8628.8-5-67.	
8.3.6	A区・M.13 直刷	土 漆 器	11.0	5.5	7.1	8-16.0107.00055.00055 8.16.0107+1.56.18 999928.		良	深 色	DB- 1/12	8628.8-9-10.	
8.3.7	A区・L.9 直刷	土 漆 器	9.9	5.4	8-16.0107.00055.00055 8.16.0107+1.56.18 999928.	9.9.16.0107+1.56.18 999928.		良	灰 色	DB- 5/12	8628.8-9-10.	
8.3.8	A区・L.9 直刷	土 漆 器	10.8	4.8	1.9	8-16.0107.00055.00055 8.16.0107+1.56.18 999928.		良	浅 黄色	DB- 5/12	8628.8-10-11.	
8.3.9	9.6年試 掘 直刷	土 漆 器	10.0	5.3	2.6	8-16.0107.00055.00055 8.16.0107+1.56.18 999928.		良	灰白色	DB- 2/12	8628.8-5-68.	
8.4.0	A区・表 現 直刷	土 漆 器	11.4	6.2	2.2	8-16.0107.00055.00055 8.16.0107+1.56.18 999928.		良	灰 色	DB- 2/12	8628.8-10-11.	
8.4.1	A区・L.9 直刷	土 漆 器	12.0	6.4	2.5	8-16.0107.00055.00055 8.16.0107+1.56.18 999928.		良	灰白色	DB- 2/12	8628.8-5-68.	
8.4.2	A区・K.17 直刷	土 漆 器	—	4.5	—	8-16.0107.00055.00055 8.16.0107+1.56.18 999928.		良	灰白色	DB- 12/12	8628.8-9-10.	
8.4.3	A区・表 現 直刷	土 漆 器	9.8	—	—	8-16.0107.00055.00055 8.16.0107+1.56.18 999928.		良	灰白色	DB- 2/12	8628.8-10-11.	
8.4.4	A区・K.12 直刷	土 漆 器	—	5.8	—	8-16.0107.00055.00055 8.16.0107+1.56.18 999928.		良	深 色	DB- 12/12	8628.8-9-10.8628.9.	
8.4.5	9.6年試 掘 直刷	土 漆 器	10.0	—	—	8-16.0107.00055.00055 8.16.0107+1.56.18 999928.		良	浅 黄色	DB- 3/12	8628.8-5-67.	
8.4.6	A区・L.10 直刷	土 漆 器	12.2	—	—	8-16.0107.00055.00055 8.16.0107+1.56.18 999928.		良	灰 色	DB- 2/12	8628.8-11.	
8.4.7	9.6年試 掘 直刷	土 漆 器	35.2	—	—	8-16.0107.00055.00055 8.16.0107+1.56.18 999928.		良	浅 黄色	DB- 3/12	8628.8-12.	
8.4.8	A区・H.9 直刷	土 漆 器	32.6	—	—	8-16.0107.00055.00055 8.16.0107+1.56.18 999928.		良	灰白色	DB- 5/12	8628.8-1-1. 8628.9.8628.10.8628.	
8.4.9	9.6年試 掘 直刷	土 漆 器	11.4	7.2	2.4	8-16.0107.00055.00055 8.16.0107+1.56.18 999928.		良	灰白色	DB- 2/12	8628.8-1-4.	
8.5.0	B区・S.22 直刷	土 漆 器	11.0	4.9	2.5	8-16.0107.00055.00055 8.16.0107+1.56.18 999928.		良	深 色	DB- 2/12	8628.8-1-3.	

第87表 針田遺跡遺物観察表(35)

件 固 番 号	出土遺構	器種	法 規(cm)			整 形・調 査	施 工	燒 成	色 調	残 存 率 (%)	備 考
			口径	底径	高さ						
851	A区・OH II層	9-2ⅡⅢ 灰	36.7	-	-	H-AB. H-BC.	S-AB. S-BC.	良	灰白色	10~1/12	88.48%±8.31%
852	9-2ⅡⅢ 直縫大瓶	25.2	-	-	-	H-AB. H-BC.	S-AB. S-BC.	良	灰白色	10~1/12	88.48%±8.31%
853	B区・P22 II層	9-2ⅡⅢ 天目茶碗	11.9	4.0	6.1	H-AB. H-BC. S-AB. S-BC.	S-AB. S-BC.	良	灰白色	5~5/12 88~12/12	AB. BC. (D)±12.18%±18%
854	B区・S22 II層	9-2ⅡⅢ 天目茶碗	11.7	-	-	H-AB. H-BC. S-AB. S-BC.	S-AB. S-BC.	良	灰白色	10~3/12	AB. BC. (D)±12.18%±18%
855	B区・R20 II層	9-2ⅡⅢ 丸瓶	9.3	4.5	6.2	H-AB. H-BC. S-AB. S-BC.	S-AB. S-BC.	良	褐色	10~6/12 88~12/12	88.48%±8.31%
856	B区・P18 I層	9-2ⅡⅢ 打明器	9.0	2.4	1.4	H-AB. H-BC.	S-AB. S-BC.	良	褐色	10~3/12 88~3/12	88.48%±8.31%

第88表 針田遺跡・東坪之内遺跡・田中浦遺跡石器観察表

件 固 番 号	出土遺構	層位	器種	石 材	來 材	法 規(cm)		成形加工	整形加工	基部加工	刃部 形態	備 考	
						長 さ	幅 厚						
857	A区・S82	I層	有茎石器	赤 土 岩	不明	30.5	13.8	5.0	なし	HP/VB	HP/VB	-	88%
858	A区・P15	II層	四 石 器	赤 土 岩	不明	12.7	13.6	3.3	なし	HP/VB	HP/VB	-	88.48%±8.31%
859	A区・S86	I層	有茎石器	下 石 岩	不明	33.6	18.0	5.6	なし	HP/VB	HP/VB	-	88.48%±8.31%
860	A区・S819	I層	器種不明	珪 岩	横長剥片	44.2	21.4	8.5	HD	HP	-	-	88%
861	A区・S820	I層	打製石斧	6.8±2.8±3	横長剥片	27.7	47.2	9.9	HB/VB	HB/VB	-	横	88%
862	A区・S822	I層	打製石斧	6.8±2.8±3	横長剥片	101.6	36.9	13.5	HB/VB	HB/VB	-	横	88%
863	A区・I-1	I層	打製石斧	6.8±2.8±3	横長剥片	81.0	36.1	17.2	HB/VB	HB/VB	-	横	88.48%±8.31%
864	A区・S831	I層	打製石斧	6.8±2.8±3	横長剥片	112.6	46.0	28.9	HB/VB	HB/VB	-	横	88.48%±8.31%
865	AF-P1493	I層	打製石斧	6.8±2.8±3	横長剥片	88.1	35.7	12.1	HB/VB	HB/VB	-	横	88%。細長い切削痕がある。
866	A区・S81	I層	打製石斧	6.8±2.8±3	横長剥片	116.5	41.0	14.6	HB/VB	HB/VB	-	横	88%。細長い切削痕がある。
867	9-6年試掘 Ⅳ層	打製石斧	6.8±2.8±3	横長剥片	134.3	59.6	17.3	HB/VB	HB/VB	-	横	88%	
868	B区・S845	I層	打製石斧	6.8±2.8±3	横長剥片	96.0	41.9	13.6	HB/VB	HB/VB	-	横	88%
869	A区・I-2	I層	打製石斧	6.8±2.8±3	横長剥片	124.4	45.2	12.2	HB/VB	HB/VB	-	横	88%
870	870-1-111	II層	打製石斧	6.8±2.8±3	横長剥片	101.4	42.6	14.6	HB/VB	HB/VB	-	横	88%。細長い切削痕がある。
871	870-1-111	II層	打製石斧	6.8±2.8±3	横長剥片	79.1	38.5	9.5	HB/VB	HB/VB	-	横	88%。細長い切削痕がある。
872	B区・S846	I層	打製石斧	6.8±2.8±3	横長剥片	82.5	57.1	8.6	HB/VB	HB/VB	-	横	88%
873	873	II層	打製石斧	6.8±2.8±3	横長剥片	64.1	58.2	10.2	HB/VB	HB/VB	-	横	88%
874	874-1-2	II層	打製石斧	6.8±2.8±3	横長剥片	96.3	51.9	17.9	HB/VB	HB/VB	-	横	88%
875	875-C6	II層	打製石斧	6.8±2.8±3	横長剥片	107.1	42.0	14.6	HB/VB	HB/VB	-	横	88%
876	A区・K9	II層	石 器	砾 石 岩	-	78.3	58.2	24.6	-	-	-	-	88.48%±8.31%
877	A区・S834	I層	砾 石 器	砾 石 岩	-	197.0	157.9	65.6	-	-	-	-	88.48%±8.31%
878	A区・I-2	I層	石 器	砾 石 岩	-	249.1	284.4	98.2	-	-	-	-	88%

## Ⅳ 制作技術の記入方法

- ハンマーの種類 : 砂質→S  
 ハンマーの当て方 : 直接打撃→D, 間接打撃→I, 両刃剝離→P  
 直接打撃のハンマーの作法 : 直直→V, 通直→A  
 剥離剝離の作法 : 手のひらの中で石器を保持する場合→H-P, 手からかの固定具を使用場合→M-P

## Ⅴ 記入例

- HD / D : 手一握りで持て直接打撃による平坦な剥離。  
 HD / P : 手のひらの中で石器を保持して行なう両刃剝離による平坦な剥離。  
 HV-B / M-P : 砂質ハンマーの手直直直接打撃による刃出し加工。

第89表 東坪之内遺跡遺物觀察表(1)

序 號 號 碼	出土遺物 名稱	器 種	尺 寸 (cm)			形 狀	測 量	施 工	燒 成	色 調	保 存 率 (%)	備 考
			口徑	底徑	高							
879	AESK10 I層	土 師 器 裏	15.2	-	-	圓錐形, 壁較厚, 細長, 頂部 有孔, 腹部有凹槽, 壁厚約 0.6cm。	198.11m1071-1.56.08 198.11m1072.	中中良	2D點	黑 色	BB- 2/12	黑紅色, 黑 色。
880	BENK34 I層	土 師 器 裏	37.8	-	-	直筒形, 壁較厚, 細長, 頂部 有孔, 腹部有凹槽, 壁厚約 0.6cm。	8.11m1085.65m1086.	良	灰 色	BB- 1/12	14920-15921。	
881	AESX1 I層	土 師 器 裏	16.5	-	-	圓錐形, 壁較厚, 細長, 頂部 有孔, 腹部有凹槽, 壁厚約 0.6cm。	198.11m1071-1.56.08 198.11m1072.	中中良	2D點	BB- 1/12	黑紅色, 黑 色。	
882	AESX1 I層	土 師 器 裏	20.8	-	-	圓錐形, 壁較厚, 細長, 頂部 有孔, 腹部有凹槽, 壁厚約 0.6cm。	198.11m1071-1.56.08 198.11m1072.	中中良	2D點	BB- 1/12	黑紅色, 黑 色。	
883	BENR1 3-4層	土 師 器 裏	17.8	-	-	圓錐形, 壁較厚, 細長, 頂部 有孔, 腹部有凹槽, 壁厚約 0.6cm。	198.11m1071-1.56.08 198.11m1072.	中中良	2D點	BB- 1/12	雙橫紋, 黑 色。	
884	BENR1 3-4層	土 師 器 裏	-	6.1	-	圓錐形, 壁較厚, 細長, 頂部 有孔, 腹部有凹槽, 壁厚約 0.6cm。	198.11m1071-1.56.08 198.11m1072.	中中良	2D點	BB- 7/12		
885	BENR1 1-4層	灰陶器 裏	-	8.1	-	圓錐形, 壁較厚, 細長, 頂部 有孔, 腹部有凹槽, 壁厚約 0.6cm。	198.11m1071-1.56.08 198.11m1072.	中中良	灰 白 色	BB- 5/12	0-53102。	
886	A區-C2 II層	土 師 器 裏	16.5	-	-	圓錐形, 壁較厚, 細長, 頂部 有孔, 腹部有凹槽, 壁厚約 0.6cm。	198.11m1071-1.56.08 198.11m1072.	中中良	2D點	BB- 1/12	黑紅色。	
887	A區-B2 II層	泥 塑 器 耳杯	12.0	-	-	直筒形, 壁較厚, 細長,	8.11m1071-1.56.08 198.11m1072.	良	灰 白 色	BB- 3/12	黑紅色, 黑 色。	
888	B區-F6 II層	泥 塑 耳杯	-	7.9	-	直筒形, 壁較厚, 細長,	8.11m1071-1.56.08 198.11m1072.	中中良	灰 白 色	BB- 3/12	黑紅色, 黑 色。	
889	B區-D6 II層	泥 塑 耳杯	11.1	-	-	直筒形, 壁較厚, 細長,	8.11m1071-1.56.08 198.11m1072.	良	灰 白 色	BB- 1/12	黑紅色, 黑 色。	
890	97年試掘 II層	泥 塑 耳杯	-	-	-	直筒形, 壁較厚, 細長,	8.11m1071-1.56.08 198.11m1072.	良	灰 白 色	試掘不能 辨認。		
891	97年試掘 II層	灰陶器 裏	12.4	6.4	3.8	圓錐形, 壁較厚, 細長, 頂部 有孔, 腹部有凹槽, 壁厚約 0.6cm。	8.11m1071-1.56.08 198.11m1072.	良	灰 白 色	BB- 3/12 BB- 4/12	E-90-0-53102。	
892	C區-G12 II層	灰陶器 裏	-	6.4	-		8.11m1071-1.56.08 198.11m1072.	良	灰 白 色	BB- 3/12	0-53102。	
893	A區-B2 II層	山 茶 葉 裏	17.2	-	-		8.11m1071-1.56.08 198.11m1072.	良	灰 白 色	BB- 2/12	6-75L 8-108L。	
894	C區-F11 II層	山 茶 葉 裏	13.4	-	-		8.11m1071-1.56.08 198.11m1072.	良	灰 白 色	BB- 1/12	7-85L。	
895	B區-F5 II層	山 茶 葉 裏	11.3	-	-		8.11m1071-1.56.08 198.11m1072.	良	灰 白 色	BB- 3/12	9-105L。	
896	B區-D6 II層	灰陶器 裏	15.0	-	-	直筒形, 壁較厚, 細長,	8.11m1071-1.56.08 198.11m1072.	良	灰 白 色	BB- 1/12	E-90-0-53102。	
897	B區-D7 II層	山 茶 葉 裏	12.6	5.5	3.8		8.	良	灰 白 色	BB- 2/12 BB- 4/12	105L。	
898	B區-D7 II層	山 茶 葉 裏	11.7	-	-		8.11m1071-1.56.08 198.11m1072.	良	灰 白 色	BB- 3/12	9-105L。	
899	B區-夷舞 I層	山 茶 葉 裏	-	5.6	-		198.11m1071-1.56.08 198.11m1072.	良	灰 白 色	BB- 12/12	55L。	
900	B區-F6 II層	山 茶 葉 裏	-	7.8	-		198.11m1071-1.56.08 198.11m1072.	中中良	灰 白 色	BB- 3/12	55L。	
901	C區-G12 II層	山 茶 葉 裏	-	7.3	-		198.11m1071-1.56.08 198.11m1072.	中中良	灰 白 色	BB- 3/12	55L。	
902	C區-G12 II層	山 茶 葉 裏	-	7.7	-		198.11m1071-1.56.08 198.11m1072.	中中良	灰 白 色	BB- 3/12	55L。	
903	A區-B2 II層	山 茶 葉 裏	-	6.4	-	圓錐形, 壁較厚, 細長,	8.11m1071-1.56.08 198.11m1072.	良	浅 黄 色	BB- 3/12	65L。	

第90表 東坪之內遺跡遺物觀察表(2)

件 固 品 序 号	出土遺構	器 種	尺 寸 (cm)			整 形 · 調 整	胎 土	燒 成	色 調	殘 存 率 (1/12)	備 考
			口徑	底徑	高						
904	B区·D6 II層	山茶碗 底	—	6.8	—	BBB.109.01008.06.07 7.	BBB.109.01008.06.07 7.	良	灰白色	BB- 1/12	78L
905	B区·F6 II層	山茶碗 底	—	6.8	—	BBB.109.01008.06.07 7.	BBB.109.01008.06.07 7.	良	灰白色	BB- 2/12	78L
906	B区·F6 II層	山茶碗 底	—	4.9	—	BBB.109.01008.06.07 7.	BBB.109.01008.06.07 7.	良	灰白色	BB- 4/12	6-78L
907	A区·B2 II層	山茶碗 底	—	8.3	—	BBB.109.06.07 7.	BBB.109.06.07 7.	中中良	黄灰色	BB- 4/12	BB.68L
908	C区·G12 II層	山茶碗 底	—	5.2	—	BBB.109.06.07 7.	BBB.109.06.07 7.	良	灰黄色	BB- 2/12	98L.68R.
909	B区·F5 II層	山茶碗 底	—	5.8	—	BBB.109.01008.06.07 7.	BBB.109.01008.06.07 7.	良	灰白色	BB- 6/12	7-88L
910	C区·F12 II層	山茶碗 底	—	7.0	—	BBB.109.01008.06.07 7.	BBB.109.01008.06.07 7.	良	灰白色	BB- 2/12	88L
911	B区·D5 II層	山茶碗 底	—	7.2	—	BBB.109.01008.06.07 7.	BBB.109.01008.06.07 7.	良	灰黄色	BB- 2/12	88L
912	B区·F6 II層	山茶碗 底	—	5.8	—	BBB.109.01008.06.07 7.	BBB.109.01008.06.07 7.	良	灰白色	BB- 2/12	88L
913	B区·F5 II層	山茶碗 小底	—	4.0	—	BBB.109.01008.06.07 7.	BBB.109.01008.06.07 7.	良	黄灰色	BB- 1/12	78L
914	A区·B1 II層	土師器底 小底	7.5	5.2	1.4	遺物-1.01007.06.07 BB.109.06.07.06.07. 98L.68R.	BBB.109.06.07 7.	中中良	灰白色	BB- 2/12	8-88L

第91表 田中浦遺跡遺物觀察表(1)

件 固 品 序 号	出土遺構	器 種	尺 寸 (cm)			整 形 · 調 整	胎 土	燒 成	色 調	殘 存 率 (1/12)	備 考
			口徑	底徑	高						
915	B区SK1 1層	山茶碗 小底	—	4.9	—	BBB.109. 7.	BBB.109.01007. 7.	中中良	灰黄色	BB- 3/12	68L
916	B区SK2 1層	山茶碗 底	—	6.7	—	BBB.109. 7.	BBB.109.01007. 7.	良	灰白色	BB- 1/12	5-68L
917	B区SK2 1-2層	山茶碗 底	14.7	—	—		BBB.109.01007. 7.	良	灰白色	BB- 1/12	7-88L
918	B区SK6 2-3層	山茶碗 底	—	5.0	—		BBB.109. 7.	良	灰白色	BB- 2/12	7-88L
919	B区SK8 1層	山茶碗 底	—	5.0	—	BBB.109.01008.06.07 7.	BBB.109.01008.06.07 7.	良	灰黄色	BB- 4/12	7-88L
920	A区SK10 1層	山茶碗 底	—	7.6	—	BBB.109.01008.06.07 7.	BBB.109.01008.06.07 7.	良	灰黄色	BB- 2/12	6-78L.68R.
921	A区SK10 1層	山茶碗 底	12.4	2.8	4.3	BBB.109.06.07. 7.	BBB.109.06.07. 7.	良	灰黄色	BB- 2/12	9-108L
922	A区SK10 1層	山茶碗 底	—	7.6	—	BBB.109.01008. 7.	BBB.109.01008.06.07 7.	中中良	灰黄色	BB- 12/12	58L
923	A区SK10 1層	山茶碗 小底	8.3	4.6	1.5	BBB.109.01008.06.07 7.	BBB.109.01008.06.07 7.	良	灰白色	BB- 2/12	8-98L.68R.
924	A区SK10 1層	山茶碗 小底	8.3	4.6	1.1	BBB.109.01008.06.07 7.	BBB.109.01008.06.07 7.	良	灰白色	BB- 7/12	98L
925	B区PK13 1層	山茶碗 底	—	7.2	—		BBB.109.01007. 7.	良	灰黄色	BB- 3/12	5-68L
926	B区PK13 1層	山茶碗 底	15.4	—	—		BBB.109.01007. 7.	良	灰白色	BB- 1/12	68L.68R.

第92表 田中浦遺跡遺物觀察表(2)

件 番 号	出土遺構	器 種	寸 法 (cm)			質 地 ・ 調 整	施 工	燒 成	色 調	保存 率 (1/12)	備 考
			口径	底径	厚度						
927	B区SD3 Ⅰ層	山茶 碗	—	6.6	—		8.8m214fr-1.504928	良	灰白色	BB- 2/12	T-BL
928	A区・表段 Ⅰ層	山茶 碗	—	7.0	—		998.8m214fr-1.50.08 4328.	良	同上	BB- 2/12	BB.5BL
929	B区・C6 Ⅱ層	山茶 碗	—	5.6	—	BBB.8m214fr-1.504928	8.8m214fr-1.504928	良	灰白色	BB- 2/12	G-BL
930	A区・B2 Ⅲ層	山茶 碗	—	4.2	—	BBB.8m214fr-1.504928 7.	8.8m214fr-1.504928	良	同上	BB- 2/12	T-BL
931	B区・表段 Ⅰ層	山茶 碗 小盤	6.4	3.8	1.4	BBB.8m214fr-1.504928	8.	良	灰白色	BB- 1/12 BB- 2/12	TL
932	B区・E5 Ⅰ層	山茶 碗 小盤	—	5.0	—	BBB.8m214fr-1.504928 7.	8.8m214fr-1.504928	良	灰白色	BB- 6/12	TL

# 図 版



1. 針田遺跡 A区調査前



2. 針田遺跡 A区実掘状況



1. 針田通路B区調査前



2. 針田通路B区完掘状況



1. SB1 · 2 · 3 · 4 · 5完掘状况



2. SB8 · 9 · 10 · 4 · 11完掘状况



3. SB12 · 13 · 14 · 15 · 16完掘状况



4. SB17完掘状况



5. SB18 · 19完掘状况



6. SB24完掘状况



7. SB25 · 26 · 27 · 28 · 29 · 30 · 31完掘状况



8. SB38 · 39 · 50 · 51完掘状况



1. SB20・SD4挖掘状况



2. SB20・21挖掘状况



3. SB23挖掘状况



4. SB32挖掘状况



5. SB29カマド



6. SB32遺物出土状況



7. SB51カマド断面



8. SA1

图版5



1. SB40完掘状况



2. SB43・49完掘状况



3. SB42・44完掘状况



4. SB42完掘状况



5. SB44カマド



6. SB45完掘状况



7. SB46・52・SD2完掘状况



8. SB48完掘状况



1. 東坪之内遺跡・田中浦遺跡調査前



2. 東坪之内遺跡 A 区完掘状況



3. 東坪之内遺跡 B 区完掘状況



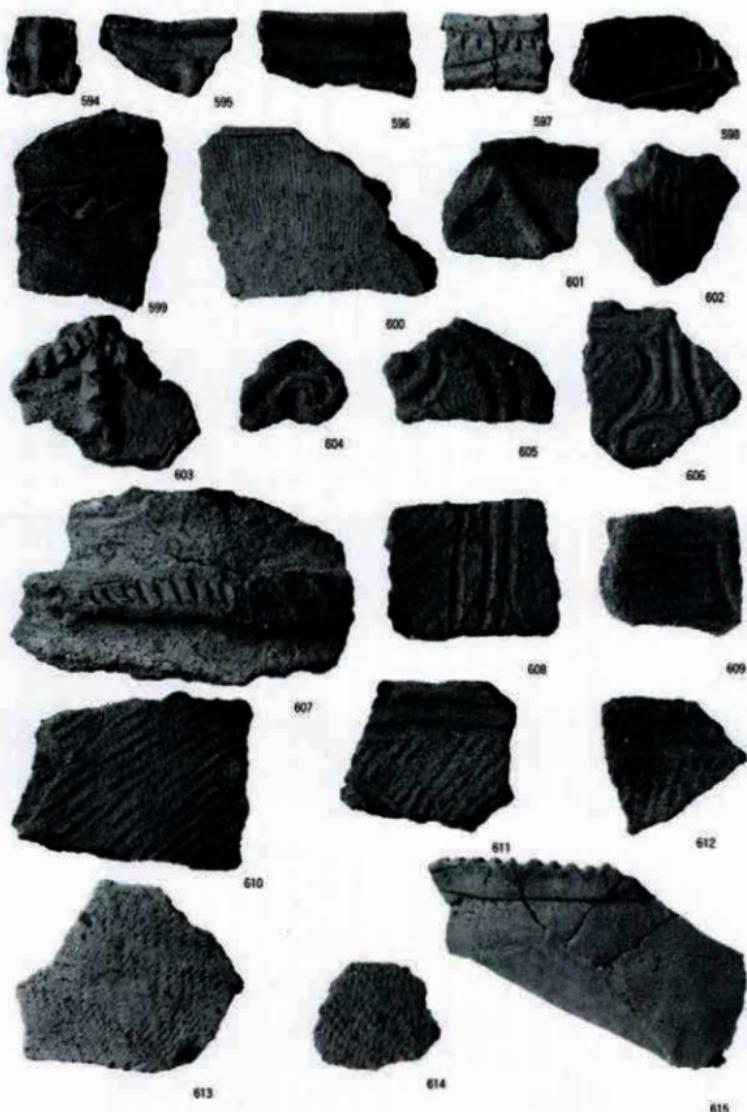
4. 東坪之内遺跡 C 区完掘状況



5. 田中浦遺跡 A 区完掘状況



6. 田中浦遺跡 B 区完掘状況



針田道路出土遺物 (1)



329



333



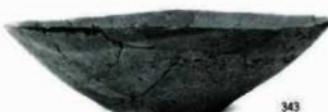
338



337



344



343

針田遺跡出土遺物（2）



340



341



342

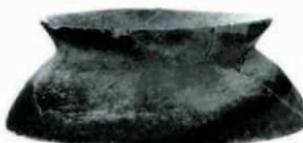


339



153

針田遺跡出土遺物（3）



針田遺跡出土遺物（4）



280



313



314



346



347



350



367



304



366



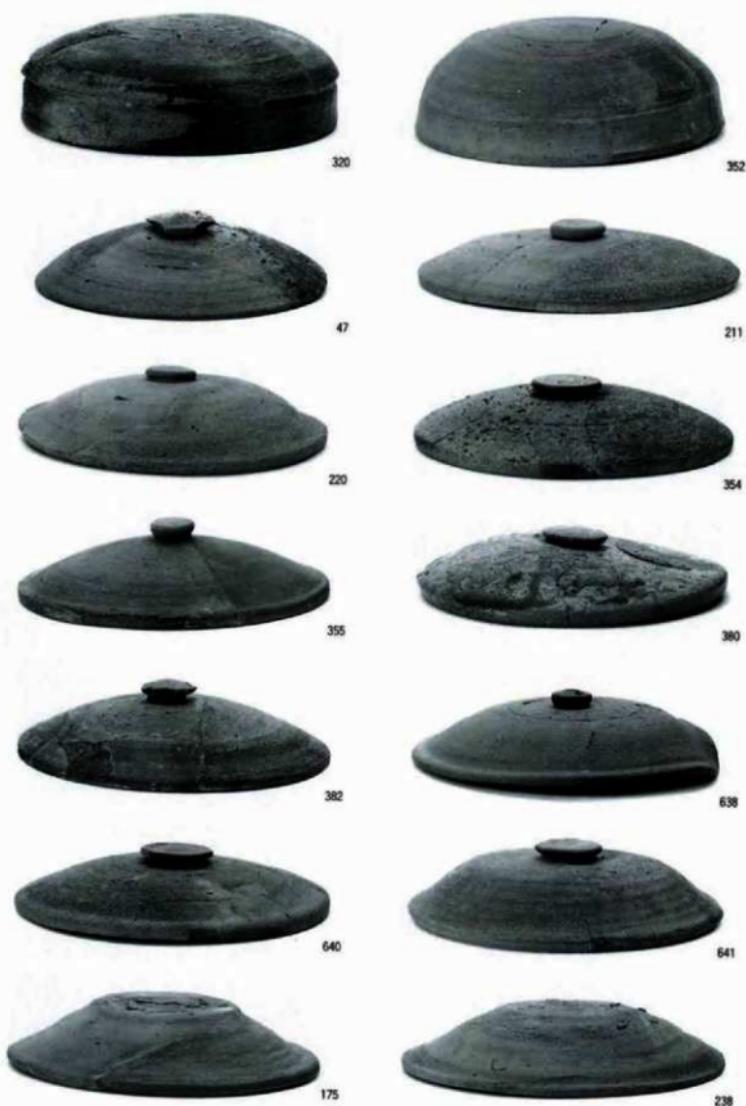
305



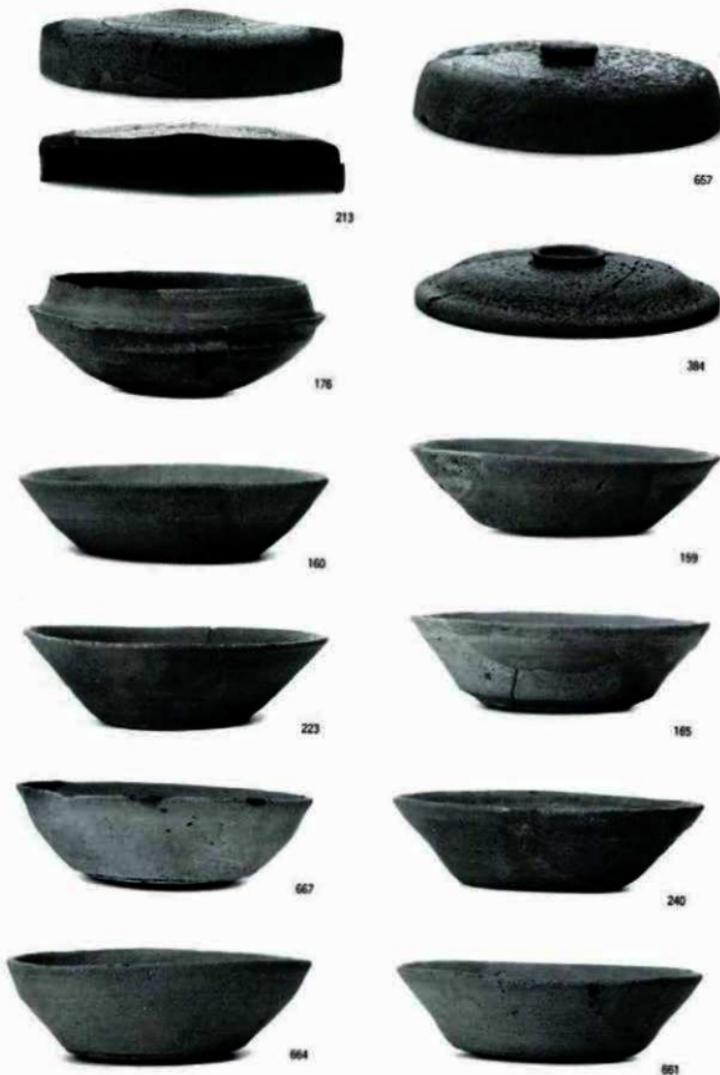
377



372



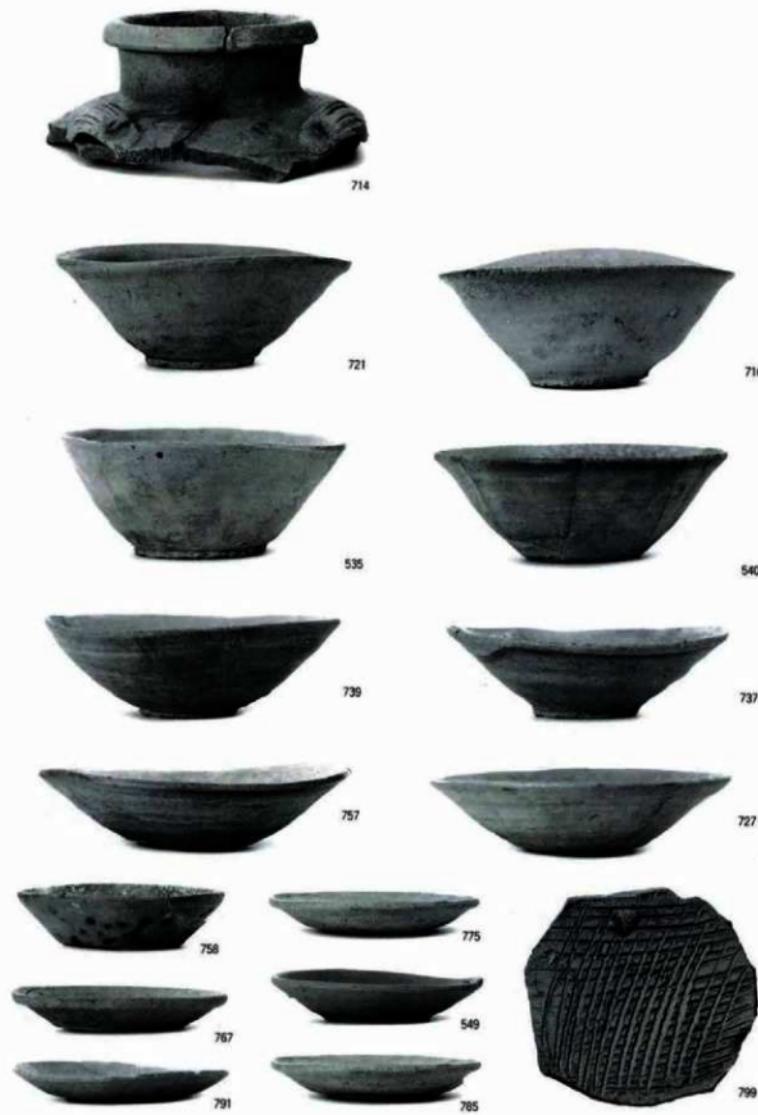
針田遺跡出土遺物 (7)



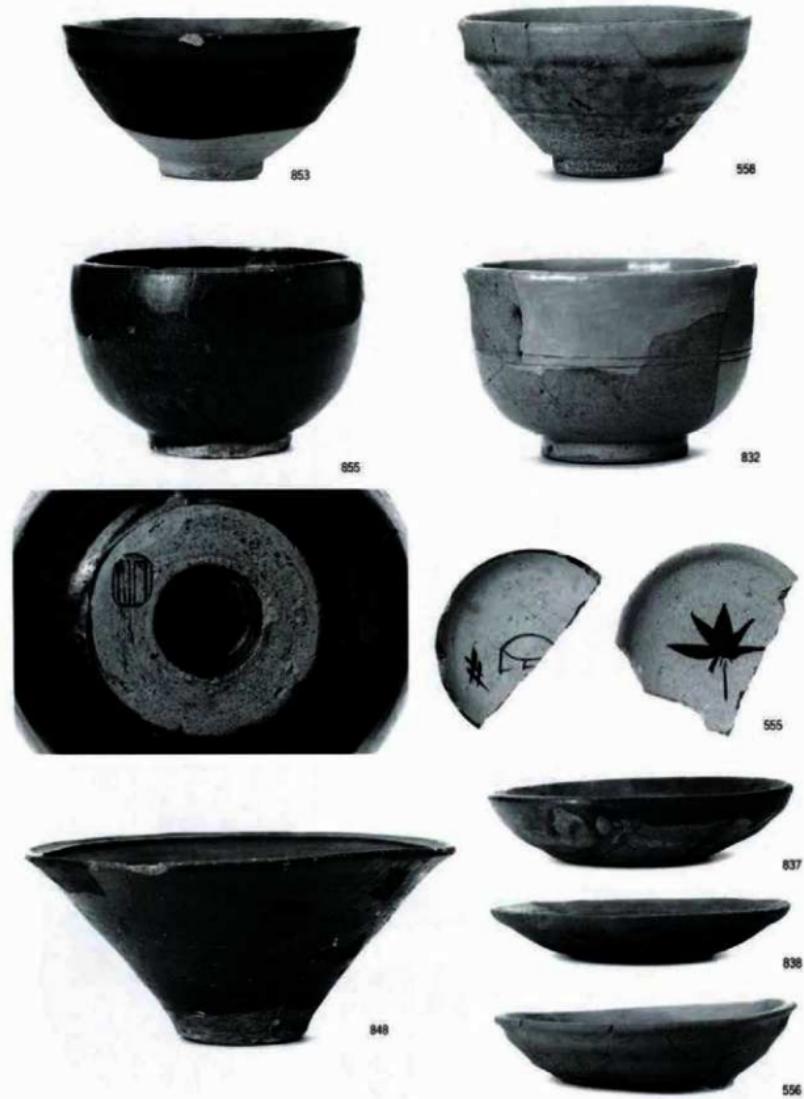
計田遺跡出土遺物 (8)



針田遺跡出土遺物（9）



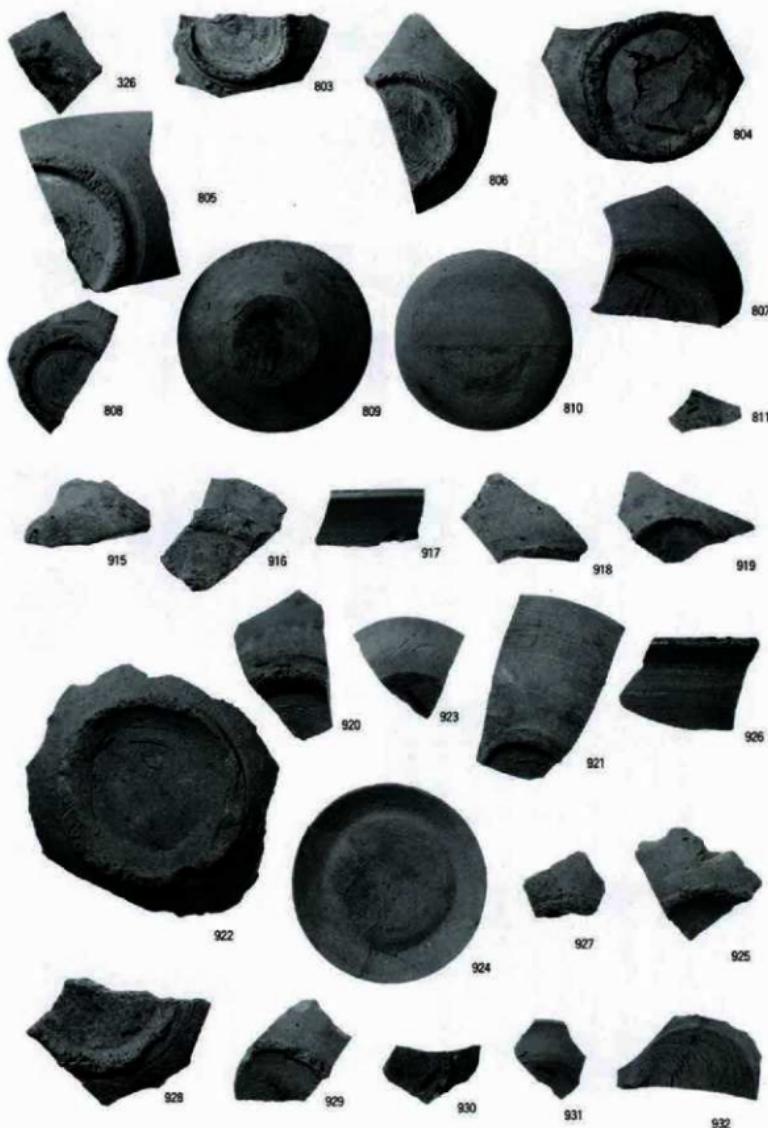
針田遺跡出土遺物 (10)



針田遺跡出土遺物（11）



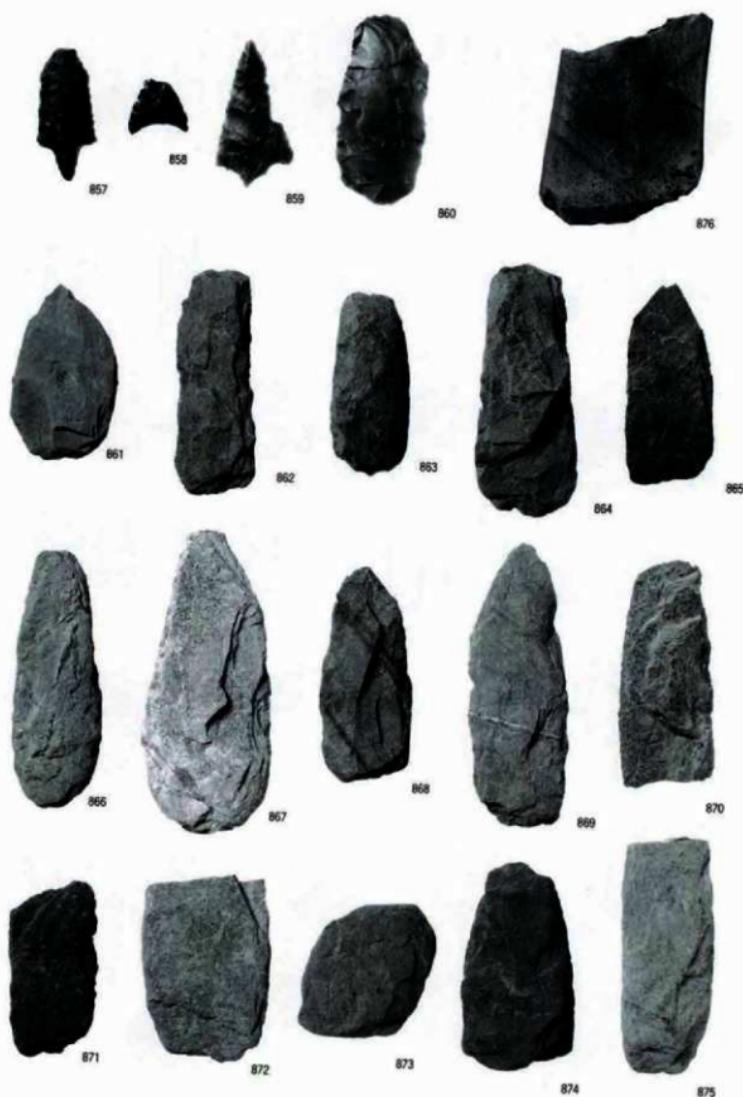
針田遺跡出土遺物 (12)



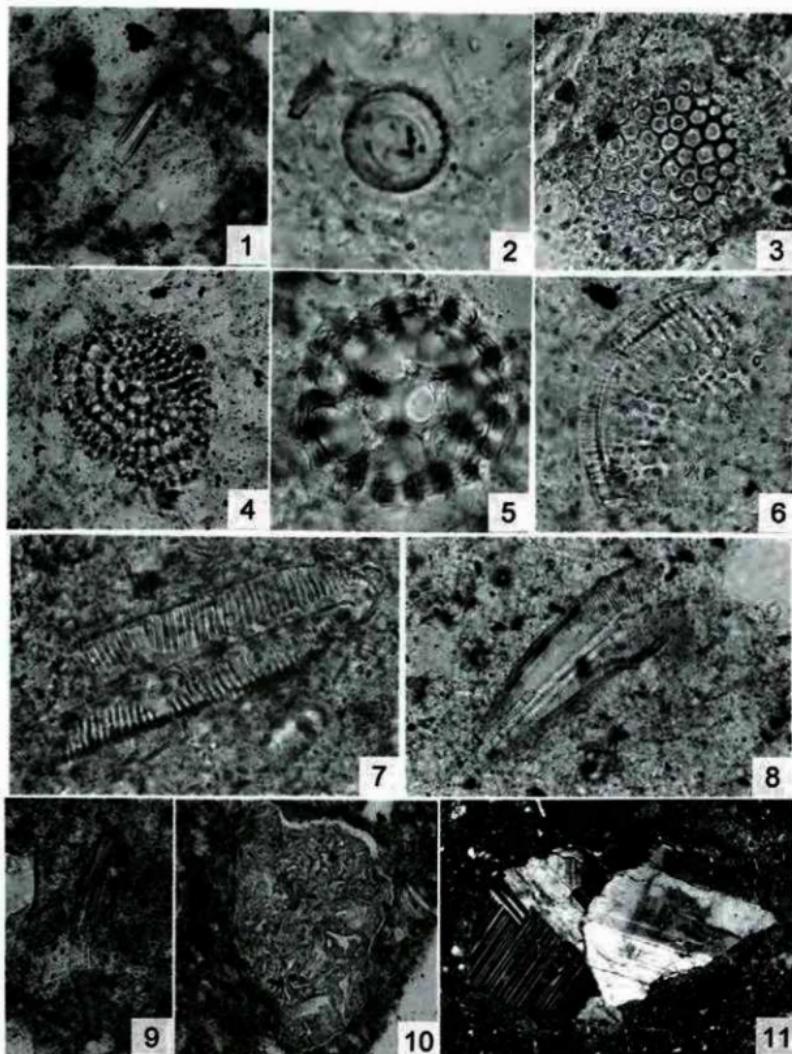
針田遺跡出土遺物(13)〈上〉・田中浦遺跡出土遺物〈下〉



東坪之內遺跡出土遺物



針田遺跡・東坪之內遺跡・田中浦遺跡出土石器



## 製塙土器胎土中の粒子顯微鏡写真

(スケール: 1・4 98/50 μm, 2 8/10 μm, 3・5~7 8/20 μm, 8 8/200 μm, 10 8/100 μm, 11 8/500 μm)

- 1.骨針化石 No.12
- 2.珪藻化石 (海水種 *Coscinodiscus*属/*Thalassiosira*属) No.10
- 3.珪藻化石 (淡水種 *Melosira*属) No.3
- 4.放散虫化石 No.12
- 5.珪藻化石 (*Pinnularia*属) No.7
- 6.珪藻化石 (海水種 *Campylodiscus*属) No.6
- 7.珪藻化石 (*Eunotia pectinalis* var. *undulata*) No.9
- 8.珪藻化石 (*Cymbella aspera*属) No.11
- 9.珪藻化石 (大型) No.10
- 10.凝灰岩質 No.10
- 11.複合石英類 (大型) No.21

## 報告書抄録

ふりがな	はりたいせき・ひがしつばのうちいせき・たなかうらいせき
書名	針田遺跡・東坪之内遺跡・田中浦遺跡
副書名	
卷次	
シリーズ名	岐阜県文化財保護センター調査報告書
シリーズ番号	第70集
編著者名	堀正人 小塙康真
編集機関	財団法人岐阜県文化財保護センター
所在地	〒502-0003 岐阜市三田洞東1-26-1 TEL 058-237-8550
発行年月日	西暦2001年12月25日

ふりがな 所取遺跡名	ふりがな 所 在 名	コード		北緯	東經	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
針田遺跡	岐阜県美濃加茂市下米田町 大字西脇字針田	21211	08748	35° 27' 51"	137° 3' 43"	1997.04.23～ 1999.03.28	4,200m <sup>2</sup>	東海環状自動車道建設 に伴う
東坪之内遺跡	同町大字西脇字東坪之内	21211	08816	35° 27' 45"	137° 3' 45"	1997.12.19～ 1999.03.28	810m <sup>2</sup>	
田中浦遺跡	同町大字西脇字田中浦	21211	08817	35° 27' 44"	137° 3' 47"	1998.10.26～ 1999.03.28	190m <sup>2</sup>	

所取遺跡名	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物	特記事項
針田遺跡	集落跡	古墳～平安 中・近世	堅穴住居 溝 土坑 ピット	50軒 12条 142基 1,091基	绳文土器 土師器 須恵器 灰釉陶器 山茶碗・小皿 土師器皿 古瀬戸・大窯 近世陶器 石器	古墳～平安時代の住居跡 50軒を検出し、当地区の 該期を代表する集落の一 端を明らかにした。第42 号住居跡から出土した古 墳時代前期の遺物は一括 性の高いもので、特に「特 殊器台」は県内でも類例が 少ない遺物である。住居 跡を中心に500点近い製壺 土器が出土し、他地域と の交流を考える上でも注 目される。
東坪之内遺跡	集落跡	古墳～中世	溝 土坑 ピット 自然流路	4条 25基 36基 1条	土師器 須恵器 山茶碗・小皿 奈良火鉢	
田中浦遺跡	集落跡	中世	溝 土坑 ピット	6条 10基 26基	山茶碗・小皿	

岐阜県文化財保護センター調査報告書 第70集

針田遺跡・東坪之内遺跡

田中浦遺跡

2001年12月25日

編集・発行 財團法人 岐阜県文化財保護センター

岐阜県岐阜市三田洞東1-26-1

印 刷 植 谷 印 刷 株 式 会 社